

- 婆阿(ばあ/ばあ:狂歌名)→ 錦江(きんこう・春日部、葉種商/狂歌) H 1 6 8 4
 破鞋子(はあいし) → 江雪(こうせつ;道号・宗立、臨濟僧/詩) K 1 9 1 2
 婆阿上人(ばあしょうにん・桑名屋与左衛門直甫)→ 錦江(春日部) H 1 6 8 4
 阿婆輔(あばすけ・伊勢) → 伊勢阿婆輔(いせのあばすけ、狂歌) I 1 1 7 7
- K3624 **排**(はい・渡辺わたなべ、) 1794 - 1862⁶⁹ 陸奥信夫郡の座敷業、歌人/狂歌、戯文にも長ず、
 嘉永頃;呉服商の枡屋銀五郎(加藤候一/狂歌絵師)と伊勢参宮漫遊、太田南畝と交流、
 2世十返舎一九「奥州一覽道中膝栗毛」四編序執筆(百舌鳥廻舎排名)、齋藤春連の師、
 [排(;名)の通称/号]通称;団七(渡辺団七/塩谷団七)、号;百舌鳥廻舎/鴟屋もずのや、
 屋号;塩谷
- 貝(はい、和漢聯句名) → 資勝(すけかつ・日野/藤原、廷臣/歌人) C 2 3 0 1
 梅(はい・清水/大橋) → 訥庵(とつあん・大橋/清水/酒井、儒者/詩) O 3 1 4 1
 俳阿弥(はいあみ) → 山暎(さんぎょう・川村かわむら、俳人) E 2 0 2 2
 梅阿弥(ばいあみ) → 香以(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0
- 3600 **梅庵**(ばいあん・塩見坂しおみざか)?- ? 江前期江戸料理人:幕府料理人福田家関係に人?、
 料理関係の情報収集/体系化、1668(寛文8)「料理塩梅集」著
- 3650 **梅庵**(ばいあん・木下きのした/初姓;福田、名;建、通称建蔵)?-? 1830-44頃江戸医;父門、儒;拙堂門?
 狂詩;1832「茶菓詩初編」著;静軒跋、1836「江戸名物詩初編」60「干菓詩」、「狂絶忠臣蔵」著、
 1830「本朝水腫方」、「碧水堂医話」「碧水堂提要」「本草経験方攷」「狂歌大全」著、
 [梅庵の字/別号] 字;成美/伯美/立夫、別号;方外道人
- 3651 **梅庵**(ばいあん・西河にしかわ、通尚男) 1814-84⁷¹歳 伊予宇和島藩士;儒者;1847文武世話方となる、
 1848家督継嗣;中之間奉行、蔵目付/蔵役歴任、藩校明倫館塾舎長/教授、文武両道に通ず、
 武術:鏡智流槍術・飯篠流剣道を究める、「梅庵詩文集」著、
 [梅庵(;号)の名/通称/別号]名;通安、通称;喜久之助/謙一、別号;五梅庵/五梅軒
- 梅庵(ばいあん・大村) → 由己(ゆうこ・大村、軍記/連歌・俳人) B 4 6 5 1
 梅庵(ばいあん;号) → 集九(しゅうく;法諱・万里、臨濟僧/詩) H 2 1 1 6
 梅庵(ばいあん・黒川) → 道祐(どうゆう・黒川、藩医/儒者/地誌) 3 1 2 6
 梅庵(ばいあん・山口) → 雪溪(せつげい・山口やまくち、絵師) E 2 4 1 5
 梅庵(ばいあん・山崎) → 闇斎(あんさい・山崎やまさき、垂加流神道) 1 0 3 7
 梅庵(ばいあん・安部) → 春貞(はるさだ・安部あべ、藩士/連歌) J 3 6 5 6
 梅庵(ばいあん・馬屋原) → 野橋(やきつ・馬屋原/木村、医者/俳人) 4 5 4 3
 梅庵(ばいあん・森脇) → 方純(まさずみ・森脇もりわき、藩士/歌人) T 4 0 2 7
 梅庵(ばいあん・中山) → 静安(せいあん・中山/倉光、医・儒者) H 2 4 1 6
 梅庵(ばいあん・鶴原) → 九阜(きゅうこう・鶴原つるはら、藩士/儒者) I 1 6 7 1
 梅庵(ばいあん・児玉) → 金鱗(きんりん・児玉こだま、藩士/儒者/詩) J 1 6 0 9
 梅庵(ばいあん・矢野) → 幸賢(ゆきやす・矢野やの、藩老/国学) H 4 6 4 0
 梅庵(ばいあん・梅津) → 月橋(げつきょう・梅津うめづ、藩士/画) G 1 8 9 5
 梅庵(ばいあん・神野) → 嘉功(よしのり・神野じんの、藩士/武術) F 4 7 9 5
 梅庵(ばいあん・笠原) → 庶康(ちかやす・笠原かさほら、藩士/国学者) M 2 8 3 5
 罽庵(梅庵ばいあん) → 澄彥(ちやういく・天章;道号、臨濟僧) H 2 8 2 3
- 3653 **梅逸**(ばいいつ・山本やまもと、彫刻家山本友右衛門男) 1783-1856⁷⁴ 名古屋の絵師:山本蘭亭/張月樵門、
 のち神谷天遊門、京に住;明・清風の山水花鳥画に長ず/南画家として名声、
 帰郷;1854尾張藩御絵師格に拔擢、詩歌/茶に通ず、
 1821「三時山水書画帖」「山水画帖」画、「含羞草図」「養老山眞景」画、1852「琳琅」著
 [梅逸(;号)の名/字/通称/別号]名;親亮/亮、字;明卿、通称;卯年吉、
 別号;春園/梅佚/玉禅/梅華/梅竹/葵園/梅花道人/天道外史/友竹艸居/玉禅堂、
 白梅居/楽是幽居/梅華佚人、法号;玉禅院

- 3654 **梅員**(ばいゐん・轟々坊ごうごぼう)?- ? 備中松山の俳人;初め談林/のち蕉風、
1692(元禄5)上京;諸家と交流/大阪で舎羅らと一座(吉備中山入)、
1692「吉備中山」、1703「岨そばのふる畑」06「猫筑波集」編、1702轍士「花見車」入、
[ひゞき目もなくて散りけり白牡丹](花見車;111/牡丹はそのまま落る;裂目もなし)
- 3655 **梅隠**(ばいゐん・竹村たけむら)?- ? 江中期和泉の詩人/文武に通ず、病弱、
故郷を出て備前・摂津・京を行脚、柳川三省・河間政胤と交流、1704(宝永元)「西都紀行」著、
[梅隠(;号)の名/字]名;敬、字;忠節
- 3656 **梅陰**(ばいゐん・大黒だいく、名;亀二郎、大黒屋光太夫男)1797-1851⁵⁵ 伊勢より江戸に出商家に入る、
主家の助力で儒者;子弟教育、門人が本所長命寺に碑を建立、「梅陰遺書」編
父 → 光太夫(こうだゆう・大黒屋/1751-1828/船頭・ロシアから帰国)G 1 9 6 8
梅員(ばいゐん・春道、宮崎)→ 梅員(うめかず・春道、宮崎、狂歌) D 1 2 3 6
梅隠(ばいゐん;号) → 竺庵(じくあん;道号・浄印、渡来黄檗僧)Q 2 1 3 2
梅隠(ばいゐん・大橋) → 訥庵(とつあん・大橋/清水/酒井、儒者/詩)O 3 1 4 1
梅隠(ばいゐん・中野) → 元興(玄興げんよ・中野、医者) M 1 8 6 9
梅隠(ばいゐん・上野) → 霞山(かざん・上野うえの、儒者) L 1 5 6 9
梅隠(ばいゐん・尾池) → 松湾(しょうわん・尾池おいけ、藩医/儒/詩)M 2 2 1 4
梅印(ばいゐん;道号) → 元冲(げんちゅう;法諱・梅印、臨濟僧/聯句)L 1 8 1 9
梅蔭(ばいゐん;法名) → 義比(よしとも・牧まき/藤原、官人/記録)F 4 7 0 2
梅隠翁(ばいゐんおう) → 東山(とうざん・蘆野、儒者/詩歌)E 3 1 5 3
梅陰軒(ばいゐんけん) → 宗閑(そうかん・杉岡すぎおか、歌人)G 2 5 6 7
梅蔭斎(ばいゐんさい) → 軍蔵(ぐんぞう・森脇もりわき、神道家/歌)B 1 7 1 3
- J3618 **梅雨**(ばいう) ?- ? 俳人;169不角「昼礫ひるつぶて」入、
[出ぬ咳をせいて行水せぬ娘](昼礫/内ぶところに文入れて居る)
- 3601 **梅宇**(ばいう・伊藤いとう、仁斎2男)1683-1745⁶³ 京の儒者(家学);父門/1704?-17周防徳山藩出仕、
1718-45備後福山藩儒;28年間福山に在住;古義堂の学問を広める、詩人/俳人、
1719(享保4)「韓客唱酬録」32「古学先生講義国字解」38「見聞談叢」、「志林」「遊海抄」著、
「梅宇文稿」「講学日記」「案頭雑記」「雉片股」「授蒙瑣記」「康猷先生文集」「相遺窩詩稿」著、
俳;1730午寂「太郎河」入、詩;「康猷先生詩集」、外著多数、東涯の異母弟
[梅宇(;号)の名/字/諡号]名;長敦/長英、字;重蔵、諡号;康猷先生
- 3657 **梅雨**(ばいう・南村みなみむら)?- ? 江後期日向城ヶ崎の俳人:蝶夢門、
1797蝶夢3忌追善「俳諧久左能香氣」共編(同郷猶璫ゆうきく[1768-1834]と)
- 3660 **梅塙**(ばいう・中村なかむら、名;易張/通称;半内、一炊男)?-? 江後期筑後久留米藩士/儒;程朱学、
詩人、「探索集」「四書字義摘要」著、観濤かんの父
- 3658 **梅塙**(ばいう・荻野おぎの/初姓小野、名;長/董長)1781-1843^{63歳} 幕臣;本所番場に住、
幕府天守番を務める、天台宗に精通;少年時に天台小僧と称される、
「圓悟えんご禅師墨蹟註釈」著、1817筠庭「瓦礫雑考」序、
[梅塙(;号)の字/通称/別号]字;元亮、通称;八百吉、別号;煤塙ばいう/蛇山病夫
- 3659 **梅宇**(ばいう・塩尻しおじり、名;恭、字;小讓、通称;雄右衛門)1804-76^{73歳} 備中岡田藩の儒者:
佐藤一斎門、藩校敬学館教授、書画刀剣鑑定に秀でる、
「梅宇雑抄」、「岡田藩御山方日記」「文蕙琅玕」著、
[梅宇(;号)の別号] 清風楼主人
- J3676 **梅塙**(ばいう・上野うえの、周次男)1832-1909⁷⁸ 大阪の書家;父を継嗣/晋・唐の書法習得、
歌;冷泉為忠門/儒;広瀬旭荘・藤沢東咳門、詩人、
維新後:学校教官/のち私塾開設;典籍を教授、
[梅塙(;号)の名/字/通称]名;熙(ひろむ?)、字;子緝ししゅう、通称;栄次
梅宇(ばいう・伊能) → 穎則(ひでのり・伊能いぬのう、商人/国学/歌)D 3 7 6 5
梅于(ばいう・本島) → 知辰(ちしん・本島、随筆家)E 2 8 4 9
梅塙(ばいう・五井) → 蘭洲(らんしゅう・五井ごい、儒者)4 8 0 5
梅塙(ばいう・沢) → 喬(たかし・沢さわ/味木、藩士/書画)L 2 6 9 6
梅塙(ばいう・前田) → 宗辰(むねとき・前田まえだ、藩主/和学)E 4 2 2 3

- 梅宇軒(ばいうけん) → 闇指(あんし・中村なかむら、藩士/俳人) C 1 0 3 7
- 3661 梅塙散人(ばいうさんじん) ? - ? 女性教訓書;1689「婦人養草やしなぐさ」著
- 梅雲(ばいうん) → 梅岳(ばいがく・海野うんの、高橋/絵師) 3 6 8 6
- 梅雲承意(ばいうんしょうい) → 承意(しょうい;法諱・梅雲ばいうん;道号、臨濟僧) Q 2 2 8 4
- 1695 梅栄(ばいえい) ? - ? 江前期の俳人、
1690不角「二葉之松」4句/92「千代見草」入
[わが妻の跡に隣も産む年子とし] (二葉之松、我が家に続いて隣家も年子;いやお盛ん)
- 3662 梅英(ばいえい) ? - ? 江後期俳人;万里門、
1818(文政元)「十六夜集」編、1820「万里翁家集」校訂
- 梅英(ばいえい;法諱) → 文山(ぶんざん/ぶんさん;道号・梅英、曹洞僧) H 3 8 5 4
- 梅影堂(ばいえいどう) → 定静(さだきよ・富山とみやま/辻、商家/国学) O 2 0 9 1
- 3602 梅園(ばいえん・三浦みうら、名;晋、義一男) 1723-89⁶⁷ 豊後国東郡富永村の祖父の代よりの医者、
儒;16-17歳頃豊後杵築藩儒綾部綱斎・豊前中津藩儒藤田敬所門、のち独学で修学、
1745(23歳)長崎・大宰府・熊本に遊学/1750伊勢の旅/78(56歳)再度長崎旅以外は郷里離れず、
諸藩の招聘も断る/医業・農事・教育・研究に専念、独創的条理哲学樹立、経済論・詩に長ず、
梅園三語;「玄語」「贅語」「敢語」、詩「詩轍」「梅園詩集」、「独嘯集」「梅園叢書」、
「おしへ草」「元熙論」「春遊草」「死生譚」「身生余譚」「愉婉録」「五霊集」外著多数、
[梅園の字/別号]字;安貞/安鼎、
別号;學山れんざん/洞仙/東川/季山/二子山人/無事齋主人、坦齋たんさいの父
- 3663 梅園(ばいえん・堀田ほつた) 1749-1822^{74歳} 尾張名古屋の酒屋/歌人;小沢蘆庵門、
国学者;1789本居宣長・春庭門、「梅園翁文章集」「萩の戸集」著、1817道彦「春風集」入、
[梅園(;号)の名/通称]名;宗則/元矩/梅衛うめひら・うめえ/一叔、通称;半右衛門
- 3664 梅園(ばいえん・秋元あきもと、藩医秋元永定男) 1801-85⁸⁵ 下野喜連川藩士/医;父門/1835儒に転向、
1845(弘化2)翰林院創設時に教頭/藩政参画、儒の外法律・易学に通ず、詩人、
「下野郡括録」「地理沿革考」著、「燈火茗談後集」編、
[梅園(;号)の名/通称]名;与、通称;与助
- 3665 梅園(ばいえん・杉山/榎山すぎやま、名;延・皞よう、字;子長/白華) 1805-44⁴⁰ 尾張藩家老石河家の儒臣、
儒;滄浪門、1837「養浩齋詩稿」編、「読詩吞棗」校、「白華遺稿」
[梅園(;号)の通称/別号]通称;勝善治、別号;不如学齋/不高語、法号;蓮勇院
- 3666 梅園(ばいえん・毛利もうり/野里のさと/修姓;野、毛利房頭男) 1815-82^{68歳} 父は周防右田邑主、
毛利右田家の嫡子となる;1835父との不和で廢嫡、大坂常磐町に住/のち町年寄を勤める、
本草家;物産学精通/動植物の彩色写生画;図譜を描く/古器鑑定に長ず/煎茶を嗜む、
1828「梅園奇賞」34「国朝絵巻考」編/35「写生齋魚品図正」37「野里口伝」著/39「梅園介譜」画、
1839「写生齋梅園禽譜」44「梅園雑話」著、「梅園画譜」「梅園草木花譜」画、外編著画多数、
[梅園(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;武之允、名;元寿/字;嵩年/江元、
通称;四郎右衛門/長軌、別号;写真齋/写生齋/華魁舎かかいしゃ(うめのや?)
- 梅園(ばいえん;道号) → 祖欽(そきん;法諱・梅園;道号、曹洞僧) J 2 5 4 4
- 梅園(ばいえん・北) → 静廬(せいりょう・北きた/鈴木、町人/国学/狂歌) D 2 4 2 3
- 梅園(梅円ばいえん・平野) → 平角(へいかく・平野、商家/俳人) 2 7 1 6
- 梅園(ばいえん・井関) → 美清(よしずみ・井関、藩士/歌人) D 4 7 8 6
- 梅園(ばいえん・中山) → 美石(うまし・中山、国学/歌人) 1 2 8 6
- 梅園(ばいえん・里井) → 孝幹(たかもと・里井、商家/国学) N 2 6 4 2
- 梅園(ばいえん・加藤) → 北溟(ほくめい・加藤/中川、儒者/詩) D 3 9 9 3
- 梅園(ばいえん・白根) → 多助(たすけ・白根/太田、藩士/歌人) E 2 6 7 1
- 梅園(ばいえん・高橋) → 清義(すがよし・高橋たかはし、国学/神学) F 2 3 9 0
- 梅園(ばいえん・高橋) → 富兄(とみえ・高橋、藩士/国学/歌人) O 3 1 8 0
- 梅園(ばいえん・正宗) → 直胤(なおたね・正宗まさむね、国学/俳/狂歌) B 3 2 6 2
- 梅園(ばいえん・前田) → 長畝(ながうね・前田、藩士/詩歌俳) D 3 2 2 5
- 梅園(ばいえん・橋) → 元周(もとぢか・橋たちばな/吉田、幕府医者) D 4 4 0 4
- 梅園(ばいえん) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作者) B 1 1 3 7

梅園(ばいえん・畠山)	→	常操(じょうそう/つねもち・畠山、故実/歌学)	U 2 2 0 3
梅園(ばいえん・品川)	→	藤兵衛(とうべえ・品川、通事/砲術/医)	H 3 1 0 9
梅園(ばいえん・児山)	→	紀成(のりしげ・児山、幕臣/歌/紀行)	E 3 5 6 8
梅園(ばいえん→うめその・堀)	→	槐庵(かいあん・堀ほり、儒者)	I 1 5 3 2
梅園(ばいえん・井関)	→	美清(よしずみ・井関いせき、藩士/歌人)	D 4 7 8 6
梅園(ばいえん・篠沢)	→	辣堂(らつどう・篠沢しのざわ、藩士/経史)	B 4 8 4 7
梅園(ばいえん・新井)	→	政毅(まさかた・新井あらい、歌人/蔵書家)	N 4 0 2 3
梅園(ばいえん・太田)	→	宗喬(むねたか・太田おた、神職/国学)	D 4 2 6 9
梅園(ばいえん・楓井)	→	保定(やすさだ・楓井かえでい、藩士/医/国学)	F 4 5 7 3
梅園(ばいえん・菊池)	→	沖満(おきみつ・菊池さくち、神職/国学)	D 1 4 9 2
梅園(ばいえん・熊野御堂)	→	義路(よしみち・熊野御堂くまのみどう/高、国学)	M 4 7 6 2
梅園(ばいえん・浜田)	→	康次(やすつぐ・浜田はまだ、藩士/文武)	G 4 5 4 4
梅園(ばいえん・佐久間)	→	義隣(よしちか・佐久間さくま、農業/国学)	M 4 7 9 6
梅園(ばいえん;号)	→	実祐(じつゆう;法諱、社僧/国学者)	O 2 1 7 8
梅園(ばいえん・山宮)	→	泰霊(たいりょう・山宮やまみや、真宗僧/歌)	2 7 1 9
梅園(ばいえん;字)	→	日承(にちじょう;法諱・妙雲院、日蓮僧)	3 3 3 9
梅園(ばいえん・鎌田屋)	→	杜水(とすい、俳人)	O 3 1 2 6
梅垣(ばいえん・入間田)	→	一兮(いっけい・入間田いるまだ、俳人)	H 1 1 0 2
梅垣(ばいえん・児島)	→	利涉(としただ・児島こじま、国学者)	V 3 1 1 7
梅園散人(ばいえんさんじん・青木)	→	鷺水(ろすい・青木、俳/浮世草子)	5 2 0 4
梅園祖欽(ばいえんそきん・大野)	→	祖欽(そきん;法諱・梅園、曹洞僧)	J 2 5 4 4
梅園堂(ばいえんどう)	→	都の錦(みやこのにしき、浮世草子)	4 1 3 9
梅園堂(ばいえんどう)	→	彭旭(ほうぎょく・三浦みづら、儒者)	3 9 4 7
梅塙(ばいお・荻野)	→	梅塙(ばいお・荻野、幕臣/天台僧)	3 6 5 8

- 3667 **梅翁**(ばいおう;号・了恵;法諱、梅花翁自咲ししょう先生)1623-8967 美濃加納真宗本願寺派信浄寺2世、連歌;如心門;奥義相伝、俳諧/書に長ず、晩年岩田住、1672(寛文12)「俳諧無言抄」(俳無言)著(三冊子に影響)、「磐田記」著
- 3668 **梅翁**(ばいおう・田尻たじり、名;真言/道足みちたり、通称;才兵衛)1731-180878 筑前福岡藩士/無足組、国学;1789本居宣長門、歌人、梅の絵を描く、1813「女訓孝経」22「女訓孝経教寿」著、「字米之家集」著、歌;本居大平「八十浦の玉」中巻;5首入、[しづたまきしづが馬草のかりそめに逢ひ見し妹が忘れなくに]、(八十浦;449/寄草恋、倭文手纏しづたまき;倭文[しづ綾布]で作った手巻物;しづの枕詞)[梅翁(;)号]の別号] 梅屋(ばいおく)/梅の舎や/梅華山人/八隅山人/大休山人/安閑自適
- 3669 **梅応**(2世ばいおう・山中やまなか、西翁堂2世、初世西翁堂梅応男)1737-8751 京の俳人:父初世門、1763「正法眼蔵」編
- 3670 **梅翁**(ばいおう・皆川みながわ、名;盛貞、字;子恭/恭甫)1794-187582歳 羽後本荘藩士/儒者;篠原鶴汀・太田錦城門、1819広敷番格/21藩主侍講/藩校学頭/56表給人席、「詩林余材」「詩文章自在」「秘笈名物箋」著、[梅翁の通称/別号] 通称;美也吉/辰右衛門、別号;柚顛(うてん)/双巴斎/宗海
- 3671 **梅翁**(ばいおう・本庄ほんじょう/本城/本荘)?-188770余没 備前岡山の儒者/岡山藩老池田伊賀の家臣、のち故あって浪人;備中の旗本妹尾戸川家を経て慶応1865-8頃撫河の戸川家の儒臣、藩士の教育の傍ら私塾を開設、書家;貫名海屋の書風を修学/経史・詩文に通ず、幕末期勤王派と交流;時事を論ず、維新後岡山に帰る、「風窓紀聞;付録備中騒動記」著、☆備中騒動(倉敷浅尾騒動)の立石孫一郎(大橋敬之助)は嘗ての門人、[梅翁(;)号]の名/別号]名;新兵衛/温(;)諱)、別号;梅屋(ばいおく)、古山/半酔
- | | | | |
|-------------|---|-----------------------|-----------|
| 梅翁(ばいおう・西山) | → | 宗因(そういん・西山/西、俳人/連歌) | 2 5 0 3 |
| 梅翁(ばいおう・奥村) | → | 政信(まさのぶ・奥村、絵師/俳人) | F 4 0 6 4 |
| 梅翁(ばいおう;号) | → | 文瑛(ぶんえい;法諱・逸岩;道号、黄檗僧) | E 3 8 8 1 |
| 梅翁(ばいおう・齋藤) | → | 永配(ながとも・齋藤、藩士/歌人) | E 3 2 9 7 |
| 梅翁(ばいおう・並井) | → | 至席(しせき・並井なみい、雑俳点者) | E 2 1 2 8 |

梅翁(ばいおう・平野)	→	平角(へいかく・平野、商家/俳人)	2 7 1 6
梅翁(ばいおう・宮田)	→	南陽(なんよう・宮田、一炊庵、俳人)	3 2 4 7
梅翁(ばいおう・川口)	→	信之(のぶゆき・川口かわぐち、幕臣/国学)	H 3 5 9 9
梅翁(ばいおう・冢田)	→	旭嶺(ぎよくれい・冢田つかた、医/儒者)	P 1 6 4 4
梅翁(ばいおう・川村)	→	碩布(せきふ・川村、商家/名主/俳人)	2 4 1 1
梅翁(ばいおう・野村)	→	外山霞(とやまのかすみ、狂歌作者)	R 3 1 0 3
梅翁(ばいおう・津軽)	→	順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人)	G 4 6 7 1
梅翁(ばいおう・梅沢)	→	能世(よしよ・梅沢うめざわ、製塩/和学者)	L 4 7 7 6
梅翁(ばいおう・片岡)	→	道長(みちなが・片岡かたおか/中村、国学/役人)	I 4 1 6 9
梅翁(ばいおう・川津)	→	眞清(まさきよ・川津かわづ/萩原、神職/国学)	P 4 0 0 3
梅翁(ばいおう・栗原)	→	茂景(しげかげ・栗原くりはら/角井、神職/歌)	O 2 1 3 2
煤翁(ばいおう・近松)	→	狂言堂(きょうげんどう・近松、浄瑠璃/図会/雑俳)	N 1 6 6 7
貝翁(ばいおう・武蔵)	→	石寿(せきじゅ・武蔵むさし、幕臣/博物)	K 2 4 1 5
培翁(ばいおう・栗田)	→	知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人)	P 3 1 3 6
培翁(ばいおう・蔵田)	→	茂樹(しげき・蔵田/藤原、役人/歌人)	Q 2 1 9 1
梅翁軒(ばいおうけん)	→	信武(のぶたけ・馬場、医/儒/書肆)	B 3 5 7 8

- 3672 **梅屋**(ばいおく・松井まつい、元絢げんけん男)1785-1826⁴² 代々陸前仙台の医者;父門、兄玄達早世;家督嗣、儒;高成田琴台門/諸家に従学/江戸で菊地五山・大窪詩仏・柏木如亭と交流、書も嗜む、「澄心堂遺稿」著;妻;岩間乙二おつに女溶々ようよう、養子;妻の弟竹山、
[梅屋(;号)の名/字/通称/別号]名;元輔、字;長民、通称;玄輔、別号;梅花道人
妻 → 溶々(ようよう、俳人) B 4 7 5 9
養子 → 竹山(ちくざん、医者/詩人) D 2 8 0 8
梅屋(ばいおく;道号) → 宗香(そうこう;法諱・梅屋;道号、臨濟僧) B 2 5 3 7
梅屋(ばいおく・小林) → 秋水(しゅうすい・小林、神風館14世/俳) X 2 1 6 9
梅屋(ばいおく・矢野) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、国学) C 1 8 8 4
梅屋(ばいおく・平田) → 甘古(かんこ・平田ひらた、俳人) Q 1 5 3 4
梅屋(ばいおく・坂井) → 茂喬(しげたか・坂井さかい、藩士/詩人) R 2 1 2 1
梅屋(ばいおく・田尻) → 梅翁(ばいおう・田尻たじり、藩士/国学者) 3 6 6 8
梅屋(ばいおく・川喜田) → 遠里(とおさと・川喜田かわきた/芝原、商家/国学) U 3 1 8 2
梅屋(ばいおく・本庄) → 梅翁(ばいおう・本庄ほんじょう、儒者) 3 6 7 1
梅屋(ばいおく・木暮) → 賢樹(かたき・木暮くくれ、医者/国学者) M 1 5 9 2
梅屋(ばいおく・岡野) → 中立(なかつ・岡野おかの、歌人) L 3 2 4 6
梅屋(ばいおく・川名) → 安之(やすゆき・川名かわな、藩士/国学者) F 4 5 7 7
梅屋(ばいおく・宮坂) → 久寛(ひさひろ・宮坂みやさか、商家/国学者) L 3 7 4 3
梅屋(ばいおく・佐々木) → 古信(ひさのぶ・佐々木ささき、藩士/歌人) J 3 7 6 3
煤屋(ばいおく・松井) → 乗運(じょううん・松井/牧野、仏師/歌) V 2 2 2 3
3673 **梅温**(ばいおん[尼]・瑠璃光庵)?- ? 信濃長野権堂の春秋庵系俳人;碓嶺らと交流、1830頃長野檀田の弥勒庵に移住、1851「夕影集」著
3674 **梅香**(ばいか) ? - ? 江前期播磨姫路の俳人;1692才磨「椎の葉」入、
[出づる日にむかふ心の火燧こたつかな](椎の葉;156)
3675 **梅可**(ばいか・白井しらい) ? - 1712 三河国府こぶの富商、俳;只丸/路通と交流、
1699父母の追善集「彼岸月ひがむのつき」(路通と共編;両吟追善歌仙等)、1702轍士「花見車」入、
「ほとゝぎす茶のこもなふて山路哉」(花見車;214/声を賞でる風流の茶菓子もない)、
[梅可(;号)の通称/別号]通称;長右衛門、別号;五老齋
3676 **梅伽**(ばいか・府川ふかわ、山雪堂)?- ? 桶川雑俳/江戸住、興行に冠付を加え1万句を超える盛況、
1711頃中仙道桶川宿に隠退、
1708(宝永5)「仲人口」/09「俳諧千種染」編、「たからの市」「藪の黄金」著
3677 **媒柯**(ばいか・斎藤さいとう)1723?- ? 江中期上総下之郷の俳人;百明と交流、
1812(文化9)「八十とせの賀」編
3678 **梅花**(ばいか・藤堂とうどう/修姓;張、良文男)1770-1844⁷⁵ 伊賀上野藩士、江戸詰/のち浪人;諸国遍歴、

儒：入江北海門/詩文、画、山本北山・大田南畝・京伝らと交流、
 1802絵本「潮来絶句」(潮来節漢訳/北斎挿画：彩色禁制/絶版)、30「老婆心話」著、
 1832「琉球使長歌」、「樂府総扇」「詩韻扇」「韓槎余集」「竜山詩集」「詩話故事考」著、
 [梅花(；号)の名/字/通称/別号]名；良直、字；子基、通称；主計かづえ、
 別号；竜山/如蘭亭/梅花山人/富士唐丸[麿]ふじのからまる(狂名)

3679 **梅俣**(栞俣ばいか・喜多川[北川]きたがわ) 1773-1843 71 京の四条富小路に住；真宗西本願寺医官；
 光暉分如に出仕、参禅；相国寺維明門、俳諧；蘭更門、
 のち伏見納屋町や摂津長柄川辺に移住、晩年帰京、
 「かれを集」編、1808「人生観喜時」編/11「枯魚堂春帖」編・「たかさこまつ」著、12「吳竹集」著、
 1818「久礼当気帖」編/28「枯魚七部集」桑居序、「梅俣翁句集」如柳編、北川祭魚さいぎよの父、
 [御所近し町家の門の春の水]、
 [梅俣(；号)の名/字/通称/別号]名；公香、字；子国、通称；萬象/万蔵、
 別号；枯魚堂/吳竹枯魚堂/伴山/伴山翁/枯魚釣叟

梅窩(ばいか・石) → 永貞(えいてい・石せき、儒者/紀行文) D 1 3 1 8
 梅華(ばいか・山本) → 梅逸(ばいつ・山本やまと、絵師) 3 6 5 3
 梅華(ばいか・中村) → 新斎(しんさい・中村なかむら、儒者) O 2 2 5 1
 梅花(ばいか・西山) → 宗因(そういん・西山/西、俳人/連歌) 2 5 0 3
 梅花(ばいか・平野) → 平角(へいかく・平野、俳人) 2 7 1 6

3680 **梅峨**(ばいが・雪簑庵せつさあん) ?- ? 江後期安藝瀬野の俳人、1841「千種日記」著

3681 **梅鷺**(ばいが・翠柳亭すいりゅうてい) ?- ? 江後期江戸茶番師；愛染連、
 1852愛染連中口上茶番集「茶番頓知論」共催(東雅園蝶喜と)

梅我(ばいが・俳名) → 半四郎(5世はんしろう・岩井、歌伎役者) I 3 6 0 4
 梅我(ばいが・新屋/中川) → 乙由(おつゆう・中川ながわ、俳人) 1 4 2 0
 梅賀(ばいが・多羅尾) → 純門(ひろかど・多羅尾たらお、代官/国学) K 3 7 0 8
 倍賀(ばいが・山県) → 行載(ゆきのり・山県やまがた、藩士/国学者) H 4 6 4 2
 梅海(ばいかい・鯨湖山) → 鯨湖山梅海(げいこさんばいかい、狂詩) D 1 8 4 5

3682 **梅厓**(ばいがい・十時ととき、名；業・賜、字；季長/子羽、通称半蔵) 1732/49-1804 大阪儒者；伊藤東所門、
 伊勢長島藩儒/藩校文礼館祭酒；学制確立、長崎で清人より書画修得、詩文/篆刻に長ず、
 1803(享和3)上田秋成[藤簍冊子つづらぶみ；六 枕の流]に漢文入、
 1805「通俗西湖佳話」訳(；蘇生道人名)、「先遊詩草」「梅厓集鈔」「顧亭書画譜」著、
 「書札文海」「清夢録」著、「梅厓遺草」、
 [梅厓の別号] 梅崖ばいがい/顧亭/碩亭/清夢軒/天臨閣/蘇生道人、法号；和敬院

3683 **梅崖**(ばいがい・加藤かとう、名；穀、蘭睡男) 1783-1845 63 讃岐丸亀藩士の家/儒者；藩校正明館入；
 渡辺柳斎門/江戸昌平覺修学；尾藤二洲・古賀精里門/昌平覺の舎長、
 1827丸亀藩江戸藩邸内の集義館教授、政治加談役/側目付格となる/1835世子の傳、
 程朱学・文章に長ず、「南雲記」「搜芳録」「巡封陽秋」「梅崖文章」「搜芳録」著、
 [梅崖(；号)の字/通称/別号]字；士戩しせん、通称；俊斎、別号；俊翁

K3621 **梅外**(ばいがい・近藤こんどう、) 1807-1885 79 讃岐那珂郡の国学者/歌人；藤井高尚たかなお門、
 [梅外(；号)の通称] 長松/春嶺

3684 **梅外**(ばいがい・長ちよう/本姓；長谷、名；允文、長ちよう従超男) 1810-85 76 豊後日田の僧/儒詩；淡窓門、
 豊前彦山座主の右筆/山僧に講説、能書、嘉永1848-54頃より尊攘運動参加；長州に逃亡、
 長州藩校教授、1872東京に移住、1857(安政4)「梅外詩鈔」(；門人藤河英庸編)、
 「梅外詩話」「梅外随筆」「詩学問津」「左邇録」「左伝彙箋」著、
 [梅外(；号)の字/別号]字；世文、別号；南梁、三洲の父

梅外(ばいがい・小島) → 大梅(だいまい・小島/児島、商家/詩/俳) C 2 6 0 9
 梅岨(ばいがい・渡辺) → 資政(すけまさ・渡辺わたなべ、神職/国学) J 2 3 4 4
 榎涯(えんがい・渡辺) → 敏雄(としお・渡辺、資政男/神職/国学) W 3 1 9 8
 梅街(ばいがい・桂川) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1
 俳諧一切経堂(はいかいいつさいきょうどう) → 才麿(さいまろ・椎本/谷、俳人) 2 0 0 6
 俳諧歌場(はいかいがば) → 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、戯作/狂歌) 4 0 0 1

- 俳諧三味堂 (はいかいさんまいどう) → 土卵(とらん・富とみ、廷臣/洒落本/雑俳) R 3 1 8 1
- 俳諧寺一茶 (はいかいじいっさ) → 一茶(いっさ・小林、俳人) 1 1 2 1
- 俳諧惣本寺 (はいかいそうほんじ) → 高政(たかまさ・菅野谷、俳人) 2 6 1 6
- 梅花一 (ばいかいち・高木) → 義標(よししたか・高木たかぎ、手習師匠、歌) K 4 7 5 3
- 梅華佚人 (ばいかいつじん) → 梅逸(ばいつ・山本やまと、絵師) 3 6 5 3
- 稗海亭 (ばいかいてい) → 柳浪(りゅうろう・馬田うまた/広津、医/戯作者) F 4 9 8 8
- 俳諧堂 (はいかいたう) → 耒耜(らいし・中村なむら、庄屋/俳人) 4 8 5 2
- 俳諧坊 (はいかいぼう) → 百花(ひゃっか・大谷、俳人) 1 3 7 0 1
- 俳諧寮蝙蝠 (はいかいりょうへんぷく) → 白鯉館卯雲(2世はくりかんぼううん・和田、幕臣/狂歌) E 3 6 0 6
- 梅花園 (ばいかえん) → 蓮茵(れんいん、拝郷はいごう、歌人) 5 1 9 1
- 梅花園 (ばいかえん) → 梅間(ばいかん・岡田、俳人) 3 6 8 9
- 梅花園 (ばいかえん) → 忠徳(ただのり・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 6 2
- 梅花園 (ばいかえん) → 蓮茵(れんいん; 法諱、拝郷はいごう、僧/歌) 5 1 9 1
- 梅花園 (ばいかえん) → 千尋(ちひろ・中井なかい、国学者/歌人) N 2 8 1 1
- 萩花園 (ばいかえん) → 十右衛門(じゅうえもん・豊島屋とよしまや、商家/狂歌) W 2 1 7 1
- 梅花翁 (ばいかおう; 号) → 文瑛(ぶんえい; 法諱・逸岩; 道号、黄檗僧) E 3 8 8 1
- 梅花翁自咲先生 (ばいかおうじしゅうせんせい) → 梅翁(ばいおう、真宗僧/俳人) 3 6 6 7
- 梅花屋 (ばいかおく) → 紫陽(しやう・増田ますだ、藩儒/尊攘/詩) G 2 2 4 6
- 3685 **梅客** (ばいかく・市川いちかわ/のち福原ふくはら、市川延嵩4男) ?-1849 越後柏崎の儒者:原松洲/小林翔門、江戸に出て幕臣福原俊平の養嗣子/幕臣;御徒目付/御勘定吟味役、「梅客詩稿」著、[梅客(;号)の名/通称/別号]名;幸雄/居貞、通称;与一郎/忠之進、別号;倩斎せいさい
- 3686 **梅岳** (ばいがく・海野うんの、高橋邦好の長男) 1821-77 57歳 陸中盛岡藩の絵師/勝川法眼藤原雅信門、のち岸岱門、「三十六俳仙像」画、外多数、[海野梅岳(;号)の名/通称/別号]名;邦彦、通称;操、別号;梅雲/永寿堂/象形館/清香庵/画雲楼/梅山人/書画斎、法号;清庵浄円梅岳居士
- 梅岳 (ばいがく・狩野) → 永納(えいのう・狩野、絵師) 1 3 4 4
- 梅岳 (ばいがく・高橋) → 盛的(もりただ・高橋たかはし、絵師/歌人) K 4 4 4 0
- 梅嶽恵香 (ばいがくえこう) → 恵香(えこう; 法諱・梅嶽; 道号、曹洞僧) D 1 3 8 4
- 梅嶽真白 (ばいがくしんぱく) → 真白(しんぱく; 法諱・梅嶽; 道号、黄檗僧) P 2 2 6 2
- 梅花軒三休子 (ばいかけんさんきゅうし) → 三休子(さんきゅうし・上坂/中沢、随筆) M 2 0 0 2
- 梅花居士 (ばいかこじ) → 謙吉(けんきち・天野あまの、藩士/儒詩) I 1 8 4 0
- 梅華山人 (ばいかさんじん) → 梅翁(ばいおう・田尻たじり、藩士/国学者) 3 6 6 8
- 梅花山人 (ばいかさんじん) → 梅花(ばいか・藤堂、儒者/詩人) 3 6 7 8
- 梅花山人 (ばいかさんじん) → 利熙(としひろ・堀ほり、幕臣/海防・交渉) N 3 1 6 2
- 梅花樹林斎 (ばいかじゅりんさい) → 尹祥(まさよし・森/源、幕臣/書家) I 4 0 5 8
- 梅下書屋 (ばいかしよおく) → 守典(もりのり・榊原さかきばら/上田、儒者) G 4 4 2 5
- 梅花書屋 (ばいかしよおく) → 三島(さんとう・篠崎/篠、商家/儒者) E 2 0 6 0
- 梅花書屋 (ばいかしよおく) → 謹斎(きんさい・平元、藩士/儒/軍事) J 1 6 0 0
- 梅華仙史 (ばいかせんし) → 南谿(なんけい・橘/宮川、医者/詩歌) 3 2 3 2
- 梅花長者 (ばいかちやうじゃ) → 斗南(となん・谷たに、医者/詩人) O 3 1 6 3
- 梅下亭 (ばいかてい) → 秀延(ひでのぶ・大田、歌人) 3 7 3 9
- 俳歌堂 (はいかどう) → 仲(ちゅう・酒井さかい、和漢学/狂歌) F 2 8 6 8
- 梅花堂 (ばいかどう) → 三島(さんとう・篠崎/篠、商家/儒者) E 2 0 6 0
- 梅雅堂 (ばいがどう) → ゆき町(ゆきまち・恋川、絵師/黄表紙) F 4 6 6 0
- 梅花堂主人 (ばいかどうしゅじん) → 忠和(ただとも・松平、藩主/天文暦学) Q 2 6 1 6
- 梅花道人 (ばいかどうじん) → 梅逸(ばいつ・山本やまと、絵師) 3 6 5 3
- 梅花道人 (ばいかどうじん) → 五溪(ごけい・宮田みやた、藩儒/詩人) G 1 9 6 5
- 梅花道人 (ばいかどうじん) → 楚州(そしゅう; 道号・如宝; 法諱、黄檗僧) J 2 5 8 4
- 梅花道人 (ばいかどうじん) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7
- 3687 **梅下武士** (ばいかのぶし) ? - ? 江中期江戸市ヶ谷住/狂歌;1787「才蔵集」入

[ほのぼのと東しらげのかんな月かけて箱根にさしのぼるかな](才蔵集;巻七318)

(しら[精]げ・かんな・箱は縁語)

武士八十氏と同一?→ 武士八十氏(もののふのやそじ、安部左内、後万載集入) E 4 4 8 5

梅花仏(ばいかぶつ) → 惟然(いぜん・広瀬、俳人) 1 1 2 8

梅花房(ばいかぼう) → 梅従(ばいじゅう・後藤、商家/俳人) B 3 6 4 9

梅花無尽蔵(ばいかむじんぞう:斎号)→ 集九(しゅうく・万里ぼり、詩人) H 2 1 1 6

梅花老人(ばいかりうじん) → 可大(かだい・栗本くりのもと、俳人) C 1 5 2 9

B3628 梅干(ばいかん) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入

[婚礼の夜を姑女しゅうとめの笑えみ納め](千代見草)

3688 梅貫(ばいかん) ? - ? 俳人;1772几董「其雪影」1句入、

[啼く鹿や昼見た形なりのわすれたき](其雪影;巻尾325/夜声の趣と昼の不格好さとの差)

3689 梅間(ばいかん・岡田おかだ、名;宝/登宝)1773-1849⁷⁷ 尾張名古屋藩士/俳人:士朗門、梅園経営/画、
「風の筋」編/「力草」/「梅花帖」編/「楽しみ草」編/「十かへり前」編、遺稿「梅影集」玄堂ら編
[梅間(;号)の字/通称/別号]字;子善、通称;保十郎/清九郎/半十郎、
別号;張古/梅幹/梅花園、法号;清巖良潔

3690 梅関(ばいかん・菅井すがい、名;智義/岳、知則男)1784-1844自殺⁶¹ 陸前仙台鎮南坊絵師:根本常南門、
のち江戸の谷文晁門、長崎滞留;清人の江塚圃門、一時大阪住/老母・眼病の弟のため帰郷、
画業で生計を立てるが1844(天保15)天保飢饉に窮乏;自殺、養子;門人の田竜

[梅関(;号)の字/通称/別号]字;正卿、通称;善助/岳輔、別号;東斎/梅館、岳梅関

3691 梅礪(ばいかん・森田もりた、名;居敬、三平男)1819-65⁴⁷ 土佐高知藩士/儒者:佐久間象山門/
詩:星巖門、書;巻菱湖門、1854清水浦漂着の清国海南島漁民の長崎護送の訳官、
1843「梅礪初集」、53「海防答問」、「潮江音祠考」、「潮江菅祠問」、「未得御意帖」著、
[梅礪の字/通称/別号]字;簡夫、通称良太郎、別号;紫山樵夫/仏山外史

3692 梅礪(ばいかん・水落みずおち、元簡男)1829-53病氣早世²⁵ 越後柏崎の医者;江戸の昆泰仲門、詩人、
1849(嘉永2)「梅礪居士詩稿」、雲濤の弟

[梅礪(;号)の名/字/通称]名;孝倩(たかつら?)、字;仁祖、通称;八郎

梅関(ばいかん) → 関斎(かんさい・大江?、僧/俳人) G 1 5 2 8

梅関(ばいかん・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7

3603 梅岩(梅巖ばいがん・石田いしだ、権右衛門2男)1685-1744⁶⁰ 丹波桑田郡東懸村の農民/上京;商家奉公、
傍ら独学/1724頃独自で平易な人生哲学[心学]を確立、
1729(享保14)京の車屋町御池上ル東側の自宅で講席を設け無料講説:石門心学の祖、
神・儒・仏による実践道徳;のち門弟堵庵が大成、
1739「都鄙問答」44「齐家論」、「都鄙問答続」、「商家童問答」、「答問集」、「心学秘書」著、
「莫妄想」、「女教訓」、「要訓」、「石田先生語録」著/「石田先生遺稿」、
[文字バカリヲ知ルハ 一芸ナルユヘニ文字芸者ト云フ](都鄙問答)、
[梅岩(;号)の名/通称]名;興長、通称;勘平

3695 梅巖(ばいがん・三井みつい、名;惟明、字;克允/通称;唯吉)?-? 江後期江戸四谷の書家/絵師、
1836「精忠義士画像」著

梅巖(梅龕ばいがん・日下部)→ 順清(じゅんせい・日下部くさかべ/藤原、幕臣/詩人/書) P 2 1 5 3

梅丸斎(ばいがんさい) → 重春(しげはる・柳斎・梅丸斎・滝川・烽山/山口、絵師) C 2 1 8 6

売冠子(ばいかんし) → 二柳(じりゅう・勝見、俳人) D 2 2 2 0

梅閑人(ばいかんじん) → 為山(いざん・関、俳人) 1 1 8 5

梅含堂(ばいがんどう) → 宗室(5世そうしつ・千せん、裏千家8世茶人) H 2 5 6 7

稗官(ばいがん)の五大家;(京の華音・稗史の主要な研究者)

岡白駒おかはつく 松室松峽まつむろしよきやう 陶山南濤すやまなんとう 朝枝玖珂あさえだきゆうか

田中大観たなかたいかん

梅干之助(ばいかんのすけ)→ ほやのすけ・歌川)→ 国長(くになが・歌川、絵師) D 1 7 0 3

梅几庵(ばいきあん) → 松江(しょうこう・山本やまもと、俳人) S 2 2 1 2

梅客(ばいきやく・福原/市川)→ 梅客(ばいやく・市川/福原、幕臣/儒) 3 6 8 5

- 3696 **裴璆**(はいきゅう) ? - ? 渤海大使;平安前期908と920に来日/
大江朝綱と詩の唱和:扶桑集入
- 3697 **梅居**(はいきょ・東海とうかい、名;百邦)?-? 江戸期長崎の唐通事、「東海稿」著、
東海家の先祖は1617渡来の徐敬雲(浙江省出身)/長男徳政が東海氏として1661通詞
梅居(はいきょ・衣笠) → 明親(あきちか・衣笠きぬがさ、藩医/詩歌) D 1 0 5 1
梅居(はいきょ・千家) → 俊信(としざね・千家せんげ、国学者) M 3 1 5 6
梅居(はいきょ・野口) → 道直(みちなお・野口、商人/国学/歌) C 4 1 0 7
- 3699 **俳狂**(はいきょう・遠藤えんどう、名;胤平/通称;清兵衛)1775-1819⁴⁵ 上州高崎藩士/俳人:松露庵門、
「俳諧勸進帳」「井蛙濯腹論」著、[俳狂の別号] 当帰/麦門堂
- 3698 **梅橋**(はいきょう・向陽軒、姓;高津たかつ、名;真宗)?-? 江中期1716-64頃大坂高津の華道家、
立花を得意、1756「攢花雜録」著、
[向陽軒梅橋の通称/別号]通称:四郎兵衛、別号;幽了
梅喬(はいきょう・虎嶺庵) → 葛古(かっこ・小林こばやし、俳人) C 1 5 4 3
梅鏡(はいきょう・赤井) → 忠常(ただね・赤井あかい/源、里正/歌) V 2 6 0 9
梅暁(はいきょう・松平) → 斉民(なりたみ・松平、藩主/詩) H 3 2 5 9
梅暁院(はいきょういん) → 伊予姫(いよひめ・井伊い、藩主室/歌人) J 1 1 8 3
梅橋散人(はいきょうさんじん) → 浚明((まつあけ/まつあきら・山岡、幕臣/国学) J 4 0 6 6
佩玉(はいぎょく・大塚) → 巢南(そうなん・大塚おつか/水落、詩人) I 2 5 6 3
梅玉(はいぎょく) → 歌右衛門(3世うたえもん・中村、初世金沢竜玉、歌伎役/作) 1 2 6 4
梅旭女(はいぎょくじょ) → 梅旭子(うめのあさひこ、すみ、茶屋女将、狂歌) 1 2 9 2
- J3633 **梅吟**(はいぎん・水野みずの) ? - ? 江前期俳人、1681賀子「山海集」入、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[香盆や初子はつねの今日の玉箒](山海集;左31/聞香の句;
香炉を清める羽箒を子日の玉箒たまはうきに見立てる/香盆は香炉を据える台、
万葉4493;家持/初春の初子の今日の玉箒たまはき手にとるからに揺らぐ玉の緒、
玉箒は玉を飾り付けた箒;揺れると鳴る/初子の儀式は唐からもたらされた行事)
- B3600 **梅溪**(はいけい・李り、一怒男)1617-82⁶⁶歳 朝鮮慶尚道の儒者/文禄役に捕縛:紀州藩儒、
「徳川創業記」著、海嶠「南紀風雅集」詩入
- B3601 **梅兄**(はいけい) ? - ? 江前期美作津山の俳人;
1692常牧「冬ごもり」三吟(定政・聴霜と)入
- J3615 **梅荊**(はいけい) ? - ? 江前期俳人1693不角「二息」入
- B3602 **梅景**(はいけい・足立あだち、名;盛至)1835-96⁶²歳 薩摩藩医/洋学校英語教師、
1666「英吉利文典字類」著
- B3603 **梅溪**(はいけい・鏑木かぶらぎ/田中たなか、名;世胤/世融、字;君冑/通称弥十郎)1750-1803⁵⁴ 長崎絵師:
沈南蘋門、花鳥画、江戸で鏑木家の養子、「残雪片水」画
梅径(はいけい・水野) → 福富(ふくとみ・水野みずの、藩士/俳/詩歌) B 3 8 6 3
梅堀(はいけい・片山) → 述堂(じゅつどう・片山かたやま/朝川、儒者) I 2 1 9 6
梅卿(梅溪はいけい・うめさと・宇都宮) → 黙霖(もくりん・宇都宮うつのみや、真宗僧/勤王) J 4 4 0 0
梅溪(はいけい) → 永瑾(えいきん;法諱・雪嶺・臨濟僧/詩) 1 3 2 1
梅[榎]溪(はいけい) → 中和(ちゅうわ・西村/西邨、絵師) H 2 8 0 2
梅溪(はいけい・阿埜) → 則胤(のりたね・阿埜あ/阿部、軍学/天文) F 3 5 0 1
梅溪(はいけい・桑野) → 喜斎(きさい・桑野くわの、医者/詩歌) K 1 6 4 8
梅溪(はいけい・森) → 祐信(すけのぶ・森もり、藩士/兵学者) G 2 3 8 5
梅溪(はいけい・田崎) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
梅溪(はいけい・堅田) → 種知(たねとも・堅田かただ、神職/和漢学/歌) W 2 6 4 9
梅溪(はいけい・無事菴) → 公克(きみかつ・桑野くわの、国学/歌人) U 1 6 2 9
梅溪(はいけい・聴松庵) → 徳経(のりつね・土肥どひ、国学/歌人) J 3 5 2 8
梅溪(はいけい・高見) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4
梅谿(はいけい・橋本) → 真幸(まさき・橋本はしもと、藩士/国学者) R 4 0 7 4
梅溪樵夫(はいけいしゅうふ) → 謙吉(けんきち・天野あまの、藩士/儒詩) I 1 8 4 0

杯月(はいげつ・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1

I3696 梅月(ばいげつ) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」2句入、
[妻の魂たまよせめて居とまれ二七日にしちにち](二葉之松297、二七は14、1690年のことか?)

B3604 梅月(ばいげつ) ? - ? 江前期播磨姫路の俳人;1692才麿「椎の葉」1句入、
[桴士いかだしや腹あてしむるはつ嵐](椎の葉127)

江戸俳人梅月と同一? → 梅月(ばいげつ) I 3 6 9 6

B3605 梅月(ばいげつ・日沢/本姓;源) 1819-83 65歳 陸中盛岡の俳人/藩士か?、
「四季混題発句集」著、日沢清吉(梅二/梅月庵を継嗣)の祖父、
[梅月(;)号)の名/通称/別号]名;清廉、通称;源吾、別号;梅月庵

梅月(ばいげつ・安東) → 貞敏(さだとし・安東あんど、藩士/国学/詩) N 2 0 7 4

梅月(ばいげつ・吉野) → 義巻(よしまる・吉野よしの、名主/歌/国学) Q 4 7 0 9

梅月庵(ばいげつあん) → 坡仄(はそく・野間、俳人) E 3 6 7 7

梅月居(ばいげつきよ) → 鹿谷(ろっこく・勝田かつた、藩儒者/詩) C 5 2 1 5

杯月舎(はいげつしゃ) → 柳条亭(2世りゅうじょうてい・満丸、狂歌) E 4 9 7 2

梅月舎(ばいげつしゃ) → 君雄(きみお・小原おはら、藩士/国学/歌) B 1 6 8 1

梅月堂(ばいげつどう) → 閑酔(閑水かんすい、雑俳書撰者) D 1 5 9 8

梅月堂(ばいげつどう・香川) → 宣阿(せんあ・香川、歌人) 2 4 2 2

梅月堂(2世ばいげつどう・香川) → 景新(かげちか・香川/宣阿男、歌) K 1 5 9 9

梅月堂(3世ばいげつどう・香川) → 景平(かげひら・香川/景新男、歌) L 1 5 2 7

梅月堂(4世ばいげつどう・香川) → 景柄(かげもと・香川、景平養嗣/歌) 1 5 1 1

梅月堂(5世ばいげつどう・香川) → 景嗣(かげつぐ・香川、景柄養子/歌) E 1 5 9 7

梅月堂(ばいげつどう・香川) → 景樹(かげき・香川、一時景柄養子/歌) 1 5 1 2

梅月堂(ばいげつどう・菅沼) → 斐雄(あやお・菅沼、一時景柄養子/歌) B 1 0 5 8

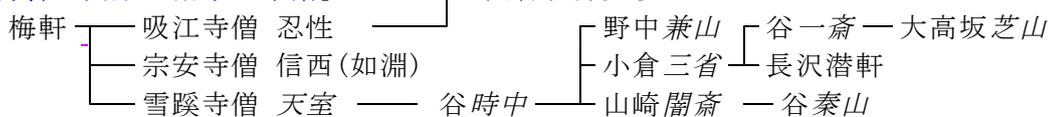
梅月堂梶人(ばいげつどうかじんど) → 谷峨(初世こくが・梅暮里、洒落本) 1 9 2 6

佩弦(佩絃はいげん・長井) → 旌峨(せいが・長井/永井ながい、詩文) H 2 4 6 8

佩絃(はいげん・長野) → 芳斎(ほうさい・長野/月形、藩士/儒者) 3 9 8 4

B3606 梅軒(ばいけん・南村みなむら/なんそん、別号;離明翁) ?-? 戦国期周防の儒者;山口の大内義隆に出仕、
のち天文1532-55末頃土佐弘岡の吉良峰城主吉良宣経のぶつねに出仕で朱子学を講義、
さらに儒仏一致を主唱;南学の濫觴/のち谷時中により大成、
宣経没後周防に帰り大内義長に出仕/義長が毛利に敗北し自刃;
周防吉敷郡上宇野郷白石に隠棲;没、「三十六策問」著、

[梅軒の門弟と南学の系譜]



B3607 梅軒(ばいけん・木村きむら、宗心男) 1702-53 52歳 曾祖父木村宅馬は豊臣秀頼の家臣、
次姉の夫の荻生北溪宅に寄寓;その縁で儒者:荻生北溪・徂徠門、
官命により1728(享保13)「七経孟子考文補遺」著、病弱;40歳で失明、詩人/子弟教育、
[梅軒(;)号)の名/字/別号]名;晟、字;得臣、別号;玉函

B3608 梅軒(ばいけん・荻野おぎの、宗庵男/本姓;源) 1702-77 76 大阪の医者:1726師に随い加賀で施術/開業、
晩年京に移住、「急求要方」著、元凱げんがいの父、
[梅軒(;)号)の名/字/諡号]名;正立/孟平、字;如卓、諡号;正義

B3609 梅軒(ばいけん・藤江ふじえ、竜山の長男) 1758-1823 66 播磨竜野藩の儒者;父門/1798(寛政10)家督嗣、
竜野藩儒官;股野順軒と共に藩内の文教に尽力、藩校設立を請願;実現を見ずに没、
詩文に長ず、「梅軒瑣言」著
[梅軒(;)号)の名/字/通称/別号]名;惟孝、字;克施、通称;貞蔵/松之助、別号;岱山

B3610 梅軒(ばいけん・田内たうち、名;啓/通称;米三郎よねさぶろう) ?-? 江後期京の陶磁研究家、
1848(嘉永元)「度量徴」/54-55「陶器考」著

B3611 梅軒(ばいけん・菊池きくち、西臯男) ?-? 江後期紀州和歌山藩の儒者、
父より祖父衡岳の遺稿を受領;1822(文政5)「衡岳先生思玄亭遺稿」完成、

1851父西皐著「済勝余興」編、「攬轡集」「猷芹」著、「東皐琴譜」校訂、三溪の父、
[梅軒(；号)の名/字/通称]名；遷/善、字；善甫ぜんすけ/遷甫、通称；角右衛門

- J3655 梅軒(ばいけん・) ? - ? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、畠山常操(じょうそう、剃髮号；梅軒/1770-1840)と同一？、
[うつせみのねにのみなくは契りしもむなしきからのなげきなりけり]、
(大江戸倭歌；恋1598)

[武蔵野のはてなきとこそ思ひしか富士の高嶺ぞ限なりける](同；雑1678)

- B3612 梅軒(ばいけん・佐藤さとう、憲令の長男)1826-93⁶⁸ 羽後亀田藩士、儒；父門/大平亀陰門、
1841江戸遊学；安積良斎・萩原緑野門、帰郷；1844藩校長善館副学正/学生、
藩主岩城隆政・世子隆邦の侍講/1861(文久元)隆邦藩主となり家老；藩政に参画、
維新後；藩権大参事、私塾開設；子弟教育、
「城制大意」「読正統日本外史」「梅軒詩鈔」著、
[梅軒(；号)の名/字/通称/法号]名；憲欽のりよし、字；元謨、通称；勘解由、法号；孤山院

梅軒(ばいけん・小平)	→ 元禎(もとさだ・小平、詩人)	C 4 4 5 4
梅軒(ばいけん・高橋)	→ 至時(よとき・高橋、幕臣/暦算)	E 4 7 8 6
梅軒(ばいけん・松岡)	→ 辰方(ときかた・松岡/丹比たじひ、故実家)	J 3 1 0 4
梅軒(ばいけん・駒井)	→ 乗邨(のりむら・駒井、藩士/国学/俳人)	F 3 5 9 5
梅軒(ばいけん・北)	→ 可継(よしつぐ・北きた、藩家老/詩文)	E 4 7 6 6
梅軒(ばいけん・中西/小林)	→ 秋水(しゅうすい・小林/中西、俳人)	X 2 1 6 9
梅軒(ばいけん・岩瀬/小野)	→ 清春(きよはる・菱川、絵師)	Q 1 6 1 7
梅軒(ばいけん・畠山)	→ 常操(じょうそう/つねもち・畠山、故実/歌学)	U 2 2 0 3
梅軒(ばいけん・本間)	→ 百里(ひゃくり・本間ほんま、藩士/故実家)	E 3 7 8 4
梅軒(ばいけん・柳川)	→ 調興(しげおき・柳川、藩士/歌)	Q 2 1 7 0
梅軒(ばいけん・吉田)	→ 竹窓(ちくそう・吉田、藩士/儒者)	D 2 8 3 6
梅軒(ばいけん・大林)	→ 正修(まさなが・大林おおばやし/源、藩士/国学)	O 4 0 4 1
梅軒(ばいけん・増山)	→ 遷永(ゆきなが・増山ますやま、御師/国学)	H 4 6 2 6
梅軒(ばいけん・三宅)	→ 古城(ふるき・三宅みやけ、国学者/歌人)	I 3 8 7 3

- B3613 梅彦(ばいげん・松園しょうえん) ? - ? 戯作者/人情本；三亭春馬門、
1839-61「多気競たけくらべ」8-10篇、1844-?「春秋二季種しゅんじゅうふたきぐさ」3-5編
佩弦園(はいげんえん) → 四明(しめい・井上/戸口、藩儒) F 2 1 8 3
佩弦斎(はいげんさい・青山) → 延光(のぶみつ・青山、儒者) D 3 5 4 9
佩弦老人(はいげんろうじん) → 勝剛(しょうごう；道号・長柔；法諱、臨濟僧) I 2 2 7 9

- B3614 梅湖(ばいこ) ? - ? 江前期俳人；1693?幸佐「一番船」滑稽和漢入

- B3615 梅戸(ばいこ・又筵斎ゆうえんさい) ? - ? 江中期江戸の俳人・2世青峨・米仲と交流、
1755(宝暦5)「八十賀」編

梅峠(ばいこ・嶺りょう) → 梅山(ばいざん・山領やまりょう、藩士/儒者) B 3 6 3 0

- B3616 梅後(ばいご・牧山まきやま、三四坊) ? - ? 江後期大坂天満鈴鹿の俳人、1848「月しぐれ」編

梅故庵(ばいごあん) → 狙山(そざん；号、商家/俳人) J 2 5 7 7

拝豪(ばいごう・宮西) → 邦維(くにしげ・宮西みやにし/藤原/宇治部、神職/国学) E 1 7 5 6

- J3619 梅香(ばいこう) ? - ? 俳人；雑俳/1703不角「広原海わたつみ」入

- B3617 梅岡(ばいこう・松村まつむら、名；延年/字；子長/通称；多仲)1710-84 江戸駒込の儒者/詩；平野金華門、
徂徠学を主唱；初め盛唐詩風を主張したが晩年は晩唐に变ず、「玉壺楼詩集」「梅岡詩集」著、
「梅岡文集」「北越奚囊」「詩燈」、1772「紫海紀行」76「梅翁詩草」78「紫海集」外著多数、

- B3618 梅香(ばいこう；法諱) ? - ? 江後期曹洞僧；千丈実巖の孫弟子、
1801刊「幽谷余韻抄」編

- B3619 梅好(ばいこう・2世鶴廼屋つるのや、姓；今堀) ? - ? 江後期大坂内平野町の狂歌作者；大江戸風社中、
1831「狂歌式本風土記」32「狂歌五百題集」34「住吉詣狂歌集」36「花鳥余情」編、
1839「狂歌夜行百題集」41「狂歌土佐日記抄」45「狂歌春秋集」53「五色題狂歌集」編、
1858「昼夜行事狂歌集」、「いつひらの花」「今様人物題狂歌集」「狂歌浪花集」編；外編著多数、
[2世鶴廼屋梅好(；号)の通称/別号]通称；米屋よねや長兵衛、別号；窓廼屋/北窓

- 梅好(ばいこう・白縁斎、狂歌)→ 白縁斎梅好(はくえんさいばいこう、書肆) C 3 6 7 0
 梅幸(ばいこう・音羽屋) → 菊五郎(初世きくごろう・尾上、歌伎役/俳人) 1 6 0 7
 梅幸(2世ばいこう) → 菊五郎(2世きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 0 7
 梅幸(3世ばいこう) → 菊五郎(3世きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 9 5
 梅幸(ばいこう・扇屋) → 菊五郎(4世きくごろう・尾上、歌伎役/合巻) F 1 6 1 8
 梅紅(ばいこう・長谷川) → 雪堤(せつてい・長谷川/後藤、絵師) E 2 4 6 1
 梅臯(ばいこう・前田) → 斉泰(なりやす・前田、藩主/謡曲) E 4 0 3 8
 梅巷(ばいこう) → 槐陰(かいいん・岡崎おかざき、儒者) I 1 5 3 7
 梅江(ばいこう・福住) → 世貞(つぐさだ・福住ふくずみ、商家/歌人) G 2 9 2 5
 梅江(榎江ばいこう・稲津)→ 祇杖(ぎじょう・稲津いなづ、俳人) K 1 6 9 6
 培公(ばいこう・河村) → 益根(ますね・河村、秀根男/儒・国学者) J 4 0 1 2
 梅香庵(ばいこうあん) → 友益(ゆうえき・渡辺、歌人) 4 6 7 1
 梅香庵(ばいこうあん) → 貴速(たかはや・松原まつばら/山県、藩士/神職/歌俳人) Z 2 6 6 2
 梅香園(ばいこうえん) → 花石(かせき・羽室はむろ、通称芳蔵、俳人) M 1 5 6 6
- B3620 梅香園守近(ばいこうえんもりちか、中島)?-? 大阪檜垣連狂歌、1859「狂歌類題真木柱集」編
- B3621 佩香園蘭丸(はいこうえんらんまる、清水長義、通称万兵衛/利兵衛)?-? 京狂歌判者、
 1820「しのふすり」/45「狂歌百題慶賀集」/48「狂歌秋の寝覚」編、「狂歌桂の於母影」著、
 [佩香園蘭丸の別号] 伊勢廼屋、 佩香園蘭丸2世は門人住江松丸が継承
- 梅江斎(ばいこうさい) → 元朝(もととも・岡本、藩士/日記) D 4 4 3 3
- K3682 梅好子(ばいこうし;号・松前まつまえ、名;さを/佐尾子、土橋武則女) 1702-63 江戸の歌人、
 蝦夷松前藩6代藩主の松前邦広くにひろ(1705-43)の側室/のち継室、
 長男資広(1726-65/7代藩主)の母
- 梅江舎(ばいこうしゃ) → 祇杖(ぎじょう・稲津いなづ、俳人) K 1 6 9 6
 梅後園(ばいごえん) → 沾耳(せんじ・洗耳せんじ、俳人) F 2 4 7 6
- B3622 梅谷(ばいこく:道号・元保:法諱)?-1593 臨濟僧:寿林元彭門、1582南禅寺264世、
 1578「三千句」編、1592二条御所倭漢聯句に参加
- I3697 唄国(ばいこく) ? - ? 江中期江戸俳人;沾洲座点者、1754竹翁「誹諧童の的」点句入
- B3623 梅谷(ばいこく:法諱) ? - ? 江中期京の真宗僧/靈光寺住職・1791学林で講義、
 「五帖消息纂註」著
- B3624 梅谷(ばいこく・正木まさき、時直の長男) 1781-1865 尾張名古屋藩士/1793出仕;側大寄合支配、
 儒;藩校で冢田大峯門、1812藩校明倫堂典籍見習/のち教授/督学/書物奉行、61御徒頭格、
 「梅谷詩鈔」「明倫堂典籍秘録」著、
 [梅谷(;号)の名/字/通称]名;時宏、字;達夫、
 通称;源太郎/右衛門八えもはち/三郎右衛門/三郎兵衛、法号;清廉院
- 梅谷(ばいこく;号) → 方巖(ほうがん:道号・祖永:法諱、臨濟僧/煎茶) 3 9 3 5
 梅谷(ばいこく・岡部) → 四溟(しめい・岡部おかべ、幕臣/漢学/詩) F 2 1 8 6
 梅谷(ばいこく・森崎) → 是空(ぜくう・森崎もりさき、吏員/俳人) K 2 4 5 6
 梅国(ばいこく;号) → 実貫(じつかん;法諱、真言僧/詩人) U 2 1 5 4
 梅谷庵(ばいこくあん) → 是空(ぜくう・森崎もりさき、吏員/俳人) K 2 4 5 6
 培根堂(ばいこんどう・井上)→ 桐斎(とうさい・井上、儒/国学者) E 3 1 2 9
 培根堂(ばいこんどう・栗田)→ 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) P 3 1 3 6
- B3625 梅左(ばいさ・松井まつい、通称;河内屋茂兵衛)?-? 大阪の書肆;群玉堂河内屋の一族、
 俳人:樗良の道統、道彦門、1834「浪速俳諧系譜」編、1838「松のしをり」/40「ふくるま集」編、
 1841「俳諧文章車」1842「竹のしけり」編、「俳人手翰帖」編、
 [梅左の別号] 梅佐坊/亀墻きしょう/無為庵/松生
- 杯斎(はいさい・中村) → 八兵衛(はちべえ・初代中村宗哲、千家塗師) J 3 6 4 3
- B3626 梅斎(榎斎ばいさい・吉田よしだ/修姓;田)?-? 上州の篆刻家;諸国歴遊/越後に8年滞在/江戸住、
 1845(弘化2)「越後人物誌」編/50(嘉永3)「越海漁篷」著
- 培斎(ばいさい・林) → 櫻字(ていう・林、儒官/詩人) 3 0 3 1
 梅斎(ばいさい・神代) → 名臣(あきおみ・神代かみしろ、医/国学者) D 1 0 3 0

- 梅齋(ばいさい・高久/秦) → 隆古(りゅうこ・高久たかく/秦/川勝、絵師) D 4 9 7 0
 梅齋(ばいさい・山多) → 春思(しゅんし・山多/山田やまだ、俳人) J 2 1 8 4
 売菜翁(ばいさいおう) → 園村竹(そのむらたけ、多田敏包、狂歌師) E 2 5 1 7
 梅朔(梅作ばいさく・岩瀬) → 京水(きょうすい・山東さんとう、絵師) S 1 6 0 3
 梅佐坊(ばいさぼう) → 梅左(ばいさ・松井、俳人) B 3 6 2 5
- B3627 梅山(ばいざん) ? - ? 江前期雑俳点:冠付選句、1698調和「洗朱あらいしゅ」入、
 1702「小倉付」:もみぢ笠入、「江戸雀」入
- B3629 買山(ばいざん・曾根そね、名;忠太夫/通称;弥左衛門)?-1704 伊賀上野藩士;藩主藤堂良長の家臣、
 晩年仏門に入る、俳人;蕉門/1694「炭俵」1句・98「続猿蓑」1句入、
 [はつ雪や堀への崩れの蔦の上] (炭俵;下巻雪/蔦紅葉に雪)
- B3630 梅山(ばいざん・山領やまりょう・やまみね/修姓;嶺、佐野常置[仲庵]3男) 1756-1823 68 藩士山領言利の養子、
 肥前佐賀藩士;藩主鍋島齊直に出仕、進物役・町代官/1814(文化11)有田皿山代官、側用人、
 儒者;長尾遁翁・石井鶴山門/歌;僧澄月・西洞院にしとういん時名・香川宣阿/香川景柄門、
 画;司馬江漢門、武道タイ捨流;養父門、「東紀行」「大和路日記」著、
 [梅山(;号)の名/字/通称/別号]名;利昌としまさ、字;師言、通称;主馬、
 別号;夏玉かつぎよく/梅岬ばいこ/蛟江亭
- B3631 買山(ばいざん・久花堂、在原ありわら)?-? 山城伏見の俳人;蕪村・几董門、
 大和在原寺納入の書画蒐集、1796「春の画合」編、1802「在原文庫」、35「道草集」、「吳竹集」著
- B3632 榎山(ばいざん・九鶴堂) ? - ? 陸前仙台の俳人・東皐門、
 1822師追善集「不二煙ふじけり集」共編(;柳郊らと)
- B3633 梅山(ばいざん・川北/川喜田かわきた長顯ちやうぎやう/字;有孚、長四郎長房男) 1822-1905 84 伊勢津藩士、
 儒者;齋藤拙堂・猪飼敬所門、津藩校督学/有造館会頭、1866長州征伐参謀、
 「京役志」「四書標記」著、「論語標記」編、「梅山遺稿」
 [梅山の通称/別号] 通称;新甫/栄吉[英吉]、別号;夢清楼、法号;心静院
- 梅山(ばいざん;道号・聞本) → 聞本(もんぼん;法諱・梅山、曹洞僧) I 4 4 4 1
 梅山(ばいざん;初道号・聖垂) → 独文(どくもん;道号・方炳;法諱、黄檗僧) L 3 1 4 9
 梅山(ばいざん・谷岡) → 吉隆(よしとか・谷岡たにおか、藩吏/歌学者) D 4 7 9 8
 梅山(ばいざん・依田) → 正純(まさずみ・依田よだ、国学/歌人) P 4 0 5 2
 梅山(ばいざん・長野) → 嘉樹(よしき・長野ながの、医者) D 4 7 0 4
 梅山(榎山ばいざん・二邨/二村) → 公忠(きみただ・二邨ふたむら、医者/篆刻家) C 1 6 8 5
 榎山(ばいざん・久城) → 春台(しゅんたい・久城くじやう/城、医者/詩) L 2 1 4 3
 買山(ばいざん・市川) → 青流(せいろう・市川、遣欧使節従者) J 2 4 8 0
 梅山人南北(ばいざんじんなんぼく) → 南北(なんぼく・東西庵、狂歌/戯作者) 3 2 3 4
 梅山亭(ばいざんてい) → 如松(じよしょう・石原いしはら、酒造/国学) U 2 2 6 6
 俳三昧(ばいざんまい) → 日従(にちじゆう、啄木鳥の茂蘭、日蓮僧/俳人) C 3 3 2 0
- B3634 祿子(ばいし・よしこ・九条くじやう、忠教女)?-? 母;二条道良女、鎌倉後期歌人、関白二条兼基の室、
 通称;従一位祿子、治子(関白九条房実の室)を出産、
 歌人;新後撰(2首961/1082)、藤葉とうよう集2首入、
 [人づてのいつはりにだにおのづからあはれをかくる言の葉もがな](新後撰;恋961)
 [文保百首歌中に、
 山川のあさせにむすぶ薄氷しづむ木の葉の色ぞかくれぬ](藤葉;冬345)
 父 → 忠教(ただのり・九条、報恩院/右大臣/歌) F 2 6 6 0
 母 → 道良女(みちよしのむすめ・二条、九条左大臣女) C 4 1 8 9
- B3635 梅之(ばいし・植山うえやま、) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃江戸の検校/歌人、
 幼児失明/平曲源照派種村なん一(坊主)門:1688(元禄元)植山くわん一名、
 1726(享保11)桐山検校隠居により46代検校;植村梅之名/1729息子の不行跡により不座、
 歌人;渡辺友益(春之)門;友益春之門の六歌仙の一人、1703(元禄16)「謔林尾花末」撰編、
 「集類歌記」著、1710静山「和歌継塵集」入、
 [吹きまきてすだれの風の身にぞしむかくれ家までも秋をしれとや](謔林尾花末)、
 [梅之(;号)の初名/通称/号]初名;植山くわん一、通称;花英一かえいち、歌号;江民軒梅之

- B3636 **梅子**(ばいし) ? - ? 江前中期大阪の俳人;1691賀子「蓮実」2句入、
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[稻刈りて片荷は西の帆かけ船](蓮実;335/天秤棒に二分し西日を受けた帆船の様)
- I3687 **梅思**(ばいし・蕉花庵、姓;志寺しでら、名;重輔) ?-? 江後期安藝広島藩士/俳人;
1853鼎左「俳諧海内人名録」入;[翌日はなきものとみやりぬかへり花](俳諧海内人名録)
- B3637 **梅至**(ばいし・南嶺庵、姓;高田) ?- ? 越後高田の俳人:蕉風を慕う、
1755(宝暦5)羽黒山・松島・江戸・信濃・伊勢・京を巡って行脚;翁塚に参詣、
1759「中国誌」「両柱」著/「両回笠」編、63「葛の霜」74「伊勢便」編、80(安永9)「芭蕉百回忌」編
- 梅枝(ばいし・菊池) → 守濤(もりみつ・菊池きくち、神職/国学/歌) J 4 4 8 7
梅指(ばいし;法諱) → 直翁(じきおう;道号・梅指、曹洞僧) P 2 1 9 9
梅颯(ばいし・頼) → 静子(しずこ・頼、春水妻) E 2 1 2 5
- B3638 **梅餌**(ばいじ) ? - ? 美濃岐阜の俳人;1689「あら野」2句入、
[櫻欄しゆろの葉にとまらで過ぐる胡蝶哉](曠野/卷二)
- B3639 **梅二**(ばいじ・三日月園) ? - ? 江中期越後築地の俳人:越後の俳人乙軒を追善;
「乙軒百日忌追善集」松声と共編、1795(寛政7)刊「空色集」、「墨なをし」編
- 梅寺(ばいじ・辻) → 池東(ちとう・辻つ、俳人) E 2 8 8 7
- B3640 **梅枝軒**(ばいしけん・近松ちかまつ、別号;泊鶯) ?-1839? 大坂御霊瓦町の浄瑠璃作者/役者評判記作者、
芝居絵本・番付類の売買と出版を業とす、4代目八文字屋自笑に強力、
1800(寛政12)-16(文化12)頃近松梅枝軒名で近松柳らと浄瑠璃合作、
1817(文化17)-34(天保5)梅枝軒泊鶯名で役者評判記を著作、
1800「鴉湖高名硯」湖水軒と合作、06「玉藻前囃袂」07「桜姫操大全」09「絵本優曇華物語」、
1816「五天竺」魚丸と合作、20「役者開帳」26「役者珠玉尽」34「役者三世相」外著多数
- 梅枝軒泊鶯(ばいしけんはくおう、役者評判記) → 梅枝軒(ばいしけん・近松) B 3 6 4 0
- B3641 **梅七**(ばいしち・金英社) ? - ? 俳人;来山門、
1734師来山遺稿集「いまみや草」共編(;古道・長江と)
- 3604 **梅室**(ばいしつ・桜井さくらい、名;能充¹しみつ、新九郎[雪館]男) 1769-1852⁸⁴歳 加賀金沢の刀研職;
加賀藩刀研師、俳人:馬來・關更門/1800槐庵を嗣ぐ/1804致仕;隠居;07京住/のち大阪住、
1823江戸住、俳諧に専念;1826剃髪、1834庵の類焼;金沢に帰郷/39大阪住、
1851二条家より花の本宗匠を受く、1852京仏光寺北庵中で没、
1809-51「四時行」編(5編)、26「木葉百韻」、1828「梅室付合集」31「今四歌仙」36「梅室家集」、
1840「蘆雁集」編、41「方円諧俳集」42「方円発句集」50「梅室発句集」、
「杉下随筆」「梅室随筆」「類題発句方円集」外著多数、
磊落な性格/江戸や京でも高名で句風は平俗;他派の反感を買い論難も受ける、
遺稿「かれぎく集」(辰丸編)、追善集;「残香集」、辰丸[櫻井能監(神道家)]の父、
[乳ちを隠す泥手わりなき田植歌](梅室家集/早乙女の恥じらい)
[寝勝手のよさに又見る柳かな](梅室家集/春の座敷のごろ寝)
[梅室(;号)の幼名/別号]幼名;次郎作、別号;雪雄ゆきお(;初号)/素芯/素信/方円/方円齋、
槐庵三世/陸々(ろくろく)/陸々山人、遅速庵/余花園/寒松庵/相応軒、法号;方円院
- 梅室(ばいしつ・山本) → 洞雲(とううん・山本、漢学者/詩) B 3 1 2 2
梅佚(ばいしつ・山本) → 梅逸(ばいいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3
佩詩堂(ばいしどう・右馬耳風) → 篠野玉湧(しのたまわく、加藤/書肆、狂歌) F 2 1 4 2
- 3605 **祿子内親王**(ばいしないしんのう・六条齋院、後朱雀天皇皇女) 1039-96⁵⁸ 1046賀茂齋院/58病氣退下、
外祖父源頼通の庇護のもとで「六条齋院歌合」を20数回催、
母;敦康親王女姫子(後朱雀天皇中宮)、祐子内親王の同母妹、晩年は宇治隠棲?、
女房(歌人)に甲斐・小式部・丹後・讃岐・武蔵・宣旨など多数、
後葉集・万代集入、勅撰3首;詞花(114)続古(205)新拾遺(976)、藤葉集入、
[待ちあかす宿には鳴かでほととぎす雲井ながらも過ぎぬなるかな](続古今;三205)
- 祿子内親王家甲斐(ばいしないしんのうけのかい) → 甲斐 ① I 1 5 3 0
祿子内親王家小式部(ばいしないしんのうけのこしきぶ) → 小式部(こしきぶ、歌人/物語作者) C 1 9 7 6
祿子内親王家丹後(ばいしないしんのうけのたんご) → 丹後(たんご・歌人) T 2 6 4 3

- 禊子内親王家讃岐(ばいしなしいんのうけのさぬき) → 讃岐(さぬき、歌人/物語作者) K 2 0 6 5
 禊子内親王家武蔵(ばいしなしいんのうけのむさし) → 武蔵(むさし、歌人) 4 2 5 3
 梅舎(ばいしや/うめのや) → 政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人) B 4 0 1 0
 梅舎(ばいしや/うめのや・後藤) → 基弘(もとひろ・後藤ごとう/藤原、国学者) E 4 4 1 6
- B3642 梅尺(ばいしやく・一樗庵/挾橋亭)?-? 江中期俳人・千梅門、師説を擁護し春耕に反駁、
 1744芭蕉50回忌追善「千とりの恩」師と共編/50千梅「蝶つかひ」跋、
 1763「やきおほね」師と共編
- B3643 梅若(ばいじやく・栄枝館) ? - ? 地口;1850「画口合えぐちあい千代之栄」編;松川半山画
 梅守(ばいしゆ) → 黄年(おうねん・二夜庵、山伏/俳人) C 1 4 6 1
 梅首(ばいしゆ・座田) → 惟貞(これさだ・座田さいだ/速水、国学者) E 1 9 2 0
 梅趣(ばいしゆ・毛利) → 元義(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人) E 4 4 7 3
- B3644 梅壽(ばいじゆ・梅沢うめざわ) ? - ? 江戸の書肆/俳人;成美門、一茶と交流、俳書刊行、
 1807剃髪、1812(文化9)「俳諧ほしなうり」/「俳諧奇跡録」編、
 [梅壽(;号)の通称/別号]通称;伊三郎/伊兵衛、別号;寿翁/金令閣/小田原屋
 梅壽(ばいじゆ・俳名) → 菊五郎(3世きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 9 5
 梅樹(ばいじゆ・富田) → 弘実(ひろさね・富田とみだ、藩士/兵法) H 3 7 8 1
- B3645 梅州(梅洲ばいしゅう・岡本おかもと)?-? 江後期大阪の雑俳点者・1845「折句六玉川」に画像、
 「あうむ石」著/1844(天保15)「冠附たから槌」編/45「和田の松」評、
 [梅州(;号)の別号] 四徳庵
- B3646 梅洲(ばいしゅう;道号・実光/京光じっこう;法諱) 1639-1719⁸¹ 黄檗僧;豊前小倉福聚寺明洞門、
 1696(元禄9)法雲に嗣法/1708(宝永5)福聚寺住持、1710上洛/14宇治万福寺に慶源院開、
 1717慶源院に退隠、詩人;高泉性激と交流、「禅喜草」「法雲老和尚壙誌銘」著、
 1711「梅洲和尚語録」著
- B3647 梅洲(ばいしゅう・高橋たかはし、名;政美、政景男) 1758-1832⁷⁵ 羽後秋田藩士/儒者、
 1793秋田藩校明道館教授・儒詩/書の長ず、1802江戸川浚渫工事尽力;幕府より賞、
 「梅洲詩文稿」、
 [梅洲(;号)の字/通称/別号]字;元達、通称;重蔵/十之允、別号;洗心亭/汎楽隠士
- B3648 梅秀(ばいしゅう・春友亭しゅんゆうてい、姓;田中、通称小島屋秀次郎、檜園梅明男)?-1907? 狂歌;父門、
 1864「一字題詠集」編、67「人物集」編、明治以後は東京日本橋西洋雜貨店経営
 梅洲(ばいしゅう・齋藤) → 永配(ながとも・齋藤、藩士/歌人) E 3 2 9 7
 梅州(ばいしゅう;通称) → 竜菖(りゅうしょう;法諱・石霜;道号、臨濟僧) E 4 9 6 7
 梅州(ばいしゅう;号) → 光性(こうしょう;法諱、真宗大谷派本願寺17世) J 1 9 7 6
 梅州(ばいしゅう・山本) → 友左坊(ゆうさぼう・山本やまもと、俳人) B 4 6 8 4
- B3649 梅従(ばいしゅう・後藤ごとう) ? - ? 1752頃没 大坂道修町一丁目の菓種商、俳人;1716頃野坡門、
 京の風之と共に野坡二高弟と称される、「六行会」師らと共編、1740「三日の菴」風之と共編、
 1740「野翁行状記」、43「屋土里塚」風之と共編、51(宝暦元)野坡13回忌主宰、52「十三題」編、
 [梅従(;号)の通称/別号]通称;伏見屋久右衛門、別号;梅花房/市中庵
 久右衛門(きゅうえもん・伏見屋) → 梅従(ばいしゅう・後藤ごとう、商家、俳人) B 3 6 4 9
 梅秀樹(ばいしゅうじゆ) → 梅秀樹(うめひでき;通称、狂歌) D 1 2 4 1
 梅守園(ばいしゆえん) → 雪居(せつきよ・神保じんぼう、国学者) K 2 4 8 3
 梅樹園(ばいしゆえん) → 对我(たいが・溪嵐たにあらし、俳人) J 2 6 4 1
 梅樹園榎翁(ばいしゆえんばいおう) → 盛章(もりあき・平久間ひらくま、狂歌/国学) L 4 4 1 4
- B3650 梅叔(ばいしゆく;道号・法霖ほうりん;法諱、号;半梅叟/大梅軒)?-? 戦国期臨濟僧;文淵等明門/法嗣、
 京の相国寺89世、相国寺大梅軒の開基/1536(天文5)鹿苑院院主、
 1536-50(天文5-19)「鹿苑ろくおん日録」著
- B3651 梅壽軒(ばいじゆけん) ? - ? 医者・1608-26医書出版:1626「格知余論鈔」など
 梅樹軒(ばいじゆけん) → 守俊(もりとし・水野みずの、藩士/文筆家) F 4 4 9 3
 梅樹軒(ばいじゆけん) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1
 梅樹軒(梅壽軒ばいじゆけん) → 風和(ふうわ・江原えばら、神職/俳人) B 3 8 1 4
 梅守斎(ばいしゆさい・辻) → 池東(ちとう・辻つじ、俳人) E 2 8 8 7

- 売酒郎(ばいしゅろう) → 噲噲(かいかい・佐竹さたけ、絵師/篆刻) I 1 5 4 9
- B3652 梅春(ばいしゅん・狩野かのう、知信[梅栄]男/実は春笑[亮信]2男か?) 1684-1743⁶⁰ 将軍家の絵師、
1735「池永家伝阿弥陀佛縁起」画、
[梅春(;)の名/通称/別号]名;旭信、通称;一学、別号;眞活斎/眞治斎
- 梅春(ばいしゅん・長谷川) → 光信(みつのみつ・長谷川、絵師) E 4 1 3 7
- 梅春軒(ばいしゅんけん) → 英斎(えいさい・梅春軒、歌人) U 1 3 5 6
- 梅春舎(ばいしゅんしゃ) → 波響(はきょう・蠣崎/松前、家老/絵師) C 3 6 4 6
- B3653 梅所(ばいしょ・唐金からかね、倉野庄右衛門正賢の長男) 1675-1738⁶⁴ 母;唐金七兵衛道寿女の也々、
和泉佐野の豪族倉野家の分家の生;回船業・米問屋の唐金喜右衛門了誓の養子;家督嗣、
家業の傍ら学問・詩文を好む;新井白石・三宅観瀾・祇園南海・雨森芳洲ら学者と交流、
黄檗僧円通道成・大潮元皓とも親交、朝鮮通信使と詩歌唱和、
「梅所詩稿」、1710「垂裕堂家訓」著、
[梅所(;)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;吉三郎、名;興隆、字;孟喜、
通称;喜右衛門/総左衛門、別号;垂裕堂、法号;了坦
- B3654 梅処(ばいしょ・紅林くればやし/修姓;呉、旧姓;境田)?-1817 長門豊浦郡下大野村の儒者、
1792(寛政4)長門清末藩医の紅林玄淳の家督を継嗣/清末藩儒となる、
藩校育英館学頭/記録所預右筆/側目附、詩人・片山鳳翻と交流、「梅処詩草」著、
[梅処(;)の名/字/通称]名;孟明、字;士信、通称;金槌/順平/十左衛門
- B3655 梅所(ばいしょ・川合かわい/初姓;梅本) 1794-1871^{78歳} 和歌山藩士、儒者;川合春川門、
1808(文化5)師川合春川の養子大壑が没したため養嗣子/家学継承;大壑女小梅と結婚、
藩校学習館督学、「左氏春秋考徴」著、
[梅所(;)の名/字/通称]名;修、字;伯敬、通称;豹蔵
- B3656 梅所(ばいしょ・山本やまと) ? - 1873 越後の絵師:山本梅逸門/梅逸の養嗣子、
養父没後;京に移住、1862(文久2)「道華余薫」編
- 梅所(ばいしょ・中西/小林) → 秋水(しゅうすい・小林/中西、俳人) X 2 1 6 9
- 梅所(ばいしょ・大山) → 融斎(ゆうさい・大山おおやま、儒者/国学) B 4 6 7 7
- 梅処(ばいしょ・松崎) → 蘭谷(らんこく・松崎まつさき、藩士/儒者) C 4 8 0 8
- 梅処(ばいしょ・寺島) → 恒固(つねもと・寺島、歌人) D 2 9 9 9
- 梅処(ばいしょ・青方) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) 4 6 2 8
- 梅処(ばいしょ・小川) → 清臣(きよおみ・小川おがわ、真澄男/歌人) T 1 6 6 9
- 梅処(ばいしょ・中村) → 祇歛(まさよし・中村なかむら、藩士/尊攘) R 4 0 1 8
- 梅墅(ばいしょ・西郷) → 近思(ちかもと・西郷、藩家老/儒/国学) C 2 8 0 5
- 梅渚(ばいしょ・保寂堂) → 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9
- B3657 梅助(ばいじょ・雪交斎) ? - ? 江戸後期大阪の俳人・1851「諸国俳人通名録」著
- 梅女(ばいじょ) → うめ女(梅女うめじょ、俳人) B 1 2 4 9
- 梅女(ばいじょ) → 梅女(うめじょ・竹内、歌) E 1 2 3 3
- 梅女(ばいじょ) → 梅女(うめじょ・麻岡検校女/歌人) E 1 2 4 3
- B3658 梅嶂(ばいしょう) ? - ? 江中期俳人;一昌[1643-1707]門、
1685風瀑「一楼賦」/87一昌「丁卯ていぼう集」入、
[兄寒し弟は寐酒呑みつべし](一楼賦;懐旧里)
- B3659 梅笑(ばいしょう・酔月) ? - ? 江戸後期戯作者・1813「薄化粧垣根卯花」著
- 梅松(ばいしょう/うめまつ・杉田) → 恭卿(きょうけい・杉田すぎた、蘭学者) N 1 6 6 2
- 培松(ばいしょう・毛利) → 高標(たかすえ・毛利、藩主/教育振興) C 2 6 8 5
- 買笑(ばいしょう・伊藤) → 嵐牛(らんぎゅう・伊藤、鍛冶職/国学/俳) B 4 8 7 2
- I3686 梅丈(ばいじょう) ? - ? 安藝広島 of 俳人;野坡門/1739師野坡を訪ねる
- 梅梢庵(ばいしょうあん) → 文流(ぶんりゅう・錦、俳/浮世草子作者) 3 8 2 7
- 梅賞庵(ばいしょうあん) → 狙山(そざん;号、商家/俳人) J 2 5 7 7
- 梅松軒(ばいしょうけん) → 宗徳(そうとく;法諱、僧/歌人) I 2 5 5 8
- B3660 榎条軒(ばいじょうけん、姓名不詳)?-? 京住;1648-53仮名草子「よだれかけ」;江流序/1665刊
- 榎荘生(ばいじょうせい) → 基明(もとあき・増田ますだ、国学者/歌) L 4 4 3 5

- 売書翁(ばいしょおう) → 茂喬(しげたか・文屋ぶんや、書肆/狂歌) C 2 1 3 2
 俳書堂(ばいしょどう;屋号) → 重徳(じゅうとく・寺田、書肆/俳人) I 2 1 1 7
 培次郎(ばいじろう・河村) → 益根(ますね・河村、秀根男/儒・国学者) J 4 0 1 2
 B3661 梅臣(ばいしん・亀山かめやま、土綱[油屋元助]長男) 1797-1863 67 備後尾道の商家/俳人、頼山陽と親交、
 尾道の年寄を務める、「京遊日誌」「たれゆへ草」、1856「猿雖堂発句集」、「柳水園句集」著、
 「柳水園俳諧集」著、1856陶然編「雲津老人木海発句集」校訂、1859相応「四時行」序、
 [人絶やひるからのちの花御堂](四時行入)、
 [注連縄に通ふ鼠の妹脊かな](短冊)
 [梅臣(;号)の名/通称/別号]名;為綱、通称;正介、別号;柳水園/猿雖堂/夢硯(夢研)
 梅信(ばいしん・大江/雲井園) → 梅信(うめのぶ・雲井園くもいえん、狂歌) D 1 2 4 0
 B3662 梅人(ばいじん) ? - ? 尾張熱田の俳人;1695東藤「熱田皺笥物語」跋、
 1703祖月「蓬萊嶋」入
 B3663 梅人(ばいじん・平山ひらやま、名;直昌、忠左衛門) 1744-1801 58 三河田原藩士/俳人:2世宗瑞門、
 安永1772-81頃文台開く/1778葛飾派と提携、1785(天明5)杉風5世さえ女より採茶庵嗣、
 この際得た襲蔵資料の復刻事業に貢献、「三編五色墨ごしきずみ」野逸らと共編、
 「杉風句集」など資料覆刻事業、1788師宗瑞2世追善「白兔園余稿」編、
 没後;7周忌「梅人句集」(門人郁賀・杉長編;1807刊/梅人句320余章/宗拱「梅人翁略伝」)、
 追善集;「あがほとけ」「水の音」「栗しをり集」、
 [梅人(;号)の別号]郁賀;初号、宗雅/菅樵人(かんばいじん)/第一園/独武者ひとりむしや/採茶さいた庵2世
 B3664 梅塵(ばいじん・山岸やまざし、自芳[梅堂]男) 1790-1855 66 信州中野の代々味噌醸造業/郷宿、医者兼業、
 俳人:父と共に一茶門/一茶は1822(文政5)以降屢々梅塵邸訪問、一茶の遺墨を伝え顕彰、
 仏教信仰厚く大乘経千部を書写;諸寺に寄進、1843「あられ空」編(一茶・父への追善集)、
 [梅塵(;号)の名/字/通称/別号]名;示備、字;柳崖、通称;清左衛門/昇之助[丞]、
 別号;程々庵/袋屋
 梅人(ばいじん・広岡) → 宗瑞(2世そうずい・広岡/菅、藩士/俳人) I 2 5 1 2
 梅人(ばいじん・中村) → 長住(ながすみ・中村なかむら、国学/歌) O 3 2 1 2
 梅仁翁(ばいじんおう) → 百庵(ひゃくあん・寺町、歌/俳人) E 3 7 4 3
 杯水(ばいすい・正親町三条) → 公積(きんつむ・正親町三条おおざちさんじょう/藤原、権大納言) T 1 6 8 2
 B3665 梅水(ばいすい) ? - ? 豊前小倉の俳人;1690順水「誹諧破曉集」入、
 1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、
 [御幸みゆきあり日和見なくて春の雨](都曲;下351/予測がなくてせっかくの御幸も雨)
 I3673 梅睡(ばいすい・吉井よい、名;正盛) ?-? 安藝竹原の塩浜主の吉井家4代目/塩浜中間役、
 蕉門系俳人;一雨門、曲糸/似水らと竹原俳壇中心、1698各務支考が梅睡邸訪問;
 1699支考「西華集」入、養子;足立計暁(俳号;石亀/吉井家5代目継嗣)、
 [梅睡(;俳号)の通称]広島屋吉右衛門
 梅睡(ばいすい・大淀) → 三千風(みちかぜ・大淀、三井、商家/俳人) 4 1 0 3
 梅水堂(ばいすいどう) → 正路(まさみち・田井たい、儒/連歌/歌人) Q 4 0 4 4
 3606 梅盛(ばいせい・高瀬/高野瀬たかのせ、名;元晴/元親) 1619-1702 84 京の俳人:貞室・重頼・貞徳門、狂歌、
 京二条通西洞院西に住、貞門七俳仙の1、談林の流行にも顧慮せず古風を墨守、
 1643西武「鷹筑波集」入、1656「口真似草」58「鸚鵡集」59「捨子集」60「俳仙三十六人」編、
 1663「早梅集」「木玉集」・狂歌「鼻笛集」/64「落穂集」「道連集」68「細少石」・狂歌「狂遊集」編、
 1669「便船集」72「山下水」77「類船集」78「道連集」編/86「貞享三ツ物」、「賦何鐘誹諧連歌」、
 1682如扶「三ヶ津さんかつ」入;[独り寝も肌をあはする紙衾かみふすま](三ヶ津)、
 1702轍士「花見車」入:[来る年や末たのみなる中の秋](花見車/1702[元禄15]の作;83歳)、
 (来る年は八月に閏月;老の身には明月が2度見られる楽しみ)
 [梅盛(;号)の通称/別号]通称;太郎兵衛/太右衛門/仁右衛門、
 別号;侘心子たしんし/宗入居士(;剃髮号)、道甘(俳人)の弟、信徳・如泉の師
 梅成(ばいせい・中井) → 梅成(うめなり・中井なかい、商家/歌人) E 1 2 3 9
 梅性(ばいせい・波多) → 易直(やすなお・波多はた、国学者) G 4 5 3 9
 俳聖堂(ばいせいどう) → 御風(ぎよふう・秋山あきやま、藩士/俳人) H 1 6 5 5

- 梅星翁(ばいせいや) → 谷峨(2世こくが・梅暮里うめぼり、戯作/音曲) C 1 9 3 5
 佩石(はいせき;字) → 淡雲(たんうん;法諱、真宗僧) T 2 6 1 6
- B3616 梅夕(ばいせき) ? - ? 江前期甲州の俳人;1694不角「うたたね」入、
 [臨終の浮名よ金の握り死に](うたたね/小判を握ったまま絶命;葬儀でも強欲の浮名)
- B3666 梅石(ばいせき、不詳;架空の人物?)?-? 美濃芭蕉庵室の陽花庵を継承/
 芭蕉からの来信書簡を天井に貼る/大魚が書簡発見;門弟大蟻が1783「翁反故」として編刊;
 ただし偽書簡で梅石・陽花庵ともに不明
 参考 → 大魚(たいぎよ、俳人) B 2 6 2 5
 → 大蟻(たいぎ・松岡、俳人) B 2 6 2 1
- B3667 梅尺(ばいせき) ? - ? 江中期俳人;千那・千梅門、
 1744「千どりの恩」千梅と共編、1768「やきおほ根」麟那と共編;石橋「糸切齒」に反駁
 梅石(ばいせき・岩永) → 良顕(よしあき・岩永いわなが、国学者) L 4 7 6 9
- B3668 梅雪(ばいせつ・矢尾板やおいた、名;惟一)-?-? 江後期羽前米沢藩士;上杉治広に出仕、
 1826(文政9)「甘棠篇」編
 梅雪(ばいせつ・富永) → 莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学) 2 2 9 0
 梅雪(ばいせつ・平瀬) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1
- B3669 梅舌(ばいぜつ) ? - ? 尾張俳人;1689「あら野」4句入、
 [かるがると笹のうへゆく月夜哉](あら野;一/月;12歳)
- B3670 佩川(珮川はいせん・草場くさば、泰虎男)1787-1867⁸¹ 肥前佐賀藩支藩多久家家臣、儒者:
 主命で佐賀藩校弘道館に修学/江戸の古賀精里門/1811師に随伴し対馬で韓客と筆話唱酬、
 1855幕府の招聘辞退/のち佐賀藩校弘道館教授/世子侍読、詩人;頼山陽・篠崎小竹と交流、
 武芸に通ず/画;江越繡浦門;墨竹を描く、1711「対馬筆語」「附驥日記」/28「詩暦閏余」著、
 1841「片煙遺灰」43「松北遺響」「津島日記」「毛儒之囀里もずのさえずり」/53「佩[珮]川詩鈔」、
 「草場佩川日記」「附驥日録」「佩川詠草」「佩川演唱」「環爪録」「湯豆腐」外著多数、船山の父、
 [佩川(;号)の名/字/通称/別号]名;鞆か鞆い、字;棣芳ていほう、通称;瑳助、
 別号;宜斎/玉女山樵/濯纓たくい堂主人/栲の索綯たくのなわい、法号;濯纓軒佩川宜翁居士
 誹泉(はいせん・梅津) → 其雫(きてき・梅津忠昭、藩老/俳人) B 1 6 5 5
- B3671 梅仙(ばいせん;道号・東逋とうほ;法諱)1529-1608⁸⁰ 戦国江前期の臨濟僧;和仲東靖門/法嗣、
 1577(天正5)京の建仁寺291世/無等派;中国古典文学研究、兩足院に住、
 「攢花集」「梅仙和尚法語」「梅仙和尚草稿」著
 梅仙(ばいせん;法諱) → 竺巖(じくがん;道号・梅仙、曹洞僧) Q 2 1 3 8
 梅仙(ばいせん・林はやし) → 洞海(どうかい・林はやし、蘭医) C 3 1 0 6
 梅泉(ばいせん・白井) → 華陽(かよう・白井しらい、儒者/絵師) P 1 5 5 9
 倍千(ばいせん・平松) → 惟時(これとき・平松ひらまつ、国学者) R 1 9 1 9
 排仙閣(はいせんかく) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
 俳禅居(はいぜんきよ) → 墨芳(ぼくほう・羽田/今井、俳人) D 3 9 9 0
 梅仙窟(ばいせんくつ) → 春秀(はるひで・生駒いこま/山本、神職/医者) J 3 6 6 3
 沛然軒(はいぜんけん) → 由水(よしみ・山本やまもと/源、国学者) H 4 7 2 7
 俳仙堂(はいせんどう) → 玄武坊(げんぶぼう・水野/神谷、俳人) C 1 8 9 9
 俳仙堂(はいせんどう) → 定雅(ていが・西村、戯作/俳人) 3 0 4 1
 俳仙堂(はいせんどう) → 有国(ありくに・浦井、商人/俳人) B 1 0 6 7
 俳仙堂(はいせんどう) → 伴自(ばんじ・長井ながい、俳人;雑俳点者) 3 6 4 6
 誹泉堂(はいせんどう) → 其雫(きてき・梅津忠昭、家老/俳人) B 1 6 5 5
 俳禅堂(はいぜんどう) → 木長(ぼくちやう・津坂/津阪、藩士/俳人) D 3 9 7 3
 梅仙堂(梅宣堂はいせんどう) → 景新(かげちか・香川、歌人) K 1 5 9 9
 陪仙郎(はいせんろう) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
 梅素(ばいそ・宮城) → 玄魚(げんぎよ・梅素亭、絵師/狂歌) B 1 8 5 4
 敗素庵(ばいそあん) → 柳溪(りゅうけい・清水しみず、藩の茶人) D 4 9 4 9
- B3673 梅叟(ばいそう・月下亭、田舎坊左右児男)-?-? 雑俳、1805父追善狂句集「古今田舎樽」刊
- B3674 梅窓(ばいそう・魁庵) ? - ? 江後期因幡の俳人/1832広島滞在;

1832「このてかしは」編、「独言」著

B3675 **梅操**(ばいそう・佐々原ささはら、名;宣明のぶあ)1833-55**早世**23 大阪伏見町唐物商田辺屋の生/儒者:
春田古処・藤沢東暎とうがい・佐藤一斎門、和漢学に通ず、大坂町奉行川路聖謨に才を賞される、
聖謨に伴われ江戸浅草誓願寺裏大番組屋敷に開塾;門人多数、芝増上寺に講ず、
「大日本通史」「皇朝資治通鑑長編」「詩文和歌合集」「国名書法初伝」「梅操漫筆」著、
[梅操(;)号)の字/通称/別号]字;君明、通称;久吉/数馬、
別号;柳軒じよけん/衡明こうめい/璠璣堂はんよどう、法号:知度院

B3676 **梅窓**(ばいそう・前原まえはら、名;一誠いつせい、佐世彦七男)1834-1876**斬刑**43 長門萩藩士/詩:松陰門、
尊攘派;干城隊/1868戊辰会津戦線参加/新政府参議;孝允と対立/1876萩乱蜂起;処刑、
[梅窓(;)号)の字/別号]字;士明/子明、別号;古心/孤洲 など、
変名;米原直義/原狷介など多数

梅荘(ばいそう;道号・顕常)→ 大典(だいてん;号・梅荘顕常、臨濟僧) B 2 6 9 0
梅荘(ばいそう・菊池) → 五大(こだい・菊池、俳人) N 1 9 0 4
梅荘(ばいそう・森/源) → 楓斎(ふうさい・森もり、書家/儒者) 3 8 6 7
梅荘(ばいそう・清水) → 成美(なりよし・清水しみず、国学/詩人) N 3 2 2 9
梅窓(ばいそう;道号) → 義弘(よしひろ・大内/多々良、武将/歌) G 4 7 5 3
梅窓(ばいそう・橋本/橋) → 経亮(つねあきら・橋本/橋、神職/故実/歌) B 2 9 5 9
梅窓(ばいそう・長谷川) → 元貞(もとさだ・長谷川はせがわ、国学者/書) C 4 4 5 2
梅窓(ばいそう・宇都宮) → 安浦(やすうら・宇都宮うつのみや/渡部、神職) F 4 5 3 8
梅窓(ばいそう・大谷) → 実徳(さねのり・大谷おおたに、勤王過激派) O 2 0 1 3
梅窓(ばいそう・田谷) → 寿平次(すへい・田谷たや、国学/歌人) I 2 3 7 1
梅窓(ばいそう・藤堂) → 高俊(たかとし・藤堂とうどう、彫刻/製陶) Y 2 6 4 0
梅窓(ばいそう・町田) → 亘(わたる・町田まちだ、藩士/歌人) 5 3 8 9
梅叟(ばいそう・梅津) → 利忠(としただ・梅津うめづ、藩士/兵法家) M 3 1 6 9
梅叟(ばいそう・鈴木) → 準道(のりみち・鈴木すずき、藩士/記録) C 3 5 4 2
梅叟(ばいそう・安部井) → 磐根(いわね・安部井あべい/源、藩士) J 1 1 7 5
梅叟(ばいそう・渡辺) → 為良(ためよし・渡辺わたなべ、商家/歌/俳) 2 7 4 4
梅窓院(ばいそういん) → 幸成(ゆきなり・青山/藤原、城主/歌) 4 6 2 3
梅窓園(ばいそうえん、梅窓園琴金) → 貞芳(さだよし・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 7
梅蔵軒(ばいぞうけん) → 玄仲(げんちゅう・梅蔵軒、歌人) L 1 8 2 3
俳瘦子(ばいそうし) → 既醉(きすい・寛海、茂蘭2世/真言僧/俳人) B 1 6 3 1
梅瘦舎(ばいそうしゃ) → 波響(はきょう・蠣崎/松前、家老/絵師) C 3 6 4 6
棋荘生(ばいそうせい) → 基明(もとあき・増田ますだ、国学者/歌) L 4 4 3 5
梅窓布席(ばいそうふせき) → 布席(ふせき・鴈来庵/伊達屋、商家/俳人) C 3 8 9 3
壳塚翁(ばいそおう) → 泡子(ほうし;法諱・甘露、曹洞僧) B 3 9 2 3
梅素亭玄魚(ばいそていげんぎょ) → 玄魚(げんぎょ・梅素亭・宮城、狂歌;画) B 1 8 5 4

B3677 **梅村**(ばいそん・山田やまだ、名;亥吉、鹿庭男)1815-81**67** 高松藩士/儒;父門/江戸の昌平黌に修学、
経義;伊予小松藩儒近藤篤山門/詩学:豊後日田の広瀬淡窓門、
1833(天保4)父の跡継承;高松藩儒、詩文;書画・篆刻に長ず、
1866「海外縁」「吾愛吾廬詩」「飲江三種」「書体解要」「三聖盒寿醺書画展観小録」著、
[梅村(;)号)の字/通称/別号]字;乙生、通称;勝治/勝次、別号;三聖庵主人/瘦竹廬

梅村(ばいそん・林) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政) 4 8 0 2
梅村(ばいそん・伴ぼん) → 侗庵(とうあん・伴ぼん、儒者/詩人) 3 1 8 4
梅坨(ばいたい/ばい・葛井) → 文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9
梅大(ばいだい・西原) → 文虎(ぶんこ・西原にしはら、俳人) F 3 8 1 2
莓苔園(ばいたいえん/ほうたいえん) → 亀洞(きどう・千代倉/下郷しもと、詩/俳) B 1 6 5 7
培達園主人(ばいたつえんしゅじん) → 邦成(くにしげ・伊達、領主/北海道開拓) C 1 7 7 9

B3678 **梅潭**(ばいたん・杉浦すぎうら/初姓;久須美くすみ)1826-1900**75** 江戸の幕臣;杉浦家養子/家督嗣、従四位、
兵庫頭、開成所頭取/箱根奉行を歴任、儒:大橋訥庵/山地正誠門、詩;大沼枕山/横山湖山門、
維新後;政府に出仕、同志と晩翠吟社創設、「梅潭詩鈔」著、「梅潭遺稿」、

[梅潭(；号)の名/字/通称]名；誠、字；求之、通称；正一郎

梅担(ばいたん・朝日) → 重章(しげあき・朝日あさひ、藩士/儒者) B 2 1 7 8

売炭翁(ばいたんおう) → 単朴(探牧たんぼく・伊藤、談義本作者) 2 6 9 7

B3679 梅痴(梅癡ばいち・釈) ? - ? 江後期の詩僧・1845雲如「玉池吟社詩」入、
1850徹定「緑山詩叢」序、1851美成「江都名家詩選」13首入

梅痴(ばいち・黒川) → 道祐(どうゆう・黒川、藩医/儒者/地誌) 3 1 2 6

梅痴(ばいち・鍋島) → 春城(はるき・鍋島なべしま/藤原、詩歌) K 3 6 5 1

梅痴(梅知ばいち・孫福) → 公好(きみよし・孫福ごふく/足代、神職/国学) V 1 6 2 1

梅遅(ばいち；俳名・中居) → 剛屏(ごうへい・中居なかい、商家/蘭学) L 1 9 0 7

梅遅庵(ばいちあん) → 貞斎(ていさい・福田/井上、儒者/教育) 3 0 8 1

梅竹(ばいちく・山本) → 梅逸(ばいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3

梅竹園(ばいちくえん) → 融思(ゆうし・石崎/荒木、目利/絵師) C 4 6 1 3

梅竹主人(ばいちくしゅじん) → 鶴水(かくすい・横山よこやま、儒者) K 1 5 1 4

梅竹堂(ばいちくどう) → 源蔵(げんぞう・宿谷しゅくや、俳人/書肆) K 1 8 7 6

梅竹堂(ばいちくどう・香川) → 景平(かげひら・香川/景新男、歌人) L 1 5 2 7

梅癡道人(ばいちどうじん) → 秦罔(しんげい；法諱・白純、浄土僧/詩) O 2 2 0 6

売茶翁(ばいちやおう) → 元昭(げんしょう；法諱・月海、黄檗僧/煎茶祖) C 1 8 1 9

売茶翁(ばいちやおう) → 方巖(ほうがん；道号・祖永；法諱、臨濟僧/煎茶) 3 9 3 5

売茶翁(ばいちやおう) → 蟾居(せんきよ・岩城、商家/俳人) M 2 4 0 5

B3680 梅中(ばいちゅう・半日亭) ? - ? 江前期伊勢松阪の俳人、
1694撰集「よいをの森」編：爾周が収集

B3681 梅朝(ばいちよう・林はやし/沢井さわい、名；数馬、別号；西鵬斎/松嘯軒) ?-? 江前期大阪の俳人：宗因門、
一説に多田銀山の山請人？、延宝(1673-80)頃江戸住；俳諧修行、西鶴と交流/1680帰坂、
1680「江戸大坂通し馬」編、[心哉西行の看経かんきん鳴の沢](遺墨)

梅蝶楼(ばいちようろう) → 国貞(2世くにさだ・歌川、4世豊国/絵師) B 1 7 5 0

梅遅老人(ばいちろうじん) → 遜阿(そんあ；法諱、僧侶/俳人) B 2 5 4 3

誹陳人(ばいちんじん) → 氷几(ひょうき、俳人) F 3 7 1 7

馬逸(ばいつ) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/歌/俳) 1 6 9 8

B3682 梅通(ばいつう・堤つみ) 1797 - 1864 68歳 京の俳人：蒼虬門、梅室に次ぎ花の本を称す、
1833「いぶり炭」編/42「蒼虬翁追善集」「夏かはづ」編/45「舍利風語」著/47「蒼虬翁句集」編、
1854「大江六歌仙」「夕はえ」/55「裏白」57「麦慰舎ばくいしゃ梅通句集」58「おきな山集」編、
1861「柿祭文」著、62「四夜四歌仙」編、外編著多数、追善集「忘れ水」(；梅通翁遺書入)、
[近う来てたるむ帆影や大根引]、
[梅通(；号)の名/通称/別号]名；克昌、通称；俵屋六兵衛、別号；花の本9世/麦慰舎、
法号；仁空梅通禅定門

B3683 梅亭(榎亭ばいてい・紀き、名；時敏) 1734-1810 77歳 京の絵師/俳人：蕪村門；主として画を学ぶ、
1788(天明8)京の大火以後近江大津に移住；伊藤義和の飛僊楼に住、抽象的構図の画、
「梅亭発句集」「九老画譜」著、1782蕪村「花鳥篇」1句/84几董「から檜葉」(蕪村追悼)入、
[黄昏のおもき艸履ざりやさくら人](花鳥篇；78/花見疲れの帰路)、
[夜も昼や涙にわかぬ雪ぐもり](から檜葉)、
[梅亭(；号)の字/通称/別号]字；子恵、通称；立花屋九兵衛、晩年号；九老くろう

時敏(ときとし・紀) → 梅亭(榎亭ばいてい・紀き、絵師/俳人) B 3 6 8 3

B3684 梅弟(ばいてい・採茶庵さいだあん3世、姓；垂井たるい、通称；七兵衛) ?-? 江後期江戸の俳人：
採茶庵2世梅人門、採茶庵を継嗣、1813(文化10)「かくれみの」編

梅庭(ばいてい・高橋) → 顕(あきら・高橋、藩士/歌) E 1 0 2 1

梅亭(ばいてい・丹羽) → 玄塘(げんとう・丹羽にわ、藩士/郷土史) L 1 8 8 3

梅亭(ばいてい・村松) → 蘆溪(ろけい・村松むらまつ/松、農家/藩儒) B 5 2 3 0

梅亭(ばいてい・五味) → 文嘯(ぶんしょう・五味ごみ、心学者/俳人) F 3 8 7 6

梅亭金鷲(ばいていきんが) → 金鷲(金峨きんが・梅亭、吉田/瓜生、戯作者) D 1 6 8 3

梅亭化叟(ばいていかそう) → 金鷲(金峨きんが・梅亭、吉田/瓜生、戯作者) D 1 6 8 3

- 梅梯舎(ばいていしゃ) → 魚淵(なぶち・佐藤/吉村、医/俳人) G 3 2 8 4
 榎亭主人(ばいていしゅじん) → 金鷲(金峨きんが・梅亭、吉田/瓜生、戯作者) D 1 6 8 3
- B3685 梅雫(ばいてき) ? - ? 江前期加賀鶴来の俳人;1690北枝「卯辰集」入、
 [白魚しらうをや海におし出す濁り水](卯辰集40、濁り水は雪解けの激しい水)
- I3698 梅滴(ばいてき) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、
 [盗人も無事のツを取りえにて](二葉之松;266、
 取締がゆるく盗人に入られたが怪我なくて幸い/前句;世はゆるがせに成って住みよき)
- 榎滴庵(ばいてきあん) → 貞臣(さだおみ・奥平おくだいら、家老/俳人) O 2 0 2 1
- B3686 梅顛(ばいてん・八谷やたがひ、名;通恕、通義男) 1806-7267 長門萩藩士;1813(8歳)で家督/1838記録方、
 代官・郡奉行を歴任、1865表番頭格/山代都合役/66隠居、詩文に長ず、「戊午草稿」著、
 [梅顛の通称/別号]通称;発蔵/源左衛門/藤兵衛、別号;榎幡(はいは)/節軒/四窮陳人/琴鶴老人
- 梅顛(ばいてん・市川) → 一学(いちがく・市川いちかわ、儒者) G 1 1 1 1
 梅顛(ばいてん・恩田) → 柳礪(りゅうかん・恩田おんだ、儒者/詩人) D 4 9 2 8
 梅田(ばいでん) → 利明(理明としあき・大原/会田、和算家) L 3 1 9 5
 梅天無明(ばいてんむみょう) → 無明(むみょう;法諱・梅天;道号、臨濟僧/歌) D 4 2 0 2
- B3687 梅東(ばいとう・山田やまだ/清水/本姓源、名;敬直) 1797-187680 代々洛南の男山石清水八幡宮神職、
 儒者;松本愚山門;朱子学修学/医術に通ず、詩歌/書家、1842家職を弟直躬に譲り退隠;
 東洞院綾小路に住;子弟教育/著述に専念、1866近江膳所藩に招聘され師範となる、
 晩年は[清水]を名乗ることも多い、南画家鈴木松年の漢詩文の師、
 1844「増続詩本事」49「梅東先生雁字詩」58「棕湖観蓮集」著/61「四時遊人必得書」編、
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(;山田三育敬直名)、
 [いかにせん人めつつみは高けれど涙の川はせきもとどめず]、
 (大江戸倭歌;恋1387/隔忍恋)、
 [梅東(;号)の字/通称/別号]字;其正、通称;佐一、
 別号;控庵[控庵]こうあん/松桂/冉仙ぜんせん/三育
- B3688 梅塘(ばいとう;号) ? - ? 江後期僧;信濃善光寺宝勝院主、俳人;井月と交流、
 1864(元治元)刊「家つと集」著
- 梅塘(ばいとう・景山) → 豊城(とよき・景山かげやま/河村、神職/歌) U 3 1 7 1
- B3689 梅洞(ばいどう・林はやし、鷲峰の長男) 1643-66早世24歳 母;羽田至政女、儒(家学);祖父羅山門・
 叔父読耕斎門、1655朝鮮通信使と詩を唱和/1664-父鷲峰・弟鳳岡ほうこうと「本朝通鑑」編纂、
 詩文に長ず、病により24歳没、「勉亭詩集」「史館茗話」「古聯句集」「林下集」「儘佳詩巻」著、
 「乙巳日光紀行」「本朝一人一首評註」外著多数、「梅洞林先生全集」「梅洞林君遺稿」、
 [梅洞(;号)の名/字/通称/別号]名;春信/愨か、字;孟著、通称;又三郎、別号;勉亭
 諡号;穎定
- B3690 梅童(ばいどう・渡辺わたなべ、梅馬男) 1702-8180歳 甲斐祝村藤井の里正/俳人;柳居門、祝村俳諧草分、
 柏尾山大善寺に芭蕉塚建立、1757「富士井の水」62「甲斐冢集」、「三汲水」著、
 「梅鶯一日千句巻」編、追善集「桃の酔」、
 [梅童(;号)の通称/別号]通称;武右衛門、別号;草々園/浄山房
- B3691 梅洞(ばいどう・前田まえだ、雲洞うんどう男) 1785-185672 越前福井藩儒/家学;父門、1807江戸藩邸に侍講、
 1829(文政12)父致仕;家督継嗣/大番組入/1841藩の文学に昇進、詩文・書・馬術に長ず、
 「漪園詩抄」「西遊草」著、
 [梅洞(;号)の名/字/通称/別号]名;修、字;士業、通称;新四郎/彦次郎、
 別号;漪園いん/華陽、法号;理順院
- B3692 梅堂(ばいどう・浅野あさの、長泰[錦谷]男) 1816-8065 幕臣;播磨赤穂城主浅野家の支族、1839初出仕、
 旗本;3500石/甲府勤番支配/浦賀奉行/京都町奉行/江戸北町奉行など歴任、
 学問;和学者/詩文;友野霞舟門、画;栗本翠庵・椿椿山門、文筆家、書画収集;文人画研究家、
 妻;羽後亀田城主岩城隆喜3女の直子、
 1830「眩余曳筆」40「漱芳閣書画記」55「心覚」56「漱芳閣書画銘心録甲篇」62「聴輿第五」著、
 「藻しほ草」「眼福録」「寒檠瓊綴」「浅野梅堂雑記」「読史譚言」著、「朝野纂聞」編、外編著多数、
 [梅堂(;号)の名/字/通称/別号]名;長祚ながよし、字;胤卿、

通称;中務少輔/和泉守/備前守/金之丞、
別号;池香/蔣譚/蝦侶かよ/漱芳閣/樂是幽居/柏洪楼/五万卷堂主人/五万卷楼、
法号;文莊院

- 梅堂(ばいどう、狂歌) → 権宗匠梅堂(ごんのそうじょうばいどう) G 1 9 1 8
梅堂(ばいどう) → 尾谷(初世びこく・千足、盤谷門俳人) 3 7 5 4
梅堂(ばいどう) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5
梅堂(ばいどう・日下部) → 順清(じゅんせい・日下部くさかべ/藤原、幕臣/詩人/書) P 2 1 5 3
梅堂(ばいどう・木原) → 清香(きよか・木原きはら/永安、藩士/歌) U 1 6 0 4
梅童(ばいどう;俳名) → 団十郎(5世だんじゅうろう市川、歌舞伎役者/狂歌) I 2 6 3 1
梅洞(ばいどう・聴松庵) → 徳経(のりつね・土肥どひ、国学/歌人) J 3 5 2 8
培堂(ばいどう・酒井) → 忠恒(ただつね・酒井さかい、藩主/茶人) P 2 6 8 8
売堂(ばいどう・石川) → 元翠(げんすい・石川いしかわ、蘭方医者) K 1 8 2 9
梅墩(ばいとん・広瀬) → 旭荘(きよくそう・広瀬ひろせ、儒者/詩人) 1 6 4 4
梅墩(ばいとん・前田綱紀) → 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2
梅那(ばいな・永田) → 蘿道(らどう・永田ながた、俳人/琴) B 4 8 4 9

B3693 梅年(ばいねん・原田はらだ/服部はつとり、通称;幸次郎) 1826-1905 80 江戸深川の俳人:対山・羅江・鳳洲門、
服部家を継嗣、雪中庵8世を継ぐ、1860(万延元)「唐錦」/61「八束穂」/80「統一夏百歩」著、
雀志(雪中庵9世)らの師、

[寒食や柳たのみに日をくらす]、

[梅年の別号] 不白軒/竹立庵/雪中庵8世

梅年(ばいねん・木村) → 忠貞(たださだ・木村きむら、読本作者) P 2 6 4 9

梅然(ばいねん) → 行妙(ぎょうみょう;法諱、法華僧) U 1 6 1 8

買年(ばいねん;字/通賢;法諱) → 季由(りゆう・河野こうの、真宗僧/俳人) 4 9 0 5

B3694 梅坡(ばいは・小原おぼら、魚庵男) 1775-1832 58 備前岡山藩士/儒者(家学);父門、大丈軒の曾孫、
藩学校講官、詩文/書画;牡丹の画に長ず、菅茶山・頼山陽と交流、
「芳原竹枝六十首」「護国公事蹟」著、

[梅坡(;号)の名/字/通称]名;正修、字;業夫、通称;大之助

B3695 梅坡(ばいは・寺崎てらさき) ? - ? 1887頃没 武蔵忍藩儒/儒;藩儒芳川波山門、
「梅坡詩抄」、1863「追悼帖」著、

[梅坡(;号)の名/字/通称/別号]名;利憲/憲、字;子監、通称;友三、別号;精齋/寒香堂

梅坡(ばいは・富本) → 竹徳(たけのり・富本とみもと/杉野、神職/歌) Y 2 6 4 3

梅坡(ばいは・小野) → 清賢(きよかた・小野おの、国学/歌人) T 1 6 7 2

梅坡(ばいは・原) → 健(たけし・原はら/戸田、医者/国学/歌) Z 2 6 1 0

梅坡(ばいは・清岡/梅坡楼) → 里三郎(りさぶろう・清岡/菅原、国学者) B 4 9 1 0

榎幡(ばいは・八谷) → 梅顛(ばいてん・八谷やたがい、藩士/詩文) B 3 6 8 6

梅幡(ばいは) → 謙吉(けんきち・天野あまの、藩士/儒詩) I 1 8 4 0

B3696 梅巴人(ばいはじん) ? - ? 俳人、1771乙児おつと伊豆に同行;伊豆各地社中と唱和、
乙児「伊豆十二歌仙」の付録1冊を編

梅鉢(ばいはつ) → 梅鉢(うめばち、俳人) E 1 2 2 4

俳波羅密(はいはらみつ) → 有筋(ゆうせつ・滝沢たきざわ/沢、俳人) D 4 6 1 3

B3697 梅賓(ばいひん・曲江いりえ/まがりえ、名;惟直これなお、通称;介三郎/篤三郎) 1648-1711 64 摂津今津の儒者、
詩歌、野田忠肅ただまさの親友、「曲江梅賓いりえばいひん集」「梅賓詩集」著

B3698 梅富(ばいふ・春漸亭しゅんぜんてい) ? - ? 江中期武蔵塚越の俳人;

1740?「稻筏いなかだ」編;1739(元文4)自邸春漸亭に鳥酔と白兔園宗瑞を迎え短歌行4巻を収む

B3699 梅斧(ばいぶ) ? - ? 江中期伊勢松阪の俳人:千梅門/蕉風を志す、
1753(ほう「千尋の蔭」梅輦ばいれんと共編:梅輦と松阪菅相寺境内に芭蕉塚を建立記念、
[朝市の出鼻を馬の嘶むせぶらん](千尋の蔭)

C3600 梅父(ばいふ) ? - ? 俳人;1776樗良「月の夜」1句入、
[寐た人に散りかゝる花の吹雪かな](月の夜:81/花見酒に酔って寝た人)

C3601 梅夫(ばいふ・五十嵐いがらし、通称;文六) ? - ? 江後期江戸の俳人、1798「五十嵐句合」著、

1798道彦「むくてき」五吟1折入

- C3602 **梅夫**(ばいふ、別号;桑園) ? - ? 江後期俳人;士朗門、1809(文化6)「草神楽」編
梅富(ばいふ・戸沢) → 芳一(ほういち・戸沢とざわ、三戸、検校) G 3 9 2 9
- H3626 **唄風**(ばいふう) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
[御出家に蠅なとまりそ撰衣いせつす](丁卯集/三駄;板橋、撰衣は衣を整える)
[馬に寝て海の野分を聞く夜哉](丁卯集/三駄;品河)
- C3603 **梅風**(ばいふう) ? - ? 江中期俳人;露川門、
1717撰集「西国曲さいごぶり」燕説・梅風・草風の共撰(露川と燕説の中国九州紀行と句を集録)
- C3604 **梅風**(ばいふう・伯水堂はくすいどう) ? - ? 江中期宝永・享保(1704-36)頃活動の江戸歌人:
京の香川宣阿(1646-1735)門、堂上和歌の類題集を編纂、
1730(享保15)「新後明題和歌集」35「部類現葉歌集」編、「撰玉類題歌集」編/「むしの和歌」著
梅風軒(ばいふうけん) → 以仙(いせん・山崎/高滝、俳人) B 1 1 0 3
梅富軒(ばいふけん) → 玄石(げんせき・渋谷しぶや、俳人) N 1 8 2 6
- C3605 **梅仏**(ばいぶつ、通称;5代目湊屋与右衛門、湊屋文五男)?-1817 安藝広島猫屋町の染物業、
俳人;風律門、1811「桜仏集」編、父も俳人、
[かけわたす田うゑ着ものの雫かな](1811篤老「なつの夜」入)、
[梅仏(;号)の別号] 玉華亭/汶川(ほんせん/ぶんせん)
俳仏堂(ばいぶつどう) → 文虎(ぶんこ・西原、油商/俳人) F 3 8 1 2
売文翁(ばいぶんおう) → 春流(しゅんりゅう・清水、儒者/詩/俳人) K 2 1 6 1
梅坪(ばいへい・平内) → 廷臣(まさおみ・平内へいのうち/福田、幕臣;工匠) B 4 0 6 1
梅坪(ばいへい・真野) → 守約(もりちか・真野まの/佐藤、商家/歌) L 4 4 2 7
- J3634 **梅甫**(ばいほ・玖村くむら) ? - ? 江前期上方の俳人、
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
[仲人のうそあらはすや土用干](難波色紙;40/土用干に嫁入衣装の少ないこと露見、
諺;仲人の嘘七駄片荷/七駄と言うのは実は片荷[:一駄の半分])
梅歩(ばいほ・長柄) → 春竜(しゅんりゅう・長柄ながら、医者/狂歌) L 2 1 9 9
梅圃(ばいほ) → 二蔵(にぞう・坂野/阪野、農業/地誌) 3 3 3 6
- C3606 **佩芳**(はいほう・東ひがし、小林栄秀3女)1799-1879^{81歳} 伊勢度会郡城田村生(一説紀州生)、
1819(文政2)儒医の東夢亭むていと結婚/伊勢宮後に住、漢学;夫門/絵師;小橋香村・鉄翁門、
詩歌/茶/盆石を嗜む、江馬細香・亀井少琴と交遊、
1749夫の没後に遺著「夢亭詩鈔」刊行に尽力、「詩歌吟草」「恋花室東稿」「園内彙方」著、
[佩芳(;号)の名/字]名;蝶/小蝶、字;恋花
夫は儒医者 → 夢亭(むてい・東ひがし、医者/詩文) 4 2 9 3
梅峰(ばいほう:道号・竺信) → 竺信(じくしん:法諱・梅峰:道号・曹洞僧) B 2 1 7 3
梅峰(ばいほう・古野) → 元軌(げんき・古野ふるの、藩士/儒者) B 1 8 4 9
梅峯(ばいほう・高橋) → 敏(さとし・高橋たかはし、村長/教育者) Q 2 0 8 7
梅峯軒(ばいほうけん) → 光信(みつのお・長谷川はせがわ、絵師) E 4 1 3 7
- C3607 **梅北**(ばいほく、通称;茨屋[室屋]権七)1700-1783/484-85^歳 安藝広島の俳人;野坡門、俳文に長ず、
1735「蟹の穴」(83奥書)、1735「俵舂槩の伝」81「瓢説」、「竹光頌」「招方兄丈」「風もよし」著、
[見かへれば遙なりける汐干かな](杏坪「藝藩通志」入)
拝北庵(ばいほくあん) → 昌琢(しょうたく・里村;南家、連歌師) 2 2 8 6
誹本持(ばいほんじ) → 高政(たかまさ・菅野谷すげのや、俳人) 2 6 1 6
俳魔王(ばいまおう・津田) → 吳逸(ごいつ・津田/四極田、俳人) 1 9 5 9
裴民(ばいみん・松平) → 康兆(やすよし・松平まつだいら、幕臣) D 4 5 5 1
- C3608 **買明**(ばいめい・高橋たかはし・のち交)1711-8474^歳 江中期江戸玄治店の俳人;江戸其角座/存義側宗匠、
独歩庵超波門;のち独歩庵2世継嗣、1745湖十2世「江戸廿歌仙」入、1753「誹諧長者柱」著、
1756「新六歌仙」入/56「わかかな」跋、59「六能巻」評/74「買明点帖」評/78「旦暮集」著、
1781「四人部屋」著、追善集「俳諧一時雨」(;息子寛美編)
[買明(;号)の別号]別号;木原居/筆端/独歩庵2世
- C3609 **買明**(ばいめい・乾坤庵) ? - ? 俳人・素丸[そまる1713-95]門;葛飾派、

- C3610 **梅明** (ばいめい・森もり、列虫庵) ?-1786 相模厚木の俳人・鳥酔門、1764「冬籠」編
- C3611 **梅明** (ばいめい) 1765 - ? 1844存 能登羽咋郡富来の俳人、
1844(弘化元)八十賀に諸国から賀句「増穂集」編(梅室序)
梅明(ばいめい/うめあき) → 檜園梅明(かいえんうめあき、狂歌) I 1 5 4 2
煤明(ばいめい・奥) → 猛雅(たけまさ・奥おく、藩士/砲術家) W 2 6 3 4
- C3612 **梅門** (ばいもん・稲本いなもと) ? - ? 江中期大坂の俳人;才麿門、雑俳点業が多い、
1730「をぐらの塵」40「月の月」編、雑俳点:1716-36「富士の高根」入、36笠付「はつを花」入、
1756「小倉次郎」/64「師走囊」編、「生玉奉納笠壺万句集」編/笠付集「三また竹」編、
「俳諧象山蔭」「俳諧霜をれ」「俳諧布恩川」「俳諧倭多羅尼」著、
[梅門の別号] 房麿/房丸/房麿庵/塵々塙/正月堂、虎友(俳人)の父
- C3613 **煤門** (ばいもん) ? - ? 江後期川柳作者;群燕会狂句合共催、
1851(嘉永4)「柳風群燕りゅうふうむれつばめ」其碩・月苧げつり・青柳・竹子と催主(群燕会狂句合選句)
梅門(ばいもん・福住) → 清風(せいふう・福住/長瀬、商家/歌人) J 2 4 5 3
梅門(ばいもん・毛利) → 元義(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人) E 4 4 7 3
梅聞(ばいもん;道号) → 祖芳(そほう;法諱・梅聞、曹洞僧) K 2 5 3 9
梅野(ばいや;号) → 勝剛(しょうごう;道号・長柔:法諱、臨濟僧) I 2 2 7 9
梅野(ばいや) → 辰清(とききよ・寒川さむかわ/かんがわ、儒者) J 3 1 1 0
梅夜(ばいや・早川) → 広海(ひろみ・早川/安田、医者/国学/俳) H 3 7 2 1
買夜(ばいや) → 晝台(きょうたい・加藤/岸上、俳人) 1 6 3 6
売葉翁(ばいやくおう) → 鶴楼(かくろう・益田、儒/詩人) E 1 5 8 4
売葉山人(ばいやくさんじん) → 道寿(どうじゅう・長沢ながさわ、医者) E 3 1 8 6
買夜子(ばいやし・久村/岸上/加藤) → 晝台(きょうたい・加藤/岸上きしのうえ、俳人) 1 6 3 6
- I3699 **梅友** (ばいゆう) ? - ? 江前期江戸俳人、1691不角「二葉之松」入
[大道のすたらで有るや隠郷かくれざと](二葉之松243)
梅幽(ばいゆう・西山) → 宗因(そういん・西山/西、俳人/連歌) 2 5 0 3
梅遊(ばいゆう・川喜田) → 成章(なりあき・川喜田/村木、商家/国学) L 3 2 7 0
梅雄(ばいゆう・八木田) → 政徳(まさのり・八木田やきた、藩士/詩歌俳) T 4 0 2 9
梅遊軒一風子(ばいゆうけんいつふうし) → 種寛(しゅかん・朝江/浅江、俳人) K 2 1 5 7
俳優堂(ばいゆうどう) → 夢遊(むゆう・俳優堂やくしゃどう、役者研究) D 4 2 0 7
- C3614 **梅葉** (ばいよう・奥田おくだ) ?- ? 江後期尾張藩家老竹腰家の家臣/俳人・士朗門、
1710(文化7)「玉兔集」編、
[梅葉(;号)の通称/別号]通称;忠右衛門、別号;対鷗亭
梅陽(ばいよう・石井) → 好胤(よしたね・石井いしい、郷土史家) E 4 7 3 5
梅陽章杲(ばいようしょうこう) → 章杲(しょうこう;法諱・梅陽;道号、臨濟僧/詩) I 2 2 7 3
佩蘭(はいらん・伏原) → 宣条(のぶえだ・伏原ふしはら、廷臣/文筆) 3 5 9 9
佩蘭(はいらん・中西) → 伯圭(はくけい・中西なかにし、神職/書) C 3 6 9 7
培蘭(はいらん・牧) → 天穆(てんぼく・牧まさ、蘭学者/翻訳) E 3 0 3 3
佩蘭斎(はいらんさい) → 高般(たかかず・藤堂、詩人) L 2 6 7 1
佩蘭主人(はいらんしゅじん) → 直躬(なおみ・前田、藩士/歌人) C 3 2 5 2
佩蘭堂主人(はいらんどうしゅじん) → 宣条(のぶえだ・伏原ふしはら、廷臣/文筆) 3 5 9 9
- C3615 **梅里** (ばいり) ? - ? 江中後期江戸の俳人、
1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」入(;3世湖十中心)、1821定雅歌仙「俳諧雪とすみ」維石と共編
- C3616 **梅裡** (ばいり・大橋おおはし) 1810- 1873 江後期尾張名古屋樽屋町の紙類・畳表商、
俳人;沙鷗門、1845-49「あゆちの水」編/58「春のいとま」編/65「永言集」著、「百さへすり」著、
「あすのほこ」「かふるしる」編
[梅裡(;号)の通称/別号]通称;明賀屋甚蔵/茗荷屋甚蔵、別号;清遠舎、法号;本解院
- C3617 **梅里** (ばいり・木下きのした、衛門男) 1823-99 77歳 肥後菊池郡今村の儒者;熊本藩士、
藩校時習館訓導/御留守居中小姓、1846(弘化3)郷里菊池郡今村に古耕舎を開塾;
和漢学を教授、維新後;修史局に出仕/東京に没、「本語」著、韮村いそんの弟、
[梅里(;号)の名/通称]名;真弘、通称;小太郎

- 梅里(ばいり) → 光圀(みつくに・徳川/源、藩主/修史) 4 1 2 5
 梅里(ばいり) → 為長(ためなが・水野/萩原、歌人) H 2 6 1 9
 梅里(ばいり・荒木) → 李谿(りけい・荒木、儒/詩/画) 4 9 8 8
 梅里(ばいり;俳名) → 仁左衛門(7世にぞえもん・片岡、歌舞伎役者) 3 3 1 6
 梅里(ばいり) → 鶯齋(おうさい・梅の本、絵師) C 1 4 4 2
 梅裡(ばいり) → 舎齋(しゃごう・是非庵、俳人) W 2 1 2 8
 梅裡(ばいり・杉田) → 成卿(せいけい・杉田すぎた、医者/蘭学者) B 2 4 1 6
- C3618 **配力**(はいりき・杉野すぎの、名;房滋/通称;勘兵衛) 1653-1732⁸⁰ 伊賀上野藤堂藩士;
 作事目付役;禄3百石、俳人:芭蕉門、1691「猿蓑」初出/94其角「枯れ尾花」入、
 1698「続猿蓑」(3句)/1709輪雪「星会集」入、
 [いとゆふに貞かほ引きのばせ作り独活うど](猿蓑;卷四、
 陽炎のように芽を伸ばせ速成栽培のうどよ)
- C3619 **梅里亭其斗**(ばいりていきと) ? - ? 江中期尾張愛知郡梅森村の農民?/紀行文作者;
 1775(安永4)「信州善光寺道の記」、85「伊勢路の紀行」、「遠州の紀行」「道の記五つの歌物」
- C3620 **梅竜**(ばいりゆう・武田たけだ/篠田、修姓;武/篠、篠田雅好男/本姓;武田) 1716-66⁵¹ 京の生、
 美濃の儒者:伊藤東涯門/師没後;堀南湖・宇野明霞門、経史/兵法に長ず、
 尾張に客遊/のち京住;帷を下して漢学を講ず、妙法院親王の侍読、当時流行の李王風詩作、
 赤松滄洲・良野華陰・江村北海と交流、村瀬栲亭の師、
 1751「明文選」/52「滄溟尺牘解そうめいせきとくかい」「滄溟尺牘使覧」編、「心学古源」「唐詩合解」著、
 「滄溟国字解」「芳翠高詩稿」著、「梅竜先生遺稿」(息子璋如編;1782刊/北海・栲亭序)、
 [梅竜の名/字/通称/別号]名;惟嶽/亮/元亮/欽繇、字;峻卿/士明/聖謨せいぼ/としかきら?、
 通称;三弥、別号;南陽/蘭籬、諡号;文靖先生
- C3621 **梅龍**(ばいりゆう・赤松あかまつ) ? - ? 江戸前中期元禄頃大阪の講釈師;太平記読、
 江戸の赤松青龍軒・京の原永惕えいと併称される
- C3622 **梅笠**(榎笠ばいりゆう・浜中はまなか、春秋庵9世) 1805-63^{59歳} 武蔵青梅の俳人:梅室門、春秋庵を継嗣、
 1848(嘉永元)「時雨文庫」編/49「霜華集」編/57「春秋稿」編
- 梅笠庵(ばいりゆうあん) → 静雨(せいいう・梅笠庵、俳人) N 2 4 5 0
 梅竜園(ばいりゆうえん) → 守筋(もりとき・中神ながみ、幕臣/書編纂) F 4 4 9 0
 梅柳園(ばいりゆうえん) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1
 梅柳軒(ばいりゆうけん) → 柳軒(りゅうけん・儘田まだ、歌人) D 4 9 6 3
 梅柳軒(ばいりゆうけん) → 周円(しゅうえん;法諱、僧/歌人) O 2 1 8 5
 梅竜軒(ばいりゆうけん) → 正英(まさひで・東あずま、槍術家) G 4 0 6 8
 梅柳軒水之(ばいりゆうけんすい) → 為春(ためはる・須田すだ、幕臣/国学) X 2 6 6 5
- C3623 **梅間**(ばいりま・荒木あらか、蘭阜男) ?-? 摂津池田の儒者:父蘭阜門、
 1777蘭阜著「雞助集」;兄李谿と共編
- C3624 **貝陵**(ばいりょう・高松たかまつ) ? - ? 江後期儒者/易学者:江戸で講説、
 1831「占法要略」「志学便蒙」、40「抱腹談」、48「易道話眼」「象数全書」/50「神国列音考」、
 1851「倭国風流」52「正学指要」、「周易道標」「皇倭言詞通」「大学蘇言」「中庸蘇言」外著多数、
 [貝陵(;号)の名/別号]名;芳孫/辰栄、別号;易蘇堂
- C3625 **貝陵**(ばいりょう・丸山まるやま) 1817-1868^{52歳} 越後三島郡片貝村の儒者:郷学耕読堂で横井豊山門、
 江戸の萩原緑野門、緑野の甥萩原西疇と切磋す、江戸修学後帰郷;郷校耕読堂教授、
 「縮地集」「貝陵集」、「貝陵存稿」著、
 [貝陵(;号)の名/字/通称/別号]名;靖、字;子権、通称;靖左衛門、別号;病隠
- 梅寮(ばいりょう) → 正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人) Q 2 2 7 0
 梅陵(ばいりょう・岡田) → 眞吾(しんご・岡田おかだ、藩士/儒者) O 2 2 2 7
- C3626 **梅隣**(ばいりん・平元ひらもと、正芳男) 1660-1743⁸⁴ 羽後秋田生/京で儒/久保田藩士/医者:伊藤仁斎門、
 歌:通茂門、のち秋田で教授、「梅隣百詠」「漢詩私説」「磯田物語」「田家集」「久也美草」、
 俳:1689「あら野」入、「梅の月」著(幾秋編)、「船岡夜話」「梅隣詞叢」「仲弼私説」外著多数、
 [夏陰なつかげの昼寐はほんの仏ほとけ哉](あら野;卷八;愚益名/詞;即身即仏)
 [梅隣(;号)の名/字/通称/別号]名;忠弼ただすけ、字;仲/仲弼なかつけ、

通称;小助/墨元/ト玄/朴元/撲玄、別号;月潭/入中/福庵愚益

- C3627 **梅林**(ばいりん・岡部おかべ、名;盈辰、通称;玄德) ?-? 江中期明和1764-72頃常陸多珂郡大久保村医者、
「佐竹大秘録」「石神後鑑記」「神社仏閣記」著
- C3628 **榎林**(ばいりん・鈴木すずき) ? - 1897 儒者;1860(万延元)常陸水戸藩に出仕、
維新後;政府の教部権大録/のち修史館出仕、1845「榎林文稿」48「嘉永日表」著、
1862「調練問答」、「海防奉策」「建基漫録」「鳴哀筆録」「鈴木大日記」著、「鈴木大雑集」編、
記録;「賜勅始末」著(1858密勅が水戸藩に下ったこととその後の動向詳細)、
「明治前記」著(1846-67の国家の大事を記述)、
[榎林(;号)の名/字/通称/別号]名;豊大/大、字;子明、通称;安之進、別号;蘭台
- 梅林(ばいりん・中島) → 兆如(ちょうじょ・中島、俳人) I 2 8 8 9
梅林(ばいりん・福住ふくずみ) → 道祐(どうゆう・福住、医/伝記/蔵書) H 3 1 6 3
梅林(ばいりん・松岡) → 能一(よしかず・松岡まつおか、和算家) C 4 7 4 9
梅林(ばいりん・高橋) → 至時(よとき・高橋、幕臣/天文家) E 4 7 8 6
梅林軒(ばいりんけん) → 風黒(ふうくく・梅林軒、西鶴門俳人) 3 8 6 3
梅林斎(ばいりんさい) → 不肩(ふけい・立羽たちば、俳人) B 3 8 7 4
梅林舎(ばいりんしゃ) → 孖続(まさつぐ・長嶺、絵師/俳人) D 4 0 9 5
梅林村隠(ばいりんそんいん) → 道祐(どうゆう・黒川、藩医/儒者/地誌) 3 1 2 6
- C3629 **梅林堂**(ばいりんどう) ? - ? 江中期俳;蝶々子門?、1732「柳陰」編;「園の梅」姉妹編
- C3630 **梅嶺**(ばいれい;道号・道雪どうせつ;法諱、俗姓;多々良) 1641-1717 77 肥前小城郡の黄檗僧;
1657(17歳)同郡三岳寺存長老門;出家、1663宇治万福寺の即非如一門;道号を受、
即非没後;大眉性善門;1673嗣法、諸寺の住持、受戒・法名を乞う者1万余人、
1669「黄檗沙弥律義要略」76「法海貝観」1705「梅嶺禪師王山偶詠」06・07「梅嶺禪師語録」著、
「奕葉聯芳」「聯燈続焰抄記」「沙弥得度」著/「東林大眉和尚夢語」編、
- C3631 **梅嶺**(ばいれい;道号・礼忍れいにん;法諱) ?-1437 京の臨濟僧;大方門;法嗣/建仁寺118世住持、
1412越中新河郡の金剛寺住持、「梅嶺録」著
- C3632 **梅嶺**(ばいれい・碓井うすい、中屋嘉平次男[or弟]) 1800-68 69歳 越中今石動の生、
1818(文政元/19歳)加賀石川郡鶴来の碓井孝[幸]右衛門の養嗣子;酒造業を継承、
組合頭/算用聞/山廻役を務める、儒;猪飼敬所門/歌/俳人、尊王論者、
1848「作句要法」48「聴句要訣」、「文囊」著、
[梅嶺(;号)の名/通称/別号]名;顕古あきひさ、通称;直吉/次郎左衛門、
別号;魯堂/桂舎/月江庵/無味斎、屋号;長者屋/米屋、法号;釈宗静
- C3633 **梅令**(ばいれい) ? - ? 江後期俳人、1942茶静「俳諧職業尽」校;須原屋板
- 梅嶺(ばいれい・本保) → 長益(ながます・本保ほんぼ、藩士/詩人) F 3 2 8 1
梅嶺(ばいれい・大石) → 千秋((ちあき・大石おおいし、国学者/歌) B 2 8 0 1
- C3634 **梅鞏**(ばいれん・鳳羽亭/鳳珉居ほうびんきょ) ?-1784 伊勢松阪の商人/俳人;千梅門、蕉風を志す、
1753(宝暦3)松阪の菅相寺境内に同門梅斧いふと芭蕉塚を建立;「千尋の蔭」共編、
鳳珉居を結社;月次句集刊行、1753/79「己亥歳旦」編/83「癸卯歳旦」編、
[梅咲くや苔屋のくれの人出入](白雄「文くるま」入)
- C3635 **梅露**(ばいろ) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」5句入、
[鳴く雉きじやみどり伸び立つ小松原](卯辰集;58/若芽の伸びた松原で勢いよく鳴く雉)
- C3636 **梅路**(ばいろ・中森なかもり/のち伊藤、通称;又市、神風館5世) ?-1747 伊勢河崎の魚商/俳人;乙由門、
曾北後の神風館を継嗣、1746涼袋に入門;伊勢風に傾倒、「伊勢河崎音頭」作者、「南仙録」著、
1743「みつのさま」/47「続新百韻」編/57涼袋「俳仙窟」入、
七回忌追善集「つぎほの梅」無岸編
- C3637 **梅廬**(ばいろ・竹田たけだ、高島正方3男) 1738-98 61歳 竹田蘿亭の養嗣子;1761家督継嗣;福岡藩儒、
禄3百石/藩主黒田継高より斉清まで五君に出仕、藩校創建に尽力;東学の惣受持を勤む、
その功で20石加増、1796辞職、息子復斎に家督を譲る、「筑前物産志」/1794「筑前良民伝」著、
[梅廬(;号)の名/字/通称]名;定良、字;子俊、通称;助太夫/茂兵衛/茂平、竹田春庵の外孫
- 梅廬(ばいろ・山口) → 剛斎(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者) B 1 9 1 5
梅路(ばいろ・壺井) → 義璣(よしつら・壺井つばい、里正/和学者) N 4 7 9 5

- C3638 **梅老**(棟老ばいろう・中根なかね) 1785-1841⁵⁷ 三河碧海郡平七村の名主;醸造業/質屋を営む、
俳人・尾張名古屋の士朗門、1812「はつかりつか」編/19「夏古毛里げごもり」編、
[梅老(;)号)の名/通称/別号]名;親孝、通称;又左衛門、別号;梅堂/魁齋/巢雲居/黙兮もつげい
- C3639 **梅廊**(ばいろう・堆玉園) ? - ? 江後期安藝瀬野の俳人、1826・34「堆玉園袖文庫」編、
「俳諧さむき月」編
梅郎(ばいろう・鈴木) → 荳丹(そうたん、高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8
梅楼(ばいろう・大塚) → 観瀾(かんらん・大塚おおつか、藩士/儒者) H 1 5 7 5
梅臚館主人(ばいろうかんしゅじん) → 成烈(なりてり・三橋、幕臣/文筆家) H 3 2 6 7
- C3640 **パウロ**(Yofoqen Paulo・養方軒;姓名未詳) 1508?-9588? 若狭の生/堺医、京で受洗、
1580イエズス会、1560イルマン/豊後府中コレジヨ国語教師、
キリシタン文献を翻訳:息子ビセンテと協同、「サントスの作業」聖人伝訳
参考 息子 → ビセンテはういん(びせんでほういん) C 3 7 5 0
馬雲齋(ばうんさい) → 巴江(はこう・馬雲齋、俳人) E 3 6 2 3
- K3638 **栄子**(はえこ・高橋たかはし、旧姓:丸山) 1787-1857⁷¹ 備中笠岡の生/庄屋高橋正澄まさずみ(残夢)と結婚、
国学・歌;夫の正澄門、正純まさずみの母、1822家産没収;大坂住;夫の歌塾経営で生計、
1829夫剃髪(号;残夢/晩年失明/1851没)、1857(安政4)没
ハエ子(はえこ・市田) → わへ子(わへこ・市田いちだ、歌人) 5 3 8 0
- C3641 **馬円**(馬遠ばえん・一峯齋いつぼうさい、姓;大岡おおおか)?-1810 江戸絵師:葛飾北斎門、風俗・人物画に長ず、
大阪の大岡喜藤治の養子、大坂亀山町後藤屋敷に住、1811「東鑑操物語」12「在原草紙」画、
1813「青葉笛」「和漢乃染分」「忠孝貞婦伝」/14「戌の年俄選」17「小謡童子訓」外画多数、
[一峯齋馬円(;)号)の通称] 由平/後藤治
巴翁(ばおう・三宅) → 康直(やすなお・三宅みやけ/酒井、藩主) C 4 5 3 6
- C3642 **馬桜**(ばおう・小西こにし、別号;長室)?-? 江前中期摂津伊丹の俳人;宗旦門、
1687宗旦補編「野梅集」驚動追悼句入、1702轍士「花見車」入、
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、
[夕顔に預かり手形打ちつけたり](花見車;177/預り手形は返済期日のない借用証書)
[鰯汁ぶぐじりはいかな坊主もおそれけり](伊丹発句合;冬)
馬翁(ばおう・本庄) → 宗敬(そうけい・本庄ほんじょう/藤原、茶人) G 2 5 9 6
馬角齋(ばかくさい・三村) → 春門(はるかど・三村、名主/画/狂歌) G 3 6 2 0
馬角齋(ばかくさい・松浦) → 武四郎(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親) E 2 6 3 8
馬鹿[歌]山人(ばかさんじん) → 万戸(ばんこ・金井かない、俳人) H 3 6 5 7
馬鹿人(ばかじん・山手) → 南畝(なんぼ・大田、狂歌詩) 3 2 3 3
- C3643 **博徳**(一得はかとこ・伊吉いき)? - ? 飛鳥期廷臣/659入唐、686大津皇子謀反に連座、
赦免、695遣新羅使、「伊吉博徳書」著
- H3644 **馬鹿唐名**(ばかのからな) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;468
[うれしきにしぼる涙のしつぼりと濡れてはなさぬ君の手拭]
袴田館磯水(はかまだかんきすい) → 朝喬(ともたか・宮後みやじり/度会、神職) P 3 1 6 6
- J3672 **量**(はかる・今田いまだ、通称;本兵衛) 1789-1841⁵³ 周防岩国藩士、国学・歌;熊谷直好・香川景樹門
- K3687 **謀**(はかる・溝口みぞぐち、通称;左中)?-1851 尾張愛知郡の医者、国学・歌;本居大平門
- C3644 **馬肝**(ばかん・九鳳舎/信鳥)?- ? 江後期江戸の俳人、1793芭蕉百回忌参加、
「安佐吉理」編、「はるあき乾」編/1773馬卵「双猿路談そうえんろだん」歌仙入;湖十3世中心、
[似た面の汝の作る水の月](双猿路談)
馬東(ばかん・和田) → 寧(やすし・和田わだ、和算家) B 4 5 6 1
萩右衛門(はぎえもん・大塚) → 恒徳(つねのり・大塚おおつか、藩士/歌人) F 2 9 3 8
萩雄(はぎお・長者園) → 長者園萩雄(ちやうじやえんはぎお、狂歌) I 2 8 6 2
萩垣内(はぎかいと) → 重郷(しげさと・後藤ごとう、商家/国学/歌) O 2 1 4 5
芳宜園(はぎぞの) → 枝直(えなお・加藤かとう/橋、歌人) 1 3 8 0
芳宜園(はぎぞの) → 千蔭(ちかげ・加藤かとう/橋、枝直男/歌人) 2 8 0 3
芳宜園(波支曾能はぎぞの) → 元徳(もとりのり・毛利もと/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6

- 萩園 (はぎぞの) → 千春(ちはる・三浦、国学/歌) F 2 8 2 1
萩園 (はぎぞの) → 豊正(豊雅とよまさ・中山、歌人) R 3 1 6 0
萩園 (はぎぞの) → 歌子(うたこ・中島なかじま/林、歌人) E 1 2 8 0
C3645 掃溜先生 (はきだめせんせい) ? - ? 狂詩; 1771「掃溜先生詩集」[; 1773銅脈先生「吹寄蒙求」入]
萩亭 (はぎてい) → 政子(まさこ・井上いのうえ/菅、商家妻/歌) N 4 0 3 5
萩の尼 (はぎのあま) → 栲子(まくこ・工藤どう、歌人/比丘尼) W 2 6 8 5
芽垣内 (はぎのかきつ) → 常雄(つねかつ・奥田/橋、藩士/国学者) B 2 9 9 7
萩廻花守 (はぎのはなもり) → 元徳(もとのり・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6
萩のや (はぎのや) → 源栄(げんえい・片桐かたざり、歌人) B 1 8 2 9
萩の屋 (芳宜廻舎はぎのや) → 義郷(よしさと・石井、藩士/歌人) D 4 7 4 5
萩の屋 (はぎのや) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1
萩の屋 (はぎのや) → 良本(よしもと・林はやし、藩家老/歌人) H 4 7 7 0
萩の屋 (はぎのや) → 貞暁(さだあき・柴田しばた、歌人) O 2 0 6 6
萩之屋 (はぎのや) → 智信(ともおぶ・井上いのうえ、国学/書) T 3 1 0 7
萩之屋 (はぎのや) → 憲正(のりまさ・杉森すぎいもり、藩校館長) I 3 5 7 4
萩屋 (萩廻家はぎのや) → 元克(もとえ・萩原/佐藤、国学/教育者) C 4 4 1 6
萩屋 (はぎのや) → 千頼(ちかひ・武田たけだ/三好、藩士/歌) M 2 8 8 1
萩舎 (はぎのや) → 元徳(もとのり・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6
萩舎 (はぎのや) → 直徳(なおのり・鈴木すずき、藩士/歌人) N 3 2 5 2
萩舎 (はぎのや) → 長住(ながすみ・中村なかむら、国学/歌) O 3 2 1 2
萩の舎 (はぎのや) → 善淵(よしふか・北川きたがわ、藩士/歌人) G 4 7 7 9
萩の舎 (はぎのや) → 正紳(まさのぶ・磯部いそべ、正富男/神職/歌) N 4 0 6 6
萩の舎 (はぎのや) → 近登之(ちかとし・西郷さいごう、藩士/国学) M 2 8 6 3
萩の舎 (はぎのや) → 音信(おとずれ・萩廻屋、国学/狂歌/歌) D 1 4 2 6
萩の舎 (はぎのや) → 歌子(うたこ・中島なかじま/林、歌人) E 1 2 8 0
萩の舎 (はぎのや) → 俊章(としあき・松木まつき/大神、神職/国学) W 3 1 0 7
萩廻舎 (はぎのや) → 信海(のぶみ・林、名主/国学/歌人) D 3 5 3 5
萩廻舎 (はぎのや) → 千春(ちはる・三浦、国学/歌) F 2 8 2 1
萩廻舎 (はぎのや) → 庸(よう・武井たけい、神職) N 4 7 8 2
萩廻舎 (はぎのや) → 貞暉(さだてる・星野ほしの/橋、機業/国学/歌) P 2 0 0 1
萩廻屋 (初世はぎのや) → 裏住(うらずみ大屋、狂歌) 1 2 9 8
萩野屋 (はぎのや) → 康清(やすきよ・萩野はぎの、馬術家) B 4 5 2 6
萩の屋鳥兼 (はぎのやとりかね) → 鳥兼(とりかね・2世萩の屋、裏住門狂歌) R 3 1 8 3
萩原法皇 (はぎはらほうおう) → 花園天皇(はなぞのてんのう、歌人) 3 6 2 2
萩焼法印 (はぎやきほういん) → 明禅(みょうぜん; 法諱、天台僧/浄土教) G 4 1 5 2
馬九齋 (ばきゅうさい) → 良遠(よしとお・松本まつもと/浜野、藩儒/歌/狂歌) P 4 7 2 6
C3646 波響 (はきょう・蠣崎かきざき、藩主松前資広5男) 1764-1826 63 蝦夷松前藩重臣蠣崎広武の養嗣子、
蝦夷松前藩家老、江戸出府時に画; 建部綾足・宋紫石門、兵学; 1783松前で大原呑響門、
1791上京し円山応挙門/皆川淇園・村瀬栲亭・菅茶山と交流、
1807松前藩の陸奥梁川に転封の際に家老として松前復帰に尽力、
「夷酋いしゅう列像」「釈迦涅槃図」画、「波響楼遺稿」「梅瘦柳眠舎遺稿」、
[波響(;号)の名/字/通称/別号]名; 広年、字; 世祐、通称; 金介/金助/弥次郎/将監、
別号; 杏雨/京雨/東岱/梅春舎/梅瘦舎/柳眠舎/富春舎/滄広軒、法号; 広年院
C3647 破鏡尼 (はきょうに、名; 逸/節、菅沼定常[曲翠]の妻) ?-? 和泉岸和田の生/夫は近江膳所藩士、
歌/俳人; 蕉門、筑紫箏の名手; 破鏡流創設、「播州めぐり道しるべ」著、
1713夫と和泉大和の旅「岸和田紀行」著、
1717夫が佞臣を殺し自刃/剃髪; 和泉堺に隠棲/岸和田に住、伴蒿蹊「近世畸人伝」入
波玉 (はぎよく・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂、藩士/絵師) B 3 0 9 4
萩原院 (はぎわらいん、萩原法皇) → 花園天皇(はなぞのてんのう、京極派歌人) 3 6 2 2
J3514 波吟 (はぎん) ? - ? 江前期俳人; 1693不角「一息」入

3607 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい・姓; 滝沢たきざわ/本姓; 源、旗本松平家人興義5男)1767-1848⁸² 江戸の生、
 長兄没により滝沢家7代目当主、旗本松平家の小姓、松平家を出奔; 江戸市中を転々、
 1790山東京伝門; 黄表紙を執筆/蔦屋重三郎の番頭/93履物商伊勢屋に入婿; 妻百、
 滝沢姓変えず/飯田町中坂下の家主、1802京阪に旅行; 上方板元と交渉、読本作者とし活躍、
 合巻も執筆; 晩年は眼疾のため嫁みちの代筆で創作を継続、膨大な日記を残す、長男; 宗伯、
 黄; 1791「尽用而二分狂言つかいはたしてにぶきょうげん」著(処女作)、読; 96「高尾舟字文」(読本初作)、
 1804「月氷奇縁」・07-11「椿説弓張月」、1814-42「南総里見八犬伝」15-27「朝夷巡島記」著、
 1829-32「近世説美少年録」、47合巻「女郎花五色石台おみなべしごしきせきだい」4編迄; など多数、
 「吾仏乃記」、「馬琴日記」「馬琴書翰集」「馬琴尺牘集」「曲亭馬琴家集」、外著多数
 [曲亭馬琴(;)号]の幼名/名/字/通称/別号]幼名; 倉蔵、名; 興邦おきくに/解とく、字; 吉甫、
 通称; 左七郎/佐吉/瑣吉/清右衛門/篁民、

別号; 著作堂主人/蓑笠漁隠さりゅうぎょいん/飯台陳人/玄同陳人/鸞齋らいさい/魁菴子/烏水、
 山梁/貫淵/信天翁/閑齋/愚山人/逸竹斎達竹/傀儡子/玉亭子/清友/大栄山人、
 無名子/狂齋/彫窩主人/笠翁、 法号; 著作堂隠譽蓑笠居士、 俳人羅文の弟

C3648 馬琴(ばきん・東流斎/宝井たからい) ?-? 江戸後期講釈師; 2世馬谷門、職人受け芸風/ネタの東西交流
 J3686 白(はく・太田おた、)1742-1814⁷³ 備前邑久郡の国学者; 内藤中心なかご門

[白(;)名]の字/通称/号]字; 君玉、通称; 佐伝、号; 蓬山

- 白(はく; 一字名) → 道澄(どうちよう; 法諱、天台門跡/連歌) G 3 1 4 7
- 博(はく・武田) → 兼山(けんざん・武田たけだ、医者) J 1 8 2 0
- 博(はく・加藤) → 九阜(きゅうこう・加藤かとう、医者) M 1 6 4 8
- 博(はく・須子/大郷) → 浩斎(こうさい・大郷おおごう/須子すご、儒者) G 1 9 3 2
- 博(はく・三枝) → 峻徳(しゅんとく・三枝さいぐさ、藩医/教育) L 2 1 6 8
- 博(はく・犬飼) → 松窓(しょうそう・犬飼いぬかい、農業/儒者) K 2 2 5 8
- 璞(はく・和田) → 東郭(とうかく・和田、医者) C 3 1 1 3
- 璞(はく・岡島) → 冠山(かんざん・岡島おかじま、唐話唐音学) 1 5 5 1
- 璞(はく・三村) → 石牀(石床せきしょう・三村、医/本草家) K 2 4 1 6
- 璞(はく・星野) → 熊嶽(ゆうがく・星野ほしの、儒者) B 4 6 0 2
- 璞(はく・日尾) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5
- 璞(はく・朝倉) → 荊山(けいざん・朝倉あさくら、儒者) F 1 8 7 4
- 璞(はく・壬生) → 水石(みせき・壬生みぶ、与力/篆刻家) 2 3 7 6
- 璞(はく・水原) → 未瑳子(みさこ・水原みずはら/山田、歌人) K 4 1 7 0
- 柏(はく・松岡) → 大蟻(たいぎ・松岡まつおか、藩士/俳人) B 2 6 2 1
- 柏(はく・土岐) → 新甫(しんぼ・土岐とき、本草家/諸国採薬) P 2 2 8 5
- 伯(はく・頼尾/伊藤) → 玄章(げんしょう・伊藤いとう、藩士/医者) J 1 8 9 9

C3649 ばく(・松田、2世松田和吉、岡本) ?-? 1751-81頃大阪雑俳宗匠; 51春耕「あふ夜」折句入、
 1754「除元喰」編、56書肆「両面かがみ」評入、57「誹諧耳勝手」66「続耳勝手」編、
 浄瑠璃作者; 半二の助作/1771「桜御殿五三駄」「妹背山婦女庭訓」著、
 洒落本; 「浪花色八卦」68「穴意探」著

[ばくの号]洒落本; 外山翁蘭古、俳号; 岡本律中/蘭古/蘇生庵麦鱗/北堂、浄作名; 松田ばく
 松田才二さいじと同一? → 才二(さいじ・松田浄瑠璃作者) G 2 0 7 2

麦(ばく・松沢) → 老泉(ろうせん・松沢まつざわ、書肆/典籍研究) 5 2 3 5

C3650 麦鴉(ばくあ) ?-? 武蔵川越の俳人; 1783維駒「五車反古ごしゃほうぐ」1句入、
 [乾海苔ほしのりやおぼろおぼろと海人あまが家](五車反古; 巻首128/春霞の海辺)

- 麦阿(ばくあ・佐久間) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、幕臣/俳人) D 4 9 3 3
- 麦阿(ばくあ) → 快台(かいだい・太一庵、俳人) I 1 5 9 2
- 麦阿(ばくあ・岡本) → 五休(ごきゅう・芦明庵、俳人) M 1 9 0 7
- 博愛(はくあい・高崎) → 五六(ごろく・高崎たかさき、藩士/政治家) Q 1 9 9 6
- 博愛堂(はくあいどう) → 延年(えんねん・長谷川、剣術/篆刻家) B 1 3 3 1
- 博愛堂(はくあいどう) → 玄朝(げんちよう・保倉ほくら、医者/製薬) L 1 8 4 0
- 泊庵(はくあん) → 蝶夢(ちょうむ・五升庵、浄土僧/俳人) 2 8 2 6

- 泊庵(はくあん;号) → 守道(しゅどう;法諱・泊庵、天台叡山僧) 2 1 7 4
 柏庵(はくあん・梅津) → 敬忠(よしただ・梅津/藤原、藩士/兵学) E 4 7 2 4
 伯庵(はくあん・波々伯部) → 盛郷(もりさと・波々伯部ほか、武将/連歌) F 4 4 4 3
 朴庵(はくあん;初道号) → 朴堂(はくどう;道号・祖淳そじゆん、臨濟僧) D 3 6 6 9
 莫庵(ばくあん;号) → 祖琳(そりん・莫菴;号、僧) E 2 5 5 5
- C3651 白亥(はくい・守徹しゅてつ) ? - ? 江戸末期俳人;西馬さいば門、1859「真澄の鏡」編
 博意(はくい・東久世) → 博高(ひろたか・東久世ひがしぐぜ、廷臣/歌) G 3 7 1 5
 博依(はくい・湯浅) → 明信(あきのぶ・湯浅ゆあさ、藩士/詩人) D 1 0 7 3
 伯彝(はくい・辛島/辛) → 塩井(えんせい・辛島からしま、儒者) C 1 3 1 8
 麦慰舎(ばくいしゃ) → 梅通(ばいつう・堤、俳人) B 3 6 8 2
 白一居(はくいっきよ) → 暁台(きょうたい・加藤/岸上、俳人) 1 6 3 6
- C3653 岫陰(はくいん・堀ほり/蒲生、藩医堀玄意男) 1826-83 58 代々越後村松藩医の家、村松藩士、
 儒;江戸の羽倉簡堂・杉原心齋門、帰藩;侍読/馬廻役、藩主に尊攘意見書「愛謂篇」提出;
 老臣堀右衛門から嫌忌される、蒲生姓/のち戊辰戦争で藩主直賀が官軍に追跡された時;
 岫陰は世子堀直弘を擁し官軍に謝し村松藩を救う、維新後;建議し文学所(自強館)を設置、
 学館を督す/堀に復姓、「学問の勧め」著、
 [岫陰(;号)の名/通称]名;重修/斎、通称;濟助
 白隱(はくいん・慧鶴) → 慧鶴(えかく;法諱・白隱;道号、臨濟僧) C 1 3 0 9
 白隱(はくいん・山口) → 雪溪(せつがい・山口やまぐち、絵師) E 2 4 1 5
 伯因(はくいん・有沢) → 貞幹(さだもと・有沢ありさわ、藩士/軍学者) J 2 0 9 1
 柏隱(はくいん・海老原) → 新甫(しんぼ;号・海老原、揚屋主人/俳人) 2 2 7 8
 白隱齋(はくいんさい) → 章迪(しょうてき・雨森あめのもり、医者/書・詩) G 2 2 1 6
- C3654 白羽(はくう) ? - ? 尾張熱田の俳人;1703祖月「蓬萊鳴」入
- C3655 白羽(はくう・鹿島かしま) 1696 - 1755 60歳 大阪天満の富商/俳人;紹廉門、前句付点者で活躍、
 1745「俳諧右紫」編、45「奉納安居天満宮二千句集」、47「菅神奉納独吟一日万句」矢数の成就、
 大坂の大宗匠となる、1747「五文台」編/49「除元吟」「半墨」編/50「なには筏」編、
 1751「五百句大絵馬額」/54「奉納佐保社大日堂老万句集」、「奉納春日大明神三千句集」編、
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
 追善集;「俳諧十六日」(息茶雷ちやらい撰)、[書初かきぞめや五六枚目を初めとし](俳諧右紫)、
 [白羽(;号)の通称/別号]通称;治助、別号;翅雀/十南齋
- C3656 白鳥(はくう・西村にしむら) ? - 1783 (70余歳没) 遠江金谷宿の易学者・新井白蛾門、俳人;柳居門、
 三河吉田に移住、1773「煙霞綺談」、「広易学必読」「西村白鳥随筆」「筆の儘」著
- C3657 白鳥(はくう) ? - ? 加賀松任俳人/表具師福増屋の養子嗣(俳人千代の実家)、
 1776几董「続明鳥」入:[鰐口の音暮るるまで春日かな]
- C3658 泊鳥(はくう・日岐) 1742 - ? 信濃箕輪の俳人;桐羽門、1801「寢覚草」著
 白羽(はくう・奥村) → 尚寛(なおのぶ/なおひろ・奥村、藩士/儒/歌) C 3 2 0 2
 白羽(はくう・松井/稲村) → 三伯(さんぱく・稲村/海上/松井、医/蘭学) E 2 0 6 3
- C3659 麦宇(ばくう・小川おがわ、名;致理/通称;新助、改名;寺沢友幸) 1750-1813 京の俳人・蝶夢門、
 1783頃江戸住、1806-9備後田房に滞在;俳諧・書を指導、画も嗜む、1807「雪のふる言」編
 柏雨軒(はくうけん) → 一礼(いちれい・柏・中村、俳人) B 1 1 3 1
 麦雨齋(3世ばくうさい) → 吏舩(りこう・杉本すぎもと、神職/俳人) B 4 9 0 0
 白鳥山人(はくうさんじん) → 琴路(きんろ・白崎、酒造業/俳人) I 1 6 3 7
- I3691 白云(はくうん;初号・白江しろえ、通称;玄桃/別号;醉鶯さいおう) ?-? 大坂御霊前の医者、
 俳人;西山宗因門、能書、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入、1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」入、
 1678西鶴「物種集」82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、
 [木陰をや払いきよめ伊勢桜](難波色紙;35/醉鶯名、
 払いは祓いの意を掛る/掃き清めの意;謡の[め]の呑む撥音ンメの表記)
 [寄る波のねかはにせじと津の国の鼓の滝をしたゝむと打つ](古今夷曲集;九/白云名、
 鼓の滝;有馬の名滝、波は鼓の打方/ねかは;皮が硬直し鳴らない状態/したゝむ;擬音)
- C3660 白雲(はくうん・一幻菴/袞師こんし) ?-1730 江戸の僧/俳人;以春(天王寺道寸)門/のち其角門、

1705沾徳「余花千句」入、1716宗瑞「江戸筏」独吟歌仙入、22潭北「今の月日」句跋、
1730午寂「太郎河」6吟歌仙入、追悼集「響にい」(1730歎之編)、
[遊ぶ哉かな白雲深きところてん](江戸筏第十一発句)

(「白雲深き処金竜おどる」[謡曲「放下僧」]と心太を売る夏の茶店を掛ける)

白雲(はくうん;道号)	→ 慧暁(えぎょう;法諱・白雲、臨濟僧)	1 3 5 9
白雲(はくうん;出家号)	→ 高虎(たかとら・藤堂、武将/藩主/記録)	D 2 6 3 1
白雲(はくうん)	→ 清春(きはる・菱川、絵師)	Q 1 6 1 7
白雲(はくうん)	→ 月儼(月仙げつせん・玄瑞、浄土僧/絵師)	B 1 8 1 1
白雲(はくうん)	→ 玄琢(げんたく・野間のみ/修姓;野、医者)	K 1 8 9 4
白雲(はくうん・村瀬)	→ 太乙(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者)	B 2 6 0 3
白雲(はくうん)	→ 無相(むそう;法諱・無動;字、真言僧)	4 2 8 1
白雲(はくうん・新宮)	→ 涼閣(りょうかく・新宮しんぐう/古河、蘭医)	G 4 9 8 7
白雲(はくうん・柳河)	→ 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者)	K 2 1 2 1
白雲一片斎(はくうんいつぺんさい)	→ 有年(ありとし・西村にしむら/藤原、藩士/歌)	I 1 0 2 2
白雲窩(はくうんか)	→ 台山(たいざん・広瀬、藩士/絵師/詩)	K 2 6 0 7
白雲館(はくいんかん)	→ 台洲(たいしゅう・熊坂くまさか、儒者/教育)	2 6 0 5
白雲居(はくうんきよ)	→ 武陵(ぶりよう・西尾にしお、酒造業/俳人)	E 3 8 6 1
白雲居(はくうんきよ)	→ 覚融(かくゆう;法諱・宏道、真言僧)	K 1 5 5 4
白雲軒(はくうんけん)	→ 信足(のぶたり・堤つみ、陪臣/国学/歌人)	J 3 5 2 1
白雲戸(はくうんこ)	→ 一路(いちろ・鈴木、俳人)	G 1 1 6 3

3694 白雲山人(はくうんさんじん、姓名不詳)?-? 江後期飛騨の本草家;

高山付近で救荒食の竹実採集、1832「竹実記」著

白雲散人(はくうんさんじん)	→ 宗因(そういん・白井、医/和学者)	G 2 5 0 2
白雲散人(はくうんさんじん)	→ 担庵(たんあん・伊藤、医/儒/詩歌)	2 6 8 6
白雲山人(はくうんさんじん)	→ 斗南(となん・細合ほそあい、儒/詩/書家)	O 3 1 5 8
白雲山人(はくうんさんじん)	→ 道斎(どうさい・高橋、儒者)	E 3 1 3 7
白雲山人(はくうんさんじん)	→ 万春(ばんしゅん・田中、暦算家)	H 3 6 9 7
白雲山人(はくうんさんじん)	→ 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌)	R 3 1 1 8
麦雲舎(ばくうんしゃ)	→ 波文(はぶん・山本、旅宿業/俳人)	F 3 6 6 2
白雲主人(はくうんしゅじん)	→ 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌)	3 2 7 7
白雲上綱(はくうんじょうこう)	→ 神日(じんいち;法諱、真言僧)	P 2 2 5 2
白雲堂(はくうんどう)	→ 無相(むそう;法諱・無動;字、真言僧/連歌)	4 2 8 1
白雲堂(はくうんどう)	→ 其雫(きてき・梅津忠昭、家老/俳人)	B 1 6 5 5
白雲洞(はくうんどう)	→ 燕村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師)	3 8 1 1
白雲道人(はくうんどうじん)	→ 若水((じゃくすい・稻生いのう/稻、儒/本草)	G 2 1 3 0
白雲廬(はくうんろ)	→ 若翁(じゃくおう・堀ほり、藩士/俳人)	G 2 1 0 9
白雲楼(はくうんろう)	→ 四山(しざん、愛敬あいぎょう、儒/詩人)	T 2 1 6 0
白雲楼(はくうんろう)	→ 東巖(とうがん・川上、医者)	C 3 1 3 3
白雲楼(はくうんろう)	→ 機谷(きこく・山路やまじ、儒者)	K 1 6 3 8
白雲楼(はくうんろう)	→ 東海(とうかい・大竹/浅井/岳、儒者)	B 3 1 8 9
白雲楼(はくうんろう)	→ 武陽(ぶよう・大竹/岳、東海男/漢学)	E 3 8 5 1
白雲老人(はくうんろうじん)	→ 玄琢(げんたく・野間のみ/修姓;野、医者)	K 1 8 9 4
白慧(はくえ・坂内)	→ 山雲子(さんうんし、坂内直頼、国学/歌)	E 2 0 1 2

C3661 伯英(白英はくえい;道号・徳俊/徳鶴とくしゅん;法諱、号;青丘遺老)?-1403 武州臨濟:了堂素安門/嗣法、
応安1368-75頃入明、帰国後;鎌倉円覚寺50世/鎌倉建長寺60世/京天竜寺26世、
1395(応永2)南禅寺53世、晩年;南禅寺内に大寧院開設;退隱、義堂周信・古剣妙快と交流、
「伯英録」「伯英儒禪師疏」「駢驪四十八篇」/1375「大覚禪師鏡像紀実」著

C3662 白英(はくえい・雨後亭)1684-? 1754存 陸前仙台的地誌家:

1715「金花山紀行」56「寂寞集」、「仙台名跡志」著

佐藤信要と同一? → 信要(のぶあき・佐藤、地誌「封内名蹟志」編) 3 5 7 3

- C3663 伯英(はくえい・林はやし、名;世興/通称;大進)1778-96天逝(19歳) 美濃の儒者:「伯英遺稿」
- C3664 伯英(はくえい・上街うえまち、名;邦彦)?-? 儒者/詩;1848?菊池海莊詩集「海莊集」卷二校訂
 白英(はくえい・小川) → 道則(みちのり・小川おがわ、国学/歌人) I 4 1 2 4
 白吟(白瑛はくえい・久野) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8
 白瑛(はくえい・福智/桂中楼) → 土成(つちなり・大根おおね、絵師/狂歌) 2 9 9 3
 伯英(はくえい・川井) → 立斎(りゅうさい・川井/河井、医者/歌) E 4 9 0 1
 伯盈(はくえい・泉) → 豊洲(ほうしゅう・泉いずみ、儒者) B 3 9 4 4
 伯盈(はくえい・長) → 万年(まんねん・長ちよう、儒者) K 4 0 7 9
 伯盈(はくえい・吉見) → 幸混((ゆきむら・吉見、幸和男/神職) F 4 6 7 9
 白栄堂長衛(はくえいどうちようえい) → 長衛(ちようえい・白栄堂、実録作者) H 2 8 3 8
 伯益(はくえき・荻野) → 徳輿(とくよ・荻野おぎの、医者) L 3 1 5 5
- C3665 伯円(はくえん・狩野かのう、氏宣[友益]長男)1642-172685歳 加賀前田家の絵師:江戸住、
 「御国絵図彩色仕立等覚書」著、
 [伯円(;号)の名/別号]名;景信/方信/友信、別号;意仙斎
- C3666 柏園(はくえん・横田よこた、名;茂、字;松甫/守静、通称;保兵衛)1773-184674 遠江の儒者/詩人:
 「柏園詩文集」「采藻吟草」「経済夜話」「甘仙俳徊集」著
- C3667 柏園(はくえん・後藤ごとう、名;恭/字;子恭/通称;薫平、泰実男)1800-4041 豊後速見郡野田村の豪農、
 儒者:帆足万里ばんり門/万里十哲の1、詩文;勝田季鳳と併称、富産;蔵書家、仕官せず、
 「添刪日本外史」著
- C3668 伯円(初世はくえん・松林亭しょうりんてい)1812-185544歳 江戸講釈師;伯竜門/松林派祖
- C3669 伯円(2世はくえん・松林しょうりん/東玉2世、若林義行、手島助之進男)1832/4-1905 常陸下館の生、
 江戸で講釈師;初世伯円門、白浪物が得意;「鼠小僧」など
 薄園(はくえん・小野) → 愛子(あいこ・小野、歌人) C 1 0 4 4
 泊園(はくえん・藤沢) → 東暎(とうがい・藤沢、儒学/詩/教育) C 3 1 0 2
 伯淹(伯俺はくえん・児玉) → 雅氏(まさうじ・児玉こたま、藩士/詩歌) B 4 0 3 3
 柏苑(はくえん・笠井) → 行宣(ゆきのぶ・笠井かさい、国学者) G 4 6 7 2
 柏園(はくえん・新庄) → 道雄(みちお・新庄、商人/国学/随筆) B 4 1 2 6
 柏園(はくえん・相川) → 景見(かげみ・相川あいかわ、幕臣/歌人) B 1 5 9 6
 柏園(はくえん・赤尾) → 可官(よしたか・赤尾あかお/平、官人/歌人) E 4 7 0 3
 柏園(はくえん・若林) → 友之(ともゆき・若林わかばやし、藩士/砲術) Q 3 1 8 3
 柏園(はくえん・新庄) → 道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者) B 4 1 2 6
 柏園(はくえん・柏原) → 重禧(しげよし・柏原かしわばら/藤原、神職/国学) O 2 1 0 2
 栢筵(栢延はくえん;俳名) → 団十郎(2世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) 2 6 8 9
 栢園(はくえん・清水) → 栄太郎(えいたろう・清水しみず、歌人) D 1 3 1 5
 佰筵(はくえん;俳名) → 団十郎(4世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/俳) 2 6 9 0
 白園(はくえん・知久) → 秀幸(ひでゆき・知久ちく、家老/歌人) K 3 7 1 8
 白猿(はくえん;俳名) → 団十郎(5世だんじゅうろう市川、歌舞伎役者/狂歌) I 2 6 3 1
 白猿(はくえん;俳名) → 団十郎(7世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/合卷) 2 6 9 1
 博延(はくえん・源) → 寛信(博延ひろのぶ・源みなもと、廷臣/歌人) G 3 7 7 8
 麦園(はくえん・柴田) → 花守(はなもり・柴田しばた、神道家) F 3 6 5 0
 麦園(はくえん・原田) → 瓢廬(ひょうろ・原田はらだ、商家/俳人) F 3 7 3 9
 白燕庵鴈来(はくえんあんがんらい) → 布席(ふせき・鴈来庵/伊達屋、商家/俳人) C 3 8 9 3
 白燕斎(はくえんさい) → 元浩(もとひろ・稲田いなだ、医者/国学・歌) E 4 4 1 2
- C3670 白縁斎梅好(はくえんさいばいこう・陰山/塩屋三郎兵衛、雪縁斎一好男)1737-180569 大阪の書肆;
 金西屋主人、狂歌/画/編述、
 1778「浪花のなかめ」/80「大津みやげ」/1800「狂歌雪月花」著、
 息も狂歌 → 寿好(じゅこう・玉縁斎ぎよくえんさい、狂歌) I 2 1 6 7
 → 亀好(きこう・玉縁斎、狂歌) F 1 6 3 2
- C3671 白鷗(はくおう・野水堂[軒])?-? 江前期武士;浪人/江戸品川の俳人:玄札門、
 1668「十種とくき千句」玄札と両吟、1679蝶々子「誹諧玉手箱」入、

1687一昌「丁卯ていぼう集」/88惟中「戊辰試毫」入、
 甲州移住;1693不角「一息」94不角「誹諧うたたね」/98調和「洗朱」入、
 [売り人や買ふも浮世の暮し哉](丁卯集/禍福有変)

- C3672 **白翁**(はくおう;道号・禅瓏[禅操]ぜんそう;法諱、俗姓;河合)1633-170876 美濃今川の臨濟僧:
 美濃光国寺桐峰智抱門;出家/各地行脚参禅後;桐峰の法嗣、1675尾張名古屋総見寺6世、
 1685妙心寺251世/元禄1688-1704頃尾張愛知郡上野の永弘院を中興、美濃西明寺再建、
 1693西明寺従/95要請され妙心寺に戻る、「竺華桑聯芳採摘記」「語録」著、
 [白翁禅瓏の初称/別号]初道号;栢翁・初法諱;慧超、号;寓幻子
- C3673 **白応**(はくおう・郁々堂/貞漁ていぎょ/娛渚堂)?-? 享保1716-36頃江戸の雑俳点者:貞山門;高弟、
 貞徳直系を標榜する、1711「絵入歳旦」30「続浜の真砂」「百衛もちどり」/31「蝶番ちようつがい」編、
 1747「店おろし」編
- C3674 **白翁**(はくおう・鴨田かもた、名;維章/字;煥文)1741-181171 和泉伯太藩士/儒者/詩、
 致仕後尼崎で教授、藪田元敬・高洲之幹しかんの師、
 「白翁詩集」著、「白翁先生遺稿」(1819刊)
- C3675 **白鷗**(はくおう・蘆竹庵) ? - 1864 大阪の俳人、
 1841「あしかせ集」編/42「雪花集」/54「豊草集」編
- C3676 **白翁**(白鷗はくおう・平沢ひらさわ)?-? 江後期出羽のト占家/大坂唐物町住;観相業、
 1839(天保10)「宅方明鑑」/45「家相千百年眼」/51(嘉永4)「人相千百年眼」著、
 [白翁(;号)の名/字/別号]名;勝、字;伯昌、別号;楽只館/一生観
- C3677 **白翁**(はくおう・笠原かさはら、竜斎男)1809-8072歳 越前足羽郡深見村の医者/初め儒;高野春華門、
 医;福井藩医学所济世館に修学、本草;妻木陵叟門、1829(21歳)江戸で古医方;磯野公道門、
 1832帰国;開業/西洋医学;加賀山中温泉の大武了玄門/京の日野鼎哉門;1845痘苗研究、
 1849京で種痘を実施/1853(嘉永6)福井に除痘館開設;領内の種痘普及に尽力、
 「牛痘鑑法」、1850「牛痘問答」著、
 [白翁(;号)の名/字/通称/別号]名;良、字;子馬、通称;良策、
 別号;天香楼/桂山桂窓/鉄仏/無涯堂/至誠堂、法号;白翁居士
- K3677 **白翁**(はくおう・古庄こしょう/ふるじょう、逸翁男)1838-9861 豊後国東郡姫島の塩田経営、里正、
 古庄家12代、国学・歌;物集もずめ高世門、1864下関戦争;伊藤博文・井上馨・勝海舟が来島、
 維新後;姫島の大帯おたらし八幡神社祠官/権中講義
 [白翁(;号)の名/通称]名;重明しげあき、通称;虎二とらじ

白翁(はくおう・高田)	→	正方(まさかた・高田、国学/垂加神道)	B 4 0 8 6
白翁(はくおう・田中)	→	千梅(せんばい・田中、鋳物師/俳人)	G 2 4 5 0
白翁(はくおう)	→	釣月(ちようげつ、歌人)	I 2 8 0 5
白翁(はくおう・中江)	→	晩籟(ばんらい・中江なかえ、商人/俳人)	I 3 6 5 8
白翁(はくおう;号)	→	円性(えんしょう;法諱、真宗本願寺派僧)	E 1 3 9 6
白翁(はくおう・池田)	→	要人(かなめ・池田、藩士/俳人)	O 1 5 3 2
白翁(はくおう・山村)	→	良祺(たかひ・山村、藩代官/儒/教育)	M 2 6 7 8
白翁(はくおう・加藤)	→	歩簾(ほしよう・加藤かとう、国学者/俳人)	E 3 9 2 7
白翁(はくおう・吉田)	→	澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政)	T 2 6 3 7
白翁(はくおう・朝寝斎)	→	益江(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌)	S 4 0 6 1
白翁(はくおう・和田)	→	大猪(おおい・和田わだ、神職/国学者)	E 1 4 2 6
白鷗(白応/伯応はくおう)	→	守俊(もりとし・水野みずの、藩士/文筆家)	F 4 4 9 3
白鷗(はくおう・加藤)	→	雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆)	G 2 1 0 5
白鷗(はくおう・池田)	→	光重(みつげ・池田いけだ、藩士/詩歌)	L 4 1 1 9
伯翁(はくおう・新田)	→	日信(にっしん・新田/杉岡、大僧正)	H 3 3 3 0
栢翁(栢翁はくおう・森田)	→	元夢(げんむ・森田、俳人)	D 1 8 1 1
栢翁(はくおう・加藤)	→	季充(りじゅう・加藤、国学/俳人)	B 4 9 2 2
泊鶯(はくおう・梅枝軒)	→	梅枝軒(ばいしけん・近松、浄瑠璃/評判記作者)	B 3 6 4 0
泊翁(はくおう・西村)	→	茂樹(しげき・西村、藩士/儒/兵/洋学)	C 2 1 1 6
白桜(はくおう・児島)	→	長年(ながとし・児島こじま、篆刻/日記)	3 2 1 3

- 白桜(はくおう・三好) → 元好(もとよし・三好みよし、藩士/歌人) L 4 4 5 4
 瀑翁(はくおう) → 雲淙(うんそう・鷹羽たかのほ、藩士/詩人) B 1 2 8 6
 栢翁慧超(はくおうえいちょう) → 白翁(はくおう;道号・禅瓏、臨濟僧) C 3 6 7 2
 白桜下(はくおうか) → 木因(ぼくいん・谷、俳人) 3 9 6 1
 白鷗軒(はくおうけん) → 武因(たけより・荒木田/榎倉、神職/連歌) Q 2 6 7 7
 白鷗齋(はくおうさい) → 小春(しょうしゅん・亀田、薬種業/俳人) T 2 2 0 2
 白鷗荘(はくおうそう) → 芹坡(きんば・田中たなか、儒者/藩士) J 1 6 0 7
 白鷗堂(はくおうどう) → 海音(かいおん・紀、浄瑠璃作/狂歌) 1 5 0 1
 白鷗堂(はくおうどう) → 百丸(ひやくまる・森本、俳人) 3 7 1 2
 伯温(はくおん・内藤) → 笨庵(ほんあん・内藤ないとう、儒者) E 3 9 9 0
 伯温(はくおん・成田) → 頼直(よりなお・成田なりた、藩士/藩史編) J 4 7 2 6
 伯温(はくおん・江繫) → 政陽(まさおき・江繫えつぎ、藩士/和漢学) B 4 0 5 5
 C3678 白温虎(はくおんこ) ? - ? 江前期俳人;1680松意「談林軒端の独活うど」乾卷6吟歌仙入
 C3679 白化(はくか;号) ? - ? 江中期宝暦安永1751-81頃京の俳人・樗良と交友、
 1758(宝暦8)「臂枕ひじまくら」編
 C3681 白華(はくか・菅野すげの、眞齋3男) 1820-7051歳 播磨高砂の儒者;京・江戸で和漢学修学、
 昌平黌で古賀洞庵門、播磨竜野藩儒、1851姫路藩江戸藩邸学問所教授、安積良齋らと交流、
 尊攘論を主唱;安政大獄に投獄;のち赦免;1863(文久3)藩校好古堂副督学/1865督学、
 1856-57「北游乗」、「葭玉篇」、「芸海紺珠」、「雪窓夜話」、「白華十稿」、「明律彙纂」、「史蟬解題」著、
 「北遊来出住問答」、「有位問答」、「諸家文抄」編、妻の弟亀井正盛を養嗣子とす、
 [白華(;号)の名/字/通称/別号]名;潔、字;聖與/聖典、通称;狷介けんかい、
 別号;伯和/乾齋/蕙塢けいお/天山堂主人/有所不為軒
 C3682 白華(はくか;道号・妙音;法諱、号;観翁、俗姓;井口)?-1865 京の臨濟僧;幼時に出家、
 壱岐安国寺23世断橋和尚門;得度/数十年の修行後;師の跡を継嗣;安国寺24世、
 末寺30箇寺を統括/法弟の教育に尽力/一生紫衣をつけず、詩文/書画に長ず、
 退隠後;肥前長崎の小庵で書画を楽しむ、平戸正宗寺静性庵に没、仙厓・誠拙と交流、
 1839(天保10)「白華林一枝」、「字裏活全」、「度僧復古談」、「亡名子寐語」、「老山漫筆」外著多数
 白華(はくか・杉山) → 梅園(ばいえん・杉山/楡山すぎやま、儒者/詩) 3 6 6 5
 白華(はくか・高橋) → 玉蕉(ぎよくしゅう・高橋たかはし、儒者/詩) P 1 6 0 9
 白華(はくか・畑中) → 青霞(せいか・畑中たなか、藩士/詩文) H 2 4 5 4
 白華(はくか・横山) → 政寛(まさひろ・横山よこやま、藩士/記録) G 4 0 9 7
 白華(はくか・岩月) → 良直(よしなお・岩月いわつき、藩士/歌人) L 4 7 6 8
 白華(はくか・小西) → 茂善(しげよし・小西こにし、町役/歌人) O 2 1 3 8
 白華(はくか・五条) → 為栄(ためしげ・五条ごじょう/菅原、廷臣/国学) X 2 6 0 6
 伯華(はくか・長野) → 嘉樹(よしき・長野ながの、医者) D 4 7 0 4
 伯華(白華はくか・白井) → 華陽(かよう・白;井しらい、儒者/絵師) P 1 5 5 9
 伯華(はくか・岡内) → 綾川(りょうせん・岡内おかうち、藩儒) I 4 9 5 5
 伯華(はくか・江上) → 芥洲(けいしゅう・江上えがみ、藩儒者/詩文) 5 1 3 5
 伯華(はくか・林) → 鶯溪(おうけい・林はやし、幕府儒官) C 1 4 3 7
 C3683 白蛾(はくが・新井あらい、祐勝男) 1715-92or1725-94 江戸の儒者;父祐勝(浅見綱斎門)門、
 のち菅野兼山門;朱子学修学、23歳;神田紺屋町に開塾、易学に精通、京の移住;開塾、
 1791(寛政3)加賀藩に出仕;藩校明倫堂学頭となる、1753「老子形質ろうしかたぎ」55「牛馬問」著、
 1764「秋夜草」77「白蛾秘伝書」89「闇の曙」、「白蛾草」、「古易対問」、「新井冠言」、外著多数、
 [白蛾(;号)の名/字/通称/別号]名;祐登すけたか、字;謙吉、通称;織部、別号;黄州/竜山/古易館
 伯雅(はくが・奥貫) → 友山(ゆうざん・奥貫おおくぬき/荻生、名主/救荒) B 4 6 9 1
 博雅(はくが・源) → 博雅(ひろまさ・源みなもと、廷臣/歌人) 3 7 2 7
 C3680 駁華(はくか・杉野すぎの) ? - ? 江後期京の医者/料理家、
 1802(享和2)「名飯部類」、「鮓飯秘伝抄」/03「新撰庖丁梯」著、
 [駁華(;号)の通称/別号]通称;権右衛門/権兵衛、別号;世簡
 白花庵(はくかあん) → 冬映(ふゆえい・牧、俳人) B 3 1 2 9

- 白壊(はくかい;号) → 浄空(じょうくう;法諱・慈潭、真言僧) G 2 2 2 7
 伯介(はくかい・長尾) → 景福(かげとみ・長尾、和算/歌) L 1 5 0 9
 伯懐(はくかい・横井) → 也有(やゆう・横井、藩士/俳人/詩歌) 4 5 1 7
 伯懐(はくかい・早川) → 種徳(たねのり・早川、藩士/兵学者) R 2 6 9 5
- C3684 白崖(はくがい;道号・宝生ほうしょう;法諱、普覚円光禅師/俗姓橘) 1343-1414⁷² 河内僧;高野山修行、
 鎌倉臨濟宗:至一門/大拙祖能門;嗣法、鎌倉円福寺住持、上州泉竜寺開、「白崖和尚語録」著
- C3685 白猷(はくがい;道号・穩貞おんてい;法諱、俗姓;松岡) 1675-1746 豊前宇佐郡中須賀村の曹洞僧:
 1687豊前大善寺の密道黙穩門;出家/嗣法、1706豊後安楽寺22世/1722周防泰雲寺住持、
 1780豊後玉林寺5世、1744(延享元)豊後西法寺の開山、
 「無名草」「蛾園集」1743「通幻禅師生縁考証」45「玉林白猷禅師語録」著、密雲彦契の師、
 [白猷穩貞の号] 未曾有懶子みぞうらいし
- C3686 白亥(はくがい・石坂いしざか、別号;幻化/幻花/守轍/此身堂/磊窩) ?-? 上州渋川の雲水、
 俳人;惺庵西馬門/惺庵の執筆も務める、業俳となり諸国行脚
 1858(安政5)「さきもり集」59「真すみの鏡」編、59「三ツひさご」著
- 白崖(はくがい・中村) → 嘉田(かでん・中村なかむら、儒者) O 1 5 1 1
 白華院(はくかいん・はくげいん) → 浄観(じょうかん;法諱、英彦山修験僧) H 2 2 8 8
 白牙院(はくがいん) → 日覚(にちがく;法諱、日蓮僧) B 3 3 0 2
 白柯園(はくかえん) → 喬緒(たかお・沢野さわの、詩人) L 2 6 6 0
 博学(はくがく・三枝) → 峻徳(しゅんとく・三枝さいぐさ、藩医/教育) L 2 1 6 8
 伯学(はくがく・成田) → 頼裕(よりひろ・成田なりた、藩士/文筆家) J 4 7 6 7
 伯岳(はくがく・賀茂) → 保久(やすひさ・賀茂/加茂、易学者) C 4 5 7 3
 白鶴園(はくかくえん) → 弘佐(ひろすけ・中西/度会、神職/歌) G 3 7 1 1
 白鶴園(はくかくえん) → 伯圭(はくけい・中西、弘佐男/神職/書) C 3 6 9 7
 白鶴翁(はくかくおう・堀内) → 仙鶴(せんかく・堀内、茶道/俳人) F 2 4 0 3
 白岳道人(はくかくどうじん) → 二柳(にりゅう・勝見、俳人) D 2 2 2 0
 白鶴観主(はくかくかんしゅじん) → 確軒(かくけん・林、儒者・詩人) E 1 5 6 6
 白鶴房(はくかくぼう) → 宿成(やどなり・雪木庵、宿屋/狂歌) D 4 5 8 7
 白華樵人(はくかしやうじん) → 祐吉(すけよし・師田もろた、文筆家) D 2 3 7 4
 白鶴台(はくかくだい) → 治憲(はるのり・上杉、藩主/財政改革) G 3 6 7 1
 白鶴楼隠人(はくかくろういんじん) → 良喬(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人) M 2 6 3 4
 博雅三位(はくがくのさんみ) → 博雅(ひろまさ・源みなもと、廷臣/歌人) 3 7 2 7
- C3687 白函(はくかん) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」1句入、
 [蓮はす式本切れれば淋しや寺の庭](卯辰集;277)
- 白鵬(はくかん) → 敬義(たかよし・鏡味かがみ、楽人) N 2 6 7 4
 伯奂(はくかん・草鹿) → 玄泰(げんたい・草鹿くさか、医者/詩人) K 1 8 9 1
 伯煥(はくかん・磯田) → 健斎(けんさい・磯田いそだ、儒者/書) I 1 8 9 3
 伯幹(はくかん・高) → 充国(みつくに・高こう、医者) D 4 1 3 3
 伯幹(はくかん・橋本) → 宗吉(そうきち・橋本、蘭学/蘭医) 2 5 9 8
 伯貫(はくかん・旭) → 千里(せんり・旭あさひ、儒者;徂徠学) G 2 4 7 9
 伯貫(はくかん・松宮) → 観山(かんだん・松宮/菅、兵学/儒/国学) 1 5 5 2
 伯寛(はくかん・須田) → 肃(しゅく・須田すだ、藩医/歌人) O 2 1 9 8
- I3688 柏巖(はくがん;道号・性節[性節]しやうせつ;法諱、初;天磐如石/俗姓黄) 1634-73⁴⁰ 明福建黄檗僧、
 1661(28歳)高泉らと肥前長崎に渡来;崇福寺即非門/万福寺隠元門;景福院創建、
 「即非和尚徳感集」編/「即非禅師豊州艸」編/「松陰老人随録」編/「柏巖禅師聴月集」著、
 [柏巖性節の別号] 道号;碧岬/碧巖、法諱;道節
- C3688 白崑(はくがん・稲垣いながき、長孝男) 1695-1777⁸³ 越前大野藩士/儒;梁田蛻巖・太宰春台門/経学、
 詩;高野蘭亭門、武家故実・天文・暦・仏教・医に通ず、1744(延享元)大夫/74致仕、
 「白崑詩文集」「菅原道真伝」著、「春台先生紫芝園稿」編/「斥非」校訂、
 [白崑(;号)の名/字/別号]名;長章、字;穉明、別号;葆光園、法号;白巖院
- C3689 白巖(はくがん・梅津うめづ) 1742 - 1821^{80歳} 羽後角館の儒者/秋田藩士、1794藩校明德館教授、

のち明德館詰役支配、子・孫も藩校教授、

「白巖文集」「孝経説」「韓非子考」「戦国策考」「邦内田法考」「遊雄嶋前記」「観桜花記」著
[白巖(；号)の名/字/通称/別号]名；忠常、字；君恕、通称；定之丞、別号；無二園

C3690 白巖(はくがん・野本のもと、雪巖男) 1797-1856 60 母；片山九畹女、豊前宇佐郡白岩村の儒者：
帆足万里門/万里十哲の1、1813上京；頼山陽門、帰国；1816中津藩主奥平昌暢に出仕、
1833次代藩主昌猷の侍講、1835(天保6)家督継嗣/36/近習、藩政改革上申；忌諱蟄居、
1844赦免；私塾開設、1851海防を水戸藩主徳川斉昭に献言のため江戸へ；果たせず帰郷、
子弟教育、亀井昭陽と親交、「租税新論」「福恵全書註解」「明官俗語纂」「詩書説」著、
「白巖詩文集」、「眞城先生詩集」「野本先生海防策」著、

[白巖(；号)の名/字/通称/別号]名；理てい、字；白美、通称；武三、別号；眞城山人/白巖樵夫

白巖(はくがん・白井) → 巖(いわお・白井しらい/原、神職/国学) K 1 1 3 2
伯巖(はくがん・日下くさか) → 陶溪(とうけい・日下、儒者) D 3 1 1 6
白岩翁(はくがんおう) → 幸彦(ゆきひこ・小沼おぬま、商家/国学者) F 4 6 3 4
白眼居士(はくがんこじ) → 団水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2
白眼居士(はくがんこじ) → 密(ひそか・前嶋/前島、諸学/郵便制度) C 3 7 5 5
白巖樵夫(はくがんしょうふ) → 白巖(はくがん・野本のもと、儒者/詩) C 3 6 9 0
白眼先生(はくがんせんせい) → 壽庵(じゅあん・七条、医者/詩/紀行) W 2 1 4 4
白眼台(はくがんだい) → 宗瑞(2世そうずい・広岡/菅、藩士/俳人) I 2 5 1 2
白眼台(2世はくがんだい) → 雪才(3世せつさい・2世白眼台、俳人) K 2 4 9 5
白眼台(はくがんだい) → 杉雨(さんう・寺山てらやま、俳人) L 2 0 7 7
白眼台(はくがんだい) → 月村(げつそん・寺山てらやま、俳人) H 1 8 2 1

C3691 白観堂有文(はくかんだうありふみ) ?- ? 狂歌・尾張酔竹連判者

白鷗楼(はくかんろう) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
白亀(はくき) → 白亀(はつき・平尾、俳人) F 3 6 1 0
白亀(はくき) → 白亀(はつき・飛沈斎、俳人) F 3 6 1 1
白亀(はくき) → 白亀(はつき・南条、雀亭、医/俳人) F 3 6 1 2
白亀(はくき) → 旭江(きよくこう・淵上ふちかみ、絵師) I 1 6 9 0
白気(白琪はくき) → 白亀(はつき・平尾ひらお、商業/俳人) F 3 6 1 0
白起(はくき) → 白起(はつき、俳人) F 3 6 1 3
白旗(はくき) → 子錦(しきん・船曳ふなびき、医者) B 2 1 1 4
白機(はくき・藤塚) → 凶書(ずしょ・藤塚ふじつか/源、神職) D 2 3 7 8
白基(はくき・長坂/松森) → 胤保(たねやす・松森/長坂、藩士/博学) S 2 6 1 1
伯己(はくき・日比野) → 良為(よしなり・日比野ひびの/源、商家/和算家) 4 7 2 2
伯規(はくき・安島) → 直円(なおのぶ・安島あじま、藩士/和算家) C 3 2 0 1
伯基(はくき・中西) → 忠蔵(ちゅうぞう・中西なかにし/長崎、出版) L 2 8 7 0
伯起(はくき・高/王) → 葛坡(かっぱ・高こう、漢学者) H 1 5 8 3
伯起(はくき・秋月/劉) → 橘門(きつもん・秋月、儒者) I 1 6 6 6
伯紀(はくき・疋田) → 松塘(しょうとう・疋田/藤原、藩家老/詩) R 2 2 5 5
伯亀(はくき・小宮山) → 南梁(なんりょう・小宮山こみやま、儒者) J 3 2 6 7
伯亀(はくき・三宅) → 禎卿(ていけい・三宅みやけ、儒者) 3 0 6 4
伯毅(はくき・石川) → 麟洲(りんしゅう・石川、儒者/徂徠批判) K 4 9 4 2
伯毅(はくき・徳久) → 知弘(ともひろ・徳久とくしき、藩士/和算家) Q 3 1 4 7
伯毅(はくき・中村) → 竹香斎(ちくこうさい・中村、藩士/詩文) C 2 8 9 9
伯毅(はくき・中井) → 蕉園(しょうえん・中井なかい、儒者) H 2 2 2 8
伯毅(はくき・土屋) → 鳳洲(ほうしゅう・土屋つちや、藩儒/教育) B 3 9 5 9
伯祺(はくき・大江) → 藍田(らんてん・大江おおえ、儒者/詩人) D 4 8 0 5
伯頌(はくき・東) → 夢亭(むてい・東ひがし、儒医/詩文) 4 2 9 3
伯熙(はくき・奥) → 文鳴(ぶんめい・奥おく、絵師) G 3 8 5 1
伯熙(はくき・北郷) → 資清(すけきよ・北郷きたごう、藩士/国学) I 2 3 3 8
伯熙(はくき・小西) → 松江(しょうこう・小西こにし、商家/詩人) I 2 2 7 6

C3692 白義(はくぎ・瀬上せがみ、馬来房[坊]/知足庵)?-? 江後期京の俳人・双鳧門、1805「春興」著

- 伯義(はくぎ・松岡) → 大蟻(たいぎ・松岡まつおか、藩士/俳人) B 2 6 2 1
伯義(はくぎ・幡野) → 忠孚(ただね・幡野はたの、藩士/国学者) P 2 6 5 2
伯義(はくぎ・松山) → 天姥(てんぼ・松山まつやま、藩士/書家) E 3 0 2 4
伯義(はくぎ・城) → 竹窓(ちくそう・城じょう、藩士/儒者) D 2 8 3 8
伯義(はくぎ・長久保) → 赤水(せきすい・長久保/長、地理学者) D 2 4 6 3
伯義(はくぎ・筑紫) → 義門(よしかど・筑紫、藩士/国事奔走) C 4 7 9 7
伯儀(はくぎ・大郷) → 信斎(しんさい・大郷おおごう、藩士/儒者) E 2 2 1 8
伯儀(はくぎ・樋口) → 赤陵(せきりょう・樋口ひぐち、藩儒/詩文) K 2 4 5 4
伯魏(はくぎ・太田/賀/田) → 玩鷗(がんおう・太田おた、儒者/詩人) G 1 5 1 4
伯宜(はくぎ・赤田) → 臥牛(がきゅう・赤田あかた、酒造家/儒詩) B 1 5 3 0
伯宜(はくぎ・池田) → 通斎(つうさい・池田いけだ、医者/解剖) 2 9 3 6
伯宜(はくぎ・堀口) → 松庵(しょうあん・堀口ほりぐち、地役人/書家) V 2 2 1 3
白蟻(はくぎ・小林) → 函山(かんざん・小林こばやし、漢学者) Q 1 5 8 1
伯求(はくぎゅう・合田) → 華陽(かよう・合田あいだ、漢学者) P 1 5 5 5
博久(はくきゅう・横前) → 博久(ひろひさ・横前よこまえ、国学者) M 3 7 3 2

C3693 白牛(はくぎゅう・明石庵めいせきあん、雪堂)?-1767 江中期武州神奈川の医者、俳人・吏登/蓼太門、1762「華たんす」「正花論」編/63「芙蓉の集」著/65「歳旦」編

- 博久斎(はくきゅうさい) → 国徳(くにのり・檜原ならはら、藩士/歌人) E 1 7 3 9
麦丘舎(ばくきゅうしゃ) → 眠郎(みんろう・佐藤さとう、俳人) G 4 1 9 6

C3694 白居(はくきょ・山田やまだ、画工加衛門男?) 1724-1800⁷⁷ 陸前仙台国分町十九軒の版木彫刻業、屋号;やまだや、俳人;1773名古屋の暁台門/蕪村・暁台と東山に・大魯と浪花に遊ぶ、几董とも交友、1774羅城により剃髪;白居と称す、風星庵に住、1774「片折」編、1773几董「明鳥」76「続明鳥」入、74美角「ゑぼし桶」83維駒「五車反古」入、追善集;7回忌「たまくしげ仙台の部」(雄淵編)・50回忌「さはひこめ」(一止編)、
[嵐山松の四月となりにけり](五車反古195/桜は過ぎ松の新緑の季節)、
[白居(;号)の通称/別号]通称;庄兵衛、別号;瓠形庵/丈芝坊、法号;丈芝坊白居居士

- 伯居(はくきょ・野津) → 政屋(まさいえ・野津/竹屋、藩士/歌人) J 4 0 0 7
伯挙(はくきょ・浦上) → 春琴(春葉しゅんきん・浦上/紀、絵師/詩) J 2 1 4 1
白狂(はくきょ;変名) → 支考(しこう・各務かがみ/村瀬、俳人) 2 1 1 9
白橋(はくきょ・春木) → 胥山(しよざん・春木はるき/秦、篆刻家) M 2 2 3 5
伯恭(はくきょ・皆川) → 淇園(きえん・皆川みながわ、儒者) 1 6 0 4
伯恭(はくきょ・村尾) → 嘉陵(かりょう・村尾、幕臣/紀行文) P 1 5 7 3
伯拱(はくきょ・前田) → 宗辰(むねとき・前田まえだ、藩主/和学) E 4 2 2 3
伯強(はくきょ・菅野) → 元健(もとたけ・菅野すがの、和算家) C 4 4 8 7
伯享(はくきょ・森) → 鼎(かなえ・森もり、藩士/儒/砲術) O 1 5 2 6
伯享(はくきょ・豊田) → 嘉言(よしこと/よしのぶ・豊田とよだ、国学/歌) D 4 7 2 9
伯教(はくきょ・杉) → 梅太郎(うめたろう・杉すぎ、藩士/教育) D 1 2 3 8
伯暁(はくきょ・楠本) → 端山(たんざん・楠本、藩士/儒者) I 2 6 2 1
白橋隠士(はくきょいんし) → 元道(もとみち・菅原すがわら、修験/絵師) K 4 4 1 5

3608 白玉(はくぎょく・風水軒、正親町おおきまち公通きんみち、実豊男) 1653-1733⁸¹ 母;藤原為賢女、廷臣;1677参議、93武家伝奏/95権大納言/従一位、垂加神道;1680闇斎門、正親町神道を主唱、闇斎「持授抄」編/1717「公通卿口授」26「持授抄」、「三種神器筆記」「いつくしま行幸記」、「白玉翁口授筆記」「無窮紀首巻」著、歌/狂歌;1731「雅筵がえん酔狂[吟]集」著、
吉見幸和らの師、
[風水軒白玉の名/別号]名;公通/玉・半、別号;白玉翁/晴々翁/一止/守初斎/須守霊社、法号;慧明院石峰常堅

- 白玉(はくぎょく・東条) → 英庵(えいあん・東条、洋学/兵学者) C 1 3 5 1
伯玉(はくぎょく・伴) → 侗庵(どうあん・伴はん、藩儒/詩人) 3 1 8 4
伯玉(はくぎょく・祇園) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0

- 伯玉(はくぎょく・小島) → 瑞(ずい・小島こじま、医者) 2 3 1 9
 伯玉(はくぎょく・阿部) → 縵州(けんしゅう・阿部あべ、篆刻家) J 1 8 5 2
 白玉翁(はくぎょくおう) → 白玉(はくぎょく・風水軒、正親町公通/歌) 3 6 0 8
 白玉斎(はくぎょくさい) → 典伸(みちのぶ・狩野かのう、古信男/絵師) C 4 1 2 1
 白芹(はくきん・長谷川) → 素丸(そまる・長谷川、馬光、幕臣/俳人) 2 5 2 9
 白芹(はくきん) → 白芹(はくきん・関根、其日庵5世、俳人) F 3 6 1 6
 伯勤(はくきん・建部/杉田) → 伯元(はくげん・杉田、蘭医者) D 3 6 0 2
 麦郷観(ばくきょうかん) → 庄兵衛(4世しゅうべえ・井筒屋、筒井寛治、俳諧書肆) B 2 2 4 8
 C3695 麦吟(ばくごん・凌雪亭) ? - ? 江後期近江の俳人:
 米友「おもだか集」序、1856(安政3)「よろひござ」著
 C3696 白圭(はくけい;道号・信玄しんげん;法諱)?-1530 戦国期臨濟僧・商林信佐門/法嗣、
 1515(永正12)京の東福寺住持、「白圭和尚恵日入寺法語」著
 J3612 白溪(はくけい) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」93「二息」入、
 [鳥肌は比翼の枕詞なり](千代見草/「おお寒む」は共寝の催促/比翼の鳥は長恨歌)
 C3697 伯圭(はくけい・中西なかにし、名;弘琰こうえん、弘佐ひろすけ男/本姓;度会) 1763-1839 伊勢外宮権禰宜、
 詩文/書;蒔田必器門/狩野派画、1803「集古妙蹟」校/30「草書彙略」「草書節用」著、
 [伯圭(;字)の別字/通称/号]別字;子圭、通称;此面/玄蕃/小五郎、号;佩蘭/白鶴園
 C3698 白圭(白珪はくけい・原はら、古処こしよ長男) 1794-1828 筑前秋月藩の儒者;昭陽門/藩儒、
 藩校訓導、1813家督継嗣;禄百石/馬廻組/1826(32歳)病弱のため豊前で隠居療養、
 采蘋さいひん/鳩巢の兄、
 「白圭靈篇集」「孟瀦詩抄」「孟瀦壬巳稿」「孟瀦辛巳稿」、「白圭先生詩集」著、
 [白圭(白珪:号)の名/通称/別号]名;種英、通称;瑛太郎、別号;孟瀦もうちよ
 C3699 柏奚(はくけい・喜[寄]老庵、屋号:長江屋、通称;太兵衛)?-? 加賀金沢俳人・梅室と交流、
 1836(天保7)刊「行々子」編
 白圭(はくけい・松崎) → 観瀾(かんらん・松崎堯臣、儒者) G 1 5 7 0
 白圭(はくけい・中尾) → 斉政(なりまさ・中尾なかお、和算家) I 3 2 1 5
 白圭(はくけい・田中) → 雁宕(がんとう・田中/田、儒者/詩人) R 1 5 5 8
 白圭(はくけい・大菅) → 圭(けい・大菅おおすが、国学/歌/詩人) 1 8 0 0
 白圭(はくけい・楠本) → 紫山(しざん・宋そう、楠本/南、絵師) D 2 1 7 3
 白圭(はくけい・林) → 復(ふく・林はやし、医者/国学) I 3 8 6 6
 白圭(はくけい・小谷) → 秋水(しゅうすい・小谷おたに、藩士/儒者) H 2 1 7 8
 白圭(はくけい・大村) → 純鎮(すみやす・しげ・大村、藩主/和漢学) D 2 3 9 9
 白恵(はくけい・沢田) → 吉左衛門(きちざえもん・沢田、藩士/暦算家) L 1 6 2 6
 伯恵(はくけい・佐和) → 莘斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧) O 2 2 4 4
 伯恵(はくけい・原田) → 優游(ゆうゆう・原田はらだ、医者/詩文) D 4 6 9 4
 伯桂(はくけい・橘) → 崑崙(こんろん・橘たちばな、詩人/書画) P 1 9 3 2
 伯圭(はくけい・森岡) → 武雅(たけまさ・森岡、儒詩) O 2 6 7 5
 伯卿(はくけい・石川) → 麟洲(りんしゅう・石川、儒者/徂徠批判) K 4 9 4 2
 伯卿(はくけい・青山) → 延光(のぶみつ・青山、儒者) D 3 5 4 9
 伯敬(はくけい・寺田/田) → 古江(ここう・寺田/田、商家/俳人) M 1 9 4 0
 伯敬(はくけい・梅本/川合) → 梅所(ばいしょ・川合/梅本、藩士/儒者) B 3 6 5 5
 伯敬(はくけい・中村) → 十竹(じちちく・中村なかむら、藩士/書画) U 2 1 9 3
 伯敬(はくけい・渡辺) → 昌亭(しょうてい・渡辺わたなべ、医者) K 2 2 9 7
 伯敬(はくけい・佐藤) → 蘭山(らんざん・佐藤さとう、儒者) C 4 8 3 4
 伯敬(はくけい・豊由) → 周斎(しゅうさい・豊由とよよし、和算家) X 2 1 3 6
 伯敬(はくけい・前田) → 宗恭(むねやす・前田まえだ、国学/歌人) E 4 2 2 4
 伯敬(はくけい・加藤) → 熙(ひろし・加藤かとう/佐藤、藩士/神職) I 3 7 9 9
 伯経(はくけい・村田) → 箕山(きざん・村田むらた、儒/詩歌/俳) 1 6 1 4
 伯経(はくけい・大沼) → 竹溪(ちくけい・大沼/鷺津、幕臣/詩人) C 2 8 8 5
 伯経(はくけい・村山) → 芝塙(しゅう・村山むらやま、藩士/儒者) B 2 1 2 3

- 伯経(はくけい・武田) → 熟軒(じゅくけん・武田たけだ、藩士/漢学) Y 2 1 6 7
 伯傾(はくけい・東) → 夢亭(むてい・東ひがし/清水、儒医/詩文) 4 2 9 3
 伯継(はくけい・野尻/熊沢) → 蕃山(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学) 3 6 4 2
 柏卿(はくけい・倉成) → 自嬉斎(じきさい・倉成くらなり/くらし、藩儒) Q 2 1 0 4
 麦兄(はくけい・森) → 知忠(ともただ・森もり/斎藤、国学/歌) W 3 1 7 1
 白馨居士(はくけいこじ) → 澹(あわし・村瀬むらせ、製造業/歌人) H 1 0 3 8
 伯卿女(はくけいのむすめ、西宮歌合作者) → 顕仲女(あきなかのむすめ・源、勅撰歌人) 1 0 7 6
 白華院(はくげいん;号) → 浄観(じょうかん;法諱、英彦山修験僧) H 2 2 8 8
- E3635 伯憲(はくけん・野、名;於菟、叔恭男)?-? 母;夢虎、武州巖城の生/父同様下総北条家に出仕、
 儒;豊島としま豊洲門/詩に長ず、国老と対立、28歳病没、山科稻川「思旧漫録」記事入
- D3600 柏軒(はくけん・伊沢いさむ信重/信道、通称磐安、蘭軒男) 1810-6354 備後福山医者;父門、
 1856藩主侍医、59幕府奥医師に抜擢、将軍家茂に従い上京;没、
 「柏軒雑記」「柏軒日録」「靈枢紀聞」著
- 伯猷(はくけん・水谷) → 豊文(とよぶみ・水谷みづたに、本草学) R 3 1 5 7
 伯堅(はくけん・奥平) → 華溪(かけい・奥平おくだいら、詩人) K 1 5 7 1
 伯謙(はくけん・伊庭) → 良恭(よしたか・伊庭いば/大月、国学者) L 4 7 4 6
- D3601 伯元(はくげん・坂井) ? - ? 儒者;鶯峰門、1670羅山鶯峰「本朝通鑑」編参、細井広沢の師
- D3602 伯元(はくげん;通称・杉田すぎた勤/伯勤、字;士業/別通称亮策、建部清庵男) 1763-183371 陸中一関生、
 蘭医;1778玄白門、82玄白の養子、84若狭小浜藩医、儒;柴野栗山門、1807家督;藩奥医、
 「和蘭医事問答」編、1816「観源為朝遺器本末記事」著、
 [伯元の号] 牆東しょうとう/牆東居/紫石、法号;瑤池院
- 白言(はくげん;法名) → 言経(ときつね・山科、廷臣/故実/歌、「謡抄」) 3 1 3 4
 柏源(はくげん・源) → 盛清(もりきよ・源、廷臣/歌人) F 4 4 3 5
 柏源(はくげん;道号) → 万光(まんこう;法諱・柏源;道号、曹洞僧/詩人) K 4 0 5 1
 伯元(はくげん・伊藤) → 祐胤(すけたね・伊藤いとう、藩医/儒者) G 2 3 4 3
 伯元(はくげん・藤田) → 天洋(てんよう・藤田正夫、蘭医/詩文) E 3 0 5 1
 伯元(はくげん・吉雄) → 南臯(なんこう・吉雄よしお、蘭学/医者) I 3 2 9 6
 伯元(はくげん・村山) → 拙軒(せつけん・村山/塩田、幕府医官) K 2 4 8 5
 伯玄(はくげん・川治) → 南山(なんざん・川治かわじ、儒者/詩) J 3 2 1 1
 伯言(はくげん・新井) → 直務(なおつか・新井あらい、里正/国学者) K 3 2 8 9
 伯彦(はくげん・藤井) → 柳所(りゅうしょ・藤井ふじい、藩儒者) E 4 9 6 0
 泊元(はくげん・小泉) → 良斎(りょうさい・小泉こいずみ、儒者/詩人) H 4 9 6 5
 白玄翁(はくげんおう) → 守臣(もりおみ・中村なかむら、国学者/神道) F 4 4 2 3
 伯顕仲(はくけんちゅう) → 顕仲(あきなか・源、廷臣/笙/歌人) 1 0 0 8
- D3603 博古(はくこ/ひろふる?ひろひさ?・博右ひろみぎ?/ひろすけ?・藤原、在衡[892-970]男)?-? 平中期従五上備中介、歌、
 960天徳四年内裏歌合参/同参加の按察更衣・藤原国光の兄弟姉妹
- D3604 柏子(はくこ・西川にしかわ、初名;菊、鈴木正直女) 1753-180452歳 江戸の歌人、
 彦根出身で丹波綾部藩出仕の儒医西川国華こっか(元章)の妻/綾部に住、
 「遺香集」(柏子の遺稿;1805夫の国華が編刊)、歌;[彦根歌人伝・亀]入
- 璞乎(はくこ・田村/照井) → 長柄(ながら・照井てい、医/神職/国学) G 3 2 6 0
 伯虎(はくこ・片岡) → 喜平治(きへいじ・片岡かたおか、藩士/経済) L 1 6 8 6
 伯虎(はくこ・大熊) → 秦川(しんせん・大熊おおくま、眼科医/詩人) P 2 2 1 3
 伯固(はくこ・間) → 重新(じゅうしん・間はざま、商家/天文家) X 2 1 6 5
 伯固(はくこ・飯淵) → 櫟堂(れきどう・飯淵いひぶら、藩士/詩人) 5 1 8 2
 伯顧(はくこ・三井) → 丹丘(たんきゅう・三井みつゐ、医者/絵師) T 2 6 2 8
 伯後(はくこ・山口) → 素絢(そけん・山口やまぐち/橋、絵師) D 2 5 6 8
 博古(はくこ・横前) → 博久(ひろひさ・横前よこまえ、国学者) M 3 7 3 2
- D3605 白臯(はくこう・斎藤さいとう謙) 1754-182774歳 上総土睦村儒者;「初学提要」「本朝史略」「文集」著
- D3606 柏光(はくこう・千秋亭、千秀亭)?-? 尾張名古屋御園町5丁目東側の俳人;雑俳、
 1849「多満かしは初編」編/49「狂俳多満嘉志波」著

白鵠(はくこう・大矢)	→	白鵠(はくこう・大矢おおや、俳人)	F 3 6 2 0
白香(はくこう・小花)	→	作之助(さくのすけ、小花おばな、幕臣/小笠原開発)	H 2 0 2 7
伯綱(はくこう・岩田)	→	紐(ちゅう・岩田、藩士/詩人)	F 2 8 6 9
伯綱(はくこう;字・永原)	→	南山(なんざん・永原ながはら、儒者)	J 3 2 0 4
伯綱(はくこう・中根)	→	鳳河(ほうか・中根なかね、藩儒者)	3 9 2 5
伯綱(はくこう・橋本)	→	左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家)	K 2 0 6 1
伯綱(はくこう・伊達)	→	宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌)	D 4 2 5 4
伯厚(はくこう・家長)	→	韜庵(とうあん・家長いえなが、儒/詩人)	3 1 8 5
伯厚(はくこう・松本)	→	勝雄(かつお・古瀬、幕臣/狂歌)	C 1 5 4 1
伯厚(はくこう・三浦)	→	鳩邨(きゅうそん・三浦みづら、医者/儒者)	M 1 6 7 8
伯厚(はくこう・橋本)	→	徳光(のりみつ・橋本はしもと、町役/歌人)	J 3 5 6 2
伯高(伯厚はくこう・佐々木)	→	方壺(ほうこ・佐々木ささき/渡辺、儒者)	F 3 9 1 5
伯行(はくこう・津田)	→	東巖(とうがん・津田、藩士/儒者)	C 3 1 3 4
伯行(はくこう・脇田)	→	信親(のぶちか・脇田、医者)	B 3 5 9 9
伯行(はくこう・中村)	→	篁溪(こうけい・中村なかむら、儒者/詩文)	G 1 9 2 3
伯行(はくこう・永田)	→	西河(せいか・永田ながた、儒者・書家)	H 2 4 5 3
伯行(はくこう・谷)	→	了閑(了寛りょうかん・谷たに、藩医)	G 4 9 9 5
伯行(はくこう・華岡)	→	青洲(せいしゅう・華岡はなおか、外科医)	I 2 4 6 2
伯光(はくこう・葉袋)	→	重暉(しげあき・葉袋みない、藩士/詩人)	Q 2 1 5 2
伯弘(はくこう・丹羽)	→	思亭(してい・丹羽にわ、儒者/家塾教育)	V 2 1 1 8
伯孝(はくこう・阿部)	→	松園(しょうえん・阿部あべ、藩士/儒者)	F 2 2 5 4
伯孝(はくこう・藤川)	→	三溪(さんけい・藤川ふじかわ、藩士/尊攘)	M 2 0 0 8
伯康(はくこう・岡村)	→	義比(よしちか・岡村おかむら、藩士/詩/書)	E 4 7 5 1
伯恒(はくこう・山県)	→	棠園(とうえん・山県やかた、藩士/儒者)	B 3 1 4 6
伯恒(はくこう・檜田)	→	北岸(ほくがん・檜田/平、儒医/詩人/花)	C 3 9 9 8
伯蛟(はくこう・小林)	→	辰(たつ・小林こばやし、医者)	R 2 6 5 2
伯鴻(はくこう・松林)	→	飯山(はんざん・松林まつばやし、儒者)	H 3 6 8 4
伯衡(はくこう・前田)	→	利保(としやす・前田、藩主/本草/歌)	O 3 1 0 1
伯剛(はくこう・新納)	→	時升(ときます・新納にいろ、藩士/詩文)	K 3 1 0 6
伯耕(はくこう・良野)	→	華陰(かいはん・良野よしの/良/新名、儒者)	E 1 5 4 8
泊高(はくこう・森/清原)	→	雄風(おかせ・清原きよはら・森、医者/歌)	1 4 3 2
博高(はくこう・東久世)	→	博高(ひろたか・東久世ひがしぐぜ、廷臣/歌)	G 3 7 1 5
博高(はくこう・久米)	→	博高(ひろたか・久米くめ、藩士/国学者)	G 3 7 2 1
博高(はくこう・明石)	→	博高(ひろあきら・明石あかし、医者/殖産家)	L 3 7 9 4
白光軒(はくこうけん)	→	則胤(のりたね・阿埜あの/阿部、軍学/天文)	F 3 5 0 1
白虹斎(はくこうさい)	→	徳内(とくない・最上もがみ、探検家/紀行)	L 3 1 2 5
白后斎(はくごうさい)	→	貞因(ていゐん・榎並/永田/鯛屋、俳人/狂歌)	3 0 0 1
麦袴園(ばくこえん)	→	曾平(そへい、俳人)	E 2 5 3 2
博古堂(はくこどう)	→	臣吉(おみよし・宮川みやがわ、書肆/国学)	E 1 4 1 7
白谷(はくこく・仁科)	→	白谷(はくこく・仁科、儒者)	F 3 6 2 2
博古斎(はくこさい)	→	正義(まさよし・殿村、篆刻/書家)	I 4 0 5 2
麦五斎(ばくごさい・塚田)	→	与右衛門(よえもん・塚田、蚕種家/俳人)	B 4 7 6 8
博古知今堂(はくこちこんどう)	→	雅嘉(まさよし・尾崎、国学/歌人)	4 0 2 4
白壺堂(はくこどう)	→	白壺堂(はくこどう、台界たいがい、俳人)	F 3 6 2 3
麦湖楼(ばくこうろう)	→	古山(こざん・森川、俳人)	C 1 9 6 7
伯佐(はくさ・武田)	→	熟軒(じゅくけん・武田たけだ、藩士/漢学)	Y 2 1 6 7
白沙(はくさ/はくしゃ・東)	→	沢瀉(たくしゃ・東ひがし、藩士/儒/尊王)	E 2 6 2 2
白沙(はくさ/はくしゃ・都賀)	→	庭鐘(ていしょう・都賀つが、医者/唐話/読本)	B 3 0 2 0

K3695 莠(はぐさ・横田よこた、) 1832 - 1899 68 越前大野藩士;儒者;江戸安井息軒門/昌平黌入学、藩校明倫館教授兼幹事、維新後;福井師範教諭/明倫中学校長、

[莠(;名)の初名/字/通称/号]初名;重敏、字;子行、通称;権蔵、号;養浩/乱苗

D3607 伯齋(伯濟はくさい・千村ちむら、字;廷美/通称;多門、重矩男)?-1754 尾張藩士/参政/儒;松平君山門、
[張州府志]編修総裁、1748朝鮮通信使と唱和、「蓬左賓館集」「瓊華洞稿」著、
[伯濟(齋)の号] 華不注山人/水竹居主人

D3608 白齋(はくさい・峰村みねむら、藤兵衛の長男)1772-1851⁸⁰ 信州水内郡石村の農業、俳人、妻;ミナ、
初め峯村久左衛門に就学/漢学;長秀院月山発明和尚門、仏教に関心、俳諧;長野の猿左門、
長翠・何丸・一茶と交流/一茶の影響大;北信濃に一大勢力を築く、俳画/書にも長ず、
1851(嘉永4)「ながいきぐさ」著、追善集「花の佛」「花の滴」、
[白齋(;号)の通称/別号]通称;清蔵/仙蔵、別号;古扇/古仙/古僊/寒岳園、
法号;寒岳庵釈義敬

薄齋(はくさい・黒川) → 春村(はるむら・黒川、商人/狂歌/国学) 3 6 3 8
白齋(はくさい・阿部) → 縑州(けんしゅう・阿部あべ、篆刻家) J 1 8 5 2
白哉(百哉はくさい) → 暮来(ぼらい・岡崎おかざき、俳人) E 3 9 7 9
伯齋(はくさい・渡辺) → 為俊(ためとし・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 0
柏齋(はくさい・富島) → 邦道(くにみち・富島とみしま、商家/歌人) E 1 7 3 7
璞齋(はくさい・黒崎) → 洗心(せんしん・黒崎くろさき、儒者/詩人) M 2 4 6 6
八郎兵衛(はちろべゑ・中村) → 樸齋(ちようさい・6代中村宗哲、塗師) L 2 8 4 8

J3644 猿齋(ぼくさい・7代中村宗哲、5代宗哲豹齋2男)1798-1846⁴⁹ 千家十職の塗師;
1815兄の6代宗哲樸齋より家督を譲られ7代宗哲を継嗣、形物塗師職人;茶道具漆器製作、
代表作;「名取川硯箱」「夕顔台皆具」(浄雪・7代浄益・旦入合作)、
[猿齋(;号)の幼名/通称/別号]幼名;槌六、通称;八兵衛/八郎兵衛、別号;得玄/黒牡丹

莫作庵(ぼくさくあん) → 三水(さんすい・莫作庵、俳人) M 2 0 4 2
白沙村翁(はくさそんおう) → 烏洲(うしゅう・金井かない、儒者/絵師) B 1 2 7 5

D3609 栢山(柏山はくざん・多湖たこ、藩儒多湖赤水男)1680-1753⁷⁴ 儒(家学);父門、のち林鳳岡・榴岡門、
代々美濃戸田家に出仕、美濃加納藩儒/藩主移封;山城淀・志摩鳥羽・信濃松本藩に移住、
松本藩儒として活躍、詩/書画に長ず、新井白石/梁田蛻巖(いづみ)・江村北海/伊藤東涯と交流、
「本藩系譜」「韓使贈答集」編/「栢山集」「栢山和歌集」「温故堂遺事」「多湖氏遺訓」著、
[栢山(;号)の名/字/通称/別号]名;安、字;玄泰/玄岱、通称;新五郎、別号;/賜門亭

D3610 柏山(はくざん・石川いしかわ、名;信義/園智、通称;勘介)1665-1732⁶⁸ 出羽書家;佐々木志津麿門、
青山家右筆、藩命で「六論衍義大意」浄書、1724「初学筆要集」書/「初学墨宝」書

D3611 伯山(初世はくざん・神田かんだ、名;定吉、姓;齋藤)?-1873^{殺害} 武蔵川崎の生/講釈師・初世伯竜門、
2世神田伯竜(伯鶴)・初世松林亭伯縁の弟弟子、「天一坊談」を得意とす、神田派の祖、
1860「源九郎義経一代記」著、1870門弟伯勇に[伯山]を譲り隠棲、
門弟;初世木偶坊伯鱗・伯勇(2世伯山)・3世伯竜など

D3612 白山(はくざん・高橋たかはし、確齋の長男)1836-1904⁶⁹ 儒者;父門/1851中村黒水門、
信州高遠藩校進徳館助教/1861-62頃江戸の藤森天山門/1863進徳館師範代、
維新の頃主張が過激過ぎるとして追放/各地で私塾開設、
1864「白山楼詩鈔」「兜城詩輯」「詠註千絶」「作文熟字抄」「白山詩文集」著、
[白山(;号)の名/字/通称]名;直太郎/利貞、字;子和、通称;敬十郎

白山(はくざん・平賀) → 蕉斎(しょうさい・平賀ひらが、詩人) S 2 2 3 3
白山(はくざん・恩田) → 蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者) 1 8 9 7
白山(はくざん・中根) → 元珪(元圭げんけい・中根なかね、暦算家) B 1 8 6 3
白山(はくざん・伊勢) → 茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学) B 2 1 9 8
白山(はくざん・雨森) → 章迪(しょうてき・雨森あめのもり、医者/書・詩) G 2 2 1 6
白山(はくざん・高橋) → 易治(やすはる・高橋/岡、藩士/手記) C 4 5 6 9
博山(はくざん・田中) → 重好(しげよし・田中たなか、郷学;教育) T 2 1 1 5
白山園(はくざんえん) → 蕉斎(しょうさい・平賀ひらが、詩人) S 2 2 3 3
白山化三(はくざんかさん) → 金鷲(金峨きんが・梅亭、吉田/瓜生、戯作者) D 1 6 8 3
白山人(はくざんじん) → 金鷲(金峨きんが・梅亭、吉田/瓜生、戯作者) D 1 6 8 3
柏山人(はくざんじん) → 如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩) C 2 2 8 3

- 白山人北為(はくさんじんほくい) → 北為(ほくい・葛飾/深尾、絵師) C 3 9 8 7
 白山老人(はくさんろうじん) → 玄武坊(げんぶぼう・神谷かみや/水野、俳人) C 1 8 9 9
- D3613 薄芝(はくし) ? - ? 江前期尾張の俳人;1689「あら野」/91「猿蓑」各1句入、
 [あらけなや風車がぐるま売る花のとき](あら野;巻一/あらけなし;なんと乱暴だ/花に風)
- D3614 伯之(はくし) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」2句入、
 [ひよくひよくと人跡ひとあとに鳴く水鶏ひな哉](卯辰集190/ぴよこぴよこと飛びはね鳴く)
- J3600 白史(はくし) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入、
 [子の為に乳房となれよ骨の舍利](二葉之松336、妻の死)
- D3615 白支(はくし) ? - ? 江前期尾張愛知郡高畑村長久寺の住僧、
 俳人・荷兮門、1699撰集「春草日記」編、東鷲と交流
- D3616 白獅(はくし) ? - ? 江戸俳;1700其角「三上吟さんじょうぎん」芭蕉7忌追善歌仙入、
 1704序令「のぼりづる」入;序令沾洲らと上方行脚
- D3617 薄帯(薄子はくし・別号;月津げしん) ?-? 江中期加賀小松俳・伊勢の八菊と交友、
 1715(正徳5)刊「此格集」編
- D3618 白糸(白糸はくし) ? - ? 江中期備後鞆の俳人・
 1725(享保10)四国行脚:「花野之枕」編
- D3619 白枝(はくし・古梅園) ? - ? 大和奈良の俳人:1763涼袋「古今俳諧明題集」40句入
 白子(はくし・稻垣) → 妙智尼(みょうちに;法号、稻垣諏訪子/歌人) G 4 1 5 8
 白豕(はくし・滝) → 牛郷(うしさと・滝たき/柳田、藩士・歌人) E 1 2 7 7
 伯止(はくし・権藤) → 百々丸(ももまる・権藤ごんどう/別府、医者/歌) I 4 4 9 2
 伯祀(はくし・北川) → 祭魚(さいぎょ・北川きたがわ、俳人) G 2 0 6 4
 伯師(はくし;道号) → 祖稜(そりょう;法諱・伯師;道号、臨濟僧) E 2 5 5 3
 伯思(はくし・川波) → 素行(もとゆき・川波かわなみ、国学者) E 4 4 6 2
 伯熾(はくし・那波) → 南陽(なんよう・那波なば、儒者) 3 2 4 2
 伯孜(はくし・青地) → 兼山(けんざん・青地あおち/あおち、藩士/儒者) B 1 8 9 4
 白翅(はくし) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5
 伯耳(はくし・富田) → 王屋(おうおく・富田とみだ、儒/詩賦・天文) C 1 4 3 3
 伯耳(はくし・五味) → 釜川(ふせん・五味ごみ、医者/儒詩) D 3 8 0 2
 伯時(はくし・立原) → 翠軒(すいけん・立原たちばら、儒者/藩士) 2 3 0 1
 白紙関(はくしかん) → 崇広(たかひろ・吉川よしかわ、医者/俳人) N 2 6 0 6
 麦蒔舎(ばくじしゃ) → 一叟(いっそう・並木・飛鳥園2世、俳人) B 1 1 5 6
 伯実(はくじつ・宮城) → 春意(しゅんい・宮城/宮木、神道/儒者) M 2 1 3 7
 伯実(はくじつ・竹村) → 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8
 伯実(はくじつ・小原) → 大丈軒(だいじょうけん・小原おはら/伴、儒者) B 2 6 6 3
 柏日庵(はくじつあん) → 立砂(りゅうさ・今日庵、元夢門俳人) D 4 9 9 7
 白日庵(はくじつあん) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/歌・俳) 1 6 9 8
 白日園花濤(はくじつえんかとう) → 寛至(ひろゆき・浜中はまなか、国学者/歌) K 3 7 6 5
 白日堂(はくじつどう) → 程巳(ていい・朝倉、藩士/俳人) 3 0 2 8
 白砂(はくしや・吉田) → 兼亮(かねすけ・吉田よしだ/藤原、浪士;討入) W 1 5 1 4
 白沙(はくしや・東) → 沢瀉((たくしや・東ひがし、藩士/儒/尊王) E 2 6 2 2
 白沙(はくしや・都賀) → 庭鐘(ていしょう・都賀つが、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0
 白雀亭(はくじゃくてい) → 鼠劣(ねづせつ・栗原くりはら、俳人) 2 5 7 4
 白沙翠竹江村舎(はくしやすいちくこうそんしゃ) → 青谷(せいこく・宮崎、藩士/儒者/画) I 2 4 1 4
 白酒(はくしゅ) → 桃月庵白酒(とうげつあんはくしゅ、嘶本作者) D 3 1 2 8
- D3620 伯寿(柏寿はくじゅ:通称、姓;津江つえ) ?-? 江後期江戸医者/1795鷹山ようざんに招聘;米沢で痘瘡治療、
 1795「痘瘡心得書」、「痘瘡予薬並除洗方」著
- D3621 伯寿(はくじゅ・橋本はしもと) ? - ? 江後期文化1804-18頃甲州八代郡市川大門村の医者、
 初め漢方/のち江戸・長崎で蘭医:吉雄耕牛門/蘭学;中野柳圃(志筑忠雄)門、
 痘瘡・麻疹・梅毒・疥癬が伝染病であることを主唱;伝染病研究の第一人者、
 蘭医学の地方普及に貢献、田中見竜・川手見貞の師、

1809「断毒論」14「国字断毒論」、「海関詠物詩集」「省方類鑑」「節齋医話」著

[伯寿(；字)の名/別字/号]名；徳、別字；保節、号；三巴/節齋

伯受(はくじゆ・狩野)	→ 永納(えいのう・狩野、絵師)	1 3 4 4
白寿(はくじゆ・最上)	→ 義光(よしあき・最上もがみ/源、藩主/連歌)	B 4 7 8 6
伯寿(はくじゆ・加藤)	→ 忠俊(ただとし・加藤、里正/国学/歌人)	F 2 6 9 6
伯寿(はくじゆ・坂本)	→ 天山(てんざん・坂本、砲術/詩)	D 3 0 5 7
伯寿(はくじゆ・伊東/執行)	→ 玄朴(げんぼく・伊東、蘭医)	M 1 8 3 9
伯寿(はくじゆ・伊東)	→ 華山(かざん・伊東いとう、儒/医者)	L 1 5 7 1
伯寿(はくじゆ・喜田)	→ 華堂(かどう・喜田きだ、絵師)	O 1 5 1 9
柏樹(はくじゆ・岡本)	→ 秋暉(しゅうき・岡本おかもと、絵師)	H 2 1 0 4

D3622 柏舟(はくしゅう；道号・宗趙そうじょう；法諱、号；与派) 1416-9580 近江の臨濟僧：近江永源寺で出家、傑岩禅偉門/のち嗣法、下野足利学校に遊学；同校1世の座主快元門；周易を修学、1469近江に帰り曹源寺住持/83永源寺住持、1477「周易抄」、「周易要事記」著

D3623 柏州(はくしゅう；道号・浄秀じょうしゅう；法諱)？-？ 江前期黄檗僧：1688(元禄元)覚照元宗門/法嗣、1721「覚照和尚語録並行由」編、「禅余適稿」編

D3624 薄洲(はくしゅう・吉田よしだ) 1701-1772 72歳 羽後秋田藩士/儒詩：入江南溟門、「比同集」著、「薄洲遺稿」、
[薄洲(；号)の名/字/通称]名；里仲、字；少室/小室、通称；藤右衛門

D3625 栢舟(はくしゅう・布川ぬのかわ) 1707- ? 江戸の俳人：江戸座の一漁/のち馬光門、諸国遊歴、杉風に会い伝書を閲す/1764頃竹阿を慕い大阪住、1768(明和5)「俳諧六指」「俳諧十四体」/95「俳諧通俗志注」、「切紙秘伝良薬抄」著
[栢舟(；号)の別号] 千亮(；初号)/宗我/紫江坊/栢舟舎

D3626 白洲(はくしゅう) ? - ? 江中期俳人、1733俳論「短綆録たんこうろく」著；支考「俳諧十論」を論難

D3627 柏州(はくしゅう；法諱・石沢せさたく；道号) 1805-9288 薩摩出水の臨濟僧：大慈寺住職、「石沢柏州手記」著

D3628 白秀(はくしゅう・桂光院) ? - ? 江後期加賀金沢の時宗玉泉寺14世(1823退)：連歌作者；「賦物連歌錦之書」著

白洲(はくしゅう・岡)	→ 澹斎(たんさい・岡、医/儒/本草)	T 2 6 4 8
白周(はくしゅう・宮坂)	→ 久寛(ひさひろ・宮坂みやさか、商家/国学者)	L 3 7 4 3
伯修(はくしゅう・根本)	→ 武夷(ぶい・根本ねもと、儒者)	3 8 3 0
伯修(はくしゅう・菊池)	→ 南陽(なんよう・菊池、儒者)	3 2 4 4
伯修(はくしゅう・渡邊/上野)	→ 霞山(かざん・上野うえの、儒者)	L 1 5 6 9
伯修(はくしゅう・守田)	→ 通敏(みちとし・守田もりた、藩士)	B 4 1 9 9
伯脩(はくしゅう・国栖/世古)	→ 景雷(けいらい・国栖くず/世古、漢学者)	G 1 8 7 6
伯脩(はくしゅう・谷田)	→ 輔長(すけなが・谷田たにだ、絵師)	G 2 3 7 5
伯就(はくしゅう・千村/千/村)	→ 鷺湖(がこ・千村ちむら、藩士/儒者)	C 1 5 0 1
伯周(はくしゅう・松下)	→ 圃丈(ほじょう・松下まつした、医者/俳人)	E 3 9 2 8
伯周(はくしゅう・阿部)	→ 有清(ありきよ・阿部、和算家/天文)	F 1 0 3 2
伯周(はくしゅう・世継)	→ 直員(直負なおかず・世継よつぎ、商家/絵師)	P 3 2 2 4
伯緝(はくしゅう・河田)	→ 熙(ひろむ・河田、幕臣/渡欧)	F 3 7 9 4
伯楫(はくしゅう・並河)	→ 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、儒者)	G 1 5 4 7
博秋(はくしゅう・志賀/岩崎)	→ 博秋(ひろあき・岩崎いわさき、藩士/和算)	F 3 7 4 7

D3629 柏十(はくしゅう) ? - ? 江戸の俳人、1696大和・上方行脚；東潮「平包」入

伯重(はくしゅう・月形)	→ 漪嵐(いらん・月形つきがた弘、藩士/儒者)	I 1 1 3 6
伯重(はくしゅう・阿部)	→ 照任(輝任てるとう・阿部あべ、本草家)	E 3 0 6 9
伯柔(はくしゅう・岡田)	→ 眞吾(しんご・岡田おかだ、藩士/儒者)	O 2 2 2 7

D3630 麦秀(ばくしゅう) ? - ? 摂津伊丹の俳人、1714月尋「伊丹発句合」参加、
[菜の花のすたれに登る朝日哉](伊丹発句合；六番)

D3631 麦洲(ばくしゅう・多田ただ) 1726- 1804 79歳 能登鳳至郡鶴川の医者；1751京で山脇東洋門、

1754江戸で経詩;三浦瓶山門/俳諧;建部涼袋[綾足]門、1756武蔵青梅で医業/58帰郷、
1759金沢象眼町で医業/1774(安永3)再帰郷;晩年を送る、1758「桃八僊」編
[麦洲(;)号)の名/字/通称/別号]名;齊村、字;士礼、通称;周平、別号;青華楼

莫愁庵(はくしゅうあん) → 鶯卿女(おうけいじょ・守村[邨]もりむら、俳人) 1 4 4 7
白舟子(はくしゅうし) → 橘庵(きつあん・田宮、儒者、洒落本) I 1 6 6 4
栢舟舎(はくしゅうしゃ) → 栢舟(はくしゅう・布川、俳人) D 3 6 2 5
泊舟亭(はくしゅうてい) → 持資(もちすけ・太田、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7
栢舟堂(はくしゅうどう) → 文露(ぶんろ・中川、俳人) G 3 8 8 4
栢樹園(はくじゅえん) → 鍋盛(かせい・下郷しもさと、商家/俳人) M 1 5 6 2
伯叔(はくしゅく・小林) → 辰(たつ・小林こばやし、医者) R 2 6 5 2
栢寿斎(はくじゅさい) → 末眞(すえまさ・車館くるまでと/和田、神職/茶人) F 2 3 6 3
伯述(はくじゅつ・小西) → 澹斎(たんさい・小西、藩士/儒者/地誌) I 2 6 1 8
白寿坊道元(はくじゅぼうどうげん) → 信我(しんが・野村のむら/本姓;源、俳人) N 2 2 5 7
伯濬(はくしゅん・長尾) → 分哲(ぶんてつ・長尾ながお、幕府奥医師) G 3 8 2 7
白純(はくじゅん;字) → 秦岡(しんげい;法諱・白純、浄土僧/詩) O 2 2 0 6
白隼(はくじゅん・南部) → 畔李(はんり・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0
伯純(はくじゅん・小池) → 桃洞(とうどう・小池こいけ、儒者/暦算) G 3 1 7 5
伯惇(はくじゅん・益戸) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7
伯順(はくじゅん・関) → 延陵(えんりょう・関せき、医者) 1 3 5 0
伯順(はくじゅん・小沢) → 郷助(ごうすけ・小沢おざわ、儒/兵学者) K 1 9 0 3
伯順(はくじゅん・土井) → 董盈(ただみつ・土井どい、国学・歌人) Y 2 6 3 7

D3632 白嶼(はくしょ・有馬ありま) 1735- 1817 83歳 肥後八代の儒者;熊本藩校時習館に修学、藩儒;
1760時習館読師/のち訓導助教/禄百石、詩;壺梁門、屢々江戸に祇役、細井平洲らと交流、
1777(安永6)「有馬先生荏土美耶計えどみやげ」、「白嶼詩稿」著、

[白嶼(;)号)の名/字/通称]名;成/常清(つねきよ、字;元章、通称;源内

伯女(はくじょ・神祇伯源頭仲女) → 堀河(ほりかわ・待賢門院、歌人) E 3 9 8 2
伯恕(はくじょ・月田) → 蒙斎(もうさい・月田つきだ、藩儒;崎門学) 4 4 5 4
伯裳(はくしょう・舟木) → 杏庵(きょうあん・舟木ふなき、医者/詩文) N 1 6 2 7
伯昭(はくしょう・伊達) → 村候(むらとき・伊達だて、藩主/改革/歌) D 4 2 1 7
伯照(はくしょう・丹羽) → 桃溪(とうけい・丹羽にわ/修姓;丹、絵師) D 3 1 1 4
伯章(はくしょう・横井) → 時文(ときぶみ・横井、藩士/儒者) K 3 1 0 0
伯章(伯松はくしょう・矢尾板) → 拙谷(せつこく・矢尾板やおいた、藩医/儒者) K 2 4 9 0
伯章(はくしょう・綾部) → 綱斎(けいさい・綾部あやべ、儒者/詩歌) E 1 8 6 6
伯章(はくしょう・中島) → 撫山(ぶざん・中島なかじま、儒者/教育) C 3 8 3 6
伯昌(はくしょう・平沢) → 白翁(はくおう・平沢ひらさわ、卜占家) C 3 6 7 6
伯祥(はくしょう・鹿子木) → 量平(りょうへい・鹿子木かのこぎ、庄屋/勸農家) J 4 9 3 5
伯瀟(はくしょう・伊藤) → 清澄(きよすみ・伊藤いとう、和算家) 1 6 8 9
博昌(はくしょう・金野) → 博昌(ひろまさ・金野きんの/横前、国学者) J 3 7 3 2

D3634 伯慎(はくしん・横田よこた) ? - ? 江後期上州の儒者;山本北山門、子弟教育、
「韓非子闡かんびしせん」「墨子闡」著、若くして没、

[伯慎(;)字)の名/通称]名;術、通称;宗碩

伯慎(はくしん・三野) → 象麓(しょうろく・三野みの、漢学者) C 2 2 1 6
伯深(はくしん・股野) → 順軒(じゅんけん・股野またの、藩士/儒者) J 2 1 4 8
伯信(はくしん・万波) → 醒廬(せいりょ・万波まんなみ、藩士/儒/詩歌) D 2 4 2 2
伯信(はくしん・仁井田) → 南陽(なんりょう・仁井田、儒者/地誌) 3 2 4 8
伯震(はくしん・本間) → 百里(ひゃくり・本間ほんま、藩士/故実家) E 3 7 8 4
白心(はくしん/びやくしん;字) → 虎明(こみょう;法諱・白心;字、真言僧) N 1 9 7 0

幕臣三歌人(はくしんさんかじん) [武家三歌人]:冷泉為村門の江戸幕臣のうち3人の優れた歌人
→ 広通(ひろみち・石野) 1718-1800 H 3 7 2 7
→ 貞臣(さだおみ・横瀬) 1722-1800 B 2 0 7 4

→ 正範(まさのり)・内藤 1747?-1807 G 4 0 0 4

- D3635 白塵洞主人(はくじんどうしゅじん)?- ? 江戸読本作者;1796「紫双紙むらさきそうし」;怪奇短編
- D3636 伯水(はくすい) ? - ? 撰津狂歌;1679行風「銀葉夷歌集」95首入
- D3637 白水(はくすい) ? - ? 大阪の俳人:来山門、
1681来山編「大坂八五十韻おおさかはちごじゅういん」入(8人で五十韻);
白水と来山・如要・快用・江水・和尹・夕扉・正察)
- D3638 白水(はくすい) ? - ? 江中期江戸の雑俳点者、1714「俳諧煤口なこうどぐち」入
- D3639 白推(はくすい、通称;米屋五右衛門)?-?1770前没 越中富山の俳人;正徳1711-16初め頃蕉門・
1722夕燕と伊勢・京など近畿紀行、おわりの露川を訪問、1722「鶉坂うざか集」編、
[白推の別号] 雪柴下せきさいか/雪蒼下/荻花人てきかじん、文奎堂ぶんけいどう
- D3640 白水(はくすい・上田うえだ、名;寛/字;大心/通称平蔵、淵静) 1703-77 山城淀藩儒者、兵学、
1765「国字孫呉義疏」67「軍馬秘要」69「孫子義疏」74「呉子義疏」著
- D3641 白水(はくすい) ? - ? 江戸俳人;1757鳥酔「夏炉一路」入
- D3642 白酔(はくすい・田沢たざわ、通称;徳兵衛、別号;空山房) 1746-1814 阿波徳島藩士中村長徳の家臣、
俳人/書画に通ず、1791隠居;諸国遊歴/1809松島を訪れる、
1802「ちさとの春」06「ゆきまろけ」編/09「松の塵」著/12「若鏡加蜂集」編
- D3643 白水(はくすい・駒井こまい、鎗剣術家楽斎男) 1755-93 代々安藝広島藩士/儒者;広島藩校に修学、
藩儒香川南浜門;徂徠学を究める、1783南浜の家塾修業堂助教/師没後藩命で修業堂教官、
「擊蒙論語注」補填、
[白水(;号)の名/字/通称]名;一清、字;子泉、通称;忠蔵
- D3644 白水(はくすい・西河にしがわ、名;泰節/字;子淵) ?-? 江中・後期撰津高槻藩儒、
1796(寛政8)刊「白水先生遺稿抄」
- D3645 白水(はくすい・英斎) ? - ? 絵師;1818鼻山人「廓宇久為寿さとのうぐいす」画
- D3646 白水(はくすい) ? - ? 江戸雑俳、1831松鱸「狂句むめ柳」第二編入;腥斎佃らと
- 白水(はくすい・林) → 出雲寺和泉掾(2世いづもいづみのじょう、書肆) C 1 1 3 8
- 白水(はくすい・備翁) → 定安(さだやす・布施、藩士/文筆家) K 2 0 0 3
- 白水(はくすい・正運) → 正運(しょうん、真宗学林派僧) H 2 2 0 3
- 白水(はくすい;隠号) → 可候(かこう・一筆庵/溪斎英泉、絵/戯作) 1 5 1 3
- 白水(はくすい・河合) → 道臣(ひろみ・河合、家老/殖産/詩歌) F 3 7 6 1
- 白水(はくすい・救二郷) → 義陳(よしのぶ・救二郷くにさと、藩士/和学) M 4 7 5 2
- 白水(はくすい・間宮) → 升芳(のりよし・間宮、国学/歌) G 3 5 3 0
- 白水(はくすい・間宮) → 士信(ことぶ・間宮、儒者/昌平黌総裁) F 1 9 8 2
- 白水(はくすい・曾我部) → 則温(のりあつ・曾我部そがべ/秦、庄屋/歌) I 3 5 8 5
- 白水(はくすい・増田) → 紫陽(しやう・増田ますだ、藩儒/尊攘/詩) G 2 2 4 6
- 白水(はくすい・小泉) → 其明(きみい・小泉/本間/小柳、測量/画) M 1 6 0 9
- 白水(はくすい・久野) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8
- 白水(はくすい・佐々) → 泉翁(せんおう・佐々ささ/小篠、藩士/儒者) E 2 4 9 6
- 白水(はくすい・泉) → 久寛(ひさひろ・泉いづみ、商家/国学/歌) L 3 7 2 3
- 伯水(はくすい・河野) → 界浦(かいほ・河野、儒者;音韻学) H 1 5 2 0
- 伯遂(はくすい・河地) → 時俣(ときよし・河地かわち、国学) U 3 1 8 8
- 伯随(はくすい・井上) → 頼因(よりくに・井上、国学者/歌人) I 4 7 6 0
- 博瑞(はくすい;字) → 日静(にちじょう;法諱・歓喜院、日蓮僧) C 3 3 4 6
- 3609 麦水(はくすい・堀ほり) 1718 - 1783 66歳 加賀金沢堅町の蔵宿池田屋の2男、
兄没後;甥吉之丞を後見のため家業に従事、俳人;美濃派の五々門/のち乙由の風を慕う、
諸国遊歴/1761加賀小松に樗庵を結ぶ、俳諧活動と町医者を兼業、1762上京;蕪村と交流、
1769(明和6)頃より貞享蕉風に傾倒、俳諧改革:「虚栗」復帰主張;春帖;春濃夜・三津禰など、
集大成;1777撰集「新みなし栗」/並行して俳論伝書執筆、1776頃より活動は衰退、
一方で1763頃より「寛永南島変」など実録小説を執筆、和漢学・書画・茶・和算に通ず、
将棋;藩主前田重教の相手を勤む;1779御医師格;5人扶持、
蕪村・涼袋・麦浪・希因・鳥酔らと交流、1749「麦水紀行」63「寛永南島変」70春帖「春濃夜」著、

1770「俳諧蒙求」「貞享正風句解伝書」「さきくさのみつのことば」(；涼袋の片歌を非難)著、
 1773「山中夜話」「蕉門一夜口授」著/77「新みなし栗」編、1780註釈「謡俚諺」編、
 「越のしらなみ」「三州奇談」「慶長中外伝」「慶安太平記」「きいたぞ草」著、外編著多数、
 七回忌追善「新亭(阿羅屋)あらや」(八水編；息両檜らの句)、「落葉招おちばく」(其叟編)、
 「椿落ちて一僧笑ひ過ぎ行ゆきぬ」(落葉招入)、

[麦水(；号)の名/字/通称/別号]名；長、字；子傾、通称；平三郎/長左衛門、
 別号；可遊(；初号)/葭由かゆう/四楽庵/樗庵/五噫ごあい逸人/牛口山[散]人/吐仙/繰叟、
 法号；実言院

- | | | | |
|----------------|---|-------------------------|-----------|
| 麦穂庵(初世ばくすいあん) | → | 村水(そんすい・小林、研師/俳人) | F 2 5 1 3 |
| 麦穂庵(2世ばくすいあん) | → | 芹江(きんこう・小林、村水男/研師/俳人) | Q 1 6 9 1 |
| 帛水学人(はくすいがくじん) | → | 通桓(みちたけ・河野/甲田、医者/勤王) | B 4 1 7 5 |
| 白水軒(はくすいけん) | → | 時義(ときよし・松岡まつおか、藩奉行/国学) | W 3 1 4 7 |
| 白酔軒(はくすいけん) | → | 是水(ぜすい・荒木あき、書家) | K 2 4 6 4 |
| 白水山人(はくすいさんじん) | → | 清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派) | N 1 6 0 4 |
| 白水先生(はくすいせんせい) | → | 友賢(ともかた・小泉こいずみ、医者/地誌) | P 3 1 2 9 |
| 伯水堂(はくすいどう) | → | 梅風(ばいふう・伯水堂、歌人) | C 3 6 0 4 |
| 白水郎(はくすいろう・あま) | → | 忠肅(ただまさ・野田、国学者/歌) | F 2 6 8 5 |
| 白成(はくせい・三浦) | → | 郷彦(くにひこ・三浦みうら/源、藩医/歌) | E 1 7 5 4 |
| 白成(はくせい・野城) | → | 白成(もとなり・野城のしろ、国学者) | V 2 2 4 0 |
| 伯正(はくせい・野村) | → | 立栄(初世りゅうえい・野村/舎人、医者) | C 4 9 8 5 |
| 伯正(はくせい・野村) | → | 立栄(2世りゅうえい・野村/野、初世男/医者) | C 4 9 8 7 |
| 伯生(はくせい・松平) | → | 頼徳(よりのり・松平まつだいら、藩主/歌) | K 4 7 5 9 |
| 伯成(はくせい・原) | → | 元寅(もとのぶ・原はら、藩士/詩人) | D 4 4 7 1 |
| 伯成(はくせい・金子) | → | 霜山(そうざん・金子、藩儒/藩政改革) | B 2 5 6 2 |
| 伯成(はくせい・長田) | → | 比等之(ひとし・長田おさだ、商家/歌人) | I 3 7 9 5 |
| 伯誠(はくせい・石川) | → | 桃蹊斎(とうけいさい・石川1、国学/儒者) | D 3 1 1 3 |
| 伯誠(はくせい・三浦) | → | 無窮(むきゅう・三浦みうら、医者) | 4 2 3 8 |
| 伯政(はくせい・大地) | → | 文宝(あやよし・大地おち、藩士/詩/書) | F 1 0 1 7 |
| 伯省(はくせい・草鹿) | → | 玄仲(げんちゅう・草鹿くさか、藩士/医者) | C 1 8 3 7 |
| 伯省(はくせい・三宅) | → | 衡雪(こうせつ・三宅みやけ、儒者) | K 1 9 1 3 |
| 博正(はくせい・福山) | → | 博正(ひろまさ・福山ふくやま、神職) | K 3 7 8 2 |
| 柏声舎(はくせいしゃ) | → | 卓池(たくち・鶴田、俳人) | E 2 6 2 8 |
| 柏声舎(はくせいしゃ) | → | 流芝(りゅうし・鈴木すずき、卓池門俳人) | E 4 9 4 8 |
| 麦生舎(ばくせいしゃ) | → | 子蔵(しぞう・原はら、医者/俳人) | E 2 1 4 7 |

3610 白石(はくせき・新井あり、正濟男)1657-172569 父；上総久留里藩士、儒者、久留里藩主土屋利直に仕、
 久留里首土屋利直に出仕；利直没後に藩を追われる/1682-91下総古河藩主堀田家に出仕、
 儒学；木下順庵門、順庵の推挙で甲斐府中藩主徳川綱豊の侍講、
 綱豊の將軍就任(6代家宣)に伴い家宣を補佐し7代家継にも出仕；幕政に貢献；外交改革、
 8代將軍吉宗とは疎遠になり致仕、学問的著述に専念、史学・故実・詩に長ず、
 1712「読史余論」13「采覧異言」15「西洋紀聞」16「古史通」、「折たく柴の記」「白石日記」著、
 「朝鮮通交録」「琉球考」「一帆集」「本朝字源考」「北海隨筆」「白石草集」「白石叢書」外著多数、
 [世のつねに偽り多き人は其の言葉を信にせんとて神仏に誓ひていふ事あり]、
 (折たく柴の記)、

[白石(；号)の別名/字/通称/別号]幼名；伝蔵/初名；瓊/君美きんみ・きみよし、字；在中/濟美、
 通称；与五郎(仮名)/与次右衛門/勘解由、
 別号；勿斎/紫陽/桐陰/天爵堂/錦屏山人、法号；浄覚
 渾名；火の子(怒ると眉間に火の字の皴ができる)/鬼、法号；慈清院

D3647 白石(はくせき・野田のだ)1771- 183464歳 美濃岐阜の醸造業、詩人/狂歌作者、
 詩社同人に山田鼎石・左合竜屋真ら、「白石園集」著
 [白石(；号)の名/字/通称/別号]名；元堅(もとかた?)、字；季好、通称；長十郎/文三右衛門/文柄、

別号;新甫/白石園/雑亭/雑亭馱鹿/鈍齋、法号;积休詮

白石庵(はくせきあん) → 玄祐(げんゆう・今泉いまいずみ、医者) M 1 8 6 5
白石園(はくせきえん) → 白石(はくせき・野田、詩/狂歌) D 3 6 4 7
白石山人(はくせきさんじん) → 閑齋(かんさい・内藤ないとう、儒者) H 1 5 6 1
白石山房(はくせきさんぼう) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
白石先生(はくせきせんせい) → 眞継(まことぎ・矢田部やたべ、廷臣) D 4 0 8 2
白石老人(はくせきろうじん) → 日言(にちごん;法諱・取要院、日蓮僧) B 3 3 9 8

D3648 白雪(はくせつ・太田/大田おた、重長男)1661-1735⁷⁵ 三河新城の庄屋/造酒・味噌・米穀・茶・質物業、
国学者、古典/郷土史研究、歌人/俳人;1691芭蕉が新城を訪問;門人となる、俳諧に精進、
三部作;1699「俳諧會我」1701「きれぎれ」02「三河小町」編、芭蕉門俳人として世に出る、
1701「巳年歳旦」04「歳旦蛤与市」、「うたひたらちね」「こたつはなし」「三河名所歌集」編、
のち俳諧から離れ郷土史研究;「三河名所記」著、
晩年は仏道に参ず、追善集「雪なし月」(甥の桃鯉編)、

[山吹や身をなきものに淵の上]、

[白雪(;号)の名/通称/別号]名;尚教、通称:平九郎/金三郎/金左衛門長孝、

別号;有髮散人/密雲峰/周白雪、(屋号);升屋、法号;如実翁一超

息;重英[桃先]・孝知[桃後]も俳人 → 桃先(とうせん・太田) G 3 1 0 9

→ 桃後(とうご・太田) D 3 1 6 7

甥;桃鯉も俳人 → 桃鯉(とうり・鈴木) I 3 1 0 3

泊節(はくせつ・逸見) → 石籠子(せきりゆうし・逸見、相法家) K 2 4 5 3

麦雪(はくせつ・植田) → 義方(よしかた・植田/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9

白雪庵(はくせつあん) → 湖子(こし・5世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 6

白舌翁(はくぜつおう) → 元甫(もととし・藤堂、藩士/地誌家) D 4 4 2 9

D3649 白雪山人(はくせつさんじん) ? - ? 江後期飛騨の本草家/救荒食として竹の實の研究:

1832「竹実記」著(;菱川清春[1808-77]画/京の金屋吉兵衛版)

白雪堂主人(はくせつどうしゅじん) → 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4

白舌馬老人(はくぜつばろうじん) → 元甫(もととし・藤堂、地誌家) D 4 4 2 9

白雪廬(はくせつろ) → 風五(ふうご・小林、商家/俳人) 3 8 5 7

白雪楼(はくせつろう) → 義門(ぎもん・東条、真宗僧/語学) B 1 6 8 7

白雪楼(はくせつろう) → 萃野(しんや・伊藤いとう、儒者) 2 2 8 2

白雪廬主(はくせつろしゅ) → 恵海(えかい・法饒、真宗高田派僧) D 1 3 5 1

J3601 白宣(はくせん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」1句入、

[徒書むだがきも主しゅうの御名おんなは闕字けつじして](二葉之松;356/

闕字;貴人名は上に一〜二字空白にする/いたずら書きでも主君をおろそかにしない)

D3650 白川(はくせん・本庄ほんじょう)? - ? 江前期熊本漆嶋の商人、

俳人;1706(宝永3)熊本訪問の野坡門、1706「漆嶋うるしじま」編、

[白川(;号)の通称/別号]通称;久兵衛/加平次、別号;漆嶋軒しつとうけん

D3651 博泉(はくせん・水足みずたり、安方/方/業国、修姓;水、屏山へいざん男)1707-32自殺 熊本儒;父門/徂徠門、

1671家を襲った賊徒により負傷/父は殺害された、土籍剥奪/引退;自殺、

「五鳳楼筆記」「太平策」「航海献酬録」「なるべし拾遺」「文章十訣」「訳文集」、「博泉遺稿」、

[博泉の字/通称/別号]字;斯立/業元、通称;平之進/平之允へのすけ、別号;出泉

D3652 白扇(はくせん・村井むらい、村井権右衛門奉明2男)1718-68⁵¹ 母;権兵衛唯真2女のサン(法名妙意)、

陸奥盛岡の商家の生;同族村井甚助源了家を継嗣;本業は質・両替商、盛岡藩御用達、

俳人;貞屋門、商用で多々京阪往来;京の多くの宗匠から指導を受ける、

「俳諧深秘抄」「俳諧双羽伝」「俳諧歌仙鏡」「俳諧盲定規」、「村井白扇詠草」著、

子に2男2女;長子甚助保矩(俳号;蘆皓)が家督嗣/孫;甚助保邦(俳号蘆帆)、

[白扇(号)の名/通称/別号]名;権次郎(初名)/保道やすみち、通称;甚七/甚助(養家代々の称)、

別号;蘆岸舎白扇

D3653 白砧(はくせん) ? - ? 京の俳人;几董門、1776几董「続明鳥」校合:7句入、

1776道立「写経社草」2句入/76樗良「月の夜」77蕪村「夜半楽」各1句入、

[海老のつらに伊勢の初日や門かどかざり] (「続明烏」; 春9)

D3654 **伯先** (はくせん・中村なかむら/本姓大江、医者吉川崇広養玄の長男) 1756-1820⁶⁵ 信州伊那の医者; 父門、1771 (16歳) 江戸で医; 工藤周庵/桃井桃庵門、儒; 因幡黙齋・幸田誠之門、1774 帰郷; 1775 根津平四郎女のはくと結婚/家督を弟鸞岡に譲渡/山寺村で医開業、1791 上京; 医学・本草学・儒学を修学し帰郷; 地元医療に尽力、俳諧; 初め美濃派を習得/1784 来訪の加舎白雄門、芭蕉句碑を建立; 蕉風俳諧の普及に功績、1786 「葛の葉表」「葛の葉裏」1802 「あられ柿」03 「寢覚の雉子」04 「香組艸」19 「緒絶草」編、「医家四辨」「孝子源助伝」「報春鳥」「伯先句集」「坎水園外集」「坎水園随筆」著、外編著多数、追善集: 「名月集」「あさがほ集」、
[伯先 (; 字/号) の名/通称/別号] 名; 元茂、通称; 昌元/昌玄、
別号; 淡斎/昇玄、坎水園/駒岳楼、法号; 能治院

D3655 **帛川** (はくせん・藤田ふじた、名; 安正/字; 子静) ?-1830 下野宇都宮藩士/儒詩; 堤它山たざん門/書画、「帛川詩藁」著

白川 (はくせん・長瀬) → 文豊 (ふみとよ・長瀬ながせ/斎藤、国学者) D 3 8 9 5
白川 (はくせん) → 正運 (消雲しょうん; 法諱、真宗学林派学僧) H 2 2 0 3
伯泉 (はくせん・山本) → 鬼雄 (おにお・山本やまもと、医者/国学) E 1 4 2 4
伯遷 (はくせん・野々村) → 喬 (たかし・野々村、医者) L 2 6 9 5
伯遷 (はくせん・荒木) → 李谿 (りけい・荒木あき、字; 儒者/詩) 4 9 8 8
伯遷 (はくせん・味木/沢) → 喬 (たかし・沢さわ/味木、藩士/書画) L 2 6 9 6
伯潜 (はくせん・岡/河野) → 恕齋 (じょさい・河野こうの、藩儒者/詩人) C 2 2 5 0
博泉 (はくせん・中田) → 粲堂 (さんどう・中田/藤、与力/儒者) M 2 0 6 6
博宣 (はくせん・外山/長沢) → 資親 (すけちか・長沢/外山、幕臣/高家) G 2 3 4 7
白全 (はくぜん・三上) → 郷喜 (くによし・三上みかみ/源、藩医/歌人) E 1 7 5 3
伯善 (はくぜん・上田) → 一徳 (かずのり・上田うねだ、藩士/国学) T 1 5 7 5
博善 (はくぜん; 字) → 日芳 (にっぽう; 法諱・仁讓院、日蓮僧) F 3 3 6 1
泊船居 (はくせんきよ) → 竹二坊 (ちくじぼう・権田、医者/俳人) D 2 8 1 6
薄川漁人 (はくせんぎょじん) → 眞楫 (まかじ・渡辺/大岡、幕臣/教育) 4 0 4 8
白泉軒 (はくせんけん) → 兼定 (かねさだ・英保あぼ、歌人) O 1 5 5 0
白潜居士 (はくせんこじ) → 鼠腹 (そぶく; 号、俳人) E 2 5 3 0
白髯居士 (はくぜんこじ) → 静斎 (せいさい・岸井きしい、藩士/画) I 2 4 3 5
泊船堂 (はくせんどう) → 芭蕉 (ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7
白雙 (はくそう) → 六枳 (ろくし・真恵、真宗大谷派僧/俳人) 5 2 8 9
伯操 (はくそう・賀古) → 清廉 (きよかど・賀古かこ、藩士/文筆家) O 1 6 7 3
莫争庵 (はくそうあん) → 荻風 (てきふう・園田、俳人) C 3 0 0 7
博桑山人 (はくそうさんじん) → 万 (よろう・生田いくた、国学者/救民活動) 4 7 4 2
伯則 (はくそく・岡崎) → 鶴亭 (つるてい・岡崎おかさき、儒者/詩文) F 1 9 5 7
白朶 (はくだ) → 再和坊 (さいわぼう・河村、獅子庵5世/俳) B 2 0 1 8

D3656 **麦太** (ばくた・万頃園まんけいえん) ?- ? 肥前佐賀の俳人: 耳風門、師より美濃派宗匠を受、1831 (天保2) 立机、1803 「ほととぎす集」12 「はるやはる」編、1840 雲左日唯うんさにちゆい没後百日追善集編纂、「仰魂集」「草枕」編

伯太 (はくたい・菅) → 松峰 (しょうほう・菅すが、絵師) L 2 2 6 4
伯大 (はくだい・田村/田西) → 琴溪 (きんけい・劉、儒者/詩) D 1 6 9 4
麦袋 (ばくたい・柴田) → 花守 (はなもり・柴田しばた、神道家) F 3 6 5 0
白沢老人 (はくたくろうじん) → 昌喜 (昌熹まさよし・入江、国学者/歌) I 4 0 5 3
伯達 (はくたつ・小河) → 立所 (りつしょ・小河/小川おがわ、儒者) C 4 9 0 2
伯達 (はくたつ・二宮) → 兼善 (かねよし・二宮、藩士/和算/地誌) P 1 5 0 9
栢太郎 (はくたろう・堀家) → 輔政 (すけまさ・堀家ほりけ、神職/国学) J 2 3 2 1
白淡亭 (はくたんでい) → 正徳 (まさのり・志田、郷土史家) G 4 0 1 5

D3657 **白癡** (はくち; 法諱・雪心せつしん; 道号、石華老人、俗姓; 室田) 1675-1741^{67歳} 加賀の曹洞僧; 1687 (13歳) 大乘寺29世密山道頭門; 出家得度、同寺31世益堂雲甫門; 嗣法、

永伝寺・永平寺に住/自性寺・大黒寺を住持/1737(元文2)大乘寺36世;同寺に没、
「石華老人戒説私記」「雪心白癡禪師語録」著

伯知(はくち・阿閉) → 言足(のぶたり・阿閉あべ、藩士/国学/尊攘) H 3 5 0 4
白痴(はくち;号) → 續沖(れいちゅう;道号・元漢;法諱、黄檗僧) 5 1 5 3
伯雉(はくち;字・梅津) → 金忠(かねただ・梅津うめづ、藩士/軍学) O 1 5 6 0
莫知其齋(はくちきさい) → 精溪(せいけい・昌谷さかや/原田、藩儒) B 2 4 1 4
白茅生(はくちせい) → 竜山(りゅうざん・宇都宮/原田、儒者/教育) E 4 9 2 3

D3658 朴中(はくちゅう;道号・梵淳ぼんじゅん;法諱)?-? 1434存 室町期の臨濟僧:京で修業/適庵法順門;法嗣、
鎌倉瑞泉寺住持/伊豆国清寺住持、鎌倉円覚寺住持/建長寺住持、晩年;円覚寺海会庵退隠、
「朴中和尚語録」著、「朴中和尚拾遺録」

伯仲(はくちゅう・滝川) → 俊章(としあき・滝川、藩士/砲術/詩歌) L 3 1 9 4
博忠(はくちゅう・池田) → 博忠(ひろただ・池田いけだ、家老/歌人) L 3 7 1 5
伯長(はくちゅう・鈴木) → 交陵(こうりょう・鈴木すずき、名主、儒/詩) L 1 9 6 0
白鳥(はくちゅう・大村) → 純昌(すみまさ・すみよし・大村、藩主/藩政改革) D 2 3 9 7
白鳥山人(はくちゅうさんじん) → 未塵(みじん・堀ほり、藩士/俳人) 4 1 8 9
白苧花(はくちよか) → 幸子(さちこ・田内たうち/伴、歌人) K 2 0 4 3
伯直(はくちよく・中井) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8
伯直(はくちよく・箕輪) → 蕃昌(しげまさ・箕輪みのわ、天文家) S 2 1 6 2
伯直(はくちよく・中島) → 予齋(よさい・中島/中嶋なかじま、藩儒) B 4 7 8 2
伯直(はくちよく・鷹見) → 泉石(せんせき・鷹見たかみ、家老/和漢学) M 2 4 7 8

D3659 薄椿(はくちん) ? - ? 京西六条俳人;似船門、1691江水「元禄百人一句」目録入

D3660 博通法師(はくつうほうし;法諱)?-? 万葉集歌3首307-9:久米若子の三穂の岩屋を見ての歌、
玉葉集2348/2349

[常磐なす岩屋は今もありけれど住みけるひとそ常なかりける](万葉;三308)

D3661 白汀(はくてい) ? - 1745 江中期俳人、句帖遺稿数十冊を残す;柳居が整理、
柳居宗阿らが3回忌追善「醬甕覆」1747(延享4)編刊

白焔(はくてい・朝日) → 重章(しげあき・朝日あさひ、藩士/儒者) B 2 1 7 8
栢庭(はくてい・浅井) → 政昭(まさあき・浅井、藩士/儒者) B 4 0 0 8
伯亭(はくてい・安原) → 霖寰(りんかん・安原やすはら、藩儒) K 4 9 0 7
伯亭(はくてい・守屋) → 東陽(とうよう・守屋もりや、医者/詩文) H 3 1 7 8
伯亭(はくてい・丹羽) → 氏祐(うじすけ・丹羽にわ、商家/心学者) 1 2 3 3
伯鼎(はくてい・宮本) → 篁村(こうそん・宮本みやもと、儒/折衷学) K 1 9 4 2
伯鼎(はくてい・岡井) → 赤城(せきじょう・岡井、藩儒/詩人) D 2 4 5 4
柏亭(はくてい・柏村) → 直条(なおえだ・柏村、神職/連歌/歌) 3 2 7 6
豹亭老人(はくていろうじん) → 澹翠(たんすい・坂倉さかくら、詩人) I 2 6 9 1

D3662 伯迪(はくてき;字・細谷ほそや、藩医羸陽いよう男)?-? 江後期越後医者;父門/藩命で駿河内藤家侍医、
詩:「南華堂小稿」著

伯迪(はくてき・藤野) → 海南(かいなん・藤野ふじの、儒/蘭学) H 1 5 7 6

3611 麦天(はくてん・右江みぎえ、別号;渭北いほく/渭江/因角/時々庵/牡冲巢) 1703-5553 大阪俳人:淡々門・
江戸の2世青峨門、「かべに耳」評/「むかし道」/1740「若俵」編、
[十三夜千鳥の初音聞にけり]

幕天(はくてん・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1

D3663 伯兔(はくと・石川いしかわ) ? - 1727 越前丹生郡志津村の俳人:支考門、三国に住、
三国俳人昨曩と交流、能書家、

1711支考「山中やまなか三笑」入、1715(正徳5)「菊の十歌仙」編、「冬の夜」著、
[伯兔(;号)の名/通称/別号]名;孝勝、通称;弥三治、別号;碓坊/百栗荘

D3664 白図(白兔はくと・仁木[二木]にき)?-1801(80余歳) 尾張名古屋の薬種商/俳人:巴雀・白尼はくに門、
1762白尼に随伴し来訪の暁台を迎え入門;新風興起を促し暮雨巷一門の形成を援助、
暁台没後は/士朗門に属す、枇杷園長老として活躍、「三日月集」編、
1772暁台「秋の日」校;6句入、76几董「続明鳥」1句/74美角「ゑぼし桶」1句入、

[今幾日いかありて又来こんむら紅葉](六吟歌仙発句; 暁台・都貢・宰馬・子東・是誰)

[白図(;号)の通称/別号]通称; 治右衛門、別号; 汐花せきか亭、桂葉下

白兔(はくと・熊谷) → 秋雨(しゅうう・熊谷くまがい、医者/日記) W 2 1 6 1
白兔(はくと・寺島) → 白也(はくや・寺島てらしま、代官/俳人) D 3 6 9 8
伯登(はくと・渡辺) → 華山(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学) 1 5 8 3
伯兔(はくと・稲津/梁川) → 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5
伯図(はくと・富田) → 大鳳(たいほう・富田、藩士/医者/詩) C 2 6 1 9

D3665 白桃(はくと;号) ? - ? 江戸中期大坂の絵師:法橋、1783「宇奈為草紙」画

D3666 白藤(はくと; 鈴木すずき、成義男/本姓; 紀) 1767-1851⁸⁵ 母; 内海彦右衛門常富女、江戸の幕臣;
1788天守番/1800学問所勤番組頭、1812書物奉行/21免職:小普請、古書多蔵、
大田南畝・山崎美成・小林歌城と交流、妻; 多賀谷源蔵安貞女、桃野の父、
1806「鈴木叢書」27「漫抄」編/29「吉利斯督実記」「五月雨抄」著/36「御書籍目録」編、
「白藤詩草」「睡余随筆」「夢録」「篇什」「楓山書蔵邸抄」著/外編著多、「昌平茗談」に逸話、
[白藤(;号)の名/字/通称/法号]名; 成恭/恭/供、字; 士敬、通称; 岩次郎、法号; 仁信院

D3667 白頭(はくと; 星霜庵せいそうあん) ?-? 江中期江戸の俳人: 旨原門、
1790師の13回忌追善集「十三仏」雪川・2世旨原らと共編、1776去留・雪淀「風月集」校・跋文、
俳諧を通じ出雲松江藩主の弟雪川・伊勢神戸藩主本多忠永(清秋)等大家と交流、
特に陸奥八戸藩主南部信房(畔李/星霜庵2世)の庇護を受

白頭(はくと; 稲毛、白頭老人) → 実(みのる・稲毛いなげ、国学者/歌) F 4 1 6 8

白頭(はくと; 糟谷) → 武文(たけふみ・糟谷かすや/加須屋、藩士/国学) W 2 6 4 6

白頭(はくと; 片岡) → 道長(みちなが・片岡かたおか/中村、国学/役人) I 4 1 6 9

白桃(はくと; 河合) → 菊泉(きくせん・河合かわい、藩士/儒者) I 1 6 4 6

伯棟(はくと; 鍋島) → 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌) 3 2 7 7

白藤(はくと) → 白藤(しらふじ; 組連/雑俳; 前句付) G 2 2 6 0

伯党(はくと; 沢村) → 西陂(西坡せいはい/せいひ・沢村、藩士/儒) C 2 4 7 6

D3668 柏堂(はくと; 道号・梵意ぼんい; 法諱) 1357-1434⁷⁸ 相模の臨濟僧: 義堂周信門/師の信頼を受、
義堂の末期を看取る、信濃建福寺住持/1415(応永22)京相国寺24世/25南禅寺111世、
1368「空華文集」「空華外集」編、「柏堂和尚語録」著

D3669 朴堂(はくと; 道号・祖淳そじゆん; 法諱、初号; 朴庵) 1381-1467^{87歳} 越中新川郡の臨濟僧:
新川郡吉祥寺の虚室祖白門; 出家/のち嗣法、1436(永享8)京建仁寺153世住持、
1453南禅寺182世、退院後; 東山常在寺・建仁寺興雲庵に住/晩年は帰郷; 吉祥寺に没、
仏画に長ず、「朴堂祖淳禅師語録」著

D3670 白堂(はくと) ? - ? 俳人; 1693露川「流川集」3吟連句入; 露川・支考と

D3671 白堂(はくと; 小川おがわ、名; 文卿、法橋杉山元瑞3男) 1729-1804⁷⁶ 安藝広島医者; 藩医小川通溪門、
のちその養嗣子; 広島藩の侍医; 度々江戸に赴く、1794致仕、詩人、「天行病治案」著、
[白堂(;号)の字/別号]字; 叔潤/敬元、別号; 東郭/慎斎/休園

D3672 白堂(はくと) ? - ? 大阪俳人; 1776几董「続明烏」2句/76樗良「月の夜」入、
[あだし野に春も更け行く土筆つくし哉](続明烏; 中139/嵯峨の埋葬地の晩春の景)

D3673 白道(はくと) ? - ? 俄; 1775「未年俄選ひつじのとしにわかせん」入

D3674 栢堂(はくと; 佐藤さとう雄/相和、字; 飛卿/元達) ?-? 1830-44頃信州儒者/詩人、松島北渚と交流、
1834「佐藤雄詩稿」/40「佐藤相和詩稿」/「都能保梨迺爾璣」著、「栢堂遺稿」

栢堂(はくと; 村田) → 恒光(つねみつ・村田、藩士/和算家) D 2 9 9 4

栢堂(はくと; 明石) → 慶弘(よしひろ・明石あかし、藩士/兵法家) G 4 7 6 0

白堂(はくと) → 白堂(びやくどう、木喰行者) E 3 7 7 1

白堂(はくと; 号) → 大円(だいえん; 法諱、真宗大谷派学僧) J 2 6 2 9

白堂(璞堂はくと; 栗田) → 千嶺(せんれい・栗田くりた、商家/歌人) O 2 4 1 0

白道(はくと; 号) → 慧雲(えいん; 法諱・子潤、真宗僧) D 1 3 4 7

白道(はくと; 釈: 法名) → 釈氏定規(しゃくしじょうぎ、真宗僧/狂歌) G 2 1 1 8

栢堂(はくと; 林はやし) → 徳則(とくのり・林はやし、大庄屋/海防策) L 3 1 2 9

栢堂(はくと) → 斉熙(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作) I 3 2 0 7

柏堂(はくどう) → 屋山(おくざん・林はやし、儒者) D 1 4 0 4
 伯道(はくどう・一松) → 昔桜(せきおう・一松ひとつまつ/松/淡海、儒者) J 2 4 9 5
 伯道(はくどう・三木/木) → 蛭洲(いしゅう・寺崎、儒/詩) 5 1 3 7
 伯道(はくどう・村山) → 矩道(くどう・村山むらやま、旅籠屋/儒者) C 1 7 5 1
 伯道(はくどう・跡部/武田) → 正生(まさなり・武田耕雲斎、藩士/天狗党) 4 0 1 6
 博道(はくどう・六角) → 博道(ひろみち・六角ろっかく、廷臣/有職家) M 3 7 3 0
 璞堂(はくどう・島崎) → 正樹(まさき・島崎、庄屋/国学者) C 4 0 2 9
 白禱園(はくとえん) → 筋斎(せつさい・富田、役人/国学/詩歌) L 2 4 0 3
 白禱園(はくとえん) → 葛野(かどの・千葉、国学/歌人) 1 5 7 1
 白禱園(はくとえん) → 行敬(ゆきもり・青木あおき/宗岡、歌人) G 4 6 4 5
 白藤軒(はくとうけん) → 村盈(むらみち・北風きたかぜ、商家/歌人) C 4 2 2 8
 白藤子(はくとうし) → 風虎(ふうこ・内藤義泰、藩主/歌/俳人) 3 8 5 5
 白禱舎(はくとうしゃ) → 千別(ちわけ・中江、国学者) J 2 8 5 5
 白藤子(はくとうし) → 風虎(ふうこ・内藤、藩主/歌/俳人) 3 8 5 5
 白童子(はくとうじ) → 嵐牛(らんぎゅう・伊藤、国学/俳人) B 4 8 7 2
 白頭子柳魚(はくとうしりゅうぎょ) → 駒人(こまんど・駅亭、歌舞伎・合巻作者) F 1 9 8 7
 白禱之生園(はくとうのせいえん) → 光尋(みつね・森田もりた、神職/歌人) D 4 1 9 1
 白禱屋(はくとうや) → 政幹(まさもと・坂部さかべ/渡辺、商家/国学) P 4 0 9 8
 柏藤林人(はくとうりんじん) → 基邑(もとむら・後藤ごとう、郷土史家) E 4 4 4 1
 白頭老人(はくとろうじん) → 実(みのる・稲毛いなげ、国学者/歌) F 4 1 6 8
 白禱老人(はくとろうじん) → 弘範(ひろのり・神吉かんき、本陣主人/国学) G 3 7 8 9
 白兔園(はくとえん・風葉) → 宗端(初世そうざい・中川、両替商/俳人) C 2 5 2 5
 白兔園(2世はくとえん) → 宗端(2世そうざい・広岡、藩士/俳人) I 2 5 1 2
 白兔園(3世はくとえん) → 宗端(3世そうざい・松井、俳人) I 2 5 1 3
 白兔園(6世はくとえん) → 竹道(ちくどう・中島、幕臣/俳人) D 2 8 6 2
 伯徳(はくとく・望月/伴) → 東山(とうざん・伴ばん、漢学者/藩儒) E 3 1 6 1
 伯徳(はくとく・小山) → 敬容(たかやす・小山こやま、国学者) N 2 6 5 7
 伯徳(はくとく・杉崎) → 天年(てんねん・杉崎すぎさき、儒者) E 3 0 1 5
 博篤(はくとく・水森) → 博篤(ひろあつ・水森みずもり、商家/国学) L 3 7 3 8
 白徳翁(はくとくおう) → 常辰(つねとき・隼士はやと、俳人) C 2 9 6 4

D3675 **白徳斎**(はくとくさい・4世竹田近江)?-? 3世竹田近江の弟/兄を継承;大阪浄瑠璃竹本座本、
 江中期大阪の興行界の実力者/正式に受領しないまま4世近江(清一)に座を譲渡、
 1759「倒冠雑誌」著(;座本事情)、
 [白徳斎(;号)の通称] 平助/平介/近江

白得堂(はくとくどう) → 臨犀(りんさい・生野、儒者) K 4 9 3 0
 白兔山人(はくとくさんじん) → 宗瑞(2世そうざい・広岡/菅、藩士/俳人) I 2 5 1 2

D3676 **白豚**(はくとん) ? - ? 江戸俳:芭蕉門、1680芭蕉「桃青門弟独吟二十歌仙」入
 伯敦(はくとん・小林) → 辰(たつ・小林こばやし、医者) R 2 6 5 2
 白南(はくなん・養宇) → 徳称(とくしょう;法諱・養宇かみや、僧/国学) U 3 1 7 0

D3677 **白尼**(はくに・武藤むとう、巴雀男) 1709-92 尾張名古屋両替町の俳人:父門/五条坊三径(木兎)門、
 1747柳几と奥羽行脚/48立机/父没後継承し毎年歳旦帖を出版/也有の後見役、
 名古屋俳壇の大御所、仮名詩人、1748「三秋句合」49「二笈集」54「俳諧春興朗詠集」編、
 1755「春興続朗詠集」56「続後朗詠集」編、58「水芙蓉」64「蟬時雨」編/83「桂の穂あき」著、
 1784「百蓮会集」著、「たけの春」「浦の春」「妖しゅうの旦」編、「俳諧蓮の光」著、外編著多数、
 [夜遊びの目蓋まぶたにおもし朧月](春興朗詠集)、
 [白尼(;号)の別号]菊兔(;初号)/夜話亭/蓮阿坊/仏狂子/羽衣館、

D3678 **麦二**(ばくに・小島こじま、小島久兵衛弘能[号;沾緑]男) 1732-1810 79 信濃上田の鋳物師/俳人:父門、
 1767上田訪問の加舎白雄の紹介で白井鳥酔門/鳥酔没後は白雄門、能書家;平林東嶽門、
 1749「寛延己巳歳旦帖」66「蓑の露」67「明和丁亥歳旦帖」著、半古・玉馬・路虹の父、
 [麦二(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名;岩之助、名;弘文、通称;久兵衛、

別号;橋中庵/橋井居/無事齋、屋号;鍋屋、法号;而覚麦二居士

柏日庵(はくにちあん) → 立砂(りゅうさ・今日庵、元夢門俳人) D 4 9 9 7
泊如(はくにょ;道号) → 運敏(うんしゅう;法諱・泊如、真言僧) B 1 2 1 9
伯任(はくにん・栗原) → 信充(のぶみつ・栗原、幕臣/故実家) 3 5 1 5
伯仁(はくにん・芳野) → 復堂(ふくどう・芳野よしの、儒者) B 3 8 6 2
伯仁(はくにん・富川) → 玄嶽(げんがく・富川とみがわ、儒者) I 1 8 2 8
伯仁(はくにん・竜) → 三瓦(さんが・竜りゅう、儒者) L 2 0 8 8
伯仁(はくにん・浜地) → 庸山(ようざん・浜地はまじ、庄屋/詩/画) B 4 7 0 5
博仁(はくにん;法諱) → 了祐(りょうゆう;法諱、本願寺派学僧) J 4 9 6 1
伯寧(はくねい・南川) → 蔣山(しょうざん・南川みなみかわ、藩儒/医) S 2 2 5 3
白囊子(はくのうし・蒲生) → 精庵(せいあん・蒲生がもう、医/儒者) H 2 4 3 1

伯卿女(はくのきょうのむすめ)(2人)

→ 伯女(はくのむすめ、源頭仲女、歌人) D 3 6 7 9
→ 堀河(ほりかわ・待賢門院、源頭仲女、歌) E 3 9 8 2

伯母(はくのはは/はくぼ) → 康資王母(やすすけおうのはは、高階成順女) 4 5 2 2

D3679 伯女(はくのむすめ、神祇伯源頭仲あきなか女)?-? 散位源重通の妻妾、歌人1128頭仲西宮住吉社歌合参、1128南宮・住吉社歌合参加;夫の源重道(重通)も参加、勅撰3首;金葉(177/512)詞花(360)、[もろともに草葉の露のおきゐずはひとりや見まし秋の夜の月]

(金葉;三秋177/閑見月/置きに起きを掛る)、

堀河[伯女はくじよ]・大夫典侍・兵衛らの姉? → 頭仲女(あきなかのむすめ・源) 1 0 7 6

D3680 白馬(はくば) ? - ? 伊賀の俳人;

再形庵で原書「三冊子」を書写;1778石馬に貸す;石馬本と称される

白梅園(はくばいえん) → 鶯水(ろすい・青木、俳人/浮世草子) 5 2 0 4
白梅園(はくばいえん) → 徐暁(じょぎょう・村上むらかみ、俳人) M 2 2 2 7
白梅園(はくばいえん) → 雪年(せつねん・戸川とがわ、俳人) L 2 4 3 5
白梅居(はくばいきよ) → 直達(なおたつ・武藤むとう、天文暦算) B 3 2 6 0
白梅居(はくばいきよ) → 梅逸(ばいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3
白梅居(はくばいきよ) → 有雄(在雄/蟻雄ありお・新井あらい、国学) C 1 0 3 1
白梅軒(はくばいけん) → 幸充(ゆきみつ・山口やまぐち、神道・随筆家) F 4 6 7 4
白柏舎(はくはくしゃ) → 清民(きよたみ・里見さとみ、神職/国学) U 1 6 4 3
麦々舎(ばくばくしゃ) → 与右衛門(よえもん・塚田、養蚕業/俳人) B 4 7 6 8
麦泊亭(ばくはくてい) → 丈阿(じょうあ・観水堂、草双紙作者) Q 2 2 7 6
白搏老人(はくはくろうじん) → 弘範(ひろのり・神吉かんき、本陣主人/国学) G 3 7 8 9
白馬山人(はくばさんじん) → 敬斎(けいさい・小笠原、儒者/尊攘論) E 1 8 7 0
白馬洲復明堂主人(はくばしゅうふくめいどうしゅじん) → 円如(えんによ;法名・馬嶋、眼科医) F 1 3 2 7
白髮庵(はくはつあん) → 荻風(てきふう・園田、俳人) C 3 0 0 7
白髮山樵(はくはつさんしやう) → 水石(すいせき・壬生みぶ、与力/篆刻家) 2 3 7 6
白髮山樵(はくはつさんしやう) → 竜沢(りゅうたく・本山もとやま茂任、藩士/神職) M 4 9 3 0
白髮小児(はくはつしょうじ) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7
白髮書生(はくはつしやせい) → 三伯(さんぱく・稲村/海上/松井、医/蘭学) E 2 0 6 3

D3681 泊帆(はくはん・宮田みやた、別号:一炊庵)?-? 江後期大坂の俳人:紹廉門?/京の岡崎住、

1791(寛政3)「万翁発句集」編/76「万翁追悼集」編/1804「天下白」編

一炊庵宮田南陽の一族 → 南陽(なんよう・宮田、19ct初俳人) 3 2 4 7

麦飯仙(ばくはんせん、麦飯真人) → 覚峰(かくほう;法諱、真言僧/国学) K 1 5 4 6

D3687 白賁(はくひ/はくふん) ? - ? 日野俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入

D3682 白賁(はくひ・服部はっとり/修姓;服、中西平次右衛門2男) 1714-67 撰津西宮神社神職(祝人)の家の生、1714(正徳4)父が神社内紛に連座;追放/一家で撰津池田に移住、儒;田中桐江門、儒者;江戸の服部南郭門、南郭の2人の息子相次ぎ没;1753(宝暦3)末娘登免子の入婿、服部家を継嗣、詩人、大阪で講説業、村田春海の師、歌集;「蹈海集」「蹈海集拾遺」著/「赤水漫録」「白賁塾雑録」著、

[白賁(；号)の名/字/通称/別号]名；元雄、字；仲英なかにひで、通称；多聞/多門、
別号；蹈海とうかい

D3683 白賁(はくひ；号・田中たなか/本姓；源、名；耕/字；惟善)1739-71早世33 漢学者/易学；新井白蛾門、
1769「非白蛾辨」、「経世書函解」著、通直の兄

白賁(はくひ；号) → 順性(じゆんしょう；法諱、天台僧) L 2 1 1 0
白賁(はくひ・樋口) → 秩山(ちつざん・樋口ひぐち、儒者) E 2 8 7 9
白賁(はくひ・市瀬) → 惟長(これなが・市瀬いちせ、和算家) O 1 9 6 1
伯皮(はくひ・吉田) → 周斎(しゅうさい・吉田よしだ、藩医・儒者) X 2 1 2 9
伯斐(はくひ・木内) → 政章(まさあき・木内きうち、医者/本草家) B 4 0 0 1
伯斐(はくひ・上田) → 淇亭(きてい・上田うえだ、儒者/教育) L 1 6 5 4
伯飛(はくひ・土屋) → 為雄(ためかた・土屋、藩士/歌人) G 2 6 6 8
白眉(はくひ・岡崎) → 千兮(せんけい・岡崎/竹内、俳人) M 2 4 1 4
白美(はくひ・野本) → 白巖(はくがん・野本のもと、儒者/詩) C 3 6 9 0
伯美(はくひ・福田/木下) → 梅庵(ばいあん・木下きのした、医/狂詩) 3 6 5 0
伯美(はくひ・菅谷) → 帰雲(きうん・菅谷すがや、藩士/儒者/詩) E 1 6 9 8
伯美(はくひ・山路) → 機谷(きこく・山路やまじ、儒者) K 1 6 3 8
白賁園(はくひえん) → ト幽軒(ぼくゆうけん・人見/小野/野、儒者) E 3 9 0 2

D3684 白賁堂(はくひどう・秋山あきやま/本姓；鈴木、名；勝鳴かつなり/固、秋山道貫斎5男)1798-187477 父は藩儒、
代々磐城白河藩士の家/儒；広瀬蒙斎門、1820白河立教館学頭/23昌平鬻入；尾藤二洲門、
1823藩主松平定永の伊勢桑名転封；1827帰藩；藩主定猷および世子定敬の侍講・侍読、
1857桑名藩校立教館教授/佐幕思想；藩内に影響、致仕後；本姓の鈴木に改姓、
「前脩録」「前脩附録」「白賁堂経説」「白賁堂文鈔」「白賁堂詠藻」「白賁堂詩鈔」著、
[白賁堂(；号)の字/通称/別号]字；叔先、通称；五郎吉/五郎治、

別号；蝸庵/三友/無所為/三無/鸚鵡ねいこう外史/怨闇居士/清風

伯表(はくひょう・田辺) → 憲(けん・田辺たなべ、書家/篆刻) H 1 8 4 9

J3651 白敏(はくびん・木原きはら/本姓；穂積)？-？ 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[鶉(鶉もず)のゐる黄櫨(はじ)の立枝をしるべにてなほ尋ねみん野辺のもみぢ葉]、
(大江戸倭歌；秋977/尋紅葉)

白敏(はくびん・橋本) → 宗吉(そうきち・橋本、蘭学/蘭医) 2 5 9 8
白浜鷗(はくひんおう) → 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4
伯夫(はくふ・新井) → 政毅(まさかた・新井あらい、歌人/蔵書家) N 4 0 2 3

D3685 柏風(はくふう・広瀬ひろせ) ？ - ？ 播磨姫路の人？/俳人；1692才磨「椎の葉」3句入、
[いつとなく峰まで登るつゝじ哉](椎の葉；98/花にひかれてついつい峰の上まで登る)

D3686 泊楓(はくふう・林はやし) ？ - 1733 美濃長良の富豪/俳人、
追善集；1735「父の道」(嗣子有琴ゆうきん編)

白臈子(はくふし) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師/俳人、諸芸) 3 9 1 3
白賁(はくふん→はくひ；号) → 順性(じゆんしょう；法諱、天台僧) L 2 1 1 0
博文(はくぶん・藤原) → 博文(ひろふみ・藤原、廷臣/漢学/詩人) H 3 7 0 7
白文庫(はくぶんこ) → 竹童(ちくどう・土田、村役/俳人) D 2 8 5 6

D3688 白壁(はくへき) ？ - ？ 絵師；1785千差万別の洒落本「無駄酸辛甘むださんしんかん」画

白鞭(はくべん・村上) → 石田(せきでん・村上むらかみ、篆刻家) K 2 4 4 3
白甫(はくほ・牧野) → 忠精(ただきよ・牧野まさの、藩主) F 2 6 0 2
白甫(伯甫はくほ・北山) → 七僧(しちそう・北山きたやま、儒者/医者) E 2 1 5 5
伯保(はくほ・奥村) → 城山(じょうざん・奥村おくむら、曆算家) S 2 2 6 1
伯輔(はくほ・神林) → 復所(ふくしょ・神林かばやし、藩士/儒者) B 3 8 5 8
博甫(はくほ・平沢) → 随童(ずいりゅう・平沢ひらさわ、卜占家) F 2 3 1 5
博甫(はくほ・菊池) → 西臯(せいこう・菊池きくち、藩士/儒者) I 2 4 1 0
伯母(はくぼ) → 康資王母(やすすけおうのはは、高階成順女) 4 5 2 2

- D3689 **白峰**(はくほう・三田みた、別号;風琴子)1672-1743 72歳 江戸の俳人;露言門/のち嵐雪門、三周忌追善集「黙止」(巻石ら編/紀逸序/楼川跋)
- D3690 **白鳳**(はくほう) ? - ? 江戸の俳人;1707風雲子「つげのまくら」百韻参加
- D3691 **白逢**(はくほう;法諱・智顔ちがん;道号)1696-1787 92歳 信濃の曹洞僧;北佐久郡常林寺8世住職、1764「国朝二十四流稽疑」/70「事類雑糅」、「永平寺高祖年譜偈註解」著
- D3692 **白峯**(はくほう・青山あおやま、名;豊秀/字;子漁)?-? 江中後期明和・文政1764-1830頃幕臣、「明和誌」著、秀堅ひでかたの養父
- 白峰(はくほう・人見) → 雪江(せつこう・人見、幕臣/儒者/詩) K 2 4 8 8
- 伯方(はくほう・上条) → 柳居(りゅうきよ・上条かみじょう、与力/国学) D 4 9 3 4
- 伯邦(はくほう・市野) → 迷庵(めいあん・市野いちの、質商/儒者) 4 3 0 0
- 伯鳳(はくほう・小山) → 儀(ただし・小山、国学/儒者) F 2 6 1 1
- 伯鳳(はくほう・宮本) → 君山(くんざん・宮本みやもと/宮、絵師) D 1 7 6 6
- 伯楸(はくほう・本多) → 思斎(しさい・本多ほんた、藩儒官) T 2 1 4 9
- 伯懋(はくほう・池尻/井上) → 懋(つとむ・池尻/井上、藩士/勤王家) 2 9 9 9
- 伯望(はくほう・松村) → 月溪(げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4
- 博房(はくほう・吉田) → 竹嶺(ちくれい・吉田よしだ、医者/儒/詩歌) D 2 8 9 6
- 博房(はくほう・万里小路) → 博房(ひろふさ・万里小路までのこうじ、廷臣;尊攘派) H 3 7 0 6
- 白峰山人(はくほうさんじん) → 義近(よしちか・田中たなか、儒者/詩文) E 4 7 5 9
- 博望舎(はくぼうしゃ) → 幸豊(ゆきとよ・池上、名主/開墾/殖産) F 4 6 0 9
- 白鳳明(はくほうめい) → 要人(かなめ・池田、藩士/俳人) O 1 5 3 2
- J3602 **白木**(はくぼく) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
[身は江戸に心は富士を越こゆる亭ちん](二葉之松426/前句;名残惜しさよ月の入り際ぎは)
- 薄墨庵(はくぼくあん) → 鶯秋(ろしゅう・橋井はしい、俳人) B 5 2 7 1
- 薄墨社(はくぼくしゃ) → 久受(ひさつぐ・中西/大中臣、神職/歌) B 3 7 3 8
- 麦保堂(はくぼどう、麦保舎) → 如之(じよし;号・杉木宗太夫、俳人) M 2 2 4 1
- 伯本(はくほん・小野) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8
- 薄本(はくほん・石黒) → 守稻(もりとし・石黒いしぐろ、国学者) J 4 4 2 3
- 白梵庵(はくぼんあん) → 馬州(ばしゅう・榎本、俳人) E 3 6 4 8
- 白凡斎(はくぼんさい) → 雲処(うんしょ・蒔田まさた、詩文/仏道) D 1 2 8 1
- D3693 **白麻**(はくま・小池こいけ、別号;囊庵/三芹)?-? 江戸の俳人;蓼太門/雪中庵執事、「梅の花」「歳旦」編、1786-7「探荷たんか集」二・三編、1772几董「其雪影」2句入;[栗飯もゆかしき色や菊の宿](其雪影)
- 幕末三舟**(はくまつのおさんしゅう);江戸幕末期活躍の3人の[舟]の付く幕臣
- 海舟(かいしゅう・勝、兵学)1823-98 I 1 5 7 1
- 泥舟(でいしゅう・高橋、槍術)1835-1903 B 3 0 1 2
- 鉄舟(てっしゅう・山岡、剣術)1836-88 C 3 0 4 3
- 幕末三筆**(はくまつのおさんびつ);江戸幕末期の3人のすぐれた書家
- 菱湖(りょうこ・巻まき)1777-1843 H 4 9 4 2
- 海屋(かいおく・貫名ぬきな)1778-1863 1 5 9 1
- 米庵(べいあん・市河)1779-1858 3 9 0 1
- 伯丸(はくまる・東久世) → 通庸(みちいさ・東久世ひがしぐぜ、廷臣/歌) K 4 1 2 2
- 白満(はくまん・木部) → 久品(ひさかず・木部きべ、旅籠屋/歌人) J 3 7 1 9
- D3694 **白妙**(はくみょう) ? - ? 雑俳;1765丸窓「豆鉄炮」巻末に眞先天満宮奉納句撰入
- 白明(はくみょう・月海;道号) → 月海(げつかい・白明;法諱、臨濟僧/赤穂義士記録) G 1 8 9 0
- D3695 **伯民**(はくみん;字・南部なんぶ、名;彝、養伯男)1770-1823 54 周防三田尻医;小石元俊門、儒;淇園門/詩;茶山門、松平定信の侍医、1802「技療録」22「難病治験方」編、「唇舌明鑑」著
[伯民(;字)の号]号;竜門/積善堂
- 伯民(はくみん・清水/源) → 頑翁(がんおう・清水、篆刻/書) D 1 5 4 8
- 伯民(はくみん・会沢) → 正志斎(せいしさい・会沢、儒/詩人) B 2 4 9 1
- 伯民(はくみん・安達) → 舒長(のぶなが・安達あだち、儒/詩歌) C 3 5 5 5

- 伯民(はくみん・竹野) → 治邦(はるくに・竹野たけの、医/天文/詩人) G 3 6 3 1
 伯民(はくみん・柳沢) → 芝陵(しりょう・柳沢やなぎさわ、儒者) M 2 2 9 9
 伯民(はくみん・富川) → 玄嶽(げんがく・富川とみがわ、儒者) I 1 8 2 8
 伯民(はくみん・会沢) → 正志斎(せいしさい・会沢あいざわ、儒者/尊攘) B 2 4 9 1
 白夢山人(はくむさんじん) → 周竹(2世しゅうちく・平尾、俳人) I 2 1 0 8
- D3696 伯明(はくめい;通称・根本ねもと、字;子来) ?-? 1853存 下総結城藩医(代々藩の本道医師を務める)、
 本道医学のほか蘭学を修学;町人の種痘を実施、俳諧を嗜む、教明の父、
 1850「懐胎養生訓」、「産科必要」著、
- D3697 伯明(はくめい・滝川たきがわ、俊徳、通称久三郎、晩翠男) ?-? 備前の兵学者;父門、「陽湖叢録」著
 伯明(はくめい・古宇田) → 知常(ともつね・古宇田こうだ、医者) P 3 1 8 8
 伯明(はくめい・中林) → 竹洞(ちくどう・中林なかばやし、絵師/詩歌) D 2 8 6 0
 伯明(はくめい・長沢) → 赤城(せきじょう・長沢ながさわ、藩士/馬術) K 2 4 2 1
 白面書生(はくめんしのしよせい) → 身空田鈍太郎末孫白面書生(うつけたどんたろうがぼっそんはくめんしのしよせい) B 1 2 4 6
 白毛舎万守(はくもうしゃまんしゅ) → 万守(まんしゅ・白毛舎、狂歌) K 4 0 6 3
 麦門堂(ばくもんどう) → 俳狂(はいきやう・遠藤えんどう、藩士/俳人) 3 6 9 9
 白門八弟子(はくもんのはちていし);加舎かや白雄しらお門下の8人のすぐれた俳人
 → 長翠(ちようすい・常世田とこよだ) J 2 8 0 9
 → 道彦(みちひこ・鈴木/村上) 4 1 1 5
 → 保吉(やすよし・万屋) D 4 5 5 6
 → 巢兆(そうちよう・建部) 2 5 1 7
 → 碩布(せきふ・川村) 2 4 1 1
 → 春鴻(しゅんこう・美濃口) 2 1 5 7
 → 葛三(かつさん・倉田) C 1 5 4 4
 → 天姥(てんぼ・宮本、古慊/虎杖) E 3 0 2 5
- D3698 白也(はくや・寺島てらしま、夏蕉男) 1801-7878 越後椎谷藩領信濃高井郡六川村大庄屋;1817家督嗣、
 のち代官に昇格、俳人;父と共に一茶門、画;栗洲号、能・謡曲・華道・茶道に通ず、
 1826「羅浮清話」、47「弘化四丁末日記」、「山茶花日記」著、追善集「月の佛」(1895刊)、
 [白也(;号)の名/通称/別号]名;本昆/本毘、通称;禪六郎/善兵衛、
 別号;白兔/栗洲/竹素園/歴木園/遠洞湖
 白野(はくや・今西) → 正立斎(しょうりつさい・今西、神職/医者) B 2 2 9 4
 伯埜(はくや・七尾) → 宣陽(のぶあき・七尾ななお、紀行文) 3 5 7 5
 白也苑(はくやえん) → 屋烏(おくう・渡辺/石井、藩士/俳人) B 1 4 4 6
 博約堂(はくやくどう) → 敬安(けいあん・岡おか、医者) F 1 8 2 2
- D3699 博宥(はくゆう) ? - ? 俳人、1680須磨寺案内記「福原鬢鏡びんかがみ」一風と共編
- E3600 白猷(はくゆう) ? - ? 絵師;挿画/1794紫暁「歩月の章」画
 博右(はくゆう/ひろみぎ?ひろすけ?・藤原) → 博古(はくこ・藤原、歌人) D 3 6 0 3
 伯圀(はくゆう・島津) → 貴久(たかひさ・島津、藩主、いろは歌作) M 2 6 9 5
 伯有(はくゆう・湯浅) → 明信(あきのぶ・湯浅ゆあさ、藩士/詩人) D 1 0 7 3
 伯有(はくゆう・星野) → 葛山(かつさん・星野ほしの、藩士/儒者) H 1 5 7 8
 伯由(はくゆう・松浦/檜林) → 栄哲(2世えいてつ・檜林ならばやし、医者) D 1 3 1 9
 伯友(はくゆう・小橋) → 香水(こうすい・小橋こばし、藩士/儒/尊攘) J 1 9 9 7
 伯友(はくゆう・神) → 晋斎(しんさい・神じん、医者/儒者) O 2 2 5 3
 伯猶(はくゆう・杉本) → 左近(さこん・杉本/中臣/伊野原/三神、神職) H 2 0 4 0
 伯猷(はくゆう・沢田) → 静庵(せいあん・沢田さわだ、儒者/詩人) H 2 4 2 6
 伯融(はくゆう・蟹江) → 観遊(かんゆう・蟹江かにえ、藩士/儒者) H 1 5 7 4
 伯熊(はくゆう・熊沢) → 惟興(これおき・熊沢くまざわ、儒者/国学) O 1 9 1 5
 白雄(はくゆう・千葉) → 篤胤(あつたね・千葉ちば、神職/地誌故実) E 1 0 6 6
 白雄(はくゆう・加舎) → 白雄(しらお・加舎かや、俳人) 2 2 1 4
- E3601 白楡軒(はくゆけん) ? - ? 俳人、1767「俳諧十寸鏡ますかがみ」万玉齋と共編
- I3690 白誉(はくよ、上人) ? - ? 浄土宗天性寺僧、伝不詳、1666行風「古今夷曲集」入、

[目の鞆も大豆まめの鞆をもはづしつゝ見食ふぞ月を賞翫しやうくわのかげ](古今夷曲;三)

(詞書「十三夜」、9月13夜は豆明月で枝豆を食べる)

単阿と関係があるか?不明

白誉(はくよ;法諱) → 単阿(たんあ;法諱、浄土僧) T 2 6 1 3

白誉(はくよ・本蓮社) → 秀道(しゅうどう;法諱、浄土僧) Y 2 1 0 9

伯余(はくよ・下河) → 東里(とうり・下河しもかわ、藩士/儒者/詩) I 3 1 1 1

伯瓊(はくよ・三田村) → 蘭谷(らんこく・三田村みたむら/藤原、儒/詩人) C 4 8 0 9

J3613 白楊(はくよう) ? - ? 江前期武州忍の俳人;1693不角「一息」入、
[蛇じゃになれど女心に身を爪つめり](一息/前句;脇目もふらず追いかけて行く)
(清姫も女だから途中で己の所業を反省し我が身をつめったかもしれない)
(諺;我が身つめって人の痛さを知れ)

J3617 柏葉(はくよう) ? - ? 江前期俳人;1695不角「昼礫ひるつぶて」入

伯陽(はくよう・唐牛からうし) → 東洲(とうしゅう・唐牛、儒者/詩) E 3 1 9 5

伯陽(はくよう・仁井田) → 南陽(なんよう・仁井田にいだ、儒者/地誌) 3 2 4 8

伯陽(はくよう・茅根) → 寒緑(かんりよく・茅根ちのね、藩士/儒者) R 1 5 8 2

伯陽(伯楊はくよう・沢村) → 琴所(きんしょ・沢村/沢、儒者/兵学) E 1 6 1 4

伯陽(はくよう・小野) → 政春(まさはる・小野おの、官人/儒/詩歌) O 4 0 1 8

伯陽(はくよう・雨森) → 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり、朝鮮外交/詩文) 3 9 5 6

伯陽(はくよう・壺井) → 益春(ますはる・壺井つばい/山本、役人/国学) Q 4 0 9 8

伯擘(はくよう・土屋) → 藍洲(らんしゅう・土屋つちや、藩医/儒者) C 4 8 5 5

伯庸(はくよう・国友) → 善庵(ぜんあん・国友くにとも、藩士/儒者) E 2 4 8 1

伯庸(はくよう・池永) → 祇徳(まさのり・池永いけなが、藩士/歌人) N 4 0 5 4

伯養(はくよう・箕輪) → 蕃昌(しげまさ・箕輪みのわ、天文家) S 2 1 6 2

伯養(はくよう・二山) → 時習堂(じしゅうどう・二山ふたやま、儒者) D 2 1 9 1

伯養(はくよう・中井) → 藍江(らんこう・中井なかい、絵師) C 4 8 0 4

伯養(はくよう・松田) → 聴松(ちようしゅう・松田まつだ、俳人) N 2 8 5 4

伯羊(はくよう・香川) → 午谷(ごこく・香川かがわ、藩士/詩人) M 1 9 4 5

伯鷹(はくよう・中山) → 城山(じょうざん・中山/藤原、儒者/詩) S 2 2 6 0

伯鷹(はくよう・三宅) → 高翰(たかもと・三宅みやけ、商家/国学) Z 2 6 7 1

泊養(はくよう・鍋島) → 直能(なおよし・鍋島なべしま、藩主/歌人) C 3 2 9 0

柏葉(白葉はくよう・梅津) → 忠致(ただむね・梅津、家老/兵法家) Q 2 6 9 7

柏葉(はくよう・矢野) → 一貞(かずさだ・矢野/早川、藩士/地誌) M 1 5 2 3

柏葉軒(はくようけん) → 祖月(そげつ・山本やまもと、俳人) D 2 5 6 6

白蓉軒桂谿(白蓉軒桂谿はくようけんけいけい) → 桂谿(けいけい・白蓉軒、歌僧) 1 8 4 7

柏葉主人(はくようしゅじん) → 惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家) 1 9 4 8

伯翼(はくよく;字・清水) → 南山(なんざん・清水しみず、詩人) J 3 2 1 2

E3602 麦羅(麦蘿ばくら・岩間いわま、名;清馨、別号;隣々舎)?-1787 陸前刈田郡の修験僧;白石千手院住職、
権大僧都/法印、俳人;1804遺稿集「麦羅念仏」(門人停月庵鬼子[片倉村嗣]編)、乙二の父

白楽庵(はくらくあん) → 道貴(みちたか・太田、歌人) B 4 1 7 3

伯蘭(はくらん・桜井) → 石門(せきもん・桜井さくらい、藩儒/学制) D 2 4 8 7

博覧(はくらん/ひろみ・橘) → 広相(ひろみ・橘/薄、廷臣/詩人) H 3 7 1 6

E3603 羽栗(はくり/はぐり、名前不詳)?- ? 736遣新羅使人/万葉十五3640熊毛浦歌、吉麻呂親子説あり
年齢関係から吉麻呂か? → 吉麻呂(よしまろ・羽栗、遣唐使人) H 4 7 2 1

→ 翼(つばさ・羽栗、侍医) E 2 9 3 0

→ 翔(かける・羽栗、清河帰国要請のため帰唐) L 1 5 5 4

E3604 白里(はくり・満岡みつおか) 1812- 1878 67 肥前佐賀の儒者;江戸昌平黌に修学、
東国各地・蝦夷を遊歴、帰郷;佐賀藩校弘道館教授/晩年は開塾で子弟教育、
「東游詩稿」「東極紀行」「白里詩集」「白里文集」著、
[白里(;号)の名/通称]名;允成、通称;市助

白鯉(はくり・安形) → 讚岐(さぬき・安形あがた、神道家) K 2 0 6 6

- E3605 麦里(ばくり・石垣いしがき、別号;睡居/青牛舎)?-? 江後期俳人:楚石坊門、1804「越のむかし」著
 麦里(ばくり・藤森) → 桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育) F 1 8 6 0
- 3612 白鯉館卯雲(はくりかんぼううん・木室きむろ、名;朝濤ともなみ、木室勝久男)1714-8370歳 幕臣;1737家督嗣、
 御徒目付/小普請方/御広敷番頭歴任、俳人;紀逸門、宝暦1751-64頃俳人とし認められる、
 1773嘯山「俳諧新撰」入、狂歌もはやくより嗜む;1776狂歌家集「今日歌集」編、
 1782「狂歌四画」著、万載集25首/後万載集9首/才蔵集入、江戸小咄の祖でもある、
 嘶本作者;1772「鹿の子餅」77「譚囊」81「見た京物語」「奇異珍事録」著、
 [団子夜中新月の色五つ刺しすこし焦げたは曇りなりけり](万載集;五秋/白居易の詩)、
 [卯雲(;号)の通称/別号]通称;新七郎/七左衛門、
 別号;二鐘東雲にしょうとうん/二鐘亭半山/栗千/卯はる/山風/馬場雲壺、法号;英勝軒
- E3606 白鯉館卯雲(2世はくりかんぼううん、和田むだ定記、定能男)1744-183087 幕臣;小普請方、狂歌;卯雲社中、
 1795「月のえつきの止」編/97「春に徳登利」編/1803「狂歌鯉餌袋」編、
 [卯雲2世の通称/別号] 通称;忠次郎/新五兵衛、
 別号;二鐘亭半山(2世)/俳諧寮蝙蝠/蝙蝠老人/蝠翁
- 博陸(はくりく・源) → 通親(みちちか・土御門/久我/源、内大臣/歌) 4 1 0 8
 伯立(はくりつ・栗山) → 潜鋒(せんぼう・栗山/長沢、儒者/修史事業) 2 4 3 7
 伯栗(はくりつ・頼) → 春水(しゅんすい・頼らひ、儒者/藩儒/詩人) 2 1 6 0
 麦里坊(ばくりぼう) → 貞也(ていや・永田、狂歌作者) B 3 0 7 2
- E3607 白竜(はくりりゅう;法諱・三州さんしゅう;道号、村山清次男)1669-176092歳 武州曹洞僧;卍山門、
 1730大乘寺35世、師の宗統復古運動を援助、
 「宗統復古志」/「卍山和尚東林語録」編/「白竜和尚語録」著
- J3603 白流(はくりりゅう) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」4句入
 [悟りては骸からなき魂に死もあらず](前句;風次第なる薄けきなりけり、二葉之松141)
- L3614 白竜(はくりりゅう;法諱・法号;智空白龍上人無外和尚)1693-175260 京の浄土宗西山派僧、
 来迎寺6世住職、歌人;宮川松堅門、のち1752(宝暦2)肥後熊本に没す、
 1722松堅[倭譚五十人一首]入、
 [荻の葉に夏なき風の夕暮は秋よりさきにおどろかれぬる]、
 (倭譚五十人一首;31/晚風似秋/荻を鳴らす風は秋の寂しさを告げる)
- E3609 白竜(はくりりゅう・橘湖斎きつこさい、早野はやの、名;光泰)1736-181176 八代流華道の祖、
 1795六十賀の花会を催行、
 1788「生花わらひ草」95「生花三十瓶之図并百瓶之図」1802「插花作意伝」著、
 「插花千伽羅草」著、
 [橘湖斎白竜の通称/別号]通称;兵蔵、別号;橘湖亭/簫和
- 白竜(はくりりゅう;法諱・恒川) → 恒川(こうせん;道号・白竜、曹洞僧) K 1 9 1 9
 白竜(はくりりゅう;法諱) → 睡翁(すいおう;道号・白竜;法諱、曹洞僧) E 2 3 1 5
 白竜(はくりりゅう・加藤) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1
 白竜(はくりりゅう・奥) → 満雅(みつまさ・奥おく、藩士/砲術家) I 4 1 6 0
 白竜(はくりりゅう・小塚) → 知隆(ともたか・小塚こづか、神職) P 3 1 6 5
 白竜(はくりりゅう・西城戸) → 正義(まさよし・西城戸にしきど/菅原、神職) I 4 0 6 2
 白竜(はくりりゅう・檜林) → 忠綱(ただつな・檜林ならばやし、医者/和学) Y 2 6 7 7
 白竜(はくりりゅう・菅原) → 元道(もとみち・菅原すがわら、修験/絵師) K 4 4 1 5
 白柳(はくりりゅう・谷村) → 田社(でんしゃ・谷村、俳人) D 3 0 6 9
 伯立(はくりりゅう・栗山) → 潜鋒(せんぼう・栗山/長沢、儒者/修史事業) 2 4 3 7
 伯竜(はくりりゅう・山中) → 直興(なおおき・山中やまなか、商家/和学者) P 3 2 2 1
 伯隆(はくりりゅう・河北) → 房種(ふさたね・河北かわきた、囲碁棋士) C 3 8 1 2
 麦笠庵(ばくりりゅうあん) → 団斎(だんさい・麦笠庵、俳人) I 2 6 7 4
 白驪居士(はくりりゅうこじ) → 万子(まんし・生駒いこま、藩士/俳人) K 4 0 6 0
- E3608 白龍子(はくりりゅう・神田かんだ) 1680-176081 兵学者;富田覚信門;楠木流を修学、儒を以て出仕、
 浪人;神田紺屋町辺に住、刀剣鑑識にも長ず、談義本作者/雄弁で武家方で軍書を講釈、
 1713「合戦高名記」、刀剣鑑定;21「新刃銘尽あらみめいづくし」、談義本;29「三獣演談」、

1716「倭漢武家名数」26「難波軍記全解」、「武林玉露」「古戦評談」「古今武辺解」著/外多数、
[白龍子(；号)の名/字/通称/別号]名;勝久、字:履道、通称;杳、別号;講武堂

- 勝久(かつひさ・神田) → 白龍子(はくりゅう・神田かんだ、兵学/談義本) E 3 6 0 8
- E3610 剥竜子(はくりゅうし) ? - ? 狂詩;1779「物沢楼詩集」;銅脈先生「太平遺響」改竄本
白竜子(はくりゅうし) → 嵐牛(らんぎゅう・伊藤、国学/俳人) B 4 8 7 2
麦竜舎(ばくりゅうしゃ・宣澄) → 雲郎(うんろう・麦竜舎/坂本宣澄、商家/歌俳) E 1 2 1 8
白竜堂(はくりゅうどう) → 文鳳(ぶんぼう・河村かわむら、絵師) G 3 8 4 8
麦隴舎(ばくろうしゃ) → 雲郎(うんろう・麦竜舎/坂本宣澄、商家/俳歌人) E 1 2 1 8
伯慮(はくりよ・武知) → 方獲(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6
伯亮(はくりょう・木村) → 黙老(もくろう・木村きむら、藩家老/芸能) B 4 4 1 4
伯亮(はくりょう・奥村) → 忠順(ただのぶ・奥村おくむら、藩士/歌人) W 2 6 3 5
伯陵(はくりょう・山口) → 素絢(そけん・山口、円山派絵師) D 2 5 6 8
麦陵(ばくりょう・藤森) → 桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育) F 1 8 6 0
柏梁堂(はくりょうどう) → 耕雲(こううん・長雄ながお/修姓;長、書家) H 1 9 4 6
- E3611 伯琳(はくりん・杳雲楼) ? - ? 詩人;石川丈山門、
1691丈山「北山紀聞」共編;鷗波・正岑らと
- J3604 白林(はくりん) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
[罪隠す衣にほしきかくれ蓑](前句;天地てんちは錆のなき鏡なり、二葉之松355)
- E3612 柏琳(はくりん・仙客亭せんかくてい、荒井金次郎、初号;相州磯部[辺]) ?-? 1830-44頃相模大磯戯作者:
柳亭種彦門、1832「花吹雪縁棚」34「星下梅花咲」36「紫房紋の文箱」著
- E3613 伯鱗(初世はくりん・木偶坊でくのぼう) ?-? 講釈師;初世神田伯山門
伯倫(はくりん・元田) → 竹溪(ちくけい・元田もとだ、藩儒/詩) C 2 8 8 7
伯倫(はくりん・堀) → 文之(ふみゆき・堀ほり、医者/和学) I 3 8 7 0
伯隣(はくりん・益田) → 鶴楼(かくろう・益田、儒/詩人) E 1 5 8 4
伯臨(はくりん・高山) → 眞淹(まひさ・高山たかやま、神職/国学) Q 4 0 7 5
伯鱗(白鱗はくりん・広瀬) → 見龍(けんりゅう・広瀬ひろせ、医者) M 1 8 8 4
伯麟(はくりん・萩野) → 信竜(しんりゅう・萩野/平/孔平、藩士/儒者) Q 2 2 0 8
麦鱗(ばくりん・蘇生庵) → ばく(・松田、雑俳/洒本/浄作) C 3 6 4 9
白鱗舎(はくりんしゃ) → 拾山(しゅうざん・永島ながしま、俳人) X 2 1 4 2
麦林[舎](ばくりんしゃ) → 乙由(おつゆう・中川、俳人) 1 4 2 0
- E3614 白嶺(はくれい;法諱・雪棧せつざん;号、芙蓉閣) ?-? 江戸中期越前の真宗本願寺派僧、
1765「勸化令信鈔」、「勸化河清談」「大会見聞録」著
- E3615 白嶺(はくれい、初号;礼賀) ? - ? 俳人;宋屋[1688-1769]門
伯礼(はくれい・若月) → 大野(だいや;号・若月わかつき、藩士/儒者) L 2 6 1 0
伯麗(はくれい・菱田) → 毅斎(きさい・菱田ひしだ、藩士/儒者) I 1 6 6 3
伯令(はくれい・梶村) → 高朗(たかあき・梶村/柁村かじむら、儒者) L 2 6 4 8
伯劣(はくれつ・神谷) → 克楨(かつさだ・神谷かみや、藩士/故実) N 1 5 3 2
伯連(はくれん・佐瀬) → 主計(かづえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9
白蓮台(はくれんだい→びやくれんだい) → 紅顔(こうがん・白蓮台、日蓮僧/俳人) E 1 9 6 1
- E3616 白輅(はくろ・永田ながた、通称;岩次郎、別号;半閑室2世/枝法庵/花越斎) ?-? 1798存 遠州浜松藩士、
藩主井上正定に出仕、俳諧/連歌;尾張鳴海の下郷蝶羽門;雪中庵系俳人として活躍、
1785-88月並句会を共催(同藩吉田玄彦[徐生]らと)、
1798(寛政10)自笑庵橋夢に連歌の秘伝を授与、「蝶夢和尚消息集」編
白露(はくろ・秋月下) → 自笑(2世じしょう・八文字屋、書肆/浮世/俳人) T 2 1 8 3
白鷺(はくろ・酒井) → 忠道(ただみち/ただひろ・酒井、藩主/詩歌) F 2 6 8 7
- E3617 白老(はくろう;法諱・玄々堂;号) ?-? 上総木更津高倉の真言宗高蔵寺の僧、
俳人、境内に芭蕉句碑を建立;1813記念集「世美冢」編(一茶との歌仙など)、
一茶・成美・一峨と交流
白楼(はくろう;号) → 六如(りくによ;字/慈周;法諱、天台僧/詩) 4 9 8 1

- 白寵(はくろう・伊東) → 祐相(すけとも・伊東いとう、藩主/詩歌) G 2 3 6 8
- E3618 **麦浪**(はくろう・中川/のち慶徳、乙由[麦林]男)?-1768? 伊勢山田の俳人:父門/伊勢風の中心、父麦林の遺稿刊行;1739「麦林集」編/追善集を編纂、1768頃讃岐三殿の木村成憲宅滞在、1742麦林3回忌追善「秋のかぜ」編/42「麦浪集」44「筆の杖」45「麦林四季の讃」著、1748「夏の白根」/55麦林17回忌追善「梅の雫」/61麦林23回忌追善「一字題」編、1763「筆のさらへ」、「心の蝶々」「麦林諸々聞書」著外編著多数、[涼しさや竹に寝過す旅雀](金沢の暮柳舎希因の家を旅宿と定めて)、[小町より蛙かはぶの歌や春の雨](裸嘶/妖艶倦怠の小町より生気溢れる蛙の声がよい)、[麦浪(;号)の通称/別号]通称;図書、別号;杜菱とりょう(;初号)/麦浪舎/杜陵/杜十/杜什とじゅう
- E3619 **白鹿**(はくろく・桃もも/とう・桃井もものい、坂根さかね幸悦男)1722-180180歳 石見安濃郡川合村の儒者:石見浜田専称寺の漂竜和尚門;習字・素読を修学、1735江戸に遊学/1736桃もも東園門;その才を認められ養子となる、41昌平覺;林榴岡・鳳谷門/屢々聖堂で経書を講ず、1757出雲松江藩儒;養父の許可で松江住/1758-1801藩校文明館(のち明教館)教授、後藤芝山・柴野栗山・関松窓と交流、西河せいかの養父、1800「劉向説苑りゅうきょうせいけん考」著、「荀子考」「論語一斑」「禹貨考」「大学独断」「白鹿詩文集」外著多数、「白鹿先生遺稿」、[白鹿の幼名/名/通称/別号]幼名;友之助/友太郎/硯次郎、名;盛/字;茂功/子深、通称;源蔵/大蔵/題蔵、別号;百川
- 白鹿(はくろく・寺島) → 天祐(てんゆう・寺島たらしま、儒者) E 3 0 4 4
- 白露風庵(はくろふうあん) → 西風(にしかぜ・波多野はだの、俳人) 3 3 1 9
- 白話(はくわ・井上) → 童平(どうへい・井上いとうえ、酒造業/俳人) H 3 1 0 6
- 伯和(はくわ・菅野) → 白華(はくか・菅野すげの、儒者) C 3 6 8 1
- 伯和(はくわ・粕谷/半井) → 仲庵(ちゅうあん・半井なからい、藩士/医者) F 2 8 7 6
- 伯和(はくわ・岡井) → 赤城(せきじょう・岡井、藩儒/詩人) D 2 4 5 4
- 伯和(はくわ・服部) → 蘇門(そもん・服部はつとり、漢学/伝典) E 2 5 4 2
- 白湾(はくわん・岩井) → 重遠(しげとお・岩井/巖井/祝い、和算) R 2 1 6 4
- E3620 **巴兮**(はけい・得能とくのう/修姓;得、得能金十郎男)1686-? 越中福光の俳人:北枝/支考門、越中游吟中の涼菟と自宅で一座、1714「山琴集」編、[巴兮(;号)の通称/別号]通称;小右衛門、別号;其然堂きぜんどう
- E3621 **巴圭**(はけい) ? - ? 俳人、1812秋挙「惟然坊」跋文;刊行を勧めた馬卿(はけい・韓/山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4
- 馬溪(はけい・太田) → 有富(ありとみ・太田おた、神職/国学/歌) H 1 0 3 2
- E3622 **馬寛**(はけん・鷺さぎ、名;貞綱)1636-9459歳 摂津の生/江戸で鷺流狂言師、俳人;芭蕉門、同じ能役者沾圃・里圃と続猿蓑の編纂に関与/1698続猿蓑:師芭蕉と四吟歌仙など41句入、[堤よりころび落つればすみれ草](続猿蓑;巻下)、[馬寛(;号)の通称]権之丞/仁右衛門
- 破硯翁(はけんおう) → 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人) B 1 2 1 5
- E3623 **巴江**(はこう・馬雲斎) ? - ?寛延1748-51頃没 大阪の俳人;竿秋門、1735?日田へ行脚;代官所のある永山に逗留;同地の俳壇に大きく影響/同地に没?、1735「唐の津紀行」著、36「俳諧及第集」斗梁と共編、42「合点車」序、82刊蕪村「花鳥篇」1句入、[花の浪すくひ上げたき扇哉](花鳥篇;51/桜の浪を扇で取りたい;源氏の夕顔の如く)
- E3624 **波光**(はこう・山口やまぐち) ? - ? 京の俳人:羅人門/後を継ぎ貞徳流復古に尽力、「俳諧青雲土」著、1753貞徳百回忌追善「明心集」刊行/序・跋、57「老桂窩茂堂独吟百韻」編、1772几董「其雪影」1句入、[鉢叩の着たはあかつき衣かな](其雪影;巻尾392/垢付きと暁を掛る)、[波光(;号)の別号]老桂窩ろうけいか2世/蛭牙しづが斎2世/万事庵
- E3625 **波江**(はこう・市橋いちばし、治兵衛)?-1869切腹 加賀大聖寺藩士/金細工師/1868藩命で贋金製造;(新政府は越後戦争のため藩に弾薬供出を下命;藩は銀の贋金「大聖寺の小梅」製造し対応)、1869政府に露見摘発;パトロン(弾薬)事件/藩は責任を製造した波江にのみ転嫁;割腹巴江(はこう・村田) → 橋彦(はしひこ・村田、国学者) E 3 6 3 7

- 波江(はこう・不破) → 為章(ためあき/ためあきり・不破ふわ、藩士) T 2 6 7 6
 波光(はこう・仲) → 祇徳(2世ぎとく・仲、祇貞/初世男、俳人) B 1 6 6 1
 馬光(ばこう・長谷川) → 素丸(初世そまる・長谷川、幕臣/俳人) 2 5 2 9
 巴江庵(はこうあん) → 巴丈(はじょう・渡辺、俳人) E 3 6 5 1
 把香軒(はこうけん・里井) → 孝幹(たかもと・里井、商家/国学) N 2 6 4 2
- E3626 馬谷(初世ばこく・森川もりかわ伝吉、玄昌男) 1714-91 78 瑞龍軒の弟/百略の兄、江戸の講釈師;文耕門、
 興行形態を確立
- E3627 馬谷(2世ばこく、馬童) ? - 1856 江戸講釈師;初世門/修羅場読み、東流斎馬琴の師
- E3628 馬谷(3世ばこく、馬遊、2世男) ? - ? 江戸講釈師;1810襲名
 馬骨道人(ばこつどうじん) → 周人(しゅうじん・進藤しんどう、藩医/詩歌) X 2 1 6 3
 藐姑射山人(はこやさんじん) → 蘭軒(らんさい・伊沢いさわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3
- J3624 羽衣(はごろも) ? - ? 江戸本石町(日本橋)の組連、
 取次;1766「川柳評万句合」入;
 取次例[寝小便まだ御いとまはにへきらず](66万句合/前句;すきなことかな々々)
 (小便組の詐欺の女と知らされても殿はなお躊躇)
- J3627 羽ごろも(はごろも;組連) ? - ? 江戸芝の川柳の組連/取次;1777「川柳評万句合」入;
 取次例:[紺屋こんやの明後日あさって髪結ひのたつた今](万句合/前句;ところどころに々々)、
 (諺;紺屋の明後日医者のため今、諺の後半をもじって女髪結も待たされるよ)
- 羽衣館(はごろもかん) → 白尼(はくに・武藤、俳人) D 3 6 7 7
 巴斎(はさい) → 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人) J 2 6 1 1
 馬才人(ばさいじん) → 吾仲(吾中ごちゅう・渡辺、俳人) D 1 9 2 9
- E3629 巴山(はざん) ? - ? 江前期江戸の俳人;1691「猿蓑」/91不角「二葉之松」各1句入、
 [青草あをくさは湯入ゆりながめんあつさかな](猿蓑;巻二/露天風呂の景)
- E3630 坡山(はざん) ? - ? 江前期近江柏原の俳人/口語調俳諧・無季句収集、
 1703「虚空集」東海と共編(;巻末に「和歌かなづかい抜書」著)
- E3631 瀨山(はざん・田阪たさか/竹中たけなか長温/字;子恭、修姓田、緑漪斎、田阪半右衛門嗣) 1720-58 萩藩士、
 書院番/近侍、儒者;津田東陽/山県周南門;徂徠学、詩;「沕山[瀨山]詩集」著
- E3632 波山(はざん・芳川よしかわ俊逸/逸、字;公晦、通称善治/万助、俊正男) 1794-1846 常陸潮来儒;北山門、
 1809長崎遊学/25江戸開塾/26武蔵忍藩儒/藩校進修館教授、43房総沿岸警備、家塾;教育、
 藩版「東都事略」「南宋書」校訂刊行、
 詩人;「舍魚堂詩集」「波山随筆」「舍魚堂文庫」「晚晴楼詩鈔」、
 [波山の別号] 囚山亭/晚晴楼/舍魚堂、俊雄の父
- E3633 巴山(はざん・高橋たかはし、鳥山正作の末男) 1796-1871 76歳 陸前仙台の儒者;桜田虎門門、
 江戸の朝川善庵門、画を嗜む、「伊達氏系譜」著、
 森井月艇・大槻磐溪らと交友、晩年;松島に隠居、
 [巴山(;号)の名/字/通称/別号]名;貞則、字;青卿、通称;季八郎/八郎、
 隠居後の号;松島漁隠
- E3634 杷山(はざん・口羽くちば/本姓;大江、寺社奉行口羽善九郎元寔男) 1834-59 早世 26歳 長門萩藩士、
 儒;萩藩校明倫館に修学/選拔され江戸遊学;羽倉簡堂門/昌平黌に修学、詩人、
 安積良斎・藤森弘斎と交流、帰郷;家督継嗣;1858寺社奉行、憂国の情厚く吉田松陰と親交、
 「杷山詩抄」著、「杷山遺稿」、
 [杷山(;号)の名/字/通称/別号]名;通琦/貞順/親之、字;希琦、通称;徳祐、
 別号;憂庵/亀山/枇杷山人
- 巴山(はざん・小原) → 克紹(かつつぐ・小原おはら、儒/絵師/地誌) N 1 5 5 3
 琶山(はざん・植村) → 禹言(のぶこと・植村うゑむら、地誌家/紀行) B 3 5 4 0
 幡山(はざん・河田) → 小竜(しょうりゅう・河田/土生、絵師) B 2 2 9 6
 馬山(はざん) → 唵風(ざんぷう・庄司しょうじ、俳人) R 1 6 1 4
 巴山子(はざんし・富小路) → 任筋(にんせつ・富小路、坊官/勤王家) G 3 3 6 0
 馬山子(はざんし) → 杉更(さんこう、俳人) E 2 0 2 9
- E3635 馬山樵夫(はざんしょうぶ) ? - ? 民謡収集;1770民謡集「樵蘇しょうそ風俗歌」著、

1771「絵本倭詩経」編(盤桂禅師樵歌/柳原源次郎[蔀関月]画)

馬耳(はじ・佐藤) → 馬耳(はじ・佐藤さとう、本陣役人/俳人) E 3 6 3 6

馬耳庵(はじあん) → 鹿山(ろくざん、朴阿仏、俳人/詩歌) 5 2 8 5

端木(はしき・井上) → 常之(つねゆき・井上/小原、商家/歌/画) E 2 9 1 5

K3681 **はしき子**(はしきこ・松平まつだいら、旧姓;永石) 1756-1830 75 国学・歌人;[半井梧菴伝]入、
伊予西条藩6代藩主松平頼謙よりかね(1755-1806)の側室、
頼看(・松平/1774-97)・忠顕(・本多/1776-1838)・頼啓(・松平/1785-1848)の母、
[はしき子(;名)の通称/法号]通称;於古代およの方/松平頼謙夫人、法号:精林院
於古代の方(およのかた) → はしき子(はしきこ・松平まつだいら/永石、藩主妻/歌) K 3 6 8 1

J3671 **橋子**(はしこ・石原いしはら、別名;玉鴛、松山藩儒日下くさか陶溪女) 1806-65 60 伊予松山の歌人
橋蔵(初世はしぞう・大川) → 菊五郎(3世きくごろう・尾上、歌舞伎役者) 1 6 9 5

N1568 **はし鷹身寄**(はしかみより) ? - ? 江戸狂歌;1785「後万載集」2首入:
[寄栗恋 しびしぶな応いへながらに俯つぶくはまだうたぐりのき娘ぞかし]

J3623 **橋立**(はしだて;組連) ? - ? 江戸本郷駒込千駄木町の川柳の組連、
取次;1766「川柳評万句合」入;
取次例;[まゆ毛をばひくひくするが火元なり](66万句合/前句;恥かしい事々々)、
(諺;屁は屁元から騒ぎ出す)

端太夫(はしだゆう・原田) → 岐山(てんざん・原田、漢学) D 3 0 6 2

馬指堂(はしどう) → 曲翠(きよくすい・菅沼、藩士/俳人) 1 6 4 3

土師搔安(はじのかきやす) → 搔安(かきやす・土師、狂歌) B 1 5 2 7

E3637 **橋彦**(橋比古はしひこ・村田むらた、通称;七右衛門、真淵甥) 1727-99 73 伊勢奄芸郡白子の国学者:
1765賀茂真淵/72本居宣長門、「安濃の日記」、「村田橋彦書簡」著、
1781宣長「手向草」入;真淵追悼歌文集、春門はるかどの養父、
[橋彦の号] 田鶴屋/蘆鶴舎/健斎(建斎)/滄海/安雄美/老鶴/巴江/玉琴亭主人
間人皇后(はしひとのおおきさい) → 間人皇女(はしひとのひめみこ) 3 6 1 4

3615 **間人宿禰**(はしひとのすくね・名不詳)?-? 万葉二期歌人:九1685-6:泉河の辺の歌2首、
[川の瀬の激たぎちを見れば玉かも散り乱れたる川の常かも](万葉;九1685)
間人宿禰大浦と同一? → 大浦(おおうら・間人宿禰、万三期歌人) 1 4 5 3

3614 **間人皇女**(はしひとのひめみこ、舒明天皇皇女)?-665 母;齐明[皇極]天皇/天智の妹/天武の姉、
孝徳天皇皇后、夫孝徳天皇と難波在住/兄中大兄皇子[天智]に伴われ飛鳥へ;
夫は失意崩御、孝徳没後名義上の天皇[中皇命(なかつすめらみこと)];万葉;一3/4、10-12、
[たまきはる宇智の大野に馬並なめて朝踏ますらむその草深野くさふかの](万葉;4反歌)
「中皇命(なかつすめらみこと)」の齐明[皇極]天皇説もある

3616 **間麻呂**(間満はしまろ・秦忌寸はだのみき)?-? 736遣新羅使人/万葉四期歌人:十五3588生駒の歌、
[夕さればひぐらし来き鳴く生駒山越えてそ吾が来る妹が目を欲ほり](万葉;3588)

E3638 **元**(はじめ・藤元ふじもと、兀亭子こつてい)?-? 軍記作者;1681?「前太平記」著
平山素閑と同一? → 素閑(そかん・平山、石田軍記?) D 2 5 4 4

E3639 **肇**(はじめ・楠部くすべ、定賢男) 1760-1820 61 歳 加賀金沢の町会所の吏、旧簿数百巻を整理、
検索に便利にす、書家;欧陽詢の書法に長ず、郷土史研究、「加賀古跡考」「蟻息」著、
[肇(;名)の字/通称/号]字;子春、通称;金五郎、号;芸台うんだい、屋号;楠部屋

E3640 **肇**(はじめ・金こん) 1787 - 1833 47 羽後秋田藩士;藩主佐竹義和より[肇]の名を賜る、
評定奉行/永世宿老、佐竹家の系譜編纂(中安弦斎と共編)、「鷹の爪」編、
[肇(;名)の字/通称/号]字;子顕、通称;平五郎/宇一郎、号;道楊

E3641 **肇**(はじめ・寺井てらい、別名;寛吾/吉利/淑俊、魯剂男) 1787-1854 68 高松藩士/画/古書画愛好、
武家故実:屋代弘賢らと交流、肥後地方古武器調査、「故実考」「故実雑論」編、「樾屋雑考」、
「海防要録」「甲冑聞書」「古画兵器考証」「肥後国集古兵器図証」「古銭考」「神馬考」、
[肇(;名)の字/通称/号]字;志修、通称;寛吾、号;樾屋(こかげや/三多斎/復古堂/求古堂/走帆堂、
謙造けんぞう(小樾こかげ)の父

E3642 **始**(はじめ・池尻いけじり、別名;洌、井上三左衛門2男) 1802-78 77 外戚池尻家の養子;筑後久留米藩士、
儒:樺島石梁門、1830江戸湯島聖堂入/のち松崎謙堂こうどう門;9年従学、

帰郷;久留米藩校明善堂の講師/1862命を受け上京;勅使三条実美の関東下向に随行、
1863学習院御用掛/勤王:政変で幽囚、1768赦免、1865「池尻始上書」著、
[始の字/通称/号]字;有終、通称;茂左衛門、号;紫海/葛覃かつたん、懋つとむの養父

- J3687 一(はじめ・加島かしま) 1837-1916 80 美濃岐阜も国学者/歌;氷室長翁・植松茂岳門、
[一(;)名)の字/通称/号]字;重遠、通称;喜一郎、号;七舟/柳斎じょさい
- E3643 元(はじめ・中台なかだい)、別号;直矢、元倫男) 1838-88 51 出羽庄内藩士/儒;藩校致道館入/早田知元門、
藩校助教/1868戊辰戦争参、詩文、「大泉地名箋」「庄内人物誌」著、
[元(;)名)の字/号]字;君道、号;華陽/永建/安節
- 一(はじめ・今泉) → 恒丸(つねまる・今泉いまいずみ、俳人) D 2 9 8 0
一(はじめ・河本) → 正安(まさやす・河本/川本、医者詩文) I 4 0 1 4
一(はじめ・石川) → 貞幹(さだみき・石川いしかわ/源、尊攘) N 2 0 8 5
元(はじめ・細川) → 潤次郎(じゆんじろう・細川、藩士/航海術) L 2 1 1 3
始(はじめ・万年) → 樸山(れきざん・万年まんねん、医者) 5 1 7 7
肇(はじめ・高橋) → 富兄(とみえ・高橋、藩士/国学/歌人) O 3 1 8 0
肇(はじめ・片山/相馬) → 九方(きゅうほう・相馬/片山、儒者/詩) I 1 6 7 7
肇(はじめ・福田/丹羽) → 正雄(まさお・丹羽、農家/廷臣/勤王家) B 4 0 4 2
肇(はじめ・平松) → 周玄(ちかはる・平松ひらまつ、神職/歌人) N 2 8 3 7
橋本(はしもと;号) → 実俊(さねとし・西園寺/藤原、廷臣/歌) D 2 0 3 0
- E3644 橋守(はしもり・関せき、内蔵助男) 1804-83 80 母;発、上州群馬郡室田の歌人;千種有功門、
諸名家と交流、1853(嘉永6)隠居;歌道に勤しむ/毎年4月日光例幣勅使を碓井峠で迎える、
京阪を歴遊;公卿から耳順賀の和歌を蒐集、1853「賀五十齡歌」63「耳順賀集」編、
「橋守旅日記」著、
[橋守(号)の名/通称/別号]名:実遂、通称;内蔵助、別号;紅葉館/紅葉楼/皇朝学士
- E3645 巴雀(はじゃく・武藤むとう) 1686- 1752 67 尾張名古屋京町筋の紙商、俳人;東鷲/乙由門、
涼菟/木因門、露川/木兎/知足/支考らと交流、1740隠居;俳諧三昧の生活、
「草錦」「花の幣」編、1742柳居「芭蕉翁同光忌」入、43「三吟四季俳諧」「芭蕉五十回忌集」、
追善集;7回忌追善「水芙蓉」(白尼編)/1回3忌「蟬時雨」(去角編)、
[一番に猫の逃げたる蚊遣がかりかな](花月の会/生葉で燻す蚊遣火は人も逃げ出す)、
[巴雀(;)号)の通称/別号]通称;七兵衛、別号;反喬舎、屋号;紙屋、蓮阿坊白尼の父
- 破沙盆(はしゃぼん) → 江隠(こういん;道号・宗頤;法諱、臨濟僧) H 1 9 3 5
- E3646 霸充(はじゅう) ? - ? 江中期加賀金沢の俳人;北枝門、
1718(享保3)師の追善集「けしの花」編
- E3647 巴十(はじゅう・漸々舎) ? - ? 江中期江戸座の雑俳点者;存義らと活動、
1767「俳諧木の葉がき」鯉郷と共編
- J3630 葉十(はじゅう) ? - ? 江戸の川柳作者;1773「誹風柳多留八篇」初見、
1791「誹風柳多留二四篇」の初世川柳追善句会「玉柳」の三評の1(菅江らと)、
1780川柳撰「川端柳かはぞひやなぎ」初篇-三篇・1782-85「柳多留」十七-二〇篇に句入、
[うらゝかき品川沖へからはだし](柳多留;十七)
- E3648 馬州(馬洲ばしゅう・榎本えのもと)、通称権平、白梵庵/仏魔巢、武矩男) 1701-63 63 尾張犬山藩士;小姓役、
1715致仕/名古屋杉村に通世、俳人;露川門、1735「銘録集」、1745師の追善集「秋の水」編、
1749「和須連寿」53「竜が岡」55「つきのまへ」76「かたみ不二」編、「いさり火」著、外編著多、
合法磊落で奇行逸話あり、松平君山と交流
- 巴菽園(はしゅくえん) → 樸斎(れきさい・阿部あべ、医者/本草家) 5 1 7 5
- E3649 巴笑(はしゅう・望橋舎、通称茂兵衛、屋号加納屋) ?-? 江中期木曾福島の俳人;巴雀門、也有と交流、
1766木曾棧に芭蕉記念句碑建立:記念集「かけはし集」編
- E3650 巴丈(はじょう) ? - ? 江前期尾張名古屋の俳人;支考門、
1689「あら野」/98「続猿蓑」入、
[なにとなく植ゑしが菊の白き哉](あら野/卷四暮秋)
- 3613 巴静(はじょう・太田おた)、可成[可政]男) 1681-1744 64 美濃竹ヶ鼻の生/正徳1711-13頃名古屋住、
俳人;支考・露川門、享保1716-36頃尾張美濃派の中心;獅子門代表者;尾張美濃三河に勢力、

1734江戸で柳居の許に滞在/41大須観音真福寺で芭蕉忌催、夕湖の弟、也有の師、
1703「草枕」06「羽毛都以天[刷毛序]はけついで」編/34「盆踊集」「俳諧木の本」「吾妻掲あづまからげ」編、
1749「六々庵発句集」、「茶飲嘶」「俳諧口伝書」「巴静俳諧集」、追善；「南無如月」（豆花編）、
[一羽啼き二羽なき後あととは千鳥かな]（六々庵発句集）、

[巴静(；号)の通称/別号]通称；弥平次、別号；反喬舎/六々庵/藪流下/桑流下/百寿斎、

E3651 **巴丈**(はじょう・渡辺わたなべ、巴江庵、貞阿男)?-1796 江中期佐渡新穂村の酒造業/俳人；父貞阿門、
父の巴江庵を継承、「冬ごもり集」編

E3652 **波浄**(はじょう・酒井さかい) 1797- 1870 74 尾張一宮神明津の俳人；諸国歴遊、生花を嗜む、
1860(万延元)「阿讚伊土集」編、
[波浄(；号)の名/通称/別号]名；莊吾、通称；惣左衛門、別号；櫛窓、
法号；善誉広空清阿波浄居士

E3653 **波静**(はじょう・日下部くさかべ、通称；小源治、別号；多少菴/永嘉亭)?-? 江戸の俳人；秋瓜門、
1780芭蕉「甲子吟行」編、1789「碑石集」1801「露しくれ」編/1802「多少菴壬戌歳旦帖」著

E3654 **波静**(はじょう・叡[永]下堂)?- ? 1779菊之丞年代記「菊家彫」、1811歌舞伎年譜「沢村家賀見」
俳人日下部波静との関係は不詳

3617 **芭蕉**(はじょう・松尾まつお、与左衛門2男) 1644-94客死 51 伊賀上野赤坂町の生、半左衛門命清の弟、
伊賀上野城代嫡男藤堂良忠(蟬吟)に出仕/俳人；季吟系貞門俳諧を嗜む；
1664重頼「佐夜中山集」2句入；初出、1666蟬吟没；出奔上京、72(寛文12)俳諧を志し江戸へ、
上京；北村季吟門；1674「俳諧埋木」の伝授を受、再び江戸移住；高野幽山の執筆を務める、
その縁で大名内藤義泰(風虎)の座に参加；俳名が上る/1678日本橋小田原町で宗匠立机、
1680点業を廃し深川の草庵(泊船堂・のち芭蕉庵)に退隠；1681芭蕉庵焼失；
これを機に一所不住を心に行脚・庵住を繰返す、わび・さび・かるみ・しをりの理念追究；
蕉風俳諧を確立、仏頂和尚に参禅/医；本間道悦門/書；北向雲竹門/画；門人森川許六門、
九州への旅の途中で大坂御堂前の花屋仁右衛門方に客死、
紀行文；「のざらし紀行」「鹿島紀行」「笈の小文」「更科紀行」「奥の細道」など、
七部集など門弟への句集指導、俳文；「幻住庵記」「嵯峨日記」「柴門辞」など、
[芭蕉(；号)の幼名/名/通称/別号]幼名；金作、名；宗房、
通称；忠右衛門/甚七郎/甚四郎/藤七郎
別号；桃青・釣月軒・泊船堂・天々軒・坐興庵・栩々斎くくさい・花桃天・華桃園・芭蕉洞・芭蕉翁・
芭蕉庵・素宣・風羅坊・是仏房・素宣・土糞どふん、(印章号)；虚無/杖銭/鳳尾/羊角/羽扇、
[内妻]； → 寿貞(じゅてい) Z 2 1 7 9
[子]；次郎兵衛・まさ・おふう・理兵衛

E3655 **馬笑**(はじょう・楽亭、楽山人/4世竹本倉太夫)?-? 1790-1818頃江戸浅草浄瑠璃語り、戯作；三馬門、
1798「廓節要」著、1811滑稽本「狂言田舎操いなかあやつり」三馬と共作

E3656 **馬生**(初世はじょう・金原亭、円遊/家猿)?-1838 落語；初世円生門、芝居咄祖、「東都地満武」著

E3657 **馬生**(2世はじょう・金原亭、馬朝/鈴々舎馬風、立川玉輔/五明楼) 1803-68 66 落語；初世門、
講談；東玉門/2世焉馬門、「義士伝」著

E3658 **馬生**(3世はじょう・金原亭、馬若)?-1873 落語；2世門、芝居咄

芭蕉(はじょう・那波) → 蕉摠(しょうそう・那波なば、漢学者/詩歌) K 2 2 5 3

E3659 **馬常**(はじょう) ? - ? 大阪雑俳点者、1782虎風「場付鼻あぶら」入

E3660 **馬丈**(はじょう・如月庵きさらぎあん、一太坊、伏見屋) 1751-1835 85 江戸華道；春草庵一枝門、華道師匠、
1805「遠州流插花百瓶図」著

E3661 **馬城**(はじょう) ? - 1812 甲斐巨摩郡五町田の俳人；可都里門、

甲斐で俳諧宗匠として活動、「新嘗鳥」著、追善集「かれあやめ」(1819刊)、万志羅の父

E3662 **馬丈**(はじょう・瓢舟舎/造化園)?- ? 江後期越中高岡の俳人；桃牛/壺仙らと結社、
關更・車大・麦水・馬來と交流、1782(天明2)「すみ田川の春興」編/91「春興集」編、
1812「俳諧二野日記」著

馬城(はじょう・安田) → 雷洲(らいしゅう・安田/中村、幕臣/絵師) 4 8 5 8

馬乗(はじょう・品動堂) → 品動堂馬乗(ひんどうどうはじょう、洒落本) H 3 7 8 4

芭蕉庵(はじょうあん) → 白人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1

- 馬上隠者(ばじょういんじゃ) → 東門(とうもん・桜井さくらい、藩儒/詩人) H 3 1 4 7
 芭蕉園(ばじょうえん) → 豹(はだら・飯田、詩歌) E 3 6 8 1
 芭蕉園(ばじょうえん) → 正起(まさおき・飯田いいだ、藩士/歌/教育) N 4 0 4 6
 芭蕉洞(ばじょうどう) → 芭蕉(ばじょう・松尾、俳人) 3 6 1 7
 芭蕉堂(ばじょうどう) → 關更(關臯/蘭更らんこう・高桑、俳人) 4 8 0 3
 芭蕉堂(2世ばじょうどう) → 蒼虬(そうきゅう・成田、俳人) 2 5 0 7
 芭蕉堂(3世ばじょうどう) → 千崖(せんがい、俳人) F 2 4 0 2
 芭蕉堂(5世ばじょうどう) → 公成(こうせい・河村/仁壁、俳人) B 1 9 5 0
 芭蕉堂(ばじょうどう) → 九起(きゅうき・北村、俳人) B 1 6 9 6
 葩象房(はしやぼう) → 紙隔(しかく・板羽、俳人) P 2 1 7 9
 芭蕉楼(ばじょうろう、芭蕉林) → 鳳朗(ほうろう・田川たがわ/永井、俳人) 3 9 5 8
 走り井(はしりい) → 烏頂(うちよう・井口いぐち、商家/俳人) D 1 2 1 4
 走井阿闍梨(はしりいのあじやり) → 宣源(仙源せんげん;法諱/歌僧) F 2 4 2 9
 羽白庵(はしろあん) → 宗真(そうしん・代田しろた、茶華道/歌人) K 2 5 9 6
 波臣(はしん・林はやし) → 養老館路産(ようろうかんろさん、国学/狂歌) B 4 7 6 5
- 3618 **巴人**(はじん・早野はやの、名;忠義、新左衛門義見2男) 1676-1742⁶⁷ 下野那須郡烏山からすまの俳人、江戸で其角/嵐雪門、参禅;竹道禅師門、百里・青流と提携/1727親友百里の死で江戸を去る、1725?伊勢大坂を行脚/京で立机;郢月泉を営む;京俳壇で地位確立、潔癖・清高の人、1737再度江戸に帰る、日本橋本石町に夜半亭を営む;雁宕・蕪村ら入門、1732「卯花千句」33「一夜松」39「誹諧桃桜」41「辛酉歳旦」編、「夜半亭発句帖」「経読鳥」編、追善集;1周忌「造化集」/3回忌「手向の墨」宋屋編/7忌「結び水」/33忌「むかしを今」蕪村編、[降りためて大地へ落つる雪の音][伊勢近し尾花がうへの翳雲](夜半亭発句帖)、[こしらへて有ともしらず西の奥](辞世)
 [巴人(;号)の通称/別号]通称;新左衛門/甚助、別号;竹雨(;初号)/夜半亭/宋阿(そうあ)/宗阿/松下庵/郢月泉(えいげつせん)、法号;釈宋阿居士[巴人の門人] 宋屋/几圭/雁宕/蕪村など多数
- 巴人(はじん) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
 巴人(はじん・下郷/千代倉) → 亀洞(きどう・下郷、学海、醸酒業/俳人) B 1 6 5 7
- E3663 **婆心**(はしん・寒寥堂(かんりょうどう)?- ? 俳人;芭蕉研究;
 1801「芭蕉翁伝」著(:伊賀古伝承資料等)
- 巴人亭(はじんてい) → 南畝(なんぼ・大田、狂歌・狂詩/戯作) 3 2 3 3
 巴人亭(2世はじんてい) → 光(ひかる・頭つむりの、狂歌師/南畝門) 3 7 0 1
 巴人亭(はじんてい) → 市人(いちんど・浅草、質商/狂歌) 1 1 1 8
- E3664 **巴水**(はすい・藤井ふじい) ? - ? 江前期加賀金沢の俳人;蕉門の俳人と交流、1693大阪の路通を訪門、近江の木節を訪問、「薦獅子こもじ集」編(;路通跋)
- E3665 **嶮水**(はすい・宮崎みやざき、四山亭)?-? 江戸中期俳人;關更門、1783「四山集」/87「關更句集」/89「其三集」/93「まほろし」編
- E3666 **瀨水**(はすい・福原ふくはら、名;就道/克、就寿男) 1777-1806³⁰ 江戸の儒者;昌平黌出/古賀精里門、1803経史文章家に及第;上等、詩歌、「瀨水漫筆」、家集「藻屑」、「瀨水遺稿」、植木玉厓の兄、[瀨水の字/通称/別号]字;子復/通称;敬蔵、別号;松暎(しょうとん)、法号;徧正会転、
 把翠(はすい・井上) → 玄桐(げんとう・井上いのうえ、医者) L 1 8 7 7
 蓮の家(はすい) → 鈴応(れいおう;法諱・武川、浄土僧/俳人) B 5 1 5 5
- E3667 **筈之助**(はずのすけ・浅羽あさば、名;政吉/政方、政庸男)?-? 中島流砲術家:1797幕府御先手与力、1842「於佃島沖海上中嶋流船軍火術昼夜相図稽古業書」著
 波寸見(はすみ・本多) → 恒久(つねひさ・本多ほんだ、家老/和学) G 2 9 3 4
 羽積(はずみ・流石庵(りゅうせきあん)) → 羽積(はづみ・河村/川村、俳/歌謡) E 3 6 6 8
 蓮見軒(はすみけん) → 主住(ぬしずみ・山路、幕臣/天文暦算) 3 4 0 7
 長谷(はせ) → 長谷(はつせ・置始(おきぞめ)、万葉歌人) F 3 6 2 7
- E3669 **巴勢**(はせい・山下やました) ? - ? 江後期大坂の俳人:雑俳/冠付・折句の点者、化政期1804-30頃大坂俳壇の中心的存在、

- 1793鳥明「いけのむかし」跋/1816「冠附後の栞」/20「折句紀の玉川」/26「腕くらべ」編、
[巴勢(；号)の別号] 鼠六そろく坊/鼠六庵
- 巴静(はせい・太田) → 巴静(はじょう・太田, 俳人) 3 6 1 3
波静(はせい・日下部) → 波静(はじょう・日下部, 俳人) E 3 6 5 3
- E3670 馬生(はせい・増田ますだ) ? - ? 江中期大坂上難波町の仏教関係の文筆家:
1739(元文4)刊「観音経絵抄」著
- 馬声(はせい・河村) → 文鳳(ぶんぼう・河村かわむら, 絵師) G 3 8 4 8
巴薺園(はせいえん) → 為任(ためとう・阿部あべ, 本草家/英語) S 2 6 5 5
馬声斎(はせいさい・三村) → 春門(はるかど・三村, 名主/画/狂歌) G 3 6 2 0
- 3619 長谷雄(はせお・紀き, 正六位貞範男) 845-912 68 平安前期廷臣/漢学者; 大蔵善行・菅原道真門、
文章博士/大学頭/式部大輔/左大弁/894遣唐副使(中止)/902参議/910従三位/911中納言、
896大学寮で齊世親王に文選を講ず/897醍醐天皇の侍読; 群書治要を侍講、詔勅・表を作成、
詩歌人、「紀家集」「白箸翁伝」、911「亭子院賜酒記」、「紀家怪異実録」「昭宣公」(共に散佚)、
[竹取物語]の作者の候補の一人、[長谷雄草紙]の主人公、
本朝文粹入、扶桑集入、後撰4首; 39/620/758/789、親が長谷寺に祈願し誕生した逸話あり、
[長谷雄(；名)の字/唐名/通称]字; 紀寛/紀宮、唐名; 発昭/発韶/発超、
通称; 紀家/紀納言きのしょうげん
息子; 淑望・淑人・淑光・淑信
- 櫛園(はせぞの) → 葆光(かほみつ・三田さんだ, 幕臣/歌人) O 1 5 9 8
はせを(はしょう) → 芭蕉(はしょう・松尾, 俳人) 3 6 1 7
- E3671 馬雪(はせつ・斉せい, 瀬井せい秀介[秀助]・広田) ?-? 1785 存 江中期江戸歌舞伎作者: 金井三笑門、
市村座森田座で活動; 二三治/初世治助らに助力、時代物が得意、狂歌; 1787「才蔵集」入; 598、
1766「金花凱陣荒武者」67「太平記賤女振袖」69「名高雲井弦」70「馴染思の矢のね」著、
笠縫専助と合作; 1781「昔男雪雛形」82「伊勢平氏栄花曆」83「寿万歳曾我」著
1785「室町殿桜花舞台」著
- E3672 婆雪(はせつ) ? - ? 俳人; 蕪村門、芭蕉庵落成記念歌仙に参加、
1782蕪村「花鳥篇」入、
[朝戸出あさとでや落花らくく戸をうつうれしさに](花鳥篇; 68/朝戸出は朝早く戸を開け出る、
花吹雪が戸を打つ音を聞く)
- 馬雪(はせつ・斉せい) → 寿来(じゅらい・宝田たからだ, 歌舞伎作者) J 2 1 0 9
長谷前大僧正(はせのさきのだいうじょう) → 覚忠(かくちゅう・宇治僧正, 天台僧/歌人) 1 5 6 4
長谷僧正(はせのそうじょう) → 観修(かんしゅう・法諱, 天台僧) D 1 5 9 0
長谷径(はせみち) → 超波(ちやうは・清水, 俳人) J 2 8 6 6
- E3673 波泉(はせん) ? - ? 加賀小松の俳人; 1776樗良「誹諧月の夜」1句入、
[白妙の露の里家さとやに打つ砧](月の夜; 56)
- 巴仙(はせん・森崎) → 是空(ぜくう・森崎もりさき, 吏員/俳人) K 2 4 5 6
- J3635 破扇子(はせんし・延沢のぶさわ) ?- ? 江前期江戸の俳人、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、
[節分の舟は波濤を畳かな](手鑑/節分の舟; 宝船の摺り物)
- E3674 巴扇堂(初世はせんどう, 姓; 大塚おおつか) ?-1820 江戸市ヶ谷の狂歌師/牛込加賀屋敷住、
1785「後万載」2首、87「狂歌才蔵集」7首、98「昔嘶赤本狂歌」著、
[卯の花も白旗しらはた色に先だちて鎌倉殿をまつ魚哉](才蔵集; 卷三129、
卯の花は初夏先頭に白花を咲かせる/鎌倉は松魚[鯉]の水揚港)
[巴扇堂初世(；号)の名/別号]名; 弥惣、別号; 吳竹世暮気くれたけのよぼけ
- E3675 巴扇堂(2世はせんどう・連むらじ/本姓; 藤原) 1779-1828 50 江戸の武士; 出仕したが致仕/市ヶ谷の筆匠、
狂歌: 初世巴扇堂門/五側判者/のち師の号を継嗣; 2世巴扇堂を名乗る、長久の父、
「狂歌国尽」「狂歌雙楼集乾」編、
[巴扇堂2世(；号)の名/通称/別号]名; 長賢、通称; 彦右衛門、
別号; 鶯毛亭万年(；初号)/筆常持ふでのつねもち/巴扇堂常持、法号; 清光院
- 馬仙人(はせんにん) → 韋吹(いすい・天井, 商人/俳人) 1 1 9 3
- E3676 馬曹(ばそう・西村にしむら) 1745-1800 56 or 55 代々伊勢四日市の駅長/歌人: 三橋成烈門、

- 書;岡田挺之門、詩歌/俳諧、南畝と交流、
1789「老伴集」90「歳旦集」著、「わすれ井の蛙」「衛生遊稿」著、
[馬曹(;号)の幼名/名/字/通称]幼名;茂貞げさだ、名;貞、字;節甫、通称;庄右衛門
馬宋(ぼそう・松田) → 平四郎(へいしろう・松田、筆墨商/陶工) 2 7 5 2
破草鞋(はそうあい;号) → 明兆(みんちよう;法諱・吉山;道号、臨濟僧/絵師) G 4 1 7 0
破草鞋道人(はそうあいどうじん) → 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) 4 1 3 0
- E3677 **坡仄**(はそく・野間のみ) 1724 - 1801 78 伊勢度会郡楠部村の商人;万金丹本舗野間家の番頭、
野間姓を許可される、洗粉製造を家業とす、俳諧:樗良門/樗良四天王の1、
樗良が伊勢を退去後に樗良編「我庵」序/刊、1766「名月乃吟」編、
「鳳尾庵歳旦」「誹諧連歌歌仙」編、千代尼「松の声」序、1776樗良「月の夜」/几董「続明鳥」入、
[花のみだれさても心の似たるかな](月の夜;64/桜花の風による乱れは我が心の様)
[坡仄(;号)の名/通称/別号]名;光文、通称;茂兵衛、別号;鳳尾庵/梅月庵/隠岡老人
- E3678 **婆東**(はそう・桑原くわばら/井上いのかげ、俳人布門の長男) 1728-65 38 大阪俳人;父門/父の俳諧業を継嗣、
1754「いなのかげ」編/58「阿波土産」著「桑老人三回忌追善集」編/60「俳諧一代能」編、
1751春耕「あふ夜」57律中「耳勝手」入、女媒いのかげの兄、
[婆東(;号)の名/通称/別号]名;村雄、通称;彦三郎、別号;五流斎2世、
[守郷(;名)の通称/号]通称;亀之助、号;岡廼舎/馬太
馬太(ばたい・輿石) → 守郷(もりさと・輿石こいし/山本、神職/歌人) K 4 4 0 0
馬台(ばだい・白井) → 匡之(まさゆき・白井しらい、医者/国学) Q 4 0 2 4
畑の畦道(はたけのあぜみち) → 且暮畔道(たんぼのあぜみち・艾屋、狂歌) I 2 6 6 0
- I3677 **畑仲道**(はたけのなかみち) ? - ? 甲斐甲府の狂歌作者;1787「才蔵集」1句入、
[南京のかさね焼やきかはしら露のをきならべたる菊の花皿](才蔵集;五232、
南京焼は近世初期に輸入された清朝の磁器/花皿は散華に使用する仏具)
畠山阿闍梨(はたけやまのあじかり) → 日大(にちだい;法諱・上行院、日蓮僧) C 3 3 7 7
- J3640 **機女**(はたじょ・武谷たけたに、旧姓;井岡) 1812-73 62歳 江戸住の歌人、阿波藩士武谷栄国ひでくにの母、
息子栄国の妻武谷楽女らくじょも歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」(息子栄国と入)、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[今日ひと日まだ春なるに大空ははやくも雲の峰つくりけり](大江戸倭歌;春375)、
[ふるさとの春に心のいそがずは花の夜床やおきうからまし](現存百人一首;72)、
息子栄国 → 栄国(ひでくに・武谷たけたに、藩士/歌) L 3 7 5 2
秦久呂面(あきろよめ/黒面はたのくろつら) → 久呂面(くろつら・秦、狂歌) B 1 7 1 5
波多野檢校(はたのけんぎょう) → 孝一(こういち・波多野はたの、平曲) E 1 9 8 6
畑之土真人芋介(はたのつちのまひといもすけ) → 芋助(いもすけ・発田ほった、戯作者) I 1 1 3 2
機之舎(はたのや) → 妙智尼(みょうちに;法号、稲垣諏訪子/歌人) G 4 1 5 8
- I3674 **はた巻**(はたまき・遊女) ? - ? 江戸吉原京町大文字屋(主人;加保茶元成)の遊女、
1783燕十「澁都酒美選」入、狂歌;
[天の戸もしばしなあけそきぬぎぬのこのあかつきをとこやみにして]
志道(はたみち・片岡) → 志道(しどう・片岡、藩士/見聞記) V 2 1 3 1
- E3679 **果安**(はたやす・出雲臣) ? - ? 奈良期;出雲国造/716賀詞(よど)奏上(続日本紀)
- E3680 **豹(秦良)**(はたら・池永いけなが/修姓;永) ?-1795? 早世 30歳弱 大阪の商人/国学:高安蘆屋・上田秋成門、
1787「黒珂稿」、90洒落本「破紙子」、90「燈心屋孝女伝」92「日本諸家人物誌」著、
1795「当世痴人伝」、「万葉集目安補正」編(1796秋成刊)/「和歌新呉竹集」編(1797刊)、
「占夢早考」「大人遊」「莊子国字解」著、
[豹(秦良;名)の別名/字/通称/号]別名;勇、字:文尉、通称;太郎吉、
号;豹山逸人/顛鼈てんごう道人/南山道人/陳古郎ちんこう(;狂号)
- E3681 **豹**(はたら・飯田いだ) 1742 - 1809 68 近江彦根藩家老印具家の家臣、歌;小原君雄門、
詩歌を嗜む、「柳橋集」著(没後1818刊)、
[豹(;名)の字/通称/号]字;公文、通称;半太夫、号;柳橋/芭蕉園
豹(はたら・岡田) → 南山(なんざん・岡田、儒者) J 3 2 0 8
八(はち・二見) → 直養(ちよくよう・二見ふたみ、儒者) H 2 8 4 9

- 八握髯(はちあくぜん) → 近恵(ちかひ・保科ほしな/西郷、藩家老/神職) B 2 8 6 5
 八一山人(はちいちさんじん) → 芳室(ほうしつ・稲津いなづ/坂上/椎本、俳人) B 3 9 2 5
 K3653 八衛(はちえ・蝮木になぎ、号;一外/椿寿庵) 1834-1912 79 豊前宇佐郡蝮木村の里正(;18歳就任)、
 国学者、蝮木公世きみよ(1839-1908/物集高世門歌人)と同族(兄?)
 八栄(はちえい・脇田) → 藤右衛門(とうえもん・脇田、商人/記録控) B 3 1 4 1
 八衛(はちえい・尾崎) → 忠征(ただゆき・尾崎、藩士/国事奔走) R 2 6 1 9
 八右衛門(はちえもん・駒井) → 重勝(しげかつ・駒井こまい/豊臣、武将/日記) C 2 1 0 8
 八右衛門(はちえもん・蝮川) → 親和(ちかかず・蝮川にながわ、書家;奥右筆) 2 8 6 8
 八右衛門(7世はちえもん・大蔵) → 虎光(とらみつ・大蔵、能楽師;狂言) R 3 1 8 0
 八右衛門(はちえもん・桜井) → 安証(やすあき・桜井さくらい、能楽師) 4 5 7 9
 八右衛門(はちえもん・島田屋) → 清風(せいふう・鈴木すずき、商家/俳人) C 2 4 9 4
 八右衛門(はちえもん・柄井) → 川柳(初世せんりゅう、名主/前句付点者) 2 4 3 9
 八右衛門(はちえもん・柄井) → 川柳(2世せんりゅう、初世男/川柳点者) 2 4 4 0
 八右衛門(はちえもん・柄井) → 川柳(3世せんりゅう、2世弟/川柳点者) 2 4 4 1
 八右衛門(はちえもん・三浦屋/川村・中島) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2
 八右衛門(はちえもん・根本) → 武夷(ぶい・根本ねもと、儒者) 3 8 3 0
 八右衛門(はちえもん・清水) → 秋全(あきまさ・清水、藩士/国学/歌) D 1 0 8 7
 八右衛門(はちえもん・近藤) → 広武(ひろたけ・近藤こんどう、藩士/歌人) J 3 7 5 9
 八右衛門(はちえもん・藤懸) → 則定(のりさだ・藤懸ふじかけ、藩士/記録) E 3 5 5 4
 八右衛門(はちえもん・板倉) → 勝彪(かつたけ・板倉いたくら、藩士/武芸者) N 1 5 5 0
 八右衛門(はちえもん・増田/菊池) → 黄山(こうざん・菊池きくち、儒者) J 1 9 2 1
 八右衛門(はちえもん・佐藤) → 復斎(ふくさい・佐藤さとう、藩儒) B 3 8 5 2
 八右衛門(はちえもん・山田) → 百枝(ももえ・山田やまだ/橋、藩士、国学) I 4 4 7 7
 八右衛門(はちえもん・中村) → 耒耜(らいし・中村なかむら、庄屋/俳人) 4 8 5 2
 八右衛門(はちえもん・池田) → 鯉丈(りじょう・滝亭りゅうてい、商家/戯作者) 4 9 0 2
 八右衛門(はちえもん・多賀屋) → 正岑(まさみね・宮下/源/宮/堀越、名主/歌人) H 4 0 7 4
 八右衛門(はちえもん・田代) → 常綱(つねつな・田代/上原、藩士/和漢学) C 2 9 5 3
 八右衛門(はちえもん・泉/野尻) → 忠愛(ただあか・泉ずみ/野尻、歌人) V 2 6 6 2
 八右衛門(はちえもん・松井) → 惟貞(これさだ・松井まつい、国学/詩歌) O 1 9 3 3
 八右衛門(はちえもん・河田) → 正休(まさやす・河田かわだ、農家/文筆家) I 4 0 1 5
 八右衛門(はちえもん・伊東) → 祐則(すけのり・伊東/伊藤いとう、藩士) G 2 3 9 2
 八右衛門(はちえもん・宍戸) → 忠慶(ただよし・宍戸ししど、藩士/歌人) X 2 6 4 5
 八右衛門(はちえもん・尾崎) → 忠征(ただゆき・尾崎、藩士/国事奔走) R 2 6 1 9
 八右衛門(はちえもん・元田) → 東野(とうや・元田もとだ、藩士/儒者) H 3 1 5 3
 八右衛門(はちえもん・田辺) → 茂啓(もけい・田辺たなべ、記録) B 4 4 1 5
 八右衛門(はちえもん・稲川) → 好徳(よしのり・稲川いながわ/水野、家老/歌) L 4 7 5 9
 八右衛門(はちえもん・佐々木) → 正躬(まさみ・佐々木ささき、歌人) P 4 0 8 2
 蜂飼大臣(はちかいのおとど) → 宗輔(むねすけ・藤原、廷臣/連歌) B 4 2 4 4
 鉢華居士(はちかこじ) → 寥松(りょうしょう・巒みね、俳人) I 4 9 1 4
 八貫(はちかん) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井、浄瑠璃作/狂歌) 2 2 8 7
 八丘(はちきゅう) → 光平(みつひら・伴林ばんばやし、国学/歌/尊王) 4 1 3 0
 破竹庵(はちくあん・高森) → 正因(まさよし・高森、医者/歌人) I 4 0 4 5
 E3682 八隅(はちぐう・景山) ? - ? 漢学者:1828元政「扶桑隱逸伝」の平仮名本刊行
 八隅山人(はちぐうさんじん) → 梅翁(ばいおう・田尻たじり、藩士/国学者) 3 6 6 8
 八九翁(はちくおう・羽山) → 平八郎(へいはちろう・羽山はやま、藩士/歌) B 2 7 5 3
 八九童(はちくどう) → 蘆庵(ろあん・小沢おざわ/平、歌人) 5 2 0 1
 E3683 八九郎(はちくろう・今井いまい、左源太芳景男) 1790-1862 73 蝦夷松前藩士、
 1807蝦夷全島が幕府直轄;松前藩主章広が陸奥梁川に転封;八九郎は藩禄を放禄、
 のち松前奉行荒尾成章・村垣範正の支配同心に出仕、択捉島に駐在警備、
 この間に間宮林蔵門;天文・地理・測量術を修学、1821松前藩士に復し択捉島警備継続、

1823新組徒士に就任/28-38藩命で蝦夷全島・南樺太を測量:

1841(天保12)「蝦夷地全図」完成、1854幕府監吏織部利熙の樺太巡視に随行、
「カラフト西奥地里数書」著、

[八九郎(通称)の名/初通称/号]名;信名のぶかた、初通称;謙四郎、号;不山

八九郎(はちろう・竹内) → 信生(のぶお・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 0

八九郎(はちろう・竹内) → 信均(のぶひら・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 1

八研堂(はちけんどう) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2

E3684 八悟(はちご・田所たどころ/修姓;田、) ?-? 紀伊田辺の俳人:松尾塊亭門、美濃派、

1788「みかのはら」編、90「昼錦ちゅうきん抄」著(双林寺碑銘註)、

1793歳時記「俳諧小筈しょうせん」編、「俳諧炉辺」著、

[八悟(号)の名/通称/別号]名;顕英、通称;八十左衛門、別号;老柏舎/老柏主人

八甲(はちこう・木村) → 八甲(はちこう・木村きむら、医/儒者) F 3 6 2 1

E3685 蜂子皇子(はちこのおうじ、崇峻天皇[?-592]皇子/母;小手子媛) ?-? 伝説的人物;能除仙のうじよせん、

593蘇我氏の抗争から逃れ羽黒山で修業;寂光寺を建立/出羽三山を開山;擬死再生の伝説、

古来羽黒派古修験道の開祖は能除仙と伝えられ江戸期に蜂子皇子と同一とされる、

能除は般若心経の[能除一切苦]の文を誦え衆生の病や苦悩を除き能除仙と称される、

大師・太子とも称され参仏理大臣みふりのおととも称される、

1823(文政6)別当覚諄の主張以後羽黒山では蜂子皇子を開祖とす;

明治政府も承認し墓所を羽黒山頂と定める

八五郎(はちごろう・田口) → 藤長(ふじなが・田口、藩士/絵師/狂歌) C 3 8 5 5

八五郎(はちごろう・向井) → 原澄(もとずみ・向井むかい、国学者) L 4 4 6 4

八五郎(はちごろう・桑田) → 立斎(りつさい・桑田くわた、医者/種痘実施) B 4 9 9 7

八五郎(はちごろう・三井) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井高業、商家/浄瑠璃/狂歌) 2 2 8 7

E3686 八左衛門(初世はちざえもん・安藤あんどう/八文字屋) ?-? 江前期慶安1648-52頃浄瑠璃書肆を開業

K3685 八左衛門(はちざえもん・三谷みたに、名;重孝げたか) 1841-8444 近江野洲郡守山町吉身の歌人、

1868頃茶園を開き製法研究、1883茶業発展のため奔走/84(明治17)駿河吉原に客死、

歌:[鴉のうみ]入

八左衛門(はちざえもん・亀田) → 末盛(すえもり・亀田/度会/堤、神職) F 2 3 7 9

八左衛門(2世はちざえもん・八文字屋) → 自笑(じしょう・初世八文字屋、安藤/書肆/作家) 2 1 2 2

八左衛門(はちざえもん・八文字屋) → 其笑(初世きしょう・八文字、初世自笑男/書肆) 1 6 1 6

八左衛門(はちざえもん・八文字屋) → 自笑(2世じしょう・八文字、安藤/其笑男/書肆八文字屋) T 2 1 8 3

八左衛門(はちざえもん・八文字屋) → 自笑(3世じしょう・八文字、安藤/其笑男/書肆八文字屋) E 2 1 0 9

八左衛門(はちざえもん・八文字屋) → 自笑(5世じしょう・八文字、安藤/書肆八文字屋) E 2 1 1 0

八左衛門(はちざえもん・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5

八左衛門(はちざえもん・松前) → 泰広(やすひろ・松前まつまえ、幕臣/連歌) C 4 5 8 6

八左衛門(はちざえもん・山高) → 信賢(のぶかた・山高やまたか、幕臣/歌人) K 3 5 2 9

八左衛門(はちざえもん・関) → 文信(ふみのぶ・関せき、砲術家) D 3 8 9 8

八左衛門(はちざえもん・和泉屋) → 山の八(やまのやち、山本弘之/書肆/浮世草子) E 4 5 2 2

八左衛門(はちざえもん・三俣) → 久長(ひさなが・三俣みつまた、和算家) B 3 7 6 4

八左衛門(はちざえもん・田辺) → 長常(ながつね・田辺、武芸者) E 3 2 5 2

八左衛門(はちざえもん・上原) → 定宣(さだのり・上原、武家故実家) J 2 0 2 7

八左衛門(はちざえもん・五島) → 吉雄(よしお・五島ごとう、国学者) C 4 7 3 7

八左衛門(はちざえもん・為屋) → 鼠林(そりん・菅沼すがぬま、商家/俳人) K 2 5 5 5

八左衛門(はちざえもん・為屋) → 鼠仙(そせん・菅沼すがぬま/新美、商家/詩人) K 2 5 0 2

八左衛門(はちざえもん・片桐) → 朝童(ともたつ・片桐、藩士/郡奉行) P 3 1 7 1

八左衛門(はちざえもん・石野) → 寛氏(ひろうじ・石野いしの、藩士/記録) B 3 7 8 6

八左衛門(はちざえもん・星野) → 則臣(のりおみ・星野ほしの、藩士/文筆) E 3 5 3 3

八左衛門(はちざえもん・竹原) → 広陵((こうりょう・唐崎からさき、儒者) G 1 9 4 4

八左衛門(はちざえもん・秋田) → 勝具(かつとも・秋田あきた/藤原、藩士) T 1 5 3 6

八左衛門(はちざえもん・小室) → 政方(まさかた・小室こむろ、藩士/歌人) P 4 0 6 4

- 八左衛門 (はちざえもん・鷲塚屋) → 喬樹(たかき・大橋おおはし、国学者) W 2 6 1 8
 八左衛門 (はちざえもん・林) → 蘭雅(らんが・林はやし/賀茂、絵師) B 4 8 6 4
 八左衛門 (はちざえもん・堀) → 秀成(ひでなり・堀ほり、藩士/国学; 音韻) D 3 7 5 2
 八左衛門 (はちざえもん・熊谷) → 直治(なおはる・熊谷くまがい/益田、藩士/国学) L 3 2 9 8
 八左衛門 (はちざえもん・奥寺) → 山厚(さんこう・奥寺おくでら、藩士/俳人) M 2 0 1 7
 八左衛門 (はちざえもん・稲葉) → 豊厚(とよあつ・稲葉いなば、藩士/歌人) U 3 1 2 6
- E3687 八三郎 (はちさぶろう・設楽じだら、名; 能潜、吉之助男) ?-1862 幕臣/父は西丸奥右筆、1855勘定吟味役、海防掛、1856幕府の外交政策を批判; 勘定奉行松平近直・川路聖謨と上申書を提出、のち二ノ丸留守居/勘定吟味役/和宮下向縁組御用取扱/先手鉄砲頭、「難船一件」著
- 八三郎 (はちさぶろう・植木) → 玉厓(ぎよくがい・植木うえき、幕臣/詩/狂詩) C 1 6 9 8
 八三郎 (はちさぶろう・舟橋) → 晴潭(せいたん・舟橋ふなはし、儒者/詩人) B 2 4 7 2
 八三郎 (はちさぶろう・仙石/佐野) → 廬元坊(ろげんぼう・佐野/仙石、俳人) 5 2 0 3
 八三郎 (はちさぶろう・山岡) → 景熙(かげひろ・山岡やまおか、幕臣/歌人) W 1 5 0 8
 八三郎 (はちさぶろう・上田) → 善淵(ぜんえん・上田うえだ、藩儒) L 2 4 8 0
 八三郎 (はちさぶろう・宍戸/兼子) → 天聲(てんろう・兼子かねこ、儒者/医) E 3 0 6 3
 八三郎 (はちさぶろう・小原) → 蘭峽(らんきょう・小原おほら/源、藩医者) B 4 8 7 6
 八三郎 (はちさぶろう・鷲塚屋) → 喬樹(たかき・大橋おおはし、国学者) W 2 6 1 8
 八三郎 (はちさぶろう・平尾) → 魯仙(ろせん・平尾ひらお、商家/絵師) C 5 2 0 5
 八三郎 (はちさぶろう・下沢) → 保躬(やすみ・下沢しもざわ、藩士/国学/歌) G 4 5 0 0
 八子 (はちし・手島) → 季隆(すえたか・手島てしま、藩士/兵法家) B 2 3 8 0
 八十一峰道人 (はちじゅういちほうどうじん) → 峯陽(とうよう・千村/木曾、儒者/詩) H 3 1 8 7
 八十郎 (はちじゅうろう・河野) → 通尹(みちただ・河野こうの、儒者/詩文) B 4 1 8 0
 八十郎 (はちじゅうろう・榊原) → 忠知(ただとも・榊原さかきばら、幕臣/国学) X 2 6 3 8
 八十郎 (はちじゅうろう・壬生) → 水石(すいせき・壬生みぶ、与力/篆刻家) 2 3 7 6
 八十郎 (はちじゅうろう・松平) → 八十郎(やそろう・松平まつだいら/源、幕臣/歌) E 4 5 9 5
 八十郎 (はちじゅうろう・鷹巣) → 正繩(まさつな・鷹巣たかす/藤原、藩士/歌) Q 4 0 7 6
 八重郎 (はちじゅうろう・小野) → 素秋(そしゅう・小野おの、庄屋/俳人) D 2 5 8 2
 八条 (はちじょう) → 国経(くにつね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 1 7 7 5
 八条 (はちじょう: 号) → 実家(さねいえ・藤原、廷臣/歌人) C 2 0 8 8
 八条 (はちじょう) → 為量(ためかず・法性寺ほつしょうじ、廷臣/歌) G 2 6 7 0
- E3688 八条院 (はちじょういん、暲子しょうし、鳥羽天皇皇女) 1137-1211 75 母; 美福門院藤原得子、女房に高倉・六条・俊成女(健御前)などの歌人
- 八条院先生 (はちじょういんせんじょう) → 勝賀(証賀しょうが・宅磨/託磨、絵師) H 2 2 5 1
 八条院高倉 (はちじょういんたかくら) → 高倉(たかくら・八条院、歌人) C 2 6 7 3
- E3689 八条院坊門局 (はちじょういんのぼうもんのかつね、俊成女) ?-? 母: 藤原顕良女六条院宣旨、八条院暲子女房、藤原成親の妻/離別、健御前の姉で養母
- 八条院六条 (はちじょういんのろくじょう) → 六条(ろくじょう・八条院、歌人) 5 2 9 3
 八条贈左大臣 (はちじょうぞうさだいじん) → 長実(ながざね・藤原、歌人) 3 2 0 8
 八条中納言 (はちじょうちゅうなごん) → 顕長(あきなが・藤原、廷臣/歌人) 1 0 7 7
 八条中納言 (はちじょうちゅうなごん) → 長方(ながかた・藤原、顕長男/歌人) 3 2 0 6
 八条入道前内大臣 (はちじょうにゅうどうさきのないだいじん) → 公秀(きんひで・三条/正親町三条、歌) E 1 6 5 8
 八条入道相国 (はちじょうにゅうどうしやうこく) → 実行(さねゆき・三条/藤原、歌) D 2 0 7 5
 八条入道太政大臣北方 (はちじょうにゅうどうだいじやうだいじんのきたのかた) → 顕季女(あきすえのむすめ・藤原/三条実行室) C 1 0 5 1
- E3690 八条大君 (はちじょうのおおきみ) ? - ? 平安前期歌人、伝未詳、右近少将藤原滋幹しげもと(931没)と交友、拾遺集562、[なき名のみたかをの山と言ひたつる君はあたごの峰にやあるらん](拾遺; 雑562、山城高尾山に行き通う法師との噂が立ったのを滋幹が事実かと聞いてきたので詠む、私の悪い噂を声高く言うあなたは愛宕[仇敵]ですよ/愛宕と仇を掛る) 八条太政大臣 (はちじょうのだいじやうだいじん) → 実行(さねゆき・三条/藤原、歌) D 2 0 7 5

- 八条入道太政大臣(はちじょうのにゅうどうだいじょうだいじん)→**実行**(さねゆき・三条/藤原、歌) D 2 0 7 5
八条入道太政大臣北方(はちじょうのにゅうどうだいじょうだいじん)→**顕季女**(あきすえのむすめ・藤原/歌人) C 1 0 5 1
八条宮(初代はちじょうのみや)→**智仁親王**(としひとしんのう、歌/連歌) N 3 1 5 5
八条宮(2代はちじょうのみや)→**智忠親王**(としただしんのう、智仁親王男、歌) M 3 1 7 5
八条宮(はちじょうのみや)→**文仁親王**(あやひとしんのう、霊元皇子、歌) F 1 0 1 3
八条宮(はちじょうのみや)→**長仁親王**(おさひとしんのう、後西皇子、歌) B 1 4 4 8
八丈屋与市(はちじょうやいち)→**華陽**(かよう・高橋たかはし/修姓高、儒者) H 1 5 5 3
八尋(はちじん・園)→**八尋**(やひろ・園その/衣笠、神職/国学/歌) G 4 5 1 4
八尋(はちじん・児島)→**八尋**(やひろ・児島こじま、国学者) F 4 5 9 0
蜂二郎(はちじろう・山多)→**春思**(しゅんし・山多/山田やまだ、俳人) J 2 1 8 4
蜂助(はちすけ・森)→**高雅**(たかまさ・森もり、絵師) N 2 6 2 0
八助(はちすけ・森本/桂)→**重明**(しげあき・勝浦/桂/森本、藩士/槍術) B 2 1 7 7
八助(はちすけ・阿部)→**松園**(しょうえん・阿部あべ、藩士/儒者) F 2 2 5 4
八助(はちすけ・手島)→**季隆**(すえたか・手島てしま、兵法家) B 2 3 8 0
八助(はちすけ・三戸)→**信居**(のぶもと・南部なんぶ/三戸、歌人) J 3 5 4 6
八助(はちすけ・栗本)→**義貫**(よしつら・栗本くりもと、国学/教育) M 4 7 6 3
八輔(はちすけ・岡本/岡)→**稚川**(ちせん、岡本/岡、藩士/儒/詩人) E 2 8 5 6
八舌僧正(はちぜつそうじょう)→**蔵俊**(ぞうしゅん;法諱、法相学僧) H 2 5 9 4
八蔵(はちぞう・香川)→**南浜**(なんびん・香川かがわ、儒者) J 3 2 3 7
八蔵(はちぞう・箕曲)→**在一**(ありかず・箕曲みのわ、神職/詩歌) F 1 0 2 6
八蔵(はちぞう・野村/三河口)→**輝昌**(てるまさ・三河口、幕臣/代官/日記) C 3 0 9 3
八蔵(はちぞう・柄井)→**川柳**(3世せんりゅう、2世弟/川柳点者) 2 4 4 1
八造(はちぞう・都;新内節)→**鯉丈**(りじょう・滝亭りゅうてい、商家/戯作者) 4 9 0 2
八束(はちそく)すべて→**八束**(やつか)
八朶(はちだ・巒)→**寥松**(りょうしょう・巒みね、俳人) I 4 9 1 4
鉢袋子(はちたいし→はつたいし;号)→**桂悟**(けいご;法諱・了庵、臨済僧/遣明使) 1 8 4 9
八代女王(はちだいにじょう)→**八代女王**(矢代女王やしろのおおきみ、万葉歌人) 4 5 7 5
八朶園(はちだえん)→**寥松**(りょうしょう・巒みね、俳人) I 4 9 1 4
八大夫(はちだゆう・東条)→**春枝**(はるえ・東条とうじょう、幕臣/日記) F 3 6 9 9
八太夫(はちだゆう・向井)→**ト宅**(ぼくたく・向井/向日むかい、藩士/俳人) D 3 9 7 1
八太夫(はちだゆう・加賀)→**新内**(しんない・鶴賀、音曲家) 2 2 2 8
八太夫(はちだゆう・加賀)→**魯中**(ろちゅう・富士松ふじまつ、新内節) 5 2 0 8
八太夫(はちだゆう・杉原)→**光基**(みつもと・杉原すぎはら/村井、国学者) J 4 1 3 4
E3691 **八太郎**(はちたろう・上条かみじょう)?-? 狂歌作者:南畝の友人、1806南畝「ひともと草」入
八太郎(はちたろう・目黒/小島)→**舍用**(しゃよう・小島/目黒、俳人) G 2 1 5 4
八太郎(はちたろう・千手)→**廉斎**(れんさい・千手せんじゅ/三浦、藩儒) B 5 1 0 7
八太郎(はちたろう・服部)→**中庸**(なかつね・服部/箕田、医/国学) E 3 2 4 8
八太郎(はちたろう・夏目)→**包壽**(ほうじゅ・夏目なつめ、札差/俳人) B 3 9 3 1
八太郎(はちたろう・吉見)→**秋鯉**(しゅうり・蜂房ほうぼう、絵師/狂歌) I 2 1 3 9
八太郎(はちたろう・黒沢)→**道富**(みちとみ・黒沢くろさわ、藩士/国学) J 4 1 0 3
八太郎(はちたろう・片桐)→**嘉則**(よしのり・片桐かたざり、歌人) M 4 7 2 1
八太郎(はちたろう・東条)→**春枝**(はるえ・東条とうじょう、幕臣/日記) F 3 6 9 9
八太郎(はちたろう・春木)→**近安**(ちかやす・春木はるき、神職/国学者) N 2 8 3 4
八澄(はちちよう・松井)→**八澄**(やすみ・松井まつい、国学者) G 4 5 6 7
把茅亭(はちてい)→**ト幽軒**(ぼくゆうけん・人見/小野/野、儒者) E 3 9 0 2
E3692 **蜂友**(はちとも・坂上さかがみ、竹瓦楼2世、蜂房男)?-? 撰津伊丹の醸造家剣菱の一族、
俳人:大坂に出て宗匠、
1787竹瓦楼継承、「俳諧ふくろ草子」、77茶雷追善集「俳諧なる仏」に兄菊羽の追善集を付載
八之丞(はちのじょう・藤本)→**延賢**(のぶかた・藤本/黒瀬、神職) B 3 5 1 8
八之丞(はちのじょう・檜垣)→**命彦**(のりひこ・松木/檜垣、神職) F 3 5 4 5

八之丞(はちのじょう・阿部)→ 重旧(しげひさ・阿部あべ、幕臣/記録) S 2 1 3 6
 八之丞(はちのじょう・南摩)→ 羽峯(うほう・南摩なんま、藩士/儒者) D 1 2 3 2
 八之丞(はちのじょう・井東)→ 弦斎(げんさい・井東いとう、儒者) J 1 8 0 7
 八之丞(はちのじょう・奥村)→ 正連(まさつら・奥村おくむら/大村、歌人) O 4 0 6 3
 八之丞(はちのじょう・高橋)→ 文定(ふみさだ・高橋たかはし、藩士/歌人) I 3 8 4 3
 八之進(はちのしん・近藤)→ 躬質(ちかかた・近藤こんどう/越智、国学/歌) M 2 8 5 6
 八之助(はちのすけ・酒井)→ 忠進(ただゆき・酒井さかい、藩主/家訓) R 2 6 1 5
 八之助(はちのすけ・井出)→ 正本(まさもと・井出いで/藤原、幕臣/歌) L 4 0 7 0
 八之助(はちのすけ・河田)→ 迪斎(てきさい・河田/川田、儒者/幕臣) B 3 0 9 3
 八之助(はちのすけ・京極)→ 高亶(たかあつ・京極/稻垣、幕臣/歌) U 2 6 0 9
 八之助(はちのすけ・小沢/高力)→ 種昌(たねまさ・高力こうりき、藩士/文筆家) S 2 6 0 4
 八之輔(はちのすけ・水巻)→ 通志(つうし・水巻、勤番勤務/俳人) 2 9 3 8
 八七郎(はちしちろう・杉辺)→ 水谷(すいこく・杉辺すぎべ、書家) E 2 3 5 3

E3693 **蜂房**(はちぶさ・坂上さかがみ、別号;竹瓦楼/鶴亭/百歳孫、宗智男)?-1780 撰津伊丹の劍菱酒造の一族、
 醸造大鹿屋、俳人;伊丹風俳諧:才磨門、鬼貫没後の伊丹俳諧の中心、蕉門俳人とも交流、
 1735「和国丸」入、1779「竹瓦楼句鈔」、「伊丹歳旦」編、椿園/蜂友(竹瓦楼2世)の父、
 [山畑や夕日さびしき鹿の尻](竹瓦楼句鈔)

八福寺(はちふくじ;号) → 信武(のぶたけ・武田、武将/歌人) B 3 5 7 6
 蜂房(はちぶさ→ほうぼう) → 秋鯉(しゅうり・蜂房ほうぼう、絵師/狂歌) I 2 1 3 9
 八平次(はちへいじ・奈良) → 神門(しんもん・奈良なら、儒者) P 2 2 9 1

E3694 **八兵衛**(はちべえ・西島にしま之友ゆきとも、木旦子、之光男)1596-1680⁸⁵ 遠州浜松生/津藩主藤堂高虎臣、
 土木事業;1619京二条城/20大坂城/25讃岐溜池/48伊賀雲出川用水完成、48城和/伊賀奉行、
 1676致仕、俳諧/書、1680「西島氏劄記」/「西島八兵衛役用覚書」著

J3643 **八兵衛**(はちべえ・中村なかむら、初代宗哲、旧姓;吉岡)1617-1695⁷⁹ 江前期;京の塗師、
 吉文字屋与三右衛門家の婿養子吉岡甚右衛門(一翁宗守)の娘宗寿の婿、
 明暦1617-95頃一翁宗守が茶人として千家に戻る時に吉文字屋を譲渡される、
 初代中村宗哲として千家十職の塗師となる、藤村庸軒・灰屋紹益と交流、
 代表作;「江岑好」「独楽稿合」「庸軒好」「凡鳥棗」制作、
 [八兵衛(通称;代々継承される)の号] 公弼/方寸庵/塗翁/勇山/杯斎

八兵衛(はちべえ・中村) → 汲斎(きゅうさい・2代中村宗哲、千家塗師) S 1 6 9 3
 八兵衛(はちべえ・中村) → 漆翁(しつおう・3代中村宗哲、千家塗師/俳人) F 2 1 1 1
 八兵衛(はちべえ・中村) → 豹斎(ひょうさい・5代中村宗哲、千家塗師) Q 2 1 4 5
 八兵衛(はちべえ・中村) → 樸斎(ちようさい・6代中村宗哲、千家塗師) L 2 8 4 8
 八兵衛(はちべえ・中村) → 獮斎(ぼくさい・7代中村宗哲、千家塗師) J 3 6 4 4
 八兵衛(はちべえ・服部) → 安休(あんきゅう・服部はつとり、藩士/神道) G 1 0 0 2
 八兵衛(はちべえ・佐伯) → 季麿(きわく・佐伯ささき、藩士/儒/詩人) Q 1 6 6 0
 八兵衛(はちべえ・榊原) → 忠知(ただとも・榊原さかきばら、幕臣/国学) X 2 6 3 8
 八兵衛(はちべえ・吉田) → 蕃教(しげのり・吉田よしだ、国学者) S 2 1 1 5
 八兵衛(はちべえ・花屋) → 狙仙(せんそせん・森もり、絵師) D 2 5 9 5
 八兵衛(はちべえ・宇野) → 保定(やすさだ・宇野うの、故実家/算学) B 4 5 4 8
 八兵衛(はちべえ・犬塚) → 正雄(まさお・犬塚いぬづか/藤原、藩士/国学) L 4 0 8 3
 八兵衛(はちべえ・大口屋) → 金翠(きんすい、札差/十八大通/俳人) I 1 6 0 5
 八兵衛(はちべえ・大口屋) → 空翠(くうすい、札差/俳人) 1 7 3 6
 八兵衛(はちべえ・;越前屋) → 柳壺(りゅうこ・宇野うの、俳人) D 4 9 7 1
 八兵衛(はちべえ・伊勢屋) → 小知(こち・小智しょうち・木村、商家/俳人) U 2 2 1 3
 八兵衛(はちべえ・赤松) → 範静(のりきよ・赤松あかまつ、旗本幕臣/歌) G 3 5 9 6
 八兵衛(はちべえ・林) → 得閑斎(とくかんさい・砂長さちよう、書肆/狂歌) O 3 1 4 3
 八兵衛(はちべえ・松田) → 豊幹(とよもと・松田まつだ、国学者) W 3 1 4 9

I3694 **八木**(はちぼく) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、
 [夜中まで女や涼む京の町](丁卯集/三更;夜半)

- 八房巢(はちぼうそう) → 秋鯉(しゅうり・蜂房ほうぼう、絵師/狂歌) I 2 1 3 9
- E3695 鉢麻呂(はちまろ・榎氏かじ・榎本or榎井)?-? 廷臣;大隅目さかん/万葉三期歌人:
730(天平2)旅人の梅花宴に参加838、
[梅の花散り紛まがひたる岡をかびには鶯鳴くも春かたまけて]、
(万葉;五838/岡び;岡のあたり)
- 八幡大名(はちまんだいみょう) → 献笑閣(けんしょうかく・戯笑、洒落本作者) C 1 8 2 8
- 八幡太郎(はちまंतरろう) → 義家(よしいえ・源みなもと、武将/歌人) C 4 7 1 7
- 八幡小侍従(はちまんのこじじゅう) → 小侍従(こじじゅう・大宮/待宵、歌人) C 1 9 7 7
- 八幡法眼(はちまほうがん) → 栄禅(えいぜん、僧/歌人) 1 3 3 7
- 八万四千煩惱主人(はちまよんせんぼんのうしゅじん) → 豪潮(ごうちゅう;法諱・寛海;字、天台僧) K 1 9 6 6
- E3696 八万里(はちま万里・半籬館)? - ? 江中期河内八尾別宮の雑俳点者、
1751(寛延4)「和国車わこくぐるま」編
- 蜂空(はちもく・岡目) → 飄斎(ひょうさい・平塚、幕臣/俳/狂詩) F 3 7 2 4
- 八文字其笑(はちもんじきしょう) → 其笑(初世きしょう・八文字、安藤/初世自笑男/書肆八文字屋) 1 6 1 6
- 八文字自笑(初世はちもんじじしょう) → 自笑(初世じしょう・八文字、安藤氏/書肆八文字屋) 2 1 2 2
- 八文字自笑(2世はちもんじじしょう) → 自笑(2世じしょう・八文字、安藤/其笑男/書肆八文字屋) T 2 1 8 3
- 八文字自笑(3世はちもんじじしょう) → 自笑(3世じしょう・八文字、安藤/其笑男/書肆八文字屋) E 2 1 0 9
- 八文字自笑(4世はちもんじじしょう) → 春馬(初世しゅんば・三亭さんてい、戯作者/狂歌) 2 1 6 5
- 八文字自笑(5世はちもんじじしょう) → 自笑(5世じしょう・八文字、安藤/書肆八文字屋) E 2 1 1 0
- 八文字主人(はちもんじしゅしん) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5
- 馬中坊(ばちゅうぼう) → 意順(もとのぶ・天野あまの、商家/歌人) B 4 4 3 8
- 巴蝶(ばちよう:俳名) → 伝吉(でんきち・宮崎、歌舞伎役/作者) D 3 0 3 1
- 巴調(ばちよう:俳名) → 南山(なんざん・菅原、儒者) J 3 2 0 3
- 巴釣(把丁ばちよう・益戸) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7
- 馬長(ばちよう・田口) → 馬長(うまおさ・田口朝臣、万葉歌人) 1 2 8 2
- 馬朝(ばちよう:俳名) → 磋助(さすけ・奥野、歌舞伎作者) F 2 0 1 8
- 馬朝(ばちよう・金原亭) → 馬生(2世ばししょう・金原亭、落語) E 3 6 5 7
- 馬朝(ばちよう・端山) → 凶南(となん・端山はやま、書家) O 3 1 6 0
- 八楽庵(はちらくあん) → 米仲(べいちゅう・岡田、俳人) 2 7 7 1
- 八流斎(はちりゅうさい) → 流濟(りゅうさい・山内やまうち、武芸者/日蓮僧) D 4 9 9 9
- 八良右衛門(はちりょうえもん・津島) → 恒之進(つねのしん・津島つしま、本草家) C 2 9 9 7
- 八良治(はちりょうじ) → 成美(せいび・夏目、俳人) 2 4 1 2
- E3697 八郎(はちろう・南条なんじょう、熊沢[のち南条]淡庵たんあん男) 1655-1724⁷⁰ 1690父が南条に改姓、
備前岡山藩士、国学・歌;父門、
「志士清談(続武将感状記)」著(父の著[武将感状記]の続編)、
「武教全書」「熊沢氏墳墓記」「南条八郎書上」著、
[八郎(:通称)の名/号]名;正修まさなが/まさおみ、号;安節
- E3698 八朗(はちろう・宮本みやもと、天姥てんぼ[初世虎杖庵]男) 1793-1840⁴⁸ 母;鳳秋(俳人)、
信州埴科郡戸倉の俳人:父母門、父の門人倉田葛三(虎杖庵2世)門、1819頃虎杖庵継承、
画;谷文晁門、父と同様に寺子屋を開設、17「なりかや」24「花野集」編、
追善集「あふぎ集」(1864刊)、眞篤(ますず・虎杖庵4世)の父
[八朗(;号)の名/字/別号]名;貞人/元章、字;子直/子眞、
別号;昌山/蕉山/舟山/拾斎/半斎、虎杖庵3世/亀房隠者/文雅園
- E3699 八郎(はちろう・菅野かんの、名主菅野和蔵男) 1810-88⁷⁹ 岩代原田村の農業/儒;父門、
水戸藩士に「秘書後の鑑」「異人征伐海岸防備」の書状を送;幕府に捕縛/1860八丈島流罪、
1863帰郷/農民を組織;世直し一揆指導/66捕縛、「八丈島物語」「判段夢の真暗」著
- F3600 八朗(はちろう・金井かない) 1813- 1873⁶¹ 肥前長崎代官書記/元締手代/長崎府広間番、
「金井八朗翁道中日記」「虚無僧座頭仏説盲僧陰陽道」、1861「金井八朗翁東行日誌草稿」著、
「御備」「御用物」「諸元極」「雑載」著
- F3601 八郎(はちろう・清河/清川きよかわ、名主斎藤豪寿[雷山]3男) 1830-63^{斬殺} 34 羽前清川村名主の家の生、

母;出羽鶴岡の富商三井弥吉女の亀代、儒:江戸で東条一堂・安積良斎門、劍術;千葉周作門、1854(安政元)昌平黌入学;清河八郎名、文武塾を開設:子弟教育/尊攘活動;志士と交流、幕吏により麻布で暗殺、1850「耕雲録」55「西遊草」60「芻蕘論武道篇」62「清川八郎建白書」、「潜中紀事」「潜中紀略」「潜中始末」「論語編」「文道編」「兵鑑」「回天封事」「自叙録」著、

[八郎(;通称)の幼名/名/字/号]幼名;元司、名;正雄/正明、字;士興/震志、

号;楽水/芻蕘子すざうし/子与、変名;大谷雄蔵/日下部達三、法号;清秀院

F3602 八郎(はちろう;通称・伊庭いば、名:秀穎ひでかひ/ほかい、伊庭秀業の長男) 1843-69戦死 27 伊庭秀俊の養子、父は講武所劍術指南、幕臣/劍術家;父及び養父門、愛称;伊庭の小天狗、文学にも通ず、1868(慶応4)遊撃隊士:伏見で負傷・海路沼津から箱根で官軍と戦闘;左腕を失う・函館五稜郭で戦死、1864(元治元)「征西日記」著

八郎(はちろう・東) → 氏胤(うじたね・東とう、武将・歌) 1 2 3 5
 八郎(はちろう・土岐) → 頼蔭(よりかげ・土岐とき/源、道暁/歌人) Q 4 7 3 0
 八郎(はちろう・松田/平) → 貞秀(さだひで・松田/平、室町幕臣/歌) C 2 0 3 5
 八郎(はちろう・伊勢) → 貞遠(さだとお・伊勢/平、幕臣/故実家) I 2 0 7 3
 八郎(はちろう・金春) → 安照(あんしょう・金春/6世大夫、能楽) C 1 0 1 3
 八郎(はちろう・浮田) → 秀家(ひでいえ・浮田/宇喜多/宇喜田、武将) 3 7 0 8
 八郎(はちろう・麻生) → 頼仲(よりなか・土岐とき/源、武将/歌人) J 4 7 2 7
 八郎(はちろう・南条) → 正脩(まさなお・南条なんじょう/熊沢、藩士/歌) E 4 0 9 8
 八郎(蜂良はちろう・大塚おおつか) → 同庵(どうあん・大塚、幕臣/蘭学) 3 1 9 3
 八郎(はちろう・水落) → 梅圃(ばいかん・水落みずおち、医者/詩) 3 6 9 2
 八郎(はちろう・太田) → 全斎(ぜんさい・太田、藩士/音韻研究) F 2 4 4 2
 八郎(はちろう・高橋) → 巴山(はざん・高橋、儒者) E 3 6 3 3
 八郎(はちろう・橋本) → 昌方(まさかた・橋本はしもと、和算家) B 4 0 9 7
 八郎(はちろう・酒井) → 忠進(ただゆき・酒井さかい、藩主/家訓) R 2 6 1 5
 八郎(はちろう・寺本) → 湖萍(こひょう・寺本てらもと、郷土史家) N 1 9 5 3
 八郎(はちろう・染崎) → 春水(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作者) 2 1 5 8
 八郎(はちろう・三浦) → 八郎左衛門(はちろうざえもん・三浦、藩士) F 3 6 0 5
 八郎(はちろう・小永井) → 小舟(しょうしゅう・小永井こながい、幕臣/儒) S 2 2 9 5
 八郎(はちろう・手島) → 季隆(すえたか・手島てしま、藩士/兵法家) B 2 3 8 0
 八郎(はちろう・深尾) → 独笑(どくしょう・深尾ふかお、領主/儒者) W 3 1 2 1
 八郎(はちろう・上杉) → 篤興(あつおき・上杉うえすぎ、庄屋/国学者) H 1 0 0 6
 八郎(はちろう・神保) → 長標(ながすえ・神保じんぼう/橘/石丸、幕臣) K 3 2 2 7
 八郎(はちろう・橋本) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0
 八郎(はちろう・三輪) → 栖鳳(せいほう・三輪みわ/原、歌人) O 2 4 0 8
 八郎(はちろう・木場) → 清生(きよぶ/きよお・木場こば、藩士/歌人) U 1 6 3 3
 八郎(はちろう・田所) → 顕平(あきひら・田所たどころ/藤原、庄屋/神職) H 1 0 8 2
 八郎(はちろう・田所) → 顕秀(あきひで・田所、顕平男/神職/国学) H 1 0 8 1
 八郎(はちろう・矢幡) → 太刀彦(たちひこ・矢幡やわた、神職/国学) 2 7 0 6
 八郎(はちろう・福崎) → 安定(やすさだ・松田まつだ、藩士/勤王) G 4 5 6 9
 八郎(はちろう・三岡) → 公正(きみまさ・由利ゆり/三岡、藩士/財政/政治) I 1 0 7 5
 八郎(はちろう・矢島) → 敏平(としひら・矢島やじま、和算/国学者) W 3 1 7 7

F3603 八郎右衛門(はちろうえもん;通称・水野みずの)?-? 越中富山藩士;禄150石、藩主前田利与に出仕、「水野温故禄」「水野善政禄」著

J3698 八郎右衛門(はちろうえもん・川崎かわさき) 1834-1907 73 常陸鹿島郡海老沢村の回船問屋・村役の生、1849(嘉永2/19歳)家督継嗣/50茨城郡成沢村の加倉井砂山の日新館入門;儒/書/兵学修学、砂山さんの2女世無子と結婚、水戸藩財政安定のため鑄銭事業を献策;鑄銭座開設、維新後;1870北海道開拓に従事/官庁の為替業務を担う、1874川崎組創設;公金を扱う、1880川崎銀行に改組;金融関係各種事業を展開、水戸鉄道敷設に尽力、息子八郎右衛門2世が継嗣;川崎金融財閥を形成

八郎右衛門(はちろうえもん・村上) → 景広(かげひろ・村上むらかみ、武将) L 1 5 2 8

八郎右衛門 (はちろうえもん・中川) → 顕忠(あきただ・中川、家老/記録) D 1 0 4 9
 八郎右衛門 (はちろうえもん・中川) → 典義(のりよし・中川、家老/記録) G 3 5 2 8
 八郎右衛門 (はちろうえもん・関) → 正玄(まさはる・関せき/藤原、幕臣) G 4 0 3 7
 八郎右衛門 (はちろうえもん・岸本) → 公羽(こうう・岸本、藩士/俳人) H 1 9 3 6
 八郎右衛門 (はちろうえもん・椎本) → 才麿(さいまる・椎本いのもと・谷、俳人) 2 0 0 6
 八郎右衛門 (はちろうえもん・神戸屋) → 祐甫(ゆうほ・神戸屋、商家/俳人) D 4 6 7 4
 八郎右衛門 (はちろうえもん・富田屋) → 世恭(せいきょう/ながやす・江田、商家/国学/香) H 2 4 9 0
 八郎右衛門 (はちろうえもん・常松) → 治郎右衛門(じろうえもん・常松、大庄屋/農村振興) N 2 2 0 9
 八郎右衛門 (はちろうえもん・林/北向) → 雲竹(うんちく・北向きたむき/野田、書家) D 1 2 9 5
 八郎右衛門 (はちろうえもん・岡田) → 輔幹(すけもと・岡田、藩士/儒者/詩) H 2 3 1 3
 八郎右衛門 (はちろうえもん・江嶋屋) → 斗南(となん・細合ほそあい/合、儒/詩/書/俳) O 3 1 5 8
 八郎右衛門 (はちろうえもん・井筒屋5代目) → 成美(せいび・夏目なつめ、札差/俳人) 2 4 1 2
 八郎右衛門 (はちろうえもん・井筒屋7代目) → 包壽(ほうじゅ・夏目、成美男/札差/俳人) B 3 9 3 1
 八郎右衛門 (初代はちろうえもん・三井) → 高平(たかひら・三井、商家) N 2 6 0 2
 八郎右衛門 (2代はちろうえもん・三井) → 高富(たかとみ・三井、高平の弟/商家) M 2 6 4 3
 八郎右衛門 (3代はちろうえもん・三井) → 高治(たかはる・三井、高富の弟/商家) M 2 6 9 1
 八郎右衛門 (4代はちろうえもん・三井) → 高房(たかふさ・三井、高平男、商家) D 2 6 6 7
 八郎右衛門 (13代はちろうえもん・三井) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7
 八郎右衛門 (はちろうえもん・中尾) → 義稲(よしね・中尾なかお、藩士/国学) F 4 7 5 0
 八郎右衛門 (はちろうえもん・高垣) → 是正(これまさ・高垣たかがき、国学/歌) O 1 9 8 2
 八郎右衛門 (はちろうえもん・竹内) → 寂芝(じやくし・竹内、俳人) G 2 1 1 6
 八郎右衛門 (はちろうえもん・黒崎) → 綱豊(つなとよ・黒崎、名主/和算家) B 2 9 1 5
 八郎右衛門 (はちろうえもん・井上) → 残夢(ざんむ・井上いづえ、藩士/詩人) M 2 0 7 9
 八郎右衛門 (はちろうえもん・村瀬) → 美香(よしか・村瀬むらせ、藩士/詩歌/篆刻/陶芸) P 4 7 5 4
 八郎右衛門 (はちろうえもん・福田) → 誠好齋(せいこうさい・福田、剣術/医/神職) I 2 4 1 3
 八郎右衛門 (はちろうえもん・矢島) → 敏堯(としたか・矢島やじま、和算/国学) W 3 1 7 6
 八郎右衛門 (はちろうえもん・宮崎) → 通泰(みちやす・宮崎/栗原、医者/歌) C 4 1 7 5
 八郎九郎 (はちろうくろう・幸若) → 直良(ちよくりょう・幸若/桃井、舞曲大夫) K 2 8 1 2
 八郎九郎 (はちろうくろう・前島) → 正弼(まさみ・前島まじま/源、名主/国学) S 4 0 5 0
 八郎五郎 (はちろうごろう・阿部) → 遂良(やすよし・阿部あべ、幕臣/歌人) E 4 5 8 0

F3604 八郎左衛門 (はちろうざえもん・水越みづこし、名;孟甫、別通称;長進、権丞男) 1711-7464 加賀金沢藩士;
 大小姓、表小姓/小姓頭に昇進、「水越八郎左衛門口上書」著
 改作奉行、1867「病院仕法書」著

八郎左衛門 (はちろうざえもん・兼松/山鹿) → 高恒(たかつね・山鹿/兼松/岡/津軽、藩士/兵学) M 2 6 2 9
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・辻) → 守潤(もりひろ・辻つじ、州吏、歌・連歌) K 4 4 5 5
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・辻) → 守遊(しゅゆう・辻/前田、役人/詩歌) 2 1 8 1
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・辻) → 守継(もりつぐ・辻つじ、歌人/連歌) K 4 4 5 7
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・辻) → 守壽(もりとし・辻つじ、歌人/連歌) K 4 4 5 9
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・宮原) → 直仰(なおゆき・宮原、藩士/医者) C 3 2 8 7
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・山岡) → 景恭(かげやす・山岡、幕臣/記録) L 1 5 4 0
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・小原) → 君雄(きみお・小原おはら、藩士/国学/歌) B 1 6 8 1
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・内藤) → 忠正(ただまさ・内藤ないとう、幕臣/和学) Y 2 6 4 7
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・富田屋) → 世恭(せいきょう/ながやす・江田、商家/国学/香) H 2 4 9 0
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・江嶋屋) → 斗南(となん・細合ほそあい/合、儒/詩/書/俳) O 3 1 5 8
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・早川) → 正紀(まさとし・早川/和田、幕臣/教育) E 4 0 4 7
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・梁田) → 天柱(てんちゅう・梁田やなだ/万代、藩儒) E 3 0 0 6
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・山鹿) → 高美(たかよし・山鹿やまが、藩士/兵学者) N 2 6 7 1
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・福田) → 誠好齋(せいこうさい・福田、剣術/医/神職) I 2 4 1 3
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・今枝) → 恒明(つねあき・今枝/日置、藩士/日記) B 2 9 5 0
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・高木) → 秀真(ひでざね・高木、藩士/歌人) D 3 7 0 6

八郎左衛門 (はちろうざえもん・恵比須屋/島田) → 真恵美(まえみ・菊廼屋さくのや、商家/狂歌師) 4 0 4 4
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・矢島) → 敏彦(としひこ・矢島やじま、和算家/歌人) W 3 1 7 5
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・蛭子屋) → 周忠(かねただ・島田しまだ/源、商家/国学) U 1 5 7 6
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・齋藤) → 規敦(のりあつ・齋藤さいとう、藩士/国学者) I 3 5 6 0
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・花井) → 重郷(しげさと・花井はない/吹原、国学者) Z 2 1 6 8
 八郎左衛門 (はちろうざえもん・齋藤) → 規房(のりふさ・齋藤、規敦男/藩士/神道家) I 3 5 6 1
 八郎左衛門尉 (はちろうざえもんじょう・松田) → 貞秀(さだひで・松田/平、室町幕臣/歌) C 2 0 3 5
 八郎治 (はちろうじ・細井) → 橋実副(たちばなのみぞえ、狂歌) G 2 6 1 5
 八郎治 (はちろうじ・本間/小泉) → 其明(きめい・小泉/本間/小柳、測量/画) M 1 6 0 9
 八郎治 (八郎次はちろうじ・岡山) → 正興(まさおき・岡山おかやま、国学者) B 4 0 5 3
 八郎次 (はちろうじ・中沢) → 義倫(よしとも・中沢なかざわ/源、幕臣/歌) G 4 7 6 2
 八郎次 (はちろうじ・石井) → 垂穂(たりほ・石井いし、藩士/儒/俳諧) N 2 6 5 0
 八郎四郎 (はちろうしろう・細川/源) → 経氏(つねうじ・細川/源、武将/歌人) B 2 9 7 3
 八郎助 (はちろうすけ・寺本) → 湖萍(こひよう・寺本てらもと、郷土史家) N 1 9 5 3
 八郎太夫 (はちろうだゆう・滝/橋村) → 正立(まさたつ・橋村/本姓; 度会、神職) D 4 0 5 4
 八郎太夫 (はちろうだゆう・賀古) → 清廉(きよかど・賀古かこ、藩士/文筆家) O 1 6 7 3
 八郎太夫 (はちろうだゆう・入谷) → 美平(よしひら・入谷いりや、藩士/歌人) L 4 7 6 4
 八郎太夫 (はちろうだゆう・片桐) → 為清(ためきよ・片桐かたぎり、家老/歌人) W 2 6 4 8
 八郎平 (はちろべい・矢口) → 来応(らいおう・矢口やぐち/増原、藩士/心学) D 4 8 5 8

3620 八郎兵衛 (初世はちろべえ・辰松たつまつ) ?-1734 江戸の浄瑠璃人形遣: 女形/辰松座創設

F3606 八郎兵衛 (2世はちろべえ・辰松たつまつ、初名; 幸助) 1685-1750 66 浄瑠璃人形遣: 兄初世の弟、
 1719兄初世八郎兵衛の創設した江戸の辰松座に属し評判を得/1734兄病没後2世襲名、
 江戸操芝居の隆盛に貢献/浄瑠璃作者: 1719「八百屋お七江戸紫」29「愛護若都の富士」著

八郎兵衛 (はちろべえ・池西) → 言水(ごんすい・池西いけにし、俳壇革新) 1 9 5 4
 八郎兵衛 (はちろべえ・松山) → 定申(ていしん・松山、藩家老/兵法家) B 3 0 2 6
 八郎兵衛 (はちろべえ・岸本) → 公羽(こうう・岸本きしもと、藩士/俳人) H 1 9 3 6
 八郎兵衛 (はちろべえ・中村) → 政栄(せいえい・中村なかむら、商家/算学) 2 4 6 9
 八郎兵衛 (はちろべえ・三井) → 高平(たかひら・三井、八郎右衛門初代、商家) N 2 6 0 2
 八郎兵衛 (はちろべえ・三井) → 高富(たかとみ・三井八郎右衛門2代、商家) M 2 6 4 3
 八郎兵衛 (はちろべえ・中村) → 梁山(りょうざん・中村/中邨なかむら、藩儒) H 4 9 7 3
 八郎兵衛 (はちろべえ・矢部) → 致知(むねとも・矢部/近藤、藩士/古文献調査) B 4 2 9 0
 八郎兵衛 (はちろべえ・豊田) → 深斎(しんさい・4代中村宗哲、千家塗師) U 2 2 4 7
 八郎兵衛 (はちろべえ・中村) → 樸斎(ちようさい・6代中村宗哲、塗師) L 2 8 4 8
 八郎兵衛 (はちろべえ・中村) → 獮斎(ぼくさい・7代中村宗哲、千家塗師) J 3 6 4 4
 八郎兵衛 (はちろべえ・中村) → 至斎(しさい・8代中村宗哲、千家塗師) Q 2 1 4 5
 八郎兵衛 (はちろべえ・岐阜屋) → 直員(なおかず・世継よつぎ、商家/絵師) P 3 2 2 4
 八郎兵衛 (はちろべえ・木宮) → 躬行(みゆき・木宮きみや、国学者/歌) I 4 1 8 3
 八郎兵衛 (はちろべえ・宮本) → 天姥(てんぼ・宮本みやもと、農業/俳人) E 3 0 2 5
 八郎兵衛 (はちろべえ・三井) → 嘉菊(かきく・三井高英、俳人) 1 5 0 6
 八郎兵衛 (はちろべえ・島田) → 真恵美(まえみ・菊廼屋さくのや、狂歌作者) 4 0 4 4
 八郎兵衛 (はちろべえ・西山) → 退溟(たいめい・西山、藩士/儒/詩人) L 2 6 0 9
 八郎兵衛 (はちろべえ・辻) → 守富(もりとみ・辻つじ、歌人/連歌) K 4 4 6 0
 八郎兵衛 (はちろべえ・西堀) → 好信(よしのぶ・西堀にしほり、国学/歌人) O 4 7 3 5

F3607 初 (はつ、初女はつじよ/はつじよ) ? - ? 陸奥出身の歌人; 13歳で立田山の歌を詠む、
 後水尾院に侍すか?、鄙には稀な才女と称さる/俳人; 1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入、
 [東あづまにも伊達だての薄着や夏衣] (女哥仙; 6/伊達の薄着は諺で見栄っ張り; 地名を掛る)

J3645 初 (はつ・阿野あ、初女はつじよ/はつじよ) ?-? 歌人; 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [常盤なる松もよはひをへぬればやかしらの霜の白く見ゆらん] (大江戸倭歌; 冬1126)

初 (はつ・江崎/貝原) → 東軒(とうけん・貝原/江崎、益軒妻) D 3 1 3 0
 発 (はつ・小林) → 卓斎(たくさい・小林こばやし、書家) N 2 6 9 9

発(はつ・大島) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7
 発(はつ・松波) → 光興(みつおき・松波/藤原、官人/詩人) D 4 1 1 4
 発(はつ/おさ・篠崎) → 三伯(さんぱく・篠崎しのぎ、幕府医者) N 2 0 5 0
 発(撥はつ・羽栗/吉雄) → 南臯(なんこう・吉雄よしお、蘭学、蘭方医) I 3 2 9 6
 発(はつ・松崎) → 発(あきら・松崎まつぎ、誠蔵/藩士/歌人) I 1 0 4 5
 白化(はっか) → 白化(はくか、俳人) C 3 6 7 9
 白華(はっか・天野) → 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8
 白華(はっか・菅野) → 白華(はくか・菅野すげの、医/儒者) C 3 6 8 1
 白華(はっか・妙音) → 白華(はくか・妙音、臨濟僧) C 3 6 8 2
 白華(はっか・畑中) → 青霞(せいか・畑中はたなか、藩士/詩文) H 2 4 5 4
 白華(はっか・近藤) → 清石(きよし・近藤こんどう、藩士/国学) P 1 6 6 0
 白華(はっか・横山) → 政寛(まさひろ・横山よこやま、藩士/記録) G 4 0 9 7
 伯華(はっか・江上) → 荅洲(たいしゅう・江上えがみ、藩儒者/詩文) 5 1 3 5
 白華園(はっかえん・天野) → 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8
 白柯園(はっかえん) → 喬緒(たかお・沢野さわの、詩人) L 2 6 6 0

F3608 白鶴(はっかく・大橋おおはし/初姓;富川とみかわ) 1773-1852⁸⁰ 越後栃尾の儒者;近藤峨眉/秋山景山門、
 のち独学で経史を修学/私塾復礼館を開設;門弟多数、詩賦を能くす、「遺稿」門弟編、
 [白鶴(;号)の名/字/通称/別号]名:淑明よしあき/弼、字:仲亮、通称;宗之助、別号;退軒
 富川玄嶽の弟

白鶴翁(はっかくおう) → 仙鶴(せんかく・堀内、茶/俳人) F 2 4 0 3
 白鶴観主(はっかくかんしゅじん) → 確軒(かくけん・林、儒者・詩人) E 1 5 6 6
 白鶴義斎(はっかくぎさい) → 鶴州(かくしゅう・遠藤、藩士/儒者) H 1 5 2 9
 白鶴年(はっかくねん) → 是心軒(4世・一翫いちげん、医者/華道家) K 2 4 6 3
 白鶴房(はっかくぼう) → 宿成(やどなり・雪木庵、宿屋/狂歌) D 4 5 8 7
 白鶴楼隠人(はっかくろういんじん) → 良喬(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人) M 2 6 3 4
 白華樵人(はっかしやうじん) → 祐吉(すけよし・師田もろた、文筆家) D 2 3 7 4
 廿日上人(はっかしやうにん) → 託阿(たくあ;法諱、時宗僧/遊行7世) E 2 6 1 7
 初方(はっかた・藤井) → 好方(よしかた・藤井ふじい、藩士/藩助教) O 4 7 8 5

J3622 はつ雁(はつかり:組連) ? - ? 江中期江戸糶(麴)町八丁目の組連;
 取次;1759「川柳評万句合」入;
 取次例;[石塔へ朱を入れさせて世を遊び](前句;はんじょうな事はんじょうな事)
 (墓石;夫の戒名の隣に生きている妻の戒名を彫り朱を入れる;後家の赤い信女)

八貫(はっかん) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井、浄瑠璃作/狂歌) 2 2 8 7
 八串坊(はっかんぼう・堀) → 文之(ふみゆき・堀ほり、医者/和学) I 3 8 7 0
 白鷗楼(はっかんろう) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7

F3609 八亀(はっかき・時節庵) ? - 1773 尾張名古屋の富商、俳人:木見門、
 1724から俳諧活動;のち家産傾く、1757(宝暦8)立机、也有と交流、
 1760「吾ほとけ」編/61・62「歳旦」編/64「宝暦甲申歳旦」68「店おろし」編、「庵たから」著、
 [時節庵八亀の別号]了斎/八亀法師

F3610 白亀(はっかき・平尾ひらお、有元佐春男) 1733-1800⁶⁸ 美作高円大別当山城主末裔、商人平尾家の養子、
 分家し下弓削に住;酒造/油売/質商を営む、俳人:淡々門/竿秋・富天門、
 1793(寛政5)芭蕉百回忌に誕生寺に句碑建立:94追善句集「蛙塚集」編、
 [白亀(;号)の通称/別号]通称;茂兵衛、
 別号;白氣/白琪はっかき/青々堂/重屋/近江屋/オカモト屋

F3611 白亀(はっかき・飛沈斎) ? - ? 江中期俳人/隠者:前句付点者、江戸座俳諧に興味、
 伊勢麦林or涼袋系か、1763「俳諧筆鸚鵡ふておうむ」入(鳥秋編;白亀の口述を撰)

F3612 白亀(はっかき・南条なんじょう、通称;春林/別号;雀亭) 1751-1819⁶⁹ 三河宝飯郡御馬村の医者、
 俳人:蓼太門/完来門、馬江連に属し宝飯郡南部の指導的地位、1817(文化14)「月南美」編

F3613 白起(はっかき) ? - ? 江後期俳人:1848言山「蕉風不易体新五歌仙」歌仙入
 白亀(はっかき) → 旭江(きよくこう・淵上ふちかみ、絵師) I 1 6 9 0

- 發貴(はつき・真勢) → 中洲(ちゅうしゅう・真勢/真瀬ませ、易占家) G 2 8 2 0
 伯基(はつき・中西) → 忠蔵(ちゅうぞう・中西なかにし/長崎、出版) L 2 8 7 0
 葉月庵(八月-はつきあん) → 右稻(うとう・植木、俳人) D 1 2 1 8
 八亀法師(はつきほうし) → 八亀(はつき・時節庵、商人/俳人) F 3 6 0 9
 八月満(はつきまん) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6
 伯求(はつきゅう・合田) → 華陽(かよう・合田あいだ、漢学者) P 1 5 5 5
 F3614 八匡(はつきよう) ? - ? 俳人;東潮門、1696大魚「留守見舞」連句参
 F3615 八橋(はつきよう) ? - ? 江戸俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
 白狂(はつきよう) → 支考(しこう・各務かがみ、俳人) 2 1 1 9
 白杏(はつきよう、白杏公子) → 長懋(ながとし・浅野、史家) E 3 2 8 8
 F3616 白芹(はつきん・関根せきね) 1756- 1817 62 江戸日本橋馬喰町の宿屋主人、
 俳人;1777(安永6)2世素丸門・1781執筆/のち判者、1774「からすの夕」編、
 1802野逸(4世其日庵)の嫡子に遺稿を託され句集刊行;1周忌1808「野逸句集」編、
 5世其日庵を継嗣;葛飾派の中心として活動、一時一茶・一峨と反目、1804「俳諧十葉抄」編、
 1809「其日庵歳旦」「俳諧はる霞」/1811素丸2世17回忌追善集「青ひさご」編、
 1814「たびまくら」「つくしつえ」編、追善集「白芹叟句集」(息;列山編)、
 [白芹(;号)の名/通称/別号]名;昭房、通称;叶屋三右衛門、
 別号;木樨舎もくせいしゃ/夕可庵/黄鳥亭/其日庵きじつあん5世/素信斎/東呂子/荷葉/素芹、
 絢堂けんどう/五味堂/葛斎かっさい/桂洲/素水、法号;珠光白芹、列山[其日庵7世]の父
 白芹(はつきん) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、其日庵2世、俳人) 2 5 2 9
 白芹(はつきん) → 素丸(2世そまる・溝口、其日庵3世、俳人) E 2 5 3 6
 3621 白駒(はっく・岡部おかべ/修姓;岡おか、宗繁[辰庸]男/本姓;河野) 1692-1767 76 播磨網干西宮医者/儒、
 江戸・長崎に遊学/京で開塾;朱子学・古典注釈に精通/白話小説翻訳、晩年;肥前蓮池藩儒、
 1731「文心雕竜」施訓/34「論語徴批」、1753翻訳「小説奇言」「烈婦七首」、笑話「開口新語」著、
 [白駒(;名)の字/通称/号]字;千里、通称;太仲、号;竜洲
 F3617 白駒(はっく・千里亭せんりてい、通称;小島屋駒次郎) ?-? 江戸牛込旅籠屋、狂歌;四方連、
 1785徳和歌後万載集1首入/87才蔵集入、
 [刀をもさすがに武士のたねぞとてかみしも月をいはふ袴着](後万載;450、
 男子5歳11月15日;袴を着小刀差し氏神参詣/差す・流石に・腰刀のさすがを掛る、
 袴と霜月を掛る)
 始馭天下之天皇(はつくにしらすすめらみこと) → 神武天皇(じんむてんのう) 2 2 8 1
 御肇国天皇(はつくにしらすすめらみこと) → 崇神天皇(すじんてんのう) D 2 3 3 4
 F3618 白圭(はっけい・日比野ひびの、間瀬伝蔵2男) 1825-1914 長寿 90 尾張名古屋藩士の家/日比野家の養子、
 絵師;1833竹田景甫門/のち鈴木景山・森高我門、古代の人物画に長ず;愛国憂世の志、
 「遠山氏貝譜」画、
 [白圭(;号)の名/通称/別号]名;斎、通称;金吾、別号;竹翁/鳳声居、法号;鳳声居竹翁
 白圭(はっけい) 上記以外 → 白圭(はっけい)
 白継(はっけい・熊沢) → 蕃山(ばんざん・熊沢、儒者) 3 6 4 2
 伯経(はっけい・村山) → 芝塙(しゅう・村山むらやま、藩士/儒者) B 2 1 2 3
 八景園(はっけいえん) → 琵琶磨(びわまる・便々館、幕臣/狂歌) 3 7 3 3
 八景園(2世はっけいえん・花芳) → 盛章(もりあき・平久間ひらくま、狂歌/国学) L 4 4 1 4
 K3684 初子(はつこ・三沢みさわ、通称;浅岡、三沢清長女) 1640-86 47 三沢家は信濃伊那郡飯島の地頭一族、
 祖父為基より伊達家に出仕、母;朽木宣綱女、江戸生;13歳で両親と死別;叔母紀伊に養育、
 紀伊が仙台藩主伊達忠宗正室振姫の老女となる縁で振姫の侍女となる、歌人、
 容姿端麗・聡明のため忠宗・振姫が初子を世嗣常宗の側室とす、1658(万治元)忠宗没;
 陸奥仙台藩3代藩主伊達綱宗の側室(;正室なく事実上は正室)、次の3男子を出産;
 綱村(1659-1719/4代藩主)・村和(1661-1722/水沢伊達家)・宗賛(1665-1711/宇和島藩主)、
 1660(万治3)夫綱宗が隠居;2歳の綱村が4代藩主;寛文事件の原因とされる、
 綱村の無事を祈願;釈迦像を刻んだ伽藍の香木を鬘に納める、1686(貞享3)没、
 鬘の釈迦像は綱村により榴ヶ岡の孝勝寺釈迦堂に初子とともに納められ周囲に桜植樹、

初子の歌[ひとふしに千代をこめたる杖ならばつくともつきじ君の齢は](境内の歌碑)

- K3688 **はつ子**(はつこ・宮坂みやさか、宮坂伊兵衛女) 1828-8861 信濃諏訪郡の国学者;松沢もと子門/平田学
初子(はつこ・貝原) → 東軒(とうけん・貝原/江崎、益軒妻) D 3 1 3 0
博古(はつこ/ひろふる?) → 博古(はくこ/ひろひさ?・藤原) D 3 6 0 3
白壺庵(はつこあん) → 白壺堂(はつこどう、台界たいがい、俳人) F 3 6 2 3
- F3619 **八虹**(はつこう・洞笙[簫]斎)?- ? 大阪の雑俳点者;来山門、1705「俳諧誕生日」序、
1705良弘「宝の市」・06「俳諧錢ごま」入・09「三国市」笠付入
- F3620 **白鶴**(はつこう・大矢おおや) 1668- 1746 79 京の俳人:我黒門/のち晩山門、
享保1716-36の中頃以降;京の雑俳点の代表者、老後;高辻烏丸東の清香庵に住、
1729「若しらが」評、30「朝熊嶽あさまがたけ」「うばさくら」編/31「俳諧玉尾花」「玉真葛」評、
1732「俳諧花の宿」「若恵比須」評、1729賢盈「芦分船」題句入(白鶴点の前句附・見立など)、
[白鶴(;号)の別号] 虎竹(;初号)/芦隠軒、剃髪後;清香庵/茅斎
- F3621 **八甲**(はつこう・木村きむら) 1762- 1813 52 陸奥弘前藩士/医;藩医北岡太本門、青森で医業、
1792筑前に遊学/儒;亀井南冥門;師が禁錮刑/肥後の村井琴山門、97帰郷;再び青森で医業、
1805(文化2)幕吏遠山金三郎に随い蝦夷地視察/弘前藩は国事奔走を嫌い青森住を禁止、
五所川原村に移住;病で弘前に帰り没、
「夷賊鎮守縦横策」「温故新書」「玉洲志」「童蒙訓」「東海備子」著、
[八甲(;号)の名/字/通称/別号]名;高庸/樗、字;万年、通称;介三郎、
別号;八甲田山人/虎目洞
白香(はつこう・小花) → 作之助(さくのすけ、小花おはな、幕臣/小笠原開発) H 2 0 2 7
白皐(はつこう・斎) → 白皐(はくこう・斎藤、儒者) D 3 6 0 5
柏光(はつこう・千秋亭) → 柏光(はくこう・千秋亭、俳人) D 3 6 0 6
白后斎(はつこうさい) → 貞因(ていゐん・榎並/藤原、俳人) 3 0 0 1
八功舎徳水(はつこうしゃとくすい・読本) → 種清(たねきよ・柳水亭、合巻作者) G 2 6 3 6
八甲田山人(はつこうださんじん) → 八甲(はつこう・木村きむら、藩士/医/儒) F 3 6 2 1
白鶴堂(はつこうどう) → 琴風(きんぷう・生玉、俳人) E 1 6 6 3
麦袴園(ばつこえん) → 曾平(そへい、俳人) E 2 5 3 2
八古関(はつこかん) → 子皐(しこう・亀屋、商家/俳人) T 2 1 3 2
- F3622 **白谷**(はつこく・仁科にしな、琴浦2男) 1791-1845 55 備前邑久郡虫明の儒者;江戸の亀田鵬斎門、
江戸で講説業/のち京住;諸国遊歴/詩人、猪飼敬所・摩島松南と交流、
1838老中水野忠邦の招聘;応ぜず、門生の間を巡講、
「白谷詩文鈔」「白谷文集」、「江湖百首」「莊子解」/1816「三備詩選」、1821-27「凌雲草」著、
1822「鵬斎先生詩鈔」編/39「嵐山風雅集」編、36海莊「溪琴山房詩」入;海莊と熊中聯句など
[白谷(;号)の名/字/通称]名;幹、字;礼宗、通称;源蔵
博古斎(はつこさい) → 正義(まさよし・殿村、篆刻家) I 4 0 5 2
- F3623 **白壺堂**(はつこどう、別号;台界たいがい/白壺庵、姓;渡辺わたなべ)?-1771 尾張藩士/俳人:馬州門、
岱青たいせい(俳人)の父、1758「戊寅歳旦はつ桂」編
麦湖楼(ばつこうろう) → 古山(こざん・森川、俳人) C 1 9 6 7
初五郎(はつごろう・岩窪/呉) → 北溪(ほくけい・魚屋ととや、商家/絵師) E 3 9 6 0
八朔坊(はつさくぼう) → 夷柏(いはく・三好、俳人) D 1 1 9 5
初三郎(はつさぶろう・平尾) → 魯仙(ろせん・平尾ひらお、商家/絵師) C 5 2 0 5
八枝(はつし・松宮) → 清春(きよはる・松宮まつみや、藩士/詩歌) V 1 6 2 6
- I3675 **初霜起密**(はつしものおきまど)?- ? 江戸狂歌;1787「狂歌才蔵集」入、
[雑煮もちいはふしるしの杉箸にちぎるも三輪のかみしもの客](才蔵集;一15、
袴を着た年始客が餅を食う姿を三輪山の語句で描く/三輪の神・噛み・袴を掛る、
大神社の二本の杉・神婚箸墓伝説を使用/餅をちぎるとと契るを掛る)
八洲刀士(はつしゅうとうし) → 泰歳(やすとし・伊藤/中臣/朝野、国学) C 4 5 2 7
初女(はつじよ/はつによ) → 初(はつ、初女はつじよ/はつによ、歌人) F 3 6 0 7
初女(はつじよ/はつによ) → 初(はつ・阿野あ、歌人) J 3 6 4 5
発昭(発韶はつしょう;唐名・紀) → 長谷雄(はせお・紀、廷臣/漢学者) 3 6 1 9

- 八松(はっしょう・大河内) → 存真(ぞんしん、大河内おこうち/西山、医者) F 2 5 5 9
 初四郎(はつしろう・門馬/岡井) → 文皮(ぶんび・岡井/門馬もんま、藩儒者) G 3 8 3 5
- F3624 **法進**(はっしん;法諱・俗姓;王) 709-778 70 唐の明州律宗僧:鑑真門、
 揚州白塔寺で戒律を布教、754鑑真と来日:東大寺戒壇開設に尽力/吉野仏国寺建立、
 767少僧都/774大僧都、「沙弥経鈔」「註梵網経」著/754「東大寺受戒方軌」著、
 761(天平宝字5)「沙弥十戒并威儀経疏」著、「唐和上東征伝」入(巻末に鑑真追悼詩入)
- F3625 **八水**(はっすい・梨守庵) 1731 - ? 加賀大聖寺俳人:麦水門、藩医榎田順格と交遊、
 1789「阿羅屋[新亭]ありや」編、90「三楽宴」編
 [梨守庵八水の別号] 垂菊洞/金菊洞/竹隠主人/晋八水
 八水(はっすい;号) → 尊海(そんかい;法諱、真言/門跡/連歌) E 2 5 6 9
 八穂(はっすい・高井) → 八穂(やっほ/やっぼ・高井/常磐井、国学) D 4 5 7 9
- F3626 **抜隊**(はっすい;道号・得勝とくしょう;法諱、諡号;慧光大円禅師、俗姓藤原) 1327-87 61 相模中村臨濟僧、
 相模治福寺の応衡門;出家/肯山閑悟・復庵宗己門/出雲雲樹寺の孤峰覚明門/嗣法、
 甲斐で教化;守護武田信成の外護により塩山の向嶽寺開山、1537禅師号を受、
 「塩山仮名法語」「塩山和泥合水集」「抜隊和尚語録」「問答垂示遺誠」著
- F3627 **長谷**(はつせ・置始連おきそめのむらじ) ?- ? 万葉四期歌人、
 739(天平11)10月光明皇后催の維摩(いま)講の仏前唱歌の歌手を勤める;
 万葉集;仏唱歌1594(歌子うたひとの1人)、754家持の宴参加;4302、万葉集左注;1594/4303
 [山吹は撫でつつ生おさむありつつも君来ましつつ挿頭がざしたりけり](万葉;4302、
 754[天平勝宝6]3月19日家持の庄の門の楓の樹の下での宴の詠/生さむは育てよう)
- J3621 **初せ**(はつせ;組連) ? - ? 江中期江戸市谷田町の雑俳前句付・川柳の組連、
 取次;1757「収月(二世)評万句合」入、1760-76「川柳評万句合」多数入、
 取次例;[朔日(つひ)を呑んで曇らぬ月を見る](1757収月万句合/前句;はればれとす々々)、
 (朔日丸は通経避妊丸薬/効果あれば晴れ晴れと生理を迎える)
- J3646 **初瀬**(はつせ・佐竹さたけ、旧姓;三木) 1755-1829 75歳 出羽久保田藩主佐竹義敦よしあつ[1748-85]の側室、
 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、
 [立ちならぶ紅葉は散りて松杉の残るみどりも寒げなるかな](大江戸倭歌;冬1150)、
 [初瀬(;名)の別名/号] 清きよ(初名)/花枝/初山/清滝、号;桂寿院
- K3629 **初瀬**(はつせ・島地しまじ、旧姓;潮田) ?-1836 信濃高遠の歌人;桃沢夢宅・福住清風門、飯田住
 発星院(はつせいん/ほっしょういん) → 日真(にっしん;法諱・東光院、日蓮僧) E 3 3 4 5
- F3628 **泊瀬部皇女**(はつせべのみめみこ、長谷部内親王、天武天皇皇女) ?-741 忍壁皇子・多紀皇女と同母、
 母;穴人臣大麻呂女櫛媛(かじひめのいらつめ、川島皇子の妃、
 万葉二期柿本人麻呂の献歌194(川島皇子没後越智野葬送時皇女へ献歌?)
- 八千(はっせんい・三宅) → 董庵(とうあん・三宅、医;産科・種痘/詩) 3 1 8 7
 八仙観(はっせんかん) → 百川(ひゃくせん・榊原、絵/俳人) E 3 7 6 3
 八千島(はっせんとう・秦) → 八千島(やちしま・秦忌寸はたのみき、万葉歌人) D 4 5 7 4
 八仙[僊]堂(はっせんどう) → 百川(ひゃくせん・榊原、絵/俳人) E 3 7 6 3
 八専之助(はっせんすけ・蒔田) → 広定(ひろさだ・蒔田また、武将/藩主) F 3 7 8 3
 八千房[坊](はっせんぼう/はちぼう):半時庵淡々を祖とする俳人/大阪元町瑞竜寺に歴世の墓碑がある、
 初世 → 舎悖(しゃぼつ・堀) G 2 1 5 2
 2世 → 駝岳(だがく・竹下、木仙) C 2 6 7 0
 3世 → 屋鳥(おくちよう・石井) B 1 4 4 6
 4世 → 一肖(いっしょう・津民、駝岳門) C 1 1 8 3
 5世 → 其山(きざん・相馬) F 1 6 4 2
 6世 → 肖年(しょうねん・半翁7世) Q 2 2 4 6
 7世 → 流美(りゅうび・間野、芦竹庵) F 4 9 4 6
 8世 → 無勝(むちよう) D 4 2 3 4
 八串坊(はっせんぼう・堀) → 文之(ふみゆき・堀ほり、医者/和学) I 3 8 7 0
 八仙法橋(はっせんほうきょう) → 百川(ひゃくせん・榊原、絵/俳人) E 3 7 6 3
- F3629 **八桑**(八草はっそう) ? - ? 江前期江戸の俳人;深川芭蕉庵付近に住、

1691子珊亭での芭蕉送別に一座;94子珊「別座鋪」/94「炭俵」入、
[凧がらしや眈まだたきしげき猫の面つら](炭俵;下巻初冬)

八巢(はつそう) → 蕉雨(しょうう・櫻井さくらい、商家/俳人) F 2 2 3 0
八巢(2世はつそう) → 謝堂(しゃどう・八巢2世、俳人) W 2 1 3 2
八巢(3世はつそう) → 謝徳(しゃどう・八巢3世、俳人) W 2 1 3 3
発蔵(はつそう・八谷) → 梅顛(ばいてん・八谷やたがい、藩士/詩文) B 3 6 8 6
八霜山人(はつそうさんじん) → 霜山(そうざん・金子、藩儒/藩政改革) B 2 5 6 2
八束(はつそく・近田) → 八束(やつか・近田ちかだ、庄屋/国学/歌) D 4 5 7 6
八束(はつそく・鈴木) → 八束(やつか・鈴木すずき、国学/歌人) G 4 5 0 5
鉢袋子(はつたい;号) → 桂悟(けいご;法諱・了庵、臨濟僧/遣明使) 1 8 4 9
八田宮内少輔光風(はつたくないしょうこうふう) → 都の錦(みやこのにしき、浮世草子作者) 4 1 3 9

J3658 初種(はつたね・前田まえた、通称;長門)1837-? 江後期;美作勝田郡塩湯郷の鷲神社神主、
歌人;1847(嘉永4/11歳)平賀元義の楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入

初太郎(はつたろう・大久保) → 忠尚(ただひさ・大久保おおくぼ、神職/勤王) F 2 6 6 9
初太郎(はつたろう・大久保) → 春野(はるの・大久保、忠尚男/陸軍) J 3 6 8 4
初太郎(はつたろう・木下) → 国均(くにまさ・木下きのした、惣庄屋/国学) E 1 7 1 2
発中(はつちゅう) → 発中(ほちちゅう、俳人) E 3 9 6 9
八柱神霊(はつちゅうしんれい;神号) → 時庸(ときもち・清水、幕臣/神道/兵学) K 3 1 1 5
発超(はつちよう;唐名・紀) → 長谷雄(はせお・紀、廷臣/漢学者) 3 6 1 9
八澄(はつちよう・松井) → 八澄(やすみ・松井まつい、国学者) G 4 5 6 7
八張棟梁(はつちようとうりよう) → 八張棟梁(やはりのとうりよう、狂歌) D 4 5 9 8
八椿舎(はつちんしゃ) → 康工(こうこう・尾崎おさき、俳人) B 1 9 0 5
八椿主人(はつちんしゅじん) → 康工(こうこう・尾崎おさき、沢屋/俳人) B 1 9 0 5
八斗庵(はつとあん) → 原松(げんしょう・加藤かとう、俳人) C 1 8 2 0
初女(はつによ) → 初(はつ、初女はつによ/はつによ、歌人) F 3 6 0 7

J3626 はつね(初音;組連) ? - ? 江戸の麴町の川柳の組連、
取次;1771・72・77「川柳評万句合」入、
取次例;「本ンの戦いくさだと常世つねよは株仕舞かぶしまひ」(1777万句合/前句;よわい事かな々)、
(謡曲「鉢木」の佐野源左衛門常世)

(いざ鎌倉が実戦だったらあんな痩せ馬とぼろ鎧ではすぐに株仕舞[破産;戦死])

初音の僧正(はつねのそうじょう) → 永縁(えいえん・ようえん、法相僧/歌人) 1 3 1 4
初音楼一炷(はつねろういっしゅ) → 一炷(いっしゅ・初音楼、戯作者) H 1 1 2 9
発々子(はつはつし) → 乙語(おつご・佐方さかた、藩士/俳人) D 1 4 1 7
初彦(はつひこ・上田) → 一徳(かずのり・上田うねだ、藩士/国学) T 1 5 7 5
八百庵(はつびやくあん/やおあん) → 保光(やすみつ・柳沢、信鴻男/藩主/諸芸) D 4 5 1 6
八百彦(はつびやくげん → やおひこ・浅田) → 八百彦(やおひこ・浅田/朝田あさだ、俳人) 4 5 3 8
八百坊(はつびやくぼう/やおぼう) → 木全(もくどう・沢木さわき、俳人) B 4 4 0 5
八百里(はつびやくり・浅井) → 政昭(まさあき・浅井あさい、藩士/儒者) B 4 0 0 8

F3630 八風(はつふう・馬場ばば、通称;新左衛門、別号;和郷亭)?-? 江後期陸中遠野の俳人、
和漢学に通達、書;東臯文真門、「俳諧袋障子」「生仏」著

発貴(はつぶん・真勢) → 中洲(ちゅうしゅう・真勢/真瀬ませ、易占家) G 2 8 2 0
八峰(はつぼう・山崎) → 久陰(ひさかげ・山崎やまさき/弓削、神職) M 3 7 1 6
八方庵(はつぼうあん) → 国信(くにのぶ・歌川、絵師/草双紙) B 1 7 5 8
伐木齋(はつぼくさい) → 雁宕(がんどう・砂岡いさおか、俳人) 1 5 5 3

F3631 初丸(はつまる・原素館げんそかん、姓;尾田おだ)?-? 大坂平野の狂歌作者;玉雲齋貞右[国丸]門、
浪花6群のうち東方一群の長、1784「狂歌春暮集」86「狂歌嫩葉夷曲集」編、
1811「狂歌嫩葉集」、「職人歌合の中」著

初丸(はつまる・堤) → 盛言(もりのお・堤つみ/荒木田、神職・歌) K 4 4 6 6

E3668 羽積(はつみ/うせき・河村/川村、流石庵)?-? 大阪の俳人;古銭菟集、歌謡;端歌作詞など、
1781「歌系図」著、84「俳諧こひす帳」著;白羽絵馬額

- 発明(はつめい・松田) → 発明(なりあき・松田まつだ、陪臣/尊攘) O 3 2 8 6
 はつめい小僧(はつめいこぞう) → 巴明(はめい・野崎/小池、俳人) F 3 6 6 9
- J3637 **はつ山**(はつやま;女房名) ? - ? 江中期;鳥取池田侍従家の女房、
 歌;広通「霞関集」入、
 [ほととぎすきよくやはらぐ空に今待ちつけて聞く声もめづらし](霞関;夏226/卯月郭公)
 初山(はつやま・佐竹) → 初瀬(はつせ・佐竹さたけ/三木、藩主妻/歌) J 3 6 4 6
 発郎(はつろう・熊谷) → 眞弓(まゆみ・熊谷くまがい/船形、修験/歌) P 4 0 4 1
- F3633 **初若**(はつわか) ? - ? 鎌倉期;越後寺泊の遊女、
 1298佐渡に行く京極為兼に贈歌(玉葉集1240)、没後顕明・光吉らが経供養「惟宗光吉集」入、
 [物思ひ越路の浦の白波もたちかへるならひありとこそきけ](玉葉集;1240)
- F3634 **馬貞**(ばてい・長野ながの、名;通易、可休男) 1671-1750⁸⁰ 豊後玖珠郡恵良の医者/俳人:朱拙/野坡門、
 40歳頃家督を子に譲渡/1713(43歳)剃髪;随有と号す/諸国行脚;風流の生活、
 1706「七異跡集」、「紫石集」「馬貞句集」「湯の山紀行」「朝雲雀」「時計松」「花いろいろ」著、
 追善集「暁塚集」、
 [馬貞(;号)の通称/別号]通称;与一郎、
 別号;頭水(投錐とうすい;初号)茂林堂/紫石堂/随有(;剃髪号)/甲子庵/瓢々坊/遠山翁
 馬蹄(ばてい・飛塵) → 飛塵馬蹄(とぶちりのばてい・上野山、狂歌) O 3 1 7 2
- F3635 **馬泥**(ばてい・長谷川はせがわ、素丸男)?-? 江戸の俳人;父門
 破笛山(はてきさん) → 香以(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0
 伴天連社高政(たばてれんしゃたかまさ) → 高政(たかまさ・菅野谷すげのや、俳人) 2 6 1 6
- F3636 **波天**(はてん・小西こにし) ? - ? 江中期大坂の俳人/雑俳:蘭桂と交流、
 1718(享保3)刊「万石船まんどくぶね」編
 播田室(はでんしつ) → 元彦(もとひこ・春原はるはら、歌人) D 4 4 9 4
- F3637 **巴桃**(はとう) ? - ? 大阪の俳人:
 1755鶯子かんし狂文「魯竹文輯」跋/分類刊行
- F3638 **巴洞**(はとう・井上いのうえ) ? - ? 大阪の雑俳点者、
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、
 1757律中「耳勝手」/82虎風「場付鼻あぶら」入、
 [名は久し咲くや八年の橋柱](しぐれの碑/貞因法橋の叙集も久し)
- 馬童(ばどう) → 馬谷(2世ばく、講釈師) E 3 6 2 7
 馬童子(ばどうし) → 韋吹(いすい・天井、商人/俳人) 1 1 9 3
 馬童仙(ばどうせん) → 韋吹(いすい・天井、商人/俳人) 1 1 9 3
 巴東楼(はとうろう) → 許六(きよろく/きよりく・森川、俳人) 1 6 5 5
 鳩ヶ谷三志(はとがやさんし) → 三志(さんし・小谷おたに、富士講行者) M 2 0 3 0
- K3605 **馬得**(ばとく・木村きむら、) 1611- 1683 美濃大野郡の生/彦根藩士/歌人;斎藤春千門、
 歌;[彦根歌人伝・続寿]入、
 [馬得(;名)の通称/号]通称;文吾、号;中野
 馬得(ばとく) → 文嬭(ぶんち・庄司しょうじ、絵師/篆刻/俳) G 3 8 1 3
 服部皆女(はとりのあさめ/あざめ) → 皆女(あさめ・服部、万葉歌人) B 1 0 0 6
 服部於由(はとりのおゆ/うえだ) → 於田(うえだ・服部、万葉防人) 1 2 0 0
 馬呑(ばどん、洒落本作者) → 止動堂馬呑(しどうどうばどん) Z 2 1 8 9
- F3639 **葉南**(はな) ? - ? 大阪女流歌/俳人;秀吉に仕えた女臈、
 1684西鶴「俳諧女哥仙によかせん」入;
 1688西鶴「武家義理物語」の「花」として「ちよぼ(蝶暮)」と共に入、
 [雨降れば夜の目もあはぬ星の空](女哥仙;3/七夕の夜/目に妻めを掛る)
- K3622 **ハナ**(はな・座光寺ざこうじ、座光寺為明女) 1757-1838⁸² 母;久ひさ(座光寺為忠女)、
 信濃伊那郡の旗本家(伊那衆)の女、一柳為磧ためかたを婿とす;為磧は山吹領主を継嗣、
 歌人;祖父為忠門/澄月門、
 [ハナ(;名)の通称/号]通称;八十、号;柳糸
 花(はな・一行) → 一行花(いちぎょうはな、食行身祿女、富士講行者) J 1 1 2 1

- I3676 **花馬池月** (はなうまのいけづき、通称; 山下藤兵衛) ?-? 江戸四谷おし丁裏通住の狂歌作者;
1787「狂歌才蔵集」入、
[相州の住ぢうきれものの初鯉けふ手に入てさしみにぞする](才蔵集; 三125、
相模湾の鯉を鎌倉に水揚し江戸に送る/刀の切物と品切/刀の差し身と刺身を掛る)
- F3640 **花扇** (はなおうぎ) ? - ? 江戸新吉原の遊女/歌; 荷田蒼生子たみこ(1722-86)門、
歌; 三島景雄(自寛)・加藤千蔭門、1780(安永9)三島自寛「角田川扇合」参加
花枝(はなえ・佐竹) → 初瀬(はつせ・佐竹さたけ/三木、藩主妻/歌) J 3 6 4 6
花英一(はなえいち→かえいち) → 梅之(ばいし・植山うえやま、検校/歌人) B 3 6 3 5
- F3641 **花香** (はなか・岩雲いわくも、幼名; 亘、主計男) 1792-1869 78 阿波美馬郡岩津の生; 1808出郷; 諸国周遊、
国学: 平田篤胤門; 神代文字の研究、板野郡吉田村吹越天王神社神主、白川重晴の師、
1831「八日やをかの日記」/51家集「花鏡はなのかがみの歌集」著
花香(はなか・億川) → 八重(やえ・緒方おがた、洪庵の妻/歌人) F 4 5 4 9
花牆漣々(はながきれんれん) → 漣々(初世れんれん・大久保、俳人) B 5 1 3 5
花牆漣々(はながきれんれん) → 漣々(2世れんれん・大久保、初世男/俳人) B 5 1 3 6
花笠外史(はながさがいし) → 文京(ぶんきょう・花笠はながさ、歌舞伎作/戯作/川柳) F 3 8 0 2
花川戸(はなかわど) → 治助(初世じすけ・桜田、歌舞伎作者) 2 1 2 3
- K3664 **花木** (はなき) ? - ? 宝暦1751-64頃; 江戸の歌人; 深川伎女?、
建部綾足の妻橘女(紫苑/歌人・画)の深川の歌妓頃の養母
- F3642 **鼻毛永人** (はなげのながびと・遠州屋佐助) ?-? 狂歌・四方連、水伝馬町住、
- F3643 **花子** (華子はなこ・猪飼いかい、通称; 阿薫おくん、宝泉院) ?-1780 尾張藩主徳川宗春の侍妾、
歌人: 下冷泉宗家入門/冷泉為村・為恭門、「阿薫おくん和歌集」「泉子詠草」著
- K3609 **花子** (はなこ・蔵田くらた、旧姓; 泰蔵) 1765-1800 36 京の歌人; 小沢蘆庵門/国学/能書家、
[花子(;名)の字/通称/号]字; 八重、通称; 瓊子けいこ、号; 瓊華けいか
鼻金剛(はなこんごう) → 氏正(うじまさ・8世金剛、能役者) B 1 2 7 4
花咲庵(はなさきあん/かしょうあん) → 天来(てんらい・牧岡、俳人) E 3 0 5 3
- F3644 **花咲庵米守** (はなさきあんよねもり、通称; 滝沢勘兵衛) 1781-1848 68 江戸狂歌作者; 花園側、「十題集」編
花咲の翁(はなさきのおきな) → 貞徳(ていとく・松永、歌学/俳人) 3 0 0 8
- F3645 **鼻山人** (はなさんじん、姓; 細川/細河ほそかわ) 1791?-1858 68? 幕臣/御家人; 与力/江戸麻布三軒家に住、
1804頃戯作を志し山東京伝門、洒落・滑稽・人情本・合巻を執筆、御家人株を売る、
神田和泉町の裏店に移住; 戯作者/晩年は落魄; 芝切通し住; 伝授屋と号し手品種本を販売、
1807(文化4)合巻「觸しやれた新形」(初作)/1817洒落「青楼籬の花」18「廓宇久為寿さとのうぐいす」、
1818人情「未曾可みそかの月」20「女自来也」21「玉散袖」24「蘭蝶記」「仇競あだくら恋浮橋」、
1825洒落「青楼せいろ未明[曙]草」/「風俗粹好伝すいこうでん」25-27「契情肝粒志けいせいきもつぶし」、
1828「千代物語」29「艶競金化粧」39「明増而あけまして目出度咄」48(嘉永元)「平気物語」外著多数、
[鼻山人(;号)の通称/別号]通称; 浪次郎/並輔、
別号; 東里山人とうりさんじん/丸陽亭/東里鼻人/布山、晩年; 伝授屋
花枝房円馬(葉南志坊円馬はなしばうえんば) → 円馬(えんば・立川、嘶家) C 1 3 2 0
- K3665 **花封** (はなしめ) 1721 - 1787 67 江戸の歌人/井伊直幸なほひで(1729-89)に出仕; 老女
- F3646 **花輔** (はなすけ) ? - ? 狂歌; 1742百子「狂歌時雨の橋」入
- J3642 **花園** (2代はなぞの) ? - ? 江戸幕府大奥女中、
11代将軍徳川家斉正室広大院寔子ただこ付上臈御年寄、歌人、
1808真田幸弘賀集入、1841天保改革により感応寺での風紀紊乱の罪で押込の処罰; 赦免、
のち12代将軍徳川家慶付上臈、
[かけ高き軒端の松の深みどりふりせぬ色に契る行末](真田幸弘賀集)
なお初世花園は10代徳川家治付上臈/3代花園は14代家茂付上臈御年寄
花園院一条(はなぞのいんのいちじょう) → 一条(いちじょう・花園院女房、歌) B 1 1 2 0
花園院兵衛督(はなぞのいんのひょうえのかみ) → 遠子(えんし・高階、内侍/歌) 1 3 9 6
花園院別当(はなぞのいんのべつとう) → 別当(えべつとう・花園院、女房/歌) B 2 7 0 4
花園院別当典侍(はなぞのいんのべつとうてんじ) → 冷泉(れいぜい・花園院/歌) 5 1 4 5
花園院冷泉(はなぞのいんのれいぜい) → 冷泉(れいぜい・花園院/典侍/歌人) 5 1 4 5

- 花園左大臣 (はなぞのさだいじん) → 有仁(ありひと・源/歌人) B 1 0 9 0
 花園左大臣家越後 (はなぞのさだいじんけのえちご) → 越後(えちご・内大臣家/歌) 1 3 6 9
 花園左大臣家小大進 (はなぞのさだいじんけのこだいじん) → 小大進(こだいじん) D 1 9 2 2
 花園左大臣室 (はなぞのさだいじんのしつ/-北方) → 有仁室(ありひとのしつ・源/歌人) B 1 0 9 1
- 3622 花園天皇 (はなぞのてんのう・名; 富仁/法号: 遍行、伏見天皇皇子) 1297-1348⁵² 母: 洞院実雄女の季子、
 1308-18在位、讓位後持明院派、光厳天皇の教育、
 1333後醍醐軍の京奪還で逃走; 近江番場で捕縛/1335出家; 花園萩原殿住、
 歌; 後期京極派歌壇の中心、1312玉葉集撰進、42持明院歌合43院六首歌合催、連歌会催、
 風雅集監修; 和漢序、禪; 宗峰/関山門、1307「一遍上人絵伝」書/1312「神璽裏改之事」著、
 「学道之御記」「花園院宸記」「花園院御百首」「花園院御文類」「花園院七首和歌」著外多数、
 勅撰; 118首; 玉葉(12首55/357/604/673以下) 続千載(4首585/7791602以下) 続後拾遺(3首)、
 風雅(54首7/87/91以下) 新千載(23首) 新拾遺(15首) 新後拾遺(6首) 新続古今(1967)、
 [わがこころ春にむかへる夕ぐれのながめのすゑも山ぞかすめる](風雅; 春7/院御歌)、
 連歌; 菟玖波集6句入、徒然草に後醍醐天皇に讓位後その年の春[殿守の]の歌入;
 [殿守のとものみやつこよそにして掃はらはぬ庭に花ぞ散りしく](徒然草27段; 新院)、
 [花園天皇の別称] 萩原法皇/萩原院
- 鼻高幸四郎 (はなたかのこうしろう) → 幸四郎(5世こうしろう・松本、歌伎役者) B 1 9 4 1
 鼻垂 (はなたれ・雲多楼) → 春足(はるたり・遠藤、商人/狂歌/戯作) G 3 6 5 1
 鼻垂先生 (はなたるせんせい・青木) → 鼻垂先生(びすいせんせい・青木、狂詩) C 3 7 3 9
 花所 (はなところ) → 隣春(ちかはる・福島/藤原、商家/絵師) B 2 8 6 6
- K3612 花成 (はななり・糊沢くるみざわ/本姓; 源、) 1827-77⁵¹ 信濃佐久郡の国学者、花頼はなよりの父、
 [花成(;)の通称/号] 通称; 美喜蔵、号; 詞園
 花成(はななり・渡海里) → 渡海里花成(とかいりのはななり、狂歌作者) I 3 1 8 2
- K3603 花野 (はなの・木城きしろ、旧姓; 飯田、名; 由子/芳子) 1822-79⁵⁸ 伊豆葦山の歌人、
 歌; 菊池袖子・木村定良・村田芳樹・岡本保孝門、江戸幕臣木城安太郎と結婚、
 1868(慶応4) 上野戦争で夫没/維新後; 大教院女教導職/栃木の模範女学校教師、
 女子師範寮監、
 [上野山動かさずさらで郭公鳴く音血をはくさみだれの頃]; 上野戦後に放置の遺骸を見て
- F3647 花江戸住 (はなのえどずみ、山口政吉、初号; 霞谷景かすみのたにかげ、万亀亭) ?-1805 江戸の狂歌師、
 数寄屋橋南一丁目横町住、銀座狂歌スキヤ連: 真顔門、
 1787「作習酒佐子」95「狂歌江戸紫」「糸の機関」著、才蔵集4首入(花江戸住/霞谷景名)、
 [世の人にうしろを見せぬ月なれば一分いちぶも跡へひかぬかつら男を](才蔵集; 203、
 逃げず意地を張り通すいい男/桂男は月に住む美男子)
- 花の戸 (はなのこ) → 吉憲(よしのり・小町谷こまちや/林、歌人) F 4 7 9 0
- F3648 花咲成 (はなのさくなり) ? - ? 大江戸派狂歌師・1806松好斎「ますかがみ」入
- 花下十念房 (はなのしたじゅうねんぼう) → 素俊(そしゅん; 法諱、藤原、僧/歌人) D 2 5 8 3
 花下遊士 (はなのしたゆうし) → 東陽(とうよう・猗々庵いあん、俳人) H 3 1 8 4
 花の本 (はなのもと・二条) → 康道(やすみち・二条/藤原/九条、摂政) D 4 5 0 5
 花の本(初世はなのもと) → 貞徳(ていしつ・松永、俳人) 3 0 0 8
 花の本(2世はなのもと) → 貞室(ていしつ・安原、一囊軒、俳人) 3 0 0 5
 花の本(3世はなのもと) → 貞恕(ていじよ・犬井、一囊軒、俳人) 3 0 0 6
 花の本(8世はなのもと) → 梅室(ばいしつ・桜井さくらい、俳人) 3 6 0 4
 花の本(9世はなのもと) → 梅通(ばいつう・堤、麦慰舎、俳人) B 3 6 8 2
 花の本(はなのもと) → 百可(ひゃつか・菱田、俳人) E 3 7 9 3
 花の本(はなのもと) → 藐庵(みやくあん・西村、名主/書・茶・歌) F 4 1 9 0
 花之下長居 (はなのものながい) → 正樹(政樹まさき・浅島あさじま/源、藩士/国学) N 4 0 1 2
 花下幽人月前吟客道生 (はなのもとゆうじんげつぜんざんきやくどうしやう) → 道生(導生どうしやう; 法諱、連歌) F 3 1 3 9
 花舎 (はなのや) → 千春(ちはる・吉村よしむら、藩士/国学者) F 2 8 2 0
 花野舎 (はなのや) → 大滋(おおしば・船曳ふなぶき、国学/歌人) E 1 4 1 1
 花の舎 (はなのや) → 磐主(いわぬし・船曳、大滋弟/神職/国学) B 1 1 8 4

- 花廼屋 (はなのや) → 春信 (はるのぶ・辻つじ、里長/国学者) K 3 6 4 6
 花廼屋光枝 (はなのやてるえ) → 光枝 (てるえ・桜井伊兵衛、国学/狂歌) C 3 0 7 0
 花廼屋蛙麿 (はなのやかわずまる) → 五一 (ごいち・達摩屋初世・岩本、光枝の弟子、狂歌) E 1 9 8 2
 花廼屋咲足 (はなのやさきたり・狂歌) → 広蔭 (ひろかげ・富樫、国学) 3 7 1 4
 花廼家[家]守枝 (はなのやもりえ) → 直格 (なおただ・堀、藩主/文芸) B 3 2 5 7
 噓居士 (はなびのこじ) → 一音 (いちおん・噓居士、俳人) B 1 1 1 5
 英一蟬 (はなぶさいたい) → 国貞 (初世くにさだ・歌川、3世豊国/絵師) 1 7 2 9
 英屋 (はなぶさや・万笈堂) → 平吉 (へいきち・英はなぶさ、書肆) 2 7 1 9
 英屋 (はなぶさや・万笈堂) → 大助 (大輔だいすけ・英、平吉男/書肆) K 2 6 4 4
- J3641 **花町** (はなまち) ? - ?80余歳没 京の生/江戸幕府大奥女中、
 11代将軍徳川家斉正室広大院寔子たご付上臈御年寄、歌人/文筆家、
 1808真田幸弘賀集入、
 1826(文政9)寔子に随い浜御殿紀行文「千世の浜松」著(新見正路「賜蘆拾葉」所収)、
 1844江戸城本丸炎上で逃げ遅れ焼死(80余歳)
 [ゆたけしないま此の御代の時つ風浪静かなる竹芝の浦](千世の浜松)
- 花町宮 (はなまちのみや) → 好仁親王 (よしひとしんのう・高松宮、連歌) G 4 7 4 7
 花町宮 (はなまちのみや) → 邦省親王 (くにみしんのう、二条派歌人) 1 7 9 4
 花町宮 (はなまちのみや) → 幸仁親王 (ゆきひとしんのう、有栖川宮/歌人) F 4 6 4 3
- I3679 **花丸** (はなまる・森口) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;383
 [かならずと閉たて残したるくゞり戸の心ほそめに待宵ぞうき]
- F3649 **花丸** (花麿/華麿はなまる・春光園・優々館、姓:杉田すざた) ?-? 大坂糸屋町の洒落本/読本作者、
 狂歌;蜻蛉館姫丸社中、1793「言葉の玉」94「北華通情」99「絵本異国一覽」著、
 1808「名技伝」著/11「京羽二重大全」編/23刊「さとのたね」著、
 [春光園花丸(;号)の通称/別号]通称;長兵衛/宗兵衛、
 別号;優々館花丸/優々館主人/蜻蛉館2世
- 花道のつらね (なはみちのつらね:狂名、才蔵集入) → 団十郎 (5世だんじゅうろう市川、歌舞伎役者) I 2 6 3 1
 花紫 (はなむらさき、遊女) → 玉楼花紫 (ぎよくろうかし、戯作者) P 1 6 4 6
 鼻元 (はなもと・千枝) → 千枝鼻元 (ちえのはなもと、狂歌作者) L 2 8 0 6
 花紅葉堂 (はなもみじどう) → 柳吟 (りゅうぎん、俳人) D 4 9 4 1
- F3650 **花守** (はなもり・柴田しばた、礼助男) 1809-9082 祖父;小城藩士陣内甚五兵衛、肥前小城の生、
 平田派の国学を修学/神道;1826小谷三志門、富士信仰を神道化;実行社を組織;1884管長、
 京の豊国社宮司、神・仏・儒の学を究明/歌・画を嗜む、
 1849「仮字真字鏡」56「国之真柱」64「太諄辞考」、「咲園集」著、
 [花守(;名)の幼名/号] 幼名権次郎、
 号;三生/琴岡/笑園/麦袋/麦園/七香園/咲庵/咲園しやうえん、神号;咲行霊神
- K3645 **花守** (はなもり・都筑つづき、) ? - 1873 伊予宇和郡の宇和島藩士、歌人、
 [花守(;名)の別名/通称/号]別名;行敏、通称;九右衛門、号;百花園
- 花守 (はなもり・大野) → 景山 (けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8
 花守 (はなもり・吉野) → 吉野花守 (よしののはなもり、狂歌作者) K 4 7 0 9
 花屋庵 (はなやあん) → 奇淵 (きえん・菅沼、俳人) 1 6 8 3
 花屋庵 (はなやあん) → 鼎左 (ていさ・藤井、奇淵門/俳人) 3 0 7 9
 花屋裏 (はなやうら) → 奇淵 (きえん・菅沼、俳人) 1 6 8 3
 花屋裏 (はなやうら) → 星譜 (せいふ・七杉堂、俳人) C 2 4 9 2
 花屋久次郎 (初世はなやきゅうじろう、書肆) → 雪成 (初世せつせい・芙蓉散人、俳人) E 2 4 4 6
 花屋久次郎 (2世はなやきゅうじろう、書肆) → 菅裏 (かんり、雪成2世、俳/川柳) E 1 5 2 1
- K3613 **花頼** (はなより・糊沢くるみざわ/本姓;源、花成はななり長男) 1852-9645 信濃佐久郡の人、
 国学者・歌人;江戸の橋本直香たご門、
 [花頼(;名)の通称/号]通称;貞一郎、号;桃廼舎花頼
- 花頼 (からい・糊沢) → 花頼 (はなより・糊沢くるみざわ/源、国学者) K 3 6 1 3
 離屋 (はなれや) → 胤 (あきら・鈴木、儒/国学/語学/歌) 1 0 1 3

- 花輪様(はなわさま) → 重信(しげのぶ・南部・花輪/七戸、藩主/歌) C 2 1 7 0
 花輪堂(はなわどう) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作者) B 1 1 3 7
 馬南(ばなん) → 大魯(たいろ・吉分[別]、俳人) C 2 6 3 7
 坡南荘(はなんそう) → 務(つとむ・小野、豪農/藩政改革/歌人) 2 9 9 8
- E3636 馬耳(ばに・佐藤さとう、名; 宗明むねあき) ?-1750 岩代伊達郡桑折の本陣の家の生; 役人を継嗣、
 俳人: 露沾・露川門、元禄・寛延1688-1751頃桑折俳壇を率る、佐藤新五郎(如風)の父、
 1697桃隣「陸奥衛」入、1711「正徳集」著、1713露川来訪/16祇空来訪/16等躬「一の木戸」入、
 1717燕説来訪、19(享保4)桑折の法円寺境内に芭蕉の「田植塚」を建立; 「田植塚」著、
 1741江戸に遊ぶ; 42帰郷、祇空・潭北・湖十と交流、
 「正風誹談録」著(朱拙「けふの昔」の剽窃?)
 [今朝は誰秣を刈て女郎花](陸奥衛むつとり)、
 [馬耳(;号)の通称/別号]通称; 佐五左衛門/新右衛門、別号; 柱碩/欖翠軒らんすいけん/露桑堂
- F3651 土作(はにし・多治比真人たじひのまひと、左大臣島の孫) ?-771 奈良期740(天平12)従五下、
 743検校新羅使; 新羅の無礼を指摘/撰津介/746民部少輔; 749(天平勝宝元)紫微大忠兼任、
 尾張守/文部大輔/左京大夫/771(宝暦2)参議治部卿従四上、万葉四期4243()、
 [住吉すみのえに斎いづく 祝はふりが神言かむことと行くとも来くとも船は早けむ](万葉; 十九4243、
 (751入唐大使藤原清河への餞別/航海の神住吉の神職の御託宣; 行帰り安全で早い)
- 3623 土師(はにし) ? - ? 奈良期越中の遊行女婦あそびめ、万葉四期4047/4067、
 [垂姫たるひめの浦を漕ぎつつ今日の日は楽しく遊べ言ひ継ぎにせむ](万葉; 十八4047、
 家持の越中布勢の海水みずみ遊覧の時の詠)
- J3696 埴麿(はにまる・唐木からき) 1784-1865 82 信濃埴科郡屋代村の商家/国学者; 武多識正としまさ門、
 歌人、弟春雄はるおの師、「唐木埴麿家集」
 [埴麿(;名)の初名/通称/号]初名; 喜属、通称; 栄左衛門、号; 宇全
 埴麿(はにまる・清宮/木村) → 正辞(まさこと・木村/清宮、国学/万葉研究) C 4 0 5 0
 はね炭(はねすみ・佐倉) → 桜のはね炭(さくらのはねすみ、狂歌) F 2 0 1 5
- F3652 馬年(ばねん・石原いしはら) ? - 1839 陸前仙台藩士/俳人: 馬光門、茶道・插花を嗜む、
 「草鞋塚集」著、
 [馬年(;号)の通称/別号]通称; 泰輔やすすけ/節平、別号; 松洞
- F3653 破衲(はのう; 法諱・東麓とうろく; 道号) ?-? 室町期臨濟僧; 建仁寺東麓軒の住僧、
 1444辞書「下学集かかくしゅう」著/序(; 日常語彙約3千語を18門に分類し説明/1617刊行)
 婆阿(ばばあ; 狂歌名) → 錦江(きんこう・春日部、狂歌) H 1 6 8 4
 爬背子(ははいし) → 春勝(はるかつ・林、鶯峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0
- F3654 波麦(はばく) ? - ? 俳人; 1697其角「末若葉うらわかば」独吟歌仙入
 F3655 馬白(ははく) ? - ? 江後期豊後杵築の俳人: 葛飾派、
 1798(寛政10)「海と山」編
 柞舎(ははそのや) → 尊朝(たかとも・千家せんげ、歌人) D 2 6 2 7
 馬場雲壺(はばのうんこ) → 白鯉館卯雲(はくりかんばんうん、木室、幕臣/狂歌/嘶本) 3 6 1 2
 馬場金埒(はばのきんらち) → 金埒(きんらち・馬場、両替商/狂歌) E 1 6 9 0
- F3656 葉々広(ははひろ・南亭、古川) ?- ? 江戸市ヶ谷の狂歌作者/菅江社中、
 1817「狂歌六歌仙」編
 婆婆面山(はばめんざん; 綽名) → 瑞方(ずいほう・面山、曹洞宗僧) 2 3 8 6
 破飯囊子(ははんろうし) → 遜阿(そんあ; 法諱、僧侶/俳人) B 2 5 4 3
- F3657 ハビアン(Fabian・イルマン、不干斎巴鼻庵) 1565-1621 57 母; ジョアンナ(秀吉の政所の侍女)、
 加賀の生/京の臨濟宗大徳寺の所化?/1583(天正11)母と京で受洗/86イエズス会入会、
 修道士、1587豊臣秀吉の伴天連追放令で平戸・長崎・有家に移住、1590加津佐コレジヨ在学、
 加津佐の日本イエズス会第2回総協議会に最年少の日本人修道士として参加、
 天草コレジヨで日本語教師、ラテン語・倫理神学を修学、
 1603(慶長8)以後は京の下京教会で活動、1608(慶長13)イエズス会脱会; 棄教、
 1614(慶長19)禁教令公布以降は長崎で幕府のキリスタン迫害に協力、
 1605「妙貞問答」著(; 転び前)/転び後; 1620「破提字子はどうす」著

- 1620口訳「羅馬字本平家物語」編纂;序、[別号/法諱]別号;巴比菴/梅庵、法諱;恵俊/恵春
- F3658 **馬瓢**(はひょう・中西なかにし) 1732-1801 70 近江愛知郡平尾村の俳人、蝶夢と親交、
1801(享和元)「筆の塵」著
破瓢叟(はひょうそう) → 由平(ゆうへい・よしひら・前川、俳人) D 4 6 6 8
馬風(はふう・鈴々舎) → 馬生(2世はしよう・金原亭、落語) E 3 6 5 7
馬風(はふう→うまかぜ・俳号) → 通光(みちてる・肥田ひだ、庄屋/国学/俳) K 4 1 1 7
- F3659 **省**(はぶく・吉村よしむら、号;庸齋/希貫齋)?-? 江前期会津文筆家;山崎忠央門、1714「自笑録」著
把不住軒(はふじゅうけん) → 雲居(うんご;道号・希膺;法諱、臨濟僧) B 1 2 1 2
- F3660 **馬仏**(はぶつ・六成堂) ? - 1696 近江彦根藩士/俳人;1696李由許六「韻塞いんふたぎ」入、
1698沾圃ら「続猿蓑」/1712許六「正風彦根躰ひねり」入、
[もち搗きの手伝ひするや小山伏こやまふし](続猿蓑;卷下/餅つき、
小山伏は弟子の若い山伏/師匠の命で檀家の手伝い)
- F3661 **巴文**(はぶん・松村まつむら) 1727- 1802 76 越前勝山の商人/俳人;曲浦門、1802「なてしこ塚」編、
[巴文の通称/別号]通称;甚七、別号;嘯柳舎/甫濤涯/婦花仙/遊糸庵、屋号;板屋
- F3662 **波文**(はぶん・山本やまと、屋号;山川屋) 1802-71 70 三河額田郡大草の生/三河岡崎の旅籠屋主人、
俳人;卓池門、茶道;不蔵庵竜溪門、1832「苔清水」41「松毬集」70「俳諧山桜集」著、
[波文(;号)の通称/別号]通称;嘉蔵、別号;暁松庵/麦雲舎、
- F3663 **破瓶**(はべい) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」1句入、
[ひとつ家やのもゝぞ野道のはるの色](卯辰集;卷一82/野中の一軒家の桃の花)
破鼈(はべつ・里井/破鼈老人) → 孝幹(たかもと・里井、廻船問屋/国学) N 2 6 4 2
馬圃(はほ/まほ・芦田) → 霞夫(かふ・芦田/堺屋、醸造業/俳人) D 1 5 1 9
瑪蜂(はほう/めほう) → 同庵(どうあん・大塚おおか、蘭学/医者) 3 1 9 3
- F3664 **馬勃**(はぼつ) ? - ? 江戸の俳人;江戸座宗匠、
1745湖十「江戸廿歌仙」独吟歌仙入
馬亭(はぼつ) → 燕村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
馬渤斎(まぼつさい) → 蘭二(らんじ・野原のはら、俳人) C 4 8 4 0
馬勃坊(はぼつぼう) → 治泉(ちせん・横山こやま、俳人/1755-1837) E 2 8 5 7
- J3690 **浜雄**(はまお・貝掛かいがけ) ? - 1791 筑前遠賀郡の酒造業、国学/歌人、
[浜雄(;名)の通称/号]通称;只八、号;遊石
浜雄(はまお・萩原) → 広道(ひろみち・萩原、藩士/国学者/歌) 3 7 2 8
浜荻園(はまおぎえん) → 季賢(すえかた・太郎館たろうだち/荒木田、神職/国学) F 2 3 3 9
浜荻叟(はまおぎそう) → 幾曉(きぎょう、雲蝶、僧/俳人) 1 6 9 2
浜荻侍従(はまおぎのじじゅう) → 小侍従命婦(こじじゅうのみょうぶ、歌人) C 1 9 7 8
- 3624 **浜臣**(はまおみ・清水しみず、道円[夫菜]男/本姓;藤原) 1776-1824 49 江戸不忍池畔の医者、
1787昌平黌入学/考証学修得、歌;92村田春海門;のち師や小山田与清と確執を生ず、
「泊泊舎ささなみのや集」「万葉集考註」「語林類纂」「語林類葉」「人名和歌抄」「近葉鳴和集」、
「歌体独語」「甲斐日記」「桐生日記」「泊泊詠草」「泊泊筆記」「泊泊文集」「泊泊文藻」外著多数、
歌;本居大平「八十浦の玉」上巻末;[海上眺望]長歌1首反歌2首入、
[朝風ものどかに吹きていづてぶね大江のみとを漕ぎはなる見ゆ](八十浦;316反歌)
[浜臣(;名)の初名/通称/号]初名;近義、通称;玄長、号;泊泊舎ささなみのや/月斎、
法号;釈道融信士、門弟;岡本保孝/前田夏蔭ら、養子嗣;光房みつさ
- J3653 **浜子**(はまこ・加藤かとう) ? - ? 江後期;歌人、加藤甲次郎一周かづかね(1862殺害)の母、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(息子一周と共に入集)、
[色見えぬ心の花のうつろふはいかなる春の風通ふらん](大江戸倭歌;恋1489/春恋)、
息子 → 一周(かづかね・加藤かとう/藤原、甲次郎/歌人) M 1 5 1 6
- K3642 **浜子**(はまこ・橘たちばな、守部女) 1817-45 早世 29歳 母;政子、武蔵幸手の生、橘冬照の妹、
歌人/江戸住、1843(天保14)「橘の昔語むかしばなし」著(;父の半生)、法名;清渚院
- K3670 **浜五郎**(はまごろう・肥田ひだ、春安5男) 1830-89 60 伊豆田方郡八幡野村の医家の生、土雄ひじおの甥、
江川・川本・象先堂塾入学/伊東玄朴に蘭学修学/長崎海軍伝習所2期生(榎本武揚同期生)、
幕府軍艦操練所頭取/1860(万延元)咸臨丸機関長;勝海舟・福沢諭吉らと渡米/軍監頭取、

- 1866(慶応2)日本最初の蒸気機関付軍艦千代田形を小野春山と完成/68横須賀海軍造船所、のち造船所長/1882(明治15)初代海軍機関総監;岩倉遣外使節団に随行/初代御料局長官、第十五銀行・日本鉄道会社創設尽力、日本の[造船の父]と称される、1889(明治22)事故死
- 浜五郎(はまごろう・加藤) → 磐斎(ばんさい、加藤、和学/歌学) 3 6 4 1
- 浜次郎(はまじろう・内藤) → 広前(弘前ひろさき・内藤、幕臣/国学者) F 3 7 8 0
- 浜純(はまずみ・杉浦) → 朋理(ともあきら・杉浦さざうら、国学) P 3 1 1 4
- 浜足(はまたり・藤原) → 浜成(はまなり・藤原、廷臣/歌学) 3 6 2 5
- 浜亭(はまてい) → 躬国(みくに・永沢ながさわ、歌人) 4 1 8 0
- 浜殿(はまどの) → 日昭(にっしょう・不軽院、日蓮僧) E 3 3 1 6
- 浜名加賀入道(はまなかがにゅうどう) → 仍海(じょうかい;法諱、歌人) H 2 2 6 6
- 3625 浜成(はまなり・藤原朝臣ふじわらのあそみ、前名;浜足はまたり、麻呂男) 724-790⁶⁷ 奈良期廷臣、不比等の孫、母;稲葉国造気豆女(稲葉八上郡の采女)、奈良期廷臣;772(宝亀3)参議/776従三位、刑部卿、広く群書を読破、781(天応元)桓武即位により大宰帥から員外帥に左降、782女婿の氷上川継謀反事件に;連座;参議・侍従を解任;太宰員外帥として任地に没、歌学;772「歌経標式」撰(;詩式を歌に適用)、「唯識問答」問/「天書紀」著
- F3665 浜成(はまなり・斎部宿禰/忌部いんべ) ?- ? 平安期廷臣/803斎部に改姓/民部少丞、803遣新羅使、「神別本紀」「天書」の著者に仮託
- F3666 浜主(はまぬし・尾張おわり) 733 - ? 平安前期雅楽家;舞楽の名手、入唐、帰国後;845(承和12)正月百十余歳で舞う(続日本紀入)、「拾翠楽」「河南浦」の舞
- 浜雅楽大夫(はまのうただゆう) → 禅休(ぜんきゅう;法諱、僧/歌人) F 2 4 1 0
- 浜辺の石成(はまべのいしなり、狂歌) → 高厚(たかあつ・山鹿、剣術家/俳人) L 2 6 5 3
- 浜辺黒人(はまべのくろひと・斯波) → 黒人(くろひと・浜辺、狂歌) B 1 7 1 8
- 浜村屋大明神(はまむらやだいましょうじん) → 菊之丞(3世さくのみじょう・瀬川、歌舞伎役者) 1 6 9 9
- F3667 浜藻(波間藻はまも;号・五十嵐いがらし、名;茂代、名主孝則[梅夫]女) 1772-1848⁷⁷ 相模大谷村俳人;父梅夫門、片野伝兵衛義矩の妻(入婿)、成美/一茶と交流、1806-10父と西国歴遊、1810「八重山吹」編、「一茶俳諧集」;成美との両吟入
- 浜木綿園(はまゆうえん) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌) G 3 6 0 5
- F3668 波丸(はまる・鉄格子、姓;西浦にしうら、木津屋周蔵) ?-1811 大阪鉄問屋・狂歌;貞右門/鉄格子社結成、滑稽本/読本、1806「絵本川崎音頭」/08「かはころもの記」/10「葦牙草紙」「狂歌友の垣穂」著
- [鉄格子波丸の別号] 粕長者/似蜂軒波丸
- 馬明堂(ばみょうどう) → 左夕(させき・吉田、俳人) N 2 0 0 0
- 葉室宰相入道(はむろのさいしょうにゅうどう) → 定嗣(さだつぐ・葉室/藤原、歌人) C 2 0 0 3
- 葉室大納言(はむろのだいなごん) → 光頼(みつより・藤原、歌人) F 4 1 2 5
- 葉室中納言(はむろのちゅうなごん) → 頭隆(あきたか・藤原、歌人) 1 0 6 8
- F3669 巴明(はめい・野崎のさき/旧姓;小池こいけ) 1756-1838⁸³ 駿河沼津の俳人:乙児/1777蓼太門、安倍川の野崎家を継嗣、1790「雪夜人遣稿」1832「伊豆めぐり」著、33「俳諧苔の花」編
- [巴明(;号)の名/通称/別号]名;貞則、通称;栄助/彦左衛門、別号;はつめい小僧/三山人/月漣舎
- F3670 巴紋(はもん・江上舎) 1747 - 1804⁵⁸ 播磨の俳人:玉屑門、1804(文化元)「たまくら集」著
- 巴門(はもん・堀) → 参禎(かざただ・堀ほり、藩士/家老/国学) V 1 5 6 6
- 波門(はもん・長岡/米田) → 是著(これあき・米田こめだ、藩士/儒/詩) O 1 9 0 5
- 馬門(はもん・新楽) → 閑叟(かんそう・新楽にいら、幕臣/蝦夷紀行) G 1 5 4 9
- 波門太(はもんた・和気) → 貞国(さだくに・和気わけ、庄屋/歌人) P 2 0 8 1
- K3640 頼明(はやあき・竹田たけだ、通称;久八郎) 1773-1805³³ 近江彦根藩士、歌人;[彦根歌人伝・亀]入
- F3671 快温(はやあつ・森、初名;長従ながより、広島藩主浅野重晟男) 1769-1801³³ 播磨三日月藩主;1793藩主俊韶の婿養子;家督/下野守、95藩校広業館設置、「縮景園詩文」著
- J3665 逸衛(はやえ・伊藤いとう) 1809 - 1890⁸² 美濃養老郡の書家;樋口代治門;御家流を修学、国学/歌;本居春庭・富樫広蔭門、1828(20歳)頃京の青蓮院宮に出仕;祐筆となる、維新後帰郷;逸衛と改名/子弟教育/水利事業;新よげ(除;低い堤防)築造に尽力、[逸衛(;老後の名)の幼名/字/通称/号]幼名;捨次、字;正栄、通称;左六郎/市右衛門、

号;東雲軒

- J3659 **早穂**(はやお/はやほ・西村にしむら、斎助)?-? 江後期;美作勝田郡稲穂村の歌人、
歌;1850平賀元義の楯の舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、
- K3699 **隼雄**(はやお・渡辺わたなべ、眞文まふみ男)1823-9270 駿河駿東郡の富士南口浅間神社祠官;父を継嗣、
国学者;平田鍊胤・石川依平よりひら門、
[隼雄(;名)の初名/通称]初名;千船、通称;邦太郎/求馬
- K3694 **速雄**(はやお・山本やまもと、藩士亀井六五左衛門男)1825-7450 三河吉田藩士、
国学・神道;羽田野敬雄たかお門、1864(元治元)蛤御門の変の頃脱藩;山本一郎/速雄に改名、
1867(慶応3)鷲尾隆聚の挙兵に東三番隊長とし従軍、1868徴士;三河裁判所権判事、
武蔵国巡察使/磐城平民政局掛/会計官租税司判事/鉾山司知事/若松県大参事を歴任、
[速雄(;名)の通称]孫六(・亀井)/一郎(・山本)
- 速雄(はやお・筑紫;変名)→ 彦麿(ひこまろ・広田ひろた、神職/勤王) K 3 7 7 8
早書筑良(はやがきのちくら)→ 筑良(ちくら・早書はやがき、狂歌作者) D 2 8 8 5
- J3638 **はや子**(はやこ・磯野いその、磯野政武女;本姓源)?-? 江中期;幕臣丹波守磯野政武まさたけ(1717-76)女、
婿養子政共まさとも(旧姓;萩原/1739-94)の妻、1798刊石野広通「霞関集」入(;父・夫と入)、
[ほととぎすおのが五月もやや近き空に忍ばぬ音ねをや鳴くらん](霞関;夏252)
- 逸子(はやこ/いっこ・岡田/小磯)→ 鶴鳴妻(かくめいのつま・岡田、文筆家) K 1 5 5 0
速三郎(はやさぶろう・鈴木)→ 亮(あきら・鈴木すずき/土濃塚、国学者) H 1 0 7 5
隼太(はやた・山崎)→ 景憲(かげのり・山崎やまさき、藩士/兵法家) L 1 5 2 1
隼太(はやた・野沢)→ 勝隼(かつしゅん・野沢、藩士/兵法家) N 1 5 6 0
隼太(はやた・佐藤)→ 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9
隼太(はやた・近田)→ 八束(やつか・近田ちかた、庄屋/国学/歌) D 4 5 7 6
隼太(はやた・植木/中島)→ 貴恒(たかつね・中島/植木、国学/歌人) M 2 6 3 1
隼太(はやた・金成)→ 徳雄(のりお・金成かんなり、国学者) I 3 5 0 6
隼太(はやた・北村)→ 重郷(しげさと・北村きたむら、陰陽/歌人) O 2 1 2 5
隼太(はやた・近田)→ 冬載(ふゆとし・近田ちかた、歌人) I 3 8 4 8
隼太(はやた・中村)→ 成己(なりみ・中村なかむら、藩士/国学) O 3 2 1 3
隼太郎(はやたろう・建部)→ 賢朗(かたあき・建部たけべ/佐々木、幕臣) M 1 5 8 7
隼太郎(はやたろう・山崎)→ 郷美(さとよし・山崎/源、藩士/和算家) K 2 0 5 9
- F3672 **隼人**(はやと・竹松たけまつ) ? - ? 江前期元禄1688-1704以前の加賀藩富樫観知の家臣、
「富樫観知物語拔萃」著
- 隼人(はやと・津田)→ 宗及(そうきゅう/-ぎゅう・津田たけ、政商/茶人) B 2 5 0 2
隼人(はやと・分部)→ 光庸(みつね・分部わけべ、藩主/歌) K 4 1 9 7
隼人(はやと・久志本くしもと)→ 常貫(つねら・久志本/度会、神職/国学) C 2 9 5 5
隼人(はやと・亀田/春木)→ 房光(ふさみつ・春木はるき/度会、神職/国学) C 3 8 2 7
隼人(はやと・檜垣/橋村)→ 正允(まさとき・橋村/度会、神職/国学) E 4 0 3 8
隼人(はやと・春木)→ 煥光(あきみつ・春木、房光男/神職/本草) D 1 0 9 8
隼人(はやと・雨宮)→ 正峯(まさみね・雨宮あめのみや/源、幕臣/歌) L 4 0 5 8
隼人(はやと・長井)→ 雅楽(うた・長井ながい、藩士/開国論) D 1 2 0 0
隼人(はやと・大野木)→ 克寛(かつひろ・大野木おおのぎ、藩士/記録) N 1 5 8 1
隼人(はやと・佐藤)→ 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9
隼人(はやと・長尾)→ 勝明(かつあき・長尾、藩家老/地誌編纂) N 1 5 1 8
隼人(はやと・尾関)→ 当補(とうほ・尾関おげき、藩家老/儒者) 3 1 2 1
隼人(はやと・成瀬)→ 正成(まさなり・成瀬、武将/家老/城主) F 4 0 3 8
隼人(はやと・須藤)→ 昌時(まさとき・須藤、藩士/兵法家) E 4 0 3 4
隼人(はやと・福島)→ 末済(すえなり・福島/度会、神職/漢学) F 2 3 5 4
隼人(はやと・屋代)→ 忠良(ただかた・屋代/堀田、幕臣/文筆) P 2 6 3 2
隼人(はやと・山口)→ 馬屋厩輔(うまやのまやすけ、藩士/狂歌) B 1 2 9 4
隼人(はやと・山名)→ 玉山(ぎよくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0
隼人(はやと・長沢)→ 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌) P 3 1 2 3

隼人(はやと・高野) → 倫兼(ともかね・高野たかの、藩士/詩歌) P 3 1 3 5
 隼人(はやと・蜂須賀) → 桑葉(そうよう・蜂須賀?、藩士/俳人) J 2 5 1 0
 隼人(はやと・岡村/正住) → 弘美(こうび・正住しょうじゅ、絵師/茶道) B 1 9 8 6
 隼人(はやと・吉田/土肥) → 秀雄(ひでお・小早川/土肥/吉田、郷土史家) C 3 7 8 4
 隼人(はやと・松平) → 正道(正路まさみち・松平/源、藩主) L 4 0 9 1
 隼人(はやと・加藤) → 泰統(やすむね・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 9
 隼人(はやと・佐八) → 定統(さだむね・佐八さち/荒木田、国学者) J 2 0 8 6
 隼人(はやと・太田) → 竹城(ちくじょう・太田おた、藩家老/国学) D 2 8 2 2
 隼人(はやと・一柳) → 末栄(すえなが・一柳ひとつやなぎ、藩主) H 2 3 9 4
 隼人(はやと・戸川) → 安昌(やすまさ・戸川とがわ/堀、幕臣) C 4 5 9 5
 隼人(はやと・牧野) → 康済(やすなり/やすまさ・牧野/源、藩主/詩) C 4 5 5 0
 隼人(はやと・前田) → 利和(としよし・前田まえだ、藩主/歌人) T 3 1 7 5
 隼人(はやと・磯部) → 正親(まさちか・磯部いそべ、神職/歌人) N 4 0 6 4
 隼人(はやと・磯部) → 正逸(まさはや・磯部いそべ、神職/国学) N 4 0 6 7
 隼人(はやと・大山) → 好古(よしひさ・大山おおやま/藤原、国学) M 4 7 0 2
 隼人(はやと・奥平) → 貞臣(さだおみ・奥平おくだいら、家老/俳人) O 2 0 2 1
 隼人(はやと・菅) → 良史(よしふみ・菅すが/菅原、家老/国学) N 4 7 4 2
 隼人(はやと・橋村) → 正衡(まさひら・橋村はしむら/度会/檜垣、神職) R 4 0 6 5
 隼人(はやと・朝日) → 眞澄(ますみ・朝日あさひ、神職/神道家) N 4 0 1 4
 隼人(はやと・柴崎) → 宜弘(よしひろ・柴崎しばさき、神職/国学) N 4 7 3 4
 隼人(はやと・多賀) → 直秀(なおひで・多賀たが、藩士/詩歌) N 3 2 6 7
 隼人(はやと・中山) → 吉行(よしゆき・中山なかやま、神職/国学) O 4 7 2 6
 隼人(はやと・喜多) → 維親(継親これちか・喜多きた/飯田、国学) Q 1 9 6 3
 隼人(はやと・喜多) → 親章(ちかあき・喜多きた/飯田、維親養子/国学) M 2 8 4 3
 隼人(はやと・加藤) → 泰温(やすあつ・加藤かとう、藩主/儉約令) F 4 5 6 5
 隼人(はやと・奥埜) → 弘光(ひろみつ・奥埜おくの、寺院侍臣/歌) I 3 7 9 4
 隼人(はやと・宮沢) → 正治(まさはる・宮沢みやざわ/橋、神職/国学) T 4 0 0 0
 隼人(はやと・金田) → 秋足(あきたる・金田かねだ、神職/国学) H 1 0 3 7
 隼人(はやと・藺田) → 守胤(もりたね・藺田/荒木田、神職/国学) K 4 4 2 1
 隼人(はやと・増山) → 正同(まさとも・増山ますやま/永井、藩主) S 4 0 5 9
 隼人正(はやとのしょう・松平) → 忠冬(ただふゆ・松平、幕臣/記録編纂) F 2 6 8 0
 隼人正(はやとのしょう・内藤) → 矩佳(のりとも・内藤、幕臣/記録) F 3 5 2 6
 隼人正(はやとのしょう・水口) → 清光(きよみつ・水口みなくち/身人部むとべ、廷臣/歌) V 1 6 4 0
 隼人正(はやとのしょう・分部) → 光庸(みつね・分部わけべ、藩主/歌) K 4 1 9 7
 隼人正(はやとのしょう・岡本) → 清令(きよのり・賀茂/岡本、神職/日記) Q 1 6 1 3
 隼人正(はやとのしょう・向山) → 黄村(こうそん・向山むこうやま/一色、幕臣/詩) G 1 9 6 6
 隼人正(はやとのしょう・中川) → 長雄(ながお・中川ながわ/藤原、廷臣/歌) O 3 2 0 3
 隼人介(はやとのすけ・本間) → 光道(みつみち・本間ほんま、富豪/藩士/俳) K 4 1 4 6
 隼人助(はやとのすけ・笠因) → 直麿(なおまる・笠因かさより、神職/国学) K 3 2 1 7
 隼人助(はやとのすけ・溝口) → 直景(なおかげ・溝口みぞぐち/源、旗本/歌) K 3 2 3 6
 隼人祐(はやとのすけ・渡辺) → 眞文(まふみ・渡辺わたなべ、神職) T 4 0 8 0
 早輅和布刈(はやともめり:狂歌) → 保己一(ほきいち・塙はなわ、国学者) 3 9 6 0

3626 **逸勢**(はやなり・橋たちばな、入居男)?-842 平安前期廷臣/804-06遣唐使に随行留学/従五下、
 840但馬権守、842承和の変の首謀者として伊豆配流;配流中遠州で没/のち従四下追贈、
 詩文・書:三筆の1、橋秀才と称される、833「伊都内親王願文」書、奈良麿の孫

隼之丞(はやのじょう・大岩) → 昌蔵(まさなり・大岩おおいわ、藩士/文芸活動) O 4 0 2 7
 隼之進(はやのしん・池上) → 隼之助(じゅんのすけ・池上いけがみ、藩士) L 2 1 7 3
 隼之助(はやのすけ・毛利) → 詮益(あきます・毛利もうり、藩士/記録) D 1 0 9 0
 隼之助(はやのすけ・前田) → 知周(ともちか・前田まえだ、藩家老/記録) P 3 1 7 9
 隼之助(はやのすけ・建部) → 賢明(かたあきら・建部、幕臣/和算家) M 1 5 8 8

- 隼之助(はやのすけ・建部) → 賢朗(かたあき・建部たけべ、幕臣) M 1 5 8 7
 隼之助(はやのすけ・笠因) → 諸親(これちか・笠因かさより、歌人) O 1 9 5 2
 隼之助(はやのすけ・池上) → 隼之助(じゅんのすけ・池上いけがみ、藩士) L 2 1 7 3
- F3673 速総別王(はやぶさわけのおおきみ、紀:隼総別皇子、応神天皇皇子)?-? 母:糸媛、妹女鳥王めどりのおおきみと婚、兄仁徳天皇が女鳥王を妃とするため隼総別皇子を使者とす/女鳥王めぐり天皇と争う、追討され共に殺害(紀;仁徳記40年)/逃走途時の歌謡;記2首/紀1首、
 [梯立はしたての 倉椅山くらはしやまを 嶮さがしけど 妹と登れば 嶮しくもあらず](古事記;下)、
 → 女鳥王(めどりのおおきみ、応神天皇皇女) 4 3 3 5
- J3666 逸彦(はやひこ・伊藤いとう) 1796-1859⁶⁴ 尾張愛知郡杣掛新田中島の庄屋;水利土木事業、国事を憂い幾度か建白、漢学;永井星渚門、のち江戸昌平覺に修学/帰郷;私塾開設;教育、杉本奎堂・大槻盤溪と交流、
 [逸彦(;名)の字/通称/号]字;民卿、通称;民之輔、号;両村
- F3674 速馬(はやま・浅井あさい) 1833 - 1901⁶⁹ 和泉岸和田藩士、和算家;福田理軒門、維新後;権少属、私塾を開き子弟教育/小学校教員、「応天堂算法」著、
 [速馬(;通称)の名/別通称/号]名;善弘、別通称;寅太郎、号;応天堂
- F3675 逸峰(はやみね/うっぼう・内山うちやま、治右衛門好峰男) 1701-80⁸⁰ 越中宮尾村大百姓;1千石地主の7代、十村役;1732家督、歌人:有賀長伯/武者小路実陰門、紀行作者、前田利郷としさと「長岡八景」著、1765(明和2)「越路秋待草」「西国道紀」著、1773(安永2)「西国筑紫紀行」著、
 [からにしき洗ふなみまの袖なれや夕日にそめてわたる舟橋](船橋夕照/長岡八景入)
 [越ぬべき浪こそ見えね末の松山かぜばかりをとにまがひて](1764/末の松山にて詠)、
 [逸峰(;名)の通称] 治右衛門/仁右衛門/津久太
- F3676 馬有(ばゆう) ? - ? 越中魚津俳人;1776樗良「誹諧 月の夜」入、
 [音信おとづれに折々ふけよ秋の風](月の夜;53)
- F3677 馬宥(ばゆう・堀田/芳井、通称;紅屋卯兵衛)?-? 江後期大阪雑俳点者・咄会;寛政期口合興行/禁圧、地口/地唄の作詞、1777「時勢話綱目」編/82「春帖咄」83「歳旦話」著、85「早引残字節用集」編、1789「御祓川」著、1810浪花一九「画ばなし当時梅」入、1812「笠附虫目鏡」編、
 [馬宥(;号)の別号] 必々舎/酒屋隣
- F3678 馬遊(ばゆう・野辺地のべち、名;慶明、通称;礼八、別号;三柳舎) 1776-1839⁶⁴ 陸中盛岡の俳人:素郷門、1825(文政8)「そのみどり」/27「柳文庫」編
 馬遊(ばゆう) → 馬谷(3世ばく、2世男/講釈師) E 3 6 2 8
 馬養(ばよう・文) → 馬養(馬甘うまかい・文忌寸あやのみき、歌人) 1 2 8 4
 馬養(ばよう・伊与部) → 馬養(馬飼うまかい・伊与部連いはべのむらじ、詩人) E 1 2 1 6
 巴陽軒(はようけん) → 文熙(ぶんき・巴陽軒、俳人) E 3 8 9 4
- F3679 腹赤(はらあか・はらか・桑原くわばら/改姓;都みやこ、通称;桑腹赤、桑原秋成男) 789-825³⁷ 平安前期廷臣;文章生出身、814文章生相模権博士;太初位下/詩人、814秋に渤海副使高景秀と唱和詩、817嵯峨天皇の冷然院行幸に随従し詩を賦す/818「文華秀麗集」仲雄王・清公らと共編、820従五下/大内記/文章博士;文章道試験制度の是正を指摘/821「内裏式編纂」に参画、822都みやこ宿禰に改姓/823正五下/天長改元の際菅原清公・南淵弘貞と撰申、凌雲集2篇/文華10篇/経国集1篇入、都良香の伯父
- F3680 馬來(ばらい・上田うえだ、通称養元、養説男) 1739-92⁵⁴ 加賀金沢医者/俳人:關更門、加賀俳壇で活躍、1753「月あかり」青野と共編、91「鶉の音」編、
 [馬來の別号] 槐庵(かいあん/園亭/柿丸舎)、法号;槐夢院駿翁
 馬來房[坊](ばらいぼう) → 白義(はくぎ・瀬上せがみ知足庵、俳人) C 3 6 9 2
 腹唐秋人(はらからのあきんどきうど、狂歌) → 董堂(とうどう・中井敬義、詩・書家) G 3 1 7 8
 腹唐秋人(はらからのあきんど/あきうど、狂歌) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8
 馬楽童[堂](ばらくどう) → 鬼貫(おにつら・上島うえじま、俳人) 1 4 2 4
 原三郎(はらさぶろう・櫻) → 国輔(くにすけ・櫻さくら、農家/儒者/勤王) E 1 7 2 1
 原富(はらとみ:俳名) → 武太夫(ぶだゆう・原、三味線/随筆) D 3 8 1 7
 原富(はらとみ:俳名・岡安) → 武太夫(ぶだゆう・原、幕臣/音曲/狂歌) D 3 8 1 7

- 原の白隠(はらのはいん) → 慧鶴(えかく;法諱・白隠;道号、臨濟僧) C 1 3 0 9
 波羅密(はらみつ;号) → 日灯(にっとう;法諱・慧明、日蓮僧) F 3 3 4 0
 婆羅門僧正(ばらもんそうじょう) → 菩提(ぼだい・僊那、大仏開眼導師) E 3 9 4 5
- F3681 馬卵(ばらん) ? - ? 江戸の俳人、
 1773(安永2)撰集「双猿路談そうえんろだん」編(;蝴蝶散人跋/花屋久次郎板、
 3世湖十(風窓)が当時の俳人17人の肖像とその句を掲げ風窓社中の句・歌仙を掲載刊行)
 双猿路談;17人;湖十・紀逸2世・秋色・恋稻・宝井・沢来・春堂・馬肝・可南・
 風也・蓮郷・成美・恋丈・梅里・五猿・葛松・完車(4世湖十)
- 婆欒樹林(ばらんじゅりん) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5
 馬蘭亭(ばらんでい/巴蘭亭) → 高彦(たかひこ・山道、狂歌) D 2 6 5 2
 玻璃(はり・伊達) → 綱村(つなむら・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 7
 玻璃蔵(はりぞう・越中富山) → 北海(ほっかい・青木、殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3
 榛園(はりぞの) → 内遠(うちとお・本居、国学者) 1 2 7 4
- F3682 播磨(はりま) ? - ? 平安期女房歌人;裸子内親王家女房?、
 歌:1048(永承3)六条齋院歌合/68(治承4)裸子内親王家歌合参加、
 [賤げのやも玉のうてなもあやめぐさかからぬつまはあらじとぞ思ふ]、
 (永承三年六条齋院歌合;昌蒲さうぶ左1)
- 播磨(はりま・春田) → 永年(ながとし・春田はるた、具足師/故実) 3 2 1 2
 播磨(はりま・近松) → 東南(とうなん・近松ちかまつ、浄瑠璃作者) G 3 1 8 2
 播磨(はりま・黒田) → 溥整(ひろなり・黒田/加藤、家老/連歌) G 3 7 7 5
 播磨(はりま・伊達) → 宗恒(むねつね・伊達だて、領主) B 4 2 7 1
 播磨(はりま・大沢) → 深臣(ふかおみ・大沢おおさわ、国学者/歌) B 3 8 3 1
 播磨(はりま・宇都宮) → 西円(さいえん;法諱、僧/歌人) 2 0 6 2
 播磨(はりま・有馬) → 泰賢(やすかた・有馬ありま、藩家老/歌人) F 4 5 2 0
 播磨(はりま・春田) → 永年(ながとし・春田はるた、具足師/故実) 3 2 1 2
 播磨(はりま・高山) → 重臣(しげおみ・高山たかやま、神職/歌人) N 2 1 0 8
 播磨(はりま・橋本) → 孝包(たかかね・橋本はしもと/藤原、神職/国学) Y 2 6 9 8
 播磨(はりま・朝日) → 眞澄(ますみ・朝日あさひ、神職/神道家) N 4 0 1 4
 播磨(はりま・竹矢) → 信昌(のぶまさ・竹矢たけや/田辺、神職/歌) J 3 5 0 3
 播磨公(はりまこう・古市) → 澄胤(ちやういん;法諱・古市、法相僧/武将) L 2 8 1 1
 播磨講師(はりまこうし) → 恵慶(慧慶/恵京えぎょう、歌人) 1 3 0 8
 播磨道邃(はりまどうすい) → 道邃(どうすい;号、天台僧) F 3 1 8 4
 播磨入道(はりまにゅうどう) → 西円(さいえん;法諱、僧/歌人) 2 0 6 2
 播磨入道(はりまにゅうどう) → 康広(やすひろ・小笠原おがさわら、武将) C 4 5 8 5
- 3627 播磨娘子(はりまのおとめ) ? - ? 播磨の遊行女婦あそびめ、万葉三期歌人;
 万葉1776-7;任終え帰京する石川大夫への贈歌;720(養老4)か、
 [絶等寸たゆらきの山の尾の上への桜花咲かむ春べは君し偲しのはむ](万葉;九1776)
- 播磨守(はりまのかみ・森田) → 光尋(みつね・森田もりた、神職/歌人) D 4 1 9 1
 播磨守(はりまのかみ・柳生) → 久寿(ひさとし・柳生やぎゅう/菅原、幕臣/歌) I 3 7 2 7
 播磨守(はりまのかみ・北条) → 元氏(もとうじ・北条ほうじょう、旗本/軍学) L 4 4 2 2
 播磨守(はりまのかみ・山岡) → 景熙(かげひろ・山岡やまおか、幕臣/歌人) W 1 5 0 8
 播磨守(はりまのかみ・稲川) → 理秀(まさひで・稲川いながわ/藤原、神職) N 4 0 7 2
 播磨守(はりまのかみ・緒方) → 惟盈(これみつ・緒方がた/大神、神職) Q 1 9 4 7
 播磨守(はりまのかみ・神崎) → 光武(みつたけ・神崎かんだき/大中臣、神職) I 4 1 7 5
 播磨守(はりまのかみ・斎藤) → 貞連(さだつら・斎藤さいとう、神職/国学) O 2 0 5 5
 播磨守(はりまのかみ・小出) → 英長(ふさなが・小出こいで、幕臣/藩主/国学) I 3 8 2 2
 播磨守(はりまのかみ・大沢) → 基明(もとあきら・大沢おおさわ、幕臣/侍従) J 4 4 5 2
 播磨守(はりまのかみ・渡辺) → 綱敏(つなとし・渡辺わたなべ、神職/国学) G 2 9 7 3
 播磨守(はりまのかみ・北小路) → 俊徳(としのり・北小路きたのこうじ/大江、諸大夫/歌) U 3 1 9 8
 播磨守(はりまのかみ・進藤) → 長詮(ながあき・進藤しんどう、諸大夫/歌人) N 3 2 3 8

- 播磨守(はりまのかみ・丹治)→ 経雄(つねお・丹治たじ、神職/歌人) F 2 9 8 9
- F3683 播磨蔵人(はりまのくらひと) ? - ? 平安期女房/歌人:966(康保3)内裏前裁合参加、
[秋の夜のつねよりあかき月影はのどかに花の色を見よとや]、
(内裏前裁;36/八月十五夜大盤所にて)
- 播磨正(はりまのしょう・人見)→ 綱為(つなため・人見ひとみ、神職) B 2 9 1 3
- 播磨正(はりまのしょう・岩松)→ 益男(ますお・岩松いわまつ、神職/国学) N 4 0 8 5
- 3628 播磨掾(はりまのじょう・井上、初名;市郎兵衛) 1631?-1685?55? 京御所簾職人/大阪浄瑠璃太夫、
1658受領;古浄瑠璃中興/播磨節創出、1658「紅葉狩」刊、
1674「日本王代記」段物「忍四季揃」著
[播磨掾の別称] 天下一井上大和掾藤原貞則/井上播磨少掾藤原要栄あきひさ/播磨太夫
- 播磨少掾(はりまのしょうじょう・井上)→ 播磨掾(はりまのじょう・井上、浄瑠璃太夫) 3 6 2 8
- 播磨少掾(はりまのしょうじょう・二世竹本義太夫)→ 義太夫(2世ぎだゆう・竹本) 1 6 1 9
- 播磨介(はりまのすけ・中村)→ 水竹(すいちく・中村なかむら、篆刻家) E 2 3 8 5
- 播磨介(はりまのすけ・進藤)→ 長詮(ながあき・進藤しんどう、諸大夫/歌人) N 3 2 3 8
- 播磨僧都(はりまのそうず) → 教舜(きょうしゅん;法諱、真言僧/学匠) N 1 6 9 6
- 播磨太夫(はりまのたゆう) → 播磨掾(はりまのじょう・井上、浄瑠璃太夫) 3 6 2 8
- 播磨の道邃(はりまのどうすい)→ 道邃(どうすい;号、天台僧) F 3 1 8 4
- 播磨得業(はりまのとくぎょう)→ 得業(とくぎょう、歌人/連歌) K 3 1 5 9
- 播磨局(はりまのつばね) → 高倉三位(たかくらのさんみ、藤原成子/後白河天皇妃) L 2 6 8 2
- 播磨得業(はりまのとくぎょう)→ 得業(とくぎょう・播磨、歌/連歌人) K 3 1 5 9
- 播磨の聖(はりまのひじり) → 性空(しょうくう;法諱、天台僧/書写上人) S 2 2 0 4
- 播磨法印(はりまのほういん) → 宰承(さいしょう;法諱、天台僧/法印) 2 0 8 6
- 播磨屋(はりまや) → 与信(とものおぶ、穂積ほづみ、材木商/和算) Q 3 1 1 7
- F3684 破笠(はりゅう・小川おがわ、名;宗宇/通称;平助) 1663-174785 江戸の漆芸家:蒔絵象眼に長ず、
俳人:露言門・のち芭蕉門、「芭蕉画像」画、一茶「三韓人」に自画像、栢筵「老の楽」入、
1685風瀑「一楼賦」86「蛙合」87「続虚栗」88不卜「続の原」89「あら野」入、
[五月雨に心おもたし百合の花](続の原;五番右34/晴間なく心なやましい)
[み芳野はいかに秋立つ貝の音](あら野;七/立秋の法螺貝の音;山伏の大峯入は7月7日)、
[破笠(;号)の別号] 夢仲庵/卯観子ぼうかんし/笠翁りゅうおう/一蟬いちぜん
- F3685 坡柳(はりゅう) ? - ? 狂歌;1770橘州「明和15番狂歌合」参/82「狂歌若葉集」9首入
- 馬竜(ばりゅう;俳号) → 飄斎(ひょうさい・平塚/平、幕臣/俳人) F 3 7 2 4
- 破笠居士(はりゅうこじ) → 東歌(とうか・月峯軒、俳人) B 3 1 6 5
- 巴竜舎(はりゅうしゃ) → 鷗沙(おうさ・伊村、俳人/書) 1 4 4 8
- F3686 巴凌(はりょう・垣見かきみ/かけみ、通称;半蔵、別号;幽松庵) ?-1789;50余歳没 下総の俳人:鳥酔門、
茶道を嗜む、二日坊宗雨と奥羽の旅;1763「みち奥日記」編
- F3687 霸陵(はりょう・菅井すがい/修姓;菅、陳勝男) 1747-8438 大阪の儒者:林家門、磐城棚倉藩儒者、
「学記国字口義」/1784「古文孝経国字口義」著
[霸陵(;号)の名/字/通称]名;敬勝、字;吉甫、通称;慎次郎、
- F3688 坡良(はりょう・桃童仙とうどうせん) ?- ? 江中後期俳人:尾張の馬六門、
師馬六7回忌追善:1784「保志農可計」編
- F3689 巴陵(はりょう・藤堂とうどう、名;良鼎、別号;木寿、法号;竜淵院) 1724-9774 伊勢藤堂家の家仕、
絵師/詩文、1795(寛政7)「巴陵詩文集」著、儒者梅花はいかの祖父
- 巴陵(はりょう;号) → 宣明(せんみょう;法諱、真宗大谷派僧) N 2 4 7 4
- 巴陵(はりょう・小林) → 長喬(ながたか・小林こばやし、国学/歌) M 3 2 1 1
- 破了(はりょう;法諱・玄乗)→ 玄乗(げんじょう;道号・破了、曹洞僧) K 1 8 0 4
- 瀨陵(はりょう・飯高) → 尚寛(しょうかん;名・飯高、農漁業/詩人) F 2 2 9 3
- F3690 馬陵(ばりょう・竹川たけがわ) ? - 1768 伊勢飯野郡射和の儒者:高野蘭亭門、詩人、
御用方に出仕、1758「蘭亭先生詩集」編/「馬陵山人煙草記」「宝暦甲申春韓使来聘記録」著、
「馬陵詩稿」「塵塚」著、「日本詩撰」1首入、
[馬陵(;号)の幼名/名/字/通称]幼名;万蔵、名;政辰まさとき、字;子徳、通称;彦兵衛、

法号;樹誉西山居士

- F3691 **馬了**(ばりょう・福田ふくだ) ? - ? 江後期文化1804-18頃羽後秋田の俳人:五明門、
「花の雲」著、
[馬了(;号)の通称/別号]通称;敬左衛門、別号;逸齋
- F3692 **馬両**(ばりょう・三万堂) ? - ? 江後期大阪の俳人;雑俳点者;
文化1804-18頃の代表的折句点者、
1782虎風「場付鼻あぶら」入、97「誹諧あつ氷」編/1815「むすひ艸」編/15「順折句角力集」著
馬陵(ばりょう・荒木) → 忠栄(ちゅうえい・荒木、藩士/馬術家) F 2 8 7 9
- F3693 **馬鱗**(ばりん) ? - ? 但馬出石の俳人;1773「続明烏」1句入;
[桜かげ出いづれば暮のうき世哉](続明烏;161/桜下の宴は極楽;帰宅時は日常の世界)
- F3694 **温**(はる・芝田しばた/西尾にしお、幼名直蔵/字;恭甫) 1792-1853 62 因幡高野村農業/鳥取の芝田家継嗣、
1805掃除坊主/22還俗、儒者;伊良子大洲門、32「性善筆記」36「大洲集」編/「弁四十六士考」著、
[温の通称] 清蔵/清三/荘助
春(はる・一字名) → 前久(さきひさ・近衛/藤原、関白/歌・連歌) 2 0 1 2
春(はる・松村) → 月溪(げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4
春(はる・鈴木/阿春の方) → 武女(たけよ・鈴木すずき、歌人/紀行) E 2 6 3 7
- L3613 **春章**(はるあき・度会わたらい、常行男)?-? 平安鎌倉期;伊勢外宮神職/五禰宜、季生の孫、
雅雄の弟/常春・春高の父、歌人;1233刊[御裳濯集]入、
[さくら咲く山とびこえてかへる雁くもがくれゆく心地こそすれ](御裳濯集;春103)
- F3695 **治秋**(はるあき・豊原とよはら、初名重秋、幸秋男)?-? 室町中期楽人;笙/1456従四下筑後守、
「荒序譜」編、「荒序記録」著、統秋むねあきの父
- J3667 **治明**(はるあき・伊奈いな、) 1830-1906 77 美濃高須の生、養老神社祠官/高須藩に出仕、
歌人;長歌を能くす
- K3600 **玄明**(はるあき・河上かわかみ、小森貞助男/高田) 1834-72 処刑 38 肥後熊本城下新馬借町の生
下級藩士の出身、実母;和歌、小森半左衛門・彦斎の弟、藩士河上源兵衛(彦兵衛)の養子、
1849(16歳)茶坊主として藩主邸花畑屋敷に上る/藩主近習:掃除坊主/国老附坊主、
儒学;轟武兵衛門/国学;林有通(桜園)門、兵法;宮部鼎蔵門、尊皇攘夷思想を主唱、
1861(文久元)頃より活動:蓄髪して僧籍を脱す、1863(文久3)熊本藩親兵選抜;幹部、
剣術;我流の片手抜刀の達人(伯耆流居合?)、長州で三条実美の警護;長州攘夷派と交流、
1964(元治元)池田屋事件で新撰組に殺され宮部鼎蔵の仇討のため上京;
1964三条木屋町で開国論者佐久間象山を衝動的にを斬殺/禁門変に長州側に参加、
第二次長州征伐にも長州側に参戦;戦功、幕末の四大人斬りの1人とされる、
1867(慶応3)熊本に帰藩;投獄/68赦免出獄、
1868新政府成立し長岡護美随い東京に上る;暗殺を恐れ高田源兵衛に改名
維新後も排外主義的攘夷を強固に主張;藩や新政府から危険視され1869鶴崎に左遷、
当地に「有終館」設立;兵法・学問を教育;藩より免職、各種事件関与の疑惑で捕縛;
1872江戸に送られ斬首、
[玄明(;名)の通称/号]通称;彦次郎(・小森)/源兵衛(・高田)、号;彦斎(・河上)
法名;応観法性居士
玄昱(はるあき・中村) → 直眩(なおあき・中村なかむら/山梨、医者/歌) O 3 2 1 0
治章(はるあき・林/永田) → 知章(ともあき・永田/林、藩士/郷土史) P 3 1 0 9
- F3696 **治察**(はるあき・田安たやす、宗武5男/本姓;源・家名;松平・徳川) 1753-74 早世 22 母;近衛家久女、
1764元服、1765従三位/71(19歳)父没のため家督継嗣、国学者;荷田在満/賀茂眞淵門、
没後;1783贈参議、「泣血集話」「克一堂叢書」「軍器摘要抄草案」「克一堂遺稿」著、
[治察(;名)の幼名/法号]幼名;寿麻呂/寿丸、法号;高尚院
- 3629 **春明**(はるあき・生川なるかわ、春智男) 1804-90 87 伊勢津岩田町の薬種商、俳諧;前川春楼門、
歌;樋口喜樹・足代弘訓門/国学・語法;本居春庭門、独学でオランダ語習得、京・江戸遊歴、
1842(天保13)家督継嗣/55家督を子に譲渡;出家隠居、62写真術;小島新蔵門、
風俗考証/俳人系譜/語法研究に従事、歌を嗜む、佐々木弘綱と交流、
国学;1864「詞の二道」、「活語二葉草」、俳;1829「翁発句助辞一覧」38「誹家大系図」編、

- 1859歌学「軛のひひき」、「俳諧古物語」、風俗:「近世女風俗考」「男風俗考」著、
 1860「日本文典訳語引証和蘭活詞考」、「伊勢のあみ笠」「金次第地獄後談」「奇跡職人考」著、
 「写真薬劑聞取書」「開化日用文章論」、歌集「磯の屋集」著/外編著多数、
 [春明(;)名)の通称/号]通称;茂五郎/熊五郎/三郎助/武助、屋号;浜田屋、
 号;好問亭/磯の屋/正香まさか/黄中/鳴川/石田生/石田の里人、法号;看四方黄中正香居士
- 春暉(はるあきら・宮川) → 南谿(なんけい・橘、医者/詩歌人) 3 2 3 2
 晴陽(はるあきら・石野/佐々木) → 一陽(かずあき・佐々木あさき、幕臣/歌) M 1 5 0 3
 春明(はるあけ・暦) → 暦春明(こよみのはるあけ、狂歌) P 1 9 3 3
- F3697 **春篤**(はるあつ・柴田しばた) ? - ? 幕末期尾張愛知郡の兵学者、
 1865「孫子通解」「孫子通俗辨」著
- J3673 **玄章**(はるあや・今西いまにし) 1714-1754⁴¹ 撰津豊島郡の国学者;賀茂真淵門、
 麻田藩主青木家の師範、1736(元文元)「豊島郡誌」著
- K3652 **晴屋**(はるいえ・南部なんぶ、通称;彦八郎)?-1769 陸奥盛岡藩主南部利雄(1724-79)の江戸家老、
 国学・歌;陸奥の三輪家入門
- F3698 **春一**(はるいち・はるかぜ・片桐かたぎり、家老片桐源一男) 1818-66⁴⁹ 母;桃沢匡安[夢宅の孫]女りの、
 信州伊那郡の山吹藩士、陣屋座光寺家の家老、貞彬さだあきの兄、越後流軍学;51宮田登門、
 帰藩;藩士による鉄砲隊を組織、国学;1857平田鉄胤門;伊那平田学派として活躍、
 国学四大人を祀る本学霊社(本学神社)創建を主唱、栄久の父、
 「病の褥のちりつか」「天下泰平記録」「座光寺家留記」「五義論」著、
 [春一(;)名)の幼名別名/通称/号]幼名;矢助/禎蔵、別名;淳一/為春/為淳、
 通称;矢助/貞蔵/春一郎、号;閑斎/春廼屋/芝垣/巨洞、神号;条山道開別建男命
- 玄上(はるうら・藤原) → 玄上(はるかみ・藤原、廷臣/歌人) G 3 6 2 2
- K3689 **春枝**(はるえ・村松むらまつ、通称;甚兵衛) 1760-1806⁴⁷ 代々駿河府中宮ヶ崎町の葉茶屋、
 眞船まふねの伯父(弟豊章の男)、甥眞船病弱で経営する葉茶屋を春枝が継嗣(屋号;茶屋)、
 国学者・歌人;栗田土満ひしまる・本居宣長門、歌;花野井有年編[蔵山和歌集]入
- K3650 **春江**(はるえ・長沢ながさわ/外村、長沢元緒もとお2男) 1805-27^{早世} 23 上野前橋の歌人/国学者、
 国学・歌;星野貞暉・橘守部門、のち近江神崎郡に住、
 [春江(;)名)の通称] 卯蔵
- F3699 **春枝**(はるえ・東条とうじょう、通称;八大夫/八太郎)?-? 江後期幕臣;1864長崎奉行支配吟味役、
 1865御目見以上、1861(文久元)「清々日記」著、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [まきおろす芥子の種さへよむばかり影さやかなる望もちの夜の月](大江戸倭歌;秋842)
- K3641 **春江**(はるえ・武田たけだ、通称;貞助) 1836-96⁶¹ 筑後山本郡の国学者
 春江(はるえ/しゅんこう・朝見) → 安臣(やすおみ・朝見あさみ、神職/国学) F 4 5 1 6
 春江(はるえ・魚住) → こま(・魚住うおずみ、歌人/看護婦) Q 1 9 3 6
 春枝(春兄はるえ・平瀬) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1
- G3600 **春雄**(はるお・小野おの) ? - ? 架空の人物?:光俊の仮名か?、
 1250「秋風抄」撰(;)反御子左派の撰集)
 参考 → 光俊(みつとし・葉室、真観、「秋風集」撰) 4 1 2 6
- G3601 **春雄**(はるお・大中臣おおなかとみ)?- ? 春日社若宮の常住禰宜;春日社造営替に尽力、
 1387「永徳二年春日焼失記」/1400-01「率川御社御遷宮日記」/07「春日社造替日記」著
- L3602 **春雄**(はるお・源みなもと、) ? - ? 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]6首入、
 [山里のしるべいかにと人とはば峰のしら雲軒のまつ風](麓の塵;雑592)
- G3602 **東雄**(はるお・あずまお・福嶋ふくしま) 1734-1803⁷⁰ 武蔵足立郡大間村の名主(福嶋家4代)、
 旗本林家領の武蔵北部各郡の知行所の管理、名主として治水・農事改良・産業開発に尽力、
 1791(寛政3)埼玉郡・足立郡の惣代;米相場や農村物価不均衡是正を勘定奉行に訴状、
 俳諧;横田柳几門;俳号・杉夕、「農夫園句集」著、国学;1764賀茂真淵門、
 郷土史家、家督を息子に譲渡;武蔵国内巡り寛政1789-1801頃地誌「武蔵志」編(14冊著;
 途中で没;養嗣子貞雄が補填3巻著刊行)、
 [東雄(;)名)の別名/字/通称/号]初名;兼当、字;農夫、通称;幸作/吉弥/幸八、
 俳号;杉夕さんせき/農夫園杉夕

- G3603 **春雄**(はるお・河村かむら) ? - ? 江後期伊勢度会郡山田の国学者:富樫広蔭門、古森家の家臣、1850(嘉永3)「愛洲氏族考」著、妻の美津女は歌人、
[春雄(;)名)の通称/号]通称;新三郎/新左衛門、号;宇米園
妻 → 美津(美都みつ・河村光子、歌人/書家) C 4 1 9 5
- K3644 **春緒**(はるお・玉中たまなか、通称;玄良/玄竜) 1794-? 備前上道郡の医者、国学;平田篤胤門
- G3604 **春男**(はるお・梅園うめぞの) 1818- 1891 74 下野川内郡二荒山神社祠官/権少教正、1859私塾を開設/国学者、福田義豊(八郎右衛門)の師、1864「形状言五種活用図」、「日光二荒山鎮座本紀」著
- G3605 **春夫**(はるお・佐々木ささき、別名;美綱よしな/義典) 1818-88 71 代々大阪玉造の豪商;幼時に家督継承、国学/歌;小林歌城門・紀州加納諸平門/紀州和歌山藩国学所助教/教授総裁、万葉集研究、学者・志士を援助、大塩中斎・伴林光平と親交、天誅組に資金提供/1838猫間川浚業・運河開鑿、歌/書/画、「万葉集類葉新抄」「万葉集草本攷」著、1845「詞捷徑」校訂、
[春夫(;)通称)の幼名/字/別通称/号]幼名;松太郎/檜太郎、字;子魁しゅ、別通称;小兵衛/太郎/松太郎/源三/小左衛門/小弥太、屋号;万屋
号;菅の舎/槐園/鶴室/梅垣内/三魚/東江/緞山さんざん/浜木綿園/名越岡隠士/雨奇晴好楼、
- G3606 **春雄**(はるお・松村まつむら、通称;礼蔵) ?-? 江後期武蔵足立郡上谷の国学者、平田鍊胤門の神職稻垣琴成と交流、1841(天保12)「神語考」著
- G3607 **春雄**(はるお・西村にしむら、別号;松軒) ?-? 江後期播磨の医者、1851(嘉永4)「牛痘解蔽」著
- K3601 **春雄**(はるお・隈川くまかわ、本姓;山口) 1791-1869 79 播磨赤穂郡上郡村の歌人;長治祐義門、のち隈川に改姓/京住;賀茂季鷹門;季鷹の養子;弟春蔭と共に歌の研鑽を積む、春蔭の遺稿「志古草」編・刊行、
[春雄(;)名)の通称/号]通称;弾正、号;秋香舎/柿廼屋
- J3697 **春雄**(はるお・唐木からき、) 1796- 1977 82 信濃埴科郡屋代村の商家、国学者/歌人;兄唐木埴麿はまろの門、善武よしたけの父、「愚詠書留集」「鷹夢館唐木春雄愚詠集」(翠柳亭詠草)著、
[春雄(;)名)の字/通称/号]字;長興、通称;銀三郎/大蔵、号;翠柳亭/鷹夢館
- K3639 **春雄**(はるお・本田ほんだ、) ? - 1879 肥前佐賀の生/陸奥遠田郡の和学者、歌俳人、陸奥の小山孝七・太田有富(1823-1907)・高橋保万らの師、
[春雄(;)名)の通称/号]通称;鈴木惣内/氏家久蔵、号;空蟬坊
- K3673 **春雄**(はるお・福本ふくもと、本姓;秦) 1805-76 72 伊勢度会郡の国学者;足代弘訓門、
[春雄(;)名)の通称]通称;量平
- K3608 **張雄**(はるお・北原きたはら、) 1820-1881 62 阿波徳島の生、信濃飯田藩士、国学者/歌人
- K3680 **晴雄**(はるお・昌木まさき、神職杉山友継2男) 1820-64 処刑 45 下野結城郡の医者;鈴木千里門、下野佐野で開業医、国学;平田篤胤門、1864(元治元)天狗党に参加;捕縛;水戸で処刑、
[晴雄(;)名)の通称]頼母/宗仙
- K3606 **春雄**(はるお・木村きむら、) 1828- 1903 76 京の仏画師、歌;竹内享寿門、
[春雄(;)名)の通称/号]通称;源之助/文邦、号;都文園
- 春雄(はるお・森) → 約之(のりゆき・森、医者/本草学) G 3 5 1 5
春雄(はるお・大石礙) → 眞素美(ますみ・大石礙おおいごり/望月/大伴、国学) O 4 0 2 6
晴雄(はるお→はれたけ・土御門) → 晴雄(はれたけ・土御門、陰陽家) H 3 6 0 8
治雄(はるお・富沢) → 黄良(こうりょう・富沢とみさわ、産科医) L 1 9 5 9
はる雄(はるお・広田) → 精知(せいち・広田ひろた、商家/俳人) J 2 4 2 0
- L3611 **春王**(はるおう・転経院) ? - ? 鎌倉期;興福寺転経院てんきやういんの童/歌人、1237刊[檜葉集]入、
[かれがれになりける人のゆかりに、
さりとても人をうらむと語るなよわが身のうさを歎くばかりぞ](檜葉;雑童731)
- K3655 **春岳**(はるおか・野田のだ/旧姓;山部、) ?-1865 肥後阿蘇の郷土、国学・歌;中島広足門、
[春岳(;)名)の通称]一郎右衛門/松左衛門
- J3695 **春岡**(はるおか・鎌垣かまがき/本姓;大伴、旧姓;児玉) 1833-1909 77 紀伊和歌山の国学者/歌人、国学;本居内遠門/歌;加納諸平門、有職故実;滋野井家入門、勸修寺家入門、

紀伊藩国学所出仕/のち須佐神社祠官、
[春岡(；名)の通称/号]通称；章三郎、号；桜園/雀庵/高千穂

- G3608 **治興**(はるおき・徳川とくがわ、尾張藩主宗睦むねちか2男/本姓；源・家名；松平) 1756-76早世 21
母；近衛家久女、1773兄治休が没；嫡子となる/従三位/左近中将、襲封しないまま没、
「東閣和歌集」著、
[治興(；名)の幼名/初名/字/通称]幼名；慶之助、初名；睦篤、字；叔邦、通称；兵部大輔、
諡号；昭世子、法号；天祐院
- J3647 **春興**(はるおき・太田おた、通称；喜三平) ?-? 江後期；歌人、幕臣？、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[初瀬山吹くともわかぬ春風に霞の奥の梅が香ぞする](大江戸倭歌；春137/霞中梅)
- J3681 **春発**(はるおき・小野おの、) 1825- 1891 67 備中浅口郡船穂村神職；船穂神社祠官、
国学・歌人；鈴木重胤門、維新後；備中の神道事務分局副長/羽黒神社祠官兼神職取締、
吉備津神社禰宜
- K3654 **春臣**(はるおみ・能勢のせ/本姓；源、) 1808-62 55 京の礎工(磨きを業とす)；代々象牙磨き、
歌人；城戸千橋ちて門；長歌に長ず、
[春臣(；名)の通称/号]通称；角右衛門、号；淇園きえん/竹屋
- J3649 **治臣**(はるおみ・久保田くぼた、通称；言罕げんかん) 1828-64 切腹 37 筑後久留米の真木和泉の生、
筑後三池郡江浦えのうら村で医者；福岡藩医平野国臣門、尊攘運動家；
1864(元治元)長州藩兵に随い禁門変に参加；敗退し周防中関なかのせきで切腹
春臣(はるおみ・中島) → 広足(ひろたり・中島/越智、藩士/国学者) 3 7 2 1
春垣津(はるがいつ・長坂) → 知雄(ともお・長坂ながさか、国学者) U 3 1 8 0
- L3615 **晴陰**(はるかげ・佐藤さとう、通称；庄蔵) ?-? 江中期；幕臣；御先手与力、歌人；冷泉家門、
石野広通[霞関集]目録入
- K3674 **春蔭**(はるかげ・藤井ふじい、) ? - 1823 信濃善光寺の旅館業、
国学・歌；荒木田久老ひさおゆ(1746-1804)門、
[春蔭(；名)の通称/号]通称；平五郎、号；環翠/雪頂
- G3609 **春蔭**(はるかげ・鈴木すずき/本姓；穂積) 1786-1847 62 尾張名古屋藩士、国学・歌；本居春庭・大平門、
1814(文化11)町奉行所吟味役/のち錦織役所御金奉行、植松有信・茂岳父子と交流、
1819「槻の落葉名古屋餞別篇」著、市岡猛彦の弟、本居大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[秋さればなびく薄のほのかにもあひ見ぬ子等に恋ひつつもとな](八十浦；855恋)、
[春蔭(；名)の通称/号]通称；多門治/多門治、号；椰園やしどの、法号凌雲院
- G3610 **春蔭**(はるかげ・隈川くまがわ/初姓；山口/一時；垣本) 1801-37 37 播磨赤穂郡の人；一時垣本雪臣の養子、
のち兄隅川春雄の姓；隈川に復姓、歌人；長治祐義・賀茂季鷹門、
兄春雄と和歌の研鑽に山陽道の各地を旅行；長崎で罹病客死、
「志古草」著(のち兄が遺稿を集め編刊)、
[春蔭(；名)の通称/号]通称；八郎、号；駒山/隈川漁者
- K3625 **春景**(はるかげ・島崎しまざき、) 1803-1874 72 近江蒲生郡の歌人；小沢蘆庵・香川景樹門、
医者の浜崎景斎(蘆庵門歌人)門、国学者、坂田茂富・矢野御蔭の師、
[春景(；名)の別名/通称号]別名；美景、通称；松之丞/伴治/善助
- K3630 **春蔭**(はるかげ・菅原すがら、号；茅の屋) 1815-87 73 陸奥栗原郡金成村の郷社祠官、国学者/歌人、
歌；佐沢広胖編[仙台風雅集]入
- J3661 **麗景**(はるかげ・五十嵐いがらし、) 1836-1923 88 越後小千谷の国学者/地誌、
1890「魚沼神社伝記」共著(山岸栄樹と)
春蔭(はるかげ・西村/柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1
春蔭(はるかげ・佐々木) → 惣四郎(そうしろう・3世銭屋、書肆/国学) K 2 5 9 5
春蔭(はるかげ・平瀬) → 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、国学/歌/実業) K 3 6 7 1
- G3611 **玄和**(はるかぜ・山下やました、政治家男) 1657-1738 82 父は遠江豊田郡中泉の代官松下清兵衛に出仕、
1677(延宝5)父没；家督嗣、医術；横須賀藩典医香取自庵門、豊田郡で開業；皆から名医の称、
郷土史「古老物語」「百姓論」著、遺稿「熙庵左右筆記」、1738(元文3)没、
家督は3女政子の婿の壽軒(木村玄竹法橋祐真2男)、

- [玄和(；名)の字/通称/号]字；立節、通称；宗一郎、号；熙庵きあん、
- J3662 **玄会**(はるかぜ・井上いづえ、)1729-1769**41** 大和吉野郡の国学者/大坂住、
[玄会(；名)の字/通称]字；子嘉/忠英、通称；権兵衛
春一(はるかぜ・片桐) → 春一(はるいち・片桐かたぎり、国学者/軍学) F 3 6 9 8
- G3612 **春風**(はるかぜ・小野おの、石雄男)?-? 平安前期851-901頃廷臣/854右少尉/878鎮守府將軍、
武勇；878出羽反乱鎮定に活躍/891讃岐権守/898正五位下、歌人；古今653/963、
[花すゝき穂にいでて恋ひば名を惜しみ下結したゆふ紐のむすぼゝれつゝ](古今；恋653)
- J3620 **春風**(はるかぜ；組連) ? - ? 武蔵柳原の雑俳の組連/取次；1747「湖丸評万句合」入、
取次例；[女房のお百にまける九十郎くじらう](万句合/前句；おろかなり々々)、
(百文の妻に九十文の夫；常に尻に敷かれた亭主)、
(当時百文のつなぎ銭は九十六文で通用したが九十文では繋ぎにもならない)
春風(はるかぜ・高杉) → 晋作(しんさく・高杉、儒者/奇兵隊) E 2 2 3 1
- G3613 **治方**(はるかた・はるまさ・藤原ふじわら、経邦男)?-? 936**存** 平安前期廷臣；少納言/大蔵大輔、
上総・遠江・摂津守、右京大夫も勤めたか？、兼輔/忠房/公平女らと交流、歌；後撰669、
[世の常のねをし泣かねば逢ふことの涙の色も異ことにぞありける](後撰；恋669、
逢ふことの無みと涙を掛る/忍び泣くので普通の血の涙よりもっと濃い)
- G3614 **春方**(はるかた・森脇もりき、通称；市郎右衛門、入道号；玄角、祐秀男)1533-1621 安藝の武将；
吉川元春の家臣、飛騨守、1618「元就記(森脇覚書)」(1549-72の記録)
- L3604 **治賢**(はるかた・姓不詳、) ? - ? 江前期；歌人、
1670下河辺長流[林葉累塵集]30余首集、下河辺家の人か、
[三十一になれる年、
和歌浦もしらぬものゆゑことのはのもじのかずさへおのが年なみ](林葉累塵；1256)
[いざけふは我も野に出でて老いらくの昔こひしきわかな摘みてん](同集；春23)
- G3615 **治堅**(はるかた・山田やまだ、別名；頤堅、通称；健助、大堅男or弟)?-1830 越後柏崎の商家(名家)、
儒・詩；今井鏡洲門、狂歌；鹿都部真顔門、「白川紀行」著
- G3616 **治堅**(はるかた・臼井うすい/初姓；森もり)1809-53**45** 鳥取の人、近江の郷士臼井重信の養子、
鳥取藩徒士の森善栄の弟、医者；藩医大島恭仙門、儒/歌；城戸千楯/衣川長秋/飯田秀雄門、
1847(弘化4)鳥取藩より無足医師に招聘/53藩校尚徳館に出仕、
[昼寝の枕]著、「臼井治堅遺稿(銀杏の落葉)」、
[治堅(；名)の別名/通称/号]別名；修仙、通称；源蔵/源三、号；銀杏の株/銀杏の下
- J3688 **霽堅**(はるかた・加屋かや、熊助長男)1836-76**戦死 41** 肥後熊本藩士、1851(嘉永4)事件で父が自刃、
家断絶の危機を免れる/国学・神道；林有通(桜園)の原動館入門、肥後勤王党に属す、
1862藩命で御所警備；63(文久3)政変；御所警備隊解散/65帰郷；投獄/1867赦免、
1871(明治4)二卿事件に連座；投獄/74錦山神社祠官、神風連副首領/敬神党代表、
1876廢刀令に反発し敬神党太田黒伴雄と共に神風連の乱を起す；戦死、贈正五位、
[霽堅(；名)の別名/字/通称]別名；楯列、字；楯行、通称；栄太
- J3678 **春堅**(はるかた・梅木うめき、初名；嘉悦/通称；主殿とのも)1837-1905**69** 大和奈良の神職；春日神社神官、
1875広田神社主典兼権訓導
玄堅(はるかた・田中) → 玄宰(はるなか・田中、藩家老/儒/歌) G 3 6 6 2
春方(はるかた・山崎) → 堅丸(かたまる・地形堂ちがたどり、幕臣/狂歌) N 1 5 0 9
- 3630 **春勝**(はるかた・林はやし、羅山3男)1618-80**63** 母；荒川宗意女、京の儒者；那波活所門、
和学；松永貞徳門、1633江戸に出て將軍家光に拝謁/幕府儒官；1638父羅山の勤方見習；
評定書出仕/1645法眼/57(明暦3)父没；遺跡9百石相続/1861治部卿法印/63弘文院学士、
1664忍岡に国史館開設；1664-70「本朝通鑑」編纂；310巻完成献上、1680隠居、「論語諺解」、
1643(寛永20)「日本国事跡考」(；陸奥松島・丹後天橋立・安藝嚴島の奇観；日本三景の由来、
2006[平成16]に鷺峰(春勝)誕生日に因み7月21日を日本三景の日と制定)著、
「孟子諺解」「鷺峰林学士全集」「国史考」「本朝一人一首」「日本書籍考」「本朝管春録」、
「林春齋自叙譜略」「羅山鷺峰文集」「晚林夕陽集」「玉露叢」、「羅山先生集」外著多数、
[春勝(；名)の幼名/別名/字/通称/号]幼名；吉松、別名；恕、字；子和/之道、通称；又三郎、
号；鷺峰/桜峰/向陽軒/葵軒/竹牖ちくゆう/南窓/爬背子/晞顔斎/也魯斎/格物菴/

温故知新齋/頭雪眼月菴/碩果/傍花随柳堂/恒宇/辛夷塢/仲林、剃髮号;春齋、
諡号;文穆先生、 読耕齋の兄、梅洞(いどう)/鳳岡(ほうこう)の父

- G3617 **治勝**(はるかつ・中原(なかはら)、初名;治継、治卿男/家名;勢多) 1625-79⁵⁵ 明法家、兄治直の養嗣子、
廷臣;1647従五下・左衛門大尉/52豊前守/70大判事/75(延宝3)明法博士/79正四上;没、
1669「朔旦冬至表奏并平座次第」著
- G3618 **晴勝**(はるかつ・佐久目(さくめ)/本姓;度会、晨輔男) 1627-1701⁷⁵ 江前期;伊勢外宮神職;正四位下、
1678-82(延宝6-天和2)「佐久目晴勝日次記」著、
[晴勝(;)名)の通称] 李之助/五郎左衛門
- G3619 **晴勝**(はるかつ・大館(おおだち)/幼名;只六/昌和、晴述6男) 1824-71⁴⁸ 日向都城の島津家家臣、
代々連歌師、儒;藩校明道館に修学、国学;新納時昇門、1842(天保13)上京;
国学;千種有功門/歌;香川景樹門、歌;松園坊清根/穂井田忠友門/連歌;里村昌同門、
1844(弘化元)帰郷;物頭役/1862藩校明道館学頭、63誠忠派幽囚の難に遭う、65学頭再任、
1868(明治元)老職に昇進/戊辰戦争には在郷し領主・島津久本を補佐、鹿児島藩民事奉行、
「苦の雫」「都島集」「小門之汐干」著、
[晴勝(;)名)の通称/号]通称;四郎、号;添山/桐園、
- 3631 **春門**(はるかど・村田(むらた)/初姓;宮崎、一柳) 1765-1836⁷² 伊勢奄芸郡白子の生/村田橋彦の養子、
国学者;1784本居宣長門、1793江戸住;旗本小笠原家に出仕/1813大阪移住;古典/歌を教授、
大坂城代水野忠邦(浜松藩主)に招聘;古学の師/29西丸老中の忠邦に随い江戸住;江戸没、
家集「小竹集」「蟹守家集」、「古今集私抄」、1816「牽牛花あさがお百首」、22-36「楽前日記」著、
1834鉄胤「毀誉相半書」に論評、「田鶴廼舎随筆」「田鶴廼舎日次記」「多豆の毛衣」著、
「源氏物語私抄」「歌文枢要」「名所新松葉集」著、「ももちとり」「余寒月」編、外編著多数、
嘉言よじと/春野(はるの)の父、本居大平「八十浦の玉」中巻;7首入、
[春門(;)名)の別名/字/通称/号] 別名;文哉/列樹(つらき)/並樹、字;玄仲、
通称;政之助/蔵之進/次郎九郎/九二兵衛/次九兵衛/貢/御調/七郎左衛門、
号;燕庵/郁子園/蟹守/田楽舎、田鶴廼舎/田鶴舎/多豆能屋/多豆舎、楽前/稻園舎/萩の舎
- G3620 **春門**(はるかど・三村(むら) 1801?-1877?^{77?} 伊勢津の万町の名主/文雅を好む;歌・俳・画、
狂歌;神風連を主導、1866(慶応元)65歳の賀を催、
1837「伊勢山田古市細見」51「無為都土産」画、「五十瀬作楽」画/「華表五十瀬曆」著、
[春門(;)名)の通称/号]通称;六右衛門、
号;五十瀬の屋春門/馬角齋/馬声齋/津葉丸(しんようまる)/桜川
玄門(はるかど・山下/福沢)→ 玄門(げんもん・山下/福沢、修験/医/俳)M1852
- L3600 **玄包**(はるかね・渡辺(わたなべ)、 1833-1905⁷³ 周防都濃郡坂根の生/代々都濃富田の山崎八幡宮祠官、
神道・国学;黒神直民門、漢学;亀井昭陽・広瀬淡窓門/京で国典;大国隆正門、
徳山藩士/国学;平田鉄胤門、山崎八幡宮祠官を継嗣、尊王攘夷派、
維新後;東京の神祇官出仕、牧野秀太郎著「渡邊玄包小伝」あり
[玄包(;)名)の字/通称/号]字;常品、通称;篙人/新三郎、号;菅処
- G3621 **春上**(はるかみ・三原(みはら)、弟平男/姓(か)はね;朝臣) 774-845⁷² 平安前期廷臣;817蔵人/828参議/右大弁、
式部大輔/治部卿/正四下/839伊勢守、詩・815嵯峨天皇梵釈寺行幸従駕;「賦詩」、経国集入
- G3622 **玄上**(はるかみ/はるうら・藤原(ふじわら)、諸葛男) 856-933⁷⁸ 母;百濟王勝義女、廷臣;右中將、
919(延喜19)参議;刑部卿、906(延喜6)日本紀竟宴和歌詠進、932従二位、
琵琶の名手;名器[玄上]を醍醐天皇に献上?、藤原兼輔と交流、歌;続後撰51、
[君がためわがをる宿の梅の花色にぞいつるふかき心は](続後撰;一春51、
紅梅を折りて中納言兼輔に遣はず歌)
- G3623 **玄上女**(はるかみのむすめ・藤原(ふじわら) ?-? 醍醐天皇の東宮保明親王家の女房/親王に寵愛、
922親王(21歳)没後に嘆く歌;後撰集3首;1406/1408/1420、
[あらたまの年越え来くらし常もなき初鶯の音にぞなかるる](後撰;哀傷1406、
親王没後の翌春;醍醐天皇皇后穩子の女房大輔(たいふ)に贈る歌;返歌1407)
- G3624 **春樹**(はるき・宮地(みやぢ)、静軒(しずけん)2男) 1728-85⁵⁸ 土佐藩士/儒者;父門;禄130石、
上京し国学;萩原宗固門/儒;西依成齋門/1760藩校教授館創設に当り教授(儒)、
1761山奉行;20石加増/藩政にも参与、1782本居宣長門、「万葉集私考」「万葉考正」著、

[春樹(；名)の別名/通称/号]別名；直弘/介明、通称；三八/平次郎/嘉藤次/藤三郎/喜八郎、号；為齋、仲枝[水溪]の父

- G3627 **春城**(はるき・千賀ちが、通称；淵蔵)？-？ 江中期故実家/伊勢貞丈と交流、1761貞丈「軍用記」補記、「貞丈雑記」補校
- J3694 **春樹**(はるき・波多野はたの、旧姓；黒山)1768-1826⁵⁹ 筑前鞍手郡の国学者/神職、筑前遠賀郡山鹿村狩尾神社の波多野庸成つねりの養嗣子；総社狩尾かお神社祠官、春郷はるさと・金井亀代の父、
[春樹(；名)の通称/号]通称；登/駿河守、号；松濤館
- G3625 **春樹**(はるき・森もり、字；士碧、伊左衛門[五石]男)1771-1834⁶⁴ 豊後日田隈町商家；1803家督、1818隠居、俳諧/歌；荒木田久老門/画；清人の南田門、詩；広瀬淡窓・旭荘門、1832河童奇談随筆「蓬生ほうしゅう談」著、「亀山鈔」「里諺鈔」「日田郡志」「日田造領記」著、「両豊国句集」編、
[春樹(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；善次郎、字；士碧、通称；平九郎/雅助/伊左衛門/仁作、号；蓼州りょうしゅう/仁里、屋号；鍋屋
- K3604 **春樹**(はるき・桜井さくらい、道考みちか男)1792-1864⁷³ 信濃伊那郡飯田の近藤家の伊那代官、歌人；桜井知栄(曾祖母)門、歌；桃沢夢宅・香川景樹門、のち江戸住、
[春樹(；名)の別名/通称/号]別名；在道/道長/景村、通称；鹿之介/彦輔/比古介、号；葱窓そうそう/竹潤
[桜井家] 伊那郡山本村の旗本近藤家の伊那代官
要道としみち一 知栄尼ちえいに一 要親としちか
||一 道考みちか一 春樹
里勢りせ
- J3650 **春樹**(はるき・今井いまい) ？- ？ 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[見し夢の覚めてかなしきあかつきに鳴きつつ渡る初雁の声](大江戸倭歌；秋921/初雁)
- J3674 **春樹**(はるき・岩間いわま、通称；蔵六)1808-80⁷³ 美濃岐阜の医者/国学者/歌人、片桐春好の師
- K3637 **春樹**(はるき・高杉たかすぎ、)1814-1891⁷⁸ 長門萩藩士；直目付/手元役、高杉晋作の父、歌人、
[春ごとに花にうたひし面影を偲ぶにあまる鶯のこゑ]([萩の歌人]入)
[春樹(；名)の通称]丹治/小左衛門/小忠太
- J3664 **春樹**(はるき・服部はつとり、号；倭文舎しげのや)1824-95⁷² 近江大津の生、円満院宮院家仏地院候人(侍講)、歌；香川景樹・村居真師まこと門、1880「笹並集」編、生駒秀一・三上明声の師
- G3626 **春樹**(はるき・坂本さかもと、通称；卯太郎/専次郎)1828-97⁷⁰ 土佐藩士/1859藩命で江戸に赴く；中浜万次郎門；船舶の操縦法・軍艦の運用術を修学、洋式船頭として活躍、歌人；中城直守・津田直入・井上文雄門、加藤千浪・横山由清と交流、直守「あまのさへつり」編、家集「古井の蛙」著、「鼎足集」入
- G3628 **春樹**(はるき・山本やまもと、通称；塩屋長兵衛)？-？ 江後期大阪心齋橋筋で書肆を営む、屋号；泰文堂/輻湊堂ふくそうどう、1834刊「和歌類題浪花集」編
- K3651 **春城**(はるき・鍋島なべしま/本姓；藤原、直与なおとも[1798-1864]3男)？1835以後-？⁴⁸ 肥前蓮池藩主の家、直紀なおただ(1826-91)の弟、和漢学/詩歌人、
[春城(；名)の通称/号]通称；三郎、号；梅痴
- K3697 **春樹**(はるき・吉村よむら、千春2男)1842-1920⁷⁹ 筑前福岡藩士、千秋の弟、初め医学を志す；医；井上鉄英・坂巻道慶門、のち江戸和学所に入学/国学；矢野玄道門/歌；加藤千浪門、帰郷後；国学・神道；宮永保親門、福岡藩で皇学を講ず、1868頃藩命で上京/巡察使・藩典史神祇官、のち伊勢度会郡の神宮奉齋会本部長、権大教正、「祝詞草稿」著、
[春樹(；通称)の名/別通称/号]名；武雄、別通称；泉次郎、号；五生/春翁/後桜園
- L3601 **春樹**(はるき・渡辺わたなべ、初名；真直/号；柿葉の舎)1849-1926⁷⁸ 豊後岡藩の皇学館教授、神道・国学；小畑宗隆・渡辺重春門・平田篤胤没後門
春樹(はるき・小西/柳原)→ 紫峰(しほう/柳原/小西/柳、国学者) V 2 1 6 9
春樹(はるき・能仁) → 溪潭(けいたん；法諱、真宗僧/国学/歌) N 1 8 7 1

- 春樹(はるき・早雲) → 高廉(たかかど・早雲はやくも、神職/国学) Z 2 6 0 4
 春木屋重象(はるきやしげかた) → 重象(しげかた・春木屋、歌人) Q 2 1 7 9
- G3629 春清(はるきよ・井上いのうえ) ? - 1655 江前期江戸の生/京で医者をやとす、
 俳諧:立圃[1595-1669]門、貞室・季吟に親炙、
 「俳諧鹿驚集」「千石」著、1656貞室「玉海集」入/72元隣「諸国独吟集」入、
 1676西鶴「古今俳諧手鑑」入、
 [花ならで草に火ともす螢哉](手鑑)
 [春清(;号)の通称/別号/変名]通称;次左衛門、別号;昌雲軒、変名;井坂治郎左衛門
- I3693 春清(はるきよ・福島ふくしま) ? - ? 撰津住人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」1首入、
 [児桜こざくらや立ちて見居て見寝て見てもなほ愛らしき花のかほばせ](夷曲集;53)
- G3630 晴潔(はるきよ・大畑おおはた、通称;善治郎/政吉/織居)?-? 江後期弘化文久1844-64頃紀州和歌山藩士、
 国学者:本居内遠門、「兵器歌集」、1861(文久元)「紀伊国式内神社考」著
- K3634 春清(はるきよ・田端たばた、年蔭男)1830-190778 紀伊日高郡の大庄屋;父継嗣、
 国学;父年蔭門・瀬見善水よしみ・本居豊穎とよかい門、
 [春清(;名)の通称]喜三兵衛(父の称)
- 春楠(はるくす・山本) → 晟忠(あきただ・山本やまもと/藤原、神職/国学) I 1 0 7 3
- G3631 治邦(はるくに・竹野たけの)1770 - ? 尾張名古屋の医者/土御門家の門/天文家、
 「己丑晴雨考」「庚寅晴雨考」「壬辰晴雨考」「清潜庵詩集」著、
 [治邦(;名)の字/号]字;伯民、号;尺水堂/清潜庵
- G3632 春国(はるくに・大畑おおはた、通称;金斎)1818-7558 紀州和歌山藩士/日高郡志賀の医者大原円治の孫、
 初め医を修学、国学:大国隆正門、亀卜を研究、江戸住/維新後;宣教権少博士/大学少助教、
 浅草神社祠官、1865「瑞兔奇談」66「言語集覧」67「古語集覧」、「なるかの記」「卜史」著、
 「類聚太古伝」外著多数、弘国の父
- K3626 晴国(はるくに・清水しみず、)1825-187147 日向都城の島津藩士、国学/歌人;八田知紀門、
 [晴国(;名)の初名/通称]初名;晴敏、通称;熊太郎/武兵衛/長右衛門/彦左衛門
- K3635 温子(はるこ・伊達だて、徳川宗直2女)1717-1745早世29 徳川吉宗の養女、歌人、
 陸奥仙台藩主伊達宗村(1718-56)の正室、
 長女の霊松院源姫(惇子/1739-61/佐賀藩主鍋島重茂室)の実母、
 [温子(;名)の別名/諡]別名;峰姫/利根姫、諡;雲松院
- G3633 春子(はるこ・四辻よづ/本姓;藤原)?-1504 高倉家出身、権大納言四辻季保の養女、季春すねはるの義妹、
 後土御門天皇の女房:勾当内侍として長橋局住、1501(文亀元)典侍;民部卿典侍と称す、
 女房名;後土御門院勾当内侍ごつちみかどいんのこうとうのないし/勾当内侍/民部卿典侍みんぶきょうのすけ、
 歌人/連歌作者:1472「玉津島法楽仮名題百首」参加、新撰菟玖波集3句入、
 「四十二の物争ひ」「鼠の草子」「浦島双紙」書写/1497「はにふの物語」書写or著
- K3686 美子(はるこ・水沢みずさわ、旧姓;並河)1797-183842 備中倉敷の生、
 倉敷の商家井筒屋9代目の水沢邦綱(1791-1824)の妻、歌人;小川布淑のぶし門;夫と同門、
 常太郎定穀さだよしの父
 夫 → 邦綱(くにつな・水沢みずさわ、商家/歌人) E 1 7 5 5
- J3660 晴子(はるこ・有馬ありま、島津斎宣なりのぶ女)1820-190384 兄島津斎興の養女;
 1837(18歳)筑後久留米藩の10代藩主有馬頼永よりとおの正室、1844夫は久留米10代藩主;
 夫は英邁で藩政改革を断行;しかし1846改革半ばで病没、晴雲院晴子が領内を巡遊、
 歌・琴に長ず;箏曲を自作、領内のいろは滝に[調音の滝]と命名した逸話あり、
 [晴子(;名)の別名/法号]別名;春姫/幸姫/晴姫、法名;晴雲院
- K3690 春子(はるこ・物集もづめ、)1828-1851早世24 豊後速見郡杵築の物集高世たかよの妻、歌人、
 高見たかみ(1847-1928)の母、
- K3649 はる子(はるこ・中守なかもり、旧姓;大石)1845-190460 近江蒲生郡の歌人;[鳩のうみ]入
 春子(はるこ・浅野) → 義直室(よしなおのしつ・徳川とくがわ、紀行文) F 4 7 2 1
 春子(はるこ・池田) → 鑑子(かみこ・池田いけだ/戸田、藩主室/歌) T 1 5 6 2
 晴子(はるこ・岩間) → 包子(かねこ・伊達だて/岩間、藩主側室/歌) U 1 5 9 0
- J3631 春駒(はるこま・富永、初号;秀印)?-?1843頃没 江後期川柳作者

- 春駒翁(はるこまおう) → 由己(ゆじ・藤本、医者/詩歌/狂歌) B 4 6 5 2
- I3678 春駒勇(はるこまのいさむ) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入:352、
[老いぬれど今にかまぬ腰障子昔づくりをいはふ骨ぐみ](才蔵集:九352/頑丈な造り)
- J3656 春貞(はるさだ・安部あべ、直貞2男)1622-9877 長門萩藩士/歌;吉川惟足門/六条有澄門、
2代目藩主毛利綱広に出仕/藩命で萩八江名所の和歌を詠む、
1680(延宝8)江戸の吉川惟足より古今集秘伝を受、萩藩の連歌宗匠/俳諧師、信貞の父、
[更くる夜の雨もふる江のしづが屋に残るも細き燈火の影](中津江の夜雨;萩の歌人)
[春貞(;名)の幼名/通称/号]幼名;岩松丸、通称;平吉/吉左衛門/吉左衛門尉、号;梅庵
- G3634 治貞(はるさだ・徳川とくがわ、宗直2男/本姓;源/松平)1728-8962 母;善修院、1753伊予西条藩主を襲封、
1775紀州徳川家を継嗣;和歌山9代藩主/従三位、権中納言、治宝(はるとみ(10代藩主)の養父、
歌;冷泉為泰門、
「麟徳記」「慎終論」「慎独論」「童子訓」「紀伊中納言治貞卿教訓」「香巖公言行録」著、
[治貞(;名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;春千代/初名;頼淳、
通称;修理大夫/玄蕃頭げんばのかみ/監物/左京大夫、法号;香巖院
- K3614 春貞(はるさだ・小池こいけ、旧姓;佐久間)1739-181072 飛騨高山の国学者;田中大秀門、
[春貞(;名)の通称] 弥兵衛
- G3635 治済(はるさだ・一橋ひとつばし、一橋宗尹4男/本姓;源/松平/徳川)1751-182777 11代将軍家斉の父、
1764父の家督継嗣、従二位権大納言/1818家督を斉敦に譲り隠居;1818剃髪/20従一位、
1825准大臣、田沼失脚を画策/定信を推挙、
歌;「最樹院殿独吟百首」「三院御集」「最樹院御歌」、連歌;1792「御晴厄御奉納唐何百韻」、
[治済(;名)の幼名/通称/法名/法号]幼名;豊之助、通称;民部卿、法名;穆翁/法号;最樹院
- G3636 春貞(はるさだ;号・保川やすかわ)1798-184952 京東洞院二条上ル町の代々米屋/家業を継ぐ;
1832以降は絵師に専念、四条河原町東入ルに移住、「傾城花の曙」「翫雀死出の旅立」画
- 晴貞(はるさだ・藤川) → 冬斎(とうさい・藤川、儒者) E 3 1 3 0
治貞(はるさだ・芳賀) → 一品(いっしょう・芳賀はが、医/俳人) B 1 1 5 0
治貞(はるさだ・中山) → 玄亨(げんこう・中山、医者/日記) I 1 8 8 1
春定(はるさだ・中臣屋) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
- L3610 春里(はるさと・禅定院) ? - ? 鎌倉期;興福寺禅定院の童/歌:1237[檜葉集]入、
[幼くより深く頼み侍りける僧に心にもあらずよそよそになりけるを、
僧つきずなげきけるつもりにや、病になりてかぎりなりけるころかくとつげて、
侍りければよろづを忘れてあひて侍りける後、ほどなくよわりぬとききて遣しける、
かりそめと思ひしだにもかなしきにながき別れになりやしぬらむ](檜葉;雑童707)
- G3637 春郷(はるさと・村田むらた/本姓;平、春道の長男)1739-6830 江戸日本橋小舟町の干鰯問屋;家業嗣、
国学;賀茂真淵門/県門十二大家の1、春海の兄、長歌に秀でる/蹴鞠を嗜む、
「長歌集」著、「村田春郷家集」(浜臣「県門遺稿」第一集所収)、大平「八十浦の玉」入、
[東ひがしの青海原の浪のうへゆとよさか昇る日の大御神](八十浦;上139/詠日)
[春郷(;名)の初名/字/通称/号]初名;忠荷ただなり、字;君観、通称;長蔵/治兵衛、号;顕義堂、
法号;顕義堂明誉純孝春郷居士
- G3638 治郷(はるさと・松平まつだいら、初名;治好、幼名鶴太郎、宗衍男)1751-181868 母;大森歌(うた/歌木)、
松江藩主;1767家督/藩政改革;治水新田開発/殖産興業、1806致仕/茶道;石州流不昧派、
佐渡守/出羽守、正室;彰子せい(方子・せい姫/伊達宗村9女)、幾百女こおよの兄、
「茶湯心得」「茶礎」「茶友録」、1787「古今名物類聚」「贅言」、「四季のはな」「瀬戸陶器濫觴」著、
[号];不昧ふまい/斗門/蘭室/笠沢/大円庵/未央庵/雪翁/宗納/一閑子/一々斎/陶斎尚古老人
- J3632 春里(はるさと・山蔭やまかげ)1768-182659 阿波徳島の国学者;本居大平・平田篤胤門、
平田篤胤「霊能真柱たまのみはしら」への疑問;その疑問に対し篤胤は「しもとのまにまに」を著、
三代考論争に参加、
[春里(;名)の通称/号]通称;次三郎、号;六草園/花園、屋号;松島屋
- K3691 春郷(はるさと・森田もりた、法名;道意)1809-6355 京の知恩院の寺侍、国学者、娘婿;森田春蔭(神職)、
[春郷(;名)の通称/号]通称;相模/陸奥、号;狸橋
- K3658 春郷(はるさと・波多野はたの、春樹の末男)1811-5747 筑前遠賀郡山鹿村の狩尾神社祠官の家、

山鹿村の神職、黒山浪尾なみお(1813-1870)と結婚、国学・歌;伊藤常足門(妻も同門)、
[春郷(;名)の通称]東太郎/主馬/飛驒守

K3666 **春郷**(はるさと・林はやし、旧姓;児玉)1819-8264 長門萩藩士;直目付、薩長連盟に尽力、
[けさよりと天の戸あけて朝日かげ曇らぬ空に春は立ちけり]([萩の歌人]入)、
[春郷(;名)の通称]主税ちから/良輔

J3691 **春里**(はるさと・掛川かけがわ、吉兵衛蕃章の長男)1828-9164 信濃佐久郡小諸の生、質商大和屋の入婿、
小諸藩御用商人大和屋の掛川岡右衛門崇朝の2女須磨子と結婚、1843義父没;家督継嗣、
国学者;平田家門人、歌・書に手ず、
[春里(;名)の通称/屋号]通称;吉兵衛、屋号;大和屋

春郷(はるさと・杉山) → 竹外(ちくがい・杉山/杉、儒者) C 2 8 7 9

治郷(はるさと・接待) → 治郷(じきょう・接待せつたい、藩士/故実家) Q 2 1 2 8

治郷夫人(はるさとふじん・松平) → 彪子(せいこ・松平まつだいら/伊達、藩主室/歌) O 2 4 4 7

K3648 **青実**(はるさね・取田とりた、旧姓;大久保)1812-32早世21 近江彦根藩家老宇津木家の家臣、
国学・歌;本多家門、歌;[彦根歌人伝・寿]入、
[青実(;名)の通称]定三郎

春雨之舎(はるさめのや) → 安丸(やすまる・田本たもと、歌人) G 4 5 1 8

G3639 **治重**(はるしげ・山梨やまなし、平四郎政門男)1707-6357 駿河庵原の酒造業;1743家督継嗣、
文学;典籍を読破、禅;白隠慧鶴門;慈雲了徹居士と称す、
1762家督を平四郎維亮(志賀子の夫)に譲渡;隠居、西国行脚;翌年没、
1760「奥州紀行」、「九州紀行」、「富士禅定物語」著、志賀子しがの父、稲川とうせんの祖父、
[治重(;名)の通称/道号]通称;平四郎/平左衛門/了徹居士、道号;慈雲/法諱;了徹

G3640 **春林**(はるしげ;名・菊池きくち)?- ? 江中期京の漢学/国学者;1772「古今集真名字解」著

G3641 **治茂**(はるしげ・鍋島なべしま、佐賀藩主宗茂男)1745-180561 初め鍋島直郷の養子;1763肥前鹿島藩主、
従四下肥前守/侍従/左近衛権中將、兄重茂に後嗣なく没後;1770肥前佐賀藩主を継嗣、
1779財政改革のため藩札発行/81藩校弘道館創設/83刑法改正、
1782「弘道館記」、「維適園全集」著
[治茂(;名)の初名/法号]初名;直熙、法号;泰国院

K3616 **春重**(はるしげ・小西こにし/本姓;本居、春村の長男)1785-184763 伊勢津の薬種商、本居宣長の孫、
国学者;祖父門、
[春重(;名)の通称]次郎太郎/太郎兵衛

春重(はるしげ・佐々木) → 惣四郎(そうしろう・初世銭屋、書肆) C 2 5 1 2

春重(はるしげ・鈴木) → 江漢(こうかん・司馬、洋画/蘭学) 1 9 9 1

春枝(はるしげ・玉井) → 春枝(はるすえ・玉井たまい、神道/国学) K 3 6 4 3

治重(はるしげ・山本) → 久右衛門(きゆうえもん・正本屋、書肆) G 1 6 3 6

治重(はるしげ・中村) → 治郎兵衛(じろべえ・文台屋、書肆) Q 2 2 5 2

治重(はるしげ・石尾) → 氏一(うじかず・石尾いしお/藤原、幕臣) D 1 2 5 4

G3642 **春島**(はるしま・足立あだち)?- ? 江後期駿河の駿河郡口野村の酒造業、
国学;本居大平[1756-1833]門、竹村茂雄と親交、「道の記」著、大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[うちなびく春さりくれば里人は苗代小田に水せき入れつ](八十浦;715)、
[春島(;名)の通称/号]通称;無事平/林平、号;薪廼屋まきのや/梢柴閑人

春次郎(はるじろう・桜山;変名) → 孝成(たかしげ・千屋ちや、医者/勤王派) M 2 6 0 8

春次郎(はるじろう・丸尾) → 清謙(きよかた・丸尾まるお、国学/歌人) V 1 6 2 9

春二郎(はるじろう・千秋) → 棟参(むねちか・千秋ちあき/服部、商/国学) D 4 2 9 8

春邇郎(はるじろう・増田) → 紫陽(しやう・増田ますだ、藩儒/尊攘/詩) G 2 2 4 6

G3643 **晴季**(はるすえ・今出川いまでがわ/菊亭/本姓;藤原、左大臣公彦男)1539-161779 戦国・江前期廷臣;
1548(天文17)従三位/79内大臣/85(天正13)右大臣/従一位、豊臣秀吉の信篤い、
一女は秀次の室、1595秀次の事件に連座;越後に配流/96帰京/98右大臣に還任、
有職故実に精通、歌に長ず、1558「永禄元年日記」/1578「白馬節会記」「晴季卿記」著、
「和歌職原鈔」「白馬節会次第内辨要」「弘安礼節略注」「書札式」著/「小原私要抄」編、
[晴季(;名)の初名/法号]初名;実維、法号;景光院

- K3643 **春枝**(はるすえ・はるしげ・玉井たま、順応2男)1825-7147 伊予和氣郡山越村の還熊八幡神社南社家の生、神道家、国学に精通、松山藩士、皇学所助教、還熊八幡神社社司、諸国の勤王派と交流、1864(元治元)国情を憂慮;堀内匡平と奔走;一文を奉行所等に掲示;藩政非難嫌疑で捕縛、城北郭に幽閉;1866赦免、松山藩校明教館の皇典科・所長、「報告論」著、
[春枝(;名)の名/通称/法名]名;清太郎、通称;数馬/勘解由、法名;大綱/大弘
- 3632 **晴助**(春助/初世はるすけ・奈河ながわ/豊ゆたか)1782-182645 京の狂言作者;初め素人俄狂言作者、歌舞伎作者;初世奈河篤助門、京の道場因幡薬師芝居作者/大坂の大芝居に転ず、1810(文化7)立作者格;以後当り作品を出し上方の代表的作者となる/25豊ゆたか晴助と改名、1811「以呂波歌桜秀逸」12「敵討義恋柵」15「敵討浦朝霧」16「園雪恋組題」17「艶雙蝶紋日」著、1819「遠江瀉恋賊」22「大石摺桜花短冊」、24「播州皿屋敷」著(太郎兵衛の翻案)、外著多数、
[奈河晴助(;名号)の通称/号]通称;宮島屋嘉兵衛、俳号;鶴樹
- G3644 **晴助**(2世春助はるすけ・奈河ながわ/初め2世豊ゆたか春助/晴助)?-? 江後期上方歌舞伎作者;初世門、1852奈河晴助襲名、江戸住、1841「色競東優姿」/54「絵本更科譚」61「御国松曾我中村」外著多
- G3645 **治資**(はるすけ・豊岡とよおか、和資男/本姓;藤原)1789-185466 母;高丘敬季女、廷臣/1819従三位、1821大蔵卿/23正三位、「書翰類聚」編、1816「光格上皇布衣始備忘色目並御所御構図」著、
法号;溪雲院
- G3646 **春助**(はるすけ・梅守うめもり/初姓;梅盛・梅森)?-? 江後期江戸の歌舞伎作者:
1847「沢村咲博多花菱」50「雪花音高木蘇山」52「御伽譚博多新織」著
治助(はるすけ・服部) → 嵐雪(らんせつ・服部はつとり、俳人) 4 8 0 6
春栖(はるすみ・岡部/賀茂) → 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1
春亮(はるすけ・今井) → 政明(まさあき・今井いまい/本姓;源、国学)N 4 0 7 8
- G3647 **春澄**(はるすみ・青木あおき)1653- 171563 京の高倉二条上ル住の商家;富商、俳人;重頼門、季吟・梅盛と交流、1677頃高政・常矩と共に京の談林派に属す、延宝1672-81頃言水/幽山/芭蕉らと交遊、1678江戸で幽山・芭蕉と「俳諧江戸十歌仙」興行;編刊行、1680「俳諧頼政破邪顕正熊坂両書返答前書」著/81「一日三百韻」著、元禄期1681-1704;貞恕と交流;貞徳嫡伝を自称、1681「誹諧七百五十韻」に一座・序、1690言水「新撰都曲」序、1704-11頃「歳旦帳」編、1684「蠹集」/91「元禄百人一句」1702「花見車」入集、貞備の父、
[玉の緒よ絶えなばたえね河豚汁ふくとじる](1677風虎「六百番誹諧発句合」)、
[春澄(;号)の通称/別号]通称;勝五郎しょうごろう/庄五郎/庄右衛門/称右衛門、
別号;春隅はるすみ/貞悟/甫羅楼はらう/春澄軒/印雪軒/印雪子/素心子/素心堂/之乎翁におう
春蔵(はるぞう・尾崎) → 雅嘉(まさよし・尾崎、医/国学/歌人) 4 0 2 4
- K3633 **春園**(はるぞの・田島たじま、知平男)1849-192577 母;とみ子、飛騨高山の飛騨総社社司、和漢学・詩歌;富田節斎(礼彦いひこ)門(;父母と同門)、
[春園(;名)の初名/通称/号]初名;定孝、通称;壮次郎、号;南陽居/向陽居
- K3660 **春妙**(はるたえ・橋口はしぐち、通称;吉左衛門)1843-77戦死35 薩摩鹿兒島藩士;小姓役、国学者、西南戦争では西郷軍の三番大隊八番小隊長/1877城山では新照院・夏蔭下で戦闘;戦死
- G3648 **治孝**(はるたか・二条にじょう、宗基2男/本姓;藤原)1754-182673 兄重良の養嗣子/廷臣;1770従三位/91右大臣/96左大臣;従一位、1814左大臣辞任、幕府専横に抗議;尊号事件関与、「竹園秘抄」編、1772「治孝公記」94「立后次第」1809「恵仁親王立太子次第」著
[治孝(;名)の号]号;法寿金剛院、
- G3649 **晴孝**(はるたか・木村きむら、通称;長蔵)1765-183571 紀州藩士/1833作事見廻役/のち勘定奉行、「南紀忠孝略伝」著、「紀伊国名所図会后編」編纂参加(;加納諸平らと)
- J3679 **春鷹**(はるたか・梅田うめだ、)1781-184868 大和奈良の春日大社禰宜、歌人、春保の父、
[春鷹(;名)の通称] 治部/弾正/勇
- G3681 **春隆**(はるたか・羽鳥はとり/本姓;服部、通称;源八太夫)1817-8468 尾張津島社の祠官、国学;熊谷直好/八田知紀門、土佐派絵師;渡辺清・浮田一恵門、
[春隆(;名)の号]号;敷島舎/彩園/蓬老/聴雨
- J3652 **春孝**(はるたか・千田せんだ、通称;直之助)?-? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[降る雨に濡れて色そふもみぢ葉を霜にのみとも思ひけるかな](大江戸倭歌;秋985)

玄珠(はるたか・長久保) → 赤水(せきすい・長久保、儒者、地理学) D 2 4 6 3

春孝(はるたか・伊藤) → 楚石坊(そせきぼう・伊藤いとう、俳人) J 2 5 9 7

春崧(はるたか・高橋/近藤) → 篤山(とくざん・近藤、儒/詩歌/教育) K 3 1 7 7

晴隆(はるたか・菊池) → 宗雨(そう・菊池さくら、俳人) G 2 5 0 4

玄宰(はるただ・田中) → 玄宰(はるなか・田中、藩家老/儒/歌) G 3 6 6 2

G3650 春種(はるたね・柳川やながわ) ? - ? 江後期絵師;初世柳川重信門?、読本挿絵:

1832「絵本越女伝」「復讐越女伝」画

治胤(はるたね・根本) → 胤満(たねまる・根本/神服/平、国学者) G 2 6 4 8

J3689 春民(はるたみ・鹿之木かのこぎ、) 1819-9274 肥後玉名郡滑石村の儒医/神職、

[春民(;名)の別名/通称/号]別名;俊親、通称;大進、号;東雲

G3651 春足(はるたり・遠藤えんどう、春正男) 1782-183453 阿波石井の藍商;江戸八丁堀・八王子に支店、江戸との往来/国学;本居大平・内遠門/狂歌;石川雅望まさもち(飯盛)門、狂歌・笑話作者、大田南畝・中島棕隠・加納諸平らと交流、1824「吾婦日記」、25滑稽本「白癡物語」(雅望序)、1830「猿蟹ものがたり」32「阿波狂歌三十六歌撰」34「午の春」、「難後言」「桃太郎物語」著、「六々園漫録」著、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[関ヶ原][野呂介石の山水画]入、昂美(谷文晁門下の絵師)の兄、

[高萱のおひしかぎりやもののふの屍かね埋みし所なるらむ](八十浦:990関ヶ原反歌)、

[春足(;名)の通称/狂歌号]通称;宇治右衛門/菟道右衛門うじえもん、

狂歌号;雲多楼鼻垂うんたろうはなたれ/六々園春香、戯作号;紀拔足きのぬきあし、法号;観光院

J3692 東親(はるちか・片岡かたおか、旧姓;萩川はつかわ) 1754-9138 山城乙訓郡の菱妻神社祠官、

非蔵人で出仕、国学;荷田春磨門、

[東親(;名)の別名/通称]別名;光重/親航(ちかき?)、通称;伊織/日向/肥後守

J3657 治親(はるちか・毛利もうり、重就しげたか4男) 1754-9138 母;立花貞俣女の登代子(瑞泰院)、

匡満・治親・匡芳の弟/兄早世;1782父隠居;長門萩藩第7代藩主、

従五位下/壱岐守、従四下;治元はるながに改名/のち治親に改名、隠居の父が実権把握、

影の薄い藩主、正室;田安宗武女の節子ときこ(邦媛院)、長男斉房が継嗣、

[心から春待つ国はわが宿の紅葉を風のつとにだに見よ](;萩の歌人)

[治親(;名)の幼名/別名/字]幼名;岩之丞、初名;徳元のりもと/治元はるなが、字;世美

K3662 春近(はるちか・初川はつかわ、春躬はるみ男) ?-1809 駿河府中の質商、和学者;古学;父門、

春栄(1791-1853)の父、

[春近(;名)の初名/通称/号]初名;春実、通称;長右衛門(父の称)、号;石鷹亭せきやうてい

K3656 春隣(はるちか・野矢のや、通称;良介、常方3男) 1829-9466 陸奥会津の歌人;父門

K3671 春愛(はるちか・平瀬ひらせ、) 1839-190870 大坂の歌人;有賀あるが長隣/国学者;平田鍊胤門、

国学・歌;岩崎長世門、維新後;大阪博物館長/中教正/第32銀行頭取/日本火災保険社長、

[春愛(;名)の別名/通称/号]別名;春枝/春兄/春蔭/雅頭、通称;羯鼓次郎/泰之助/亀之輔、

号;露香/桜蔭/稚枝磨/木花園/梅雪/同学斎/芳雲軒/一方庵/蘆の丸屋貞瑛(俳号)/千種屋

春及(はるちか・片岡) → 春及(しゅんきゆう/はるちか・片岡かたおか、農業/国学/歌) M 2 1 6 8

春千代(はるちよ・山本) → 晟孝(あきたか・山本やまと/藤原、神職/歌) I 1 0 7 2

春継(はるつぐ・香川) → 宗尤(そうゆう・香川かがわ、武将/連歌) J 2 5 0 2

治継(はるつぐ・中原) → 治勝(はるかつ・中原なかはら、明法家) G 3 6 1 7

晴嗣(はるつぐ・近衛) → 前久(さきひさ・近衛/藤原、関白/歌・連歌) 2 0 1 2

G3652 温綱(はるつな・渡辺わたなべ) ? - ? 1861存 三河渥美郡野田村の神職/神主、

新六(糟谷磯丸の養子)の兄、糟谷貞良(磯丸いそまる)の言葉を筆録・増補、

「磯丸翁和歌由来」著([貞良磯丸]伝に入)

治綱(はるつな・松平) → 信興(のぶおき・松平まつだいら、藩主/文筆) B 3 5 0 1

晴綱(はるつな・松平) → 信輝(のぶてる・松平、藩主/兵学/歌) C 3 5 2 2

G3653 春恒(はるつね・河村かわむら/修姓;河、字;子升/長因、号;元東) ?-? 江中期江戸の官医、

1748(寛延元)「桑韓医問答」「戊辰筆語唱酬」著

- J3680 **春経**(はるつね・小川おがわ、) 1806-1879 74 京の生/信濃飯田藩士、
歌人;村沢徳風・福住清風/国学者;植松茂岳門、維新後;飯田県権少参事、
[春経(;)名]の通称/号]通称;、号;自遊/春溪
治恒(はるとね・寺島) → 潤流子(潤流子かみりゅうし・寺島、医者/謡研究) G 1 5 7 3
- K3623 **春連**(はるとら・齋藤さいとう、) 1832-1887 56 陸奥信夫郡の蠟燭屋、国学者/歌人、
歌・狂歌;渡辺排はい(百舌鳥廼舎)門/歌;橋東世子とせこ/国学;本田広海ひろみ門、
[春連(;)名]の通称/号]通称;健輔、号;笹廼舎
春暉(はるとる/はるあきら・宮川) → 南谿(なんけい・橋、詩人) 3 2 3 2
春人(はると・森) → 義晃(よしあき・森もり、里正/国学/歌) P 4 7 6 6
- G3654 **春時**(はるとき・北条ほうじょう/本姓;平、斉時としとき男) ?-? 鎌倉期武将/駿河守、時邦の弟、
歌;続後拾836、
[つれなさを恨みしほどはあらねどもあかぬ別れも思ひなりけり](続後拾;恋836)
- G3655 **春節**(はるとき・立野たつの、通称;万治、号;蓬生庵) ?-? 江前期京の儒者/和学にも造詣、
1660「職原鈔別勘」編、1665「鎌倉名所二蒙集」77「二蒙集」79「官職略考」著、
「東武紀行」「蓬生庵随筆附録」「江府雑詠」「鎌倉口号」「官舎揮毫」著
- G3656 **春辰**(はるとき・殿村とのむら、号;春牙) ?-? 江中期天文家;佐竹義根よしね門、
1760「天岳答問記」、62「天文拾遺」著
春時(はるとき・椎尾/真壁) → 真仏(しんぶつ;法諱、城主/親鸞門真宗僧) P 2 2 7 4
春祐(はるとき・佐野/松岡) → 御調(みつぎ・松岡/佐野、神職/国学) D 4 1 2 7
齊世親王(はるときしんのう) → 齊世親王(ときよしんのう、真言仁和寺僧) K 3 1 3 3
- G3657 **治年**(はるとし・細川ほそかわ/本姓;源、重賢しげかた長男) 1758-87 30 肥後熊本藩7代藩主;
1785(天明5)父没;襲封/治年と改名、従四下越中守/1786天災/米価高騰;打壊し発生、
苦境の中に襲封後2年で没、「返書」著、
正室;細川興文女の埴姫(謡台院)/側室;登恵崎(織田氏)/妙雲院千木(浅尾氏)、
男子が皆早世;正室謡台院の同母弟の宇土藩主細川立礼(齊茲)を養子とす、
細川玉(ガラシヤ)の血統は細川本家では断絶、妙雲院女の美子よに(久我通明室)は歌人、
[治年(;)名]の幼名/初名/号]幼名;胤次、初名;賢年かとし、号;東岸/錦城、法号;大詢院
- G3658 **治紀**(はるとし・徳川とくがわ、治保長男/本姓;源/家名;松平) 1773-1816 44 母;一条道香女の八代君、
水戸7代藩主;1805父没襲封、従三位/左近衛権少将、歌人、
1810「進大日本史表」、「鶴山詠草」著、斉脩なりのおぶ・斉昭なりあきの父、
[治紀(;)名]の幼名/字/通称/号]幼名;鶴千代、字;徳民、通称;左兵衛、号;鶴山/諡号;武公
- G3659 **春利**(はるとし・白禱山かしやま、通称;亀四郎、檀山かしやま敬当男) 1816-81 66 信州小諸の国学者;
小林松蔭門、のち伊勢の衣川長秋/越後の生田国秀門、檀山を白禱山に改姓、
維新時は国事奔走、「源氏物語解」「志奴毘古登」「八十廻隈手」「社宮寺名考」著
玄利(はるとし・良岑よしみね) → 素性(そせい;法諱、廷臣/僧/歌人) 2 5 2 3
春年(はるとし・福住) → 松年(まつし・福住ふくずみ、商家/歌人) S 4 0 2 4
春福(はるとし・桜井) → 春福(しゅんぷく・桜井さくらい、歌人) X 2 1 4 8
晴敏(はるとし・清水) → 晴国(はるくに・清水しみず、藩士/歌人) K 3 6 2 6
- G3660 **治宝**(はるとみ・徳川とくがわ、重倫男/本姓;源/家名;松平) 1771-1852 or 53 82-83 治貞の養嗣子;
紀州10代藩主;1789襲封、従一位/権大納言/1824致仕、雅楽;楽書収集、
1782「澹寧斎詩稿」1808「千歳の寿詞」、「楽只堂印譜」著、
[治宝(;)名]の通称/法号] 通称;常陸介/一位様/楽只堂主人、法号;舜恭院
晴富(はるとみ → はれとみ・小槻) → 晴富(はれとみ・小槻おつき/壬生、廷臣/日記) H 3 6 1 0
治富(はるとみ・金田一) → 久右衛門(きゆうえもん・金田一きんだいち、藩士/地誌) M 1 6 2 9
春福(はるとみ・桜井) → 春福(しゅんぷく・桜井さくらい、歌人) X 2 1 4 8
- I3684 **春朝**(はるとも・北条ほうじょう/本姓;平) ?-? 鎌倉幕府御家人、早歌作者、
1319月江「玉林苑;寢寤恋ねざめのこい/琴曲」作曲;左金吾春朝名(左金吾は左衛門の唐名)、
- G3661 **晴朝**(はるとも・結城ゆうき、小山高朝3男) 1534-1614 81 伯父結城政勝の養子;下総結城城主;1559家督、
従五下/左衛門督/中務大輔、小田原北条・越後上杉両勢力に圧力を受ける、
佐竹・宇都宮ら北関東諸豪族と結束し北条勢に対抗;1590秀吉の北条討伐軍に参戦、

徳川家康男の秀康を養子にし家督を譲渡;1601秀康の越前転封に随い北庄に移住、
秀康没後子孫は松平姓に改姓;結城姓は絶える、
1607(慶長12)「結城家之記」、「総国結城武鑑極秘天書」著
[晴朝(;)名)の幼名/法号]幼名;七郎、法号;泰陽院

- F3632 **治具**(はるとも・茂木もてぎ、通称;祐右衛門/号;宗閑)1701-8585 羽後秋田藩士/検地役、
「御格式検地秘伝書解算術共」校訂
- K3602 **春友**(はるとも・河本かわもと、)1824-190077 播磨揖保郡の国学者;隈川春雄門、
[春友(;)名)の通称/号]通称;彦治、号;歌読車夫
玄同(はるとも・菅)→ 得庵(徳庵とくあん・菅かん/菅原/土師/鎌田、医/儒者)K 3 1 4 1
晴豊(はるとよ・勸修寺) → 晴豊(はれとよ・勸修寺かじゅうじ、廷臣/日記)3 6 3 9
- G3662 **玄宰**(はるなか・はるとだ・田中たなか、玄興男)1748-180861 母;梶原景明女、陸奥会津藩士;1763家督継嗣、
使番/番頭/奉行歴任、1781(天明元)家老;藩政改革/藩校日新館創設/漆器陶業の奨励、
松平容頌・容住・容衆3代出仕/1808藩大老、儒;古屋昔陽門;徂徠学、歌/長沼流軍学に通ず、
「新編会津風土記」「日新館童子訓」編纂に関与、1794「握奇集解訳義」、「輔導規則」著、
[玄宰(;)名)の初名/通称/号]初名;玄堅(はるかた、通称;小三郎/加兵衛/三郎兵衛、
号;大機庵、神号;忠翁靈社
- K3620 **玄仲**(はるなか・五頭ごとう、小川欽齋男)1806-6257 下総佐原の医者;常陸の山本鹿洲ろくしゅう門、
1826(文政9)五頭玄玄の婿養子/1832常陸土浦藩の侍医に登用される、算術・古学を修学、
妻千代と共に俳諧・歌を嗜む、頑固で変人めくが敬神の念厚く貧富を問わず治療、
1862(文久2)秋下痢が流行;回診にするうちに自ら罹患し没
春仲(はるなか・肥田/河田)→ 玄清(げんせい;法諱、武士/連歌) C 1 8 4 5
春仲(はるなか・名取) → 春仲(しゅんちゅう・名取、天文家) F 2 2 7 8
玄仲(はるなか・小沢) → 蘆庵(ろあん・小沢おざわ/平、歌人) 5 2 0 1
- G3663 **治脩**(はるなが・前田まえだ、吉徳10男/本姓;菅原/松平)1745?-181066? 母;園田夏(寿清院)、
加賀金沢藩主;兄重教の養嗣、初め越中勝興寺住職/1768還俗/1771(明和8)襲封、
藩校明倫堂創設(新井白蛾に下命)、1802致仕、
1768「勝興寺闡真より年寄中」、1771-75「太梁公日記」、「太梁公日記覚帳」「智囊」著、
[治脩(;)名)の幼名/初名/号]幼名;尊丸/時次郎、初名;利有、号;慎甫/郁郁斎/恒斎、
法名;闡真せんしん、法号;太梁院たいりょういん
- K3698 **春長**(はるなが・和田わだ、)1816- 187964 伊予松山の医者、国学・歌;藤井高尚門、
[春長(;)名)の通称/号]通称;栄太郎、号;菅舎/夢舎/寵
春長(はるなが・紀) → 紀春長(きのはるなが、狂歌作者) G 1 6 1 2
- G3664 **玄生**(はるなり・難波なんば、医者永原養順男)1737-8347 伯耆米子の生、
因幡鳥取藩医難波養牛の養嗣子、1778養家を継嗣;79鳥取藩侍医;江戸在勤、
学問・歌に長ず、鳥取藩最初の歌集「稲葉和歌集»;清水貞固さだかたと共編、「難経解」著、
[玄生(;)名)の字/通称/号]字;仲厚、通称;養元/春安、号;松風軒
- G3665 **春成**(はるなり・北川きたがわ、別号;明溪)?-? 江後期文政1818-30頃京二条橋東住の絵師:
1819「扁額規範」「都絵馬鑑」画
- G3666 **春成**(はるなり・森もり、通称;一馬)?-? 江後期越後長岡藩士、
1857藩命で同藩士高井英一と共に蝦夷出張;4-9月蝦夷樺太調査;1857「罕有かんゆう日記」著
- J3648 **春成**(はるなり・太田喜おたき)?- ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[いく度か枕そばだて聞きぬらん人待つ夜半の萩の上風うはかせ](大江戸倭歌;秋738/夜萩)
- 3633 **春庭**(はるにか・本居もとおり、通称;健蔵/健亭、鐸屋/後鈴屋、宣長長男)1763-182866 伊勢津の生、
松坂の国学者/歌人;父宣長門、博覧強記/書物書写、「古事記伝」版下書、1794失明/95鍼医、
妹美濃・妻壱岐の助力で国学研究続行、1806「詞八衢ことばのやちまた」/16家集「後鈴屋のちのすずのや集」、
1818「門の落葉」編、19「道廼佐喜草」、26「春庭歌集」28「詞通路」、「本居春庭詠歌」著、
「春庭家集」「春庭と藤木久葛と論書」外著多数、大平「八十浦の玉」中巻;長歌含め13首入、
[こもりくのはつせの山の桜花照れる朝日にいろことに見ゆ](八十浦;658/泊瀬山に詠)
- 3634 **春之**(はるの・河尻かわじり、鎮恒男)1756-181560 母;伴栄宣女、幕臣;1772家督嗣/82納戸番/92代官、

1807蝦夷地奉行/09持弓頭、兵学/詩人、1809「蝦夷地取計之上申書」、「製阪肥後公遺稿」、
[春之(；名)の別名/字/通称/号]初名；育やしなり、字；士文、通称；甚五郎、号；製阪

G3667 **春野**(はるの・中村なから/本姓；源、幸健男)1781-1845⁶⁵ 讃岐高松の国学者；藤井高尚門/歌も修学、
高松藩主松平頼恕に出仕；1833(天保4)土籍に列す/33「日本紀寛宴和歌集」編刊、
1838(天保9)高松藩修史局考信閣総裁；「歴朝要紀」編纂に従事、「四国史」「詔詞解」著、
[春野(；名)の別名/字/通称/号]別名；高麗麻呂こまろ、字；無言/玄助/玄黙、通称；衛助、
号；五松、屋号；池田屋

G3668 **春野**(はるの・村田むらた、別名；忠成/並樹つらき/並蔭つらかげ、春門はるかど2男)1801-71⁷¹ 国学(家学)；父門、
一時鳥居大路家養子；河内枚岡の神職/のち復姓、大阪で家学を継嗣；開塾し国学を教授、
紀伊新宮城主水野忠央家に出仕、「源氏物語大全」「伊勢物語大全」「土佐日記集註」著、
「永言三体」「詠歌大概抄」/1867「竹畑集」著、「村田春野歌集」「水野家当座譚集」著、外多数、
歌；「鴨川集」「三熊野集」入、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[姫小松けふこそやすくひかれつれ千代はえがたきものとききしを](大江戸倭歌；46)
[東路のあら野の露にうつろひぬ馴れし都の袖の花染](同；雑1841/現存百人一首；10)
[春野(；名)の通称/号]通称；大亮/七郎左衛門/中務、法号；徳翁院、嘉言よことの弟

J3684 **春野**(はるの・大久保おおくぼ、忠尚の長男)1846-1915⁷⁰ 遠江磐田郡見付宿の幕臣、
県社淡海国玉神社祠官家の生/国学・歌；石川依平/和漢学；草鹿砥宣隆門、
幕末期父の組織した勤皇党遠江報国隊に従軍、
1870大阪兵学校内幼年校生徒/80熊本鎮台歩兵第14連隊大隊長/82参謀本部管西局員、
1885中佐/91軍士官学校長/94陸軍少将；日清戦争出征/97近衛歩兵第1旅団長
1900陸軍中将/教育総監部参謀長/1902日露戦争従軍/1908陸軍大将/10朝鮮駐劄軍司令官、
[春野(；名)の通称/変名]通称；初太郎、変名；堀江提一郎

春の海の一釣子(はるのうみのいっちょうし)→庭鐘(ていしょう・都賀、読本) B 3 0 2 0

春之丞(はるのじょう・はるのすけ・松平)→忠敏(ただのり・松平、幕臣/歌人) Q 2 6 0 8

晴之丞(はるのじょう・はるのすけ・本多)→忠徳(ただのり・本多ほんだ、藩主/藩校設) Q 2 6 4 7

春之進(はるのしん・大村)→純昌(すみまさ・すみよし・大村、藩主/藩政改革) D 2 3 9 7

治之助(はるのすけ・本多)→忠徳(ただのり・本多ほんだ、藩主/藩校設) Q 2 6 4 7

春之助(はるのすけ・青木)→東山(とうざん・青木あおき、儒者/詩文) E 3 1 6 4

G3669 **春信**(はるのぶ・鈴木すずき/本姓；穂積?)1725-70⁴⁶ 京の浮世絵師；西川祐信or重長門?、1759頃江戸住、
紅摺絵/黄表紙画、1764頃錦絵の創始に関与；美人風俗画で評判、木版絵本・肉筆画など、
「坐鋪八景」「風俗四季哥仙」「絵本子育草」「源氏華月抄」「絵本春の錦」「笠森おせん」画、
1763「絵本諸藝錦」64「絵本花葛蘿」66「絵本さざれ石」69「今様妻鑑」70「絵本浮世袋」外面多、
[春信(；名)の通称/号]通称；次兵衛/次郎兵衛、号；長栄軒/思古人、法号；法性真覚居士

J3628 **春信**(はるのぶ・広瀬ひろせ/本姓；勝部、信睦男)1733-1803⁷¹ 母；手銭茂助長定女、出雲出雲郡神職；
出雲杵築大社社家、神学修学/歌；飛鳥井常悦(勝興)門、上京；俳人；中田空阿(去来門弟)門、
家督は弟に譲渡、歌学；武者小路・船橋家入門、国学；芝山持豊門、
1758(宝暦8)「岡崎日記」著(空阿との問答録)、
帰郷；閑居/子弟教育；歌/俳諧/神学/国学を教授、国造北島家の学問師範を務める、
去来俳系を出雲へ伝える；「元禄式」書写(去来-空阿-春信[茂竹]への芭蕉伝書)、
芭蕉4世・落柿舎3世を名乗る、

妻；中野利兵衛女(実は舟橋則郷女)/子；日々庵浦安/孫；蘭々舎茂竹(芭蕉5世を名乗)、
辞世[時来り何れか先に秋の蟬]、追善集「あきにせみ」、

[春信(；名)の初名/通称/号]初名；春光/貞悦、通称；岩尾/土佐介、

号；茂竹庵/百羅/百蘿/百羅坊/七猿斎/鳳尾斎/みの笠の翁/五十狭々小汀漁父/蓮心長隠

G3670 **治信**(はるのぶ・相沢あいざわ、庄屋金十郎男)?-? 享和文化1801-18頃羽後能代の測量家、
1801伊能忠敬が測量のため能代来訪を機に江戸の幕府天文方高橋作左衛門に入門、
帰郷後能代海岸を測量に従事、「彗星略説」「彗星測算録」著、
[治信(；名)の通称]吉十郎/文十郎

J3639 **春信**(はるのぶ・一色いっしき)1786-1847^{62歳} 紀伊伊都郡東家の商家/国学者；本居大平門、

大平撰「八十浦の玉」下巻;741長歌「真土山」[紀の川]入、
[真土山角田の川水たえずのみ春咲く花をゆきかへり見む](八十浦;742反歌)、
[春信(;名)の別名/通称/屋号]初名;文信、通称;勝蔵、屋号;粉川屋

K3646 **春信**(はるのぶ・辻つじ、通称;長右衛門/号;花廼屋)?-? 江後期;伯耆倉吉の里長、
国学/歌;衣川きぬがわ長秋ながあき(1765-1822)門、倉吉の材木奉行前田政兼の師、
1821(文政4)長秋の[美德山紀行]に同行

J3682 **春宣**(はるのぶ・小谷部おやべ、旧姓;沢藤)1816-1887 陸奥黒沢尻の生/出羽秋田の小谷部家の養子、
商家;合羽屋経営、国学者;平田篤胤門、1877(明治10)日吉八幡神社祠官、
妻;ヤス/後妻;フチ、平田神社創建に尽力、

[春宣(;名)の別名/通称/号]別名;吉訓、通称;甚左衛門、神号;/朝日影屋須美翁

晴信(はるのぶ・武田) → 信玄(しんげん・武田、武将/詩歌) D 2 2 9 8

春延(はるのぶ・竹島) → 正朔(せいさく・竹島、竹婦人、俳人) B 2 4 6 9

春信(はるのぶ・菅原/平田/八島) → 丘山(きゅうざん・岳亭がくてい、絵師/戯作/狂歌) C 1 6 0 3

春信(はるのぶ・吉川) → 楽平(よしひら・吉川よしかわ、国学者) K 4 7 2 1

治信(春信(はるのぶ・杉村/椛村) → 次兵衛(じへい・杉村/椛村、絵師) F 2 1 6 1

春廼舎(はるのや・松岡) → 内平(うちひら・松岡、信州国学者) D 1 2 1 0

春廼舎(はるのや・中根) → 長章(ながあき・中根、蔵書家) D 3 2 1 4

春廼舎(はるのや) → 源一(げんいち・片桐かたざり、歌人) H 1 8 7 0

春廼舎(はるのや) → 雅嘉(まさよし・尾崎、医/国学/歌人) 4 0 2 4

春廼舎(はるのや) → 春一(はるいち・片桐、源一男/軍学/国学) F 3 6 9 8

春廼舎(はるのや) → 墨春亭梅麿(ぼくしゅんていいうめまる、絵師/戯作) D 3 9 4 4

春の屋(はるのや) → 雅嘉(まさよし・尾崎華陽、国学/歌) 4 0 2 4

春の屋(はるのや) → 十右衛門(じゅうえもん・豊島屋とよしまや、商家/狂歌) W 2 1 7 1

春廼家幾久(はるのやいくひさ) → 幾久(いくひさ・春廼家、嘶本/狂歌) F 1 1 3 4

春屋市郎平(はるのやいちろうべい) → 浄信(じょうしん・春屋はるのや、地誌家) K 2 2 0 7

春屋浄信(はるのやじょうしん) → 浄信(じょうしん・春屋はるのや、地誌家) K 2 2 0 7

春廼屋成丈(はるのやなりたけ) → 十右衛門(じゅうえもん・豊島屋とよしまや、商家/狂歌) W 2 1 7 1

春の屋不美人(はるのやふびじん) → 不美人(ふびじん、春の屋、狂歌) D 3 8 6 6

春野家有斎(はるのやゆうさい・春野家) → 有斎(ゆうさい・春廼家、浄瑠璃作) B 4 6 7 8

G3671 **治憲**(はるのり・上杉うえずぎ、日向高鍋藩主秋月種美2男)1751-1822 母;秋月藩主黒田長治女の春姫、
1760出羽米沢藩主上杉重定の養嗣;1767(明和4;17歳)米沢9代藩主;15万石、

藩政財政改革に尽力/1776藩校興讓館創設;名君との称、儒;細井平洲・滝鶴台・渋井太室門、
「学問大意」「月下の扉」「南亭余韻」「猷芹篇」「後野芹」「女五常訓」「老幼窮民恵恤」著、

1796「蒙養訓」1802「かてももの」05「千代の春草」08「桃の嫩葉」09「老か心」18「朝な朝な」外著多、
[治憲(;名)の幼名/初名/字/号]幼名;松三郎/直松/直丸、初名;勝興、字;世章/四章、

号;鷹山ようざん/南亭/餐霞館/鳳陽/稽古堂/白鶴台/本章閣/紫霞園/休々斎、

法号;元徳院聖翁文心

[為せば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり](鷹山家訓)、

(平田篤胤の歌に重複)

治憲(はるのり・山梨) → 稻川(とうせん・山梨、儒者/詩人) 3 1 1 9

B3672 **春彦**(はるひこ・近藤こんどう) ? - ?文化1804-18頃没 備中庭瀬の庄屋、

国学;本居宣長(1730-1801)門、「本居宣長稿本全集2」入、

野井安定(1757-99)・野田広足(1756-1834)の師、

[春彦(;名)の別名/通称/号]初名;順和よりかず、通称;嘯蔵/和左衛門/吉備、

号;雲水山人/人竜

I3680 **春彦**(はるひこ・中村なかむら)1807-1885 佐渡両津の熱串彦神社祠官/1868権少講義となる、
歌人;松田直兄[1783-1854]・賀茂季鷹・香川景樹[1768-1843]・海野遊翁門、

歌の「花月社」結社、1876頃歌集「松廼布類枝」著、加藤清孝の師、

[我身よに受もち来つる魂を結びの神に今や返さむ](辞世;墓碑)、

[春彦(;名)の別名/通称/号]別名;忠生、通称;次郎右衛門、号;養松軒

- J3685 **春彦** (はるひこ・大野おの、) 1823-1897 75 美濃郡上郡の酒造業/国学者;川村内郷うちさと門、
のち積翠神社祠官、
[春彦(;)名]の通称/号]通称;孫右衛門、号;夢外仙/眠牛/紅葉園/珠の屋
- K3631 **治彦** (はるひこ・関せき、旧姓;勝浦) 1836-79 44 和泉堺の国学者;敷田年治門、
1874「大日本詞梯ことばのかけはし」著
[治彦(;)名]の号] 茂園
- K3615 **春比古** (はるひこ・小島こじま、行楚男) 1842-1906 65 上野桐生の美和神社神職、父の私塾を継嗣、
国学者;黒川真頼・佐々木弘綱門、歌;海上胤平・橋千守門、1893(明治26)桐生町長、
権少講義、桐生織物学校・桐生ケ岡公園を創設
春彦 (はるひこ・度会たらい、神道家) → 白太夫(しらたゆう、菅家の老僕) D 2 2 1 1
春彦 (はるひこ・脇坂) → 恭彦(たかひこ・脇坂わかさか、医者/歌人) 2 7 3 5
- G3672 **晴久** (はるひこ・尼子あまこ、政久男/本姓;源) 1514-60 47 母;山名兵庫頭女、出雲・因幡等8か国の守護、
1537家督継嗣;従五下民部少輔/修理大夫、新宮党尼子国久を滅ぼす/毛利元就と争い孤立、
富田(月山)城に没、義久の父、
連歌作者:屢々自邸連歌会催/1541宗養より「連歌扱善集」受、1543「尼子晴久夢想披百韻」、
[晴久(;)名]の初名/字/法号]初名;詮久、字;三郎四郎、法号;天威心勢大居士
- G3673 **春久** (春比左はるひこ・金築かねつき/本姓;源) 1804-72 69 出雲楯縫郡国富村の神社祠官、
神道;島重老・中村守臣門、国学;鈴木辰あきら門、
「大山詣前記並伯耆大山記」著、「大神山詣記」注、
[春久(;)名]の通称/号]通称;土佐、号;桃蹊舎
- J3669 **春尚** (はるひこ・池田いけだ/通称;円兵衛) 1818-80 63 紀伊日高郡の能代繁里家奉公人、
国学;本居内遠門
- K3610 **温古** (はるひこ・栗原くりはら、旧姓;亀田) 1821-90 70 上野館林の寺子屋師匠、国学;荒井静野しずの門、
[温古(;)名]の通称/号]通称;孫二、号;雲煙堂
治久 (はるひこ・古賀) → 遊五(ゆうご・古賀こが、庄屋/俳人) B 4 6 5 6
- K3667 **治秀** (はるひこ・原はら、) 1784 - 1862 79 信濃伊那郡の歌人;香川景樹門
- J3663 **春秀** (はるひこ・生駒にま/旧姓;山本、) 1789-1853 65 近江滋賀郡膳所町の神職;山本姓、
医者;生駒に改姓/国学を修学/歌人、医業の余暇に全国遊歴;紀行文執筆、
[春秀(;)名]の通称/号]通称;典膳/玄石、号;花桐官/梅仙窟
- K3663 **春榮** (はるひこ・初川はつかわ、春近はるちか[?-1809]男) 1791-1853 63 駿河府中の質商、
和学者;古学;父門、春躬(?-1797)の孫、
[春榮(;)名]の通称] 榮左衛門
珍秀 (はるひこ・) → 珍秀(たかひこ・三善、歌人) D 2 6 5 9
- G3680 **治仁王** (はるひとお・伏見宮、榮仁親王男) 1381-1417 37 母;阿野実治女の陽照院、伏見宮家2代、
歌人、「後崇光院歌合」(弟と共催/隱名;竹溪隱人)、
菊葉集12首入(隱名;従二位榮子)、和歌撰集入、新続古今1307、
参禅;絶海中津門/琵琶に長ず、
[むつごともまだ月影のふかき夜に何いそぐらん人の別れ路](新続古:恋1307)、
[雲にいたみ風にうれふる散がたの花の哀は入相の空](菊葉;春169/夕花)、
[治仁王の隱名]隱名;竹溪隱人/榮子、法号;葆光院、後崇光院(貞成親王)の兄
- G3674 **美仁親王** (はるひとしんおう・典仁親王男) 1757-1818 62 閑院宮3代/1763親王宣下/68弾正尹;三品、
1773二品/1815一品、歌人:父典仁親王門/有栖川職仁親王門/後桜町上皇より古今伝授、
伊勢物語も受、仁孝天皇の和歌師範、「閑院弾正尹美仁親王御詠」「美仁親王御詠草」、
「弾正尹美仁親王百首」「閑院美仁親王無題百首」「後撰和歌集抄聞書」「無題百首」著
春姫 (はるひめ・浅野) → 義直室(よしのおのしつ・徳川とくがわ、紀行文) F 4 7 2 1
晴姫 (春姫はるひめ・島津/有馬) → 晴子 (はるこ・有馬ありま、藩主妻/歌・琴) J 3 6 6 0
晴姫 (はるひめ・松平) → 晴姫(せいひめ・松平まつだいら/池田、藩主室) O 2 4 4 8
- G3675 **春衡** (はるひら・三善みよし、康衡男) ?-? 鎌倉期の算博士、西園寺家諸大夫、散位、
歌人;1308前「倭詞わか十首懐紙」(寂恵・三善遠衡・定蓮・静玄[藤原実時]と10首)入
1320「八月十五夜同詠月十首和歌」参加、拾遺現藻集入、続千載集1305、

[待ちかねて涙かわかぬ我が袖に宿るもつらく更くる月かな](続千載;恋1305)

- K3676 **春平**(春比良はるひら・太田おた、) ?-? 江後期;遠州掛塚の歌人/国学者、
狂歌師;江戸深川の文々亭蟹子丸門/鈍々亭和樽門、中山親愛邸寄寓;尊皇思想、諸国流浪、
文政末-天保初1815-35頃信州伊那郡の淵井正雄宅に滞在;書・算術・国学・歌・狂歌を指導、
正雄はじめ多くの国学者・狂歌師・尊皇家が育つ、
[春平(;名)の字/通称/号]字;諒/子直、通称;帯万、
号;桃華屋春比良/瀧海園春/汀
- G3676 **春平**(東平はるひら/とうへい・岡部おかべ/初姓;松田/本姓;大江) 1794-1856 63歳 筑前太宰府の国学者、
;青柳種信門、筑前福岡藩士、1830頃出雲に行き石見浜田藩に出仕、1836藩主国替で浪人、
京阪に行く、江戸の増上寺内に寓居、歌人、紀懿恭よしやの師
1833「出雲神社考」40「詠歌緊要考」44「遊秋草苑記」47「堅室雑録」50「水流記」著、
「万葉長歌解」「道のまこと」「二葉草」「堅室長歌集」「堅室文集」「葛根堅室集」著、
「出雲風土記考」「紀記歌通解」「万葉旋頭歌解」外著多数、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[春の日は残り少なきやり水にそこひもからず映る藤かな](大江戸倭歌;349藤映水)、
[古里にいつかへる山越えてこの越路の手ぶり人に語らん)、
(同;雑1842/羈中山、五幡いつは・鹿蒜かへる山;越前の歌枕)、
[春平の通称/号]通称;零太郎/怜太郎/蔵人/大蔵、号;葛根堅室くずねんしつ、法号;昇善院
- J3670 **東平**(はるひら・石垣いしがき、久春男) 1805-76 72 越前敦賀藩士;藩主酒井右京亮に出仕、
大阪で絵師の修業、歌/狂歌・俳諧を嗜む;吟詠を能くす、
[東平(;名)の号] 東山/角鹿/石東
春熙(はるひら・近藤) → 南海(なんかい・近藤こんどう、儒者) I 3 2 6 2
春比良(はるひら・桃華屋) → 春平(春比良はるひら・太田おた、狂歌師) K 3 6 7 6
- G3677 **治房**(はるふさ・狛こま) ? - ? 室町期山城大原野神社神主、
1447補佐;「大原神主補職奏状」著
- I3692 **春房**(はるふさ・高屋たかや) ? - ? 江前期撰津狂歌;1666行風「古今夷曲集」4首入
[まつかいに酔ひぬる顔は紅葉見に林間をして酒すごす故](古今夷曲集;八/紅葉狩)
(まつかいは真っ赤/林間は白居易「林間に酒を煖めて紅葉を焼たく」と酒の爛の掛詞)
- K3618 **春房**(はるふさ・小林こばやし、) 1738-1818 81 伊予宇摩郡の別子銅山吏、国学者/歌人、
[春房(;名)の通称] 甚内/坦斎
- G3678 **春房**(はるふさ・芝原しばはら房氏ふさもと?、寛氏男) 1770-1808 39歳 伊勢安濃津築地の米問屋、
国学・1790本居宣長門/本居春庭門、春道の養父、「万葉集卷第六第七問答」問、
「多賀より都路の紀行」「芝原春房書簡」著、本居大平「八十浦の玉」中巻;1首入、
[八柱はしらの神のみ殿あらかこれぞ此の神のつかさのなごりとは見る]、
(八十浦;477/京の吉田御社に参詣し大内裏の昔をしのぶ詠)
[春房の通称] 武次郎/六郎右衛門、
- G3679 **治房**(はるふさ・北畠きたはたけ、通称;武夫、末重男) 1833-1921 89 代々大和中宮寺の寺侍/勤王派;
1863天誅組拳兵に参加、1864天狗党に参加、維新後は司法省出仕、「北畠治房手記」著、
「治房の変名」 平岡鳩平/鳩斎
治房(はるふさ・上島) → 寿人(あんど・上島うえじま、俳人) 1 0 5 4
春史(はるふみ・藤田) → 広見(ひろみ・藤田ふじた、藩士/国学/歌) K 3 7 8 7
春部(はるべ・富永) → 竹村(ちくそん・富永、医/儒学/歌) D 2 8 4 1
- G3683 **春昌**(はるまさ・五十川[河]いそかわ、別号;宗知/春意、号;了庵、了任男) 1573-1661 89 京医者;紹継門、
内田黙庵/曲直瀬まなせ一溪/吉田宗恂門、1601細川興元に随行;豊前小倉住/02「太平記」出版、
家康の命で「東鑑」刊、1603信濃細川忠輝家臣、帰京;医業/詠歌、「薬石異録」「鍼灸要略」
- G3684 **春政**(はるまさ・山瀬やませ、通称;梶取屋治右衛門、号;如水軒) ?-? 江中期紀伊名草郡梶取村の本草家、
和歌山で薬舗/物産に精通、1758「鯨志」、「他石集」著
- G3685 **春昌**(はるまさ・紀、山口[安倍]盛行男/紀春清養子) 1730-1811 82 神職、淡路守/1775左史生、
1784肥後守、1792内匠寮兼職/正五下、「寛政元年外宮正遷宮御神宝調進歩式目」著
- G3686 **治政**(はるまさ・池田いけだ、初名;敏政、宗政男) 1750-1818 69 備前岡山藩主;1764襲封/改名;治政、

母;藤子(歌人)、書画/俳諧を嗜む、1762-1815「治政公日記」著、齊政なまの父、
[治政の通称/号] 通称;新十郎/内蔵頭/鼠十子、 致仕号;一心斎、法号;顕国院

- G3687 **春政**(はるまさ・勝尾かつお;号)?- ? 江中期天明1781-89頃の絵師:
勝川春章と北尾重政との組合せの仮号、1783「絵本見立仮譬尽」画
- K3647 **春正**(はるまさ・徳江とくえ/本姓;藤原,)1765-1803³⁹ 近江彦根藩士、儒・詩歌;沢村琴所(維頭)門、
歌;[彦根歌人伝・亀]入、
[春正(;名)の初名/通称]初名;定正、通称;孫平
- G3688 **春政**(はるまさ・北川きたがわ/恋川こいかわ、号;晩器)?-? 江後期絵師:初世春町門?、美人画/読本挿画、
1811柳浪「朝顔日記」画
- G3689 **春昌**(はるまさ・斎藤さいとう) ? - ? 江後期尾張の蘭学者・語学:鶴峯戊申しげのぶ門、
歌に長ず、1831「語学新書序説」著
- | | | | |
|-------------|---|------------------------|-----------|
| 治方(はるまさ・藤原) | → | 治方(はるかた・藤原、廷臣/歌人) | G 3 6 1 3 |
| 春正(はるまさ・山本) | → | 春正(しゅんしょう・山本、歌人) | J 2 1 9 3 |
| 春政(はるまさ・竹内) | → | 塊翁(かいおう・竹内、俳人) | 1 5 9 0 |
| 晴正(はるまさ・松平) | → | 勝定(かつさだ・松平まつだいら、幕臣/記録) | N 1 5 3 1 |
- 3635 **春町**(初世はるまち・恋川こいかわ、紀伊田辺藩士桑島九蔵男)1744-89⁴⁶ 伯父倉橋忠蔵の養子、
駿河小島藩士;家督を相続;留守居役/御年寄本役、画;鳥山石燕門/朋誠堂喜三二と交流;
洒落本の挿画、新趣向の草双紙制作;1775「金々先生栄花夢」;黄表紙の祖と称される、7
狂歌でも活躍、1789「鸚鵡返文武二道」で筆禍;病と称し藩の御年寄本役を致仕;
ほどなく没(自殺説あり?)、号は藩上屋敷の小石川春日町に因む、
1776「高慢齋行脚日記」79「金銀先生再寝夢」83「猿蟹遠昔噺」88「百福物語」外著多数、
画;「こんたん夢の枕」「女嫌変豆男」「柳闘戦新根」「珍献立曾我」、1785狂歌後万載9首入、
[金ある者は金々先生となり 金なきものはゆふでく頓直とんちきとなる]、
(金々先生栄花夢序;金々先生は遊里の通人、ゆふでくは田舎者)、
[夢になりと知ろしめしたか今日不時ふに旅をするがへ門出なすのを](後万載集;別離)、
(一富士二鷹三茄子を詠む/夢でお知りになったのか今日私が急に駿河へ出立するのを)、
[恋川春町(:号)の名/通称/別号]名;格、 通称;壽平、別号;寿山人、
狂名;酒上不埒さけのうえのふらち
- 春町(2世はるまち・恋川) → 行町(ゆき町ゆきまち・恋川、戯作/絵師) F 4 6 6 0
- K3675 **春松**(はるまつ・藤田ふじた、初名;業定なりさだ)1841-1896⁵⁶ 出羽秋田郡の国学者
- K3672 **春満**(はるまる・平林ひらばやし、通称;丸橋屋他市)1727-64³⁸ 近江彦根の商家、
国学者;荷田春満あずまる門/歌人、歌;[彦根歌人伝・続寿]入
- 晴麿(はるまる・奈良原) → 守得(もりり・奈良原ならはら、国学者) K 4 4 7 6
- 3652 **春海**(はるみ・藤原ふじわら、吉備雄男/母;滋野貞主女)?-? 平安前期廷臣;文章得業生/886方略試を受、
876-882日本紀購書尚復/889少内記/902文章博士;大学頭/904日本紀講書博士/従五上、
905時平催「大蔵善行七十賀詩宴」参加(「雑言奉和」に詩2首入)、
矢田部公望「日本紀延喜私記」の博士講義(904-6年)、906(延喜6)「日本紀竟宴和歌」参加、
文粹入
- K3661 **春躬**(はるみ・初川はつかわ、) ? - 1797 駿河府中の質商、和学者;古学、
春近(?-1809)の父、春栄はるひで(1791-1853)の祖父、
[春躬(:名)の通称] 長右衛門
- 3636 **春海**(はるみ・村田むらた、春道2男/本姓;平)1746-1811^{66歳} 江戸日本橋小舟町の干鯛問屋、
春郷はるさとの弟、阪昌周の婿養嗣子;連歌師阪昌和の名で柳営連歌(江戸城中興行)を詠む;
堂上派歌壇/のち離縁、1768兄没後村田家の家督継嗣/豪遊;十八大通の1/家業倒産、
国学者/歌人;賀茂真淵門、漢学;服部白賁・鶴殿士寧・皆川淇園門/書、倒産以後歌に精励、
名声得て松平定信に招聘、千蔭と共に古今調江戸派の双璧、小山田与清・清水浜臣の師、
1790「見聞漫筆」92「和学大概」1801「賀茂翁家集」編、「源語提要」「仮字考証」/05「仙語記」、
1808「うたかたり」、「織錦齋にしじりのや随筆」「歌苑字類抄」「歌詞雑抄」「歌苑古題類抄」、
「雲井の雁」「とはすかたり」「金条便覧」外著多数、家集「琴後ことり集」(中途没;多勢子刊)、
妻;幸女こうじよ(連歌師阪昌周女/冷泉家入門歌人;霞関集目録入)、

[おのづから花の光に暮れかねて梅の林は夕闇もなし](琴後集:春歌92/夕梅)、

[春海(;名)の字/通称/号]字;士観さちまる、

通称;伝蔵/大学/昌和(連歌;阪昌和)/治兵衛/平四郎、

号;織錦斎/琴後翁/浅草里人、(粹名;)魚長、 多勢子たせこの養父

G3690 **春水**(はるみ・尾池おけ、名;敬永、敬勝男)1750-181364 土佐高知藩士、仕置役/教授方頭取、御馬廻組頭/1807御側御用役;2百石、土佐藩の天明改革の推進者、国学・歌人;日野資枝門、土佐における紀貫之の事蹟顕彰に尽力、(根岸鎮衛「耳囊」巻八貫之の書ける月字の事入)、1782「朝倉紀行」91「月の字の額の記」、「秋のすさみ」「さくらももみぢ」「春水紀行」、「吉野紀行」「よそかの記」「紀氏遺跡考」「辰巳の記」「日野家江贈答の歌」著、正準「採玉集」(1836刊)入集、春道の父、

[春水(;号)の幼名/通称/法号]幼名;直太郎、通称;弾蔵、法号;桃林院

J3677 **春海**(はるみ・植田うねだ、) ? - 1805 摂津兵庫の歌人・国学;伴蒿蹊門、

賀茂真淵[万葉考]について「万葉考遺・万葉続考」を著す、

「磯齒津笠縫島之考」著(伴菖暝[閑田文章]に入)、

[春海(;名)の通称/号]通称;将監、号;務古

G3691 **晴海**(はるみ・山本やまと、竹内良太夫の長男)1805-6763 父は肥前長崎奉行組下船番職、

家督を弟に譲り山本家を興す、砲術家;高島秋帆門/兵学;山鹿素水門/儒;松浦東溪門、

のち日田の広瀬淡窓門;都講、1833(天保4)長崎に柿蔭古屋を開塾;儒・砲術を教授、

1841秋帆の副将として江戸徳丸ヶ原の演習に参加/肥前蓮池藩に[出仕;砲術指南、

「晴海日記」「晴海詩文稿」「淡斎雑抄」「輻陽録おんよろく」「骨董録」「狗続蒙耳」「吟林雑鈔」著、

「俗用尺牘」「高島流砲術」「無名草」「大清輿地大略」著、1860「夜雨菴集」編、外著多数、

[晴海(;名)の別名/字/通称/号]初名;逸、字;無逸、通称;清太郎、号;秋村/淡斎

K3696 **東海**(はるみ・吉原よしはら、黄山こうざん5男)1819-9375 尾張名古屋の俳人;父門および伊東而后じう門、

国学・歌;藩士上田仲敏(御野みゆ)・植松茂岳門、能書家;上代様の書、

1865立机;竹意庵(父を継嗣)、俳諧・書の門人多数、1889「さざれしぶ」著、「酔雨句集」あり、

[蚊柱にさはらぬほどや草の風]、

[東海(;名)の通称/号]通称;竹三郎/五郎/数馬(父の称)、

号;梧老/酔雨/竹意庵(父を嗣)

K3679 **春海**(はるみ・馬島まじま、号;北溟)1830-190566 長門萩藩士/儒者/国事奔走、萩で漢学塾を開設、

歌人;[萩の歌人]入、

[いつ見てもかはらぬ色を山桜えがきし花は宝なりけり](絵画、[萩の歌人])

K3632 **春見**(はるみ・千家せんげ、号;千代/舎)1834-9764 出雲出雲郡の出雲大社上官、

国学・歌;島重養(1812-83)門

春海(はるみ・安井/保井/洪川)→ 春海(しゅんかい・洪川、天文暦算家) J 2 1 3 2

春海(はるみ・長倉/佐竹)→ 義根(よしね・佐竹さたけ/源/長倉、天文家) F 4 7 4 8

春見(はるみ・雪廼門) → 雪廼門春見(ゆきのとはるみ・岩名、狂歌) F 4 6 1 8

春実(はるみ・初川) → 春近(はるちか・初川はつかわ、商家/国学) K 3 6 6 2

晴見(はるみ・前田) → 恒敬(つねのり・前田まえだ、藩士/記録) D 2 9 2 4

G3692 **春道**(はるみち・惟良これよし/これなが、姓かはね;宿禰) ?-? 844存 平安前期廷臣;近衛少掾/832叙爵、

837(承和4)伊勢介/842渤海大使賀福延一行を朝集堂に饗応した時に共食使を務む、

844従五上、小野篁と共に最も早く唐白居易の影響を受けた詩人、扶桑集入;白氏文集撰取、

経国8首・和漢朗詠4首・新撰朗詠集2首入

G3693 **春道**(はるみち・上田うねだ/旧姓;木村) ?-? 享保1716-36頃淡路洲本城代稻田家の家臣、

国学者、「めくみ草」著

[春道(;名)の通称]通称;益右衛門/和惣

3637 **春道**(はるみち・村田むらた/本姓;平、忠享[忠友]男) ?-1769 江戸日本橋小舟町の代々干鯛問屋/豪商、

国学/歌人;賀茂真淵門、加藤枝直と真淵の後援者、春郷はるさと・春海はるみの父(2子共真淵門)、

「尚古堂詠草」「春道歌集」「美都婆具斜」「冠辞考大意」著、1757倭文字子げに「文布あやぬの」編、

本居大平「八十浦の玉」入、

[降り積みし雪のうちに立ちそむる霞ぞ春のしるしなりける]、

(八十浦;上13/1758[宝暦8]真淵家宴)

[春道(;名)の初名/通称/号]初名;忠興、通称;平四郎/右兵衛/仙右衛門/治兵衛、号;尚古堂/素雲閣/栄夫、法号;尚古堂周斎栄夫春道居士

G3694 **玄路**(はるみち・竹原たけはら/旧姓;小野おの)1720-9475 1740(元文5)熊本藩士竹原惟重これいげの養子、肥後熊本藩士;番方/御側取次/用人;宝暦の改革に功績、1794隠居、歌人(家学);さらに久志本常典門/書画/弓馬故実・犬追物に通ず、「竹原玄路歌集」、「道の記」著、
[玄路(;名)の初名/通称/号]初名;惟親これちか、通称;勘十郎、号;紫海/広陵/穀斎、法号;最勝院

J3636 **治道**(はるみち・池田いげだ/本姓;源/賜姓;松平、重寛2男)1768-9831歳 兄治恕早世、1783父没後;因幡鳥取6代藩主、従四下侍従/左近少将、將軍家治より賜姓松平;治道と改名、財政改革進まず財政窮乏、歌;1798広道「霞関集」入、
[十かへりの春に待ち見ん花もけふ子の日の松に契りおかまし]、
(霞関;春11/真田右京大夫室六十賀屏風に 正月)
[治道(;名)の初名/通称/法号]初名;為智、通称;岩五郎/秀三郎/相模守、法号;大機院

J3683 **春道**(はるみち・尾池おけ、春水男)1779-185476 土佐高知藩士;文化1804-18頃に幡多奉行、和漢学;父門、歌人;日野資矩門、剣術;森下権平門/槍術;岩崎甚八・同作之丞門;高木流奥義を究める、
[春道(;名)の初名/通称]初名;敬典(たかひり?)、通称;清左衛門/金猪/清平

G3695 **春路**(はるみち・村田むらた/旧姓;斎藤、村田多勢子たせこの養子)?-? 江戸後期江戸八丁堀地蔵橋の歌人、歌;養母多勢子[1777-1847](村田春海の養女)門、「秋草」編、「村田春路拔書」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[年つめどなほをさなかる心にはははその紅葉なつかしきかな]、
(大江戸倭歌;秋974/柞黄葉)、
[春路(;名)の通称] 治兵衛

K3627 **春道**(はるみち・芝原しばはら、通称;六郎右衛門)1809-6052 伊勢津の米問屋芝原春房家の養嗣子、国学・歌;富樫広蔭門、妻;乳緒子ちおこ(;同門の国学・歌人)

春道(はるみち・武藤) → 平道(ひらみち・武藤/藤原、商家/国学者) F 3 7 4 1

春道(はるみち・千代) → 徳瓶(とくべい・橋本、合巻作者) L 3 1 3 4

玄道(はるみち・矢野) → 玄道(げんどう・矢野、儒/国学) C 1 8 8 4

春道梅員(はるみちのうめかず) → 梅員(うめかず・春道、宮崎氏、狂歌) D 1 2 3 6

G3696 **晴光**(はるみつ・日野ひの、内光男/本姓藤原)1518-5538 母;畠山尚順女、廷臣;1539参議/47権大納言、正二位、嗣子晴資が入水;継嗣につき勅勘を蒙る;日野家中絶、法名;照岳、のち1559広橋国光男輝資が日野家を継承、「日野晴光書状」著

J3699 **春満**(はるみつ・川島かわしま、)1810-185445 土佐長岡郡の商家;御船倉御用商人、国学;高知の楠瀬くすのせ大枝おおえ・小枝さえの兄弟門、「川島春満年賀八番歌合」あり、
[春満(;名)の通称/号]通称;猪三郎、号;年魚

春光(はるみつ・後藤) → 清乗(7世せいじょう・後藤ごとう、金工/歌) K 2 4 9 8

治光(はるみつ・三好) → 倚松(いしょう・三好、俳人) F 1 1 6 6

G3697 **春岑**(春峯はるみね・香月かつき、則昌男)?-1825 筑前鞍手郡植木村の醤油醸造業/国学;1801宣長門、歌人、1795「神代巻塩土伝」、「国分寺考」、「本逸史拾遺」、「懐紙短冊色紙乃伝」著、
[春岑の別名/通称/号]別名;則益/則恒/則有、通称;勘次郎/丑之助、法号;清亀院

G3698 **春嶺**(はるみね・大脇おおわき、本姓;和気)1789-183446 越後蒲原郡の国学者;塙保己一門、書;屋代弘賢門、和学講談所副塾頭を務める/病で帰郷;国学を教授、「くはしむ詠草」著、春保はるやすの父
[春嶺(;名)の通称/号] 通称;丈左衛門/常蔵/常雄/春謙、号;麗居くわい

K3619 **春嶺**(はるみね・小林こばやし、)1813-188775 近江滋賀郡の歌人;服部春樹門、近江大津住、歌;[鳩のうみ]入

K3678 **春峰**(春峯はるみね・堀ほり、通称;潜太郎)1842-68戦傷27 長門萩藩士;奇兵隊書記兼小隊司令、四国艦隊下関砲撃事件や第2次幕長戦争に参加、歌人、

1868(慶応4)戊辰戦争で越後出雲崎から三条口へ進軍中負傷;柏崎病院で没、
[色も香も世にたぐひなき桜山大和心を人におしへよ]([萩の歌人]入)

春峰(はるみね・吉村) → 春峰(しゅんぼう・吉村よしむら、庄屋/国学) L 2 1 9 0

- K3659 春蓑(はるみの・葉山はやま、)1793-1869 77 江戸の生/武家故実;伊勢貞丈門、筑前福岡藩士、
[春蓑(;)名]の初名/通称/号]初名;磯名、通称;小仲太、号;此花園
- K3617 春村(はるむら・小西こし/本姓;本居、本居宣長2男)1767-1836 70 伊勢松坂の国学者;父門、
伊勢津京口の小西政盈の養子;薬種商/政盈女と結婚、春重・小好の父、
[春村(;)名]の幼名/通称]幼名;恭次郎、通称;栄次郎/太郎兵衛/治六郎
- 3638 春村(はるむら・黒川くろかわ、通称;次郎左衛門/主水)1799-1866 68 江戸浅草の陶器商、
狂歌;2世浅草庵門、壺側主宰者/のち歌/国学;考証学、古美術に精通、
1831「芳雲狂歌集」編/37「狂歌柳花集」編/41狂歌「二藍源氏前編」、「網代図説」「今様歌集」、
私撰「彩霞集」、1862「音韻考証」外著多数、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[雪消えてのどかになりぬ我が山の梅見がてらにとふ人もがな]、
(大江戸倭歌;139/梅開待客)、
[降る雨にぬるとも花のかげならば苦と漏るこやもうれしからまし](同;雑1956、
家の焼けたりける時)、
[春村(;)名]の号]号;薄斎/葵園/芳園/本蔭、浅草庵3世、法号;東風院、真頼まりの養父
- J3675 春邨(はるむら・宇陀うた、)1838- 1890 53 大和宇陀郡の勤王の志士、国学;大国隆正門
[春邨(;)名]の通称/変名]通称;太郎、変名;春日鹿之助
- K3657 春望(はるもち・羽栗はぐり、旧姓;和栗)1820-79 60 備中下道郡の儒者、国学、
[春望(;)名]の別号/字/通称/号]別号;惟影、字;子清、通称;謙次、
号;翠庵/翠屋/克堂/詠史先生
- G3699 治元(はるもと;姓不詳) ? - ? 室町戦国期連歌;1521宗碩「住吉法楽千句」参加
- H3600 晴元(はるもと・細川ほしかわ、通称;六郎、澄元男/本性源)1514-63 50 阿波の武将;1520家督嗣、
1531三好元長らと細川高国に勝利、元長と対立;元長を攻略/入京した足利義春に謁見、
右京大夫に就任;幕政を主導、細川氏綱・三好長慶に追われ足利義晴・義輝らと近江逃亡、
義輝が長慶と和睦;晴元は出家し若狭へ逃亡、再起を図るが失敗/撰津普門寺に隠棲;没、
連歌;1556「弘治二年九月十日梅・晴元等百韻」、
[晴元(;)名]の法名/法号]法名;一清、法号;心月
- H3601 春元(はるもと・伊藤いとう、通称;伝兵衛)?-? 文化文政1804-30頃遠江磐田郡一言村の某家代官、
国学者;1827石川依平門、「万葉集名所歌書抜」著
春福(はるもと・桜井) → 春福(しゅんぷく・桜井さくらい、歌人) X 2 1 4 8
- H3602 治保(はるもり・徳川とくがわ、宗翰長男/本姓;源/松平)1751-1805 55 常陸水戸6代藩主;1766襲封、
従三位参議、飢饉救済/財政施策、彰考館修史事業を推進、外国船来航に関心;
のちの藩の方向に影響、「観山集」「尚古閣雑録」、「文公文集」著、述姫(松平頼起室)の父、
[治保の字/通称/号]字;子安、通称;左衛門督、号;舜山、諡号;文公
- H3603 治易(はるやす・山口やまぐち、通称;仲左衛門)?-1706 薩摩鹿児島藩士/儒;東郷重経門/朱子学に精通、
1703(元禄16)「糸柳十篇」、「以呂波歌四十七首」著、法号;覺峯了智居士
- K3669 春安(はるやす・肥田ひだ、通称;金一郎、為秋ためあき長男)1787-1873 87 伊豆田方郡八幡野村の医者;
父為秋門/名主、八幡宮神官、国学・歌;竹村茂雄門、
蘭方医;前野良沢門/日本国内で初めて種痘実施、葦山代官江川坦庵に出仕、
土雄ひじお(医者)の兄/浜五郎(日本造船の父)の父
- K3611 治保(はるやす・栗山くりやま、駿河守)1809-89 81 紀伊在田郡箕島祇園神社祠官、国学;本居内遠門、
妻;古代こよ(国学;同門)
- H3604 春保(はるやす・大脇おおわき/通称;甚蔵、春嶺はるみね長男/本姓;和気)1822-84 63 越後蒲原郡岩淵村里正、
国学者;父門/平田鉄胤・鈴木重嶺門、帰郷;子弟教育、
「詠草心の葉」「老の友」「袖日記」「松の落葉」著
春安(はるやす・服部) → 一忠(かずただ・服部はっとり、小平太、武将)M 1 5 2 5
春安(はるやす・吉田) → 洞京(とうきょう・吉田よしだ、絵師) V 3 1 5 4
- H3605 春幸(はるゆき・岨山そばやま/本姓;平)?-? 江中期大阪の国学/古典学/歌;河瀬菅雄(1647-1725)門、

- 1738「伊勢物語浮橋抄」著、47「歌仙二葉抄」編、48「銀河鈔」52「伊勢物語章甫鈔」著
 春行(はるゆき・佐々木) → 惣四郎(そうしろう・2世銭屋、書肆) C 2 5 1 3
 春行(はるゆき・野見/戸部) → 徳之進(とくのしん・戸部とべ/野見、藩儒) L 3 1 2 8
 春之(はるゆき→はるの・河尻) → 春之(はるの・河尻かわじり、幕臣) 3 6 3 4
 晴幸(はるゆき・山本) → 勘助(かんすけ・山本、兵法家/軍師) E 1 5 0 0
 玄之(はるゆき・角倉) → 素庵(そあん角倉すみくら/吉田、商家/嵯峨本版) 2 5 3 6
 春世(はるよ・矢野) → 御蔭(みかげ・矢野やの、商家/国学/歌人) K 4 1 8 6
- H3606 春吉(はるよし・道元みちもと/通称;九郎右衛門)?-? 戦国安桃期堅毘流砲術家:1593免許/3代目、道元流砲術;「砲術伝書」(伝)
- K3692 玄良(はるよし・山下やました、名;天民/号;鹿々斎、玄良[玄佑男]男) 1755-181561 周防吉敷郡の医者;父没後;[玄良]を襲名、名医と称される;藩等からの招聘を断り町医として尽くす、高島良台(萩藩侍医)の父/高島北海(長門峡の紹介者)の祖父
- K3607 晴好(はるよし・木村きむら、別号;稚教) 1765-183571 三河の生/国学者、紀伊和歌山藩士;勘定奉行
- J3693 春好(はるよし・片桐かたぎり、) 1832-190372 美濃岐阜矢島町の縮緬製織業、歌人、歌・書;岩間春樹門、歌;氷室長翁ながとし・香川景恒門、伊奈波神社出雲館花の寮での桂園派歌会に参加、塩谷則満・豊島夏海らと交流、「桐園家集」著/「新選拾玉集」編(;岐阜桂園派歌人詠草集)
 [ことしより伊奈波の山のさくら花友まつ雪と咲きまがはなむ](新選拾玉集)
 [春好(;名)の通称/号]通称;文七、号;桐園
- 春良(はるよし・吉田) → 洞谷(とうこく・吉田よしだ、蘭英斎、絵師) V 3 1 5 5
 春芳(はるよし・堀尾) → 秀斎(しゅうさい・堀尾、医/儒/神道) X 2 1 2 8
 春福(はるよし・桜井) → 春福(しゅんぷく・桜井さくらい、歌人) X 2 1 4 8
 春祺(はるよし・増田) → 紫陽(しやう・増田ますだ、藩儒/尊攘/詩) G 2 2 4 6
 治良(はるよし・大沢) → 信詮(のぶり・大沢、幕臣) C 3 5 6 9
 治好(・松平) → 治郷(はるさと・松平まつだいら、藩主/茶道) G 3 6 3 8
 治能(はるよし・夏目) → 知能(ともよし・夏目なつめ、藩士/歌人) V 3 1 9 8
- H3607 治好室(はるよしのしつ・松平まつだいら、名;定姫/麗照院、田安宗武女) 1768-181346 夫:越前福井藩主、歌:「麗花集」(没後兄定信編)
- J3629 春若丸(はるわかまる:幼名・姓名不詳)?-? 鎌倉後期比叡神社関係者/歌;比叡社歌合に参加、[山桜たにのいはまに咲きにけりひとむらしづむ花の白雲](比叡社歌合;九番左)
- 晴雄(はれお・土御門) → 晴雄(はれたけ・土御門、陰陽家) H 3 6 0 8
 晴助(はれすけ) → 晴助(初世はるすけ・奈河/豊、歌伎作者) 3 6 3 2
- H3608 晴雄(はれたけ/はれお・土御門つちみかど、晴親男/本姓;安倍) 1827-6943 廷臣;1842(天保13)陰陽頭、1859従三位/64正三位、維新後;旧幕府天文方管掌の測量・暦計算権を認可される、「和宮御降誕雜勘文」「革命革命勘文調進留」「日蝕・月蝕年月表」、「晴雄卿記」外著多数
- H3609 晴親(はれちか・土御門つちみかど、菊坡、泰栄男/本姓;安倍) 1787-184256 廷臣;1804陰陽頭/20従三位、1835従二位/42正二位、1842「新法曆書(天保壬寅元曆)」を校閲奏進、「司天家神秘消長法」「土御門晴親覚書」、1805-42「晴親卿記」著、晴雄はれたけの父
- H3610 晴富(はれとみ・小槻おつき/壬生みぶ、出家号;道秀、小槻晨照男) 1422-150483 廷臣;1433民部少輔、主殿頭/造東大寺次官/1468(応仁2)左大史/氏長者、82正四上/90治部卿;出家、雅久の父、1446-97「小槻晴富記」、「続神皇正統記」「建武三年以来記」外著多数、法号;多宝院
- 3639 晴豊(はれとよ/はるとよ・勸修寺かじゅうじ、法号清雲院、晴右はれみぎ男/本姓藤原) 1544-160259 参議/准大臣、武家伝奏、「晴豊公記」「晴豊重保消息」(重保しげやす・庭田)
 晴麿(はれまる・奈良原) → 守得(もりのり・奈良原ならはら、国学者) K 4 4 7 6
- H3611 晴右(はれみぎ・勸修寺かじゅうじ、初名;晴秀、尹豊ただとよ男/本姓;藤原) 1523-7755 母:伊勢貞遠女、廷臣;1550参議/右大弁/従三位、1567晴右に改名、1568(永禄11)室町幕命の命に違う;蟄居、1573(天正元)権大納言/74正二位、没後;贈内大臣/99贈左大臣、「晴右公記」著、法号;高寿院、息女藤原晴子は陽光院誠仁親王妃の新上東門院(後陽成天皇の母)
- H3612 晴通(はれみち・久我こが/本姓;源/一字姓;賀、近衛尚通男/久我通言嗣) 1519-7557 廷臣;1536権中納言、1543権大納言/正二位/45淳和奨学両院別当/53右大将兼任;出家、

連歌:52・2月昌休と百韻、

[晴通(;名)の号/通称]出家号;完元/宗入、通称;後久我のちのこがの右大将、法号;禪源院

- H3613 **晴良**(はれよし・二条にじょう、尹房ただふさ男/本姓;藤原)1526-7954 母;九条尚経女、九条植通たねみちの甥、戦国期廷臣;1538(天文7)従三位/45内大臣/46右大臣/47左大臣/48(天文17)関白/従一位、1552関白辞任/58(永禄11)再度関白;78致仕、歌道:歌会催(叔父植通が後援)、書、「家伝」著、[晴良(;名)の号] 浄明珠院

波瀲舎(はれんしゃ→なぎさのや)→ 守部(もりべ・橘、国学者/歌人) 4 4 2 8

巴郎(はろう) → 政和(まさかず・近藤こんどう、医者/国学) P 4 0 7 6

馬老(ばろう) → 韋吹(いすい・天井、商人/俳人) 1 1 9 3

- H3614 **馬六**(ばろく・寺村てらむら)1709- 178880 尾張の俳人;支考門、1774剃髮;風雅隠遁、1774「薙髮賀章」編、75「年賀」編、78「尾張歳旦」著、78/79「春興」編、80「蓮塚」編、1784「於奈志波那」1788(天明8)「芭蕉百回忌」編、朔花仙・坡良の師、追善集「終のわかれ」「保志野可計」(社中による編)、

[馬六(;号)の名/別号]名;策、別号;風左房/楓左坊/楓左堂/風左庵/楓左楼

- H3615 **槃**(はん・曾そう/宋そう、字;士攷/士考/煥郷、医・唐通事昌啓男)1758-183477 江戸本草学/医者;父門、1776庄内藩に仕官/78致仕、医;多紀藍溪門/本草;田村藍水門、92薩摩藩江戸藩邸侍医、1795「春の七草」/97「無人島談話」「無人島物産志」/「魚譜」「蘭叢」編/「占春齋魚品」外著多数 [槃の号] 占春[齋]/永山/永年/庸山/昌適しょうじゅう居士、小林東鴻の師

- H3616 **半**(はん・福田ふくだ、通称;左近/号;治軒、理軒男)1837-8852 数学/洋算;父門、父創設の順天求合社の教師、「救合秘曆気朔簡法推歩草」著、明あきら(数学者)の弟

半(はん・宍野) → 半(なかば・宍野しの、藩士/神職/扶桑教) N 3 2 3 1

槃(はん・ばん・村岡/尾池) → 桐陽(とうよう・尾池おけ、医者/詩人) H 3 1 8 3

範(はん・有井) → 進斎(しんさい・有井ありい、儒者/教育) E 2 2 2 2

範(はん・柳沢) → 績斎(せきさい・柳沢やなぎさわ、藩医/詩) K 2 4 0 6

範(はん・福沢) → 諭吉(ゆきち・福沢、藩士/幕臣/思想家) E 4 6 8 1

繁(はん・小枝) → 繁(しげる・小枝さえだ、露木、幕臣/読本作者) D 2 1 4 1

凡(はん・蒔田) → 雲処(うんしょ・蒔田まきた、詩文/仏道) D 1 2 8 1

璠(はん・草鹿) → 玄泰(げんたい・草鹿くさか、医者/詩人) K 1 8 9 1

璠(はん・三田村) → 蘭谷(らんこく・三田村みたむら/藤原、儒/詩人) C 4 8 0 9

胖(はん・宮沢) → 竹堂(ちくどう・宮沢みやざわ、詩人) D 2 8 6 3

はん(・袴田/森) → 磐子(いんこ・森/袴田、歌人) H 3 6 5 3

伴(ばん;一字名) → 為景(ためかげ・冷泉[下冷泉]/藤原、歌人) G 2 6 6 9

蕃(ばん→しげる・吉田) → 蕃教(しげり・吉田よしだ、国学者) S 2 1 1 5

輓(ばん・興野) → 成信(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人) L 3 2 5 1

盤(ばん・遠藤) → 繁子(しげこ・遠藤えんどう/堀、藩主室/歌) N 2 1 5 5

坂阿(はんあ) → 坂阿(はんあ、坂口さかかくち、早歌) I 3 6 8 3

汎愛堂(はんあいどう) → 壺天(こてん・田原、修験者/俳人) N 1 9 1 4

胖庵(はんあん・鳥居) → 耀蔵(ようざう・鳥居とりい/林、幕臣) B 4 7 4 2

胖庵(はんあん・奥野) → 小山(しょうざん・奥野おくの、藩士/儒者) S 2 2 5 5

泛庵(はんあん・武元) → 登々庵(とうとうあん・武元たけもと、儒者/書) O 3 1 5 2

般庵(はんあん・中島) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4

璠庵(はんあん・井上) → 蘭台(らんだい・井上いのうえ、儒者/折衷学) C 4 8 9 1

- H3618 **万安**(ばんあん/ばんなん/まんあん;道号・英種えいしゅ;法諱、遠山善益男)1591-165464 江戸曹洞僧/1599父没、叔父の起雲寺源室門;得度、1618起雲寺住持/肥後大慈寺の大焉広椿の嗣法、22総持寺輪住、1636丹波瑞巖寺を中興;撰津臨南庵に退隠、48淀藩主永井尚政の招聘;宇治興聖寺再興、1649興聖寺住持、臨濟僧とも交流、「永平元禪師語録抄」編/「永平録鈔」「万安和尚文集」著、1633(寛永10)「江湖風月集略註鈔」「四部録抄」「信心銘抄」、「万安和尚家訓」外著多数、[万安英種の初法諱/号]初法諱;英宗、号;千拙

- H3619 **晚庵**(ばんあん・辻/十街、名;達・範信/字;成卿、辻信之養嗣子)1661-171353 鳥取儒者;伊藤仁斎門、帰郷後鳥取藩銀札場職員/1686中小姓医師/91侍講、97「因伯地図」改作、「藩君系譜」修補

[晩庵の別姓] 本姓;源、初姓;野呂・井上・銀見

H3620 **万庵**(ばんあん;道号・原資げん;法諱、号;芙蓉軒)1666-173974 江戸の臨濟僧;南英祖梅門;法嗣、幼時より文学の才に長じ小文殊と称される、江戸の東禅寺住持、晩年芙蓉軒を営む、詩人、徂徠門下と詩文の交流、「古今二鳴編」「解脱集」「省行余課」著、「江陵集」著(;'万庵集)入

磐安(ばんあん・伊沢) → 柏軒(はくけん・伊沢いさわ、医者) D 3 6 0 0

万庵(ばんあん/まんあん・赤沢) → 一堂(いちどう・赤沢あかさわ、儒者/詩) E 1 1 1 5

半医(はんい・大熊) → 秦川(しんせん・大熊おおくま、眼科医/詩人) P 2 2 1 3

範以(はんい・今川) → 範以(のりもち・今川いまがわ、武将/連歌) F 3 5 9 7

H3621 **半隠**(はんいん・大島おおしま、伊左衛門俊則の長男)1635-170470 陸前仙台藩士;

1647(13歳)藩主忠宗に出仕、儒者;京の柴田良巖・石川丈山・熊谷立節門、

帰藩;仙台藩主伊達綱村の侍講、詩人、「半隠詩文集」「牧民忠告鈔」「礼楽疏」著、

[半隠の名/字/通称/別号]名:仲施、字;良説/三設、通称;四郎五郎/四郎左衛門、別号;養正

H3622 **半隠**(はんいん・菊池/菊地さくち、耕斎3男)1659-172062 薩摩の儒者:林鷲峰/林鳳岡門、昌平覺学頭、1695讃岐高松藩の儒臣、「半隠集」「半隠集後稿」「赤穂義人録」「熱海行紀」「有馬行紀」著、「讃中記」「三巴卮言」、1702「白雲梅宮縁起」12「菅神伝」18「象頭山金毘羅神祠記」外著多数

[半隠(;号)の名/字/通称/別号]名;搏/武雅、字;子師/九万/師古、

通称;新三郎/帯刀/舎人、別号;鵬溟

半隠(はんいん・日野) → 醸泉(じょうせん・日野、儒者) K 2 2 5 0

半隠(はんいん;号) → 竜嶽(りゅうがく;道号・宗劉;法諱/臨濟僧) D 4 9 2 3

半隠(はんいん・昨非堂) → 昨非(さくひ・乾、俳人) B 2 0 4 7

繁胤(はんいん・小川) → 繁胤(しげたね・小川おがわ、商家/国学) N 2 1 5 8

伴蔭(ばんいん・三輪) → 伴蔭(ともかげ・三輪みわ、国学/神職/歌) W 3 1 5 5

半隠子(はんいんし) → 周麟(しゅうりん;法諱・景徐、臨濟僧) P 2 1 4 5

半隠舎(はんいんしゃ) → 綾川(りょうせん・岡内おがうち、藩儒) I 4 9 5 5

半隠堂(はんいんどう) → 琴山(きんざん・榎田、儒者) H 1 6 8 9

H3623 **半雲**(はんうん・外村とのむら、並江なみえ重太郎男)1821-7757 近江の生/1835彦根藩士外村一郎の養子、

養父没後家督継嗣;藩士/儒;藩儒中川漁村門、1863(文久3)藩儒/67藩校弘道館教授、

1868刑法判事試補/廢藩後;長浜県十等出仕/小学校用掛、

「百律書訓解」「群玉渾成雜詠」「雜詠百首」著、

[半雲(;号)の名/字/通称/法号]名;三行、字;有師、通称;己之助/巳之助/程輔/省吾、

法号;青嶺院

半雲(はんうん) → 大機(だいき・祖全、臨濟僧) J 2 6 5 5

半雲斎(はんうんさい) → 宗仲(そうちゅう;号・半雲斎、連歌作者) C 2 5 5 3

H3624 **繁栄**(はんえい) ? - ? 京の俳人;1633重頼「犬子えのこ集」入、

[芦の穂は人を拔出ぬきでの真綿哉](犬子集;五1325/抜くはだますと拔出真綿を掛る)

繁永(はんえい・猪股) → 繁永(しげなが・猪股いのまた、国学者) N 2 1 9 5

範英(はんえい・森脇) → 方純(まさずみ・森脇もりわき、藩士/歌人) T 4 0 2 7

万英(ばんえい;法諱) → 古法(こほう;道号・万英;法諱、曹洞僧) N 1 9 6 2

万英(ばんえい・百々) → 万英(まんえい/ばんえい・2世二松庵、狂歌) K 4 0 3 9

万英(2世ばんえい・波多野) → 万英(2世まんえい/ばんえい・波多野、俳人) L 4 0 1 1

万瑛(ばんえい;号) → 断崖(だんがい;号・玄初;法諱、臨濟僧) T 2 6 2 3

晩栄堂(ばんえいどう) → 秋村(あきむら・秋村しゅうそん・椎名、詩人) X 2 1 9 7

番易(ばんえき;号) → 宗播(そうは;法諱・叔英;道号、臨濟/五山文学) C 2 5 7 6

H3625 **半右衛門**(はんえもん・生駒いこま)1603-7775 備前岡山藩士/槍術家;島原乱に戦功、

藩主光政に近侍;禄3百石、1638(寛永15)「生駒半右衛門書上」著

H3627 **半右衛門**(はんえもん・津打つづつ/つうち、役者鈴木平左衛門男?)?-? 江中期大阪の歌舞伎役者/作者、

1701(元禄14)大坂加茂川のしほ座で若女形で初舞台/のち立役;鈴木平左衛門2世を継ぐ、

作者:初世津打治兵衛入門;樋口半右衛門を名乗り1706より江戸山村座で治兵衛と合作、

1709津打姓を受けて独立;作者業に精励;1711立作者/せりだし道具の創始者、

1713絵島生島事件で山村座断絶;一時活動停滞/1722森田座で再起;座付作者となる、

以後中村・市村・河原崎諸座で活躍、

1706「三国伝来伝」07「頼政五葉松」8「行平尾花狐」08「傾情一張弓」9「傾情佐々木問答」、

1713「花館太平愛護櫻」30「名月五人男」32「栄代蔵櫨鑑」35「東山殿吾妻日記」、

1737「結髪翡翠の柳」40「洗髪黄昏柳」43「花時飾東鑑」外著多数、

[津打半右衛門(；号)の別号]鈴木弁之助/2世鈴木平左衛門/樋口半右衛門/沈訃(；俳号)

H3628 **半右衛門** (はんえもん・柿並かきなみ、正克) 1767-1832⁶⁶ 長門萩藩士/直目付；江戸に住、
「衣紋方故実問答」著(；問)

H3629 **半右衛門** (はんえもん・原はら、名；安宅/別通称；源内、泰蔵男) 1823-64⁴² 出羽鶴岡の生/庄内藩士；
藩校致道館に修学/武道；1851直心影流の免許を受/53句詠師、57兄の養子；家督嗣、
1860蝦夷拝領地代官；天塩に赴任/64発病帰郷、笛/画；アイヌ風俗・蝦夷風景を彩色写生、
「蝦夷地日誌」著

半右衛門 (はんえもん・梅津) → 憲忠(のりただ・梅津、藩家老/連歌) E 3 5 9 4

半右衛門 (はんえもん・梅津) → 其雫(きてき・梅津忠昭、藩家老/俳人) B 1 6 5 5

半右衛門 (はんえもん・梅津) → 忠宴(ただよし・梅津、藩家老/兵学/歌) R 2 6 2 6

半右衛門 (はんえもん・樋口) → 半右衛門(はんえもん・津打つうつ/つうち、歌舞伎役/作者) H 3 6 2 7

半右衛門 (はんえもん・岡) → 親政(ちかまさ・福富ふくとみ、武将/藩士) B 2 8 8 1

半右衛門 (はんえもん・伊藤) → 単朴(探牧たんぼく・伊藤、医/談義本作者) 2 6 9 7

半右衛門 (はんえもん・堀田) → 梅園(ばいえん・堀田、商人/国学/歌) 3 6 6 3

半右衛門 (はんえもん・松平) → 忠根(ただね・松平まつだいら、幕臣/和学) Z 2 6 6 1

半右衛門 (はんえもん・大文字屋) → 松斎(しょうさい・比喜多ひきた、茶人) I 2 2 9 7

半右衛門 (はんえもん・鍵屋) → 安々(やすさだ・矢倉やぐら、商家/歌人) G 4 5 9 2

半右衛門 (はんえもん・竹村) → 夙夜(夙也しゆくや・竹村鶴叟、俳人) I 2 1 6 2

半右衛門 (はんえもん・三吉屋/美好屋) → 正胤(まさたね・立石、商家/歌) D 4 0 6 0

半右衛門 (はんえもん・木屋) → 我峰(がほう・木屋、俳人) D 1 5 2 2

半右衛門 (はんえもん・中野) → 吾扇(ごせん・中野なかの、俳人) D 1 9 1 7

半右衛門 (はんえもん・高野) → 眞斎(しんさい・高野たかの/広部、藩儒/詩) E 2 2 1 9

半右衛門 (はんえもん・山本) → 雪亭(せつてい・山本やまもと、棋士；碁) L 2 4 2 5

半右衛門 (はんえもん・岡本) → 継業(つぐなり・岡本おかもと、藩士/歌人) F 2 9 4 7

半右衛門 (はんえもん・松本/山田屋) → 太木(ふとき・大根おねの、狂歌) D 3 8 5 3

半右衛門 (はんえもん・大岡) → 元房(もとふさ・大岡おおおか/杉本、国学/歌) J 4 4 5 1

半右衛門 (はんえもん・藤田) → 雅言(まさこと・藤田ふじた、藩士/国学者) S 4 0 3 1

半右衛門 (はんえもん・国友) → 古照軒(こしょうけん・国友、藩儒/教育) M 1 9 8 0

半右衛門 (はんえもん・忠海屋) → 石霞(せつか・高橋/和田、商家/経済) K 2 4 7 6

半右衛門 (はんえもん・船坂) → 雅平(まさひら・船坂ふなさか、商家/和漢学) S 4 0 3 6

半右衛門 (はんえもん・入江) → 威斎(かんさい・富沢とみさわ、藩士/儒者) Q 1 5 5 8

繁右衛門 (はんえもん・天野) → 半醉(はんすい・天野あまの、藩士/文筆) I 3 6 1 0

繁右衛門 (はんえもん・岡本) → 穆堂(ぼくどう・岡本おかもと、藩士/文筆家) D 3 9 8 2

範右衛門 (はんえもん・豊田) → 嘉言(よしこと/よしのぶ・豊田とよだ、国学/歌) D 4 7 2 9

伴右衛門 (はんえもん・新倉) → 兎国(とくに・新倉にいくら、農業/俳人) L 3 1 7 3

伴右衛門 (はんえもん・近藤) → 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師) B 2 6 9 1

L3605 **範円** (はんえん・：法諱、東大寺別当弁曉男or興福寺権大僧都覚長男) 1155-? 平安鎌倉期；興福寺僧、
；覚弁門、1183(寿永2)維摩会研学/89(文治5)維摩会講師/1213(建保元)興福寺権別当、
権僧正/1223(貞応2)興福寺別当、理趣院・菊苑などに住、
1200(正治2)藤原定家を訪問(明月記)/歌人；玄玉集・檜葉集6首入、
弁曉男なら；宗兼むねかぬ(千載歌人)の曾孫/源円(叡山権少僧都)の弟、
覚長男なら；宗兼むねかぬの孫/信宗(続詞花集歌人)の弟/東大寺僧朗覚(奈良歌合歌人)の甥、
[ふしみ山すそわのたみのほだなれや霞のすゑにひばりおつなり](檜葉；春84)
[ながむべき友やまつらむ山のはに隠れもはてぬ有明の月](檜葉；秋254/理趣院にて)

範宴(はんえん・少納言公) → 親鸞(しんらん；法諱、浄土真宗祖) 2 2 3 0

範遠(はんえん/のりとお・猪熊) → 教利(のりとし・猪熊いのかま/四辻/高倉、廷臣/猪熊事件) H 3 5 1 3

- 晩園(ばんえん・藤沢) → 忠親(ただちか・藤沢ふじさわ、和算家) P 2 6 8 3
 蕃延(ばんえん・中田) → 蕃延(しげのぶ・中田なかつ、藩士/歌人) Z 2 1 5 6
 半翁(7世はんおう) → 肖年(しょうねん・八千坊はつせんぼう6世) Q 2 2 4 6
 範翁(はんおう・田代) → 三喜(三帰さんき・田代、医者;李朱医学) L 2 0 9 5
 H3630 万桜(ばんおう) ? - ? 大阪の俳人;万海[益友]門?、
 1691賀子「蓮実はすのみ」5句入、
 [春雨や黒子ほくろ算ふる姉妹あねいもと](蓮実;152/外で遊べぬ所在なさ)
 H3631 伴鷗(ばんおう・橋本はしもと) ? - ? 江中期紀伊湯浅の墨製造業;
 享保1716-36頃より柗葉形の墨を製造;紀伊藩主徳川宗直に献納/藤白墨を再興、
 詩に長ず/歌・俳諧を嗜む、1758「重澄殿父詠草」著、皐鶴の父
 [伴鷗(;号)の名/通抄/別号]名;益謙、通称;治右衛門/次源太、
 別号;瀕伴鷗ひんばんおう/湯浅軒とうせんけん
 伴鷗(ばんおう・竹内) → 以德(もちのり・竹内たけうち、藩士/国学) K 4 4 4 4
 伴鷗(ばんおう・野々村) → 良澄(よしずみ・野々村のむら、藩士/儒者) O 4 7 4 5
 磐翁(ばんおう・大槻) → 磐溪(ばんけい・大槻、儒/洋学者/詩人) 3 6 4 0
 伴鷗斎(ばんおうさい) → 長珊(ちようさん・猪苗代、連歌師) I 2 8 4 5
 板屋(ばんおく・安藝) → 文江(ぶんこう・安藝あき、材木商/俳人) F 3 8 1 8
 J3605 半瓜(はんか) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」入
 [聖人の非は蝕むくひの日のごとし](二葉之松361、蝕の日は日蝕)
 半海(はんかい) → 半湖(はんこ・羽鳥はとり、俳人) H 3 6 5 5
 晚霞(ばんか・杉野) → 多助(たすけ・杉野、藩士/文筆) P 2 6 0 3
 晚霞(ばんか・小島) → 文器(ぶんき・小島こじま、藩士/俳人) E 3 8 9 5
 晩花(ばんか・藤田) → 長左衛門(ちようざえもん・藤田、歌舞伎役・作者) I 2 8 4 0
 晩稼(ばんか・楫取) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5
 半海(はんかい・羽鳥はとり) → 半湖(初世はんこ・羽鳥はとり、俳人) H 3 6 5 5
 J3606 万芥(ばんかい/まんかい) ? - ? 江前期江戸俳人;1691不角「二葉之松」1句入、
 [誰が手にも同じ動きの要石かなめいし](二葉之松;174/要石は鹿島神宮林中の鯰押えの石、
 前句;根無ししかづらと人笑うなり/要石は誰でも同じに動く;鯰は虚説とみなが笑う)
 H3632 万回(ばんかい/まんかい;道号・一線いっせん;法諱) ?-1756 丹波の曹洞僧;太寧寺廬州全潮門;出家、
 撰津浄春寺の万苗幻如門;法嗣、天桂伝尊門;大きく影響を受ける、伊予溪寿寺住持、
 著書「青鶴原夢語」で中国曹洞禅の代付肯定論を主張;宜黙玄契・乙堂喚丑の反論を受ける、
 1536「証道歌直截」/40(元文5)「青鶴原夢語」、「洞宗通翼」「重離弁」「洞上古轍鐘甕聞解」著
 [万回一線の号]痴鈍者/鈍者
 H3633 磐海(ばんかい・小山こやま、泉石軒) ?-? 江後期讃岐の文筆家、1805「勝地百益」著
 万海(ばんかい・武村) → 益友(えきゆう・武村/竹村、俳人) 1 3 5 7
 万界夫(ばんかいふ) → 来川(らいせん・足立、俳人) 4 8 7 5
 万花園主人(ばんかえんしゅじん) → 留次郎(とめじろう・成田、朝顔研究) P 3 1 0 1
 L3607 範覚(はんかく;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 1237刊[檜葉集]入、
 [したもえの煙や空にみちぬらむおぼえずくもる月の影かな](檜葉;恋455/寄煙恋)
 半可山人(はんかさんじん) → 玉厓(ぎよくがい・植木うえき、幕臣/詩/狂詩) C 1 6 9 8
 飯頼山人(はんかさんじん→いいだのさんじん) → 鬼武(おにたけ・感和亭、戯作者) 1 4 2 3
 半化房(はんかぼう) → 半化房(はんげぼう) 初~3世
 半閑(はんかん;号) → 法住(ほうじゅう;法諱、真宗僧) F 3 9 0 6
 槃澗(槃澗はんかん・野呂) → 松廬(しょうろ・野呂のろ、儒者/詩人) C 2 2 1 2
 H3634 盤桓(ばんかん・丹羽にわ、名;勗つとむ、字;子勉、通称;嘉六、勇七男) 1773-1841 尾張藩士、書家、
 国学;本居春庭・鈴木朧・丹羽謝庵門、尾張藩藩右筆/藩校明倫堂の手跡指南、
 1819「平理策」、「歴代事実」、「木内嘉六法帖」、「離屋学訓附録答客問」著、輔之の父、
 [盤桓(;号)の別号]盤桓子/覚非道人、法号;志正院
 伴寛(ばんかん・ともひろ・高井) → 蘭山(らんざん・高井たかい、与力/戯作者) 4 8 0 4

- 半閑室(2世はんかんしつ) → 白輅(はくろ・永田ながた、藩士/俳人) E 3 6 1 6
 畔甘舎(はんかんしゃ) → 雲堂(うんどう・川勝、俳人) B 1 2 5 9
 畔甘舎(2世はんかんしゃ) → 雲扇(うんせん・井上いのうえ、俳人) D 1 2 8 8
 半甘生(はんかんせい) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
 晩甘亭(ばんかんてい) → 石居(せききよ・兼松かねまつ、藩/儒/教育) D 2 4 4 0
 槃澗道人(はんかんどうじん) → 天山(てんざん・坂本/阪本、砲術家/詩) D 3 0 5 7
 範基(はんき・藤原) → 範基(のりもと・藤原ふじわら、廷臣/歌) G 3 5 0 0
 範儀(はんぎ・内海) → 範儀(のりよし・内海うつみ、歌人) G 3 5 9 0
- H3635 万亀(ばんき;法諱、号;文川ぶんせん/五台禪師)?-? 江中期播磨赤穂の禅僧/詩人、
 「五台詩鈔」、日本詩選に3首入
- H3636 万亀(ばんき・千鶴庵せんかくあん)?- ? 江後期文化1804-18頃江戸の読本/狂歌作者、
 江戸桜田久保町に住、2世森羅万象(七珍万宝)社中で活動、
 1808読本「久智野石文くちのいしぶみ」著(;尋跡斎雪馬せつば画)、
 [千鶴庵万亀(;号)の通称/別号]通称;松井屋吉右衛門、別号;千客亭万亀
 晩器(ばんき・北川) → 春政(はるまさ・北川/恋川、絵師) G 3 6 8 8
 蕃吉(ばんきち・天羽) → 仏牛(ぶつぎゅう・天羽あもろ、藩士/俳人) D 3 8 2 8
 万器堂(ばんきどう) → 其楽(きらく・楠里亭なんりてい/小林、読本) H 1 6 6 3
- H3637 斑鳩(はんきゅう・森谷もりたに)? - 1807 伊勢南大路の俳人:江戸の重厚門、
 寛政1789-1801頃剃髪;天台僧/近江栗津義仲寺の住職、1802筑紫行脚の旅に出る、
 「以呂波韻」編/「近江人」著、一周忌追善集「霜のかね」、
 [斑鳩(;号)の別号]別号;祐昌/無名庵むみょうあん9世
 帆丘(はんきゅう・板倉) → 瑣溪(そうけい・板倉、儒者) E 1 9 9 7
 反求(はんきゅう・早野) → 橘隧(きつすい・早野はやの、儒者/講説/詩) I 1 6 6 5
- H3638 斑牛(はんぎゅう) ? - ? 美濃の俳人:1691江水「元禄百人一句」評判目録入
- H3639 万旧(ばんきゅう・横山よこやま)? - ? 江後期江戸の俳人:万里門、妻の花讃女も同門、
 1830(文政13)「萩陀羅尼はぎだらに」編(:妻の発句集)
 妻 → 花讃女(かさめ、古川まつ、俳人) C 1 5 0 6
- H3640 晩牛(ばんきゅう) ? - ? 江中期俳人:珪林門、馬光/楼川らと交流、
 師珪林1周忌・3・7回忌追善集編纂;1742「蓮の糸」/43「蓮社燈」/48「万燈供」編
 万笈斎桑魚(ばんきゅうさいそうぎよ) → 桑魚(そうぎょう・万笈斎、狂歌) B 2 5 0 7
 半九陳人(はんきゅうちんじん) → 息軒(そっけん・安井、儒者) 2 5 2 5
 汎居(はんきよ・山本) → 緑陰(りよくいん・山本やまもと、儒者/詩人) J 4 9 7 2
 半漁(はんぎょ/はんりょう・小笠原) → 東陽(とうよう・小笠原、儒者/教育) H 3 1 9 1
- L3608 範経(はんきょう;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 1237刊[檜葉集]入、
 [熊野に詣でて正月七日下午向し侍りけるに和歌浦にて若菜つむとて、
 わかのうらのあまとともにぞ磯なつむけふかすがのを思ひいでつつ](檜葉;神祇513)
- 半橋(はんきょう・牧まき) → 春堂(しゅんどう・牧、医者/文学) L 2 1 6 2
 半狂(はんきょう・中村) → 黒水(くすい・中村なかむら、藩士/儒者) G 1 9 4 9
 板橋(ばんきょう・永田) → 有功(ゆうこう・永田ながた、藩士/和算家) B 4 6 6 2
 蕃教(ばんきょう・吉田) → 蕃教(しげのり・吉田よしだ、国学者) S 2 1 1 5
 反喬舎(はんきょうしゃ) → 巴静(はじょう・太田、俳人) 3 6 1 3
 反喬舎(はんきょうしゃ) → 巴雀(はじゃく・武藤、商人/俳人) E 3 6 4 5
 万極(ばんぎょく;道号) → 万極(まんごく;道号・良寿、曹洞僧) K 4 0 5 3
- H3641 万玉(ばんぎょく) ? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句入、
 1691賀子「蓮実」1句入、
 [男ともしらたでこがるゝ磯きぬた哉](蓮実;331/どんな女性が打っているのかと)
- H3642 盤玉(ばんぎょく) ? - ? 1723存 京東山浄土宗禅林寺僧;同寺玉溪堂主、
 「教観綱宗考」著
 盤玉(ばんぎょく・佐竹) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3

- 半局庵(はんきょくあん) → 逸志(いっし・木村・笠家、俳人) B 1 1 4 3
 半漁者六村(はんぎょしゃろくそん) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5
 汎近(はんきん・森本) → 汎近(ひろちか・森本もりもと/紀、国学/歌) M 3 7 0 8
- H3643 半九(はんく・五返舎ごへんしゃ)?- ? 江戸芝の菓子商/のち深川六軒堀に移住、
 戯作;初世十返舎一九門、1813「五斗米名譽滝水」17「桃太郎宝撰取」「化物大福餅」著、
 1849「臍の茶わかし」、「茶番今様風流」「落嘶仕立おろし」「心学穴さがし」「福鼠宝入船」著、
 [五返舎半九(;号)の別号] 銀鈴亭
- L3612 範空(はんくう:法諱) ? - ? 鎌倉期;南都興福寺の法師/歌;1237刊[檜葉集]2首入、
 [律師尊海(のち法印権大僧都)月次の歌、
 伊勢志摩やかすまらずともおほよどの浦のまつ風ゆるく吹くなり](檜葉;雑750)
- H3645 範空(はんくう・示観房) ? - 1353 京黒谷の浄土宗金戒光明寺7世、示導康空門、
 のち黒谷6世任空門、浄土義の弘通に尽力、歌:新拾遺1718、
 [いとどなほ行き来もたえて世をいとふ山のかひある庭の白雪](新拾遺:雑1718)
- H3646 半九郎(2世はんくろう・金井かない、屋号;筒屋、金井三笑の長男)?-? 江戸歌舞伎市村座作者/奥役、
 金井三鳥・初世金井由輔の兄
 半九郎(初世はんくろう・金井) → 三笑(さんしょう・金井かない、歌舞伎作者) 2 0 5 2
 半九郎(はんくろう・田宮) → 半兵衛(はんべえ・田宮たみや、藩士) I 3 6 5 2
 半九郎(はんくろう・青木) → 存久(ながひさ・青木あおき、歌人) K 3 2 7 3
 半九郎(はんくろう・田林) → 有友(ありとも・田林たばやし、商家/国学) H 1 0 8 5
 半化(はんげ) → 關更(らんこう・高桑、俳人/画) 4 8 0 3
- H3647 半溪(はんけい) ? - ? 江中期江戸俳人:心祇しんぎ[魚貫ぎょかん]門/四時観派、
 1716(享保元)「井蛙問答」-35「麓集」編
- H3648 汎兮(はんけい・石川いしかわ、名;善衛、円意堂)?-? 江後期陸中盛岡の商人、俳人:姫岳門、
 1822「汎兮筆鈔録」
 飯溪(はんけい・目黒) → 道琢(どうたく・目黒めぐろ、医者) G 3 1 3 3
 半溪(はんけい・浅井) → 玄香(げんこう・浅井あさい、藩士/詩) I 1 8 7 5
 半溪(はんけい・岡/広瀬) → 保庵(ほあん・広瀬/岡、医者) 3 9 0 5
 胖卿(はんけい・横山) → 広(ひろし・横山よこやま、藩士/儒者/歌人) M 3 7 3 3
 範経(はんけい;法諱) → 範経(はんきょう;法諱、僧/歌人) L 3 6 0 8
 攀卿(はんけい・中川) → 淳庵(じゅんあん・中川、医者/蘭学者) J 2 1 1 9
 潘蹊(はんけい・齋藤) → 多須久(たすく・齋藤さいとう、神職/国学) X 2 6 3 2
 磻溪(はんけい・長谷川) → 弘(ひろむ・長谷川/佐藤、和算家) H 3 7 4 6
 繁景(はんけい→しげかげ・朝倉) → 孝景(たかかげ・朝倉あさくら、武将/家訓) L 2 6 6 6
- 3640 磐溪(ばんけい・大槻おおつき、玄沢2男/本姓;平) 1801-7878 江戸の学者/漢籍;父門/儒;井上四明門、
 1816昌平覺入;林述斎門、1832(天保3)陸前仙台藩江戸藩邸の侍講(父が仙台藩医)、
 1841(天保12)武州徳丸ヶ原の高島秋帆の西洋砲術演習参加;大塚同庵門/開国論を主唱、
 1862(文久2)仙台に移住;藩校養賢堂の学頭副役、1869佐幕側の故入獄/71出獄、
 東京で亡国の遺臣として風雅の道に遊ぶ、詩人;藍涯・直温なおはると3詩友、如電・文彦の父、
 「仏蘭西王詞十二首」/1854「近古史談」65「国史百詠」「遠西紀聞」「奇文欣賞」「昨夢詩曆」著、
 詩文集「寧静閣集」(15巻)「磐溪詩鈔」、「磐溪隨筆」外著多数、詩「題太田道灌借蓑図」が有名、
 [磐溪(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;六次郎、名;清崇きよたか、字;士広、
 通称;平次、別号;江陰(江隠)/磐翁/卍翁、寧静/寧静子/鴻漸斎、法号;尚文院
- H3649 蟠雞(ばんけい:法諱) ? - ? 出羽の真宗明覚寺住職、「真宗勸辨談」著
- H3650 鑊啓(ばんけい:法諱・宝巖;字) 1718-9477 磐城真言僧;宥春阿闍梨門;出家、智積院で修業、
 湛慧門;俱舎・唯識を修学、快侃・洞泉・浄空門;中性院流・幸心流を受、
 1773江戸真福寺24世/80智積院23世;82僧正、1787智積院を退隠、「六太法身問答」著、
 1784「金剛界伝授私記」「胎蔵界伝授私記」「不動護摩伝授私記」著、「護摩口説記」著
- 盤珪(ばんけい:道号) → 永琢(ようたく:法諱・盤珪、臨濟僧) B 4 7 4 4
 万頃(ばんけい・鈴木) → 一鳴(いちめい・鈴木すずき、藩士/儒者) G 1 1 4 4
 万頃(ばんけい・益田) → 勤斎(きんさい・益田ますだ、篆刻家) H 1 6 8 7

- 盤溪隱士(ばんけいいんし) → 空阿(くうあ;号、浄土僧/歌/紀行) C 1 7 1 8
攀桂堂(はんけいどう) → 治右衛門(じえもん・勝村、京書肆) P 2 1 6 8
半偈齋(はんげさい) → 元寔(げんじつ・玉澗、臨濟僧/詩人) K 1 8 0 7
伴月(ばんげつ・熊谷) → 直孝(なおたか・熊谷くまがい、商人/勤王家) B 3 2 5 1
半月庵(はんげつあん) → 幻阿(げんあ・小渕おぶち、俳人) H 1 8 6 0
攀月観(はんげつかん) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/俳歌人) 1 6 9 8
半月齋(はんげつさい) → 蘭汀(らんてい・秦はた、儒者) D 4 8 0 3
半月亭(はんげつてい) → 野楊(やよう・軽森かるもり、藩士/俳人) E 4 5 3 3
半化房(初世はんげぼう) → 關更(かんこう・高桑、俳人) 1726-98 4 8 0 3
半化房(2世はんげぼう) → 貞松(ていしょう・遠藤、關更門俳人) 1759-98 B 3 0 2 1
半化房(3世はんげぼう) → 長成(ちようせい・菅、俳人) 1794-1831 J 2 8 1 5
- H3651 範憲(はんけん:法諱、法印尊憲男/俗姓;藤原) 1247-1339長寿93歳 法相宗興福寺僧;憲弘門、
三蔵院を開く/1282護摩会講師/99興福寺別当/1307大僧正;通称三蔵院大僧正、
歌人;1315「詠法華經和歌」参/「布留社三十六首歌」勸進、勅撰11首;
新後撰(693/1254)玉葉(187/2537)続千(1005/1014)続後拾(1309)風(3首)新千(732)、
[さとりべき道とてさらに道もなし迷ふ心も迷ひならねば](新後撰;釈教693/迷悟一如)
畔見(はんけん・石田) → 畔見(くろみ・石田いじだ、歌人) E 1 7 0 3
繁憲(はんけん・山内) → 繁憲(しげり・山内やまうち、商家/国学/神職) Z 2 1 9 4
- H3652 範玄(はんげん、藤原為業[寂念]男) 1137-9963 藤原為忠の孫/為経(寂超)・頼業(寂然)の甥、
興福寺の法相僧;1170法橋、72最勝講講師/73権律師、元興寺別当/蓮花王院修理別当、
1185(元暦2)権大僧都/88法印/91法隆寺別当/95興福寺別当、南都仏教界の重鎮、
1198(建久9)後鳥羽上皇との対立激化;玄俊が興福寺衆徒を扇動の理由で佐渡へ配流、
間もなく権僧正;辞任、中山に籠居、三蔵院主、
歌人;奈良歌壇の重鎮/九条兼実・寂蓮・藤原教長・顕昭と交流、
1178賀茂別雷社歌合/95民部郷経房家歌合参加/自坊で歌合を主催、
月詣集・玄玉集・檜葉集(13首)入、
勅撰5首;千載(4首132/596/1188/1269)続後撰(279)、
[花の春かさなるかひぞなかりける散らぬ日数のそはばこそあらめ](千載;春132、
閏三月尽に詠む/花が散らぬ日数が加わらないなら閏月も甲斐がない)、
[いとほるる我が身ならずはいかにして人のつらさを思ひしらまし](檜葉;恋429)、
[範玄(:法諱)の号] 中山なかやまの僧正/伊賀僧正、二条院三河内侍の兄、
☆息子;覚範(法橋)・玄俊(権律師/配流)・信定(尋定/律師)・信舜(法眼)・円経(僧正)
蕃謙(はんけん・林) → 正謙(まさかた・林はやし、藩士/国学) R 4 0 9 2
万元(番現はんげん;字) → 慧海(えかい;法諱・万元/番現、真言僧) D 1 3 4 9
蕃元(はんげん;名) → 喜安(きあん、茶人) J 1 6 5 0
半間主人(はんげんしゅじん) → 秦里(しんり・北原きたはら、藩士/詩/画) Q 2 2 0 4
半兼老人(はんけんろうじん) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8
- H3653 磐子(はんこ・森もり/袴田はかまだ、森もり暉昌てるまさ女) 1718-9679 遠州浜松郷曳馬五社神社の神官家の生、
国学;父門/歌文;賀茂真淵門/琴も嗜む、袴田為寿ためかずの妻(入婿)、
内山真竜夫妻・高林方朗らと交流、
家集「玉かしは」著(288首;高林方朗撰)、本居大平「八十浦の玉」上巻入、
[磐子(;名)の別名] 繁子いげ・しげきこ/はん
[夏山の木陰に立ちて見渡せば遠里小田に早苗とる見ゆ]、
(八十浦;上175/山辺に行きて遠方に苗ううるを見て)
- H3654 反古(はんこ・小林こばやし) 1742- 181776 信州善光寺新町の穀物商/素封家、
俳人;戸谷猿左/のち一茶門、成美主催の月並で北信濃の取次役、蕪村と交遊、
遠州流活花;嶋一秀門、「時津風東道の記」「東都道の記」「都詣で木曾の記」著、
「反古発句集」「越後二十四輩道之記」著、
[反古(;号)の通称/別号]通称;久七、別号;撞木林しゅもくりん/秀古、屋号;美濃屋
- H3655 半湖(はんこ・羽鳥はとり) 1810 - 188273 上州群馬郡板井の生/楯村の佐藤家養嗣;

養父の虐待を受け家出、俳人：可布庵逸淵門/禅学；松島瑞巖寺上人門、全国行脚、
のち江戸住；名声を得る/1880帰郷、高井半湖(2世)の師、
1862「椿塚集」編/70「広涯五百題」74「半湖句集」著、
[半湖(；号)の通称/別号]通称；秀乃進、別号；半海/櫻州庵(いしゅうあん)

範古(はんこ・山崎) → 範古(のりひさ・山崎、藩家老/系譜作成) F 3 5 5 1
畔古(はんこ・杉村) → 家友(いえとも・杉村せむら、神職/俳人) E 1 1 8 9
磐湖(はんこ・福田) → 半香(はんこう・福田ふくだ、絵師) H 3 6 5 9
半吾(はんご・内田) → 久命(ひさなが・内田、藩士/和算家) B 3 7 7 0

H3656 盤古(ばんこ・六華亭) ? - ? 備前下津井俳人；支考門、備中の除風/露堂と親交、
1705(宝永2)師支考を迎え「乙酉紀行」編、1705「六華集」編

I3685 伴古(ばんこ) ? - ? 安藝宮島連歌/俳人；野坡門、1716露川「西国曲」入、
1730里紅(廬元坊)「藤の首途」入、39「伊都岐(巖)島八景」巖島連中共編(以金/胡洞/伴古)

H3657 万戸(ばんこ・金井かない、長久男) 1770?-1832 63? 上州佐位郡島村の豪農の生/儒；古賀精里門、
俳人；似鳩/蓼太門、酒井抱一・谷文晁と交流、
1814「東海紀行」著、26「誹諧言葉廻本鏡」「誹諧言葉廻花籠」編、27-31「島農眞砂」初-三編、
1周忌追善集「竹の落葉」、莎邨(さそん/鳥洲(うしゅう)の父、
[万戸(；号)の名/字/通称/別号]名；長徳、字；伯恵、通称；文八郎/彦兵衛、
別号；対鷗/華竹庵/呑山楼/馬鹿[歌]山人

伴古(ばんこ・樽井) → 伴古(ともひさ・樽井たるい、醸造業/歌人) V 3 1 7 4
盤古(ばんこ・未来坊) → 月巢(げつそう・山村、時雨窓2世、俳人) B 1 8 1 2
番虎(ばんこ；俳名) → 三右衛門(さんえもん・嵐、歌伎役者) E 2 0 1 5
半古庵(はんこあん) → 光重(みつげ・丹羽にわ、藩主) D 4 1 5 3
万古庵(ばんこあん) → 尹督(いんとく・小川、俳人) E 1 1 6 4

H3658 半江(はんこう・岡田おかだ、名；肅、字；子羽、米山人(べいさんじん)男) 1782-1846 65 大阪米穀商/文人画；父門、
伊勢津藩大坂蔵屋敷に出仕、山陽/竹田/平八郎らと交遊、1810安積家障壁画を父と合作、
1841「春霞起鴉図」、「住吉眞景図」画、[半江の別号] 寒山/独松楼

H3659 半香(はんこう・福田ふくだ、名；佶(き)きつ、眞直(まななお)男) 1804-64 61 遠江目附宿の旅籠の生、
絵師；1813頃掛川藩御用絵師村松以弘門/1824江戸の匂田台嶺門、写生と花鳥画を独学、
1830；改号；半香、1833(天保4)渡辺崋山門、師に従い江戸で活動；高弟/崋山十哲の1、
南画家山水画に長ず、関東を旅巡業、1840塾居中の師を三河田原に慰問；書画会を企画、
田原藩の疑惑で師崋山を切腹に追い込む原因となる、悔恨消沈後；緻密繊細な作品を描く、
晩年；水墨画、「洞房春意」補、「浅絳山水図」「秋景山水図」「冬景山水図」「山水図屏風」画、
[半香(；号)の字/通称/別号]字；吉人、通称；恭三郎、
別号；磐湖(はんこ(；初号)/暁夢/暁夢生/暁斎/松蔭山房/松蔭邨舎

半江(はんこう・市河) → 寛斎(かんさい・市河/河、詩人) 1 5 4 8
胖広(はんこう・宮沢) → 竹堂(ちくどう・宮沢みやざわ、詩人) D 2 8 6 3
範行(はんこう・稲若) → 範行(のりゆき・稲若いなわか、藩士/武術/歌) H 3 5 3 9
範綱(はんこう・藤原) → 範綱(のりつな・藤原、平安期歌人) F 3 5 0 8
範綱(はんこう・藤原) → 範綱(のりつな・藤原、鎌倉期歌人) G 3 5 4 5
繁高(はんこう・日夏) → 繁高(しげたか・日夏ひなつ、藩士/兵学者) C 2 1 3 0
繁高(はんこう・生島) → 繁高(しげたか・生島いくしま、神職) N 2 1 3 6
幡光(はんこう；字) → 詮海(せんかい；法諱、融通念仏僧) I 2 4 7 0
幡岡(はんこう・吉岡) → 羽人(うじん・吉岡よしおか、俳人) C 1 2 8 7
泛梗(はんこう；号) → 賢谷(けんこく；道号・宗良、臨濟僧) I 1 8 8 6

H3660 晚香(ばんこう・江幡(えぼた)通貞の長男) 1805-81 77 羽後秋田大館の儒者/詩；大沼枕山門、
書画/歌/俳諧に通ず、家塾開設、「晚香詠草」「晚香詩集」「晚香詩文」「晚香園間話」著、
「田園詩集」「却余閑集」「漁樵話資」「和歌人物百題」「和漢人物百詠」「雅纂」著、
妻；小屋岩子(いこ(；歌人)、通静(みちきよ・通理(みちまさ)の父、
[晚香(；号)の名/字/通称]名；通寛(みちひろ)、字；子厚、通称；味右衛門

H3661 磐瀆(ばんこう・多賀、字；君子、笠沢(りゅうたく)宣平男/本姓平) ?-? 江戸期文筆家、「笠沢筆塵」

K3628 晩香(ばんこう・渋江しづえ、涪灘とんだん3男)1833-1914⁸² 肥後菊池郡の代々の教育者;父門、公穀の弟、14歳のとき父没/学問;木下梅里門/のち梅里兄の木下鞆村いそん門;1857(25歳)鞆村塾在塾中に肥後藩家老家に招聘:教育係、1863(31歳)藩命で大津郷文芸指南役/大津に渋江塾(紫翠山房)を開設、のち帰郷;菊池神社宮司、1873私塾[遜志堂]開設;1906まで門弟1500名、[晩香(;号)の名/字/別号]名;公雄/公木^{きみき}、字;子訥、別号;遜志堂

万香(ばんこう・前田) → 利保(としやす・前田、藩主/本草/歌) O 3 1 0 1
 晩香(ばんこう・石黒) → 魚淵(なぶち・石黒いしくろ、藩士/国学者) G 3 2 8 5
 晩香(ばんこう・沢井) → 鶴汀(かくてい・沢井さわい、儒/詩人) K 1 5 2 5
 晩香(ばんこう・岡部) → 菊涯(きくがい・岡部おかべ、儒者/詩人) E 1 6 2 5
 晩香(ばんこう・半井) → 仲庵(ちゅうあん・半井なからい、藩士/医者) F 2 8 7 6
 晩香(ばんこう・松倉) → 恂(じゆん・松倉まつくら、藩士/財政/記録) 2 1 8 7
 晩香園(ばんこうえん) → 芳斎(ほうさい・青木/湯浅、蘭方医者) 3 9 8 5
 万垢君(ばんこうくん) → 鳩谷(きゅうこく・萩野/孔平くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4
 晩香山人(ばんこうさんじん) → 雪窓(せつそう・五弓ごきゅう久文、国学/儒) E 2 4 5 1
 晩香廬(ばんこうろ/晩香堂) → 宕陰(とういん・塩谷しおのや、儒/詩) 3 1 0 3
 範国(はんこく・平) → 範国(のりくに・平たいら、廷臣/歌人) E 3 5 4 5

H3662 盤谷(磐谷・初世ばんこく・志水しみず)1679-1748⁷⁰ 大阪の俳人:宗因門、江戸瀬戸物町住、1702帰阪、1702「桑梓格そしかく」編、1702「花見車」入、追善集「冬至梅」(栖鶴編)、門弟尾谷が盤谷2世嗣、[鍋のまゝ洗足せんぞくとらん花のくれ](花見車;83/陸奥の旅;盥でなく鍋のまま洗足)、[盤谷の別号] 泉亭/泉宇/泉于/雪香斎

H3663 磐谷(ばんこく・熊坂/熊阪くまさか、台州男)?-? 寛政享和1789-1804頃岩代伊達郡高子の儒者、漢学;父門、江戸で谷文晁と交流、父の跡を継嗣、1787「信達歌」注/1800「南遊栢載録」編、1801「戌亥遊囊」著/03「永慕後編」編/1822刊「継志編」「継志後編」編、「西遊紀行別録考証」「游相稿」「磐谷山人稿」著、[磐谷(;号)の名/字/通称]名;秀、字;君実/君美、通称;宇太郎/宇右衛門父 → 台州(たいしゅう・熊坂くまさか、1739-1803、儒者/教育) 2 6 0 5

H3664 盤谷(ばんこく・吉田よしだ、名;全、字;士徳/通称;源之助)1776-1827⁵² 筑前福岡藩儒、「紀奉仕抄」「宋元明鑑」「元警備編」著

盤谷(2世ばんこく) → 尾谷(初世びこく、俳人) 3 7 5 4
 盤谷(ばんこく) → 千春(ちはる・今泉、歌人) F 2 8 1 8
 盤谷(ばんこく・野呂) → 松廬(しょうろ・野呂のろ、儒者/詩人) C 2 2 1 2
 万国(ばんこく・宗春) → 万国(まんこく;道号・宗春;法諱、曹洞僧) K 4 0 5 2
 半孤軒(はんこけん) → 省我(せいが・半孤軒/一三子、俳人) E 2 4 1 8
 万古亭(ばんこてい) → 去角(きよかく・鈴木すずき、藩士/俳人) H 1 6 1 1
 半五郎(はんどろう・須藤) → 忘斎(ぼうさい・須藤すどう、藩士/教授) 3 9 9 1
 半五郎(はんどろう・佃屋) → 昆陽(こんよう・青木、儒/蘭学/甘藷研究) 1 9 5 5
 半五郎(はんどろう・吉沢) → 尺童(せきりゅう・吉沢、国学/俳人) D 2 4 9 6
 半五郎(はんどろう・近藤) → 光輔(みつすけ・近藤こんどう、国学者/歌) D 4 1 6 7
 半五郎(はんどろう・辻) → 守静(もりきよ・辻/源/三枝、幕臣/歌人) F 4 4 3 6
 半五郎(はんどろう・門阪) → 登吉(たかよし・門阪かどさか、商家/国学) W 2 6 5 4
 半五郎(はんどろう・沢田) → 正武(まさたけ・沢田さわだ/奥田、国学者) Q 4 0 0 4
 半五郎(はんどろう・吉田) → 芳充(よしみつ・吉田よしだ、庄屋/尊攘家) Q 4 7 0 6
 蕃五郎(ばんごろう・北) → 保興(やすおき・北きた、幕臣/歌) B 4 5 0 6
 繁根(はんこん・千頭) → 繁根(しげね・千頭せんどう/菅原、藩士/歌) P 2 1 2 8
 磐根(ばんこん・阿部) → 磐根(いわね・阿部・阿閉・阿幣あべ、国学者) I 1 1 4 3
 磐根(ばんこん・木宮) → 磐根(いわね・木宮きみや、戸長、国学/歌) K 1 1 1 5
 磐根(ばんこん・安部井) → 磐根(いわね・安部井あべい/源、藩士) J 1 1 7 5
 磐根(ばんこん→いわね・日比野/水谷) → 民彦(たみひこ・水谷、商家/国学) S 2 6 2 8
 磐根(ばんこん・斎藤) → 磐根(いわね・齋藤さいどう、村長/国学) K 1 1 2 9

- 磐根翁(ばんこんおう) → 常逢(つねあい・深沢ふかざわ、神職) B 2 9 4 4
- H3665 半蓑(はんさ・松波まつなみ/森もり) 1815-6652 美濃岐阜加納の脇本陣松波藤右衛門の弟、森家の養子、岐阜加納町の醤油業、儒;加納藩儒吉田東堂門、詩人/謡曲に通ず、俳人;青木奚花坊門;加納の文台を受く、1860(万延元)「寒梅集」著、[半蓑(;号)の通称/別号]通称;孫作、別号;雨後園、法号;敬徳院
- 範佐(はんさ・平沢) → 了佐(りょうさ・古筆こひつ、鑑定家/俳) H 4 9 5 6
- H3666 半斎(はんさい・勝田かつた猷、荒井保之男/広孝養嗣) 1780-183152 幕臣;儒官/徒目付/1828書物奉行、昌平鬻出/詩・文章、1823「声応集」、「貧政」「声応集」「御悍馬説」「雑説四首」「半斎摘稿」、[半斎の字/通称]字;士信/子信/成信、通称;弥十郎
- H3667 范斎(はんさい・名越なごや、名;政敏、富田敏好男) 1782-184362 名越なごや南溪なんけいの養子/水戸藩士、儒者、「文苑授簡」編、[范斎(;号)の通称]通称;十蔵
- 半斎(はんさい・細合/合) → 斗南(となん・細合ほそあい、儒/詩/書家) O 3 1 5 8
- 半斎(はんさい) → 八朗(はちろう・宮本、俳人) E 3 6 9 8
- 半斎(はんさい・田中) → 蘭溪亭泉(らんけいていいづみ、田中、狂歌) B 4 8 9 1
- 般斎(はんさい・亀屋) → 亀丈(きじょう、俳人) K 1 6 9 2
- 範濟(はんさい;字) → 義潭(ぎたん;法諱・範濟、真言律僧) L 1 6 1 6
- 3641 磐斎(ばんさい・加藤かとう、新五左衛門男) 1625-7450 京生/1635(11歳)父に死別;祖父忠兵衛に養育、儒;松永尺五門/歌・歌学:松永貞徳門、神道;卜部家入門/俳諧を嗜む、古典研究に専念、小野山に隠棲/各地漂泊行脚/1665撰津山田に隠棲、1655「土佐日記見聞抄」編、1660「伊勢物語初冠」/61「徒然草抄」「諷うたい増抄」/62「新古今増抄」65俳論「俳諧談」著、1668「伊勢物語新抄」/69「詠歌大概註」「百人一首増抄」/74「方丈記抄」、「大原紀行」著、「光源氏物語大意」「大和物語抄」「三十六人歌仙和歌抄」「芳野花見記」著、外著多数、没後;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、歌;1722松堅[倭譚五十人一首]入、[枕してこれに初音や時鳥](手鑑)、[紅葉する色にかへてや峰の松かしこき御代の冬にあふらし](倭譚五十人一首;3、冬嶺松/陶潜;秋月は明輝を揚げ 冬嶺孤松秀づ[四季])、[加藤磐斎(;号)の通称/別号]通称;新太郎/浜五郎、別号;盤斎/踏雪軒/臨淵軒、冬木斎/等空/槃柴/槃斎/盤斎/灘淵だんえん/臨淵
- H3668 磐斎(ばんさい・岡田おかだ/本姓;吉川、初姓;牧村まきむら) 1661-174484 奈良の僧;1677母に死別;仏門、1682江戸で岡田家を継嗣/40歳頃儒仏を棄て神道家;正親町公通・玉木正英門、跡部良頭と親交/門人への神道伝授に尽力、「玉籤集口伝」「口授秘伝」「神学承伝記」著、「渾沌伝」「十首神宝伝」「神楽伝」「神道輯拾」「神の鳥居」「磯波翁家集」外著多数、[磐斎(;号)の名/通称/別号]名;正利、通称;左近/左衛門、別号;磯波翁いそなみおう/潮翁、法号;元有院
- H3669 晩斎(ばんさい・市川いちかわ) 1766-183166 兄市川忠篤の養子;安藝広島藩儒、儒;香川南浜門;1794南浜の家塾修業堂の助教;古学を教導と塾の運営、1819(文政2)広島藩勘定所詰;「芸藩通志」編纂に参画(総督は頼杏平)、1821修業堂教授に戻る/藩学問所にも出仕、1823「南浜香川先生行状」著、[晩斎(;号)の名/字/通称]名;寧、字;君安、通称;太輔
- 磐斎(ばんさい・吉弘) → 菊潭(きくたん・吉弘よしひろ、藩士/儒者) B 1 6 0 1
- 蕃斎(ばんさい・賀川) → 秀益(しゅうえき・賀川かがわ/太田、医者) W 2 1 6 8
- H3670 半左衛門(はんざえもん・和久わく、又兵衛宗是2男) 1578-163861 母;和久掃部女、大阪の生、豊臣秀頼の右筆、1614冬陣;豊臣家密書を伊達政宗陣に持参途中東軍に捕虜;伊豆三島に禁錮、1616伊達政宗の請願で赦免;政宗の家臣、1619近習;1千石余を領す;栗原郡沼倉村に住、書:近衛信尹(三藐院)門、律呂;大森宗勲門/馭馬;森吉則門、晩年は書家として門弟指導、「百人一首」「和久半左衛門手本」書、「朝鮮征伐略記」著、[半左衛門(;通称)の名/別通称/号]名;宗友/是成/俊英/隆宗、別通称;出雲、号;是安
- H3671 半左衛門(はんざえもん;通称・平山ひらやま) 1642-171271 陸奥五所川原福川村の肝煎/庄屋、村の開発に尽力、1690息子の孫十郎に家督を譲る、家日記「平山日記」著
- K3683 半左衛門(はんざえもん;通称・三浦みうら、名;忠良ただよし) ?-1815 長門萩藩士;手元役、

[門毎の小松にふるゝ風迄も千とせを呼ばふ御代の初春]([萩の歌人]入)

- 半左衛門(はんざえもん・松平)→可正(よしまさ・松平/鈴木、藩士/歌人)H 4 7 0 0
半左衛門(はんざえもん・朝比奈)→可長(よしなが・朝比奈あさいな、藩士/武術)F 4 7 2 7
半左衛門(はんざえもん・伊奈)→忠順(ただのぶ・伊奈いな、代官/河川工事/救民)K 2 6 4 7
半左衛門(はんざえもん・木津/服部)→土芳(どほう・服部/木津、藩士/俳人)3 1 5 7
半左衛門(はんざえもん・水野)→守政(もりまさ・水野みずの/荒尾、旗本幕臣)L 4 4 9 3
半左衛門(はんざえもん・朽木)→尚綱(なおつな・朽木くつき/源、幕臣/歌)K 3 2 1 1
半左衛門(はんざえもん・三木)→之幹(ゆきもと・三木/源、藩士/記録)F 4 6 8 2
半左衛門(はんざえもん・宮田)→清貞(きよさだ・宮田みやた、藩士/記録)H 1 6 3 8
半左衛門(はんざえもん・河崎)→延貞(のぶさだ・河崎、神職/医者)B 3 5 4 5
半左衛門(はんざえもん・堀田)→吉成(よしなり・堀田ほった、和算家)F 4 7 3 8
半左衛門(はんざえもん・太田)→子規(しき・太田おた、儒者;韻学)P 2 1 9 7
半左衛門(はんざえもん・小川)→行岑(ゆきみね・小川おがわ、藩士/歌)G 4 6 6 8
半左衛門(はんざえもん・名倉)→信充(のぶみつ・名倉なくら、藩士/日記)D 3 5 4 7
半左衛門(はんざえもん・間部/遠山)→則象(のりかた・遠山とおやま、幕臣)E 3 5 3 9
半左衛門(はんざえもん・佐善)→礼耕(れいこう・佐善さぜん、藩儒臣)5 1 2 7
半左衛門(はんざえもん・須田/長谷川)→素丸(そまる・長谷川、馬光、幕臣/俳人)2 5 2 9
半左衛門(はんざえもん・浅井)→寥和(3せりょうわ・浅井あさい、俳人)J 4 9 6 7
半左衛門(はんざえもん・加藤)→雲堂(うんどう・加藤、空門子/俳人)B 1 2 5 8
半左衛門(はんざえもん・吉田)→風圭(ふうけい・吉田よしだ、藩士/俳人)3 8 4 8
半左衛門(はんざえもん・大西)→吟墨(ぎんぼく・大西おおにし、俳人)E 1 6 6 7
半左衛門(はんざえもん・三木屋)→蛸洲(れいしゅう・寺崎、儒/詩)5 1 3 7
半左衛門(はんざえもん・沼田)→月斎(げっさい・沼田ぬまた、藩士/絵師)H 1 8 0 5
半左衛門(はんざえもん・末守)→芦角(ろかく・末守すえもり、俳人)B 5 2 8 2
半左衛門(はんざえもん・岩手)→盛雄(もりお・岩手いわて、藩士/歌人)J 4 4 3 4
半左衛門(はんざえもん・吉田)→正顕(まさあき・吉田よしだ/藤原、歌人)M 4 0 1 8
半左衛門(はんざえもん・徳永)→一信(かずのぶ・徳永とくなが、国学者)V 1 5 1 2
半左衛門(はんざえもん・原)→胤敦(たねあつ・原はら、蝦夷開拓/地誌)Z 2 6 1 1
半左衛門(はんざえもん・長雄)→耕雲(こううん・長雄ながお/修姓;長、書家)H 1 9 4 6
半左衛門(はんざえもん・倉科)→希言(まれこと・倉科くらしな、歌人)P 4 0 4 6
半左衛門(はんざえもん・奈良井)→秀萃(ひでとみ・奈良井ならい/高山、歌人)K 3 7 3 4
半左衛門(はんざえもん・宍野)→半(なかば・宍野しの、藩士/神職/扶桑教)N 3 2 3 1
判左衛門(はんざえもん・高橋)→東陽(とうよう・高橋たかはし、儒者/詩人)H 3 1 7 6
判左衛門(はんざえもん・恒川)→登壽(としひさ・恒川つねかわ、藩士/歌)N 3 1 4 6
判左衛門(はんざえもん・原田)→眞英(まさひで・原田はらだ、藩士/国学)S 4 0 0 0
繁作(はんさく・唐木)→善武(よしたけ・唐木からき、商家/国学/歌)M 4 7 2 7

H3672 伴作(ばんさく・大島おおしま)1806-1884? 上州新田郡大島村太田の名主/国学者・歌人、
国学;生田万門/歌:橘冬照門、1868京都御歌所高松保実の命で上野国和歌説諭取締兼幹事、
1874新田神社の社掌、「雅俗雑記」「上洛紀行」著、1874歌集「新田百首詠和歌」著、
[伴作(;通称)の名] 幸吉(幼名)/義矩よしのり

盤錯狂生(ばんさくきやうせい)→重熙(しげひろ・一色いっしき、藩士/漢学者)S 2 1 4 8

H3673 盤察(ばんさつ;法諱・厚誉/不絶;号)?-1730 浄土宗布教僧:京北野浄円寺住持、1686「茶考」著、
1689「観心往生論直解」99「八相事略」1715説話「扶桑故事要略」21「除睡鈔」22「温故要略」著、
1723「勸化求道集」28「因果応報要略」著、長編説話「小夜中山靈鐘記」著(没後1748刊)

半三郎(はんざぶろう・井上)→重成(しげなり・井上いのうえ、幕臣/連歌)R 2 1 8 5

半三郎(はんざぶろう・堀)→直詮(なおあき・堀ほり、儒者)3 2 5 7

半三郎(はんざぶろう・加藤)→章庵(しょうあん・加藤かとう、儒者)G 2 2 5 5

半三郎(はんざぶろう・林)→信海(のぶみ・林、名主/国学/歌人)D 3 5 3 5

半三郎(はんざぶろう・林)→信徒(のぶただ・林、信海男/名主/国学)J 3 5 6 5

半三郎(はんざぶろう・林)→信臣(のぶおみ・林/岩田、信徒の養子/名主)J 3 5 6 6

半三郎(はんざぶろう・鳥居)→ 清倍(2世きよます・鳥居とりい、絵師) D 1 6 6 0
 半三郎(2世はんざぶろう・藤川)→ 茶谷(さこく・藤川、歌舞伎役・作者) F 2 0 1 7
 半三郎(はんざぶろう・松葉屋)→ 百二(ひゃくじ・山下、酒造業/俳人) E 3 7 5 3
 半三郎(はんざぶろう・松葉屋)→ 百慈(ひゃくじ・山下、百二男/俳人) E 3 7 5 4
 半三郎(はんざぶろう・石川)→ 往次(ゆきつぐ・石川いしかわ、神道家) G 4 6 5 2
 半三郎(はんざぶろう・西原)→ 公和(よしかず・西原、一甫、藩士/国学) C 4 7 5 0
 半三郎(はんざぶろう・奥山)→ 四娟(しけん、奥山おくやま、漢学者) T 2 1 2 1
 半三郎(はんざぶろう・津田)→ 正路(まさみち・津田つだ、幕臣/外交) H 4 0 4 5
 半三郎(はんざぶろう・野原)→ 正明(まさあき・野原のはら/桑原、商家/国学) R 4 0 4 9
 半三郎(はんざぶろう・野原)→ 正基(まさもと・野原のはら、国学者/歌) M 4 0 0 8
 半三郎(はんざぶろう・中山)→ 行篤(ゆきあつ・中山なかやま/柴田、藩執政) H 4 6 0 7
 半三郎(はんざぶろう・大鐘)→ 冬海(ふゆみ・大鐘おおがね/山本、藩士/歌) I 3 8 0 5
 半三郎(はんざぶろう・木村)→ 雄直(たけなお・木村きむら、国学者) W 2 6 6 8
 半三郎(はんざぶろう・宮崎)→ 元知(もととも・宮崎みやざき、国学/歌人) L 4 4 5 7
 半三郎(はんざぶろう・中本/中井)→ 閑民(かんみん・中井/宍戸、養蚕業) R 1 5 6 6

- H3674 **半残**(はんざん・山岸やまぎし、名;棟常、重左衛門宍軒[陽和]男)1654-1726⁷³ 母;芭蕉の姉、伊賀上野藩士、藤堂玄蕃家の家臣、俳人:父陽和・息子棟数(車来)と共に芭蕉門;1676帰郷の芭蕉に入門、伊賀蕉門の育成に尽力、伊賀の俳枕を巡遊し句集を残す、1696「伊賀名所句集」著、1687其角「続虚栗ぞくみなしぐり」/1691「猿蓑」13句/98「続猿蓑」1句入、1702知方「初便はづより」入、1715野坡「万句四之富士」入、[涼しさや竹握り行く藪づたひ](続猿蓑;巻下/竹幹の意外な冷たさに気付く)、[半残(;号)の通称]重左衛門/重助、法号;考巖院 父も息車来も芭蕉門 →陽和(ようわ・山岸) B 4 7 6 7 →車来(しゃらい・山岸) G 2 1 5 7
- H3676 **半山**(はんざん;号・伊藤いとう、通称;吉兵衛/三右衛門)?-? 佐渡相川の郷土史家、1756(宝暦6)町年寄、故実/俳諧に通ず、1754「佐渡故実略記」56「佐渡日記」、「佐渡国略記」「相川町年寄日記」著
- H3677 **半山**(はんざん・白木しらき) ? - ? 讃岐丸亀藩儒;大阪の中井竹山門/のち僧となる、1805「半山詩集」13「談資録」編、「半山集行余偶筆」著、[半山(;号)の名/字/別号/法諱]名;彰、字;有常、別号;半水、法諱:道契
- H3678 **繁山**(はんざん・久野くの/本姓;源)1809-70⁶² 京の小児科医/宮廷侍医を務める/詩画を嗜む、「抱雲居詩画小品」、[繁山(;号)の名/字/通称/別号]名;玄恭/恭、字;行卿、通称;出羽介、別号;雪湖
- H3679 **半山**(はんざん・鈴木すずき、名;又甫/又介またすけ)?-?60^{余歳没} 江後期伊勢津の儒者/津藩校有造館典籍、藩政批判の文を草す;八知村墾田に追放/のち赦免、齋藤拙堂(姉の夫)宅に住、「拙堂文集」に入、1833「文語粹金」編、息女は池田雲樵の妻、[半山(;号)の字/通称]字;清寧/政寧/正寧、通称;磯右衛門
- H3680 **半山**(はんざん・荒木あき) ? - 1860 信濃上田の俳人/東信地方の宗匠として活躍、絵師/1857上塩尻座摩社俳額の選者、没後1860(万延元)追善集「菓草」友人らの編、[半山(;号)の通称/別号]通称;善次郎/両吉/良吉、別号;半良/日々にち庵/半田屋
- H3681 **半山**(はんざん・毛利もうり) ? - ? 江後期加賀の詩人、1843「半山百絶」-54「能登遊囊」著、[半山(;号)の名/字]名;彦、字;士美
- H3682 **半山**(はんざん・松川まつかわ/本姓;奥、為一[鬼拉亭力丸]男)1818-82⁶⁵ 大阪道修町の絵師:1829菅松峰門/のち丹羽桃溪・岡田玉山の画風を研鑽;一家を成す、名所図会・狂歌本挿絵 暁鐘成と提携した挿絵多数;精密版下画を描く、戯作者、維新後;挿絵作者として啓蒙書、のち文部省教科書作成に参加、1837「大坂より伏見迄登船独案内」42「狂歌末広集」画、1855-63「浪華の賑ひ」57「やまとこころ」61「澗川兩岸一覽」66「家職要道」画、「撰津名所図会大成」「松川半山画稿」画、戯作「石田軍記」著、外著画多数、[半山(;号)の名/字/通称/別号]名;安信、字;義卿、通称;高二、別号;霞居/翠栄堂/直水父 為一 → 力丸(りきまる・鬼拉亭きょうてい/鬼粒亭、大阪狂歌師) 4 9 5 7
- H3683 **凡山**(はんざん・杏きょう) 1820 - 1885⁶⁶ 越中の儒者;昌平黌に修学;林述斎・塩谷岩陰門、

富山藩に出仕;藩校広徳館教授/祭酒;学政を掌る、佐藤一斎点による四書五経訓点の改訂、「四書集註宋朱熹章句集註」「五経」著、維新後金沢藩出仕;明倫堂教授、1883頃富山で開塾、富山師範学校教諭、「凡山遺集」、

[凡山(;)号)の名/字/通称]名;立、字;士立、通称;敏次郎

- H3684 **飯山**(はんざん・松林まつばやし、大村藩医の杏哲長男) 1839-67暗殺 29 筑前早良郡羽根戸村飯盛山の生、1847父に随い大村領蠣之浦町に移住;郡奉行に才を認められ肥前大村藩学生となる、1852(14歳)大村藩主に随い江戸赴任/儒;安積良斎の塾入門、1857昌平黌に修学;詩文掛、1859帰藩;藩校五教館教授;禄60石、京阪に出て松本奎堂・岡鹿門と双松岡塾開設;勤王派、1862帰藩;近習番頭格/藩政に参画;怨を受け佐幕派により1867. 1. 3暗殺(29歳)、1865「飯山文存」、「林子画像記」「朱竹文選評」「正気百首」著、「飯山遺稿」

[飯山(;)号)の名/字/通称]名;漸、字;伯鴻/千達せんき、通称;銀次郎/廉之助/漸之進

潘山(はんざん・模陵舎)	→	百子(ひやくし・堤/塘つみ、狂歌/雑俳)	E 3 7 5 1
半山(はんざん・医名・坂本)	→	朱拙(しゆせつ・坂本さかもと、医者/俳人)	2 1 5 3
半山(はんざん・二鐘亭)	→	白鯉館卯雲(はくりかんぼううん・木室、狂歌)	3 6 1 2
半山(はんざん・斎藤)	→	方策(ほうさく・斎藤さいとう、蘭方医者)	3 9 9 3
半山(はんざん・国重)	→	正文(まさぶみ・国重くにしげ、藩老/国学)	P 4 0 4 0
飯山(はんざん・小野)	→	高尚(たかひさ・小野、国学)	D 2 6 5 6
飯山(はんざん・宮重)	→	信義(のぶよし・宮重、幕臣/儒/国学)	D 3 5 8 6
飯山(はんざん・十河)	→	筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家)	L 2 4 3 2

- 3642 **蕃山**(ばんざん・熊沢くまざわ、野尻一利長男) 1619-91 73 京生、1626生活苦で母方祖父熊沢守久の養子、1634備前岡山藩主池田光政に出仕;38致仕、儒;41中江藤樹門/陽明学修学、岡山藩に復仕、;熊沢次郎八伯継の名/藩主光政を助け藩政参画;農兵制改正・学制改革に尽力/1656隠退、領地の寺口村を蕃山しげやまと改名し自ら蕃山了介と称す/1659上京;公卿・文人と交流;讒言にあい幕府の嫌疑により京を出る、1669明石藩主松平信之に出仕;転封で大和郡山/下総古河に移住、時務策を建言;著「大学或問」が幕府の忌避に触れ禁固;古河に没、蕃山学;陽明学を基本に時処位の至善の実践を主張、雅楽の吹笛を嗜む、歌「蕃山先生和歌」、「中庸小解」「論語小解」「大学小解」「孟子小解」「二十四孝評」「夜会記」、「息遊軒文集」「集義和書」「集義外書」「三輪物語」「女子訓」「息遊先生道談」外著多数、

[田に植ふる稲も晩稲おくてほど取実とりみおほし 今時の子供の利根りこん(利口)なるは稲の早稲のごとし 大人になるほど智慧の取実すくなし](集義和書)

[蕃山(;)没後号)の名/字/通称/別号]名;伯継、字;了海/了介りょうかい、通称:左七郎/次郎八/助右衛門、

別号;息遊軒/息游軒/不敢散人/不盈散人/有終庵主、変名;蕃山しげやまた介

- 参考 蕃山門下四天王 → 公音(きんおと・押小路おにうじ、歌人)
→ 通茂(みちじげ/もち・中院なかのいん、歌人) 4 1 0 6
→ 定縁(さだより・野宮、歌人)
→ 実業(さねなり・清水谷、歌学) 2 0 4 4

- H3685 **晩山**(ばんざん・爪木つまさき) 1662- 1730 69 京御幸町通錦小路上ルの俳人:松堅門/宗匠、前句付点者、1690「千世の古道」著;随流と論争、「橋立案内誌」「橋立案内誌追加」著、1691江水「元禄百人一句」97閑水「ぬりがさ」1702轍士「花見車」04鱗子「よりくり」入、1705草芥堂「誹諧万人講」入、1715「正徳五年歳旦」編/「享保発句集」編、21「八ツ藤」撰、1692「猿物語」門人石柱編(;晩夢助[京大坂誹諧山獺評判]への返答書/晩山を擁護)、歌;1722宮川松堅[倭譚五十人一首]入、[元朝ぐわんてうを伊勢や熊野の冬の人](百人一句;52/冬の内から神社の迎春準備)、[踏み分けし山路も見えず鳴く鹿の音ねもうづむかたとたえし紅葉ば]、(倭譚五十人一首;49/山落葉/鹿の声まで落葉に埋もれたのか声も絶えた)、[晩山の別号] 永可、二童斎/唸花堂

- H3686 **晩山**(ばんざん・安見やすみ、元英男) 1664-1731 68 江戸の儒者:林鳳岡門、1691柳沢家に出仕、1709幕府儒官、「晩山摘稿」「講経筆記」著、[晩山(;)号)の名/字/通称]名;元道、字;太中、通称;文平、

- H3687 **伴山** (ばんざん) ? - ? 播磨生野の俳人;1776樗良「誹諧月の夜」1句入、
[五月雨に塩雁汁がんじの風味かな](月の夜;79/具に乏しい季節;塩漬の雁の吸物は格別)
- H3688 **蟠山** (ばんざん・木村きむら、甚左衛門男)1828-62³⁵ 肥後玉名の豪商の生、木村貞幹の養子、
蘭学:江戸で安積良斎門/オランダ語;手塚律蔵門、詩文・歴史・挿画に通ず、
1860(万延元)遣米使節に小栗忠順従者で随行、帰航中に病を得て江戸に没、「航米記」著、
[蟠山(;号)に名/通称]名;敬直、通称;鉄太
- 万山 (ばんざん) → 万山(まんざん、雑俳点者) K 4 0 5 9
 盤山 (ばんざん・島津) → 斉彬(なりあきら・島津しまう、藩主) H 3 2 0 5
 盤山 (ばんざん・小野田) → 素寧(もとやす・小野田おのだ/雲井、医/詩歌/画) J 4 4 4 9
 伴山 (ばんざん/伴山翁) → 梅俣(ばいか・喜多川[北川]、医/俳人) 3 6 7 9
 晩山 (ばんざん・佐々木) → 定賢(さだかた・佐々木/六角、藩士/系図) H 2 0 9 6
 蕃山 (ばんざん・甲斐) → 広永(ひろなが・甲斐かい、和算家/教育) G 3 7 6 2
 槃散散人 (ばんざんさんじん) → 伍石(ごせき・永根ながね/北条、書/篆刻) M 1 9 8 7
 晩山楼 (ばんざんろう) → 中蔵(ちゅうぞう・小石こいし、医者) G 2 8 5 9
 繁子 (はんし・遠藤) → 繁子(しげこ・遠藤えんどう/堀、藩主室/歌) N 2 1 5 5
- 3643 **半二** (はんじ・近松ちかまつ、本名;穂積ほづみ成章、穂積以貫2男)1725-83⁵⁹ 大阪の漢学者の家の生、
遊芸・芝居を好み浄瑠璃作者:2世竹田出雲門/63竹本座の座付作者;近松半二を名乗る;
私淑する近松門左衛門に因む、初作;1751(宝暦元)「役行者大峯」合作、
以後出雲・吉田冠子の下で合作/1756出雲没後よ合作の中心となる;1762「奥州安達原」著、
1763立作者;64「京羽二重娘気質」66「本朝廿四孝」68「傾城阿波の鳴門」70「振袖天神記」著、
1771「妹背山婦女庭訓」75「東海道七里艇梁」78「心中紙屋治兵衛」80「新版歌祭文」著、
1782「色直当世かのこ」83「伊賀越道中双六」など著作多数、晩年は山科に住み没
- 3644 **半二** (2世はんじ・松島まつしま) ?- 1825 江戸歌舞伎作者:初世松島半二[2世桜田治助]門、
1812(文化元)江戸中村座に初出勤;松島陽助2世名、18(文政元)松島半二を襲名、
以後も師の2世桜田治助の創作に協力、為永春水に「明烏後の正夢」「霧籬物語」の草稿提供、
1818「浮名の初桜」「東染栄久松」/23「嫗山姥紅葉赤本」著、
1825坂東秀佳「情競傾城嵩いきじくらべいせいがたけ」(合巻)代作、
[2世松島半二の別号]松島半次/松島陽助2世/脇助/調布/五街遊人調布/一三糸、
法号;釈純峰信士
- 3645 **半二** (5世はんじ・松島、調布4世) ?-? 歌舞伎作者:3世治助門
- 半二 (初世はんじ・松島) → 治助(2世じすけ・桜田、歌舞伎作者) 2 1 2 3
 半二 (3世はんじ・松島) → 治助(3世じすけ・桜田、歌舞伎作者) I 2 1 1 5
 半二 (はんじ・筒井) → 由輔(初世ゆうすけ・金井、歌舞伎作者) 4 6 1 6
 半二 (半次はんじ・松井) → 由輔(3世ゆうすけ・金井、歌舞伎作者) C 4 6 8 7
 半二 (はんじ・三間) → 元長(もとなが・三間みま、藩士・国学) L 4 4 5 1
 半次 (はんじ・栄/清水) → 治助(2世じすけ・桜田/松島半二、歌舞伎作者) 2 1 2 3
 半次 (はんじ・松島) → 治助(3世じすけ・桜田、歌舞伎作者) I 2 1 1 5
 半次 (はんじ・吉川) → 盛信(もりのぶ・吉川よしかわ、絵師) G 4 4 1 7
 半治 (はんじ・奥村) → 松溪(しょうけい・奥村おくむら、教育/歌人) U 2 2 7 3
 判事 (はんじ・細井) → 金吾(きんご・細井ほせい、藩士/儒・国学) Q 1 6 8 6
 判治 (はんじ・米元) → 基理(もとまさ・米元よねもと、国学者) L 4 4 9 1
 反爾 (はんじ・堀田) → 省軒(せいけん・堀田/本間、藩士/儒者) G 2 4 8 9
 範時 (はんじ・藤原) → 範時(のりとき・藤原、廷臣/歌人) F 3 5 1 8
 範治 (はんじ・矢野/広瀬) → 青邨(せいそん・広瀬/矢野、漢学者) C 2 4 5 6
 範次 (範治はんじ・城戸) → 千楯(ちたて・城戸/大江/蛭子屋、書肆/国学) 2 8 1 3
 繁時 (はんじ・藤原) → 繁時(しげとき・藤原、廷臣/歌人伊勢の従兄) C 2 1 5 0
 繁治 (はんじ・青方) → 繁治(しげはる・青方あおかた/白浜、藩家老) S 2 1 3 0
- J3654 **蕃之** (ばんし) ? - ? 江後期;歌人、幕臣蜂屋家の関係者?、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[いかほ風雲をさそひて時の間に夕立すなり利根の川づら](大江戸倭歌;夏620)

- 盤子(ばんし:僧名、ノ松べっしょう「西の雲」4句入)→ 支考(しこう・各務、俳人)
- 3646 伴自(ばんじ・長井ながい) ? - 1717 大坂淡路町心齋橋の俳人:雑俳点者;笠段々付、1702「まひのは」04「千枚分銅」10「勝句付」編/10「神子の臍」、「例農癡伴自紀行上編」著、「難波拾遺」「住吉詣」「かくれさぎ」「紀の山ふかみ」「雪月花」(角呂編とは別)編、1697閑水「ぬりがさ」/1702轍士「花見車」03閑翠「辻談義」などに入、[芦田鶴あしたうの鳴いて通るや笠の上](花見車;53)、[伴自の別号]家久/蚊市ぶんいち/樹里門/俳仙堂/長布梁[亮]ちようふりよう/祭通坊
- 万二(ばんじ・梅沢) → 万二(まんに/ばんじ・梅沢、歌舞伎作者) K 4 0 7 7
 半時庵(初世はんじあん) → 淡々(たんたん・松木/曲淵、渭北、俳人) 2 6 9 4
 半時庵(2世はんじあん) → 富天(富天ふてん・浦川、俳人) D 3 8 4 8
 半時庵(はんじあん) → 蘆屋(ろおく・高安/高、儒/書家) 5 2 4 8
 半時庵(はんじあん) → 淵庵(えんりゅう・有元、医者/俳人) F 1 3 4 7
 半之右衛門(はんしえもん・横井)→ 時文(ときぶみ・横井よこい、藩士/儒者) K 3 1 0 0
- 3647 班子女王(はんしじょう、桓武天皇皇子の仲野親王女)853-900 光孝天皇皇后(親王時から妃/女御)、是忠親王・是貞親王・宇多天皇・源元長及び忠子・簡子・綏子・為子内親王の母、887宇多天皇即位;従三位皇太夫人/897(寛平9)皇太后、通称;洞院后、900(昌泰3)没、889-893頃「寛平御時后宮歌合」催;(実質は宇多天皇催;新撰万葉集の編集と関わり)
- 3648 半七(はんしち・多賀たが、鉤酔子)?- ? 江中期甲府仕官、1723「紫文蚕の囀」著
- 半七(はんしち・佐藤) → 竹塙(ちくお/ちくう・佐藤、儒者) C 2 8 6 2
 半七(はんしち・大岡) → 春卜(しゅんぼく・大岡/藤原/狩野、絵師) K 2 1 4 9
 半七(はんしち・菅谷[菅屋]) → 年緒(としお・菅谷/幾暁庵2世、俳人) M 3 1 1 0
 半七(はんしち・鶏冠井) → 令富(りょうとみ・鶏冠井かえでい、歌/俳人) J 4 9 1 2
 半七(はんしち・草野/佐藤) → 固庵(こあん・佐藤さとう/草野、儒者) G 1 9 2 0
 半七(はんしち・小林) → 元有(もとあり・小林こばやし/林、国学者) J 4 4 9 5
 半七(はんしち・小沼) → 幸彦(ゆきひこ・小沼おぬま、商家/国学者) F 4 6 3 4
 半七(はんしち・吉田/山県) → 太華(たいか・山県/吉田、藩士/儒者) B 2 6 0 8
 半七(はんしち・渡辺) → 柳斎(りゅうさい・渡辺/荒井、藩士/儒者) E 4 9 0 2
 半七(はんしち・山根) → 忠成(ただしげ・山根やまね、藩士/俳人) P 2 6 5 9
 半七(はんしち・前嶋) → 由之(よしゆき・前嶋まえじま、和算家) I 4 7 0 2
 半七(はんしち・林) → 友幸(ともゆき・林はやし、藩士/武術/政治) W 3 1 1 4
 半七(はんしち・尾山屋) → 薫(かおる・梅本うめもと、経師/歌・俳人) T 1 5 7 9
- 3649 半七丸(はんしちまる・佐山さやま)?- ? 江後期風俗研究;1813「都風俗化粧けい伝」著;女性化粧法
- 半七郎(はんしちろう・小川) → 成信(しげのぶ・小川おがわ/石井、国学者) R 2 1 9 9
 繁実(はんじつ・岡谷) → 繁実(しげざね・岡谷おかや、藩士/勤王家) S 2 1 7 5
 半日庵(はんじつあん) → 古江(ここう・寺田、俳人) M 1 9 4 0
 半室閑人(はんしつかんじん) → 文京(ぶんきょう・花笠、合巻/歌舞伎作者) F 3 8 0 2
 半日斎(はんじつさい) → 何中(かちゅう・十河、俳人) F 1 5 3 5
 半日舎閑人(はんじつしゃかんじん) → 常躬(つねちか・渋川しぶかわ、藩士/国学) F 2 9 8 0
 半日亭(はんじつてい) → 梅中(ばいちゅう・半日亭、俳人) B 3 6 8 0
- H3689 半捨(はんしゃ) ? - ? 播磨加古川の俳人;山李坊社中、1773几董「明鳥」76「続明鳥」入、[あさましや餅こだまも同じ雉の声](あけ鳥;171)
- 万积庵十意語(ばんしやくあんじゅういご) → 意語(いご・奥村/村、伝記説話作者) B 1 1 0 0
 半捨軒(はんしゃけん) → 正察(しょうさつ;法諱・西導寺、僧/俳人) S 2 2 4 2
- H3690 反朱(はんしゆ・星山ほしやま) ? - ? 江中期元禄1688-1704頃伊勢の俳人:涼菟・乙由・支考ら7人で百韻;伊勢派を形成;平明俳風を提唱、1698「伊勢新百韻」乙由と共編、1704「三疋猿」に参加
- J3607 斑樹(はんじゆ) ? - ? 江前期江戸俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」1句入、[あゝ音高し何なんと肝煎](万国燕368/肝煎は女を周旋する人買、謡曲自然居士;「あら音高し何と何と」は人買舟の返答)

- 繁樹(はんじゅ・高屋) → 繁樹(しげき・高屋たかや、藩士/歌人) Z 2 1 3 0
 繁樹(はんじゅ・山内) → 繁樹(しげき・山内やまうち、酒造業/国学) C 2 1 1 3
 繁樹(はんじゅ・小林) → 繁樹(しげき・小林こばやし、国学者) E 2 1 6 5
 繁樹(はんじゅ・中山) → 繁樹(しげき・中山なかやま、藩士/国学/歌) Q 2 1 9 2
 繁樹(はんじゅ・坂田) → 繁樹(しげき・坂田さかた/森、国学者) O 2 1 6 2
 繁樹(はんじゅ・中沢) → 重樹(しげき・中沢なかざわ、教育/歌人) C 2 1 1 5
 磐主(ばんしゅ・船曳) → 磐主(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学) B 1 1 8 4
 伴主(ばんしゅ・相沢) → 伴主(ともぬし・相沢あいざわ、華道家/画) Q 3 1 1 1
 H3691 万樹(ばんじゅ・藤田ふじた) ? - ? 江後期近江の朽木領主の家臣/江戸に住、
 「江戸現存名家一覧」編、
 [万樹(；号)の名/字/通称]名；正卓、字；礼甫れいすけ、通称；礼助
 磐樹(ばんじゅ/いわき・千種庵/菅原) → 千種庵(3世ちぐさあん、商家/狂歌師) D 2 8 0 3
 H3692 範洲(はんしゅう；法諱・光聚坊) 1709-? 1756存 叡山天台東塔光聚坊住僧、1752「有徳院一周忌記」著
 半洲(はんしゅう・神野) → 世猷(せいゆう・神野じんの/服部、藩士/儒) J 2 4 6 6
 胖秋(はんしゅう・豊原) → 胖秋(ひろあき・豊原、楽人) F 3 7 4 6
 繁秋(はんしゅう・豊原) → 繁秋(しげあき・豊原とよはら、楽人) B 2 1 7 6
 繁脩(はんしゅう・柴田) → 彦太郎(ひこたろう・菊屋、目薬商、歌人) 3 7 6 6
 範重(はんしゅう・藤原) → 範重(のりしげ・藤原、廷臣/歌人) E 3 5 6 5
 盤舟(ばんしゅう・三谷) → 坦斎(たんさい・三谷/前田、刀匠/俳) T 2 6 5 2
 般舟庵(はんしゅうあん) → 加友(かゆう・春陽軒、僧/俳人) D 1 5 2 9
 半舟翁(はんしゅうおう) → 華堂(かどう・喜田きだ、絵師) O 1 5 1 9
 晩秀斎(ばんしゅうさい・下郷/千代倉) → 常和(じょうわ・下郷、商家/俳人) C 2 2 2 0
 播州彦蔵(ばんしゅうのひこぞう) → 彦蔵(ひこぞう・浜田はまだ、漂流船員/日米交渉) 3 7 6 4
 万秋門院(ばんしゅうもんいん、一条項子) → 項子(きよくし、萬秋門院、歌人) H 1 6 2 0
 万秋門院一条(ばんしゅうもんいんのいちじょう) → 一条(いちじょう・萬秋門院) B 1 1 2 2
 万秋門院少将(ばんしゅうもんいんのしょうしょう) → 少将(しょうしょう・萬秋門院) T 2 2 2 6
 H3693 半十郎(はんじゅうろう・津打つうつ/つうち) ?-? 江中期歌舞伎作者：2世津打治兵衛門、
 江戸市村座で活動、1736「杜若十二段」37「瑞樹太平記」38「阿弥陀池妹背鏡」著、
 1741「敵討三組盃」42「鳴神不動北山桜」44「開關今川状」著
 半十郎(はんじゅうろう・服部) → 大方(たいほう・服部/沢、藩士/儒者) C 2 6 2 0
 半十郎(はんじゅうろう・伊奈) → 忠常(ただつね・伊奈いな、旗本/治水工事) 2 7 5 0
 半十郎(はんじゅうろう・永田) → 重種(しげたね・永田ながた、幕臣) Z 2 1 6 1
 半十郎(はんじゅうろう・永沢) → 躬国(みくに・永沢ながさわ、歌人) 4 1 8 0
 半十郎(はんじゅうろう・浅原) → 推己(すいこ・浅原あさはら、俳人) E 2 3 4 6
 半十郎(はんじゅうろう・神野) → 世猷(せいゆう・神野じんの/服部、藩士/儒) J 2 4 6 6
 半十郎(はんじゅうろう・高野/永井) → 次芳(つぐよし・永井/高野、役人/史家/俳) 2 9 9 0
 伴十郎(ばんじゅうろう・市山) → ト平(とへい・市山、歌舞伎役/作者) O 3 1 7 4
 H3694 繁樹亭庭茂(はんじゅていでも・永田) ?-? 大坂安堂寺町の狂歌作者：庭栗社中、
 1805?「多田院屏風岩紀行」著
 半儒半仏通(はんじゅはんぶつう) → 大倉(たいそう・宮永、漢学者) K 2 6 5 5
 H3696 範俊(はんしゅん；法諱・興福寺威儀師仁勢[仁盛]男) 1038-1112? 山城小野の曼荼羅寺に出家、
 ；甥の成尊門；伝法灌頂を受/1078同門義範を斥けて曼荼羅寺住/1092法橋/法印権大僧都、
 1104真言東寺一長者/法務兼任、09権僧正、白河法皇の護持僧として鳥羽殿に籠居、
 付法弟子；巖覚・良雅・勝覚・覚法など、「小野口伝」「愛染王法」「竹寸鈔」「無名鈔」「地藏法」、
 「地藏菩薩念誦次第」「如法愛染次第」「凡心如合蓮尊」「瑜祇經羅識三品極秘鈔」著
 [範俊(；法諱)の通称] 鳥羽僧正/小野僧正
 H3695 範俊(はんしゅん；法諱) ? - ? 1713存 近江園城寺の天台僧、1713「長吏御拜堂記」著
 K3668 範淳(はんしゅん；法諱) 1814 - 1867? 常陸那珂郡那珂西の真言宗法幢院の住職
 H3697 万春(ばんしゅん・田中たなか、政詳[俳号；草父]男) 1772-1822? 出羽田川郡庄内大山の生、

和漢学;伯父朝陽門・田中正武門/暦算;益谷末寿門;天文/地理/国学/兵学に通ず、
 1804「恢国編」著、07ロシア対策「禦虜策」を幕府へ献、
 1819「温海雜稿」、「測量雜記」編、「万国形勢大編年」「松蘿文草」「原子」「漫遊詩稿」著、
 渡辺崋山・高野長英・益谷末寿・池田玄斎・氏家竜溪と交流、愛の兄、
 [万春(;字)の名/字/通称/別号]名;政均まさひら、通称;伊勢松/一郎、
 号;源子/中一道人/有雲上巢居/白雲山人/東西逸人/浩波漁人/堂白松蘿/松蘿山人、
 泉屋耦耕

妹 → 愛(あい・田中たなか、愛女あいじよ、文筆/歌) 1 0 0 0

万春(ばんしゅん・江馬) → 藤渠(とうきよ・江馬ま、藩医/本草学) C 3 1 7 4

万春(ばんしゅん・江邨) → 磊堂(らいどう・江邨えむら/田中、藩医) 4 8 8 7

H3698 範序(はんじょ・一色いっしき) 1796-1863 68 伊予小松藩士/儒者;近藤篤山門/郷土史家、
 「小松邑誌」「瀟洒軒鶏肋集」「御家譜草稿」著、
 [範序(;名)の通称/号]通称;序平、号;瀟洒軒東洋

班如(はんじょ・峯) → 貉丘(かくきゅう・峯みね、医者) J 1 5 6 6

繁女(はんじょ) → 繁女(しげじよ、歌人) P 2 1 5 7

L3609 範昭(はんしょう;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 歌人;1237刊[檜葉集]入、
 [深密経の楽着二依言戯論の偈を、
 世の中はみないつはりのことのはのあだなるいろにそむころかな](檜葉;积教562)

斑象(はんしょう) → 斑象(2世はんぞう、俳人) I 3 6 3 3

斑象(はんしょう) → 斑象(3世はんぞう、俳人) I 3 6 3 4

繁勝(はんしょう・新居) → 繁勝(しげかつ・新居あらい、藩士/歌人) a 2 1 1 7

繁松(はんしょう/しげまつ・新井) → 貞勝(ていしょう・新井、商家/国史/詩) B 3 0 2 2

繁昌(はんしょう・中村) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5

H3699 鏝清(ばんしょう;法諱) ? - ? 江中期上州和田山の修験僧、
 修験所伝の葬礼法収集:1745「修験道無常用集」編

I3600 蕃涉(ばんしょう) ? - ? 俳人;1774美角「ゑぼし桶」入;
 [駒とめてまた水飼はむ下すゞみ]

繁彰(はんしょう・小川) → 繁彰(しげあき・小川おがわ/源、商家/国学) N 2 1 5 6

蕃昌(ばんしょう・箕輪) → 蕃昌(しげまさ・箕輪みのわ、天文家) S 2 1 6 2

万象(初世ばんしょう・森羅) → 中良(ちゅうりょう・森島) 1 8 1 9

万象(2世ばんしょう・森羅) → 七珍万宝(しちちんまんぼう、福島屋) 2 1 2 8

万象(ばんしょう・喜多川) → 梅舩(ばいか・喜多川[北川]、医/俳人) 3 6 7 9

万象(ばんしょう・伊東) → 太逸(ひろはや・伊東いとう/藤原、医者) L 3 7 1 1

版橈(はんしょう/はんとく;道号・晁全こうぜん;法諱) → 晁全(こうぜん・版橈、曹洞僧) F 1 9 2 6

半升庵(はんしょうあん) → 鼎山(ていざん・中村/前川、書肆・俳人) 3 0 9 3

伴松庵(ばんしょうあん) → 其梅(きばい・野村のむら、俳人) L 1 6 7 7

伴松庵(ばんしょうあん) → 宗盈(そうえい・人見ひとみ、其梅門俳人) G 2 5 2 2

万松軒(ばんしょうけん) → 氏康(うじやす・北条、武将/城主/歌人) 1 2 5 5

万松軒(ばんしょうけん) → 文山(ぶんざん;道号・等勝、臨濟僧/和漢聯句) H 3 8 5 3

磐松軒(ばんしょうけん) → 坦斎(たんさい・檜山ひやま、書画鑑定/花押) T 2 6 5 3

万照高国禅師(ばんしょうこうこくぜんじ) → 高国(こうこく;道号・英峻;法諱、曹洞僧) I 1 9 7 6

I3601 半笑斎(はんしょうさい・吉益よします、畠山義益匡弼男) ?-? 戦国安桃期の医者;吉益流金瘡医の祖、
 家伝の金瘡療治の方術を記録/のち京の曲直瀬まなせ玄朔(1549-1631)門、「換骨抄」著、
 [半笑斎(;号)の名/通称]名;助秀、通称;掃部かもん

半松斎(はんしょうさい・谷) → 宗養(そうよう・谷たに、宗牧男/連歌師) 2 5 1 9

盤松斎(万松斎ばんしょうさい) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家/医者) D 3 5 1 2

万松精舎(ばんしょうしゅうしゃ) → 研介(けんかい・岡おか、蘭医) E 1 8 2 3

半樵亭(はんしょうてい) → 小右衛門(しょうえもん・板屋いたや、漆工) H 2 2 2 2

万象亭(ばんしょうてい) → 中良(ちゅうりょう・森島/桂川、医/戯作) 1 8 1 9

- 万笑亭扇幸(2世ばんしょうていせんこう)→扇好(せんこう・土橋亭、落語) M 2 4 2 6
 鏝上人(はんしょうにん) → 覚鏝(かくばん;法諱、真言僧) 1 5 0 7
 万松楼(ばんしょうろう) → 柳亭(りゅうてい・生駒いこま、藩士/儒者) F 4 9 2 5
- I3602 半四郎(初世はんしろう・岩井いはい、半太夫)1652-9948 摂津有馬の扇商/大阪歌舞伎立役者/座本、
 「岩井半四郎さいご物語」逸話入
- I3603 半四郎(4世はんしろう・岩井いはい、俳名;杜若とじゃく、辰松重三郎男)1747-180054 江戸歌舞伎女形、
 4世市川団十郎門、1765襲名;お多福半四郎と称される、
 [4世半四郎の別号]松本七蔵、俗称;お多福半四郎
- I3604 半四郎(5世はんしろう・岩井いはい、4世半四郎男)1776-184772 江戸の歌舞伎役者;女形、1804襲名、
 [5世半四郎の別号]杜若、俳名;梅我、柳島庵、松下庵永久
- I3605 半四郎(6世はんしろう・岩井いはい、屋号;大和屋、5世半四郎長男)1796?-183641? 江戸の歌舞伎役者;
 若女形、1804中村座で初舞台/1832(天保3)襲名;父の芸風を嗣、36森田座出勤中に退く、
 1828「杜若紫再咲」著/28「磯馴松」演、
 [6世半四郎の別号/俗称]岩井久次郎/岩井糸三郎2世、俳名;袖歌、俗称;糸三半四郎
- I3606 半四郎(7世はんしろう・岩井いはい、屋号;大和屋、5世半四郎2男)1804-4542 江戸歌舞伎役者:父5世門、
 1806(3歳)中村座で初舞台/44襲名、祖父4世の形を継嗣;世話物を得意、
 1922「江戸紫訥子頭巾」編/28「本朝斑女箋」「狂言袴五ツ紋尽」著、
 [7世半四郎の別号/俗称]別号;岩井小紫(初世)/岩井松之助(初世)/岩井紫若(初世)、
 俗称;紫若半四郎、俳名;扇朝/紫若
- 半四郎(はんしろう・上州屋)→ 千代有員(ちよのありかづ、商家/狂歌) K 2 8 4 5
 半四郎(はんしろう・三井)→ 之孝(ゆきたか・三井、書家/篆刻) E 4 6 6 2
 半四郎(はんしろう・鶴殿)→ 士寧(しねい・鶴殿うどの/村尾、幕臣/儒者) F 2 1 3 9
 半四郎(はんしろう・滝井)→ 四郎五郎(しろうごろう・民屋たみや、歌舞伎役者) D 2 2 3 1
 半四郎(はんしろう・浅海)→ 澳満(おきまろ・浅海あさみ、藩士/歌人) D 1 4 8 4
 半次郎(はんじろう・斎藤)→ 野坡(やほ・志太/斎藤、俳人) 4 5 1 2
 半次郎(はんじろう・椎名)→ 秋村(あきむら・秋邨しゅうそん・椎名、里正/詩人) X 2 1 9 7
 半次郎(はんじろう・榎並屋)→ 昌喜(まさよし・入江、国学者/歌) I 4 0 5 3
 半次郎(はんじろう・三上)→ 巢二(そうに・三上みかみ、商家/俳人) I 2 5 6 5
 半次郎(はんじろう・鈴木)→ 金谷(きんこく・鈴木すずき、藩士/蘭学者) Q 1 6 9 4
 半次郎(はんじろう・藤尾)→ 東鳳(とうほう・藤尾ふじお、書家) H 3 1 1 6
 半次郎(はんじろう・井村)→ 守泰(もりたか・井村いむら、国学者/歌) I 4 4 8 0
 半二郎(はんじろう・林)→ 良通(よしみち・林はやし/岡村、幕臣/国典) H 4 7 3 8
 半二郎(はんじろう・岩田)→ 恵隆(よしたか・岩田いわた/成田、藩士/神職) L 4 7 6 7
 範次郎(はんじろう・松平)→ 義建(よしたつ・松平/高須、藩主/歌) K 4 7 5 0
 範治郎(はんじろう・山上)→ 信敏(のぶとし・山上やまがみ/須田、藩士/国学) K 3 5 2 6
 万次郎(ばんじろう)→ 万次郎(まんじろう・中浜、ジョン・マン、漁師/漂流/幕臣) K 4 0 6 6
 蕃次郎(ばんじろう・大野)→ 玄鶴(げんかく・大野おおの、医者/地誌) I 1 8 2 7
- I3606 範信(はんしん;法諱、脩[修]範ながり[1143-83?/平治乱連座/のち参議]男)?-? 平安鎌倉期僧;
 興福寺僧/法印大僧都、歌人;1237刊[檜葉集]入、範能・範雅(仁和寺法印)・円頭の兄弟、
 [故郷の歳暮、
 さびしさにむかしをしのぶふるさともかぎりありけるけふのくれかな](檜葉;冬354)
- 範信(はんしん・辻)→ 晩庵(ばんあん・辻/十街、藩士/儒者) H 3 6 1 9
 蕃臣(ばんしん/しげおみ・瀬戸/拜崎)→ 琴台(きんたい・拜崎いさぎ、藩士/儒者) R 1 6 3 5
- I3607 万仞(ばんじん/まんじん;道号・道坦どうたん;法諱、俗姓;池田)1698-177578 肥前藤津郡古枝村の曹洞僧;
 藤津郡の泰智寺大霖湛竜門;出家、のち加賀大乘寺大機行休門;嗣法、1735備中東光寺住持、
 備中吉祥寺・三河長円寺・三河万福寺・肥前泰智寺・上州宝積寺など諸寺転住、
 三河靈巖寺で病没、曹洞宗の禅戒大系の大成に尽力、「正法眼蔵秘鈔」「坐禅辨」「句雙紙」、
 1755「山菴夜話」72「三休老人生死辨」74「正法眼蔵諫蠹録」、「万仞和尚語録」著/外著多数、
 [万仞道坦の号]三休庵
- I3608 帆睡(はんすい) ? - ? 大阪俳人;1691賀子「蓮実はずのみ」4句入、

[川向ひ柳におもき入り日かな](蓮実;156/垂れた細い糸のシルエットと赤い夕日)

- I3609 **半醉**(はんすい) ? - ? 京俳人;1702驚水「若多びす」入
- I3610 **半醉**(はんすい・天野あまの景明/通称繁右衛門) 1673-1746 74 水戸藩士(1700-36)、
「礼儀類典編次目録伊呂波寄」著
- I3611 **畔水**(はんすい) ? - ? 江戸俳人;1767丸窓「豆鉄炮」入
- I3612 **半水**(はんすい・杉原すぎはら、正郁男) 1813-34 早世 22 江戸小石川の儒者;父門/のち安積良斎門、
正方の孫/正倫の兄、1833(天保4)甲科に及第、1834「山遊雑誌」著、「半水遺藁」(1835刊)
[半水(;号)の名/字/別号]名:燁/曄よ、字:文林、別号:懶仙らいせん
- I3613 **半水**(はんすい・一荷堂、恋の山人、本名;狭山峰二) ?-? 歌謡作者、
1862「粹の懐すいのみとこ」編;上方流行歌謡集
- | | | | |
|-------------|---|------------------------|-----------|
| 半水(はんすい・白木) | → | 半山(はんざん・白木しらき、儒者) | H 3 6 7 7 |
| 半睡(帆吹はんすい) | → | 大睡(だすい・岸、商人/俳人) | B 2 6 7 1 |
| 半醉(はんすい・久徳) | → | 重恭(しげやす・久徳きょうとく、藩士/詩人) | S 2 1 9 6 |
| 泮水(はんすい) | → | 芹舎(きんしゃ・八木、泮水園、俳人) | E 1 6 1 3 |
| 泮水(はんすい・畠山) | → | 如心斎(じしんさい・畠山、故実/鑑定家) | M 2 2 5 2 |
- I3614 **晩翠**(ばんすい・斎藤さいとう、名;貞直、別号;紅白堂/江白堂) ?-? 備前岡山の俳人:如泉門、僧侶?、
1689「蟬の小川」/90「紅白堂」編、1691江水「元禄百人一句」・1702轍士「花見車」1句入、
[うつくしき人なほ結ぶ清水哉](百人一句;30/清水を結ぶ姿がいつそう美しい)
- I3615 **盤水**(ばんすい) ? - ? 元禄1688-1704頃大阪の俳人、
1690「歌仙俳諧独吟合」編/「永尾杭」編、1691賀子「蓮実」2句・1702轍士「花見車」1句入、
[涼しさに四ツ橋を四ツわたりけり](花見車;61/西横堀川・長堀川の交流点の橋の総称、
西横堀川の上繫橋・下繫橋/長堀川の吉野屋橋・炭屋橋、出典;樗良「我が庵」)
- I3616 **晩水**(ばんすい) ? - ? 大和法隆寺住;僧?/俳人;1688言水「前後園」入、
1690言水「新撰都曲みやこぶり」2句入/96良弘「高天鶯」入、
[朝露の氷りて赤し冬牡丹](都曲;上188)
- L3603 **万水**(ばんすい・梶木かき、) ? - ? 江前期京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]8首入、
[たえずのみ昔しのべと身のうへにちかき老曾の森のしめなは]、
(麓の塵;645/寄老懐旧、老曾の森は近江蒲生郡奥石おそ神社の森;歌枕)
- I3617 **万水**(ばんすい) ? - ? 京の俳人;1702驚水「若多びす」入
歌人梶木万水と同一?
- I3618 **晩翠**(ばんすい・寫しま、本牧) ? - ? 1713「関原軍記大成」跋(1690宮川忍仁斎編)
- I3619 **晩翠**(ばんすい・駒井こまゐ、南合義路2男) 1809-34 早世 26 外祖父で桑名藩儒駒井乗郵のりむらの養嗣子、
伊勢桑名藩士、儒者;経学/詩/書に通ず、「芝蘭斎先生遺稿」編、
[晩翠(;号)の名/字/通称/別号]名;重倫しげとも、字;理卿/岱宗、通称;多忠、
別号;嶽/玉山/水月/麗沢堂主人
- I3620 **晩翠**(ばんすい・西川にしかわ徳寿、松平勘七郎or松原藤八郎男) ?-1857 因幡鳥取藩出仕/高野山修業、
心学:中村徳水門?、1850奥羽/箱館で道話講/51蝦夷箱館;松栄講、「心学道話」「心学書」著、
「心学見聞書」「諸用日記」著/「諸賢語集」「聖賢古言道歌集」「道歌集いろは引」編
[晩翠の通称] 徳次郎/東あづま
- I3621 **晩翠**(ばんすい・橋本はしもと惟孝/字;子友) 1812-87 76 淡路洲本儒者;田中南陽門/1856徳島藩儒官、
学問所教授/江戸藩邸教授、「晩翠堂文詩集」著、
[晩翠の通称/別号]通称;矢五郎、別号;九淵/凝洲
- I3622 **晩翠**(ばんすい・滝川たきがわ) ? - ? 備前兵学者;家学、「井星録」、息伯明も兵学者
- | | | | |
|-------------|---|----------------------|-----------|
| 盤水(ばんすい・大槻) | → | 玄沢(げんたく・大槻、蘭学/歌人) | 1 8 2 4 |
| 磐水(ばんすい・中野) | → | 忠順(ただのぶ・中野なかの、藩士/書家) | Y 2 6 6 2 |
| 晩翠(ばんすい・青山) | → | 延光(のぶみつ・青山、儒者) | D 3 5 4 9 |
| 晩翠(ばんすい・岡本) | → | 亮彦(あきひこ・岡本/小栗、絵師) | D 1 0 8 0 |
| 晩翠(ばんすい・狩野) | → | 永岳(えいがく・狩野、絵師) | C 1 3 5 9 |
| 晩翠(ばんすい・御廚) | → | 景恒(かげつね・御廚みくりや、医者) | L 1 5 0 4 |
| 晩翠(ばんすい・豊田) | → | 松岡(しょうこう・豊田、藩儒/史書編纂) | S 2 2 1 5 |

晩翠(ばんすい・多ヶ谷) → 舎興(いえおき・多ヶ谷たがや、藩士/国学) K 1 1 3 8
 晩翠(ばんすい・林) → 徳則(とくのり・林、豪農/郷里に貢献) L 3 1 2 9
 晩翠(ばんすい・菅) → 良弼(よしすけ・菅、良史男/藩士/歌人) N 4 7 4 3
 晩翠(ばんすい・高林) → 景寛(かげひろ・高林たかばやし/久津見、藩士/歌) U 1 5 9 5
 晩翠(ばんすい・赤松) → 国明(くにあき・赤松あかまつ、伊予の文人) D 1 7 9 5
 晩翠(ばんすい・松浦) → 果(か・あきら・松浦まつうら、藩士/歌人) V 1 5 7 3
 晩翠(ばんすい・宮田) → 篤親(あつちか・宮田みやた/島崎、神道/国学) L 1 0 6 0

13623 万瑞(ばんずい;法諱) ? - ? 江後期伊勢の曹洞僧、

1820面山瑞方「正法眼蔵涉典和語抄」を書写、

1826「正法眼蔵和語梯」編;のち大癡だいらにより改訂「正法眼蔵和語梯拾要」

伴隨(ばんずい・横山) → 政賢(まさかた・横山/山崎、藩家老) B 4 0 8 9

晩翠庵(ばんすいあん) → 良隠(りょういん;法諱、曹洞僧/篆刻) G 4 9 2 5

13624 幡随意(ばんずい;法諱・-上人、俗姓;上宮/山宮・川嶋、上宮金吾男?) 1542-1615 74 相模藤沢浄土僧、

1552(11歳)相模二伝寺の義順門;剃髪/典籍;鎌倉光明寺の聖伝門、武蔵川越蓮馨寺存貞門

学識高く諸寺再興/1601(慶長6)京の知恩寺33世、江戸神田に新知恩院(幡随院)を開創:

教学振興に尽力、徳川家康の命で九州のキリシタンを改宗させる努力;

長崎に大音寺・白道寺を開創、隠退;紀伊和歌山万松寺に没、

「布戒随聞録」著、喚誉の「上人諸国行化伝」(1755刊)入

泮水園(はんすいえん) → 芹舎(きんしゃ・八木、俳人) E 1 6 1 3

晩翠園(ばんすいえん) → 箕山(きざん・塩谷しおのや、儒者/幕臣) J 1 6 1 1

晩翠園(ばんすいえん) → 松麓(しょうろく・木暮こぐれ、儒者/詩人) M 2 2 1 1

晩翠園(ばんすいえん) → 列山(れつざん・関根せきね、俳人) 5 1 0 7

晩翠館(ばんすいかん) → 親典(ちかのり・大西おおにし/秦、神職/国学) M 2 8 2 5

晩翠居(ばんすいきよ) → 一釣(いちちよう・山本やまもと、俳人) H 1 1 6 1

半睡軒(はんすいけん) → 重良(しげよし・中川なかがわ、藩士、詩) T 2 1 1 0

晩翠軒(ばんすいけん) → 詮勝(あきかつ・間部まなべ、藩主/詩人) D 1 0 3 2

晩翠軒(ばんすいけん) → 春察(しゅんさつ・河野こうの、儒者) K 2 1 7 8

晩翠塾(ばんすいじゅく) → 竜淵(りゅうえん・安藤あんど、幕臣/書家) D 4 9 0 4

晩翠亭(ばんすいてい) → 玄嶽(げんがく・富川とみがわ、儒者) I 1 8 2 8

半醉堂(はんすいどう) → 野坡(やば・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2

晩翠堂(ばんすいどう) → 尊為(たかため・役えき、修験僧/俳人) M 2 6 2 2

晩翠堂(ばんすいどう) → 宗博(むねひろ・今村いまむら、歌人) D 4 2 6 6

万水堂(ばんすいどう) → 朱角(しゅかく・松枝、俳人) 2 1 6 7

半睡半醒(はんすいはんせい) → 玄沢(げんたく・大槻おおつき、蘭医/洋学者) 1 8 2 4

万水楼(ばんすいろう) → 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2

晩翠楼(ばんすいろう) → 政固(まさかた・仙石、藩知事/歌人) C 4 0 0 1

半醉老人(はんすいろうじん) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8

13625 晩菘(ばんそう・真下ましも穆/字;元教、益田仙右衛門男) 1798-1875 78 甲斐中萩原村生/1836真下家嗣、

幕臣/1867留守居支配/隠居;横浜に開塾;教育、詩/書、1860「閑窓夜話集」「六名家詩鈔」編、

[晩菘の通称/別号] 通称;藤助/専之丞、別号:蘇景堂、法号;実相院

半介(はんすけ・岡本) → 宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家) C 3 5 5 8

半介(はんすけ・花房) → 吉迪(よしみち・花房はなぶさ、藩士/和算家) H 4 7 4 6

半介(はんすけ・岡本) → 業常(なりつね・岡本おかもと/石上、藩士/歌) L 3 2 5 0

半介(はんすけ・岡本) → 宣愿(のぶよし・岡本おかもと/石上、藩士/歌) H 3 5 8 2

半輔(はんすけ・近藤) → 寿俊(ひさとし・近藤こんどう、幕臣/馬術家) B 3 7 5 1

半助(はんすけ・平元/飯塚) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7

半助(はんすけ・横山) → 春方(春芳しゅんぼう・横山、藩士/和算家) L 2 1 8 8

半助(はんすけ・紀) → 歳信(としのぶ・紀きの、神職) U 3 1 9 6

半助(はんすけ・真野) → 正命(まさみち・真野まの、幕臣/和学者) S 4 0 4 8

半助(はんすけ・飯沼) → 長城(ながき・飯沼いぬま、国学者) K 3 2 2 2

- 半助(はんすけ・橋本) → 香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王) F 1 9 3 4
 半助(はんすけ・水/水足) → 屏山(へいざん・水足みずたり/水、藩儒) 2 7 3 8
 半助(はんすけ・中島) → 石浦(せきは・中島なかじま/中浦、医/儒者) D 2 4 8 3
 半助(はんすけ・岡本) → 黄石(こうせき・岡本、藩家老/詩人) F 1 9 2 3
 半助(はんすけ・北原) → 雅長(まさなが・北原きたはら/神保、藩士/歌) P 4 0 2 9
 繁成(はんせい・野村) → 繁成(しげなり・野村のむら、神職) R 2 1 8 7
 繁世(はんせい・横手) → 繁世(しげよ・横手よこて/源、武将/連歌) D 2 1 2 8
 範政(はんせい・今川) → 範政(のりまさ・今川、守護/歌人) 3 5 2 5
 範正(はんせい・飯田) → 範正(のりまさ・飯田、藩士/連歌) F 3 5 7 6
 範正(はんせい・村垣) → 範正(のりまさ・村垣むらがき、幕臣/日記) F 3 5 7 8
 範成(はんせい・今小路) → 範成(のりしげ・今小路いまこうじ/杉谷、坊官) H 3 5 4 2
 範静(はんせい・赤松) → 範静(のりきよ・赤松あかまつ、旗本幕臣/歌) G 3 5 9 6
 半静(はんせい・鈴木) → 政通(まさみち・鈴木すずき、茶人) H 4 0 4 8
- I3626 万声(ばんせい) ? - ? 江前期俳人;1690北枝「卯辰集」1句入、
 [三ヶ月の藪に道あるきぬた道](卯辰集;397、
 夕暮砧の音に誘われ三日月によりかすかに照らされた藪道をたどると家がある)
- J3668 晩成(ばんせい・飯田いいだ) ? - ? 江中期;信濃高島の歌人;澄月(1714-98)門、
 伊那歌壇で活動
- 晩生(ばんせい・横井) → 希純(きじゆん・横井、郷土史家) K 1 6 8 6
 晩静(ばんせい・富永) → 全昌(まさよし・富永、藩士/記録) D 4 0 2 0
 伴清(ばんせい・酒井) → 鶯蒲(おうほ・酒井さかい/香阪、僧/絵師) B 1 4 3 6
 蕃政(ばんせい・中村) → 習斎(しゅうさい・中村なかむら、儒者/詩歌) H 2 1 4 1
 半静庵(はんせいあん) → 政通(まさみち・鈴木すずき、茶人) H 4 0 4 8
 半青居(はんせいきよ) → 新甫(しんぼ;号・海老原、揚屋主人/俳人) 2 2 7 8
 晩晴吟社(ばんせいぎんしゃ) → 如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩) C 2 2 8 3
 半醒斎(はんせいさい) → 宗悦(そうえつ・猪苗代、連歌師) 2 5 6 5
 半盛斎(はんせいさい) → 玄茂(げんも、俳人) D 1 8 1 3
- I3627 晩成斎(ばんせいさい) ? - ? 江中期江戸の俳人,1754「俳諧金砂子」編、
 日本橋の書肆万屋清兵衛の筆名か?
- 半醒子(はんせいし) → 紹巴(じょうは・里村、連歌師) 2 2 0 1
 半醒堂(はんせいどう) → 野坡(やは・志太、俳人) 4 5 1 2
 晩成堂(ばんせいどう) → 広胖(こうはん・坂部/戸田/山田、和算家) K 1 9 9 7
 晩晴堂(ばんせいどう) → 竹堂(ちくどう・宮沢みやざわ、詩人) D 2 8 6 3
 晩晴堂(ばんせいどう) → 如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩) C 2 2 8 3
- I3628 樊世輔(はんせいほ・高尾嘉左衛門?) ?-? 長崎大通詞、長崎奉行の命で1794狂詩文「国朝紀事」編
- 晩晴楼(ばんせいろう) → 波山(はざん・芳川よしかわ、儒/詩人) E 3 6 3 2
 晩晴楼(ばんせいろう) → 友山(ゆうざん・根岸、農業/儒者/武術) C 4 6 0 2
 斑石(はんせき・野呂) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9
 飯石(はんせき・勝部) → 眞楯(またて・勝部かつべ/佐々木、国学者/神職) O 4 0 9 1
 磐積(ばんせき・境部) → 石積(いしづみ・境部/坂合部、廷臣) E 1 1 5 7
- G3682 半雪(はんせつ) ? - ? 俳人、1733「其箴そのおさ」桂夕と共編;沾徳らと歌仙
- I3629 万拙(ばんせつ:道号・知善ちぜん:法諱) ?-1697 京の臨濟宗妙心寺大雄院3世;
 1654隠元が来日すると長崎で侍者;黄檗僧、のち妙心寺に戻り臨濟僧、
 1660妙心寺開山関山慧玄の300年忌記念に「正法山宗派図」を作成刊行
- 伴拙(ばんせつ・平田) → 職在(もとあり・平田/出納/中原、廷臣/故実) C 4 4 0 8
 晩節(ばんせつ・一迫) → 正安(しょうあん・一迫いちのはざま/佐々木、医者) U 2 2 6 8
 晩節庵(ばんせつあん) → 菊二(きくじ・井口、俳人) K 1 6 0 8
 半雪居(はんせつきよ) → 野鶴(やかく・幸塚こうづか、俳人) 4 5 3 9
 半折房勃翁(はんせつぼうぼつおう) → 良能(りょうのう・前田、俳人) J 4 9 2 2
- I3630 樊川(はんせん・林はやし、別号;東江閣/竹砌ちくぜい2世) ?-? 大阪の俳人:布門門、師の別号竹砌を継嗣、

1741「俳諧雲の峯」43「難波の家つと」編/48「藍乃手」、「東武遊記」「俳諧菊句」「俳諧繫鼓」著、
「俳諧桜道」著

- K3693 **半仙**(はんせん・山田やまだ、仲敬なかつか2男)1787-1860 74 越後柏崎の商家[山甚]7代目;1824兄より嗣、
儒;原松洲門(兄静里せいりと)/歌:千種有功門、甥の重秋(1809-66/静里男)が家督嗣、
[半仙(;号)の名/通称/別号]名;樵(初名)/**重世**しげよ、通称;喜四郎/甚次郎、
別号;夢軒/鏡古堂
- 半仙(はんせん・中根) → 初斎(じんさい・中根なかね、医者/詩人) O 2 2 5 6
半仙(はんせん・岡島) → 林斎(りんさい・岡島おかじま、幕臣/絵師) K 4 9 3 1
範善(はんぜん・彦坂/田中) → 範善(のりよし・彦坂ひこさか、藩士/和算) G 3 5 3 3
攀髯(はんぜん・菅沼) → 西陵(せいりょう・菅沼すがぬま/阮、儒者) J 2 4 8 2
磐川(ばんせん・安倍) → 貞治(ていじ・安倍/安部、和算家) B 3 0 0 5
半仙庵(はんせんあん) → 野楊(やよう・軽森かるもり、藩士/俳人) E 4 5 3 3
半禅居士(はんぜんこじ) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8
半仙子(はんせんし・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
半仙子(はんせんし・中村) → 栗園(りつえん・中村/片山、藩儒/執政) B 4 9 5 9
般船廬(はんせんろ) → 鷗沙(おうしゃ・伊村、俳人/書) 1 4 4 8
- I3631 **阪桑**(阪叟はんそう・清水しみず、通称弥兵衛、別号;緑雲軒)?-1781 信州望月の俳人:鷄山[好謙]門、
1761(宝暦11)「花の上」編、遊心齋如髮(魚貫門俳人)の兄
- I3632 **半窓**(はんそう・陶すえ、惟貞/惟禎、通称儀三郎、別号;砂山)1799-1873 75 伊予郡中医者/儒/詩/書画、
郡中に私塾:教育、「雲煙過眼」「世態雑誌」「半窓詩稿」、1843「半窓雑録」
[孝継(;名)の通称/号]通称;填一郎てんいちろう、号;
- 半窓(はんそう・黒田) → 孝継(たかつぐ・黒田くろだ、藩士/歌人) W 2 6 9 5
範宗(はんそう・藤原) → 範宗(のりむね・藤原、廷臣/歌人) F 3 5 9 2
泛叟(はんそう・渡部) → 琴溪(きんけい・渡部/渡辺、藩士/儒者) Q 1 6 8 3
- I3633 **斑象**(2世はんそう、別号;春野亭/石中堂/桃李/鷄舎/平舎)?-1779 江戸深川俳人:吏登門、
師吏登から嵐雪の別号石中堂の印を付属され斑象の号を授与される、続五色墨の1、
1745「うつ木垣」54「朧日記」-66「俳諧親仁」「桜勸進」編
- I3634 **斑象**(3世はんそう・中山、通称;甚五郎/甚五右衛門)?-? 江戸の俳人:吏登/蓼太門、1780斑象襲名、
1787蓼阿「一夏百歩」3吟百韻入;蓼太・吐月と、1803「はなかたみ」08「遊湘記」著、
[3世斑象の別号]石中堂/方鳩/2世吏中
- I3681 **半蔵**(半三はんそう・並木なみき)?-1822 歌舞伎作者:初世五瓶門、1780から上方で番付合作:
1790「織始室町錦」99「石畳嫩陣幕」1807「女庭訓和詞」16「濃紅葉小倉色紙」
- I3682 **半蔵**(はんそう・山崎まさき久頭、号;本立/万里堂、立朴りゅうぼく男)?-1851; 90余歳 弘前藩士;算術指南、
剣・棒・柔術師範、幕命で蝦夷地警備、「蝦夷日記」「東蝦夷紀行」「宗谷詰合山崎半蔵日誌」
- 斑象(はんそう;初世) → 吏登(りとう・桜井、俳人) 4 9 0 4
半蔵(はんそう・安田/山県) → 璣(たまき・山県、儒者) S 2 6 2 3
半蔵(はんそう・渡辺) → 守綱(もりつな・渡辺/源、武将/領主) F 4 4 7 6
半蔵(はんそう・増田) → 綱(こう・増田、儒者) H 1 9 1 2
半蔵(はんそう・服部) → 正成(まさなり・服部半蔵、武将;伝説化) K 4 0 9 6
半蔵(はんそう・服部) → 日記(にっき・服部はつとり、日記随筆) D 3 3 7 9
半蔵(はんそう・梅津) → 忠宴(ただよし・梅津、家老/兵学/歌) R 2 6 2 6
半蔵(はんそう・実川) → 定賢(さだかた・実川さねかわ、和算家) H 2 0 9 9
半蔵(はんそう・十時) → 梅厓(ばいがい・十時とき、儒者/書画) 3 6 8 2
半蔵(はんそう・垣見) → 巴凌(はりょう・垣見かきみ/かきみ、俳人) F 3 6 8 6
半蔵(はんそう・寺田) → 臨川(りんせん・寺田/源/田/寺、藩儒) K 4 9 5 8
半蔵(はんそう・田鎖/根城) → 恭斎(きょうさい・根市ねいち、藩士/儒者) N 1 6 7 9
半蔵(はんそう・沢野) → 喬緒(たかお・沢野さわの、詩人) L 2 6 6 0
半蔵(斑蔵はんそう・荒井) → 鳴門(めいもん・荒井あらい、儒者/詩人) 4 3 4 1
半蔵(はんそう・岩松) → 孝純(たかずみ・岩松/源、幕臣/文筆) M 2 6 1 2
半蔵(はんそう・細川) → 頼直(よりなお・細川ほそかわ、郷士/暦算家) J 4 7 2 5

半蔵(はんぞう・増田) → 綱(こう;名・増田ますだ、金属精錬/儒) H 1 9 1 2
 半蔵(はんぞう・石河) → 正養(まさかい・石河いしこ/越智、藩士/国学) B 4 0 6 6
 半蔵(はんぞう・青木) → 永教(ながのり・青木あおき/藤原、幕臣/歌) K 3 2 6 5
 半蔵(はんぞう・鈴木) → 書緒(書雄/文緒ふみお・鈴木、国学者) H 3 8 8 2
 半蔵(はんぞう・後藤) → 松窩(しょうか・後藤ごとう、儒者/詩人) H 2 2 5 0
 半蔵(はんぞう・高橋) → 知一(ともかず・高橋たかはし/橋都、国学) V 3 1 6 4
 半蔵(はんぞう・町田) → 高明(たかあき・町田まちだ、国学/歌人) Z 2 6 5 2
 半蔵(はんぞう・飯田) → 正起(まさおき・飯田いいだ、藩士/歌/教育) N 4 0 4 6
 梅窓(ばいそう・藤堂) → 高俊(たかとし・藤堂とうとう、彫刻/製陶) Y 2 6 4 0
 半三(はんぞう・鳥居) → 清満(初世きよみつ・鳥居、絵師) D 1 6 6 5
 半造(はんぞう・北本) → 栗(りつ・北本きたもと/石黒、和算家) B 4 9 5 4
 繁蔵(はんぞう・近藤) → 景高(かげたか・近藤、藩士/兵法家) K 1 5 9 5
 播叟(ばんそう・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2

H3675 伴蔵(ばんぞう・依田よだ、直恒?) 1823-6644歳 丹後宮津藩士;軍監、広太郎(陸軍軍人)の父、
 1866元京都所司代で老中の藩主松平宗秀に従い第二次征長隊に従軍、
 使者として長州へ赴く途中に安藝四十八坂で長州軍に狙撃;「残念」と一言述べ戦死、
 土地の人が祠残念社を建て「残念さん」と呼ぶ、

[わすれめや胡蝶の夢もつかのまも花にやどりし春のめぐみを](遺詠)

☆松平宗秀 → 宗秀(むねひで・松平まつだいら/本庄、藩主/老中) D 4 2 5 3

伴蔵(ばんぞう・谷) → 宝巖(ほうがん;道号・興隆;法諱、曹洞僧/古典) 3 9 3 3
 伴蔵(ばんぞう・本庄) → 貞居(さだすえ・本庄ほんじょう、神道家) P 2 0 3 4
 伴造(ばんぞう・横前) → 博久(ひろひさ・横前よこまえ、国学者) M 3 7 3 2
 半掃庵(はんそうあん) → 也存(やゆう・横井、俳人/詩歌) 4 5 1 7
 蟠霜舎(ばんそうしゃ) → 其律(きりつ・永日庵えいじつあん、狂歌/俳人) D 1 6 7 2
 万艸亭(ばんそうてい) → 文石(ぶんせき・遠藤えんどう、商家/俳人) F 3 8 9 6
 半僧道人(はんそうどうじん) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8
 半俗庵(はんぞくあん) → 昌茂(まさもち・城じょう、武将/連歌) H 4 0 8 0

I3635 半俗退士(はんぞくたいし、別号;無三公子/金岳公子)?-? 江後期戯作者、
 1845(弘化2)「拍掌奇譚品玉匣」、「謠言八百三虫伝」「箋注盲午」著
 溪斎英泉の匿名? → 可侯(かこう・一筆庵、絵師) 1 5 1 3

I3636 半邨(はんそん・三木みき、名;篤/字;周祐)?-?1850頃没 讃岐高松藩士/儒;久保山城山門、
 1815藩校講堂館総裁/詩人、-36「欸乃一声集」著、
 [半邨の通称/別号]通称;弥総左衛門、別号;鷗洲/山高水長亭

半村(はんそん・牧) → 香松(こうしょう・牧まき、藩士/詩歌/書) J 1 9 8 0
 半村(はんそん・黒沢) → 四如(しよ・黒沢くろさわ、藩儒/易学) T 2 1 7 3
 伴存(ばんそん・畔田) → 伴存(ともあり・畔田くろだ/源、藩士/本草) P 3 1 1 7
 繁乃(はんない・黒井) → 繁乃(しげの・黒井くろい、賢母) R 2 1 9 1

I3637 万代(ばんだい/よろづよ・後醍醐院女蔵人ごだいごいんによくろうと、藤原盛徳女)?-? 後醍醐天皇出仕;女蔵人、
 歌;1318(文保2)後醍醐即位式に詠(続千載)、1367新玉津島社歌合参加、続現葉/臨永集入、
 勅撰9首;続千(2124)続後拾(953)新千(1348/2203/2312)新拾(1124/1700/1713)新続古、
 [あきらけき御代ぞしらるる位山またうへもなくあふぐ光に](続千;2124/即位日の詠)

磐代(ばんだい・大江) → 磐代(いわしろ・大江おおえ/岩室/橘/天皇生母) K 1 1 0 3
 万代閣(ばんだいかく) → 淇水(きすい・万代閣、俳人) K 1 6 9 8

I3638 飯袋子(はんたいす・齋斎せいさい主人)?-? 談義本作者;1770「赤本智恵鑑」、狂俳「独楽筆遊」著?

飯袋子(はんたいす・齋斎主人) → 宣就(のぶなり・岡本[1575-1657]、兵法) C 3 5 5 8
 飯袋子(はんたいす) → 惟中(いちゅう・岡西[1639-1711]、俳人) 1 1 1 9
 飯台陳人(はんたいちんじん) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7
 伴大納言(ばんだいなごん) → 善男(よしお・伴とも/大伴、応天門変;絵巻に入) C 4 7 3 4
 半田屋(はんたや) → 半山(はんざん・荒木、俳人) 3 6 8 0

I3639 半太夫(はんたゆう・江戸えど)? - 1743? 江戸の修験者の息子/説教祭文に長ず、

のち浄瑠璃太夫:江戸肥前掾門、貞享元禄1684-1704頃半太夫節を興す、
 堺町で操り芝居興行/歌舞伎芝居にも出勤/座敷浄瑠璃も語る、1719「鳩鳥におどり」作、
 語り物「浅黄帷子」「五人曾我」「助六後日」著、其角「光陰鼠の道行」節付、
 [江戸半太夫(;号)の幼名/別号]幼名;坂本半之丞、剃髮号;梁雲

- 半太夫(はんだゆう・飯田) → 豹(はだら・飯田、詩歌) E 3 6 8 1
 半太夫(はんだゆう・飯田) → 正起(まさおき・飯田いいた、藩士/歌/教育) N 4 0 4 6
 半太夫(はんだゆう・横山) → 春方(春芳しゅんぼう・横山、藩士/和算家) L 2 1 8 8
 半太夫(はんだゆう・岩井) → 半四郎(初世はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 2
 半太夫(はんだゆう・岡田) → 元理(げんり・岡田おかだ、儒者/藩家老) M 1 8 7 7
 半太夫(はんだゆう・川田) → 雄琴(ゆうきん・川田、藩儒/陽明・朱子学) B 4 6 2 6
 半太夫(はんだゆう・小野) → 驥徳(としのり・小野おの、藩士/国学者) U 3 1 4 5
 半太夫(はんだゆう・真柳) → 泉溪(せんけい・真柳、藩士/兵学/俳人) M 2 4 1 5
 繁太夫(はんだゆう・宮古路) → 繁太夫(しげだゆう・宮古路、浄瑠璃太夫) C 2 1 3 9
 半太郎(はんだらう・岩田) → 通徳(みちのり・岩田いわた/平、幕臣/奉行) H 4 1 6 2
 繁太郎(はんだらう・森) → 直樹(なおき・森もり、藩絵師) P 3 2 0 9
 範致(はんち・村上) → 範致(のりむね・村上、藩家老/軍制) F 3 5 9 4
 半知(はんち・藤井) → 道印(どういん・遠近おちこち、藤井、藩医/測量) B 3 1 1 0
 半痴(はんち・椎名) → 秋村(あきむら・椎名、里正/詩人) X 2 1 9 7
 半痴(はんち・三井) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1

I3640 万智(ばんち/まんち;道号・要門ようもん;法諱)1667-1740⁷⁴ 越中曹洞僧/山城鞍馬吸江院住持、
 卍山道白門/嗣法、1736「卍山和尚広録第三十二」共編;古宝/大亀らと、「宝鏡三昧書神稿」編、
 [万智要門の号] 嵩山杜多/蓮華庵主

- 蕃智(ばんち・望月) → 貞明(さだあき・望月もちづき、藩士/歌人) P 2 0 5 7
 班竹(はんちく・植木) → 環山(かんざん・植木うえき、儒者) Q 1 5 8 2
 班竹堂(はんちくどう) → 陸葦(りくゐ・班竹堂、俳人/浮世草子) 4 9 6 9
 半蟄居(はんちつきよ) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9
 半中(はんちゆう・都国太夫) → 豊後掾(ぶんごのじゆう・宮古路、浄瑠璃太夫:豊後節祖) 3 8 2 1
 範忠(はんちゆう・藤原) → 範忠(のりただ・藤原、廷臣/歌) E 3 5 9 2
 範忠(はんちゆう・清原) → 範忠(のりただ・清原、軍記作者) E 3 5 9 5
 範忠(はんちゆう・服部) → 範忠(のりただ・服部、医者/本草家) G 3 5 4 1
 範忠(はんちゆう・熊谷) → 範忠(のりただ・熊谷くまがい/波多野、国学) I 3 5 2 9
 繁仲(はんちゆう・薄井) → 繁仲(はんちゆう・薄井・臼井/平、国学) R 2 1 8 4
 繁中(はんちゆう・大神) → 茂興(しげおき・大神おおが/大三輪、神職) N 2 1 7 3
 藩中館新五三(はんちゆうかんしんごさん) → 新五三(しんごさん・藩中館、洒落本) E 2 2 1 2
 伴中義(ばんちゆうぎ) → 伴中義(ともなかつよし、滑稽本作者) Q 3 1 1 2

藩中三絶(はんちゆうさんぜつ);江後期天保頃土佐藩の詩歌文に優れた三人

- 雅景(まさかげ・安並やすなみ、短歌/1780-1851) B 4 0 7 2
 → 雅澄(まさずみ・鹿持かもち、長歌/1791-1858) 4 0 0 9
 → 為夾(ためちか/ためおさ・池田いけだ、雅文/?-?) S 2 6 5 0
 範朝(はんちゆう・藤原) → 範朝(のりとも・藤原、廷臣/詩人) F 3 5 2 4
 反長(はんちゆう・早川) → 直昌(なおまさ・早川はやかわ、剣客/州吏) O 3 2 4 2
 晩暢(ばんちゆう・島地) → 黙雷(もくらい;法諱・島地/清水、真宗僧) B 4 4 1 2
 帆亭(はんてい) → 徳元(とくげん・斎藤、武将/俳人) K 3 1 6 5
 範亭(はんてい・上杉) → 定正(さだまさ・上杉/扇谷/藤原、武将/守護) F 2 0 5 2
 繁亭(はんてい・種樹家) → 金太(きんた・種樹家うえきや、植木屋) R 1 6 3 3
 斑亭(はんてい・石田) → 玄圭(げんけい・石田いしだ、医/和算/暦学) I 1 8 5 4

I3641 万貞(ばんてい;法諱・節外せつがい;道号)?-1773 江中期曹洞僧:万宏門里ばんこうもんり門/法嗣、
 播磨景福寺22世、京の興聖寺17世、丹波桑田郡に没、「節外万貞和尚語録」著

J3608 万丁(ばんてい) ? - ? 江前期江戸俳人;旧室門、宗因座沾涼側点者、
 1754竹翁「俳諧童の的」点句入

阪低窩(はんでいか・有馬) → 守居(もりい・有馬ありま、藩家老/国学) J 4 4 1 2
 半泥子(はんでいし) → 玉甫(ぎよくほ;道号・紹琮じょうそう、臨濟僧) P 1 6 3 4
 半滴(はんでき・神田) → 良近(よしちか・神田かんだ、藩士/兵学) E 4 7 4 9
 半田(はんでん・上田) → 一徳(かずのり・上田うえだ、藩士/国学) T 1 5 7 5
 半田(はんでん・島崎) → 土夫(つちお・島崎しまさき、藩士/国学/歌) F 2 9 8 1
 半田居(はんでんきよ) → 耕雨(こうう・大主おおぬし、神職/俳人) H 1 9 4 0
 半田居士(はんでんこじ) → 耕雨(こうう・大主おおぬし、神職/俳人) H 1 9 4 0
 繁徒(はんと・別所/増田) → 繁徒(しげかつ・増田/別所、幕臣/経学) Q 2 1 8 3
 蟠杜(はんと・石川) → 晝翠(じゆうすい・石川、藩士/詩・書) T 2 2 7 0

I3642 **半陶**(はんとう・牧野まきの、会津藩士直永2男) 1786-1842⁵⁷ 陸奥会津藩儒者;1808昌平黌に修学;
 朱子学;古賀精里門/1810林述斎門、1820会津藩校日新館儒者見習/藩主松平容衆の侍読、
 詩・書に長ず、「性情心意説」著、

[半陶(;)号)の名/字/通称/別号]名;直亮なおつけ、字;景武、通称;只次郎、別号;己千堂

範藤(はんとう・高倉/藤原) → 範藤(のりふじ・高倉、廷臣/歌人) F 3 5 7 1
 版焼(はんとう・晃全こうぜん) → 晃全(こうぜん・版焼、曹洞僧) F 1 9 2 6
 反堂(はんどう・早野) → 橘隧(きつすい・早野はやの、儒者/講説/詩) I 1 6 6 5
 帆道(はんどう・寺田) → 礪山(れいざん・寺田てらだ、俳人無名庵12世) 5 1 3 1
 槃堂(はんどう・山中) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7

I3643 **蟠桃**(ばんとう・山片やまがた芳秀、初名;長谷川有躬、長谷川小兵衛男) 1748-1821⁷⁴ 播磨神爪かづめ農業、
 1760大阪両替商升屋久兵衛の養嗣/主家再興/仙台藩をはじめ全国数十藩の蔵元;財政再建、
 1805改姓;山片、儒;中井竹山・履軒門/天文図象;麻田剛立ごうりゅう門、
 弁証法による地動説主唱;明暗界宇宙論を独創、
 徹底した無神論と合理主義による実学農本主義;近代思想の先駆者、
 晩年眼疾;失明、1820実学啓蒙書「夢之代ゆめのしろ」、「夢之代経済秘話」「無鬼」、「蟠桃遺藁」著
 [神仏かみほつけ 化物ばけものもなし世の中に 奇妙ふしぎのことは猶なし](1802-20 夢之代)

坂東(ばんどう・高木) → 岸芷(がんし・高木/細木、俳人) G 1 5 3 6
 半榻庵(はんとうあん) → 風竹(ふうちく・文笑庵、俳人) 3 8 9 4
 半島漁人(はんとうぎょじん) → 拗斎(ようさい・柴田/新発田、地理学者) 4 7 9 9
 半陶子(はんとうし) → 周興(しゅうこう;法諱・彦竜、臨濟僧) H 2 1 3 2
 阪東処士(ばんどうしよし) → 義恭(よしただ・毛束けつか、名主/神職/歌) M 4 7 6 7

I3644 **晩得**(ばんとく・佐藤さとう) 1731- 1792⁶² 羽後秋田藩士;江戸留守居役、俳人:麦天門、
 のち初世存義門/同門に月成・酒井抱一ら、抱一・恋川春町・京伝らと通人として活躍、
 1784頃致仕;墨東に庵居、「つきむらさき」「清街筆記」「哲阿彌随筆」著、
 1783「哲阿彌句藁」著(自句750余章/没後7周忌に1798屠龍跋刊)、
 1791随筆「古事記布俱路こじきぶくろ」著、

[晩得(;)号)の名/通称/別号]名;祐英すけひで、通称;又兵衛

別号;堪露(;)初号)・牛島庵・北斎・朝四・桃栗・木雁・猿斎・蘇狂・清談林・知久良・牛渚・
哲阿彌・哲得庵・露入道・月村所2世

晩得(2世ばんとく) → 亀具(きぐ・荒木、俳人) J 1 6 9 7
 晩得(3世ばんとく) → 素兄(そけい・菜庵、俳人) D 2 5 6 3
 万徳(ばんとく・藤浪) → 万徳(万得まんとく・藤浪ふじなみみ、医者) K 4 0 7 5
 繁特小僧(繁特-はんとくこぞう) → 才麿(さいまろ・椎本/谷、俳人) 2 0 0 6
 半年庵(はんとしあん) → 大筈(たいこう・青野あおの、酒造業/俳人) B 2 6 3 7

I3683 **坂阿**(はんな、坂口さかかぐち、平三盛勝もりかつ) ?-? 室町期早歌伝承者;道阿門/1357伝承、
 将軍側近武士/出家;沙弥/1392息子の平盛ひらもり幸[口阿]に相伝、
 早歌の伝承 → 月江(げっこう) B 1 8 0 5

半内(はんない・中村) → 梅塙(ばいりゅう・中村なかむら、藩士/儒者) 3 6 6 0
 半内(はんない・上田) → 公鼎(こうてい・上田うえだ、眼科医/国学) K 1 9 7 1
 藩南(はんなん・沢田) → 静庵(せいあん・沢田さわだ、儒者/詩人) H 2 4 2 6
 万安(ばんなん;道号) → 万安(ばんあん;道号・英種;法諱、曹洞僧) H 3 6 1 8

- 般若 (はんにか・鈴木) → 重胤 (しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌) 2 1 1 2
 般若院 (はんにかいん) → 公什 (こうじゅう; 法諱、天台僧/歌人) B 1 9 2 9
 般若院 (はんにかいん; 号) → 古道 (こどう; 字・実相院、真言僧/歌) N 1 9 1 9
 般若院 (はんにかいん; 号) → 英泉 (えいせん; 法諱・武内、修験/医/教育) T 1 3 9 8
 般若寺僧正 (はんにかいじのそうじょう) → 観賢 (かんけん; 法諱、真言僧) D 1 5 5 9
 I3689 般若坊 (はんにかばう) ? - ? 美濃鵜沼うるま大安寺の臨濟僧/狂歌の名人(醒睡笑入)、
 [心経の摩訶のしたなる般若坊ことし一切くやくなりけり](醒睡笑三/13)
 (くやくは苦厄と食う厄を掛ける)
 般若房 (はんにかばう; 号) → 眞俊 (しんしゅん; 法諱、天台僧; 顕密二教) O 2 2 7 6
 般若房 (はんにかばう; 号) → 大歇 (だいけつ; 道号・了心; 法諱、臨濟僧) J 2 6 7 9
 範寧 (はんねい・星野) → 良悦 (りょうえつ・星野、医者/身幹儀製作) G 4 9 5 2
 I3645 万寧 (ばんねい; 道号・玄彙げんい; 法諱、諡号; 神機妙感禪師) 1790-1830⁴¹ 尾張善師野村の臨濟僧:
 美濃竜福寺大衍門; 出家、伊予竜潭寺行応門/のち棠林宗寿門; 嗣法、京の妙心寺住持、
 瑞竜寺天沢庵に没; 1860禪師号贈与される、「万寧禪師遺稿」
 D3633 万年 (ばんねん・舟山/船山ふなやま、名; 光遠/光) 1791-1857⁶⁷ 仙台の郷土史家; 僧南山門、詩文/書画、
 塩竈・松島を実地調査、1822「塩松勝譜」、「人物伝」「松島志」著、
 [万年(; 字)の通称/号]通称; 太郎兵衛、号; 瀋陽こうよう
 万年 (ばんねん・伊藤) → 万年 (まんねん・伊藤/藤原、儒者/講説) K 4 0 7 8
 蟠年 (ばんねん・村井) → 習静 (しゅうせい・村井むらい、藩士/儒者) H 2 1 8 5
 半年僧 (はんねんそう) → 日伝 (にちでん; 法諱・本覚房、日蓮僧) C 3 3 8 9
 半農 (はんのう・帆足) → 杏雨 (きょうう・帆足ほあし、絵師) N 1 6 2 2
 榛木翁 (はんのきおう) → 道麿 (みちまる・田中、国学/歌人) 4 1 1 7
 半之丞 (はんのじょう・溝口/亀田) → 高綱 (たかつな・亀田かめだ/溝口、武将/戦記) M 2 6 2 7
 半之丞 (はんのじょう・大久保) → 忠良 (ただなが・大久保、幕臣/記録) Q 2 6 3 2
 半之丞 (はんのじょう・神田) → 道伴 (どうはん・神田かんだ、古筆鑑定家) G 3 1 9 9
 半之丞 (はんのじょう・神田/平沢) → 了意 (りょうい・古筆こひつ/9世、平沢/神田、鑑定家) G 4 9 2 1
 半之丞 (はんのじょう・坂本) → 半太夫 (はんたゆう・江戸、浄瑠璃太夫) I 3 6 3 9
 半之丞 (はんのじょう・糟谷) → 磯丸 (いそまる・糟谷かすや、歌人) 1 1 1 5
 半之丞 (はんのじょう・鱸) → 有飛 (ありとび・鱸すずき、国学者) F 1 0 5 1
 半之丞 (はんのじょう・金井) → 質直 (ただなお・金井、藩士/蝦夷郡代) Q 2 6 2 5
 半之丞 (はんのじょう・葛上) → 忠昭 (ただあき・葛上くずがみ、藩家老/地誌) P 2 6 0 8
 半之丞 (はんのじょう・長沼) → 安忠 (やすただ・長沼ながぬま、和算家) B 4 5 5 3
 半之丞 (はんのじょう・垣本) → 正良 (まさよし・垣本かきもと/源、代官/国学) O 4 0 7 6
 半之丞 (はんのじょう・岡本) → 宣愿 (のぶよし・岡本おかもと/石上、藩士/歌) H 3 5 8 2
 半之丞 (はんのじょう・林) → 幸行 (さちゆき・林はやし、国学者/歌人) P 2 0 1 5
 繁之丞 (はんのじょう・斎藤) → 尚仲 (尚中しょうちゅう・斎藤、和算家) K 2 2 8 5
 半之進 (はんのしん・鈴木) → 方業 (かたなり・鈴木すずき、歌人) T 1 5 0 1
 半之進 (はんのしん・宍野) → 半 (なかば・宍野ししの、藩士/神職/扶桑教) N 3 2 3 1
 半之助 (はんのすけ・松平) → 康門 (やすかど・松平まつだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 1
 半之助 (はんのすけ・高) → 貞覚 (さだあき・高こう、和算家) H 2 0 6 8
 半之助 (はんのすけ・滝井) → 四郎五郎 (しろうごろう・民屋たみや、歌舞伎役者) D 2 2 3 1
 半之助 (はんのすけ・守田) → 旁通 (まさみち・守田もりた、国学者/歌人) T 4 0 2 2
 半之助 (はんのすけ・吉田) → 足穂 (たるほ・吉田よしだ、藩士/国学) 2 7 3 1
 磐之助 (はんのすけ) → 磐之助 (いわのすけ・広井ひろい、藩士/敵討) I 1 1 4 4
 半梅軒 (はんばいけん) → 宗川 (そうせん・清水、歌人) C 2 5 3 6
 半梅叟 (はんばいそう) → 梅叔 (ばいしゆく; 道号・法霖; 法諱、臨濟僧) B 3 6 5 0
 繁伯 (はんぱく・千葉) → 松堂 (しょうどう・千葉ちば、儒者; 陽明学) L 2 2 1 7
 槃礴 (はんぱく・渡辺) → 漆水 (しんすい・渡辺わたなべ/辺、絵師) O 2 2 9 7
 頌白逸士 (はんぱくいつし) → 静斎 (せいさい・岸井きしい、藩士/画) I 2 4 3 5
 半白溪 (はんぱくけい) → 竹窓 (ちくそう・城じょう、藩士/儒者) D 2 8 3 8

- 盤礪舎 (はんぼくしゃ) → 凶南(となん・鵜飼うかい、書家) O 3 1 6 1
- 盤礪主人 (はんぼくしゅじん) → 漆水(湊水しんすい・渡辺わたなべ/辺、絵師) O 2 2 9 7
- 晩泊老人 (はんぼくろうじん) → 龍派(りゅうは; 法諱・江西、臨濟僧/詩) 4 9 1 2
- 半八 (はんぱち・小山田) → 宗碩(そうせき・小山田おやまだ、藩医者) I 2 5 2 0
- 半八 (はんぱち・荒井/渡辺) → 柳斎(りゅうさい・渡辺/荒井、藩士/儒者) E 4 9 0 2
- I3646 范孚(はんぷ・而已舎じいのや?/支頤亭ぼくいてい) 1713?-? 京住俳人: 支考門、同門の吾仲(1733没)と親交、
1704(元禄17)「麻生あさふ」編; 許六跋
- 胖夫(はんぷ・遠田) → 昌庵(しょうあん・遠田とおだ、蘭学者) G 2 2 6 4
- 繁富(はんぷ・森内) → 繁富(しげとみ・森内、藩士/漢学/和算) R 2 1 7 2
- 万夫(ばんぷ・渡辺) → 荒陽(こうよう・渡辺、儒者/国学者) G 1 9 5 3
- 範武(はんぷ・中島) → 範武(のりたけ・中島なかじま、国学者/歌) J 3 5 3 7
- 蛮蕪(ばんぷ・高橋) → 景保(かげやす・高橋たかはし、幕臣/天文/シボルト事件) B 1 5 9 9
- 繁諷(はんふう・岡谷) → 繁諷(しげあきら・岡谷おかや/源、藩士/歌) N 2 1 8 7
- 万物庵(ばんぶつあん) → 一馬(いちば・貞松斎、米沢、華道家/俳) G 1 1 3 7
- 万物子(ばんぶつし) → 蘆庵一馬(ろあんいちば、狂歌作者) 5 2 1 5
- 半仏居士(はんぶつこじ) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8
- I3647 帆平(はんぺい・海保かいぼ、名; 芳郷、芳寿男) 1822-63 42 水戸藩士; 与力/馬廻組/剣術; 一刀流、
1858井伊直弼斬込の風説が流れ謹慎処分、「浦賀黒船始末」「亞墨利伽凶説」著
- I3648 半平(はんぺい・小川おがわ) ? - ? 大阪浄瑠璃作者: 合作者/1745竹本座付、
1741「新うすゆき物語」「伊豆院宣源氏鏡」/43「風俗太平記」/45「軍法富士見西行」著
- 半平(はんぺい・山口) → 知貞(ともさだ・山口、藩士/和算) P 3 1 4 9
- 半平(はんぺい・中村) → 一匡(かずまさ・中村、国学者) M 1 5 4 9
- 半平(はんぺい・渡辺) → 竜門(りゅうもん・渡辺/源、藩士/随筆) F 4 9 7 8
- 半平(はんぺい・草野) → 御牧(みまき・草野/大神、藩士/歌人) F 4 1 8 1
- 半平(はんぺい・木村) → 豊持(とよもち・木村きむら、藩家老/歌人) U 3 1 9 2
- 半平(はんぺい・米屋/上米屋) → 豊庸(とよつね・吉井よい、商家/歌人) W 3 1 9 1
- 半平(はんぺい・富永) → 莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学) 2 2 9 0
- 半平(はんぺい・石居) → 元暁(もとあき・石居いし、藩士/歌人) J 4 4 1 9
- 繁平(はんぺい・山崎) → 繁平(しげひら・山崎やまさき、国学者) Z 2 1 9 7
- 範平(はんぺい・土肥) → 範平(のりひら・土肥とい、神職/連歌) G 3 5 4 8
- 範平(はんぺい・有井) → 進斎(しんさい・有井あり、儒者/教育) E 2 2 2 2
- 伴平(ばんぺい・北村) → 篤所(とくしょ・北村きたむら、儒者) K 3 1 9 3
- 伴平(ばんぺい・和田) → 廉(れん・和田わた/中台、藩士/儒者) 5 1 0 9
- 半平太(はんぺいた・武市) → 瑞山(ずいざん・武市たけち、剣術/勤王派) E 2 3 5 9
- I3649 半兵衛(はんべえ・吉田よしだ、名; 定吉、無色軒/三夕軒) ?-1693? 京の大宮通住の絵師; 庄五郎門?、
寛文元禄1661-1704頃浮世草子挿絵・浄瑠璃本や名所記挿絵、のち寺松通に移住、
西鶴の浮世草子に挿絵提供/上方浮世絵界の代表者; 江戸の師宣と並称、
1677「出来齋京土産」81「囃物語」86「伊勢講儀式」/87「山路の露」/88「嵐無常物語」画、
1689「好色京くれなゐ」90「好色咄浮世祝言揃」画、1705「好色花すゝき」外面多数
- I3650 半兵衛(はんべえ・土田つちだ) ? - ? 江中期越中高木村の生/富山藩十村、
1735保郷庄調査: 「富山藩領保郷庄考」著、40・41十村頭取
- I3651 半兵衛(はんべえ・松好斎しょうこうさい) ?-? 江後期寛政-文化1789-1818頃大阪の絵師:
流光斎如圭門/錦絵摺役者絵; 役者似顔絵が得意、戯作本などの挿絵、春好斎北洲の師、
1800「戯場しばい楽屋図会」/01「奇説徒然草」/02「楽屋図会拾遺」「俳優児手柏」、
1805「ますかがみ」06「契情管伝授」、「画本棧道物語」「戯場訓蒙図彙」「役者用文章直指南」、
「歌舞伎始」「戯場壁生草」「拳会角力図会」「初夢富士見曾我」「役者百人一首化粧鏡」外面多、
[松好斎半兵衛(; 通称)の別号] 戯場しばい好人/詠楽人/芝居山人
- I3652 半兵衛(はんべえ・田宮たみや、名; 翼/翼養、仙右衛門男) ?-1832 名古屋藩士/1785右筆/95留書奉行、
1801留書頭/14町奉行; 用心格/名奉行の評価、「敬公遺事」著、如雲じゅうんの養父、
[半兵衛の別通称] 半九郎

- K3636 **半兵衛**(はんべえ・高木たかぎ、) 1827-191589 大坂の歌人;熊谷直好門
- 半兵衛(はんべえ・竹中) → 重治(しげはる・竹中、武将/武略) S 2 1 2 3
- 半兵衛(はんべえ・溝口) → 長裕(ながひろ・溝口みぞぐち、藩家老/儒者) F 3 2 5 6
- 半兵衛(はんべえ・稲次) → 宗雄(むねお・稲次/荻野、武将/藩家老) B 4 2 0 9
- 半兵衛(はんべえ・稲次) → 成章(しげあき・稲次いなづく/端山、藩士/国学)) N 2 1 4 2
- 半兵衛(はんべえ・久隅) → 守景(もりかげ・久隅くすみ、絵師) F 4 4 2 4
- 半兵衛(はんべえ・万屋) → 保吉(やすよし・万屋よろづや、俳人) D 4 5 5 6
- 半兵衛(はんべえ・原) → 正盛(まさもり・原はら、砲術家) I 4 0 0 1
- 半兵衛(はんべえ・永戸) → 貞著(さだあき・永戸ながと、藩士/地誌編) H 2 0 6 5
- 半兵衛(はんべえ・黒瀬) → 益弘(ますひろ・黒瀬/度会、神職/記録) J 4 0 2 0
- 半兵衛(はんべえ・三上) → 季寛(すえひろ・三上みかみ/源、幕臣/記録) F 2 3 6 0
- 半兵衛(はんべえ・坂上) → 羨鳥(せんちよう・坂上、大庄屋/俳人) G 2 4 3 7
- 半兵衛(はんべえ・平田) → 篤胤(あつたね・平田、神道/国学者) 1 0 2 2
- 半兵衛(はんべえ・南条) → 宗経(むねつね・南条なんじよう、藩士/学頭) B 4 2 7 0
- 半兵衛(はんべえ・富塚) → 有義(ありよし・富塚とみづか、藩士/歌人) F 1 0 9 1
- 半兵衛(はんべえ・鈴木) → 一保(かずやす・鈴木すずき、藩士/和漢学) M 1 5 5 5
- 半兵衛(はんべえ・鈴木) → 金谷(きんこく・鈴木すずき、藩士/蘭学者) Q 1 6 9 4
- 半兵衛(はんべえ・小山) → 儀(ただし・小山こやま、国学/儒者/詩人) F 2 6 1 1
- 半兵衛(はんべえ・河内) → 常宣(つねのぶ・河内こうち/山崎、幕臣) D 2 9 0 4
- 半兵衛(はんべえ・戸谷) → 双鳥(そう・戸谷、商家/俳人) 2 5 5 8
- 半兵衛(はんべえ・三河屋/斯波) → 黒人(くろひと・浜辺、書肆/狂歌) B 1 7 1 8
- 半兵衛(はんべえ・中井) → 青芙(せいふ・中井なかい、俳人) J 2 4 5 1
- 半兵衛(はんべえ・笠井) → 貞之(さだゆき・笠井かさい/安田、塩田/儒者) O 2 0 2 7
- 半兵衛(はんべえ・沼田) → 月斎(げつさい・沼田ぬまた、藩士/絵師) H 1 8 0 5
- 半兵衛(はんべえ・間) → 秀矩(ひでのり・間はざま、本陣/国学) K 3 7 6 3
- 半兵衛(はんべえ・間) → 元矩(もとのり・間、秀矩男/国学/尊攘) K 4 4 9 5
- 半兵衛(はんべえ・麓屋) → 有儀(ありよし・三瀬みせ、商家/歌人) I 1 0 5 2
- 半兵衛(はんべえ・麓屋) → 宗圓(そうえん・三瀬みせ、商家/歌人) L 2 5 1 5
- 半兵衛(はんべえ・熊谷) → 烏村(うそん・熊谷くまがい、庄屋/国学) E 1 2 6 6
- 半兵衛(はんべえ・北本) → 栗(りつ・北本きたもと/石黒、和算家) B 4 9 5 4
- 伴兵衛(はんべえ・武田) → 村径(むらみち・武田たけだ、俳人) D 4 2 2 1
- 伴兵衛(はんべえ・和田) → 廉(れん・和田わだ/中台、藩士/儒者) 5 1 0 9
- 万別(ばんべつ・千差堂) → 千差万別(せんさばんべつ・黄表紙) F 2 4 4 5
- 範保(はんぼ・佐伯) → 範保(のりやす・佐伯さえき/藤原、藩士/国学) G 3 5 6 5
- 範方(はんほう・藤原) → 範方(のりかた・藤原、廷臣/歌人) K 3 5 6 0
- I3653 **半峯**(はんぼう・堀江ほりえ、惺斎せいさいの長男) 1819-8870 岩代二本松藩儒、儒;父門、
のち安積良斎/佐藤一斎門、藩主世子丹波長国の侍読/藩校教授兼任、
維新後;福島に移住;作新塾を開設、1857(安政4)「半峯楼百律」著、
[半峯(;号)の名/字/通称]名;章、字;希達、通称;仁蔵/蓋蔵
- 半坊(はんぼう) → ノ左(べっさ・丸山まるやま、農業/俳人) 2 7 9 6
- 畔坊(はんぼう) → 左梁(さやう・中村、俳人) L 2 0 6 7
- 万宝(ばんぼう・森羅亭) → 七珍万宝(しちちんまんぼう、商人/戯作者) 2 1 2 8
- 磐木(はんぼく・西山) → 慈寛(じかん;法諱、法師/歌人) B 2 1 4 2
- 反哺堂(はんぼどう) → 景文(かげふみ・明石、儒者/歌人) B 1 5 9 4
- 万明(ばんみょう;法諱) → 弘宗(こうしゅう・こうじゅう;道号・万明、曹洞僧) J 1 9 5 2
- 蕃民(ばんみん・七里) → 蕃民(しげたみ・七里しちり、国学者) O 2 1 7 6
- 半夢(はんむ) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
- 半夢(はんむ・今日庵) → 隆従(たかより・西山、藩士/歌人) N 2 6 8 2
- 範夢(はんむ・富島) → 邦道(くにみち・富島とみしま、商家/歌人) E 1 7 3 7
- 半夢斎(はんむさい) → 玄以(げんい・前田まえだ、武将/歌/連歌) F 1 8 1 6

範茂(はんも・平) → 度茂(範茂のりしげ・平、廷臣/阿仏尼の養父) E 3 5 6 4
 繁茂(はんも・平) → 繁茂(しげもち/のりしげ・平たいら、廷臣/歌人) S 2 1 8 9
 板元伊八(はんもといはち) → 伊八(いはち・初世北沢/書肆須原屋) E 1 1 5 5
 繁門(はんもん・大垣) → 繁門(しげかど・壺星楼/大垣、狂歌) Q 2 1 8 4
 繁門(はんもん・森集亭) → 繁門(しげかど・森集亭/毛馬内、藩士/狂歌) Q 2 1 8 5
 繁門(はんもん/しげかど・武藤) → 好春(よしはる・武藤むとう、藩士/攘夷論) G 4 7 1 4
 帆門十哲(はんもんじつてつ) → 万里(ぼんり・帆足ほあし、万里十哲) I 3 6 6 4
 半弥(はんや・横山) → 春方(しゅんぼう・横山、農業/藩士/和算) L 2 1 8 8
 半弥(はんや・山崎) → 玩水軒(がんすいけん・山崎、儒・陽明学者) R 1 5 1 4
 半弥(はんや・木俣) → 守明(もりあき・木俣きまた/橋、藩老/執権) J 4 4 8 1
 半弥(はんや・木俣) → 守長(もりなが・木俣きまた/橋、藩老/歌人) J 4 4 7 7
 半弥(はんや・木俣) → 守盈(もりみつ・木俣きまた、藩執権/連歌) J 4 4 8 2
 半弥(はんや・木俣) → 守前(もりちか・木俣きまた/橋、藩老) J 4 4 8 0
 半弥(はんや・木俣) → 守易(もりやす・木俣きまた/橋、藩老/楽焼) J 4 4 7 9
 半弥(はんや・花輪) → 昌富(まさとみ・花輪はなわ/塙/源/中島、国学) R 4 0 8 4
 半也(はんや・山崎) → 郷義(さとよし・山崎/源、藩士/捕縄術) K 2 0 5 8

I3654 鑊也(ぼんや;法諱・号;空諦[体]くうたい房) 1149-1230⁸² 真言高野山僧;東大寺再建勸進重源上人門、
 1191室生寺で仏舎利発掘;興福寺から贋作説が出て訴えられる;
 師や後白河院を巻込む事件に発展(玉葉入)、晩年は伊勢に住/
 歌人;藤原定家門;定家と密接な交流、家集「露色ろしよく随詠集」、新勅撰1首610、御裳濯集入、
 [かずしらぬちぢのはちすにすむ月を心のみづにうつしてぞ見る](新勅;釈教610)
 [わがいりし心のほかのすみかかな花にとはるるみ吉野の奥](御裳濯集;春128)

半夜亭(はんやてい) → 乙語(おつご・佐方さかた、藩士/俳人) D 1 4 1 7
 半幽[軒](はんゆう[けん]) → 由平(ゆうへい・よしひら・前川、俳人) D 4 6 6 8
 胖幽(はんゆう・久隅) → 彦十郎(ひこじゅうろう・久隅くすみ、絵師) H 3 7 9 7
 蕃祐(ばんゆう→ありすけ・杉村) → 直記(なおき・杉村、家老) B 3 2 0 6
 繁雄(はんゆう・伊高) → 重雄(しげお・伊高いだか、神職/歌人) N 2 1 8 2
 伴雄(ばんゆう・長沢) → 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌) P 3 1 2 3
 伴雄(ばんゆう・太田黒) → 伴雄(ともお・太田黒・大野・飯田、神職/神風連頭首) U 3 1 5 6
 伴雄(ばんゆう・片岡) → 伴雄(ともお・片岡かたおか、神職/国学) U 3 1 7 4
 伴幽軒(ばんゆうけん) → 郁翁(いくおう・長井ながい、薬種業/俳人) C 1 1 1 5

I3655 範耀(はんよう) ? - ? 鎌倉後期叡山阿闍梨/歌;「比叡社歌合」参加、
 [にほひくるあらしを花のしるべにてなほ雲わくるをはつせの山](比叡社歌合;八番左)

蕃陽(ばんよう;号) → 周南(しゅうなん;道号・円旦;法諱、臨濟僧) Y 2 1 1 5
 播陽隱士(はんよういんし) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2
 播陽隱叟(はんよういんそう) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2
 半庸軒醜翁(はんようけんりおう) → 芳通(よしみち・伊南いなみ、軍学者) H 4 7 3 6
 璠璵堂(はんようどう) → 梅操(ばいそう・佐々原さきはら、儒者) B 3 6 7 5

I3656 範菜(はんらい・柳生やぎゅう、別号;松月庵) ?-? 京の俳人:大阪住、1834(天保5)「冠附類題集」編
 I3657 万籟(ばんらい・荒木あさき、通称;六兵衛、別号;花神窓) ?-? 丹後宮津の俳人:のち京の下立売室町住、
 1834-40(天保5-11)「遂々集」著

I3658 晚籟(ばんらい・中江なかえ、通称:伊兵衛) 1788-1855⁶⁸ 能登輪島の漆器販売業/俳人:梅室門、
 「細道の栞」「宰府紀行」「更科の杖」「吉野行脚」著、追善集「三富集」、
 [晚籟の別号] 松濤/白翁/公樹園、屋号;松屋、朴芯/松亭/嘯雨/岐井/兎園/可涼の父

晚来堂(ばんらいどう) → 遊蝠(ゆうふく・紀・原田、医者/地誌) D 4 6 6 7

I3659 半落(はんらく) ? - ? 俳;史邦門?、1698種聞しゅぶん「猿舞師さるまわし」史邦らと5吟歌仙入
 半楽(はんらく・日柳) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1
 汎楽隱士(はんらくいんし) → 梅洲(ばいしゅう・高橋、藩士/儒/詩) B 3 6 4 7
 半楽舎(はんらくしゃ) → 飄斎(ひょうさい・平塚/平、幕臣/俳人) F 3 7 2 4
 阪嵐(はんらん・上坂) → 嵐枝(らんし・上坂うえさか、藩士/俳人) C 4 8 3 8

- J3609 **半李**(はんり) ? - ? 江中期京俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」14句入(淡々点)
[水仙や宿は旅人りよじんのかより船](万国燕;10)
- I3660 **畔李**(はんり・南部なんぶ、名;信房のぶふさ、信依男) 1765-1835 71 陸奥八戸藩主;1781襲封、
内蔵頭・伊勢守、藩財政に失敗/1796隠居/1811剃髪;江戸麻布に住、
俳人:楓台互来門/星霜庵白頭を庇護、「五梅庵句集」著、
[畔李の別号] 星霜庵2世、五梅庵/互扇楼/五鳳/蘭秀軒/蘭籬/白隼/兎毛/麻庵/五水坊、
花咲亭/無絃道人、剃髪後;伊勢入道、法号;仙溪院
- I3661 **万里**(ばんり・長嶋ながしま) ? - ? 京の俳人:立圃系?、1704(元禄17)「俳諧ききぬ」編
- I3662 **万李**(ばんり・潮[塩]田しおだ/のち桑野くわの) 1678-1756 79 筑前福岡藩士/俳人:野坡門、
宇白(俳人)の父、1708(宝永5)「田植諷たうえうた」編、
万李3回忌追善集「柴のほまれ集」「後の月集」(;宇白編)、
[万李(;号)の名/字通称/別号]名;好濟、字;多橋、通称;太古、
別号;偷閑斎とうかんさい/偷閑舎/草主翁/万李居士
- J3625 **万里**(ばんり;組連) ? - ? 江戸神田弁慶橋の雑俳の組連;
取次;1766「錦桂評万句合」入;
取次例;[切れ味も毛色もいらぬ太刀馬代たちばだい](66万句合/前句;尤もな事々々)
(太刀馬代は大名から將軍への御献上金;万事金)
- I3663 **万里**(ばんり・太田おた、名;盛庸もりつね/威庸) 1758-1834 77 江戸小日向中之橋の俳人:垂井梅弟門、
師に次ぎ杉風の採茶庵嗣、1817「雪七草」編/28「万里翁家集」/33「ふる時雨」編、「歳旦」編、
[万里(;号)の通称/別号]通称;次郎兵衛、別号;採茶庵さいだあん4世
- I3664 **万里**(ばんり・帆足ほあし、字;鵬卿/号;愚亭・西庵せいあん、通文男) 1778-1852 75 日出藩儒者;脇蘭室門、
儒;皆川淇園・淡窓・三浦梅園門/1804藩学教授/家塾/32家老;財政改革、1847一時脱藩、
曆算・医・仏教・蘭学;物理/教育;実証的合理主義思想、「窮理通」「入学新論」「東潜夫論」、
「医学啓蒙」「窮理小言」「帆足先生詩集」「帆足先生文集」「帆足先生隨筆」「帆足先生雜書」
[万里十哲(帆門十哲)] 帆足万里門下の優れた十人
- 季鳳(きほう・勝田) 1795-1822 I 1 6 6 8
 - 勝之(関せき・蕉川) 1793-1857 N 1 5 9 4
 - 東嶠(とうきょう・米良めら) 1811-71 C 3 1 8 1
 - 空桑(くうそう・毛利) 1797-1884 C 1 7 0 2
 - 竹溪(ちくけい・元田もとだ) 1800-80 C 2 8 8 7
 - 柏園(はくえん・後藤) 1800-40 C 3 6 6 7
 - 白巖(はくがん・野本) 1797-1856 C 3 6 9 0
 - 麴谷(おうこく・岡松) 1820-95 B 1 4 2 8
 - 栗園(りつえん・片山/中村) 1806-81 B 4 9 5 9
 - 子礼(しれい・吉良) Q 2 2 4 7
- I3665 **磐里**(ばんり・大槻おおつき、玄沢の長男/本姓平) 1785-1837 53 陸中一関の生/3歳江戸住、磐溪の兄
家学(医/蘭学);父門、1802従兄大槻平泉と西南諸国を遊歴/1804長崎で蘭語;中野柳圃門、
オランダ語文法を研修、江戸で医業;傍らハイステルの外科書を要約、
1824幕府天文方蛮書和解御用;洋書翻訳に従事、1792-1831「蘭腕摘芳」/1813「繃縛図式」著、
1820「西音発微」22「西洋字原考」32「蘭学事始附記」、「蘭園日涉」「和蘭接続詞考」著、
「不綿漫筆」「先考行実」著、「磐水(玄沢)行実」/「磐水遺稿」編/文法書:「蘭学凡」編、外多数、
[磐里(;号)の名/字/通称/別号]名;茂楨しげえだ/茂、字;子節、通称;玄幹、
別号;月洲/不錦書屋/木貞子
- 万里(ばんり・秦大蔵造) → 萬里(まる・秦大蔵造はたのおおくらのみやつこ、歌謡詠者) K 4 0 2 8
 - 万里(ばんり;道号・集久) → 集九(しゅうく;法諱・万里、臨濟僧/詩) H 2 1 1 6
 - 万里(ばんり;号、万里叟) → 天与(てんよ・清啓;法諱、臨濟僧) E 3 0 4 9
 - 万里(ばんり・長門) → 猿万里大夫(さるまりだゆう、幫間/狂歌) E 2 0 0 3
 - 万里(ばんり・松岡) → 茶山(ちやざん・松岡、俳人) F 2 8 5 4
 - 万里(ばんり・黒川) → 眞頼(まより・黒川/金子、国学者) K 4 0 1 8
 - 万里(ばんり・中山) → 元鵬(げんぼう・中山なかやま、医者) M 1 8 3 6

- 万里(ぼんり・邨田/村田) → 眉山(2世びざん・邨田/村田、俳人) C 3 7 2 6
 蕃利(ぼんり・鈴木) → 蕃利(しげとし・鈴木すずき、藩参政) Z 2 1 2 1
 藩籬鷄(ぼんりあん) → 基庸(もつね・山本やまもと、藩士/書家) D 4 4 1 7
 万里庵(ぼんりあん) → 利雄(としかつ・南部、藩主/俳人) M 3 1 2 6
 半籬館(ぼんりかん) → 八万里(はちまんり・半籬館、俳人) E 3 6 9 6
 万里溪(ぼんりけい・根本) → 鶴銭(かくせん・根本ねもと、藩士/俳人) K 1 5 1 5
 万里斎(ぼんりさい) → 素丸(2世そまる・溝口、幕臣/俳人) E 2 5 3 6
 万李居士(ぼんりりこじ) → 万李(ぼんり・潮[塩]田/桑野、俳人) I 3 6 6 2
 万里斎(ぼんりさい・長谷川) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9
 万里叟(ぼんりそう) → 天与(てんよ・清啓、臨濟僧) E 3 0 4 9
- J3610 **万立**(ぼんりつ/まんりつ・東条とうじょう、旭連舎/花前斎)?-? 江中期江戸俳人;其角座点者、
 1752刊「江戸十余歌仙」独吟歌仙入/54竹翁「誹諧童の的」点句入
 万里亭(ぼんりてい) → 寥和(初世りょうわ・大場、俳人/五色墨) J 4 9 6 6
 万里亭(ぼんりてい) → 夫古工(ふここう・万里亭、歌舞伎劇書) B 3 8 9 1
 万里堂(ぼんりどう) → 半蔵(はんぞう・山崎やまさき、藩士/日記) I 3 6 8 2
- I3666 **蟠龍**(ぼんりゅう・井沢いざわ/本姓;源、勘兵衛男)1668-1730⁶³ 肥後熊本藩士/1697(元禄10)家督嗣、
 鉄砲頭、武道;柔剣術、垂加神道;江戸で闇齋門;奥秘を究める、
 のち神道域を脱し和漢の書に精通、「神道天瓊矛記」著、
 1689「肥州銘抄略記」1706「本朝俗説弁」/08「肥後記」著/09地誌「肥後地志略」編、
 1709「旧拙拾遺物語」/1710「肥後歴代事略」15教訓「武士訓」/辞書「本朝俚諺」著、
 1710考証隨筆「広益武士訓」(全45巻)著/17「授幼難字訓」/20教訓「大和女訓」著、
 軍記物「菊池佐々軍記」/「西海紀談」/「新古事談」/「新続古事談」/「本朝諸社誌大成」著、
 「美佐保草」/「和書考」著/外編著多数、
 [蟠龍(;号)の名/通称/別号]名:長秀ながひで、通称;十郎左衛門、
 別号:蟠龍子/亨斎/元水
- I3667 **晩柳**(ぼんりゅう・寺崎てらさき)?-? 肥前田代の俳人:朱拙・野坡門、
 1700同族紫白女はくじよ「菊の道」入/1701「放鳥はなしどり集」編、1715野坡「万句四之富士」入
 [陽炎かげらふや海よりはしる麦畠](放鳥集)
- I3668 **蟠龍**(ぼんりゅう) ?-? 俳人;1720俳諧作法書「とんと」著
 I3669 **万龍**(ぼんりゅう) ?-? 雑俳点者;1796「古今前句集」(柳多留拾遺)入
 I3670 **蟠龍**(ぼんりゅう;道号・棟嶽とうがく;法諱)?-? 江戸後期曹洞僧:靈潭魯竜門;法嗣、
 源開呑海らと師の語録編纂、「勝源寺語」編、「靈潭和尚四处録」編
 蟠竜(ぼんりゅう・久保木) → 竹窓(ちくそう・久保木、儒者) D 2 8 3 4
 蟠竜(ぼんりゅう・勝屋) → 積(せき・勝屋しょうや/静間、国学者) O 2 4 1 9
 蟠竜(ぼんりゅう・吉田) → 足穂(たるほ・吉田よしだ、藩士/国学) 2 7 3 1
 蕃龍庵(ぼんりゅうあん) → 秋英(あきひで・足立あだち、藩士/絵師) G 1 0 8 2
 蟠竜子(ぼんりゅうし) → 呑湖(どんこ・瓢箪坊、俳人) S 3 1 1 7
 半漁(ぼんりょう・小笠原) → 東陽(とうよう・小笠原、儒者/教育) H 3 1 9 1
- 3693 **晩緑**(ぼんりよく・床井とこい、平蔵頭善2男)1838-65^{刑死}28 兄親忠の養子/常陸水戸藩士、
 藩校弘道館に修学、茅根寒緑門;塾生の教授/1856史館雇/歩士に転ず、1863上京;
 他藩士と交流、天狗党乱に参加/武田耕雲斎に属し転戦;武蔵忍藩で捕縛;禁固/死罪、
 「晩緑斎秘笈」/「床井親徳手記」著
 [晩緑(;号)の名/通称]名;親徳、通称;莊三/庄三、
- J3611 **半林**(ぼんりん) ?-? 江後期江戸俳人;7世沾山門、
 1848沾山7世「俳諧鱗はいかいけい」跋文
 半鱗(ぼんりん・鷹羽) → 雲淙(うんそう・鷹羽たかの、藩士/詩人) B 1 2 8 6
- C3652 **万林**(ぼんりん・まんりん;道号・覚英かくえい;法諱、俗姓;加藤)1655-1732⁷⁸ 播磨佐土の曹洞僧;
 1666(12歳)播磨安養寺の梅峰竺信門;出家、1689(元禄2)但馬吉祥寺住持、因幡景福寺住持、
 播磨景福住持に転ず、のち多聞寺に隠居;没、
 1705「瑞松山景福禅寺記」/13「景福寺末寺根由記」著

- 半輪庵(はんりんあん) → 卓丈(たくじょう・大橋/石橋、俳人) O 2 6 0 6
 攀鱗斎(はんりんざい) → 廬朝(ろちよう・水野/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3
- H3617 晩鈴(ばんれい・原田はらだ、別号;一草舎)?-? 大阪の雑俳点者:1747「裏若葉」/54「影法師」編、
 1756「有馬道」入、57律中「耳勝手」入、61「陸貸杖」/63「ほたるかけ懐」/56-77「歳旦」編、
 外歳旦など編著多数
- I3671 万齡(ばんれい・玉置たまき) 1827- 1890 64 和歌山万町の造酢業/南画;菱川清春門、
 風雅を愛す;洒落・戯文を著す、「寒草談」「三名家略年譜(墨林清芬)」著、
 [万齡(;号)の名/字/通称/別号]名;予、字;万年、通称;次郎作、
 別号;邦山/鏡花/水月居/醉荷担幽人、屋号;亀屋
- 万齡(ばんれい・夏目) → 成美(せいび・夏目なつめ、札差/俳人) 2 4 1 2
 蕃嶺(ばんれい・甲斐) → 広永(ひろなが・甲斐かい、和算家/教育) G 3 7 6 2
- J3612 半芦(はんろ) ? - ? 江中期京の太鳳寺の俳人;淡々門、
 1729柳岡「万国燕」10句入、
 [本復ほんぶくの価あたひや車竹の春](万国燕;余興二百韻715、
 竹の春は八月/病全快は車一台分の価値/春宵一時値千金のもじり)
- I3672 帆路(はんろ) ? - ? 尾張名古屋の俳人;暁台門/城西起社中、
 1768暁台「秋の日」明和5(1768)秋八月騏六亭寸馬発句六吟歌仙;6句入、
 [閨ねやの月寐乱ぬみだれ髪に太刀佩はきて](秋の日;歌仙第11句/風雲急;寢室で出陣準備、
 前句琴;雲はやしました村雨やせん)
- 伴豊(はんろう・武知) → 方穫(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6
 半路観(はんろかん) → 団斎(だんさい・別号;麦笠庵、俳人) I 2 6 7 4
 半六(はんろく・荻野/稻次) → 宗雄(むねお・稻次/荻野、武将/藩家老) B 4 2 0 9
 半六(はんろく・三橋) → 夕流(せきりゅう・三橋みつはし、藩士) K 2 4 5 2
 半六(はんろく・山岸) → 車来(しゃらい・山岸、半残男/藩士/俳人) G 2 1 5 7
 半六(はんろく・早崎) → 正好(まさよし・早崎おはやさき、国学者/歌) R 4 0 8 6
 半六(はんろく・山形/三橋) → 弘光(ひろみつ・三橋みつはし、尊攘派天狗党) H 3 7 4 2
 伴鹿(ばんろく・山平) → 伴鹿(ともか・山平、歌人) E 3 1 5 8
 伴六(ばんろく・大島) → 吉綱(よしつな・大島/横江、槍術家) E 4 7 7 1
 伴六(ばんろく・高山) → 盛定(もりさだ・高山たかやま、歌人) K 4 4 4 3
 半六郎(はんろくろう・福田) → 吮潮斎(しゅんちようざい、諸星/福田、料理人) L 2 1 4 9